

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

お客様各位

資料中の「三菱電機」、「三菱XX」等名称の株式会社ルネサス テクノロジへの変更について

2003年4月1日を以って株式会社日立製作所及び三菱電機株式会社のマイコン、ロジック、アナログ、ディスクリート半導体、及びDRAMを除くメモリ(フラッシュメモリ・SRAM等)を含む半導体事業は株式会社ルネサス テクノロジに承継されました。

従いまして、本資料中には「三菱電機」、「三菱電機株式会社」、「三菱半導体」、「三菱XX」といった表記が残っておりますが、これらの表記は全て「株式会社ルネサス テクノロジ」に変更されておりますのでご理解の程お願い致します。尚、会社商標・ロゴ・コーポレートステートメント以外の内容については一切変更しておりませんので資料としての内容更新ではありません。

注:「高周波・光素子事業、パワーデバイス事業については三菱電機にて引き続き事業運営を行います。」

2003年4月1日
株式会社ルネサス テクノロジ
カスタマサポート部

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

1. 概要

M306V2ME-XXXFPとM306V2EEFPは、高性能シリコンゲートCMOSプロセスを採用しM16C/60シリーズCPUコアを登載したシングルチップマイクロコンピュータで、100ピンプラスチックモールドQFPに収められています。このシングルチップマイクロコンピュータは、高機能命令を持ちながら高い命令効率を持ち、1Mバイトのアドレス空間と、命令を高速に実行する能力を備えています。また、OSDやデータスライサを内蔵しており、クローズドキャプション付TVの制御に適したシングルチップマイクロコンピュータです。

M306V2EEFPは、メモリにEPROMを内蔵している以外はM306V2ME-XXXFPと同等の機能を有しています。

1.1 特長

メモリ容量	< ROM > 192Kバイト < RAM > 5Kバイト < OSD ROM > 61Kバイト < OSD RAM > 2.2Kバイト
最短命令実行時間	100ns(f(XIN)=10MHz時)
電源電圧	4.5V ~ 5.5V
消費電力	250mW
割り込み	内部21要因、外部3要因、ソフトウェア4要因、7レベル
多機能16ビットタイマ	出力系2本 + 入力系3本 + 3本
シリアルI/O	4ユニット UART / クロック同期 : 2 マルチマスタI ² C-BUSインタフェース0 (2系統) : 1 マルチマスタI ² C-BUSインタフェース1 (1系統) : 1
DMAC	2チャンネル(スタート条件:23要因)
A-D変換器	8ビット×6チャンネル
D-A変換器	8ビット×2チャンネル
データスライサ	1回路
Hsyncカウンタ	1回路 (2系統)
OSD機能	1回路
監視タイマ	1本
プログラマブル入出力	78本
メモリ拡張	可能
チップセレクト出力	4本
クロック発生回路	3回路内蔵

1.2 応用

クローズドキャプション付TV

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

目 次

1. 概 要	1	2.16.17 ラスター着色機能	228
1.1 特 長	1	2.16.18 スキャンモード	230
1.2 応 用	1	2.16.19 R, G, B信号出力制御	230
1.3 ピン接続図	3	2.16.20 OSD予約レジスタ	231
1.4 ブロック図	4	2.17 プログラマブル入出力ポート	232
1.5 性能概要	5	3. 使用上の注意事項	245
2. 機能ブロック動作説明	10	3.1 タイマAの注意事項 (タイマモード)	245
2.1 メモリ	10	3.2 タイマAの注意事項 (イベントカウンタモード)	245
2.2 中央演算処理装置	16	3.3 タイマAの注意事項 (ワンショットタイマモード)	245
2.3 リセット	19	3.4 タイマAの注意事項 (パルス幅変調モード)	245
2.4 プロセッサモード	24	3.5 タイマBの注意事項 (タイマモード、イベントカウンタモード)	246
2.5 クロック発生回路	36	3.6 タイマBの注意事項 (パルス周期測定、パルス幅測定モード)	246
2.6 プロテクト	47	3.7 A-D変換器の注意事項	246
2.7 割り込みの概要	48	3.8 ストップモード、ウェイトモードの注意事項	246
2.8 監視タイマ	67	3.9 割り込みの注意事項	247
2.9 DMAC	69	3.10 PROM内蔵版使用上の注意事項	248
2.10 タイマ	79	4. マスク化発注時の提出資料	249
2.11 シリアルI/O	99	5. 電気的特性	250
2.12 A-D変換器	149	5.1 絶対最大定格	250
2.13 D-A変換器	164	5.2 推奨動作条件	251
2.14 データスライサ	166	5.3 電気的特性	252
2.15 HSYNCカウンタ	176	5.4 A-D変換特性	253
2.16 OSD機能	177	5.5 D-A変換特性	253
2.16.1 トリプルレイヤOSD	183	5.6 アナログR,G,B出力特性	253
2.16.2 表示位置	185	5.7 タイミング必要条件	254
2.16.3 ドットサイズ	189	5.8 スイッチング特性	256
2.16.4 OSD用クロック	190	5.9 測定回路	259
2.16.5 フィールド判別表示	191	5.10 タイミング図	260
2.16.6 OSD用メモリ	193	6. マスク化確認書	265
2.16.7 文字色	206	7. マーク指定書	269
2.16.8 文字背景色	206	8. ワンタイムPROM版M306V2EEFPマーキング図	270
2.16.9 OUT1, OUT2信号	211	9. パッケージ寸法図	271
2.16.10 アトリビュート	212		
2.16.11 オートソリッドスペース機能	217		
2.16.12 特殊OSDモードブロック	218		
2.16.13 多行表示	220		
2.16.14 スプライトOSD機能	221		
2.16.15 ウィンドウ機能	224		
2.16.16 ブランク機能	225		

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

1.3 ピン接続図

図1.3.1にピン接続図(上面図)を示します。

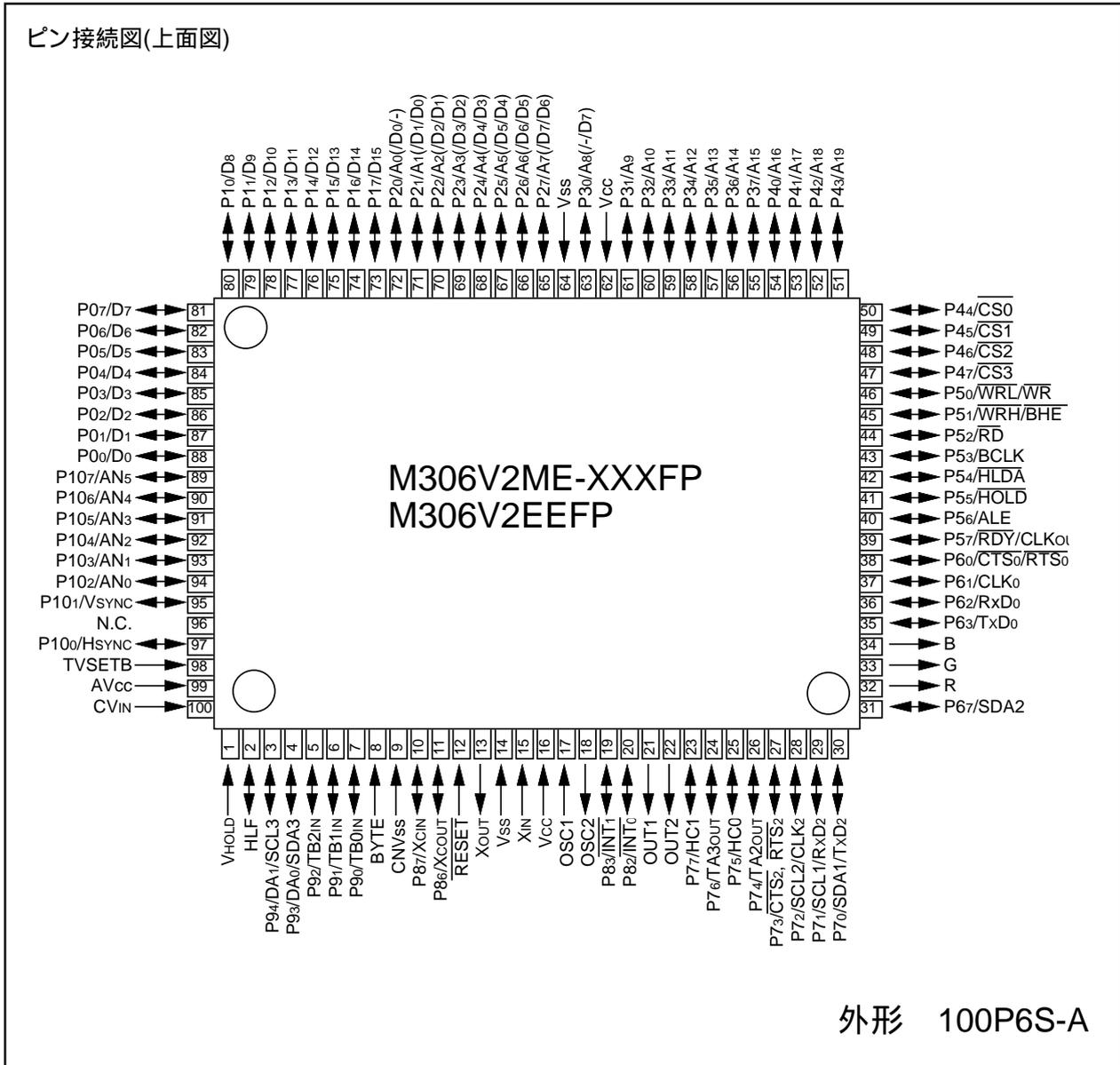


図1.3.1 ピン接続図(上面図)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

1.4 ブロック図

図1.4.1にブロック図を示します。

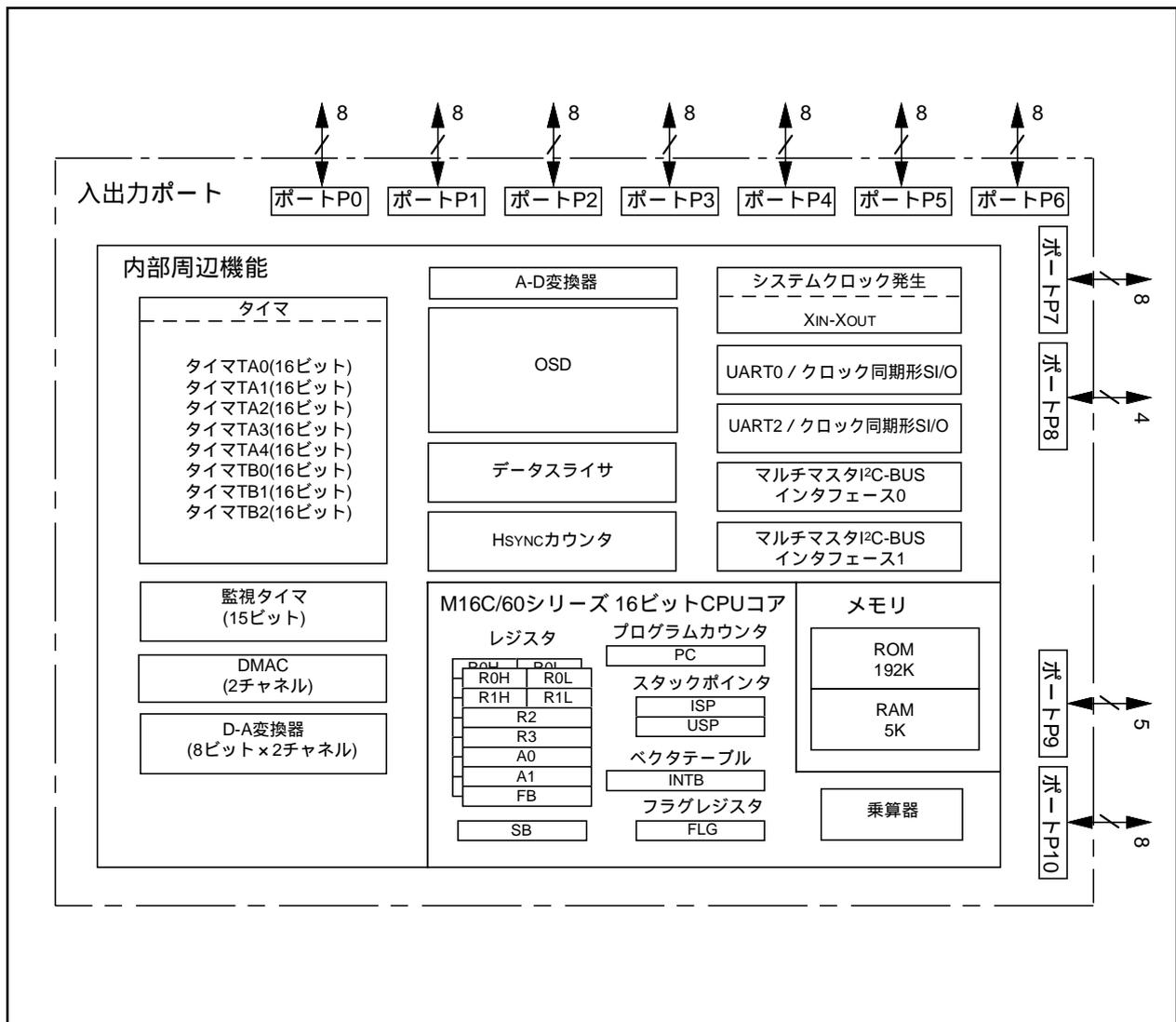


図1.4.1 ブロック図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

1.5 性能概要

表1.5.1に性能概要を示します。

表1.5.1 性能概要

項 目		性 能
基本命令数		91命令
最短命令実行時間		100ns(f(XIN)=10MHz時)
メモリ容量	ROM	192Kバイト
	RAM	5Kバイト
	OSD ROM	61Kバイト
	OSD RAM	2.2Kバイト
入出力ポート	P0 ~ P10	8ビット×8、5ビット×2、4ビット×1
多機能タイマ	TA0,TA1,TA2,TA3,TA4	16ビット×5
	TB0,TB1,TB2	16ビット×3
シリアルI/O	UART0	1ユニット：UART又はクロック同期形
	UART2	1ユニット：UART又はクロック同期形
	マルチマスタ ² C-BUSインタフェース0	1ユニット(2チャンネル)
	マルチマスタ ² C-BUSインタフェース1	1ユニット(1チャンネル)
A-D変換器		8ビット×6チャンネル
D-A変換器		8ビット×2チャンネル
DMAC		2チャンネル(スタート条件：23要因)
OSD機能		トリプルレイヤ、フォント890種類、42文字×16行
データスライサ		32ビットバッファ
HSYNCカウンタ		8ビット×2チャンネル
監視タイマ		15ビット×1(プリスケータ付)
割り込み		内部21要因、外部3要因、ソフトウェア4要因、7レベル
クロック発生回路		3回路内蔵
電源電圧		4.5V ~ 5.5V(f(XIN)=10MHz時)
消費電力		250mW
入出力特性	入出力耐電圧	5V
	出力電流	5mA
メモリ拡張		可能
動作周囲温度		-10 ~ 70
素子構造		CMOS高性能シリコンゲート
パッケージ		100ピンプラスチックモールドQFP

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

サポートを行う予定の製品を以下に示します。

表1.5.2 製品一覧表

形名	ROM容量	RAM容量	パッケージ	備考
M306V2ME-XXXFP	192Kバイト	5Kバイト	100P6S-A	マスクROM版
M306V2EEFP	192Kバイト	5Kバイト	100P6S-A	ワンタイムPROM版
M306V2EEFS	192Kバイト	5Kバイト	100D0	EPROM版

注. EPROM版はプログラム開発用ツール(評価用)ですので、量産には使用しないでください。

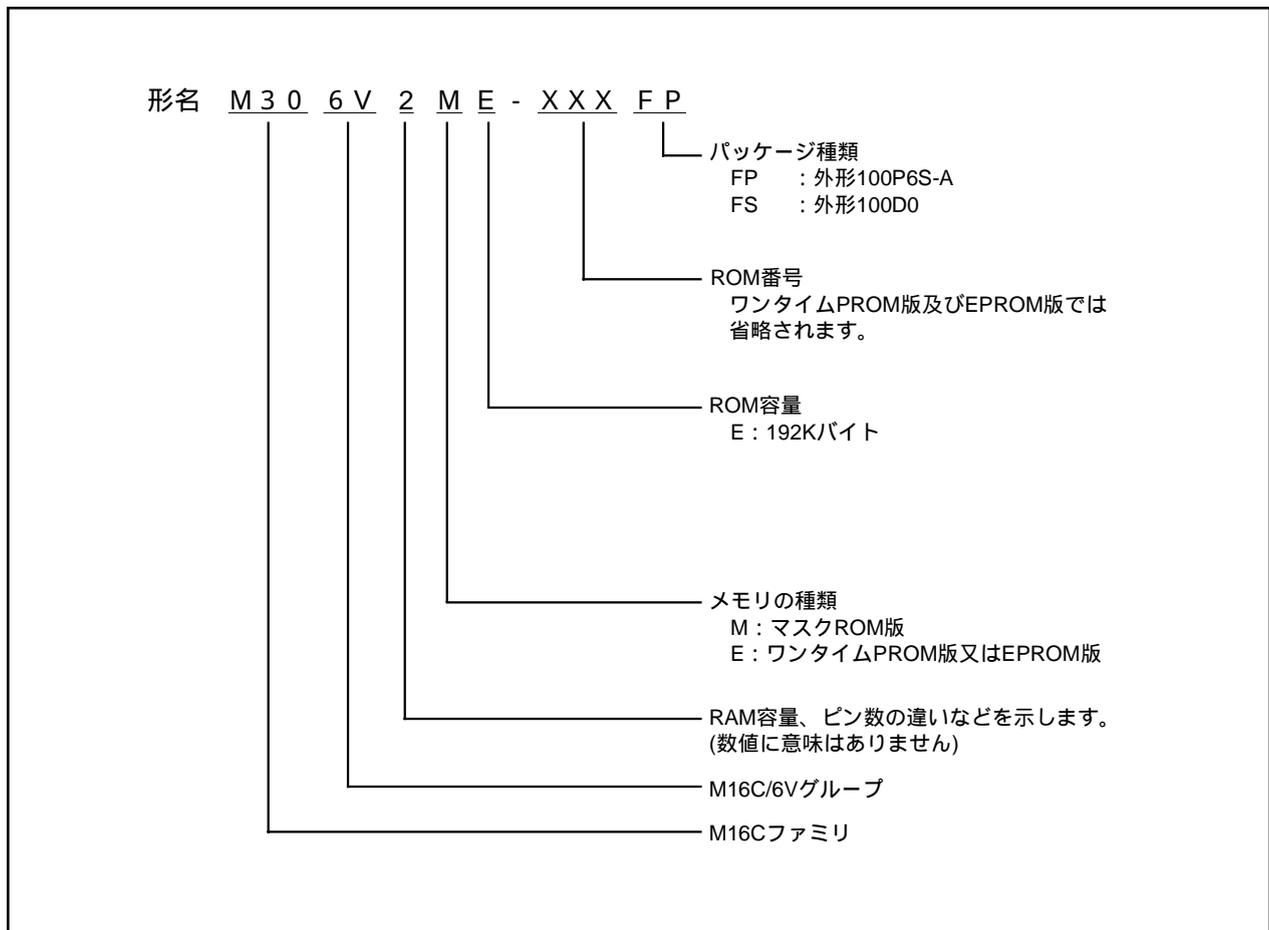


図1.5.1 形名とメモリサイズ・パッケージ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表1.5.3 端子の機能説明(1)

端子名	名称	入出力	機能
Vcc, Vss	電源入力		Vcc端子には、4.5V ~ 5.5Vを印加してください。Vss端子には、0Vを印加してください。
CNVss	CNVss	入力	プロセッサモードを切り替えるための端子です。シングルチップモード時およびメモリ拡張モード時はVss端子に接続してください。マイクロプロセッサモード時はVcc端子に接続してください。
RESET	リセット入力	入力	この端子に“L”を入力すると、マイクロコンピュータはリセット状態になります。
XIN XOUT	クロック入力 クロック出力	入力 出力	メインクロック発振回路の入出力端子です。XIN端子とXOUT端子の間にはセラミック共振子、または水晶共振子を接続してください。外部で生成したクロックを入力する場合は、XIN端子からクロックを入力し、XOUT端子は開放にしてください。
BYTE	外部データバス幅 切り替え入力	入力	外部データバス幅を切り替えるための端子です。この端子のレベルが“L”のとき16ビット幅、“H”のとき8ビット幅になります。どちらかのレベルに固定してください。シングルチップモード時は、Vss端子に接続してください。
AVcc	アナログ電源入力		A-D変換器の電源入力端子です。Vcc端子に接続してください。
P00 ~ P07	入出力ポートP0	入出力	CMOSの8ビット入出力ポートです。入出力を選択するための方向レジスタを持ち、1端子ごとに入力、または出力ポートに設定できます。シングルチップモードの入力ポートでは、ソフトウェアにて4ビット単位でプルアップ抵抗の有無を設定できます。メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモードでは、内蔵プルアップ抵抗の選択はできません。
D0 ~ D7		入出力	セパレートバス設定時データ(D0 ~ D7)の入出力を行います。
P10 ~ P17	入出力ポートP1	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。
D8 ~ D15		入出力	セパレートバス設定時データ(D8 ~ D15)の入出力を行います。
P20 ~ P27	入出力ポートP2	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。
A0 ~ A7		出力	アドレスの下位8ビット(A0 ~ A7)の出力を行います。
A0/D0 ~ A7/D7		入出力	外部データバス幅が8ビットでマルチプレクスバス設定時、データ(D0 ~ D7)の入出力と、アドレスの下位8ビット(A0 ~ A7)の出力を時分割で行います。
A0 A1/D0 ~ A7/D6		出力 入出力	外部データバス幅が16ビットでマルチプレクスバス設定時、データ(D0 ~ D6)の入出力と、アドレス(A1 ~ A7)の出力を時分割で行います。また、アドレス(A0)の出力を行います。
P30 ~ P37	入出力ポートP3	入出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。
A8 ~ A15		出力	アドレスの中位8ビット(A8 ~ A15)の出力を行います。
A8/D7、 A9 ~ A15		入出力 出力	外部データバス幅が16ビットでマルチプレクスバス設定時、データ(D7)の入出力と、アドレス(A8)の出力を時分割で行います。また、アドレス(A9 ~ A15)の出力を行います。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表1.5.4 端子の機能説明(2)

端子名	名称	入出力	機能
P40 ~ P47 A16 ~ A19、 CS0 ~ CS3	入出力ポートP4	入出力 出力 出力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。 A16 ~ A19、CS0 ~ CS3信号を出力します。A16 ~ A19はアドレスの 上位4ビットです。CS0 ~ CS3はチップセレクト信号でアクセス空 間の指定に使用します。
P50 ~ P57 WRL/WR、 WRH/BHE、 RD、 BCLK、 HLDA、 HOLD、 ALE、 RDY	入出力ポートP5	入出力 出力 出力 出力 出力 入力 出力 入力	P0と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。シングルチッ プモード時、ソフトウェアで選択することによって、P57からXIN の8分周、32分周または、XCINと同じ周期をもつクロックを出力 します。 WRL、WRH、(WR、BHE)、RD、BCLK、HLDA、ALE信号を出力し ます。なお、ソフトウェアによってWRL、WRHまたは、BHE、 WRを切り替えることができます。 WRL、WRH、RD選択時 外部データバス幅が16ビットの場合、WRL信号が“L”レベル のとき偶数番地に、WRH信号が“L”レベルのときは奇数番地 に書き込みを行います。RD信号が“L”レベルのとき読み出し を行います。 WR、BHE、RD選択時 WR信号が“L”レベルのとき書き込みを行います。RD信号 が“L”レベルのとき読み出しを行います。BHE信号が“L”レ ベルのとき奇数番地をアクセスします。外部データバス幅が8ビッ トのときは、このモードを使用してください。 HOLD端子の入力レベルが“L”の期間、マイクロコンピュ ータはホールド状態になります。ホールド状態の期間、HLDAは“L” レベルを出力します。ALEはアドレスをラッチするための信号 です。RDY端子の入力レベルが“L”の期間、マイクロコンピュ ータはレディー状態になります。
P60 ~ P63、 P67	入出力ポートP6	入出力	P0と同等の機能を持つ5ビット入出力ポートです。シングルチッ プモード、マイクロプロセッサモード、メモリ拡張モードの入 力ポートでは、ソフトウェアにて4ビット単位でプルアップ抵抗 の有無を設定できます。ソフトウェアで選択することによって、 UART0、UART2、およびマルチマスタI ² C-BUSインタフェース0 の入出力端子として機能します。
P70 ~ P77	入出力ポートP7	入出力	P6と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです(ただし、P70お よびP71はNチャンネルオープンドレイン出力)。ソフトウェアで選 択することによって、タイマA2、A3、UART2、マルチマスタI ² C- BUSインタフェース0又はHsyncカウンタの入出力端子として機 能します。
P82、P83、 P86、P87、	入出力ポートP8	入出力	P82、P83、P86、P87はP6と同等の機能を持つ入出力ポートです。 P82、P83はソフトウェアで選択することによって、外部割り込み の入力端子として機能します。P86、P87はソフトウェアで選択 することによってサブクロック発振回路の入出力端子として機 能します。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表1.5.5 端子の機能説明(3)

端子名	名称	入出力	機能
P9 ₀ ~ P9 ₄	入出力ポートP9	入出力	P6と同等の機能を持つ5ビット入出力ポートです。ソフトウェアで選択することによって、タイマB0 ~ B2の入力端子、D-A変換器の出力端子、またはマルチマスタI ² C-BUSインタフェース1の入出力端子として機能します。
P10 ₀ ~ P10 ₇	入出力ポートP10	入出力	P6と同等の機能を持つ8ビット入出力ポートです。ソフトウェアで選択することによってA-D変換器の入力端子として機能します。また、P10 ₀ とP10 ₁ はOSD機能の入力端子としても機能します。
R, G, B	OSD出力	出力	OSD出力端子(アナログ出力)です。
OUT1,OUT2	OSD出力	出力	OSD出力端子(デジタル出力)です。
OSC1	OSD用クロック入力	入力	OSD用のクロック入力端子です。
OSC2	OSD用クロック出力	出力	OSD用のクロック出力端子です。
CV _{IN}	データスライサ 入出力	入力	コンデンサを介してコンポジットビデオ信号を入力してください。
V _{HOLD}		入力	V _{HOLD} とV _{SS} の間にコンデンサを接続してください。
HLF		入出力	HLFとV _{SS} の間にコンデンサと抵抗からなるフィルタを接続してください。
TVSETB		入力	テスト入力端子です。“L”レベルに固定してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2. 機能ブロック動作説明

本製品は、次のような装置をシングルチップ内に収めています。命令またはデータを記憶するためのメモリであるROMとRAM、演算を実行するための中央演算処理装置、そして、タイマ、シリアルI/O、D-A変換器、DMAC、OSD回路、データスライサ回路、A-D変換器、入出力ポートなどの周辺装置です。

次に各装置について説明します。

2.1 メモリ

メモリ配置図を図2.1.1に示します。アドレス空間は00000₁₆番地からFFFFFF₁₆番地までの1Mバイトあります。

FFFF₁₆番地から番地の小さい方向にROMが配置されています。D0000₁₆番地からFFFF₁₆番地まで192Kバイトの内部ROMが配置されています。

FFFDC₁₆番地からFFFF₁₆番地はリセットなどの固定割り込みベクタテーブルの番地で、ここに割り込みルーチンの先頭アドレスを格納します。また、タイマ割り込みなどのベクタテーブルの番地は、内部レジスタ(INTB)により任意に設定することができます。詳細は割り込みの項を参照してください。

02C00₁₆番地から03FFF₁₆番地まで5Kバイトの内部RAMが配置されています。RAMはデータ格納以外にサブルーチン呼び出しや、割り込み時のスタックとしても使用します。

00000₁₆番地から003FF₁₆番地は入出力ポート、A-D変換器、シリアルI/O、タイマなどの周辺装置の制御レジスタが割り付けられているSFR領域です。図2.1.2～図2.1.5に周辺装置制御レジスタの配置を示します。SFR領域のうち何も配置されていない領域はすべて予約領域となっており、使用することができません。

FFE00₁₆番地からFFFDB₁₆番地はスペシャルページベクタテーブルで、ここにサブルーチンの先頭番地またはジャンプ先の番地を格納すれば、サブルーチンコール命令やジャンプ命令を2バイトで使用でき、プログラムステップ数の節減に役立ちます。

メモリ拡張モード時またはマイクロプロセッサモード時、一部の領域は内部予約領域となっており使用できません。次の領域は使用できません。

- ・ 01000₁₆番地から02BFF₁₆番地 (メモリ拡張モード時及びマイクロプロセッサモード時)
- ・ B0000₁₆番地からCFFFF₁₆番地 (メモリ拡張モード時)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

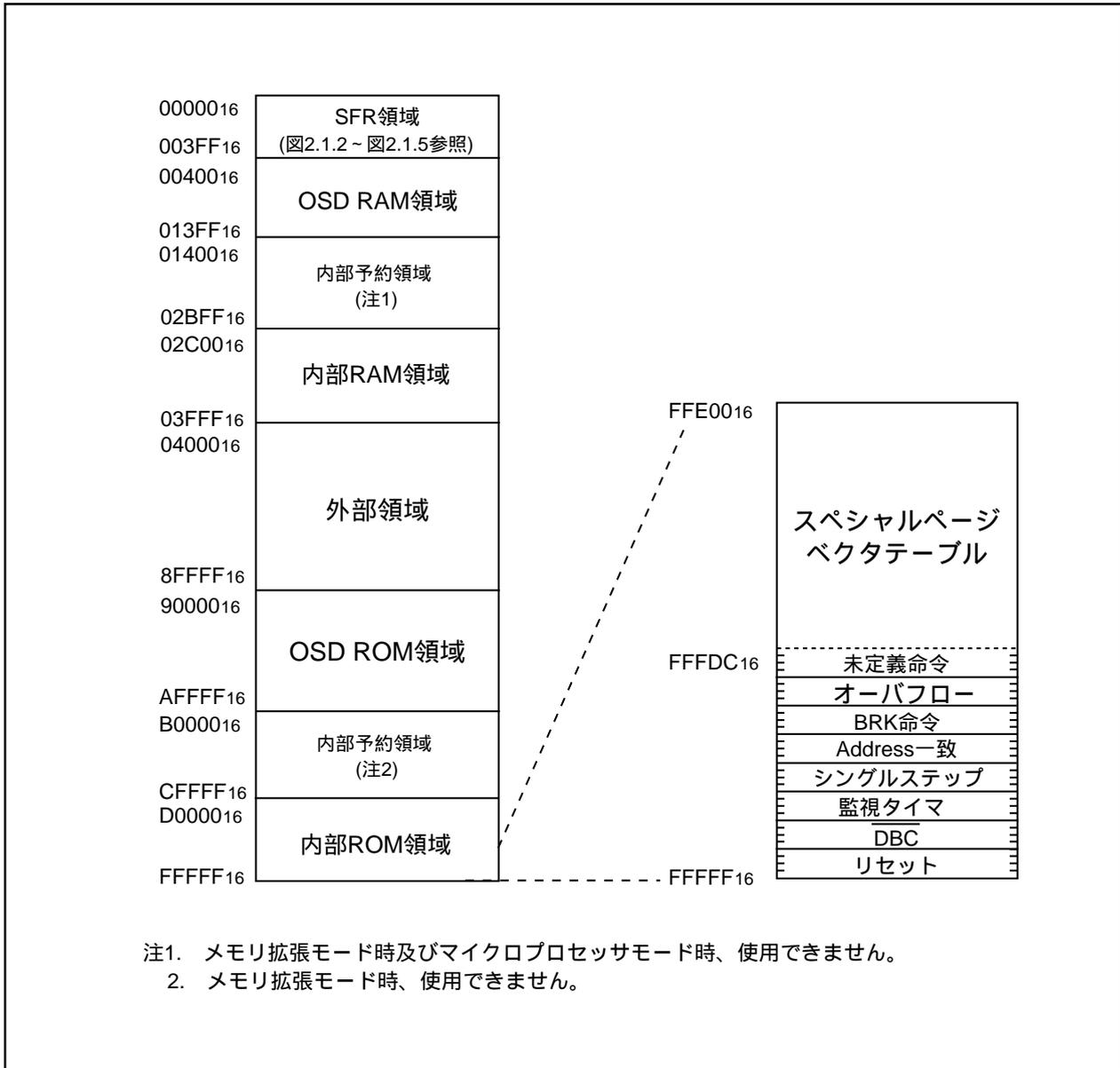


図2.1.1 メモリ配置図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

0000 ¹⁶		0040 ¹⁶	
0001 ¹⁶		0041 ¹⁶	
0002 ¹⁶		0042 ¹⁶	
0003 ¹⁶		0043 ¹⁶	
0004 ¹⁶	プロセッサモードレジスタ0(PM0)	0044 ¹⁶	OSD1割り込み制御レジスタ(OSD1IC)
0005 ¹⁶	プロセッサモードレジスタ1(PM1)	0045 ¹⁶	割り込み制御予約レジスタ0(RE0IC)
0006 ¹⁶	システムクロック制御レジスタ0(CM0)	0046 ¹⁶	割り込み制御予約レジスタ1(RE1IC)
0007 ¹⁶	システムクロック制御レジスタ1(CM1)	0047 ¹⁶	割り込み制御予約レジスタ2(RE2IC)
0008 ¹⁶	チップセレクト制御レジスタ(CSR)	0048 ¹⁶	OSD2割り込み制御レジスタ(OSD2IC)
0009 ¹⁶	アドレス一致割り込み許可レジスタ(AIER)	0049 ¹⁶	マルチI ² C-BUSインターフェイス1割り込み制御レジスタ(IIC1IC)
000A ¹⁶	プロテクトレジスタ(PRCR)	004A ¹⁶	バス衝突検出割り込み制御レジスタ(BCNIC)
000B ¹⁶		004B ¹⁶	DMA0割り込み制御レジスタ(DM0IC)
000C ¹⁶		004C ¹⁶	DMA1割り込み制御レジスタ(DM1IC)
000D ¹⁶		004D ¹⁶	マルチI ² C-BUSインターフェイス0割り込み制御レジスタ(IIC0IC)
000E ¹⁶	監視タイマスタートレジスタ(WDTS)	004E ¹⁶	A-D変換割り込み制御レジスタ(ADIC)
000F ¹⁶	監視タイマ制御レジスタ(WDC)	004F ¹⁶	UART2送信割り込み制御レジスタ(S2TIC)
0010 ¹⁶		0050 ¹⁶	UART2受信割り込み制御レジスタ(S2RIC)
0011 ¹⁶	アドレス一致割り込みレジスタ0(RMAD0)	0051 ¹⁶	UART0送信割り込み制御レジスタ(S0TIC)
0012 ¹⁶		0052 ¹⁶	UART0受信割り込み制御レジスタ(S0RIC)
0013 ¹⁶		0053 ¹⁶	データスライサ割り込み制御レジスタ(DSIC)
0014 ¹⁶		0054 ¹⁶	VSYNC割り込み制御レジスタ(VSYN1C)
0015 ¹⁶	アドレス一致割り込みレジスタ1(RMAD1)	0055 ¹⁶	タイマA0割り込み制御レジスタ(TA0IC)
0016 ¹⁶		0056 ¹⁶	タイマA1割り込み制御レジスタ(TA1IC)
0017 ¹⁶		0057 ¹⁶	タイマA2割り込み制御レジスタ(TA2IC)
0018 ¹⁶		0058 ¹⁶	タイマA3割り込み制御レジスタ(TA3IC)
0019 ¹⁶		0059 ¹⁶	タイマA4割り込み制御レジスタ(TA4IC)
001A ¹⁶		005A ¹⁶	タイマB0割り込み制御レジスタ(TB0IC)
001B ¹⁶		005B ¹⁶	タイマB1割り込み制御レジスタ(TB1IC)
001C ¹⁶		005C ¹⁶	タイマB2割り込み制御レジスタ(TB2IC)
001D ¹⁶		005D ¹⁶	INT0割り込み制御レジスタ(INT0IC)
001E ¹⁶		005E ¹⁶	INT1割り込み制御レジスタ(INT1IC)
001F ¹⁶		005F ¹⁶	割り込み制御予約レジスタ3(RE3IC)
0020 ¹⁶		0060 ¹⁶	
0021 ¹⁶	DMA0ソ - スポインタ(SAR0)		
0022 ¹⁶			
0023 ¹⁶			
0024 ¹⁶			
0025 ¹⁶	DMA0ディスティネ - ションポインタ(DAR0)		
0026 ¹⁶			
0027 ¹⁶			
0028 ¹⁶			
0029 ¹⁶	DMA0転送カウンタ(TCR0)		
002A ¹⁶			
002B ¹⁶			
002C ¹⁶	DMA0制御レジスタ(DM0CON)		
002D ¹⁶			
002E ¹⁶			
002F ¹⁶			
0030 ¹⁶			
0031 ¹⁶	DMA1ソ - スポインタ(SAR1)		
0032 ¹⁶			
0033 ¹⁶			
0034 ¹⁶			
0035 ¹⁶	DMA1ディスティネ - ションポインタ(DAR1)		
0036 ¹⁶			
0037 ¹⁶			
0038 ¹⁶			
0039 ¹⁶	DMA1転送カウンタ(TCR1)		
003A ¹⁶			
003B ¹⁶			
003C ¹⁶	DMA1制御レジスタ(DM1CON)		
003D ¹⁶			
003E ¹⁶			
003F ¹⁶			

図2.1.2 周辺装置制御レジスタの配置(1)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

0200 ₁₆		0240 ₁₆	カラーパレットレジスタ1 (CR1)
0201 ₁₆	スプライトOSD制御レジスタ (SC)	0241 ₁₆	
0202 ₁₆	OSDコントロールレジスタ1 (OC1)	0242 ₁₆	カラーパレットレジスタ2 (CR2)
0203 ₁₆	OSDコントロールレジスタ2 (OC2)	0243 ₁₆	
0204 ₁₆	水平位置レジスタ (HP)	0244 ₁₆	カラーパレットレジスタ3 (CR3)
0205 ₁₆	クロックコントロールレジスタ (CS)	0245 ₁₆	
0206 ₁₆	入出力極性コントロールレジスタ (PC)	0246 ₁₆	カラーパレットレジスタ4 (CR4)
0207 ₁₆	OSDコントロールレジスタ3 (OC3)	0247 ₁₆	
0208 ₁₆		0248 ₁₆	カラーパレットレジスタ5 (CR5)
0209 ₁₆	ラスターカラーレジスタ (RSC)	0249 ₁₆	
020A ₁₆		024A ₁₆	カラーパレットレジスタ6 (CR6)
020B ₁₆		024B ₁₆	
020C ₁₆		024C ₁₆	カラーパレットレジスタ7 (CR7)
020D ₁₆	トップボーダーコントロールレジスタ (TBR)	024D ₁₆	
020E ₁₆		024E ₁₆	カラーパレットレジスタ9 (CR9)
020F ₁₆	ボトムボーダーコントロールレジスタ (BBR)	024F ₁₆	
0210 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ1 (BC1)	0250 ₁₆	カラーパレットレジスタ10 (CR10)
0211 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ2 (BC2)	0251 ₁₆	
0212 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ3 (BC3)	0252 ₁₆	カラーパレットレジスタ11 (CR11)
0213 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ4 (BC4)	0253 ₁₆	
0214 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ5 (BC5)	0254 ₁₆	カラーパレットレジスタ12 (CR12)
0215 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ6 (BC6)	0255 ₁₆	
0216 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ7 (BC7)	0256 ₁₆	カラーパレットレジスタ13 (CR13)
0217 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ8 (BC8)	0257 ₁₆	
0218 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ9 (BC9)	0258 ₁₆	カラーパレットレジスタ14 (CR14)
0219 ₁₆	ブロックコントロールレジスタ10 (BC10)	0259 ₁₆	
021A ₁₆	ブロックコントロールレジスタ11 (BC11)	025A ₁₆	カラーパレットレジスタ15 (CR15)
021B ₁₆	ブロックコントロールレジスタ12 (BC12)	025B ₁₆	
021C ₁₆	ブロックコントロールレジスタ13 (BC13)	025C ₁₆	
021D ₁₆	ブロックコントロールレジスタ14 (BC14)	025D ₁₆	OSD予約レジスタ1 (OR1)
021E ₁₆	ブロックコントロールレジスタ15 (BC15)	025E ₁₆	
021F ₁₆	ブロックコントロールレジスタ16 (BC16)	025F ₁₆	OSDコントロールレジスタ4 (OC4)
0220 ₁₆	垂直位置レジスタ1 (VP1)	0260 ₁₆	データスライサ制御レジスタ1 (DSC1)
0221 ₁₆		0261 ₁₆	データスライサ制御レジスタ2 (DSC2)
0222 ₁₆	垂直位置レジスタ2 (VP2)	0262 ₁₆	キャプションデータレジスタ1 (CD1)
0223 ₁₆		0263 ₁₆	
0224 ₁₆	垂直位置レジスタ3 (VP3)	0264 ₁₆	キャプションデータレジスタ2 (CD2)
0225 ₁₆		0265 ₁₆	
0226 ₁₆	垂直位置レジスタ4 (VP4)	0266 ₁₆	キャプション位置レジスタ (CPS)
0227 ₁₆		0267 ₁₆	データスライサ予約レジスタ2 (DR2)
0228 ₁₆	垂直位置レジスタ5 (VP5)	0268 ₁₆	データスライサ予約レジスタ1 (DR1)
0229 ₁₆		0269 ₁₆	クロックランイン検出レジスタ (CRD)
022A ₁₆	垂直位置レジスタ6 (VP6)	026A ₁₆	データクロック位置レジスタ (DPS)
022B ₁₆		026B ₁₆	
022C ₁₆	垂直位置レジスタ7 (VP7)	≈	≈
022D ₁₆		026F ₁₆	
022E ₁₆	垂直位置レジスタ8 (VP8)	0270 ₁₆	レフトボーダーコントロールレジスタ (LBR)
022F ₁₆		0271 ₁₆	
0230 ₁₆	垂直位置レジスタ9 (VP9)	0272 ₁₆	ライトボーダーコントロールレジスタ (RBR)
0231 ₁₆		0273 ₁₆	
0232 ₁₆	垂直位置レジスタ10 (VP10)	0274 ₁₆	スプライト垂直位置レジスタ1 (VS1)
0233 ₁₆		0275 ₁₆	
0234 ₁₆	垂直位置レジスタ11 (VP11)	0276 ₁₆	スプライト垂直位置レジスタ2 (VS2)
0235 ₁₆		0277 ₁₆	
0236 ₁₆	垂直位置レジスタ12 (VP12)	0278 ₁₆	スプライト水平位置レジスタ (HS)
0237 ₁₆		0279 ₁₆	
0238 ₁₆	垂直位置レジスタ13 (VP13)	027A ₁₆	OSD予約レジスタ4 (OR4)
0239 ₁₆		027B ₁₆	OSD予約レジスタ3 (OR3)
023A ₁₆	垂直位置レジスタ14 (VP14)	027C ₁₆	OSD予約レジスタ2 (OR2)
023B ₁₆		027D ₁₆	ペリフェラルモードレジスタ (PM)
023C ₁₆	垂直位置レジスタ15 (VP15)	027E ₁₆	Hsyncカウンタレジスタ (HC)
023D ₁₆		027F ₁₆	Hsyncカウンタラッチ
023E ₁₆	垂直位置レジスタ16 (VP16)	0280 ₁₆	
023F ₁₆		≈	≈
		02DF ₁₆	

図2.1.3 周辺装置制御レジスタの配置(2)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

02E0 ₁₆	I ² C0データシフトレジスタ (IIC0S0)	0380 ₁₆	カウント開始フラグ(TABSR)
02E1 ₁₆	I ² C0アドレスレジスタ (IIC0S0D)	0381 ₁₆	時計用プリスケールリセットフラグ(CPSRF)
02E2 ₁₆	I ² C0ステータスレジスタ (IIC0S1)	0382 ₁₆	ワンショット開始フラグ(ONSF)
02E3 ₁₆	I ² C0コントロールレジスタ (IIC0S1D)	0383 ₁₆	トリガ選択レジスタ(TRGSR)
02E4 ₁₆	I ² C0クロックコントロールレジスタ (IIC0S2)	0384 ₁₆	アップダウンフラグ(UDF)
02E5 ₁₆	I ² C0ポートセレクションレジスタ (IIC0S2D)	0385 ₁₆	
02E6 ₁₆	I ² C0送信バッファレジスタ (IIC0S0S)	0386 ₁₆	タイマA0レジスタ(TA0)
02E7 ₁₆		0387 ₁₆	
02E8 ₁₆	I ² C1データシフトレジスタ (IIC1S0)	0388 ₁₆	タイマA1レジスタ(TA1)
02E9 ₁₆	I ² C1アドレスレジスタ (IIC1S0D)	0389 ₁₆	
02EA ₁₆	I ² C1ステータスレジスタ (IIC1S1)	038A ₁₆	タイマA2レジスタ(TA2)
02EB ₁₆	I ² C1コントロールレジスタ (IIC1S1D)	038B ₁₆	
02EC ₁₆	I ² C1クロックコントロールレジスタ (IIC1S2)	038C ₁₆	タイマA3レジスタ(TA3)
02ED ₁₆	I ² C1ポートセレクションレジスタ (IIC1S2D)	038D ₁₆	
02EE ₁₆	I ² C1送信バッファレジスタ (IIC1S0S)	038E ₁₆	タイマA4レジスタ(TA4)
02EF ₁₆		038F ₁₆	
0339 ₁₆		0390 ₁₆	タイマB0レジスタ(TB0)
0340 ₁₆	予約レジスタ1(INVC1)	0391 ₁₆	
0341 ₁₆		0392 ₁₆	タイマB1レジスタ(TB1)
0342 ₁₆		0393 ₁₆	
0343 ₁₆		0394 ₁₆	タイマB2レジスタ(TB2)
0344 ₁₆		0395 ₁₆	
0345 ₁₆		0396 ₁₆	タイマA0モ - ドレジスタ(TA0MR)
0346 ₁₆		0397 ₁₆	タイマA1モ - ドレジスタ(TA1MR)
0347 ₁₆		0398 ₁₆	タイマA2モ - ドレジスタ(TA2MR)
0348 ₁₆	予約レジスタ0(INVC0)	0399 ₁₆	タイマA3モ - ドレジスタ(TA3MR)
0349 ₁₆		039A ₁₆	タイマA4モ - ドレジスタ(TA4MR)
035E ₁₆		039B ₁₆	タイマB0モ - ドレジスタ(TB0MR)
035F ₁₆	割り込み要因選択レジスタ(IFSR)	039C ₁₆	タイマB1モ - ドレジスタ(TB1MR)
0360 ₁₆		039D ₁₆	タイマB2モ - ドレジスタ(TB2MR)
0361 ₁₆		039E ₁₆	
0362 ₁₆	予約レジスタ3(INVC3)	039F ₁₆	
0363 ₁₆		03A0 ₁₆	UART0送受信モ - ドレジスタ(U0MR)
0364 ₁₆		03A1 ₁₆	UART0転送速度レジスタ(U0BRG)
0365 ₁₆		03A2 ₁₆	UART0送信バッファレジスタ(U0TB)
0366 ₁₆	予約レジスタ4(INVC4)	03A3 ₁₆	
0367 ₁₆		03A4 ₁₆	UART0送受信制御レジスタ 0 (U0C0)
0368 ₁₆		03A5 ₁₆	UART0送受信制御レジスタ 1 (U0C1)
0369 ₁₆		03A6 ₁₆	UART0受信バッファレジスタ(U0RB)
036A ₁₆		03A7 ₁₆	
036B ₁₆		03A8 ₁₆	予約レジスタ2(INVC2)
036C ₁₆		03A9 ₁₆	
036D ₁₆		03AA ₁₆	
036E ₁₆		03AB ₁₆	
036F ₁₆		03AC ₁₆	
0370 ₁₆		03AD ₁₆	
0371 ₁₆		03AE ₁₆	
0372 ₁₆		03AF ₁₆	
0373 ₁₆		03B0 ₁₆	UART送受信制御レジスタ2 (U0CON)
0374 ₁₆		03B1 ₁₆	
0375 ₁₆		03B2 ₁₆	
0376 ₁₆	予約レジスタ5(INVC5)	03B3 ₁₆	
0377 ₁₆	UART2特殊モードレジスタ(U2SMR)	03B4 ₁₆	
0378 ₁₆	UART2送受信モードレジスタ(U2MR)	03B5 ₁₆	
0379 ₁₆	UART2転送速度レジスタ(U2BRG)	03B6 ₁₆	
037A ₁₆	UART2送信バッファレジスタ(U2TB)	03B7 ₁₆	
037B ₁₆		03B8 ₁₆	DMA0要因選択レジスタ(DM0SL)
037C ₁₆	UART2送受信制御レジスタ0(U2C0)	03B9 ₁₆	
037D ₁₆	UART2送受信制御レジスタ1(U2C1)	03BA ₁₆	DMA1要因選択レジスタ(DM1SL)
037E ₁₆	UART2受信バッファレジスタ(U2RB)	03BB ₁₆	
037F ₁₆		03BC ₁₆	
		03BD ₁₆	
		03BE ₁₆	
		03BF ₁₆	

図2.1.4 周辺装置制御レジスタの配置(3)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

03C0 ₁₆	
03C1 ₁₆	
03C2 ₁₆	
03C3 ₁₆	
03C4 ₁₆	A-Dレジスタ0(AD0)
03C5 ₁₆	
03C6 ₁₆	A-Dレジスタ1(AD1)
03C7 ₁₆	
03C8 ₁₆	A-Dレジスタ2(AD2)
03C9 ₁₆	
03CA ₁₆	A-Dレジスタ3(AD3)
03CB ₁₆	
03CC ₁₆	A-Dレジスタ4(AD4)
03CD ₁₆	
03CE ₁₆	A-Dレジスタ5(AD5)
03CF ₁₆	
03D0 ₁₆	
03D1 ₁₆	
03D2 ₁₆	
03D3 ₁₆	
03D4 ₁₆	A-D制御レジスタ2(ADCON2)
03D5 ₁₆	
03D6 ₁₆	A-D制御レジスタ0(ADCON0)
03D7 ₁₆	A-D制御レジスタ1(ADCON1)
03D8 ₁₆	D-Aレジスタ0(DA0)
03D9 ₁₆	
03DA ₁₆	D-Aレジスタ1(DA1)
03DB ₁₆	
03DC ₁₆	D-A制御レジスタ(DACON)
03DD ₁₆	
03DE ₁₆	
03DF ₁₆	
03E0 ₁₆	ポートP0レジスタ(P0)
03E1 ₁₆	ポートP1レジスタ(P1)
03E2 ₁₆	ポートP0方向レジスタ(PD0)
03E3 ₁₆	ポートP1方向レジスタ(PD1)
03E4 ₁₆	ポートP2レジスタ(P2)
03E5 ₁₆	ポートP3レジスタ(P3)
03E6 ₁₆	ポートP2方向レジスタ(PD2)
03E7 ₁₆	ポートP3方向レジスタ(PD3)
03E8 ₁₆	ポートP4レジスタ(P4)
03E9 ₁₆	ポートP5レジスタ(P5)
03EA ₁₆	ポートP4方向レジスタ(PD4)
03EB ₁₆	ポートP5方向レジスタ(PD5)
03EC ₁₆	ポートP6レジスタ(P6)
03ED ₁₆	ポートP7レジスタ(P7)
03EE ₁₆	ポートP6方向レジスタ(PD6)
03EF ₁₆	ポートP7方向レジスタ(PD7)
03F0 ₁₆	ポートP8レジスタ(P8)
03F1 ₁₆	ポートP9レジスタ(P9)
03F2 ₁₆	ポートP8方向レジスタ(PD8)
03F3 ₁₆	ポートP9方向レジスタ(PD9)
03F4 ₁₆	ポートP10レジスタ(P10)
03F5 ₁₆	
03F6 ₁₆	ポートP10方向レジスタ(PD10)
03F7 ₁₆	
03F8 ₁₆	
03F9 ₁₆	
03FA ₁₆	
03FB ₁₆	
03FC ₁₆	プルアップ制御レジスタ 0 (PUR0)
03FD ₁₆	プルアップ制御レジスタ 1 (PUR1)
03FE ₁₆	プルアップ制御レジスタ 2 (PUR2)
03FF ₁₆	ポート制御レジスタ(PCR)

図2.1.5 周辺装置制御レジスタの配置(4)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.2 中央演算処理装置

中央演算処理装置には図2.2.1に示す13個のレジスタがあります。これらのうち、R0,R1,R2,R3,A0,A1,FBの7個は2セットあり、2つのレジスタバンクを構成しています。

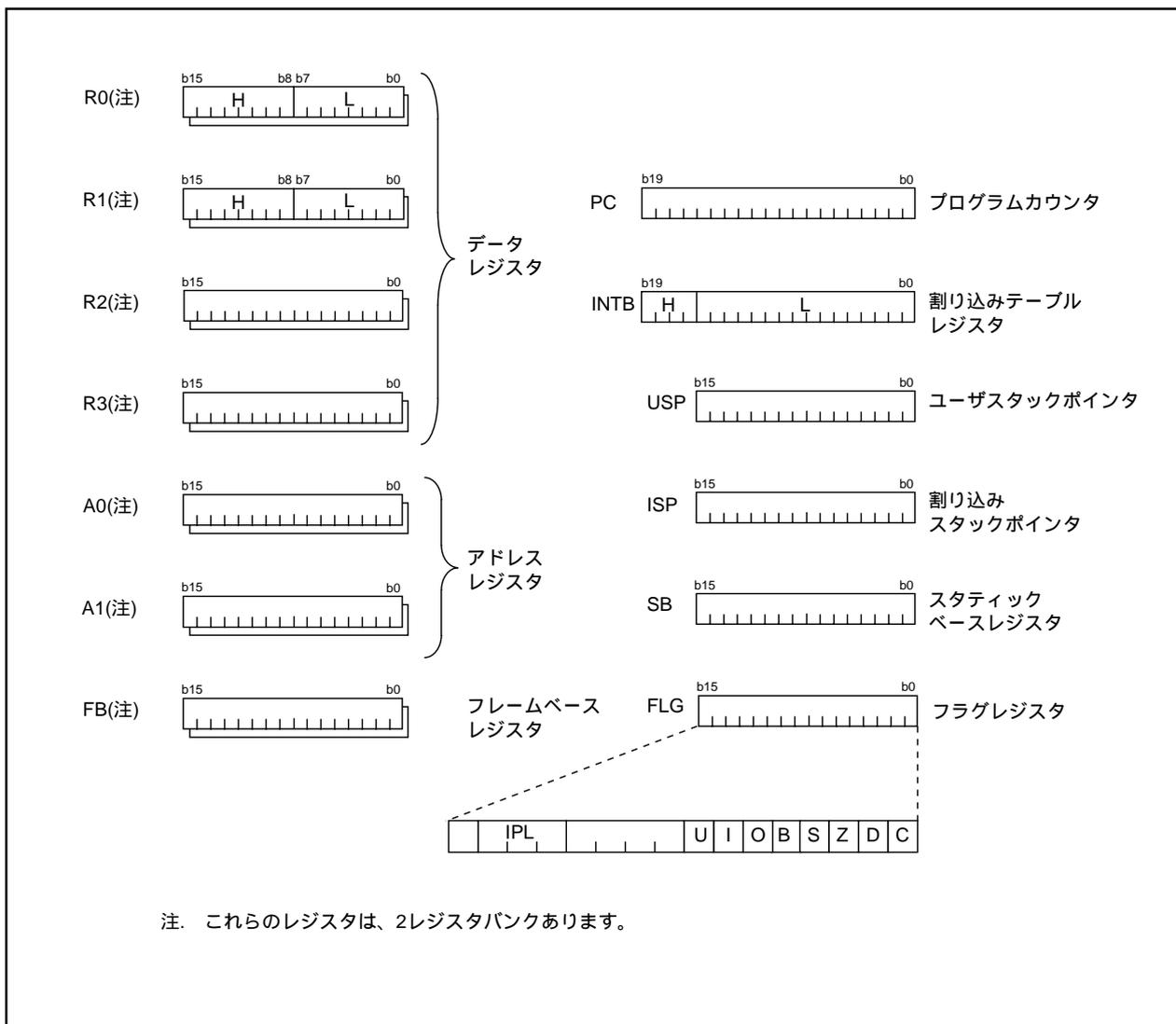


図2.2.1 中央演算処理装置のレジスタ構成

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.2.1 データレジスタ(R0/R0H/R0L/R1/R1H/R1L/R2/R3)

データレジスタ(R0/R1/R2/R3)は16ビットで構成されており、主に転送や算術、論理演算に使用します。R0/R1は、上位(R0H/R1H)と下位(R0L/R1L)を別々に8ビットのデータレジスタとして使用することもできます。また、一部の命令ではR2とR0、R3とR1を組合せて32ビットのデータレジスタ(R2R0/R3R1)としても使用できます。

2.2.2 アドレスレジスタ(A0/A1)

アドレスレジスタ(A0/A1)は16ビットで構成されており、データレジスタと同等の機能を持ちます。また、アドレスレジスタ間接アドレッシングおよびアドレスレジスタ相対アドレッシングに使用します。一部の命令ではA1とA0とを組合せて32ビットのアドレスレジスタ(A1A0)としても使用できます。

2.2.3 フレームベースレジスタ(FB)

フレームベースレジスタ(FB)は16ビットで構成されており、FB相対アドレッシングに使用します。

2.2.4 プログラムカウンタ(PC)

プログラムカウンタ(PC)は20ビットで構成されており、次に実行する命令の番地を示します。

2.2.5 割り込みテーブルレジスタ(INTB)

割り込みテーブルレジスタ(INTB)は20ビットで構成されており、割り込みベクタテーブルの先頭番地を示します。

2.2.6 スタックポインタ(USP/ISP)

スタックポインタは、ユーザスタックポインタ(USP)と割り込みスタックポインタ(ISP)の2種類があり、共に16ビットで構成されています。

使用するスタックポインタ(USP/ISP)はスタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)によって切り替えられます。

スタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)は、フラグレジスタ(FLG)のビット7です。

2.2.7 スタティックベースレジスタ(SB)

スタティックベースレジスタ(SB)は16ビットで構成されており、SB相対アドレッシングに使用します。

2.2.8 フラグレジスタ(FLG)

フラグレジスタ(FLG)は11ビットで構成されており、1ビット単位でフラグとして使用します。

フラグレジスタ(FLG)を図2.2.2に示します。また、各フラグの機能を以下に示します。

ビット0: キャリーフラグ(Cフラグ)

算術論理ユニットで発生したキャリー、ポロー、シフトアウトしたビット等を保持します。

ビット1: デバッグフラグ(Dフラグ)

シングルステップ割り込みを許可するフラグです。

このフラグが“1”のとき、命令実行後シングルステップ割り込みが発生します。割り込みを受け付けると、このフラグは“0”になります。

ビット2: ゼロフラグ(Zフラグ)

演算の結果が0のとき“1”になり、それ以外のとき“0”になります。

ビット3: サインフラグ(Sフラグ)

演算の結果が負のとき“1”になり、それ以外のとき“0”になります。

ビット4: レジスタバンク指定フラグ(Bフラグ)

レジスタバンクの選択を行います。このフラグが“0”のときレジスタバンク0が指定され、“1”のときレジスタバンク1が指定されます。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

ビット5：オーバフローフラグ(Oフラグ)

演算の結果がオーバフローしたときに“1”になります。

ビット6：割り込み許可フラグ(Iフラグ)

マスカブル割り込みを許可するフラグです。

このフラグが“0”のとき割り込みは禁止され、“1”のとき許可されます。

割り込みを受け付けると、このフラグは“0”になります。

ビット7：スタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)

このフラグが“0”のとき割り込みスタックポインタ(ISP)が指定され、“1”のときユーザスタックポインタ(USP)が指定されます。

ハードウェア割り込みを受け付けたとき、またはソフトウェア割り込み番号0~31のINT命令を実行したとき、このフラグは“0”になります。

ビット8~ビット11：予約領域

ビット12~ビット14：プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)

プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)は3ビットで構成されており、レベル0~レベル7までの8段階のプロセッサ割り込み優先レベルを指定します。

要求があった割り込みの優先レベルが、プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)より大きい場合、その割り込みは許可されます。

ビット15：予約領域

C、Z、S、O各フラグは、命令により変化します。変化の詳細はソフトウェアマニュアルを参照してください。

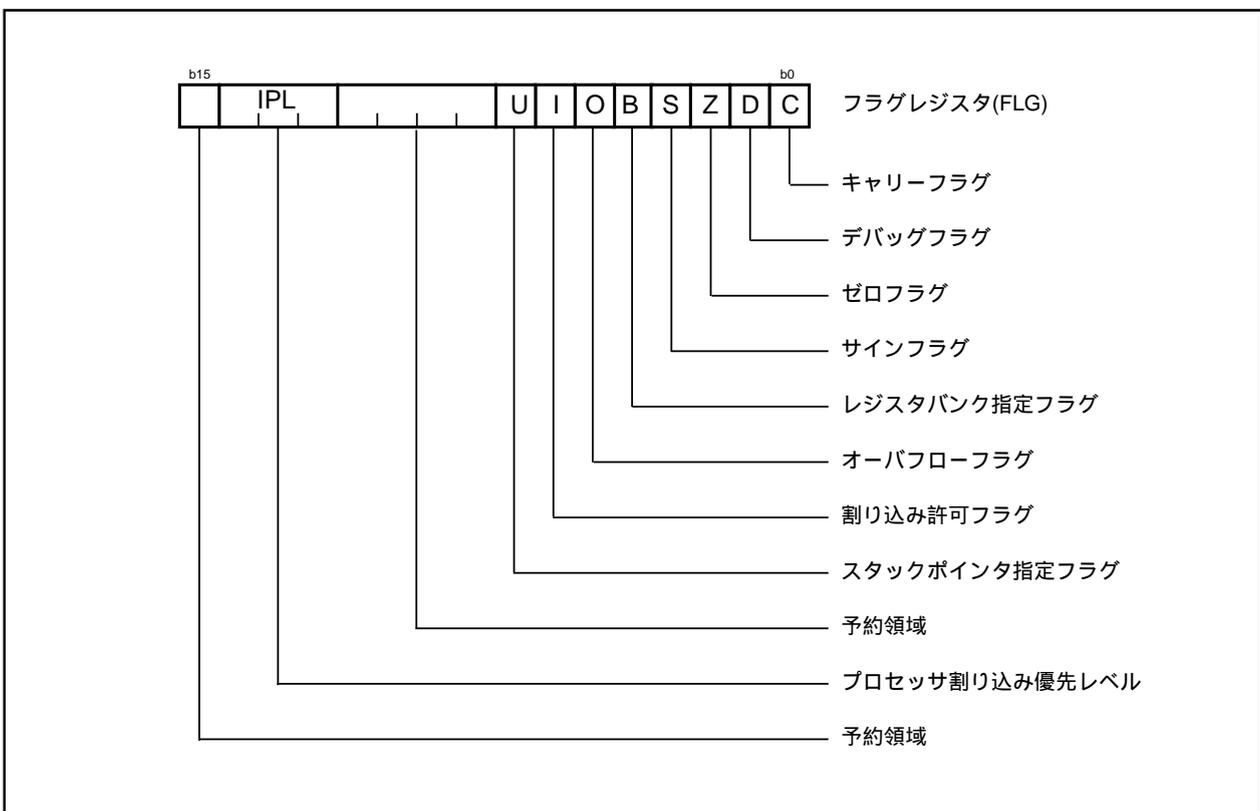


図2.2.2 フラグレジスタ(FLG)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

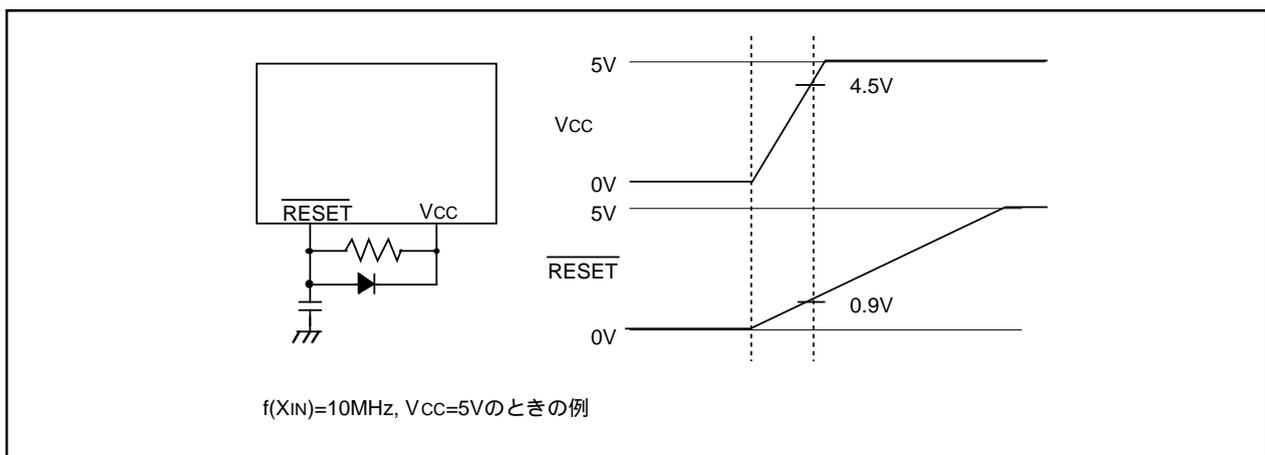
SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.3 リセット

リセットは、ハードウェアによるリセットとソフトウェアによるリセットの2種類あります。ソフトウェアリセット、ハードウェアリセットともリセット解除後の動作は同じです（ソフトウェアリセットの詳細は「ソフトウェアリセット」を参照）。この項では、ハードウェアリセットを中心に説明します。

電源電圧が動作保証電圧であるとき、リセット端子を20サイクル以上“L”レベル(0.2V_{CC}以下)に保つとリセット状態になります。その後、メインクロックが十分に安定しているときにリセット端子を“H”レベルに戻すとリセットが解除され、リセットベクタテーブルで示される番地からプログラムを実行します。

リセット回路の一例を図2.3.1、リセットシーケンスを図2.3.2に示します。



2.3.1 ソフトウェアリセット

プロセッサモードレジスタ0(0004₁₆番地)のビット3に“1”を書き込むことでマイクロコンピュータにリセットをかけることができます(ソフトウェアリセット)。ソフトウェアリセットは、マイコンのハードウェアリセットと同様の動作を行います。ただし、内部RAM領域の内容は保持します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

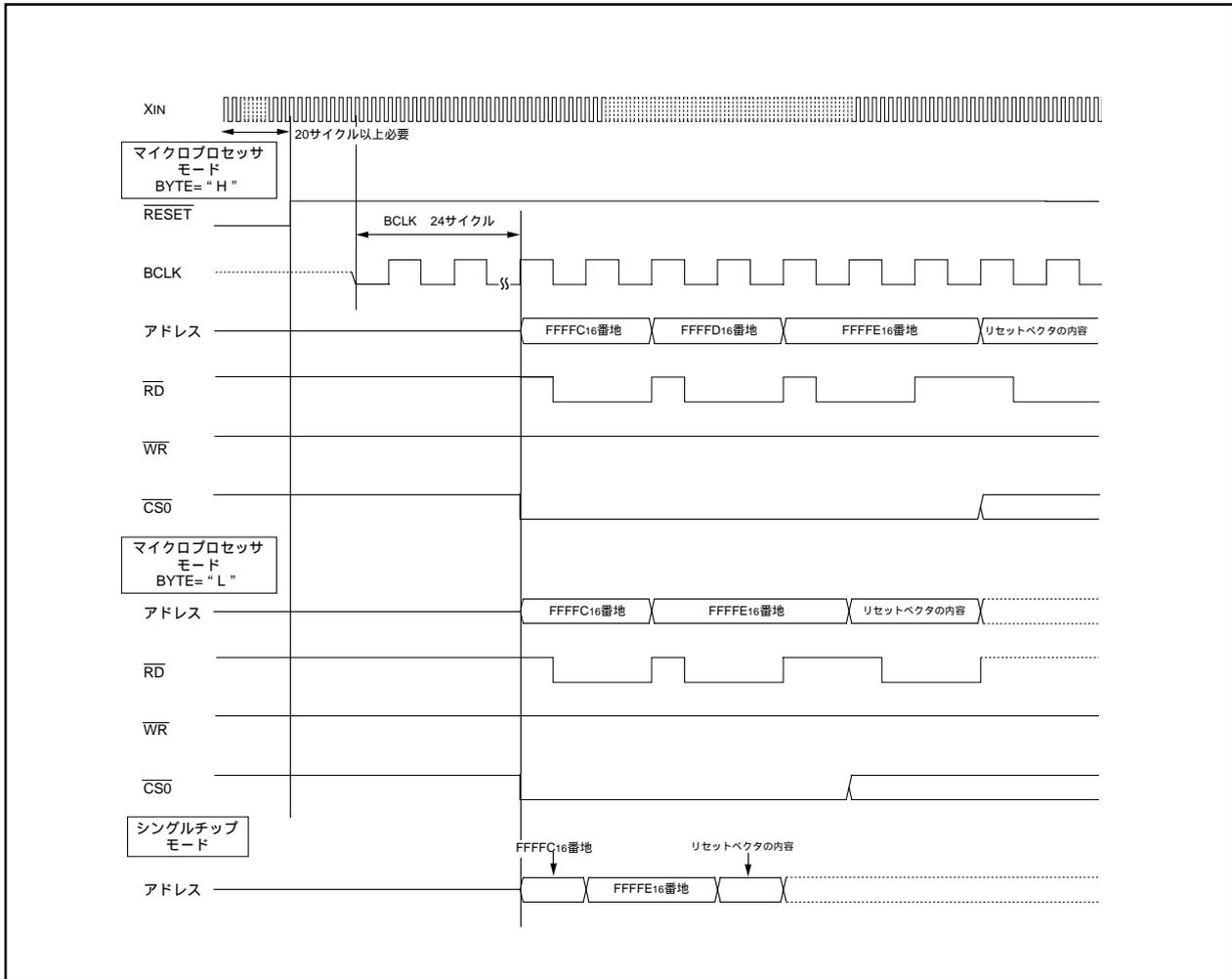


図2.3.2 リセットシーケンス

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.3.2 RESET端子のレベルが“L”の期間の端子の状態

RESET端子のレベルが“L”の期間の端子の状態を表2.3.1、リセット解除直後のマイクロコンピュータの内部状態を図2.3.3、図2.3.4に示します。

表2.3.1 RESET端子のレベルが“L”の期間の端子の状態

端子名	端子の状態		
	CNVss = Vss	CNVss = Vcc	
		BYTE = Vss	BYTE = Vcc
P0	入力ポート(フローティング)	データ入力(フローティング)	データ入力(フローティング)
P1	入力ポート(フローティング)	データ入力(フローティング)	入力ポート(フローティング)
P2, P3, P40 ~ P43	入力ポート(フローティング)	アドレス出力(不定)	アドレス出力(不定)
P44	入力ポート(フローティング)	CS0出力(“H”レベルを出力)	CS0出力(“H”レベルを出力)
P45 ~ P47	入力ポート(フローティング)	入力ポート(フローティング) (ただし、プルアップ抵抗ON状態)	入力ポート(フローティング) (ただし、プルアップ抵抗ON状態)
P50	入力ポート(フローティング)	WR出力(“H”レベルを出力)	WR出力(“H”レベルを出力)
P51	入力ポート(フローティング)	BHE出力(不定)	BHE出力(不定)
P52	入力ポート(フローティング)	RD出力(“H”レベルを出力)	RD出力(“H”レベルを出力)
P53	入力ポート(フローティング)	BCLK出力	BCLK出力
P54	入力ポート(フローティング)	HLDA出力(出力値はHOLD端子 の inputs に依存)	HLDA出力(出力値はHOLD端子 の inputs に依存)
P55	入力ポート(フローティング)	HOLD入力(フローティング)	HOLD入力(フローティング)
P56	入力ポート(フローティング)	ALE出力(“L”レベルを出力)	ALE出力(“L”レベルを出力)
P57	入力ポート(フローティング)	RDY入力(フローティング)	RDY入力(フローティング)
P60 ~ P63, P67, P7, P82, P83, P86, P87, P9, P10	入力ポート(フローティング)	入力ポート(フローティング)	入力ポート(フローティング)
R, G, B, OUT1, OUT2	出力ポート		
CVIN, VHOLD, HLF	入出力ポート		
OSC1	入力ポート		
OSC2	出力ポート		

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

プロセッサモードレジスタ0 (注)	(000416)...	0016	タイマB0割り込み制御レジスタ	(005A16)...	XXXXXXXX?000
プロセッサモードレジスタ1	(000516)...	000000X000	タイマB1割り込み制御レジスタ	(005B16)...	XXXXXXXX?000
システムクロック制御レジスタ0	(000616)...	4816	タイマB2割り込み制御レジスタ	(005C16)...	XXXXXXXX?000
システムクロック制御レジスタ1	(000716)...	2016	INT0割り込み制御レジスタ	(005D16)...	XXXX00?000
チップセレクト制御レジスタ	(000816)...	0116	INT1割り込み制御レジスタ	(005E16)...	XXXX00?000
アドレス一致割り込み許可レジスタ	(000916)...	XXXXXXXXX000	スプライトOSD制御レジスタ	(020116)...	XXXX000000
プロテクトレジスタ	(000A16)...	XXXXXXXX0000	OSDコントロールレジスタ1	(020216)...	0016
監視タイマ制御レジスタ	(000F16)...	0000?? ?? ??	OSDコントロールレジスタ2	(020316)...	0016
アドレス一致割り込みレジスタ0	(001016)...	0016	水平位置レジスタ	(020416)...	0016
	(001116)...	0016	クロックコントロールレジスタ	(020516)...	0016
	(001216)...	XXXXXXXX0000	入出力極性コントロールレジスタ	(020616)...	1000000000
アドレス一致割り込みレジスタ1	(001416)...	0016	OSDコントロールレジスタ3	(020716)...	0016
	(001516)...	0016	ラスタカラーレジスタ	(020816)...	0016
	(001616)...	XXXXXXXX0000		(020916)...	0016
DMA0制御レジスタ	(002C16)...	000000?000	OSD予約レジスタ1	(025D16)...	0016
DMA1制御レジスタ	(003C16)...	000000?000	OSDコントロールレジスタ4	(025F16)...	XXXXXXXXX000
OSD1割り込み制御レジスタ	(004416)...	XXXXXXXX?000	データスライサ制御レジスタ1	(026016)...	0016
OSD2割り込み制御レジスタ	(004816)...	XXXXXXXX?000	データスライサ制御レジスタ2	(026116)...	?0?0?0?0?
マルチマスタIC-BUSインタフェース1 割り込み制御レジスタ	(004916)...	XXXX00?000	キャプション位置レジスタ	(026616)...	00?0000000
バス衝突検出割り込み制御レジスタ	(004A16)...	XXXXXXXX?000	データスライサ予約レジスタ2	(026716)...	0016
DMA0割り込み制御レジスタ	(004B16)...	XXXXXXXX?000	データスライサ予約レジスタ1	(026816)...	0016
DMA1割り込み制御レジスタ	(004C16)...	XXXXXXXX?000	クロックランイン検出レジスタ	(026916)...	0016
マルチマスタIC-BUSインタフェース0 割り込み制御レジスタ	(004D16)...	XXXXXXXX?000	データクロック位置レジスタ	(026A16)...	XXXX000001
A-D変換割り込み制御レジスタ	(004E16)...	XXXXXXXX?000	レフトボーダーコントロール レジスタ	(027016)...	0116
UART2送信割り込み制御レジスタ	(004F16)...	XXXXXXXX?000		(027116)...	XXXXXXXXX000
UART2受信割り込み制御レジスタ	(005016)...	XXXXXXXX?000	ライトボーダーコントロール レジスタ	(027216)...	0016
UART0送信割り込み制御レジスタ	(005116)...	XXXXXXXX?000		(027316)...	XXXXXXXXX000
UART0受信割り込み制御レジスタ	(005216)...	XXXXXXXX?000	スプライト水平位置レジスタ(上位)	(027916)...	XXXXXXXXX000
データスライサ割り込み 制御レジスタ	(005316)...	XXXXXXXX?000	OSD予約レジスタ4	(027A16)...	X000000000
VSYNC割り込み制御レジスタ	(005416)...	XXXXXXXX?000	OSD予約レジスタ3	(027B16)...	0016
タイマA0割り込み制御レジスタ	(005516)...	XXXXXXXX?000	OSD予約レジスタ2	(027C16)...	0016
タイマA1割り込み制御レジスタ	(005616)...	XXXXXXXX?000	ペリフェラルモードレジスタ	(027D16)...	0XXXX00000
タイマA2割り込み制御レジスタ	(005716)...	XXXXXXXX?000	Hsyncカウンタレジスタ	(027E16)...	XXXX00X000
タイマA3割り込み制御レジスタ	(005816)...	XXXXXXXX?000			
タイマA4割り込み制御レジスタ	(005916)...	XXXXXXXX?000			

× : このビットは何も配置されていません。
? : 不定です。

これ以外のレジスタおよびRAMの内容はリセット時には不定ですので、初期値をセットしてください。
注 . CNVss端子にVccレベルを印加しているときは、リセット時0316になります。

図2.3.3 リセット解除後のマイクロコンピュータの内部状態(1)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

I ² C0アドレスレジスタ	(02E1 ₁₆)...	00 ₁₆	予約レジスタ2	(03A8 ₁₆)...	00 ₁₆
I ² C0ステータスレジスタ	(02E2 ₁₆)...	00010000?	UART送受信制御レジスタ2	(03B0 ₁₆)...	00000000
I ² C0コントロールレジスタ	(02E3 ₁₆)...	00 ₁₆	DMA0要因選択レジスタ	(03B8 ₁₆)...	00 ₁₆
I ² C0クロックコントロールレジスタ	(02E4 ₁₆)...	00 ₁₆	DMA1要因選択レジスタ	(03BA ₁₆)...	00 ₁₆
I ² C0ポートセクションレジスタ	(02E5 ₁₆)...	00??0000	A-D制御レジスタ2	(03D4 ₁₆)...	0000???
I ² C1アドレスレジスタ	(02E9 ₁₆)...	00 ₁₆	A-D制御レジスタ0	(03D6 ₁₆)...	0000???
I ² C1ステータスレジスタ	(02EA ₁₆)...	00010000?	A-D制御レジスタ1	(03D7 ₁₆)...	00 ₁₆
I ² C1コントロールレジスタ	(02EB ₁₆)...	00 ₁₆	D-A制御レジスタ	(03DC ₁₆)...	00 ₁₆
I ² C1クロックコントロールレジスタ	(02EC ₁₆)...	00 ₁₆	ポートP0方向レジスタ	(03E2 ₁₆)...	00 ₁₆
I ² C1ポートセクションレジスタ	(02ED ₁₆)...	00??0000	ポートP1方向レジスタ	(03E3 ₁₆)...	00 ₁₆
予約レジスタ1	(0340 ₁₆)...	000???	ポートP2方向レジスタ	(03E6 ₁₆)...	00 ₁₆
予約レジスタ0	(0348 ₁₆)...	00 ₁₆	ポートP3方向レジスタ	(03E7 ₁₆)...	00 ₁₆
割り込み要因選択レジスタ	(035F ₁₆)...	00 ₁₆	ポートP4方向レジスタ	(03EA ₁₆)...	00 ₁₆
予約レジスタ3	(0362 ₁₆)...	40 ₁₆	ポートP5方向レジスタ	(03EB ₁₆)...	00 ₁₆
予約レジスタ4	(0366 ₁₆)...	40 ₁₆	ポートP6方向レジスタ	(03EE ₁₆)...	00 ₁₆
予約レジスタ5	(0376 ₁₆)...	00 ₁₆	ポートP7方向レジスタ	(03EF ₁₆)...	00 ₁₆
UART2特殊モードレジスタ	(0377 ₁₆)...	00 ₁₆	ポートP8方向レジスタ	(03F2 ₁₆)...	00000000
UART2送受信モードレジスタ	(0378 ₁₆)...	00 ₁₆	ポートP9方向レジスタ	(03F3 ₁₆)...	00 ₁₆
UART2送受信制御レジスタ0	(037C ₁₆)...	08 ₁₆	ポートP10方向レジスタ	(03F6 ₁₆)...	00 ₁₆
UART2送受信制御レジスタ1	(037D ₁₆)...	02 ₁₆	ブルアップ制御レジスタ0	(03FC ₁₆)...	00 ₁₆
カウント開始フラグ	(0380 ₁₆)...	00 ₁₆	ブルアップ制御レジスタ1 (注)	(03FD ₁₆)...	00 ₁₆
時計用プリスケラリセットフラグ	(0381 ₁₆)...	0XXXXXX	ブルアップ制御レジスタ2	(03FE ₁₆)...	00 ₁₆
ワンショット開始フラグ	(0382 ₁₆)...	00000000	ポート制御レジスタ	(03FF ₁₆)...	00 ₁₆
トリガ選択レジスタ	(0383 ₁₆)...	00 ₁₆	データレジスタ (R0/R1/R2/R3)		0000 ₁₆
アップダウンフラグ	(0384 ₁₆)...	00 ₁₆	アドレスレジスタ (A0/A1)		0000 ₁₆
タイマA0モードレジスタ	(0396 ₁₆)...	00 ₁₆	フレームベースレジスタ (FB)		0000 ₁₆
タイマA1モードレジスタ	(0397 ₁₆)...	00 ₁₆	割り込みテーブルレジスタ (INTB)		0000 ₁₆
タイマA2モードレジスタ	(0398 ₁₆)...	00 ₁₆	ユーザスタックポインタ (USP)		0000 ₁₆
タイマA3モードレジスタ	(0399 ₁₆)...	00 ₁₆	割り込みスタックポインタ (ISP)		0000 ₁₆
タイマA4モードレジスタ	(039A ₁₆)...	00 ₁₆	スタティックベースレジスタ (SB)		0000 ₁₆
タイマB0モードレジスタ	(039B ₁₆)...	00?00000	フラグレジスタ (FLG)		0000 ₁₆
タイマB1モードレジスタ	(039C ₁₆)...	00?00000			
タイマB2モードレジスタ	(039D ₁₆)...	00?00000			
UART0送受信モードレジスタ	(03A0 ₁₆)...	00 ₁₆			
UART0送受信制御レジスタ0	(03A4 ₁₆)...	08 ₁₆			
UART0送受信制御レジスタ1	(03A5 ₁₆)...	02 ₁₆			

× : このビットは何も配置されていません。
? : 不定です。

これ以外のレジスタおよびRAMの内容はリセット時には不定ですので、初期値をセットしてください。
注 . CNVss端子にVccレベルを印加しているときは、リセット時02₁₆になります。

図2.3.4 リセット解除後のマイクロコンピュータの内部状態(2)

2.4 プロセッサモード

2.4.1 プロセッサモードの種類

プロセッサモードは、シングルチップモード、メモリ拡張モード、及びマイクロプロセッサモードの3つのモードから選択することができます。プロセッサモードによって、一部の端子機能、メモリ配置、及びアクセス空間が異なります。

(1) シングルチップモード

シングルチップモードは、内部領域(SFR、OSD RAM、内部RAM、内部ROM)だけのアクセスが可能なモードです。

このモードでは、P0～P10をプログラマブル入出力ポートまたは内蔵周辺機能の入出力ポートとして使用することができます。

(2) メモリ拡張モード

メモリ拡張モードは、内部領域(SFR、OSD RAM、内部RAM、内部ROM)及び外部領域のアクセスが可能なモードです。

このモードでは、一部の端子がアドレスバス、データバス、及び制御信号用の端子となります。その本数は、バスやレジスタの設定によって異なります(詳細は、「2.4.3 バス設定」を参照してください)。

(3) マイクロプロセッサモード

マイクロプロセッサモードは、SFR、OSD RAM、及び内部RAM領域と外部領域のアクセスが可能なモードです(内部ROM領域はアクセスできません)。

このモードでは、一部の端子がアドレスバス、データバス、および制御信号用の端子となります。その本数は、バス幅やレジスタの設定によって異なります(詳細は、「2.4.3 バス設定」を参照してください)。

2.4.2 各モードの設定

各モードの設定は、CNVss端子およびプロセッサモードビット(0004₁₆番地のビット1、ビット0)によって行います。プロセッサモードビットを“10₂”にしないでください。

CNVss端子のレベルにかかわらず、プロセッサモードビットの内容を書き替えると、対応するモードになります。したがって、プロセッサモードビット以外のビットの内容を書き替えるとき、プロセッサモードビットが変化しないように注意してください。また、内部ROM領域でのマイクロプロセッサモードへの移行、及びマイクロプロセッサモードからの移行は行わないでください。

(1) CNVss端子にVssを印加

リセット後シングルチップモードで動作を開始します。動作開始後、プロセッサモードビットを“01₂”にするとメモリ拡張モードへ切り替えることができます。

(2) CNVss端子にVccを印加

リセット後マイクロプロセッサモードで動作を開始します。

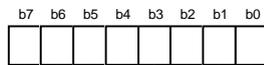
図2.4.1にプロセッサモードレジスタ0、図2.4.2にプロセッサモードレジスタ1の構成を示します。

図2.4.3に各プロセッサモードのメモリ配置図を示します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

プロセッサモードレジスタ0(注1)



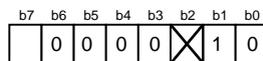
シンボル アドレス リセット時
PM0 0004₁₆番地 00₁₆(注2)

ビットシンボル	ビット名	機 能	R;W
PM00	プロセッサモードビット	b1 b0 00: シングルチップモード 01: メモリ拡張モード 10: 使用禁止 11: マイクロプロセッサモード	
PM01			
PM02	R/Wモード選択ビット	0: RD, BHE, WR 1: RD, WRF, WRL	
PM03	ソフトウェアリセットビット	このビットに“1”を書き込むとマイクロコンピュータはリセットされる。読み出し時の値は“0”。	
PM04	マルチプレクスバス空間 選択ビット	b5 b4 00: マルチプレクスバスを使用しない 01: CS2の空間に割り当てる 10: CS1の空間に割り当てる 11: 全空間に割り当てる(注4)	
PM05			
PM06	ポートP4 ₀ ~P4 ₃ 機能 選択ビット(注3)	0: アドレス出力 1: ポート機能 (アドレスは出力されません)	
PM07	BCLK出力禁止ビット	0: 出力する 1: 出力しない (端子はフローティングになります)	

- 注1. このレジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A₁₆番地)のビット1を“1”にしてください。
2. CNVss端子にVccレベルを印加しているときは、リセット時03₁₆になります。(PM00およびPM01が“1”になります)。
3. マイクロプロセッサモード、メモリ拡張モード時有効。
4. メモリ拡張モード時、全空間マルチプレクスバスの場合は、8ビット幅を選択してください。
- リセット解除後、セパレートバスで動作しますので、マイクロプロセッサモード時、全空間マルチプレクスバスは選択できません。
全空間マルチプレクスバスを選択した場合、上位アドレスはポートとなりますので、各チップセレクトごとに256バイトしか使えません。

図2.4.1 プロセッサモードレジスタ0

プロセッサモードレジスタ1(注1)



シンボル アドレス リセット時
PM1 0005₁₆番地 00000X002

ビットシンボル	ビット名	機 能	R;W
	予約ビット	必ず“0”を設定してください	
	予約ビット(注2)	必ず“1”を設定してください	
	何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は不定。		-
	予約ビット	必ず“0”を設定してください	
PM17	ウェイトビット	0: ウェイトなし 1: ウェイトあり	

- 注1. このレジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A₁₆番地)のビット1を“1”にしてください。
2. このビットはリセット時“0”になりますので、リセット解除後必ず“1”を設定してください。

図2.4.2 プロセッサモードレジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

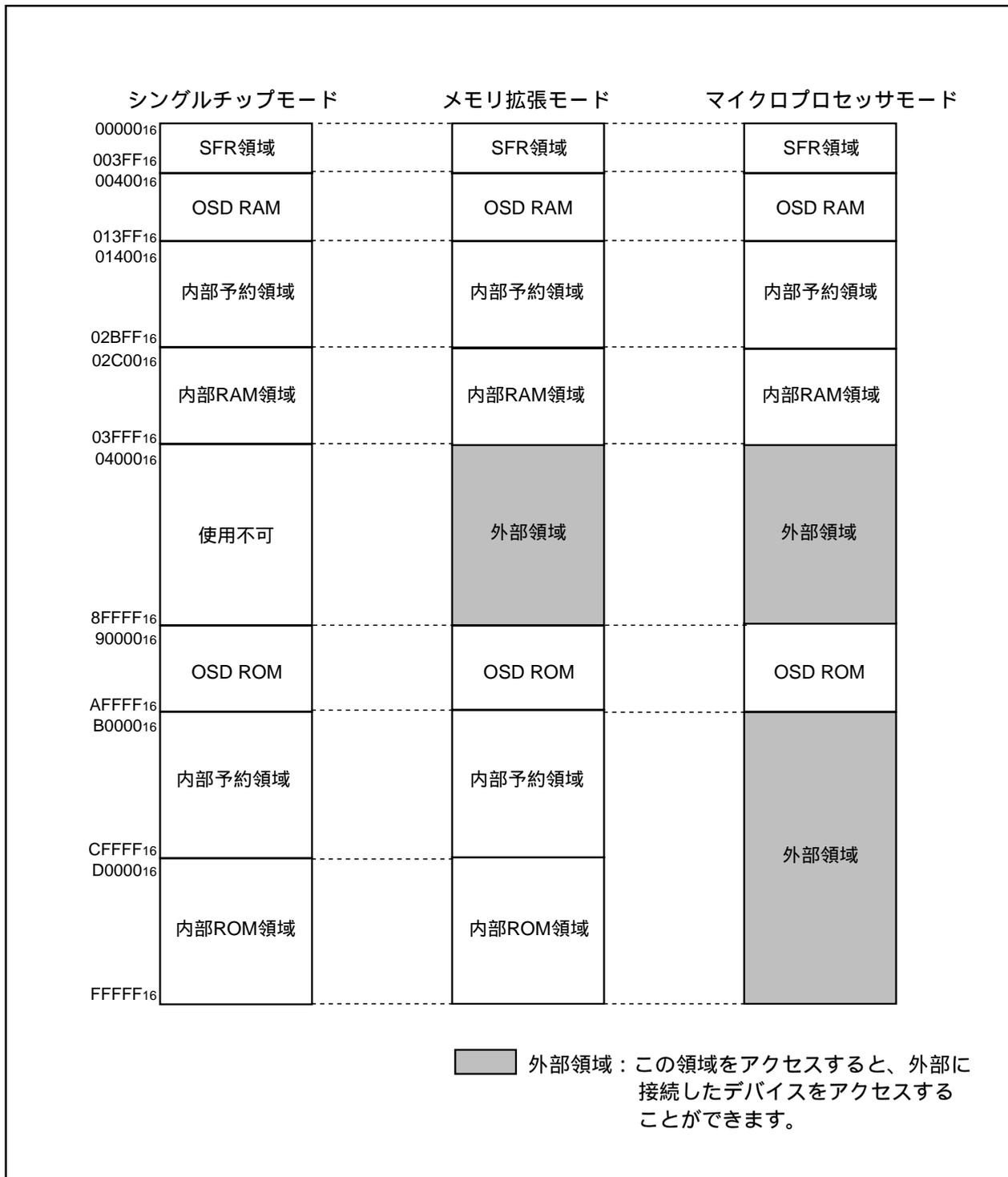


図2.4.3 各プロセッサモード時のメモリ配置

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.4.3 バス設定

バスの設定はBYTE端子とプロセッサモードレジスタ0(0004₁₆番地)のビット4～ビット6で切り替えることができます。

表2.4.1に各バスの設定と切り替え要因を示します。

表2.4.1 バスの設定と切り替え要因

バスの設定	切り替え要因
外部アドレスバス幅切り替え	プロセッサモードレジスタ0のビット6
外部データバス幅切り替え	BYTE端子
セパレートバス/マルチプレクスバス切り替え	プロセッサモードレジスタ0のビット4、ビット5

(1) 外部アドレスバス幅の選択

1Mバイトのアドレス空間のうち外部に出力されるアドレスバス幅は、16ビット(アドレス空間64Kバイト)と20ビット(アドレス空間1Mバイト)を選択することができます。プロセッサモードレジスタ0のビット6が“1”のとき、外部アドレスバス幅は16ビットになりP2とP3がアドレスバスとなります。P40～P43は、プログラマブル入出力ポートとして使用することができます。プロセッサモードレジスタ0のビット6が“0”のとき、外部アドレスバス幅は20ビットになり、P2、P3、およびP40～P43がアドレスバスとなります。

(2) 外部データバス幅の選択

外部データバス幅は8ビットと16ビットを選択することができます(ただし、外部データバス幅を選択できるのは、セパレートバスだけです)。BYTE端子が“L”のとき16ビットに、“H”のときは8ビットになります。バス幅の選択は、外部バスだけで有効になります(内部バス幅は常に16ビットです)。

動作時は、BYTE端子を“H”または“L”に固定してください。

(3) セパレートバス/マルチプレクスバスの選択

バスの形式は、マルチプレクスバスとセパレートバスを選択することができます。マルチプレクスバスまたはセパレートバスはプロセッサモードレジスタ0のビット4、ビット5で選択します。

セパレートバス

データとアドレスを分離して入出力するバスの形式です。データバスは、BYTE端子により8ビットまたは16ビットを選択できます。BYTE端子が“H”のときは、データバスは8ビットになりP0がデータバス、P1がプログラマブル入出力ポートとなります。BYTE端子が“L”のときは、データバスは16ビットになりP0およびP1がデータバスとなります。

セパレートバスでアクセスする場合、ソフトウェアウエイトの有無を選択できます。

マルチプレクスバス

データとアドレスを時分割で入出力するバスの形式です。データバスが8ビット(BYTE端子が“H”レベル)のとき、D0～D7の8ビットがA0～A7とマルチプレクスされます。

データバスが16ビット(BYTE端子が“L”レベル)のとき、D0～D7の8ビットがA1～A8とマルチプレクスされD8～D15はマルチプレクスされません。このとき、マルチプレクスバスに接続した外部デバイスは、マイコンの偶数番地(2番地おき)に配置されますので、マルチプレクスバスに接続した外部デバイスをアクセスする場合、偶数番地をバイト単位でアクセスしてください。

ALE信号は、アドレスをラッチする信号で、P56から出力します。

マルチプレクスバスでアクセスする場合、必ずソフトウェアウエイトを挿入してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

メモリ拡張モード時、全空間マルチプレクスバスの場合は、8ビット幅を選択してください。
リセット解除後、セパレートバスで動作しますので、マイクロプロセッサモード時、全空間マルチ
プレクスバスは選択できません。

全空間マルチプレクスバスを選択した場合、上位アドレスはポートとなりますので、各チップセレ
クトごとに256バイトしか使えません。

表2.4.2 各プロセッサモードと端子の機能表

プロセッサモード	シングルチップ モード	メモリ拡張モード/マイクロプロセッサモード				メモリ拡張 モード
		"01"、"10" (CS1またはCS2はマルチプ レクスバスでそれ以外は セパレートバス)		"00" (セパレートバス)		
マルチプレクスバス 空間選択ビット						
データバス幅 BYTE端子レベル		8ビット "H"	16ビット "L"	8ビット "H"	16ビット "L"	8ビット "H"
P00 ~ P07	入出力ポート	データバス	データバス	データバス	データバス	入出力ポート
P10 ~ P17	入出力ポート	入出力ポート	データバス	入出力ポート	データバス	入出力ポート
P20	入出力ポート	アドレスバス/ データバス(注2)	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス/ データバス
P21 ~ P27	入出力ポート	アドレスバス/ データバス(注2)	アドレスバス/ データバス(注2)	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス/ データバス
P30	入出力ポート	アドレスバス	アドレスバス/ データバス(注2)	アドレスバス	アドレスバス	A8/D7
P31 ~ P37	入出力ポート	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	入出力ポート
P40 ~ P43 ポートP40 ~ P43機能 選択ビット="1"	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート	入出力ポート
P40 ~ P43 ポートP40 ~ P43機能 選択ビット="0"	入出力ポート	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	アドレスバス	入出力ポート
P44 ~ P47	入出力ポート	CS(チップセレクト)またはプログラマブル入出力ポートの選択 (詳細は「2.4.4 バス制御」を参照)				
P50 ~ P53	入出力ポート	RD、WR、WRH、BCLK出力またはRD、BHE、WR、BCLK出力 (詳細は「2.4.4 バス制御」を参照)				
P54	入出力ポート	HLDA	HLDA	HLDA	HLDA	HLDA
P55	入出力ポート	HOLD	HOLD	HOLD	HOLD	HOLD
P56	入出力ポート	ALE	ALE	ALE	ALE	ALE
P57	入出力ポート	RDY	RDY	RDY	RDY	RDY

- 注1. メモリ拡張モード時、全空間マルチプレクスバスの場合は、8ビット幅を選択してください。
リセット解除後、セパレートバスで動作しますので、マイクロプロセッサモード時、全空間マルチプレクスバスは選択できませ
ん。全空間マルチプレクスバスを選択した場合、上位アドレスはポートとなりますので、各チップセレクトごとに256バイトしか
使えません。
2. セパレートバスではアドレスバスになります。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.4.4 バス制御

外部デバイスのアクセスに必要な信号、およびソフトウェアウエイトについて説明します。外部デバイスのアクセスに必要な信号は、プロセッサモードが、メモリ拡張モードおよびマイクロプロセッサモードのとき有効です。ソフトウェアウエイトは全プロセッサモードで有効です。

(1) アドレスバス/データバス

アドレスバスは、1Mバイトの空間をアクセスするための端子で、A₀ ~ A₁₉の20本あります。

データバスは、データの入出力を行う端子です。BYTE端子が“H”のときはD₀ ~ D₇の8本がデータバスに、BYTE端子が“L”のときはD₀ ~ D₁₅の16本がデータバスになります。

シングルチップモードからメモリ拡張モードに変更したとき、外部領域をアクセスするまでアドレスバスの値は不定です。

(2) チップセレクト信号

チップセレクト信号はP₄₄ ~ P₄₇と兼用で、チップセレクト制御レジスタ(0008₁₆番地)のビット0 ~ ビット3によって、ポートにするかチップセレクト信号を出力するかを端子ごとに選択できます。チップセレクト制御レジスタは、メモリ拡張モードとマイクロプロセッサモードで有効です。シングルチップモードでは、チップセレクト制御レジスタの内容にかかわらずP₄₄ ~ P₄₇はプログラマブル入出力ポートになります。

マイクロプロセッサモードの場合、リセット解除のときCS₀だけチップセレクト信号を出力し、CS₁ ~ CS₃は入力ポートになっています。チップセレクト制御レジスタを図2.4.4に示します。

チップセレクト信号によって外部領域を最大4つに分割することができます。チップセレクト信号によって指定する外部領域を表2.4.3に示します。

表2.4.3 チップセレクト信号によって指定する外部領域

チップセレクト	指定するアドレス範囲	
	メモリ拡張モード	マイクロプロセッサモード
CS ₀	30000 ₁₆ ~ 8FFFF ₁₆ (384K)	30000 ₁₆ ~ 8FFFF ₁₆ (384K), B0000 ₁₆ ~ FFFFF ₁₆ (320K)
CS ₁	28000 ₁₆ ~ 2FFFF ₁₆ (32K)	28000 ₁₆ ~ 2FFFF ₁₆ (32K)
CS ₂	08000 ₁₆ ~ 27FFF ₁₆ (128K)	08000 ₁₆ ~ 27FFF ₁₆ (128K)
CS ₃	04000 ₁₆ ~ 07FFF ₁₆ (16K)	04000 ₁₆ ~ 07FFF ₁₆ (16K)



図2.4.4 チップセレクト制御レジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(3) リード/ライト信号

データバスが16ビット(BYTE端子が“L”レベル)のとき、リード/ライト信号はプロセッサモードレジスタ0(0004₁₆番地)のビット2によって、 \overline{RD} 、 \overline{BHE} 、 \overline{WR} の組み合わせ、または \overline{RD} 、 \overline{WRL} 、 \overline{WRH} の組み合わせを選択することができます。データバスが8ビット(BYTE端子が“H”レベル)のとき、リード/ライト信号は \overline{RD} 、 \overline{WR} 、 \overline{BHE} の組み合わせを使用してください(プロセッサモードレジスタ0(0004₁₆番地)のビット2を“0”にしてください)。各信号の動作を表2.4.4、表2.4.5に示します。

リセット解除後、リード/ライト信号は \overline{RD} 、 \overline{WR} 、 \overline{BHE} の組み合わせです。

\overline{RD} 、 \overline{WRL} 、 \overline{WRH} の組み合わせに切り替える場合、プロセッサモードレジスタ0(0004₁₆番地)(注1)のビット2を切り替えるまで、外部のメモリに対しての書き込み動作を行わないでください。

注 プロセッサモードレジスタ0を書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A₁₆番地)のビット1を“1”にしてください。

表2.4.4 \overline{RD} 、 \overline{WRL} 、 \overline{WRH} 信号の動作

データバス幅	\overline{RD}	\overline{WRL}	\overline{WRH}	外部データバスの状態
16ビット (BYTE=“L”)	L	H	H	データを読み出す
	H	L	H	偶数番地に1バイトデータを書き込む
	H	H	L	奇数番地に1バイトデータを書き込む
	H	L	L	偶数番地、奇数番地ともにデータを書き込む

表2.4.5 \overline{RD} 、 \overline{WR} 、 \overline{BHE} 信号の動作

データバス幅	\overline{RD}	\overline{WR}	\overline{BHE}	A0	外部データバスの状態
16ビット (BYTE=“L”)	H	L	L	H	奇数番地に1バイトデータを書き込む
	L	H	L	H	奇数番地に1バイトデータを読み出す
	H	L	H	L	偶数番地に1バイトデータを書き込む
	L	H	H	L	偶数番地に1バイトデータを読み出す
	H	L	L	L	偶数番地、奇数番地ともにデータを書き込む
	L	H	L	L	偶数番地、奇数番地ともにデータを読み出す
8ビット (BYTE=“H”)	H	L	使用しない	H/L	1バイトのデータを書き込む
	L	H	使用しない	H/L	1バイトのデータを読み出す

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(4) ALE信号

マルチプレクスバスの空間をアクセスするとき、アドレスをラッチするための信号です。ALE信号の立ち下がりでアドレスをラッチしてください。

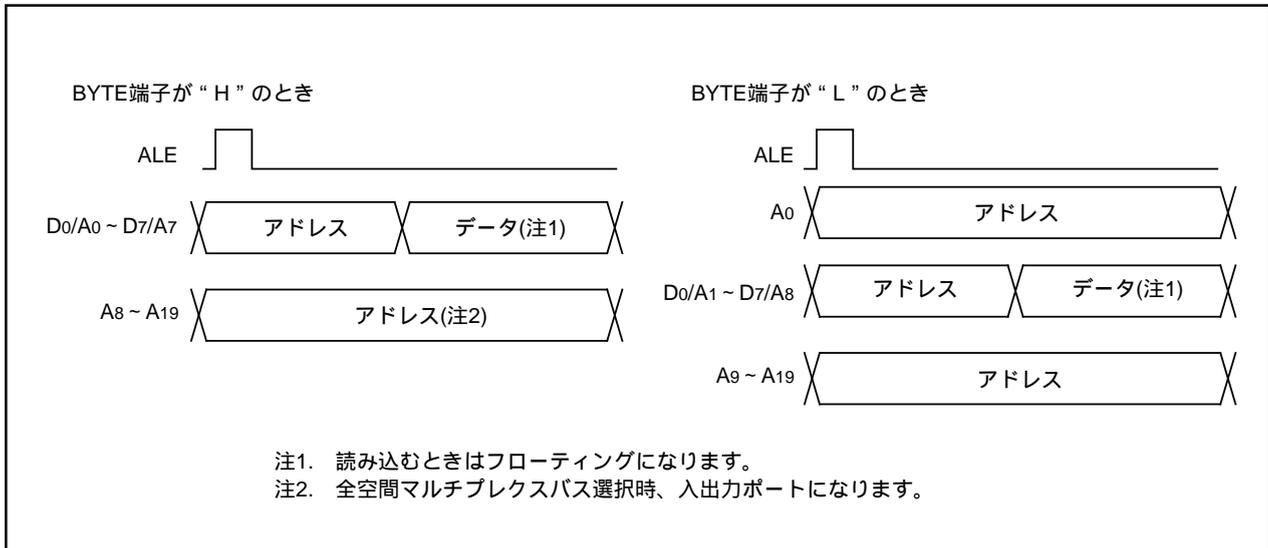


図2.4.5 ALE信号とアドレスバス/データバス

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(5) RDY信号

RDYは、アクセス時間が長い外部デバイスへのアクセスを容易にするための信号です。図2.4.6に示すようにBCLKの立ち下がりでRDY端子に“L”が入力されているとき、バスはウエイト状態になります。BCLKの立ち下がりでRDY端子に“H”が入力されているとき、バスはウエイトは状態を解除します。表2.4.6にバスのウエイト状態におけるマイクロコンピュータの状態、図2.4.6にRD信号が信号によってのびた例を示します。

RDY信号は、チップセレクト制御レジスタ（0008₁₆番地）のビット4～ビット7に“0”を設定している領域のバスサイクルで、外部領域をアクセスするときに有効です。チップセレクト制御レジスタ（0008₁₆番地）のビット4～ビット7に全て“1”を設定している場合は、RDY信号は無効ですが、RDY端子の未使用端子の処理が必要です。

表2.4.6 バスのウエイト状態におけるマイクロコンピュータの状態(注)

項目	状態
発振	動作
R/W信号、アドレスバス、データバス、CS ALE信号、HLDA プログラマブル入出力ポート	RDY信号を受け付けたときの状態を保持
内蔵周辺回路	動作

注. ソフトウエアウエイトによるウエイトの直前にはRDY信号は受け付けられません。

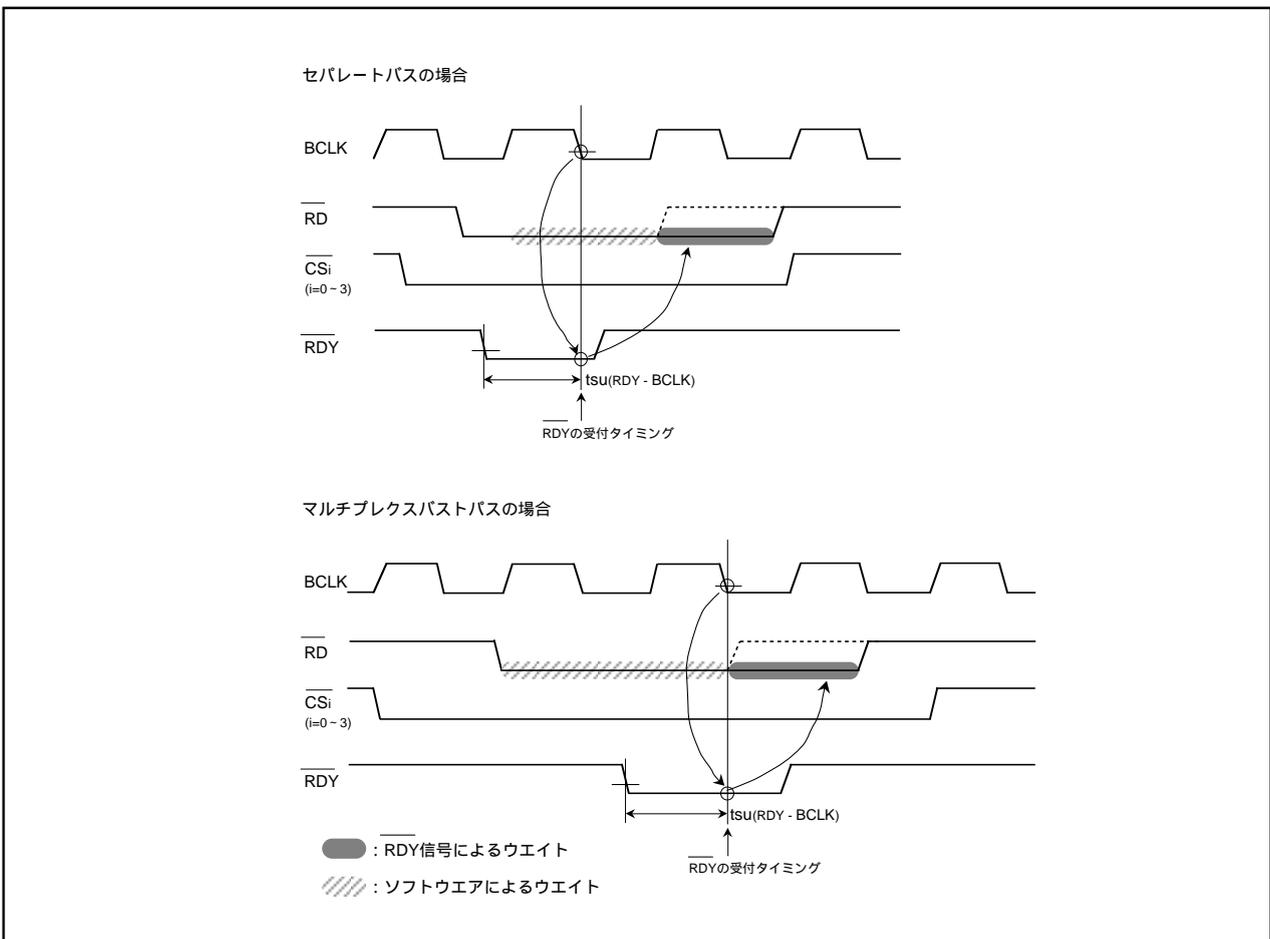


図2.4.6 RD信号がRDY信号によってのびた例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(6) ホールド信号

ホールドは、バスの使用权をCPUから外部回路へ移行するための信号です。HOLD端子に“L”を入力するとその時点のバスアクセスを終了した後、マイクロコンピュータはホールド状態になり、HOLD端子が“L”の期間その状態を保持します。また、その間HLDA端子から“L”を出力します。表2.4.7にホールド状態におけるマイクロコンピュータの状態を示します。

なお、バスの使用優先順位は高い方から順にHOLD、DMAC、CPUとなっています。



図2.4.7 バス使用優先順位

表2.4.7 ホールド状態におけるマイクロコンピュータの状態

項 目	状 態	
発振	動作	
R/W信号、アドレスバス、データバス、 $\overline{\text{CS}}$ 、 $\overline{\text{BHE}}$	フローティング	
プログラマブル入出力ポート	P0, P1, P2, P3, P4, P5	フローティング
	P6, P7, P8, P9, P10	ホールド信号を受け付けた状態を保持
HLDA	“L”を出力	
内蔵周辺回路	動作(ただし監視タイマは停止)	
ALE信号	不定	

(7) 内部領域をアクセスしたときの外部バスの状態

内部領域をアクセスしたときの外部バスの状態を表2.4.8に示します。

表2.4.8 内部領域をアクセスしたときの外部バス状態

項 目	SFRをアクセスしたときの状態	内部ROM/RAMをアクセスしたときの状態
アドレスバス	アドレスを出力直前にアクセス	直前にアクセスされた外部領域のアドレスを保持
データバス	リード時	フローティング
	ライト時	データを出力
RD, WR, WRL, WRH	RD, WR, WRL, WRHを出力	不定
BHE	BHEを出力	直前にアクセスされた外部領域のアドレスを保持
CS	“H”を出力	“H”を出力
ALE	“L”を出力	“L”を出力

(8) BCLK出力

BCLKの出力をプロセッサモードレジスタ0(0004₁₆番地)(注)のビット7によって選択でき、“1”を選択した場合はフローティングになります。

注. プロセッサモードレジスタ0を書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A₁₆番地)のビット1を“1”にしてください。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(9) ソフトウェアウエイト

プロセッサモードレジスタ1(0005₁₆番地)(注)のウエイトビット(ビット7)とチップセレクト制御レジスタ(0008₁₆番地)のビット4～ビット7によって、ソフトウェアウエイトを挿入することができます。

プロセッサモードレジスタ1のウエイトビットによって、内部ROM/RAM領域、及び外部メモリ領域に対してソフトウェアウエイトを挿入することができます。このビットが“0”のときバスサイクルはBCLKの1サイクルで実行され、“1”にするとバスサイクルがBCLKの2サイクルまたは3サイクルになります。リセット解除後、このビットは“0”になっています。このビットが“1”のとき、チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7の内容によらず、全領域ウエイトあり(BCLKの2サイクルまたは3サイクル)で動作します。このビットの値については、電気的特性の推奨動作条件(メインクロック入力発振周波数)を参照の上、設定してください。ただし、RDY信号を使用する場合、チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7の該当するビットに“0”を設定する必要があります。

プロセッサモードレジスタ1のウエイトビットが“0”のとき、チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7の値によって、チップセレクト信号で選択された4つの領域ごとにソフトウェアウエイトの有無を選択することができます。チップセレクト制御レジスタのビット4～ビット7はそれぞれチップセレクトCS₀～CS₃に対応します。これらのビットが“1”のときバスサイクルはBCLKの1サイクルで実行され、“0”にするとバスサイクルがBCLKの2サイクルまたは3サイクルになります。リセット解除後、これらのビットは“0”になっています。

SFR領域及びOSDRAM領域は、これらの制御ビットの影響を受けず、常にBCLKの2サイクルでアクセスされます。また、外部メモリ領域で、マルチプレクスバスを選択する場合は、必ずチップセレクト制御レジスタの相当するビットを“0”にしてください。

表2.4.9にソフトウェアウエイトとバスサイクル、図2.4.8にソフトウェアウエイトを使用した場合のバスタイミング例を示します。

注. プロセッサモードレジスタ1を書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A₁₆番地)のビット1を“1”にしてください。

表2.4.9 ソフトウェアウエイトとバスサイクル

領域	バス形状	ウエイトビット	チップセレクト制御レジスタ ビット4～ビット7	バスサイクル
SFR/ OSD RAM	———	無効	無効	BCLKの2サイクル
内部ROM/RAM	———	0	無効	BCLKの1サイクル
	———	1	無効	BCLKの2サイクル
外部 メモリ領域	セパレートバス	0	1	BCLKの1サイクル
	セパレートバス	0	0	BCLKの2サイクル
	セパレートバス	1	0(注)	BCLKの2サイクル
	マルチプレクスバス	0	0	BCLKの3サイクル
	マルチプレクスバス	1	0(注)	BCLKの3サイクル

注. RDY信号を使用する場合“0”を設定してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

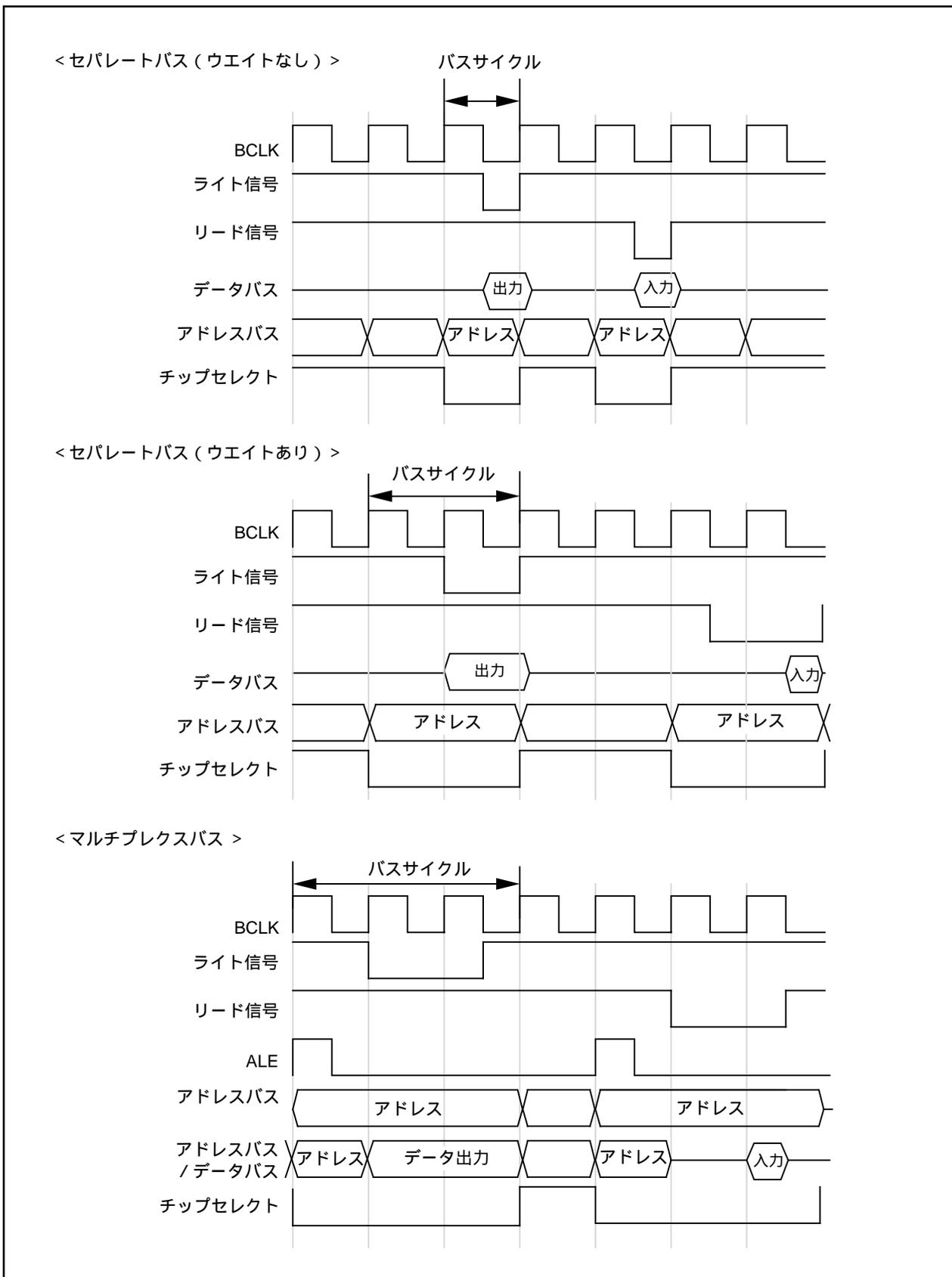


図2.4.8 ソフトウェアウエイトを使用した場合のバスタイミング例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.5 クロック発生回路

クロック発生回路は、CPU、内蔵周辺装置などの動作クロック源を供給する発振回路を2回路と、OSD動作クロック源を供給する発振回路を1回路内蔵しています。

表2.5.1 クロック発振回路

	メインクロック発振回路	サブクロック発振回路	OSDクロック発振回路
クロックの用途	CPUの動作クロック源 内蔵周辺装置の動作クロック源	CPUの動作クロック源 タイマA、タイマBの カウントクロック源	OSDの動作クロック源
接続できる発振子	セラミック共振子(又は水晶発振子)	水晶発振子	セラミック共振子(又は水晶発振子) LC発振子
発振子の接続端子	XIN、XOUT	XCIN、XCOUT	OSC1、OSC2
発振の停止/再開機能	あり	あり	/
リセット直後の発振子の状態	発振	停止	
その他	外部で生成されたクロックを入力することが可能		

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.5.1 発振回路例

図2.5.1にメインクロックに発振子を接続した場合および外部で生成されたクロックを入力した場合の回路例を示します。図2.5.2にサブクロックに発振子を接続した場合および外部で生成されたクロックを入力した場合の回路例を示します。図2.5.1中および図2.5.2中の回路定数は発振子によって異なりますので、発振子メーカーの推奨する値に設定してください。

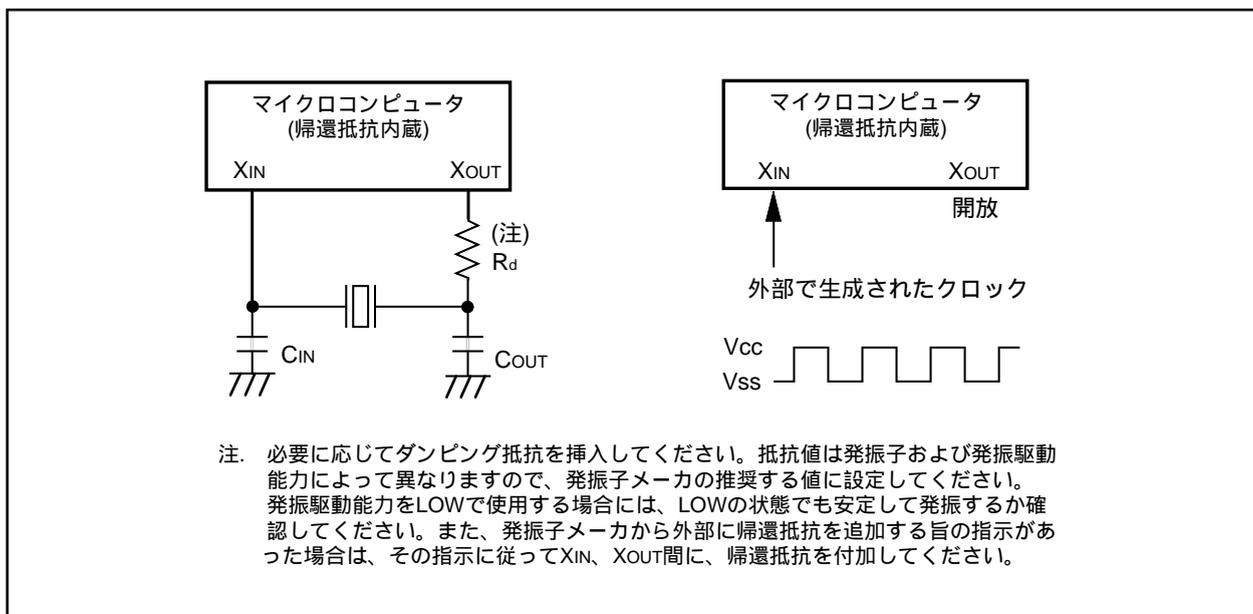


図2.5.1 メインクロックの接続例

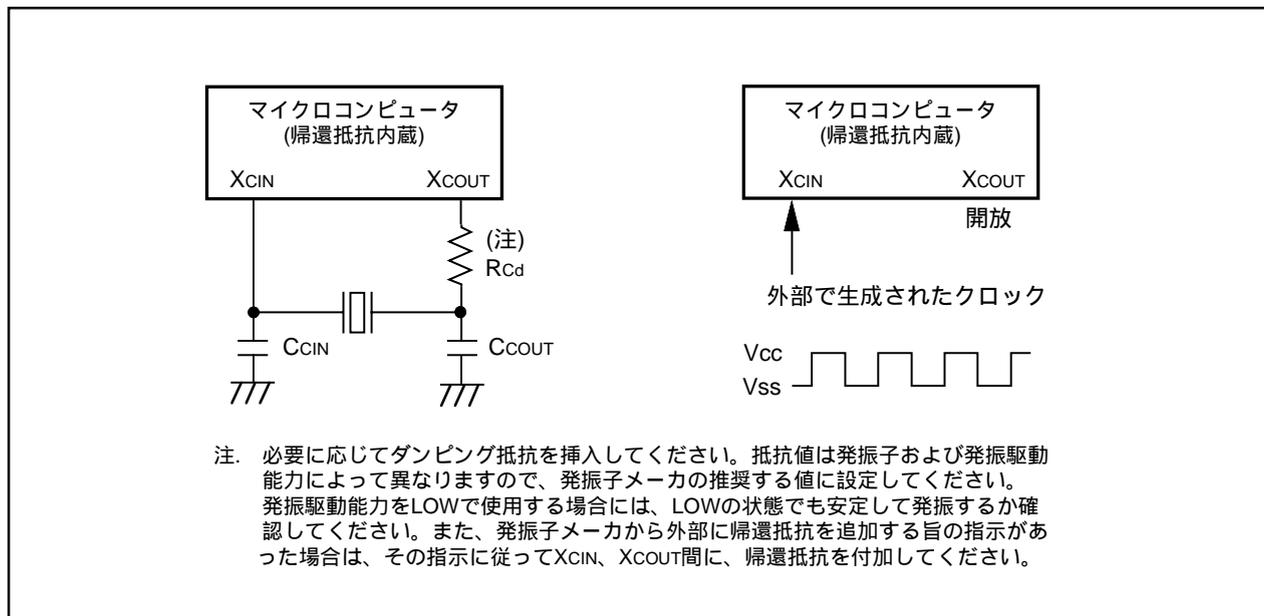


図2.5.2 サブクロックの接続例

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.5.2 OSD発振回路

OSDクロック発振回路は、OSC1とOSC2端子間にLC発振子又はセラミック共振子（又は水晶発振子）を接続するだけでOSDクロックを得ることができます。LC発振子とセラミック共振子（又は水晶発振子）の選択はクロックコントロールレジスタ（0205₁₆番地）のビット1及びビット2で設定してください。

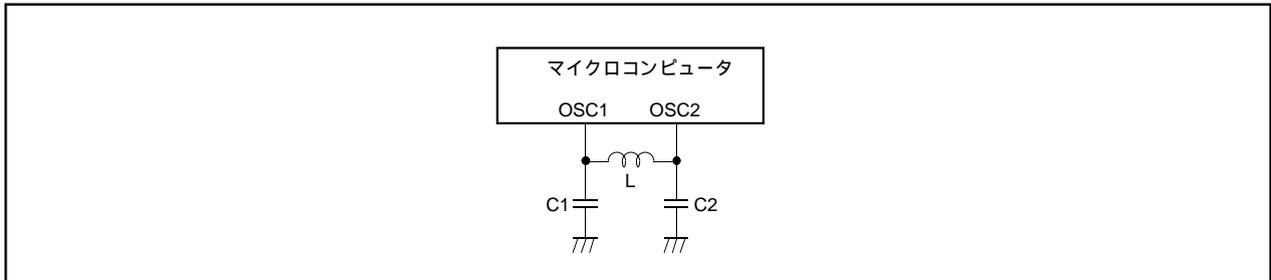


図2.5.3 OSDクロックの接続例

2.5.3 クロックの制御

図2.5.4にクロック発生回路のブロック図を示します。

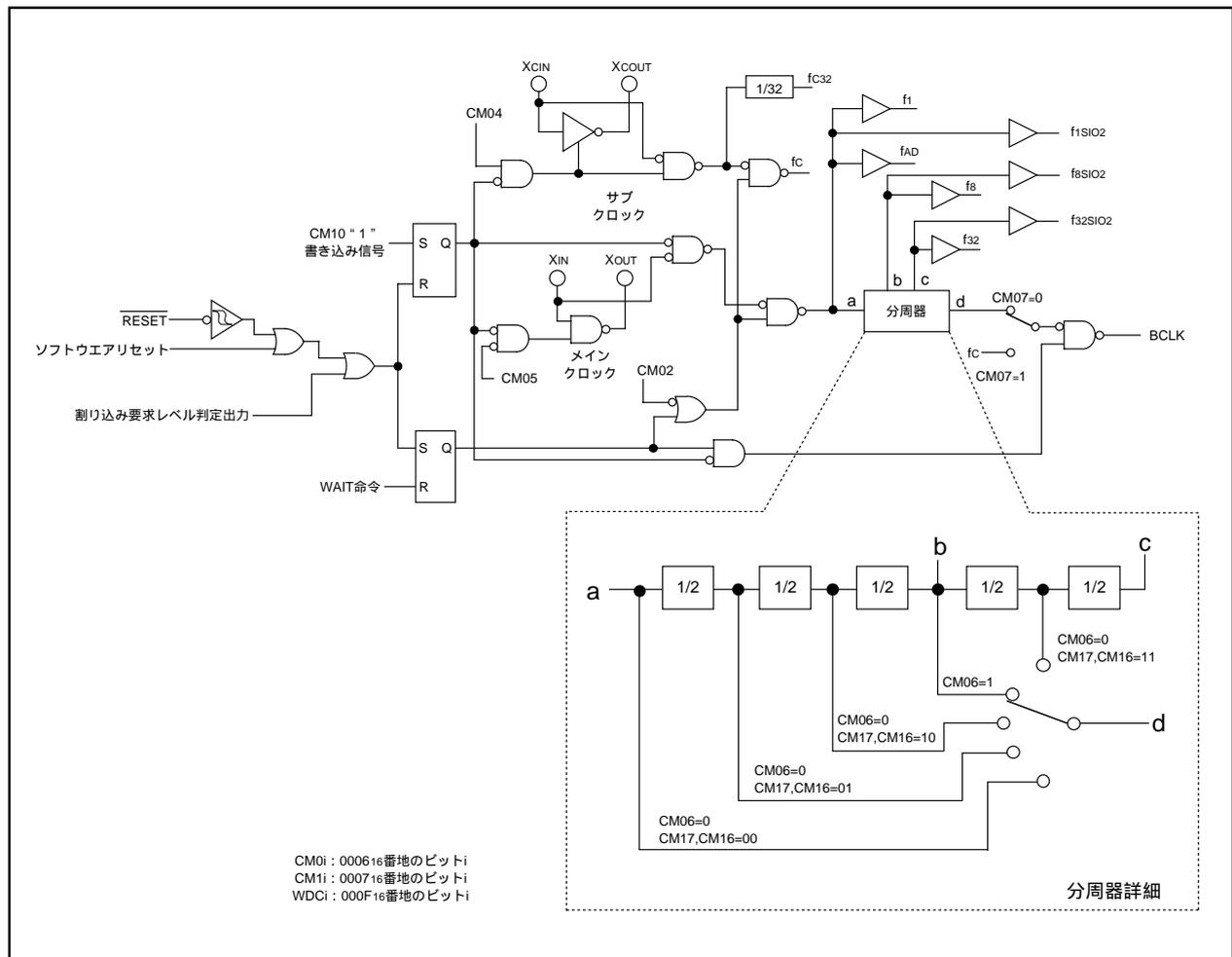


図2.5.4 クロック発生回路

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

クロック発生回路で発生するクロックを順に説明します。

(1) メインクロック

メインクロック発振回路が供給するクロックです。リセット直後は、このクロックの8分周がBCLKになります。メインクロック停止ビット(0006₁₆番地のビット5)によってこのクロックの供給を停止することができます。CPUの動作クロック源をサブクロックに切り替えた後、このクロックの供給を停止すると消費電力は低減します。

メインクロック発振回路の発振が安定した後は、XIN-XOUT駆動能力選択ビット(0007₁₆番地のビット5)によってメインクロック発振回路の駆動能力を弱めることができます。メインクロック発振回路の駆動能力を弱めると消費電力は低減します。高速モード、中速モードからストップモードへの移行時およびリセット時、このビットは“1”になります。低速モード、低消費電力モードでは保持されます。

(2) サブクロック

サブクロック発振回路が供給するクロックです。リセット直後は、このクロックは供給されていません。ポートXc切り替えビット(0006₁₆番地のビット4)で発振を開始した後、システムクロック選択ビット(0006₁₆番地のビット7)によって、サブクロックをBCLKにすることができます。ただし、サブクロックの発振が十分に安定してから切り替えるようにしてください。

サブクロック発振回路の発振が安定した後は、XCIN-XCOUT駆動能力選択ビット(0006₁₆番地のビット3)によってサブクロック発振回路の駆動能力を弱めることができます。サブクロック発振回路の駆動能力を弱めると消費電力はさらに低減します。このビットは、ストップモードへの移行時およびリセット時、“1”になります。

(3) BCLK

メインクロックの1、2、4、8、16分周、またはfcをクロック源とするCPUの動作クロックです。リセット直後、メインクロックの8分周がBCLKになります。メモリ拡張モード時、マイクロプロセッサモード時、BCLK出力禁止ビット(0004₁₆番地のビット7)によって、BCLK端子からこの信号を出力することができます。

高速モード、中速モードからストップモードへの移行時およびリセット時、メインクロック分周比選択ビット0(0006₁₆番地のビット6)は“1”になります。低速モード、低消費電力モードでは保持されます。

(4) 周辺機能クロック (f1、f8、f32、f1SIO2、f8SIO2、f32SIO2、fAD)

それぞれメインクロックを、1分周、8分周、32分周した内蔵周辺装置の動作クロックです。このクロックは、メインクロックを停止させるか、またはWAIT時周辺機能クロック停止ビット(0006₁₆番地のビット2)を“1”にした後、WAIT命令を実行すると供給が停止します。

(5) fc32

サブクロックを32分周したクロックです。タイマAとタイマBのカウントに使用します。

(6) fc

サブクロックと同一周波数のクロックです。BCLKや監視タイマに使用します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

図2.5.5と図2.5.6にシステムクロック制御レジスタ0、システムクロック制御レジスタ1を示します。

システムクロック制御レジスタ0 (注1)

b7 b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0

シンボル	CM0	アドレス	0006 ₁₆ 番地	リセット時	48 ₁₆
------	-----	------	-----------------------	-------	------------------

ビットシンボル	ビット名	機能	R	W
CM00	クロック出力機能選択ビット (シングルチップモード時のみ有効)	0 0 : 入出力ポートP5 ₇		
CM01		0 1 : fcを出力 1 0 : f8を出力 1 1 : f32を出力		
CM02	WAIT時周辺機能クロック停止ビット	0 : ウェイトモード時、周辺機能クロック停止しない 1 : ウェイトモード時、周辺機能クロック停止する (注8)		
CM03	XcIN-XcOUT駆動能力選択ビット(注2)	0 : LOW 1 : HIGH		
CM04	ポートXc切り替えビット	0 : 入出力ポート機能 1 : XcIN-XcOUT発振機能		
CM05	メインクロック (XIN-XOUT) 停止ビット(注3、注4、注5)	0 : 発振 1 : 停止		
CM06	メインクロック分周比選択ビット0(注7)	0 : CM16, CM17有効 1 : 8分周モード		
CM07	システムクロック選択ビット(注6)	0 : XIN, XOUT選択 1 : XcIN, XcOUT選択		

注1. このレジスタを書き替える場合、プロテクトレジスタ(000A₁₆番地)のビット0を“1”にしてください。

- ストップモードへの移行時およびリセット時、“1”になります。
- このビットは低消費電力モードにするときに、メインクロックを停止させるためのビットです。
- ストップモードから復帰後、XINで動作させる場合、このビットは“0”にしてください。自励発振で使用している場合は、システムクロック選択ビット (CM07)を“1”にしてからこのビットを“1”にしてください。
- 外部クロック入力時には、クロック発振バッファだけ停止し、クロック入力は受け付けられるモードとなります。
- このビットが、“1”の場合、XOUTは“H”レベルになります。また、内蔵している帰還抵抗はONしたままですので、XINは帰還抵抗を介して、XOUT (“H”レベル)にプルアップされた状態となります。
- このビットを“0”から“1”にする場合、ポートXc切り替えビット (CM04)を“1”にし、サブクロックの発振が安定した後に行ってください。同時に書き込まないでください。また、このビットを“1”から“0”にする場合は、メインクロック停止ビット (CM05)を“0”にし、メインクロックの発振が安定した後に行ってください。
- 高速モード、中速モードからストップモードへの移行およびリセット時、このビットは“1”になります。低速モード、低消費電力モードでは保持されます。
- fc32は含みません。

図2.5.5 システムクロック制御レジスタ0

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

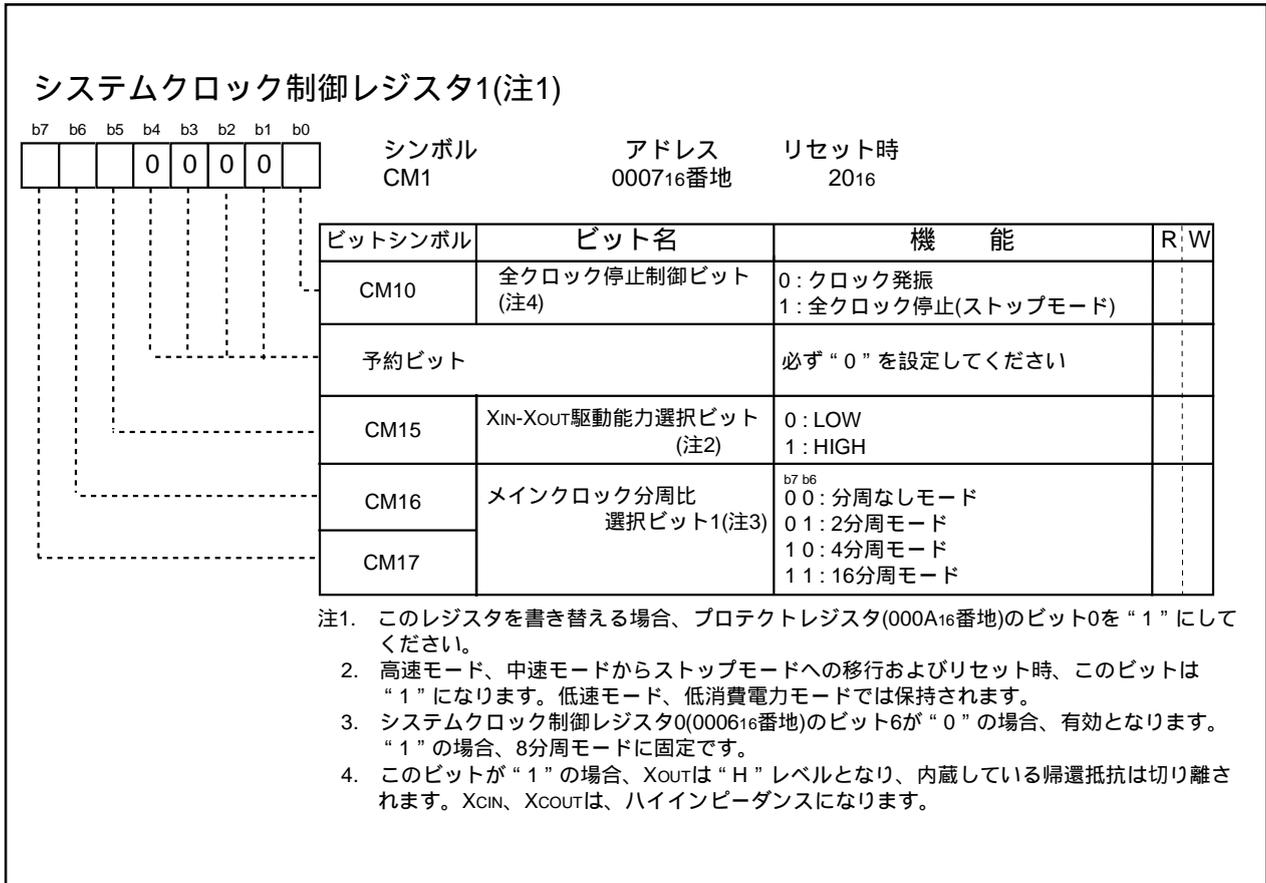


図2.5.6 システムクロック制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.5.4 クロック出力

シングルチップモード時、クロック出力機能選択ビット(0006₁₆番地のビット0、ビット1)によってP57/CLKOUT端子からf₈、f₃₂またはf_cを出力することができます。WAIT時周辺機能クロック停止ビット(0006₁₆番地のビット2)を“1”に設定している場合、WAIT命令を実行するとf₈、f₃₂のクロック出力は停止します。

2.5.5 ストップモード

全クロック停止制御ビット(0007₁₆番地のビット0)に“1”を書き込むと、発振がすべて停止し、マイクロコンピュータはストップモードに入ります。ストップモード時、V_{CC}が4.5V以上であれば内部RAMの内容を保持することができます。

ストップモードでは、発振、BCLK、f₁～f₃₂、f₁SI02～f₃₂SI02、f_c、f_c32、f_{AD}は停止しますのでA-D変換器、監視タイマ等の内蔵周辺機能は動作しません。ただし、タイマBは外部パルスをカウントするイベントカウンタモードだけ、UART_i(i=0, 2)は、外部クロック選択時だけ動作します。ストップモード時のポートの状態を表2.5.2に示します。

ストップモードはハードウェアリセットまたは割り込みによって解除されます。ストップモードの解除に割り込みを使用する場合、対象となる割り込みは、あらかじめ割り込み許可状態にする必要があります。割り込みで復帰した場合、対象となる割り込みルーチンを実行します。

高速モード、中速モードからストップモードへの移行時およびリセット時、メインクロック分周比選択ビット0(0006₁₆番地のビット6)は“1”になります。低速モード、低消費電力モードでは保持されます。

表2.5.2 ストップモード時のポートの状態

端 子		メモリ拡張モード マイクロプロセッサモード	シングルチップモード
アドレスバス, データバス, CS ₀ ～CS ₃		ストップモードに入る直前の状態を保持	
RD, WR, BHE, WRL, WRH		“H”	
HLDA, BCLK		“H”	
ALE		“H”	
ポート		ストップモードに入る直前の状態を保持	ストップモードに入る直前の状態を保持
CLKOUT	f _c 選択時	シングルチップモード時だけ有効	“H”
	f ₈ 、f ₃₂ 選択時	シングルチップモード時だけ有効	ストップモードに入る直前の状態を保持

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.5.6 ウェイトモード

WAIT命令を実行するとBCLKが停止し、マイクロコンピュータはウェイトモードに入ります。ウェイトモードでは、発振は停止しませんが、BCLKおよび監視タイマは停止します。WAIT時周辺機能クロック停止ビットに“1”を書いて、WAIT命令を実行すると、内蔵周辺機能へ供給しているクロックが停止し、消費電力を低減することができます。ウェイトモード時のポートの状態を表2.5.3に示します。

ウェイトモードはハードウェアリセットまたは割り込みによって解除されます。ウェイトモードの解除に割り込みを使用した場合、マイクロコンピュータはWAIT命令を実行したときのクロックをBCLKとし、割り込みルーチンから動作を再開します。

表2.5.3 ウェイトモード時のポートの状態

端 子		メモリ拡張モード マイクロプロセッサモード	シングルチップモード
アドレスバス, データバス, CS0 ~ CS3		ウェイトモードに入る直前の状態を保持	/
RD, WR, BHE, WRL, WRH		“H”	
HLDA, BCLK		“H”	
ALE		“H”	
ポート		ウェイトモードに入る直前の状態を保持	
CLKOUT	fc選択時	シングルチップモード時だけ有効	停止しません
	f8、f32選択時	シングルチップモード時だけ有効	WAIT時周辺機能クロック停止ビットが“0”のとき停止しません WAIT時周辺機能クロック停止ビットが“1”のときウェイトモードに入る直前の状態を保持

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.5.7 BCLKの状態遷移

BCLKのカウントソースを変更することで、消費電流の低減や低電圧動作を実現することができます。以下にBCLKの動作モードを示します。また、表2.5.4にシステムクロック制御レジスタ0と1の設定値に対する動作モードを示します。

リセット直後、8分周モードになります。ストップモードへの移行時、メインクロック分周比選択ビット0(0006₁₆番地のビット6)は“1”になります。

(1) 2分周モード

メインクロックの2分周がBCLKとなるモードです。

(2) 4分周モード

メインクロックの4分周がBCLKとなるモードです。

(3) 8分周モード

メインクロックの8分周がBCLKとなるモードです。このモードから他のモードへ移行する場合、メインクロックの発振が安定している必要があります。

(4) 16分周モード

メインクロックの16分周がBCLKとなるモードです。

(5) 分周なしモード

メインクロックがBCLKとなるモードです。

(6) 低速モード

fcがBCLKとなるモードです。他のモードからこのモードへ、またはこのモードから他のモードへ移行する場合は、メインクロックおよびサブクロックとも発振が安定している必要があります。特にサブクロックの発振立ち上がりは時間(2~3秒程度)を要しますので、電源投入直後やストップモード解除時は、安定するまでプログラムで待ち時間をとってから移行するようにしてください。

(7) 低消費電力モード

fcがBCLKとなりさらにメインクロックを停止させたモードです。

注. BCLKのカウントソースをXINからXCIN、XCINからXINに切り替えるとき、切替先のクロックは十分に安定に発振している必要があります。発振が安定するまでソフトウェアによって待ち時間を取ってから移行するようにしてください。

表2.5.4 システムクロック制御レジスタ0と1の設定値に対する動作モード

CM17	CM16	CM07	CM06	CM05	CM04	BCLKの動作モード
0	1	0	0	0	無効	2分周モード
1	0	0	0	0	無効	4分周モード
無効	無効	0	1	0	無効	8分周モード
1	1	0	0	0	無効	16分周モード
0	0	0	0	0	無効	分周なしモード
無効	無効	1	無効	0	1	低速モード
無効	無効	1	無効	1	1	低消費電力モード

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.5.8 パワーコントロール

パワーコントロールとは、CPUや発振器を停止したり、動作クロックを下げることによってCPUの消費電力を小さくすることです。パワーコントロールの概要について説明します。

モード

パワーコントロールには3つのモードがあります。

(1) 通常動作モード

高速モード

メインクロックの1分周がBCLKとなるモードです。CPUはBCLKで動作します。周辺機能は、各周辺機能で設定したクロックで動作します。

中速モード

メインクロックの2分周、4分周、8分周、または16分周がBCLKとなるモードです。CPUはBCLKで動作します。周辺機能は、周辺機能ごとに設定したクロックで動作します。

低速モード

fcがBCLKとなるモードです。CPUは、fcのクロックで動作します。fcとは、サブクロックが供給するクロックです。周辺機能は、周辺機能ごとに設定したクロックで動作します。

低消費電力モード

低速モードからメインクロックを停止させたモードです。CPUは、fcのクロックで動作します。fcとは、サブクロックが供給するクロックです。カウントソースとしてサブクロックを選択している周辺機能だけ動作します。

(2) ウェイトモード

CPUの動作を停止させるモードです。発振器は停止しません。

(3) ストップモード

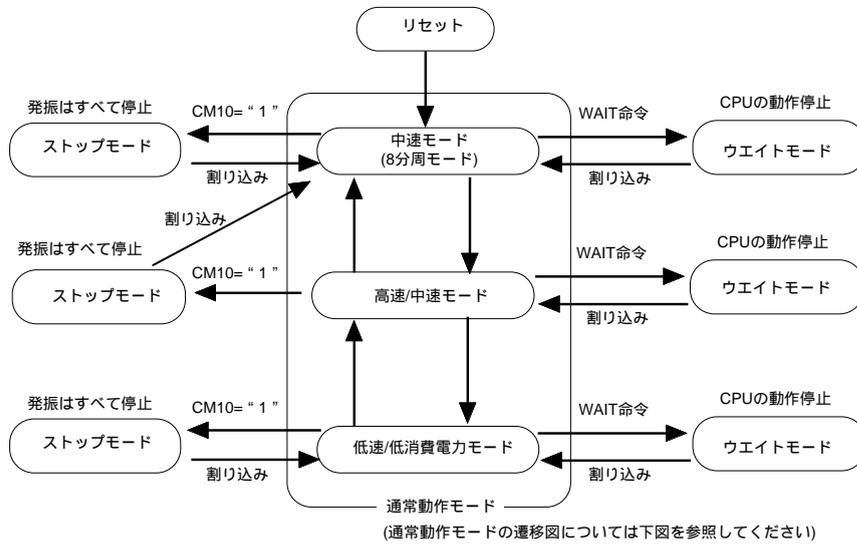
すべての発振器が停止するモードです。CPUや内蔵の周辺機能はすべて停止します。パワーコントロールの3つのモードの中で一番消費電流を少なくすることができます。

(1)~(3)の状態遷移図を図2.5.7に示します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

ストップモード、ウェイトモードの遷移図



通常動作モードの遷移図

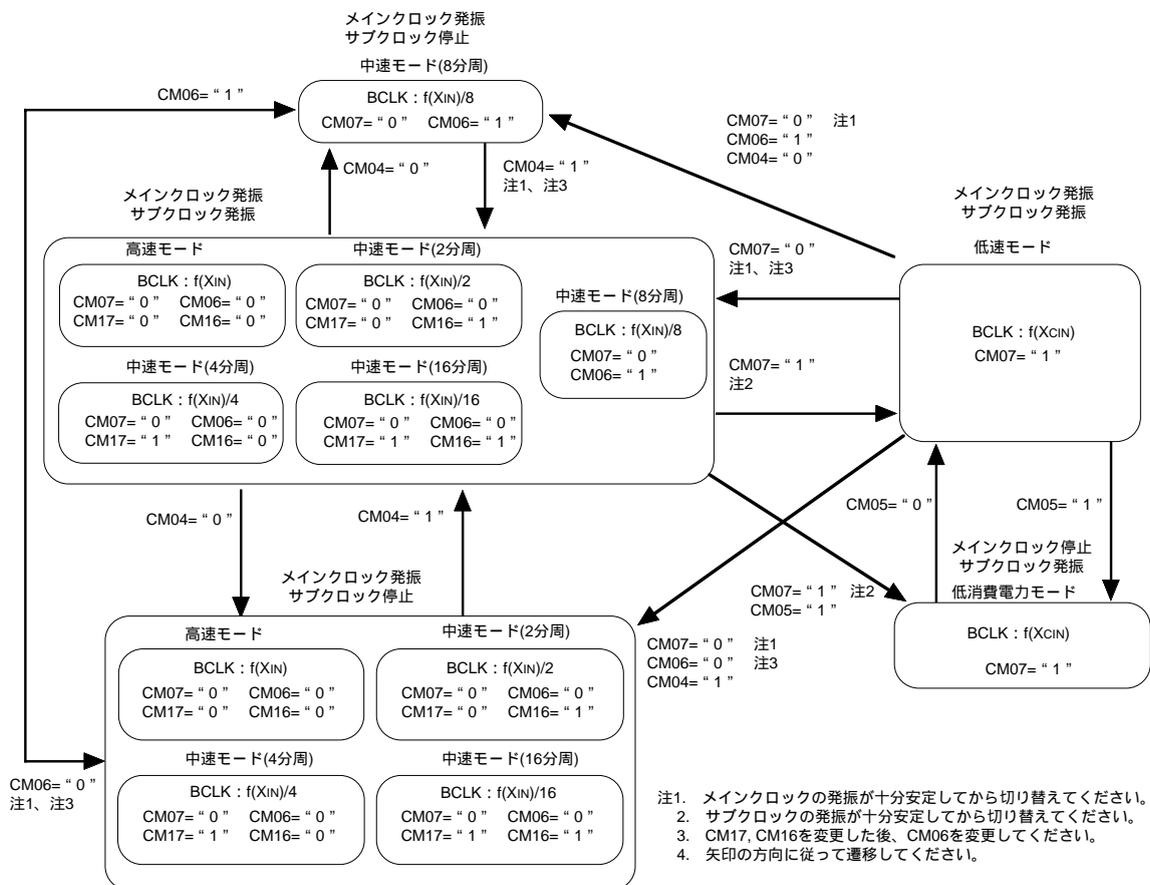


図2.5.7 状態遷移図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.6 プロテクト

プログラムが暴走したときに備え、重要なレジスタは、簡単に書き替えることができないようにプロテクトする機能を持ちます。図2.6.1にプロテクトレジスタの構成を示します。プロセッサモードレジスタ0(0004₁₆番地)、プロセッサモードレジスタ1(0005₁₆番地)、システムクロック制御レジスタ0(0006₁₆番地)、システムクロック制御レジスタ1(0007₁₆番地)、ポートP9方向レジスタ(03F3₁₆番地)、プロテクトレジスタの対応するビットが“1”のときだけ書き替えることができます。したがって、ポートP9には重要な出力を配置することができます。

ポートP9方向レジスタ書き込み許可ビットは、“1”(書き込み許可状態)を書き込んだ後、任意の番地に書き込みを実行すると“0”(書き込み禁止状態)になります。システムクロック制御レジスタ0,1書き込み許可ビット(000A₁₆番地のビット0)およびプロセッサモードレジスタ0,1書き込み許可ビット(000A₁₆番地のビット1)は任意の番地に書き込みを実行しても“0”になりませんのでプログラムで“0”にしてください。

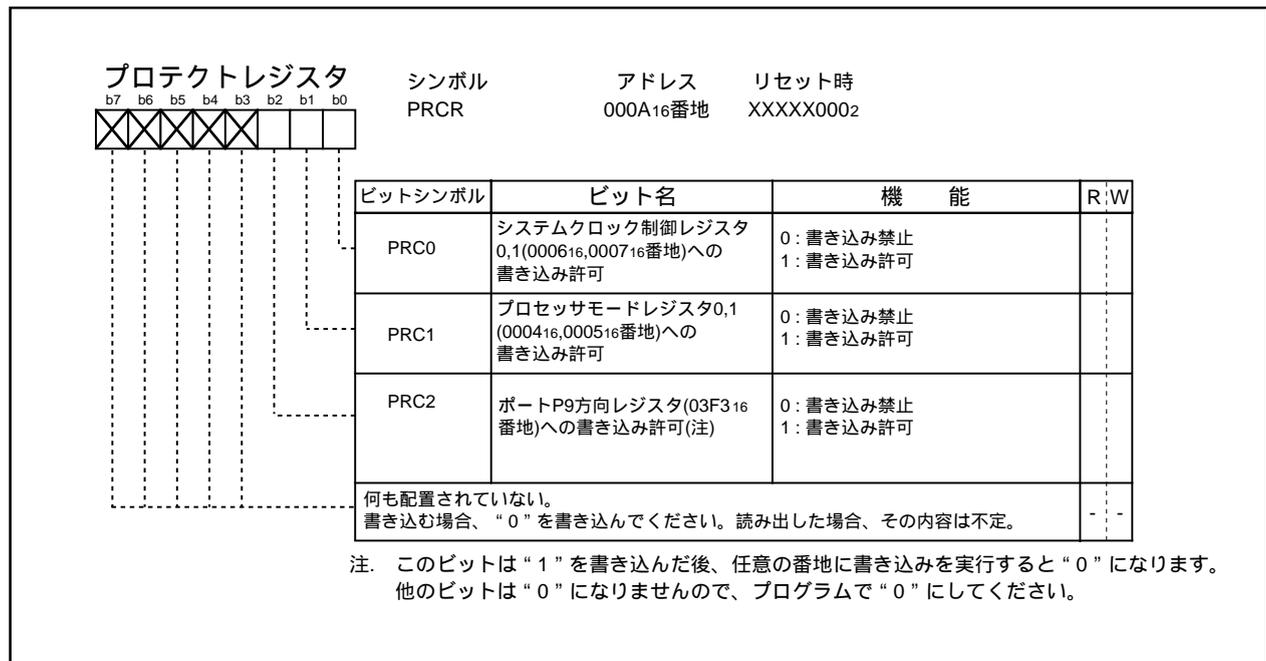


図2.6.1 プロテクトレジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7 割り込みの概要

2.7.1 割り込みの分類

図2.7.1に割り込みの分類を示します。

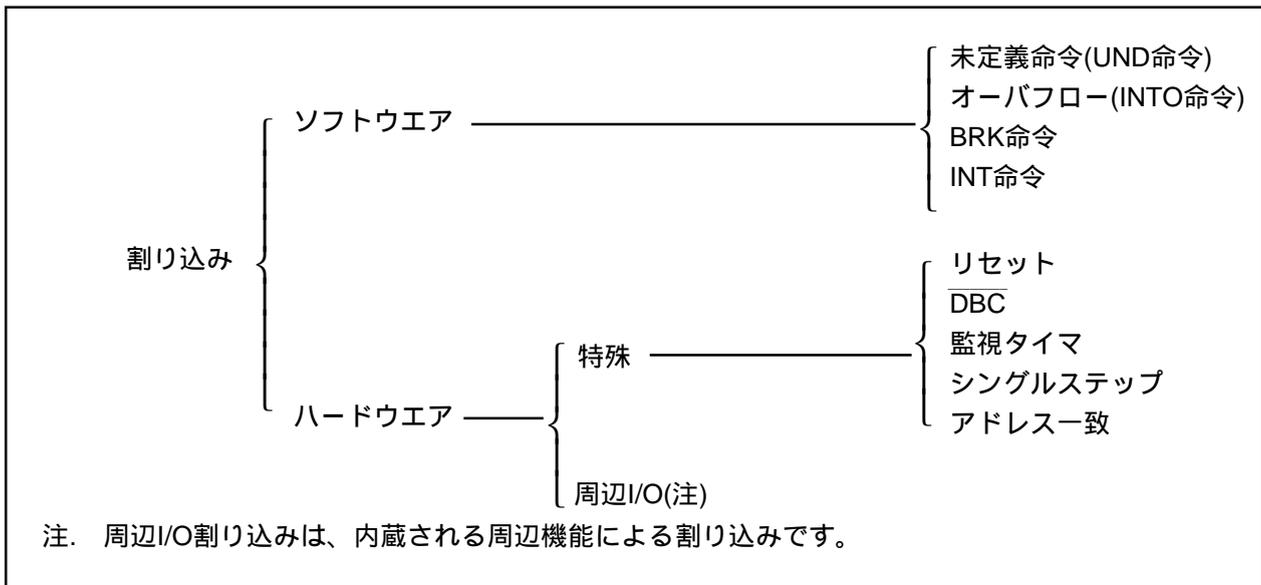


図2.7.1 割り込みの分類

- マスカブル割り込み : 割り込み許可フラグ(Iフラグ)による割り込みの許可(禁止)や割り込み優先レベルによる割り込み優先順位の変更が**可能**
- ノンマスカブル割り込み : 割り込み許可フラグ(Iフラグ)による割り込みの許可(禁止)や割り込み優先レベルによる割り込み優先順位の変更が**不可能**

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7.2 ソフトウェア割り込み

ソフトウェア割り込みは、命令の実行によって発生します。ソフトウェア割り込みはノンマスカブル割り込みです。

未定義命令割り込み

未定義命令割り込みは、UND命令を実行すると発生します。

オーバフロー割り込み

オーバフロー割り込みは、オーバフローフラグ(Oフラグ)が“1”のときINTO命令を実行すると発生します。演算によってOフラグが変化する命令を以下に示します。

ABS, ADC, ADCF, ADD, CMP, DIV, DIVU, DIVX, NEG, RMPA, SBB, SHA, SUB

BRK割り込み

BRK割り込みは、BRK命令を実行すると発生します。

INT命令割り込み

INT命令割り込みは、ソフトウェア割り込み番号0~63を指定し、INT命令を実行すると発生します。なお、ソフトウェア割り込み番号0~31は周辺I/O割り込みに割り当てられますので、INT命令を実行することで周辺I/O割り込みと同じ割り込みルーチンを実行できます。

INT命令割り込みに使用するスタックポインタ(SP)は、ソフトウェア割り込み番号によって異なります。ソフトウェア割り込み番号0~31では、割り込み要求受け付け時にスタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)を退避し、Uフラグを“0”にして割り込みスタックポインタ(ISP)を選択した後、割り込みシーケンスを実行します。割り込みルーチンから復帰するときに割り込み要求受け付け前のUフラグが復帰されます。ソフトウェア割り込み番号32~63では、スタックポインタは切り替わりません。

2.7.3 ハードウェア割り込み

ハードウェア割り込みには、特殊割り込みと周辺I/O割り込みがあります。

(1) 特殊割り込み

特殊割り込みは、ノンマスクابل割り込みです。

リセット

リセットは、RESET端子に“L”を入力すると発生します。

DBC割り込み

デバッグ専用割り込みですので、通常は使用しないでください。

監視タイマ割り込み

監視タイマによる割り込みです。

シングルステップ割り込み

デバッグ専用割り込みですので、通常は使用しないでください。シングルステップ割り込みは、デバッグフラグ(Dフラグ)を“1”にすると、命令を1つ実行した後に発生します。

アドレス一致割り込み

アドレス一致割り込みは、アドレス一致割り込み許可ビットを“1”にしたとき、アドレス一致割り込みレジスタで示される番地の命令を実行する直前に発生します。

アドレス一致レジスタに命令の先頭番地以外の番地を設定した場合は、アドレス一致割り込みは発生しません。

(2) 周辺I/O割り込み

周辺I/O割り込みは、内蔵される周辺機能による割り込みです。内蔵される周辺機能は品種展開によって異なりますので、それぞれの割り込み要因も品種展開によって異なります。割り込みベクタテーブルはINT命令で使用するソフトウェア割り込み番号0～31と同一です。周辺I/O割り込みは、マスクابل割り込みです。

バス衝突検出割り込み

シリアルI/Oのバス衝突検出機能による割り込みです。

DMA0、DMA1割り込み

DMAによる割り込みです。

VSYNC割り込み

VSYNCのエッジを入力すると発生します。

A-D変換割り込み

A-D変換器による割り込みです。

UART0送信、UART2送信割り込み

シリアルI/Oの送信による割り込みです。

UART0受信、UART2受信割り込み

シリアルI/Oの受信による割り込みです。

マルチマスタ²C-BUSインタフェース0、マルチマスタ²C-BUSインタフェース1割り込み

シリアル送受信完了、又はストップコンディション検出による割り込みです。

タイマA0～タイマA4割り込み

タイマAによる割り込みです。

タイマB0～タイマB2割り込み

タイマBによる割り込みです。

INT₀、INT₁割り込み

INT割り込みは、INT端子に立ち下がりエッジ、立ち上がりエッジ、または両エッジを入力すると発生します。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

OSD1、OSD2割り込み

OSD表示終了による割り込みです。

データスライサ割り込み

データスライサ回路が要求する割り込みです。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7.4 割り込みと割り込みベクタテーブル

割り込み要求が受け付けられると、割り込みベクタテーブルに設定した割り込みルーチンへ分岐します。各割り込みベクタテーブルには、割り込みルーチンの先頭番地を設定してください。図2.7.2にアドレスの指定形式を示します。

割り込みベクタテーブルには、アドレスが固定されている固定ベクタテーブルと設定によってベクタテーブルの番地を変更できる可変ベクタテーブルがあります。

	MSB	LSB
ベクタアドレス+0	アドレスの下位	
ベクタアドレス+1	アドレスの中位	
ベクタアドレス+2	0 0 0 0	アドレスの上位
ベクタアドレス+3	0 0 0 0	0 0 0 0

図2.7.2 割り込みベクタの指定アドレス

(1) 固定ベクタテーブル

固定ベクタテーブルは、アドレスが固定のベクタテーブルで、FFFDC₁₆番地からFFFFF₁₆番地に配置されています。1ベクタテーブルに対して4バイトで構成されています。各ベクタテーブルには割り込みルーチンの先頭番地を設定します。表2.7.1に固定ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地を示します。

表2.7.1 固定ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地

割り込み要因	ベクタテーブル番地 アドレス(L)~アドレス(H)	備考
未定義命令	FFFDC ₁₆ ~ FFFDF ₁₆	UND命令で割り込み
オーバフロー	FFFE0 ₁₆ ~ FFFE3 ₁₆	INTO命令で割り込み
BRK命令	FFFE4 ₁₆ ~ FFFE7 ₁₆	ベクタの内容がすべてFF ₁₆ の場合は可変ベクタテーブル内のベクタが示す番地から実行
アドレス一致	FFFE8 ₁₆ ~ FFFE _B ₁₆	アドレス一致割り込み許可ビットあり
シングルステップ(注)	FFFE _C ₁₆ ~ FFFE _F ₁₆	通常は使用禁止
監視タイマ	FFFF0 ₁₆ ~ FFFF3 ₁₆	
DBC(注)	FFFF4 ₁₆ ~ FFFF7 ₁₆	通常は使用禁止
予約要因	FFFF8 ₁₆ ~ FFFF _B ₁₆	使用禁止
リセット	FFFF _C ₁₆ ~ FFFF _F ₁₆	

注. デバッガ専用割り込み

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(2) 可変ベクタテーブル

可変ベクタテーブルは、設定によってアドレスを変更することができるベクタテーブルです。ベクタテーブルの先頭番地を、割り込みテーブルレジスタ(INTB)で示してください。INTBで示された先頭番地から256バイトが可変ベクタテーブルの領域となります。1ベクタテーブルに対して4バイトで構成されています。各ベクタテーブルには割り込みルーチンの先頭番地を設定してください。表2.7.2に可変ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地を示します。

表2.7.2 可変ベクタテーブルに配置している割り込みとベクタテーブルの番地

ソフトウェア割り込み番号	ベクタテーブル番地 アドレス(L)~アドレス(H)	割り込み要因	備考
ソフトウェア割り込み番号0	+0 ~ +3(注)	BRK命令	Iフラグによるマスク不可
ソフトウェア割り込み番号4	+16 ~ +19(注)	OSD1	
ソフトウェア割り込み番号5	+20 ~ +23(注)	予約要因	
ソフトウェア割り込み番号6	+24 ~ +27(注)	予約要因	
ソフトウェア割り込み番号7	+28 ~ +31(注)	予約要因	
ソフトウェア割り込み番号8	+32 ~ +35(注)	OSD2	
ソフトウェア割り込み番号9	+36 ~ +39(注)	マルチマスタ ¹ PC-BUSインタフェース1	
ソフトウェア割り込み番号10	+40 ~ +43(注)	バス衝突検出	
ソフトウェア割り込み番号11	+44 ~ +47(注)	DMA0	
ソフトウェア割り込み番号12	+48 ~ +51(注)	DMA1	
ソフトウェア割り込み番号13	+52 ~ +55(注)	マルチマスタ ² PC-BUSインタフェース0	
ソフトウェア割り込み番号14	+56 ~ +59(注)	A-D変換	
ソフトウェア割り込み番号15	+60 ~ +63(注)	UART2送信	
ソフトウェア割り込み番号16	+64 ~ +67(注)	UART2受信	
ソフトウェア割り込み番号17	+68 ~ +71(注)	UART0送信	
ソフトウェア割り込み番号18	+72 ~ +75(注)	UART0受信	
ソフトウェア割り込み番号19	+76 ~ +79(注)	データスライサ	
ソフトウェア割り込み番号20	+80 ~ +83(注)	VSYNC	
ソフトウェア割り込み番号21	+84 ~ +87(注)	タイマA0	
ソフトウェア割り込み番号22	+88 ~ +91(注)	タイマA1	
ソフトウェア割り込み番号23	+92 ~ +95(注)	タイマA2	
ソフトウェア割り込み番号24	+96 ~ +99(注)	タイマA3	
ソフトウェア割り込み番号25	+100 ~ +103(注)	タイマA4	
ソフトウェア割り込み番号26	+104 ~ +107(注)	タイマB0	
ソフトウェア割り込み番号27	+108 ~ +111(注)	タイマB1	
ソフトウェア割り込み番号28	+112 ~ +115(注)	タイマB2	
ソフトウェア割り込み番号29	+116 ~ +119(注)	INT ₀	
ソフトウェア割り込み番号30	+120 ~ +123(注)	INT ₁	
ソフトウェア割り込み番号31	+124 ~ +127(注)	予約要因	
ソフトウェア割り込み番号32 ~ ソフトウェア割り込み番号63	+128 ~ +131(注) ~ +252 ~ +255(注)	ソフトウェア割り込み	Iフラグによるマスク不可

注. 割り込みテーブルレジスタ(INTB)が示すアドレスからの相対アドレスです。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7.5 割り込み制御

マスクابل割り込みの許可/禁止、受け付ける優先順位の設定について説明します。ここで説明する内容は、ノンマスクابل割り込みには該当しません。

マスクابل割り込みの許可および禁止は、割り込み許可フラグ(Iフラグ)、割り込み優先レベル選択ビット、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)によって行います。また、割り込み要求の有無は、割り込み要求ビットに示されます。割り込み要求ビットおよび割り込み優先レベル選択ビットは、各割り込みの割り込み制御レジスタに配置されています。また、割り込み許可フラグ(Iフラグ)、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)は、フラグレジスタ(FLG)に配置されています。

図2.7.3に割り込み制御レジスタを示します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

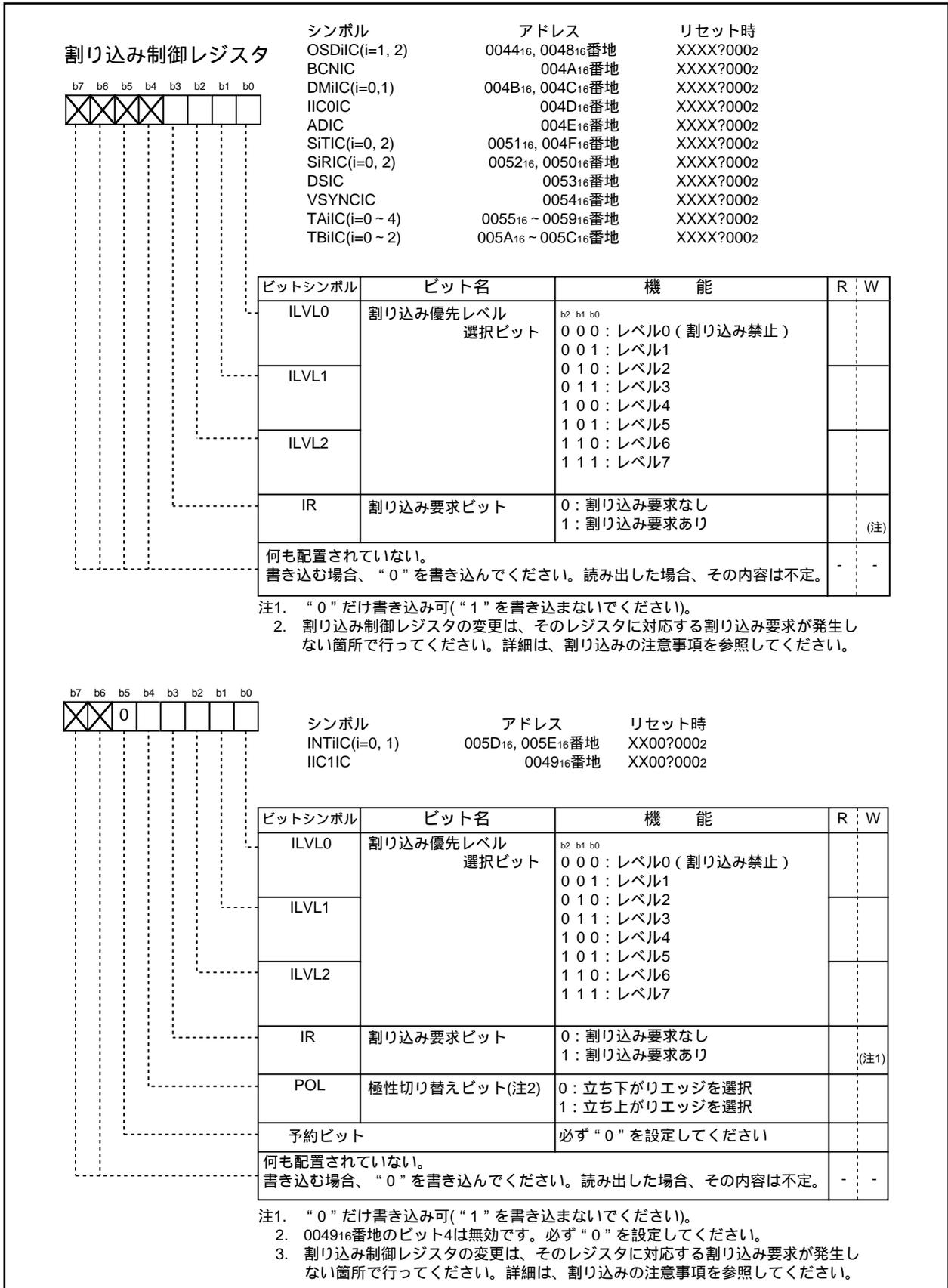


図2.7.3. 割り込み制御レジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7.6 割り込み許可フラグ(Iフラグ)

割り込み許可フラグ(Iフラグ)は、マスカブル割り込みの禁止/許可の制御を行います。このフラグを“1”にすると、すべてのマスカブル割り込みは許可され、“0”にすると禁止されます。このフラグはリセット解除後“0”になります。

2.7.7 割り込み要求ビット

割り込み要求ビットは割り込み要求が発生すると、ハードウェアによって“1”になります。割り込み要求が受け付けられ、対応する割り込みベクタに分岐した後、このビットはハードウェアによって“0”になります。

また、このビットはソフトウェアによって“0”にできます(“1”を書き込まないでください)。

2.7.8 割り込み優先レベル選択ビット、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)

割り込み優先レベルは、割り込み制御レジスタの中の割り込み優先レベル選択ビットで設定します。

割り込み要求発生時、割り込み優先レベルは、プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)と比較され、割り込みの優先レベルがプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)より大きい場合だけ、その割り込みは許可されます。したがって、割り込み優先レベルにレベル0を設定すれば、その割り込みは禁止されます。

表2.7.3に割り込み優先レベルの設定を、表2.7.4にプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)の内容による割り込み許可レベルを示します。

割り込み要求が受け付けられる条件を以下に示します。

- ・ 割り込み許可フラグ(Iフラグ) = “1”
- ・ 割り込み要求ビット = “1”
- ・ 割り込み優先レベル > プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)

割り込み許可フラグ(Iフラグ)、割り込み要求ビット、割り込み優先レベル選択ビット、およびプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)はそれぞれ独立しており、互いに影響を与えることはありません。

表2.7.3 割り込み優先レベルの設定

割り込み優先レベル 選択ビット	割り込み優先レベル	優先順位
b2 b1 b0 0 0 0	レベル0 (割り込み禁止)	———
0 0 1	レベル1	低い ↓ 高い
0 1 0	レベル2	
0 1 1	レベル3	
1 0 0	レベル4	
1 0 1	レベル5	
1 1 0	レベル6	
1 1 1	レベル7	

表2.7.4 プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)
 の内容による割り込み許可レベル

プロセッサ割り込み 優先レベル(IPL)	許可される割り込み優先レベル
IPL ₂ IPL ₁ IPL ₀ 0 0 0	レベル1以上を許可
0 0 1	レベル2以上を許可
0 1 0	レベル3以上を許可
0 1 1	レベル4以上を許可
1 0 0	レベル5以上を許可
1 0 1	レベル6以上を許可
1 1 0	レベル7以上を許可
1 1 1	すべてのマスカブル割り込みを禁止

2.7.9 割り込み制御レジスタの変更

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。割り込み要求が発生する可能性がある場合は、割り込みを禁止状態にしてから変更してください。参考プログラム例を以下に示します。

< 割り込み制御レジスタを書き換えるプログラム例 >

例 1 :

```
INT_SWITCH1 :
FCLR   I           ; 割り込み禁止状態
AND.B  #00H , 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに " 0016 " を設定
NOP    ; HOLD機能を使用する場合はNOP命令が4個必要
NOP
FSET   I           ; 割り込み許可状態
```

例 2 :

```
INT_SWITCH2 :
FCLR   I           ; 割り込み禁止状態
AND.B  #00H , 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに " 0016 " を設定
MOV.W  MEM , R0    ; ダミーリード
FSET   I           ; 割り込み許可状態
```

例 3 :

```
INT_SWITCH3 :
PUSHC  FLG
FCLR   I           ; 割り込み禁止状態
AND.B  #00H , 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに " 0016 " を設定
POPC   FLG         ; 割り込み許可状態
```

例 1 と例 2 でFSET I命令の前にNOP命令 2 個 (HOLD機能使用時は 4 個) やダミーリードがあるのは、命令キューの影響により割り込み許可フラグ(Iフラグ)のセットが割り込み制御レジスタの書き込みより先に実行されるのを防ぐためです。

割り込みが禁止状態で、割り込み制御レジスタを書き換える命令を実行しているときに、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生した場合、命令によっては割り込み要求ビットがセットされることがあります。このことが問題になる場合は、以下の命令を使用してレジスタを変更するようにしてください。

対象となる命令・・・AND、OR、BCLR、BSET

2.7.10 割り込みシーケンス

割り込み要求が受け付けられてから割り込みルーチンが実行されるまでの、割り込みシーケンスについて説明します。

命令実行中に割り込み要求が発生すると、その命令の実行終了後に優先順位が判定され、次のサイクルから割り込みシーケンスに移ります。ただし、SMOVB, SMOVF, SSTR, RMPAの各命令は、命令実行中に割り込み要求が発生すると、命令の動作を一時中断し割り込みシーケンスに移ります。

割り込みシーケンスでは、次の動作を順次行います。

- (1) 00000₁₆番地を読むことで、CPUは割り込み情報(割り込み番号、割り込み要求レベル)を獲得する。その後、該当する割り込みの要求ビットが“0”になる。
- (2) 割り込みシーケンス直前のフラグレジスタ(FLG)の内容をCPU内部の一時レジスタ(注)に退避する。
- (3) 割り込み許可フラグ(Iフラグ)、デバッグフラグ(Dフラグ)、およびスタックポインタ指定フラグ(Uフラグ)を“0”にする(ただしUフラグは、ソフトウェア割り込み番号32～63のINT命令を実行した場合は変化しません)。
- (4) CPU内部の一時レジスタ(注)の内容をスタック領域に退避する。
- (5) プログラムカウンタ(PC)の内容をスタック領域に退避する。
- (6) プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)に、受け付けた割り込みの割り込み優先レベルを設定する。

割り込みシーケンス終了後は、割り込みルーチンの先頭番地から命令を実行します。

注. ユーザは使用できません。

2.7.11 割り込み応答時間

割り込み応答時間とは、割り込み要求が発生してから割り込みルーチン内の最初の命令を実行するまでの時間を示します。この時間は、割り込み要求発生時点から、そのとき実行している命令が終了するまでの時間(a)と割り込みシーケンスを実行する時間(b)で構成されます。図2.7.4に割り込み応答時間を示します。

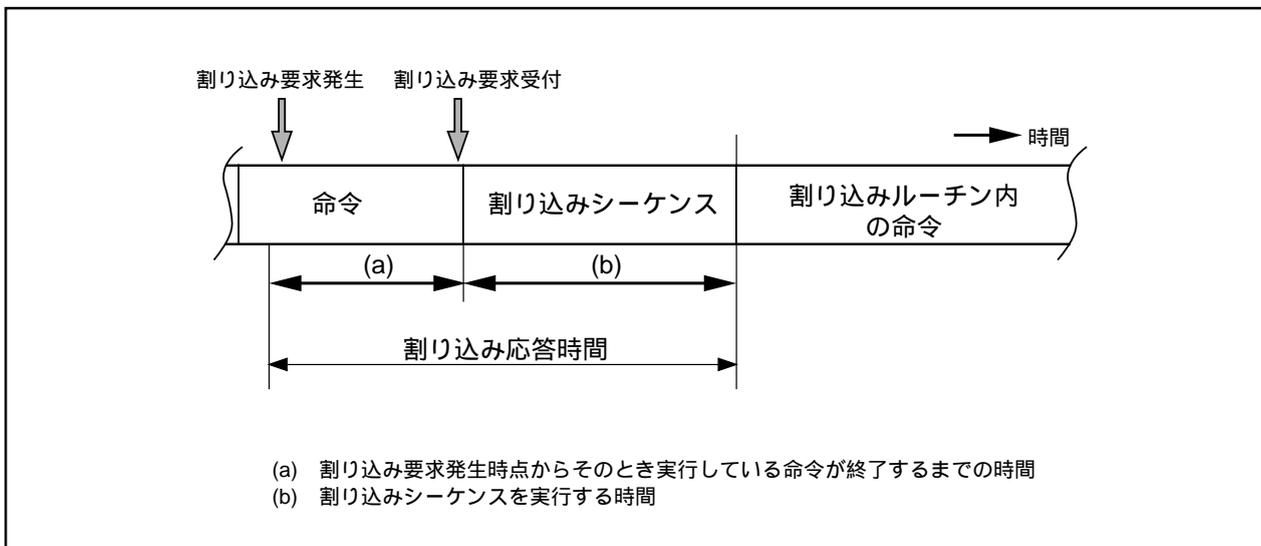


図2.7.4 割り込み応答時間

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(a)の時間は、実行している命令によって異なります。DIVX命令が最大で30サイクル(ウエイトなし)です。
(b)の時間は次のとおりです。

表2.7.5 割り込みシーケンス実行時間

割り込みベクタの番地	スタックポインタ(SP)の値	16ビットバス、ウエイトなし	8ビットバス、ウエイトなし
偶数	偶数	18サイクル(注1)	20サイクル(注1)
偶数	奇数	19サイクル(注1)	20サイクル(注1)
奇数(注2)	偶数	19サイクル(注1)	20サイクル(注1)
奇数(注2)	奇数	20サイクル(注1)	20サイクル(注1)

注1. DBC割り込みは+2サイクル、アドレス一致割り込み、シングルステップ割り込みは+1サイクルにして
ください。

2. 割り込みベクタの番地は、なるべく偶数番地に配置するようにしてください。

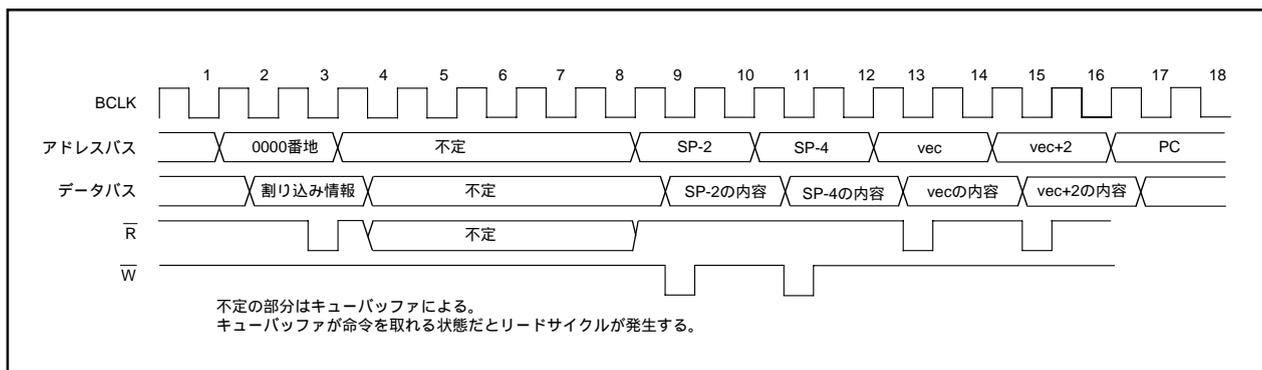


図2.7.5 割り込みシーケンスの実行時間

2.7.12 割り込み要求受付時のプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)の変化

割り込み要求が受け付けられると、プロセッサ割り込み優先レベル(IPL)には受け付けた割り込みの割り込み優先レベルが設定されます。

割り込み優先レベルをもたない割り込み要求が受け付けられたときは、表2.7.6に示す値がIPLに設定されます。

表2.7.6 割り込み優先レベルをもたない割り込みとIPLの関係

割り込み優先レベルをもたない割り込み要因	設定される IPL の値
監視タイマ	7
リセット	0
その他	変化しない

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7.13 レジスタ退避

割り込みシーケンスでは、フラグレジスタ(FLG)とプログラムカウンタ(PC)の内容だけがスタック領域に退避されます。

退避する順番は、スタック領域へはプログラムカウンタの上位4ビットとFLGレジスタの上位4ビットおよび下位8ビットの合計16ビットをまず退避し、次にプログラムカウンタの下位16ビットを退避します。図2.7.6に割り込み要求受付前のスタックの状態と、割り込み要求受付後のスタックの状態を示します。

その他の必要なレジスタは、割り込みルーチンの最初でソフトウェアによって退避してください。PUSHM命令を用いると、1命令でスタックポインタ(SP)を除くすべてのレジスタを退避することができます。

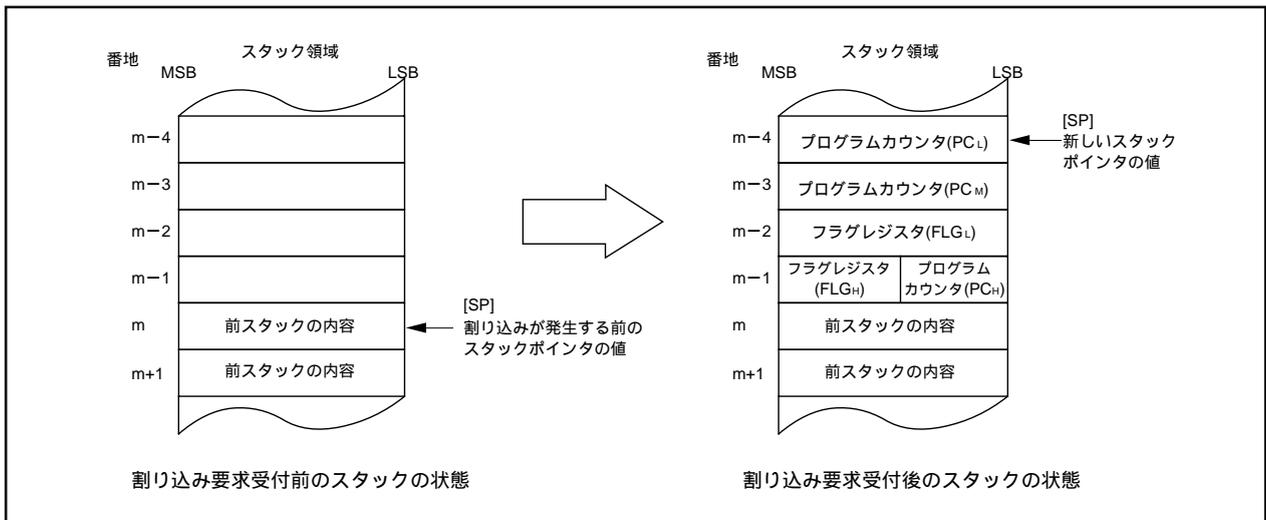


図2.7.6 割り込み要求受付前 / 割り込み要求受付後のスタックの状態

割り込みシーケンスで行われるレジスタ退避動作は、割り込み要求受付時のスタックポインタ(注)の内容が偶数の場合と奇数の場合で異なります。スタックポインタ(注)の内容が偶数の場合は、フラグレジスタ(FLG)およびプログラムカウンタ(PC)の内容がそれぞれ16ビット同時に退避されます。奇数の場合は、8ビットずつ2回に分けて退避されます。図2.7.7にレジスタ退避動作を示します。

注. Uフラグが示すスタックポインタです。

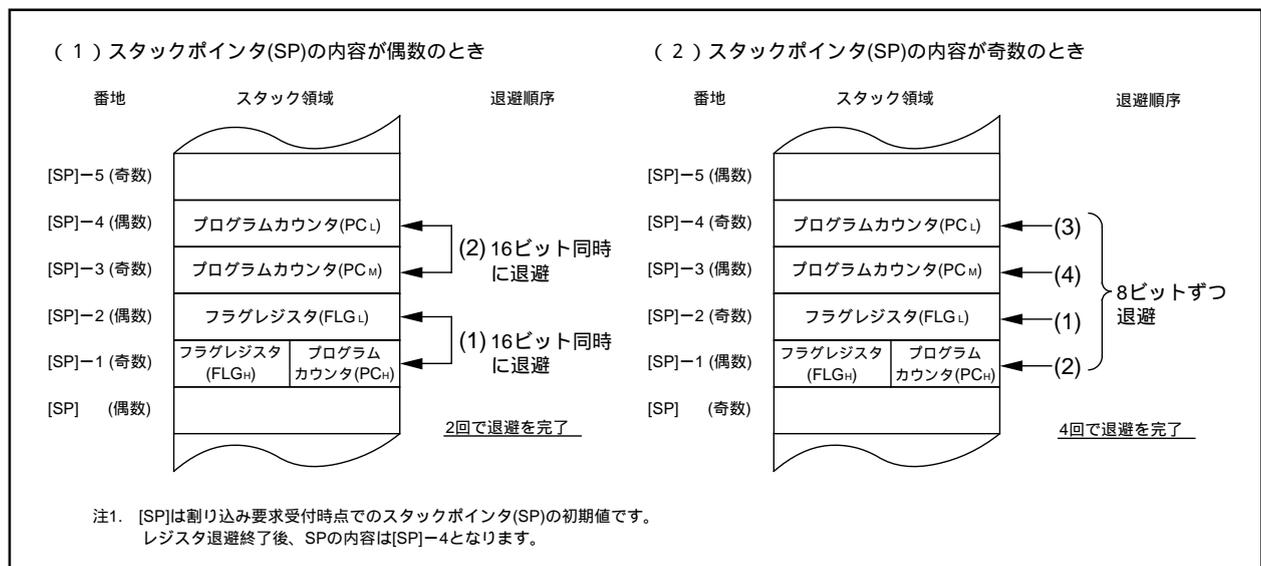


図2.7.7 レジスタ退避動作

2.7.14 割り込みルーチンからの復帰

割り込みルーチンの最後でREIT命令を実行すると、スタック領域に退避されていた割り込みシーケンス直前のフラグレジスタ(FLG)、およびプログラムカウンタ(PC)の内容が復帰されます。その後、割り込み要求受付前に実行していたプログラムに戻り、中断されていた処理が継続して実行されます。

割り込みルーチン内でソフトウェアによって退避したレジスタは、REIT命令実行前にPOPM命令などを使用して復帰してください。

2.7.15 割り込み優先順位

同一サンプリング時点(割り込みの要求があるかどうかを調べるタイミング)で2つ以上の割り込み要求が存在した場合は、優先順位の高い割り込みが受け付けられます。

マスカブル割り込み(周辺I/O割り込み)の優先順位は、割り込み優先レベル選択ビットによって任意の優先順位を設定することができます。ただし、割り込み優先レベルが同じ設定値の場合は、ハードウェアで設定されている優先度の高い割り込みが受け付けられます。

リセット(リセットは優先順位が一番高い割り込みとして扱われます)、監視タイマ割り込みなど、特殊割り込みの優先順位はハードウェアで設定されています。ハードウェア割り込みの割り込み優先順位を図2.7.8に示します。

ソフトウェア割り込みは割り込み優先順位の影響を受けません。命令を実行すると必ず割り込みルーチンへ分岐します。

2.7.16 割り込み優先レベル判定回路

割り込み優先レベル判定回路は、同一サンプリング時点で要求のある割り込みから、最も優先順位の高い割り込みを選択するための回路です。

図2.7.9に割り込み優先レベルの判定回路を示します。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

リセット > $\overline{\text{DBC}}$ > 監視タイマ > 周辺I/O > シングルステップ > アドレス一致

図2.7.8 ハードウェア割り込みの割り込み優先順位

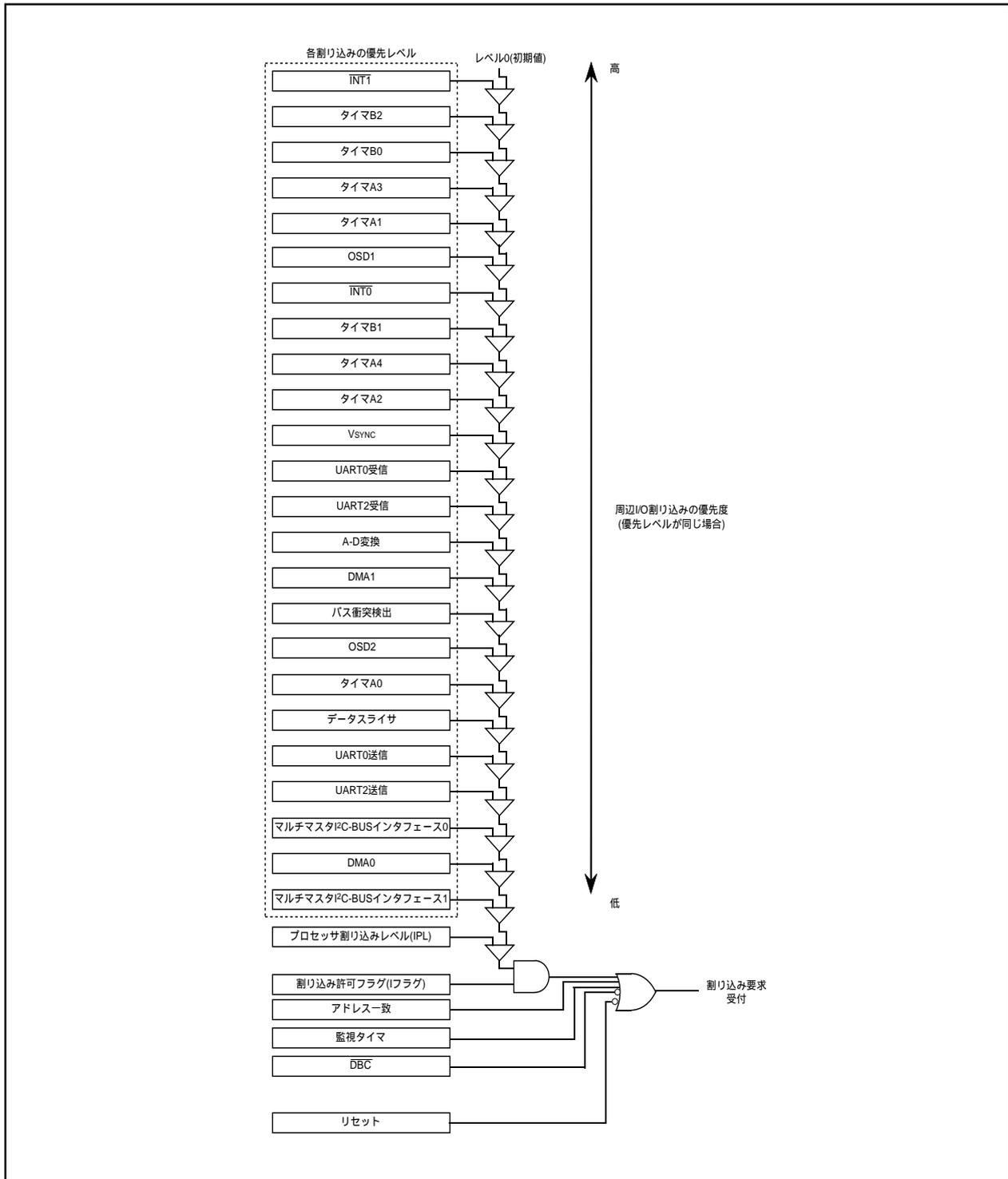


図2.7.9 割り込み優先レベル判定回路

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7.17 INT $\bar{0}$ 、INT $\bar{1}$ 割り込み

INT $\bar{0}$ 、INT $\bar{1}$ は外部入力による割り込みです。極性を極性切り替えビットで選択できます。

外部割り込み入力、割り込み要因選択レジスタ(035F₁₆番地)のINT \bar{i} 割り込み極性切り替えビットを“1”に設定することによって、立ち上がり、立ち下がりの両方のエッジで割り込みを発生することができます。両エッジを選択する場合は、対応する割り込み制御レジスタの極性切り替えビットは立ち下がりエッジ(“0”)に設定してください。

図2.7.10に割り込み制御予約レジスタ i 、図2.7.11 に割り込み要因選択レジスタを示します。

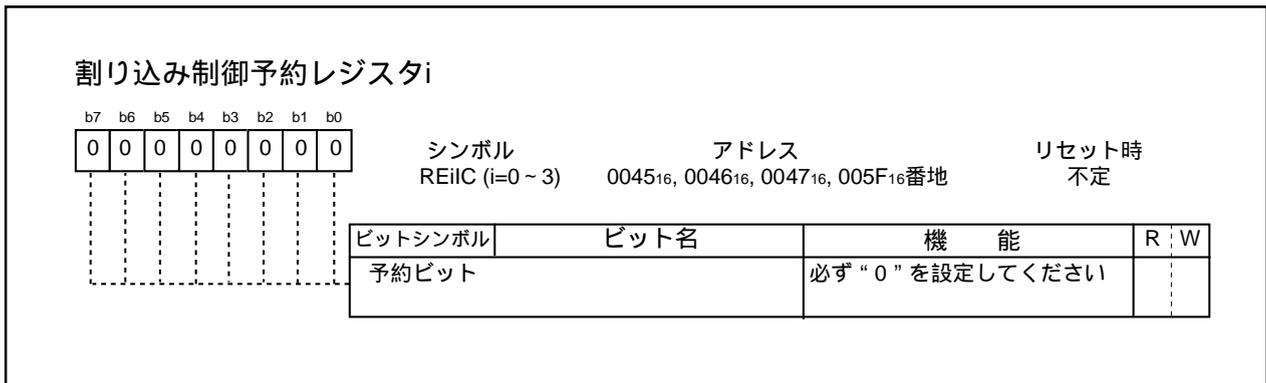


図2.7.10 割り込み制御予約レジスタ i (i=0~3)

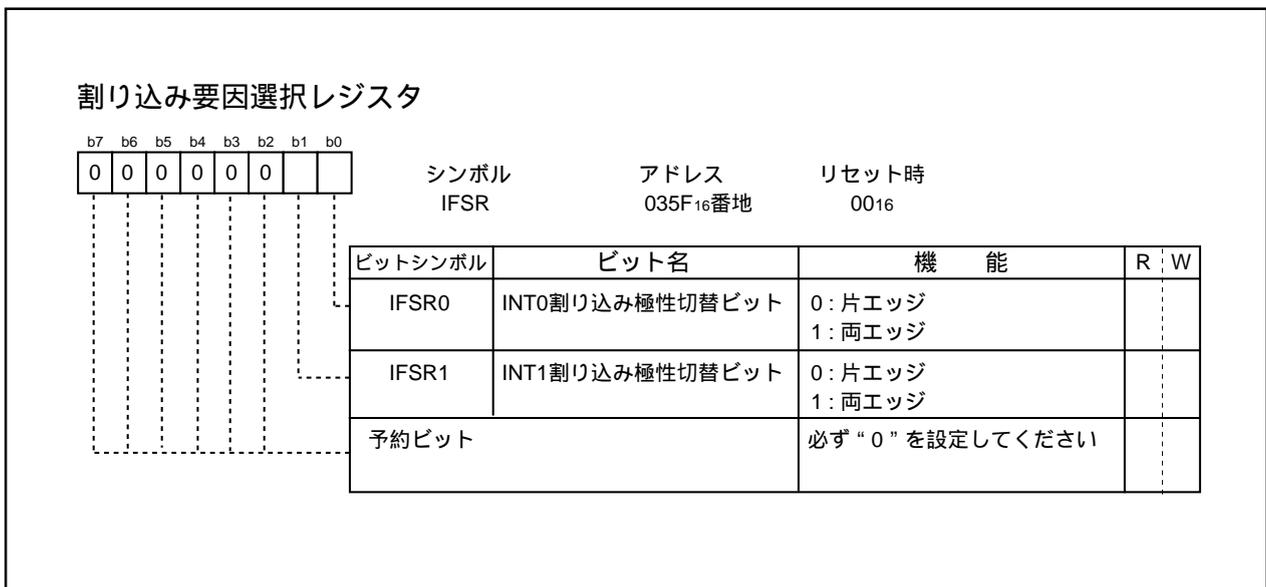


図2.7.11 割り込み要因選択レジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.7.18 アドレス一致割り込み

アドレス一致割り込みレジスタで示される番地の命令を実行する直前に、アドレス一致割り込みが発生します。アドレス一致割り込みは2カ所に設定することができ、割り込みの禁止/許可は、各々のアドレス一致割り込み許可ビットで選択することができます。アドレス一致割り込みは、割り込み許可フラグ(Iフラグ)やプロセッサ割り込み優先レベル(IPL)の影響は受けません。また、アドレス一致割り込みは、実行している命令により退避するプログラムカウンタ(PC)の値が異なります。

図2.7.12と図2.7.13にアドレス一致割り込み関連レジスタを示します。

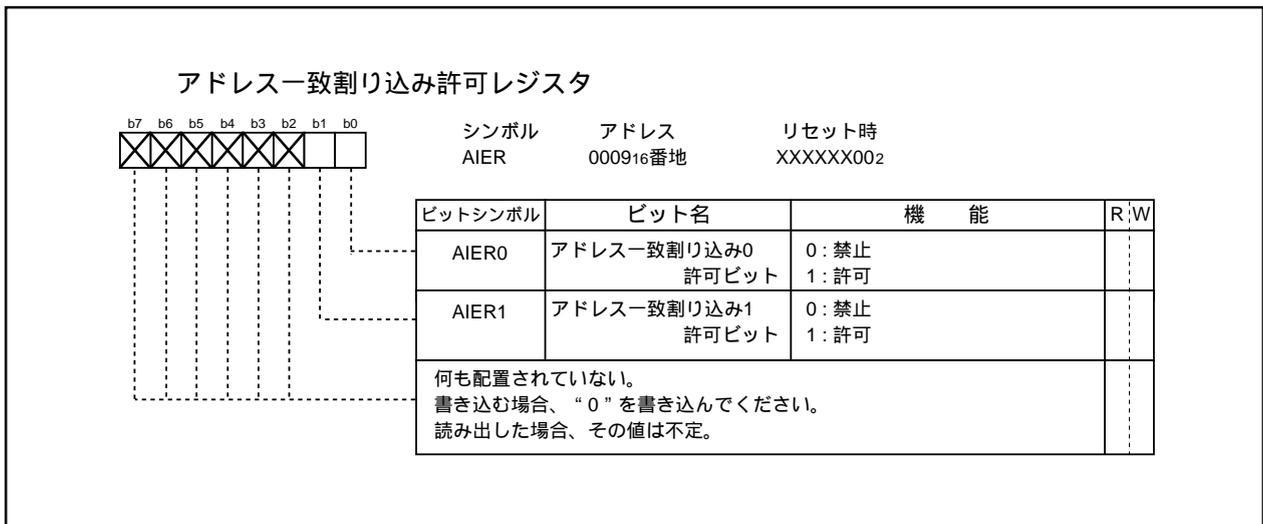


図2.7.12 アドレス一致割り込み許可レジスタ

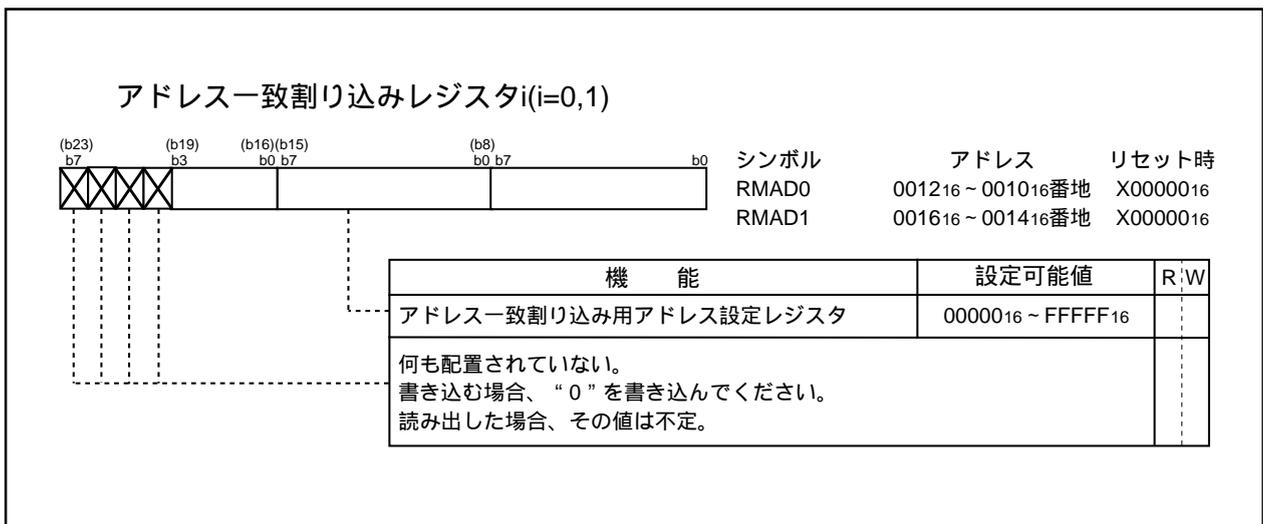


図2.7.13 アドレス一致割り込みレジスタ*i*(*i*=0,1)

2.7.19 割り込みの注意事項

(1) 00000₁₆番地の読み出し

マスカブル割り込みが発生した場合、割り込みシーケンスの中でCPUは、割り込み情報(割り込み番号と割り込み要求レベル)を00000₁₆番地から読み出します。

それを読み出すことでその割り込みが発生する割り込み要求ビットが“0”になります。

ソフトウェアにより00000₁₆番地を読み出しても、許可されている最も優先度の高い割り込み要因の要求ビットが“0”になります。そのため、割り込みが発生しても割り込みルーチンを実行しない可能性があります。

したがって、ソフトウェアで00000₁₆番地に対して読み出しを行わないでください。

(2) スタックポインタの設定

リセット直後スタックポインタの値は、“0000₁₆”に初期化されています。そのため、スタックポインタに値を設定する前に割り込みを受け付けると、暴走の要因となります。割り込みを受け付ける前に、必ずスタックポインタに値を設定してください。

(3) 外部割り込み

$\overline{\text{INT}}_0$ 、 $\overline{\text{INT}}_1$ 端子に入力する信号には、CPUの動作クロックに関係なく250ns以上の“L”レベル幅、または“H”レベル幅が必要です。

$\overline{\text{INT}}_0$ 、 $\overline{\text{INT}}_1$ 端子の極性を切り替えるときに割り込み要求ビットが“1”になることがあります。

切り替えを行った後、割り込み要求ビットを“0”にしてください。 $\overline{\text{INT}}$ 割り込み発生要因の切り替え手順例を図2.7.14に示します。

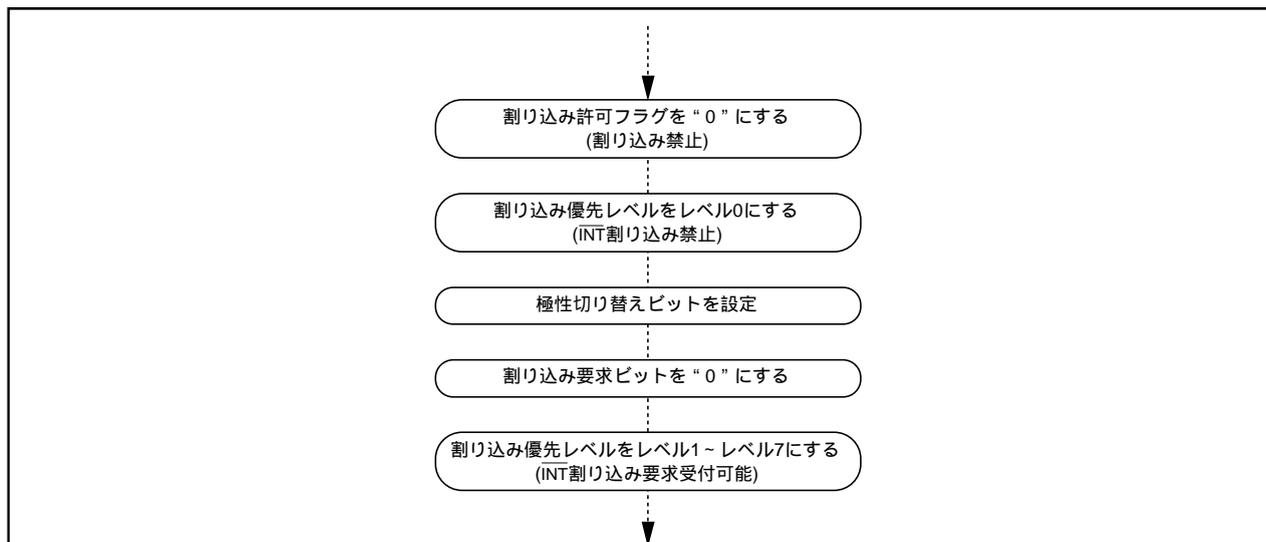


図2.7.14 INT割り込み発生要因の切り替え

(4) 割り込み制御レジスタの変更

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。割り込み要求が発生する可能性がある場合は、割り込みを禁止状態にしてから変更してください。参考プログラム例を以下に示します。

< 割り込み制御レジスタを書き換えるプログラム例 >

例 1 :

```

INT_SWITCH1 :
FCLR  I           ; 割り込み禁止状態
AND.B  #00H, 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに“0016”を設定
NOP    ; HOLD機能を使用する場合はNOP命令が4個必要
NOP
FSET   I           ; 割り込み許可状態
  
```

例 2 :

```

INT_SWITCH2 :
FCLR  I           ; 割り込み禁止状態
AND.B  #00H, 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに“0016”を設定
MOV.W  MEM, R0    ; ダミーリード
FSET   I           ; 割り込み許可状態
  
```

例 3 :

```

INT_SWITCH3 :
PUSHC  FLG
FCLR  I           ; 割り込み禁止状態
AND.B  #00H, 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに“0016”を設定
POPC   FLG       ; 割り込み許可状態
  
```

例 1 と例 2 で FSET I 命令の前に NOP 命令 2 個 (HOLD 機能使用時は 4 個) や ダミーリードがあるのは、命令キューの影響により割り込み許可フラグ(Iフラグ)のセットが割り込み制御レジスタの書き込みより先に実行されるのを防ぐためです。

割り込みが禁止状態で、割り込み制御レジスタを書き換える命令を実行しているときに、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生した場合、命令によっては割り込み要求ビットがセットされないことがあります。このことが問題になる場合は、以下の命令を使用してレジスタを変更するようにしてください。

対象となる命令・・・AND、OR、BCLR、BSET

2.8 監視タイマ

監視タイマは、プログラムの暴走を検知する機能を持ちます。監視タイマは15ビットのカウンタを持ち、BCLKをプリスケラで分周したクロックをダウンカウントします。監視タイマがアンダフローすると、監視タイマ割り込みが発生します。BCLKにXINを選択している場合、監視タイマ制御レジスタ(000F₁₆番地)のビット7でプリスケラの分周比に16分周か128分周を選択することができます。BCLKにXCINを選択している場合、監視タイマ制御レジスタ(000F₁₆番地)のビット7に関係なくプリスケラの分周比は2分周になります。したがって、監視タイマの周期は下記のように計算できます。ただし、監視タイマの周期には、プリスケラによる誤差が生じます。

BCLKにXINを選択している場合

$$\text{監視タイマの周期} = \frac{\text{プリスケラの分周比 (16または128)} \times \text{監視タイマのカウント値 (32768)}}{\text{BCLK}}$$

BCLKにXCINを選択している場合

$$\text{監視タイマの周期} = \frac{\text{プリスケラの分周比 (2)} \times \text{監視タイマのカウント値 (32768)}}{\text{BCLK}}$$

例えば、BCLKが10MHzで、プリスケラとして16分周を選択している場合、監視タイマの周期は、約52.4msとなります。

監視タイマは、監視タイマスタートレジスタ(000E₁₆番地)への書き込み動作時、および監視タイマ割り込み発生時に初期化されます。プリスケラは、リセット時だけ初期化されます。なお、リセット解除後は監視タイマおよびプリスケラは停止しており、監視タイマスタートレジスタ(000E₁₆番地)への書き込み動作によりカウントを開始します。

図2.8.1に監視タイマのブロック図、図2.8.2に監視タイマ制御レジスタを、図2.8.3に監視タイマスタートレジスタを示します。

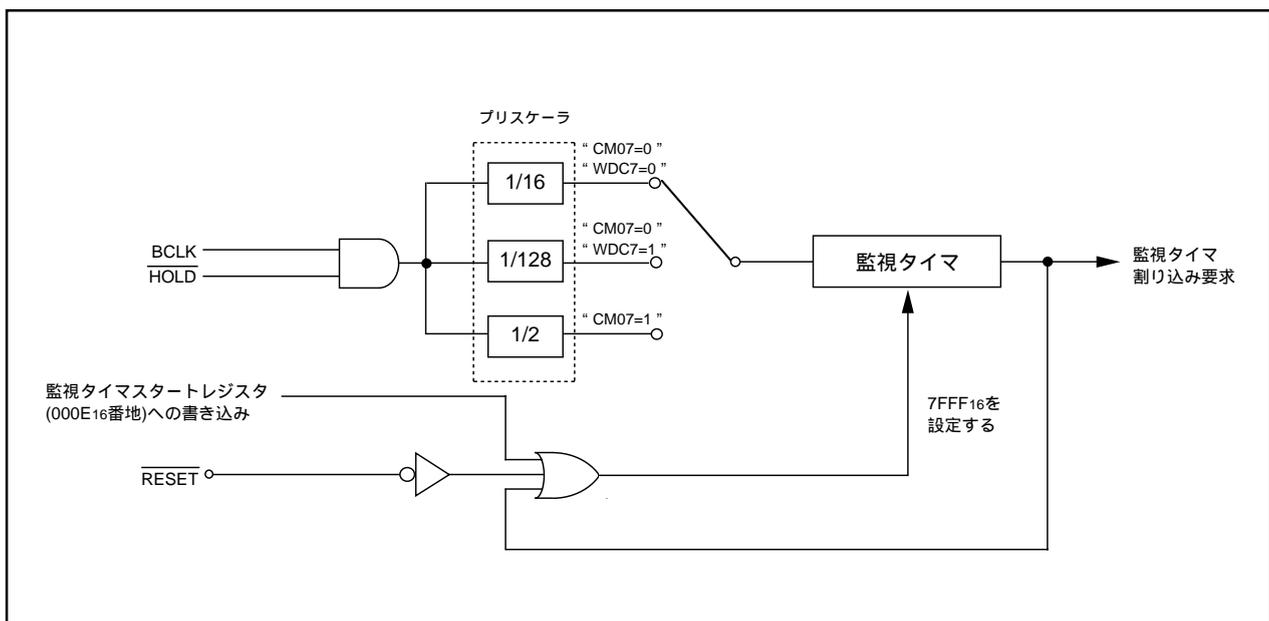


図2.8.1 監視タイマのブロック図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

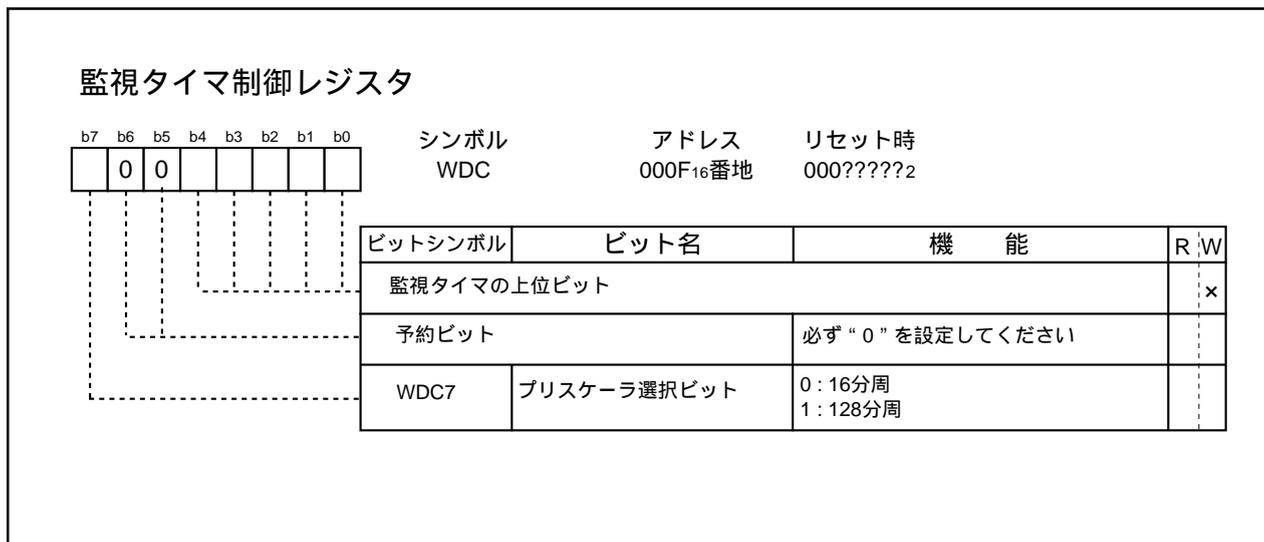


図2.8.2 監視タイマ制御レジスタ

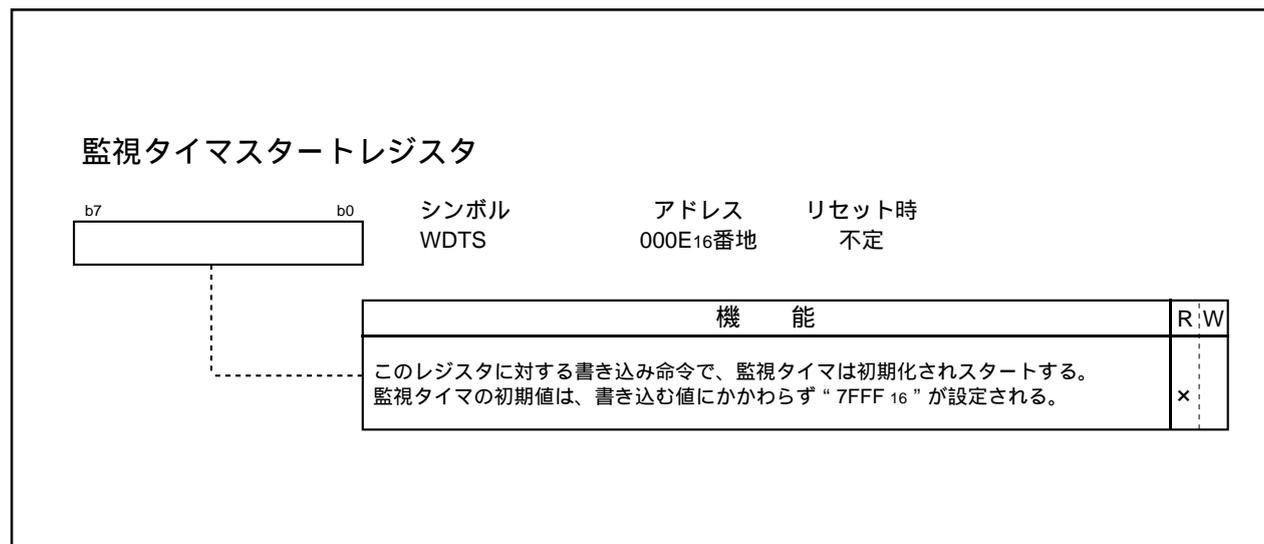


図2.8.3 監視タイマスタートレジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.9 DMAC

CPUを使わずにデータを転送することのできるDMAC(ダイレクト・メモリ・アクセス・コントローラ)を2チャンネル内蔵しています。DMACはCPUと同じデータバスを使用しています。DMACのバス使用権はCPUよりも高く、サイクルスチール方式を採用しています。そのため、DMA転送の要求信号が発生してから1ワード(16ビット)、または1バイト(8ビット)のデータ転送を完了するまでの動作を高速に行える特長があります。図2.9.1にDMACのブロック図を、表2.9.1にDMACの仕様を、図2.9.2～図2.9.7にDMACで使用するレジスタを示します。

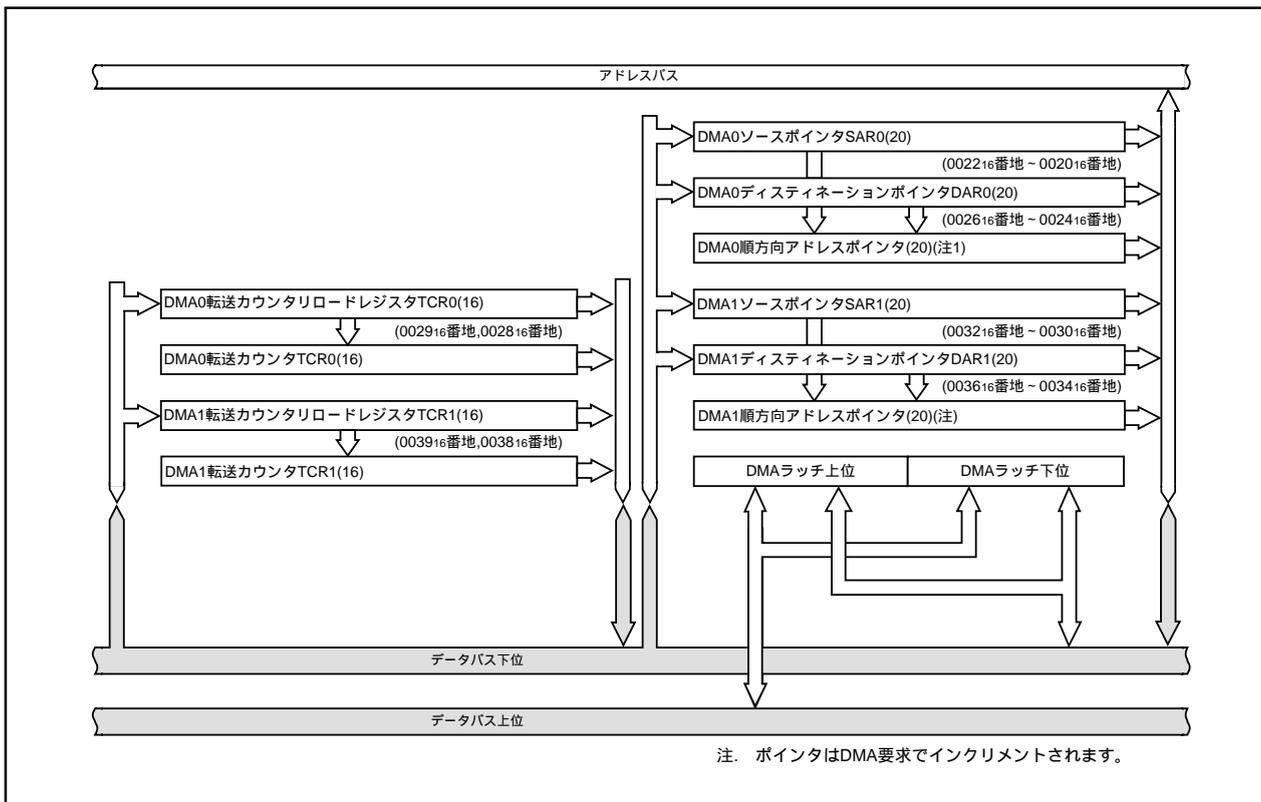


図2.9.1 DMACブロック図

DMA転送の要求信号には、ソフトウェアDMA要求ビットへの書き込み信号や、割り込み要求信号を流用しています。しかし、DMA転送は、割り込み許可フラグ(1フラグ)や割り込み優先レベルなどの影響を受けません。また、各割り込みに影響を与えません。

DMACがアクティブ状態(DMA許可ビットが“1”の状態)であれば、DMA転送の要求信号が発生すると、データ転送が開始されます。ただし、DMA転送サイクルよりもDMA転送の要求信号が発生するサイクルが早い場合、転送要求回数と転送回数が一致しない場合があります。詳細についてはDMA要求ビットの説明を参照してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.9.1 DMAC仕様

項目	仕様
チャンネル数	2チャンネル(サイクルスチール方式)
転送空間	1Mバイトの任意の空間から固定アドレス 固定アドレスから1Mバイトの任意の空間 固定アドレスから固定アドレス (ただしDMA関係のレジスタはアクセス不可:0020 ₁₆ 番地 ~ 003F ₁₆ 番地)
最大転送バイト数	128Kバイト(16ビット転送時)、64Kバイト(8ビット転送時)
DMA要求要因(注)	INT ₀ 端子の立ち下がりエッジまたは両エッジ INT ₁ 端子の立ち下がりエッジ タイマA0 ~ タイマA4割り込み要求 タイマB0 ~ タイマB2割り込み要求 UART0送信および受信割り込み要求 UART2送信および受信割り込み要求 マルチマスタI ² C-BUSインタフェース0割り込み要求 マルチマスタI ² C-BUSインタフェース1割り込み要求 A-D変換割り込み要求 OSD1 ~ OSD2割り込み要求 データサイサ割り込み要求 VSYNC割り込み要求 ソフトウエアトリガ
チャンネル優先順位	DMA0の要求とDMA1の要求が同時に発生した場合、DMA0が優先
転送単位	8ビット/16ビット
転送アドレス方向	順方向/固定(転送元、転送先同時に順方向の指定はできません)
転送モード	単転送モード 転送カウンタがアンダフローした後、DMA許可ビットが“0”になりDMACはアクティブでない状態になる リピート転送モード 転送カウンタがアンダフローした後、転送カウンタリロードレジスタの値が転送カウンタにリロードされる DMA許可ビットに“0”を書き込まない限りDMACはアクティブ状態
DMA割り込み要求発生タイミング	転送カウンタのアンダフロー時
アクティブ状態	DMA許可ビットが“1”のときDMACはアクティブ状態 DMACがアクティブ状態のとき、DMA転送の要求信号が発生することにデータ転送が開始される
アクティブでない状態	DMA許可ビットが“0”のときDMACはアクティブでない状態 単転送モードで転送カウンタがアンダフローした後
順方向アドレスポインタ、転送カウンタのリロードタイミング	アクティブ状態にした直後のデータ転送開始時に、ソースポインタ、またはディスティネーションポインタのうち、順方向に指定された方のポインタの値を順方向アドレスポインタへ、転送カウンタリロードレジスタの値を転送カウンタへリロード
レジスタの書き込み	順方向に指定したレジスタは、常時書き込み可能 固定に指定したレジスタは、DMA許可ビットが“0”のとき書き込み可能
レジスタの読み出し	常時読み出し可能 ただし、DMA許可ビットが“1”の場合、順方向に指定したレジスタを読み出すと、順方向アドレスポインタの値が読み出される

注. DMA転送は、各割り込みに影響を与えません。また、DMA転送は割り込み許可フラグ(1フラグ)や割り込み優先レベルなどの影響を受けません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

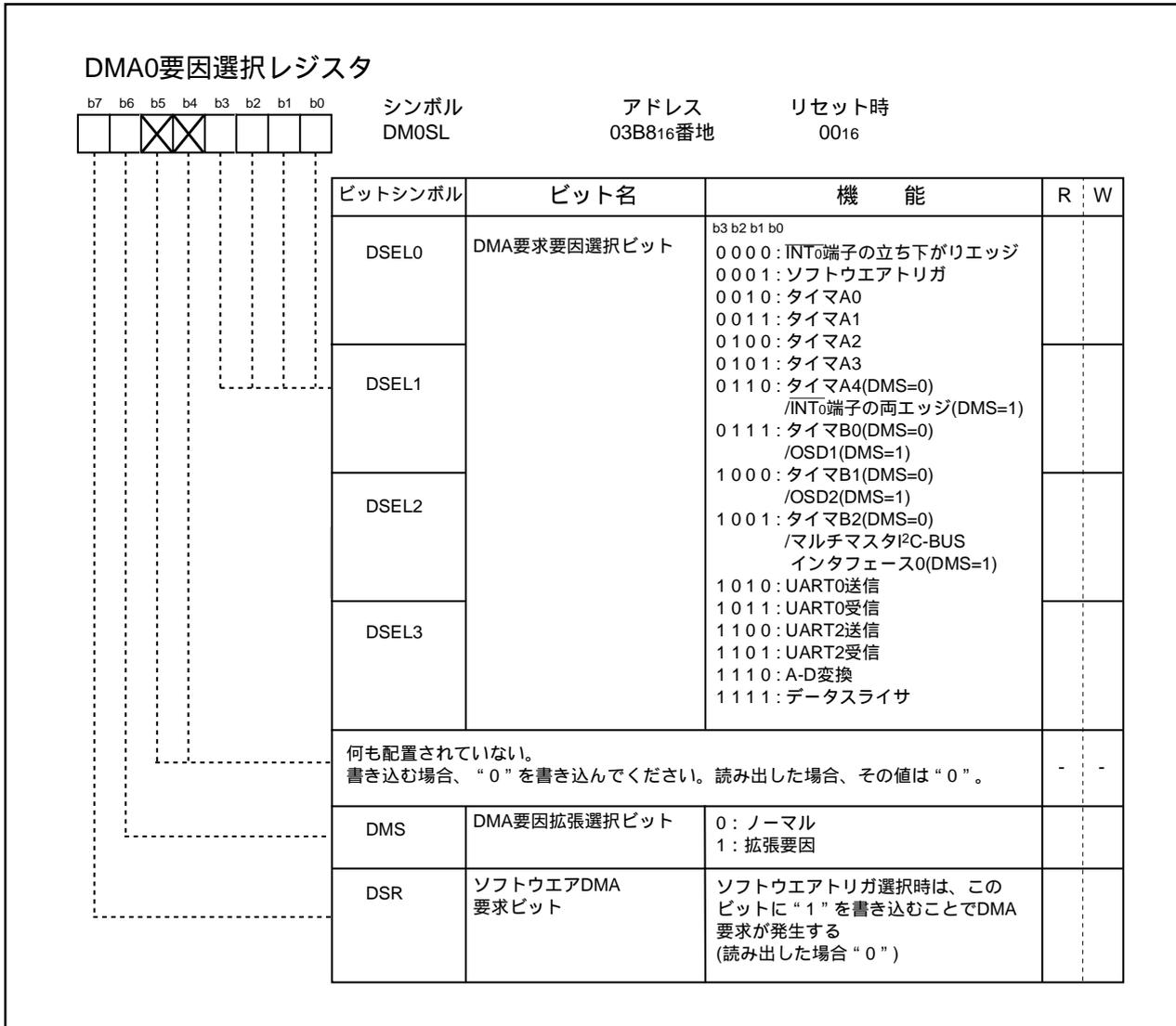


図2.9.2 DMA0要因選択レジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

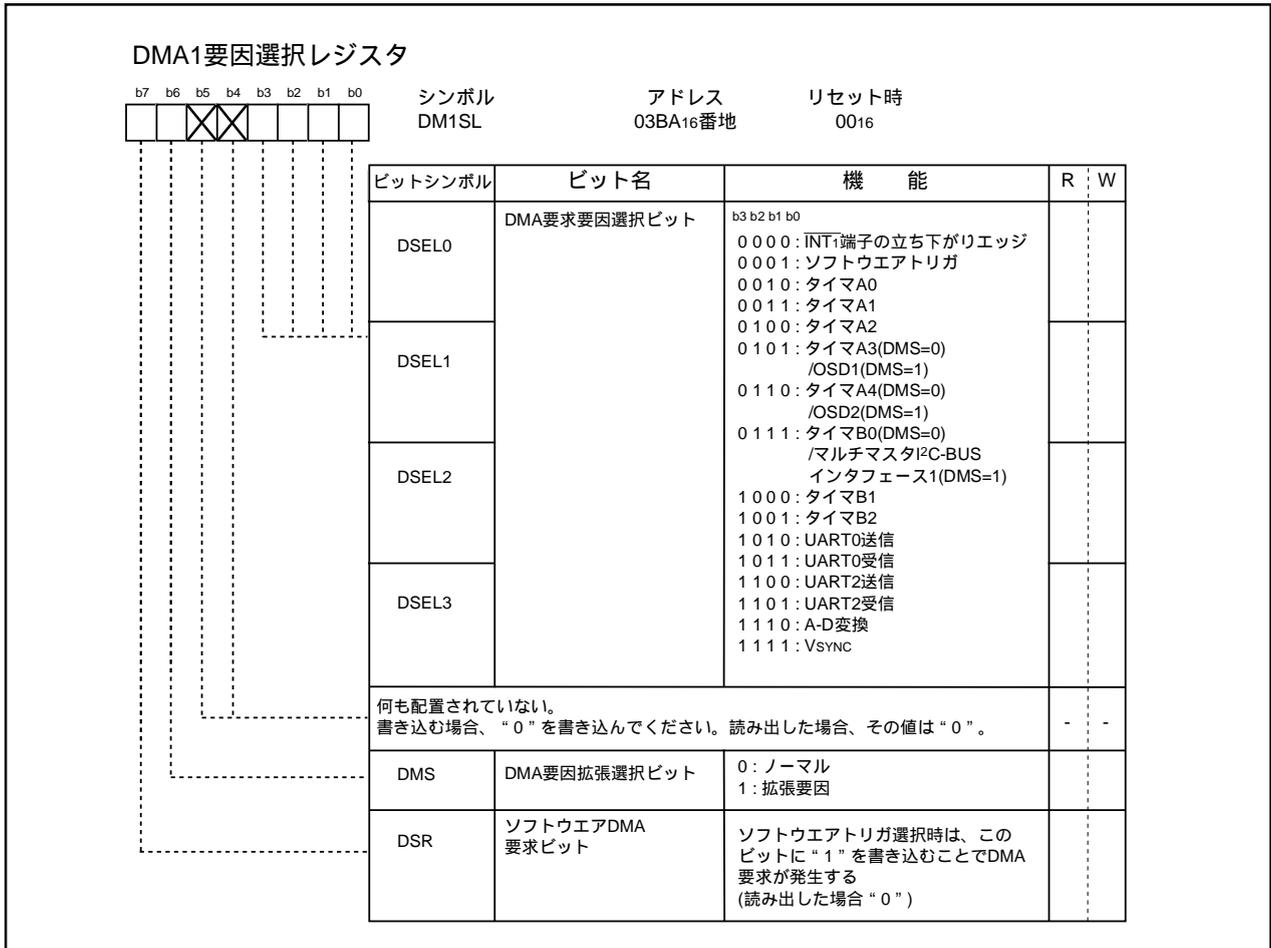


図2.9.3 DMA1要因選択レジスタ

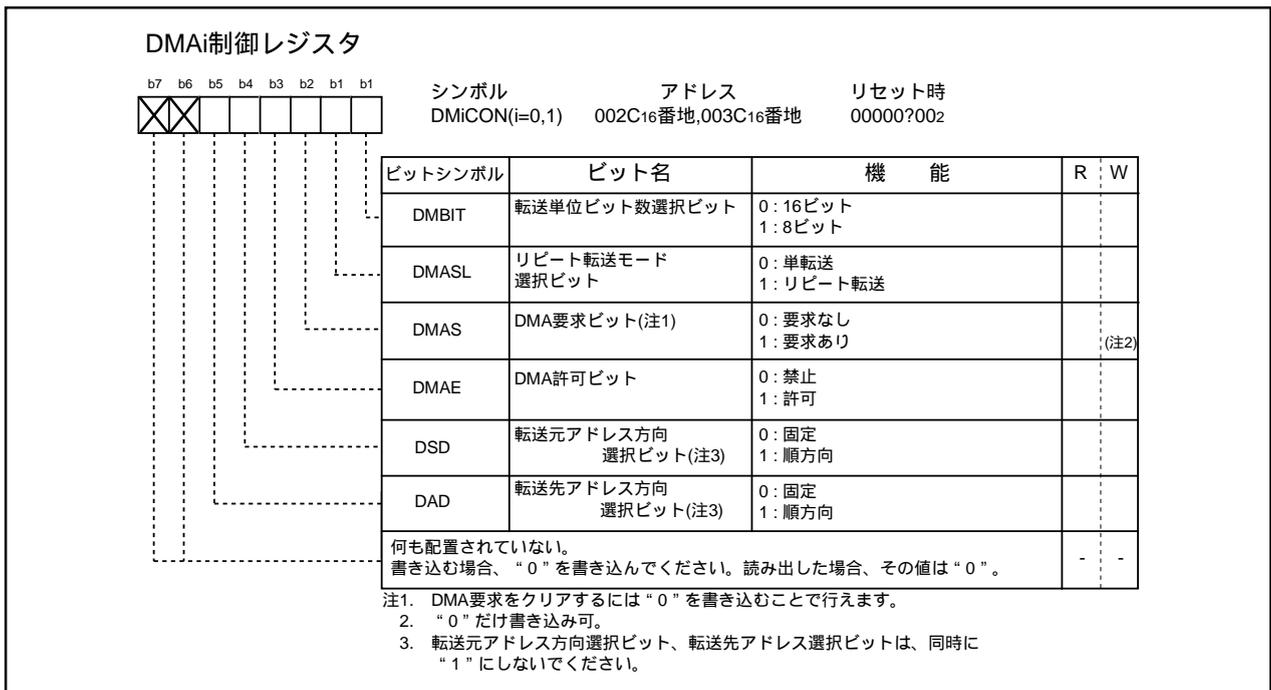


図2.9.4 DMAi制御レジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

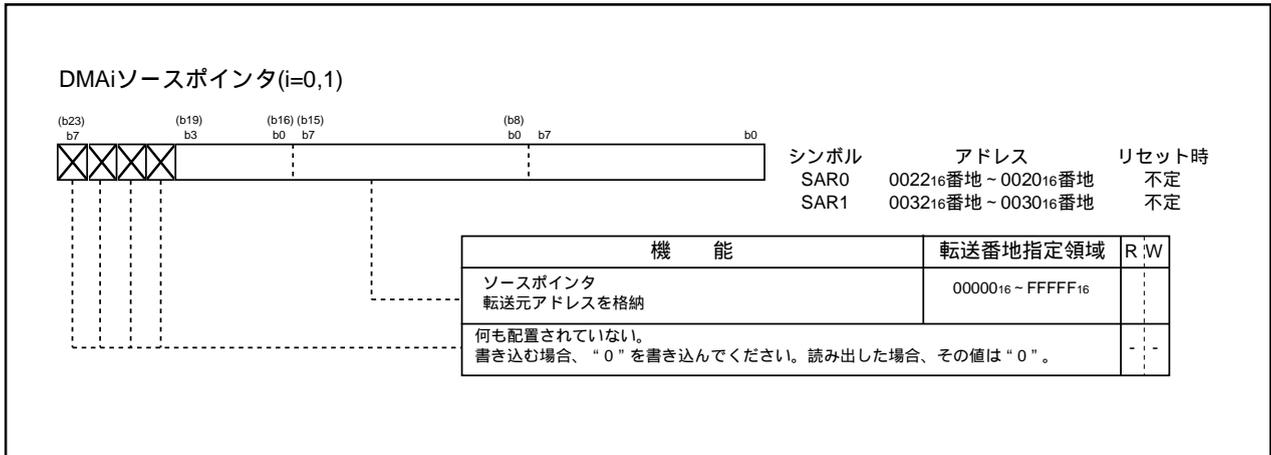


図2.9.5 DMAiソースポインタ (i=0,1)

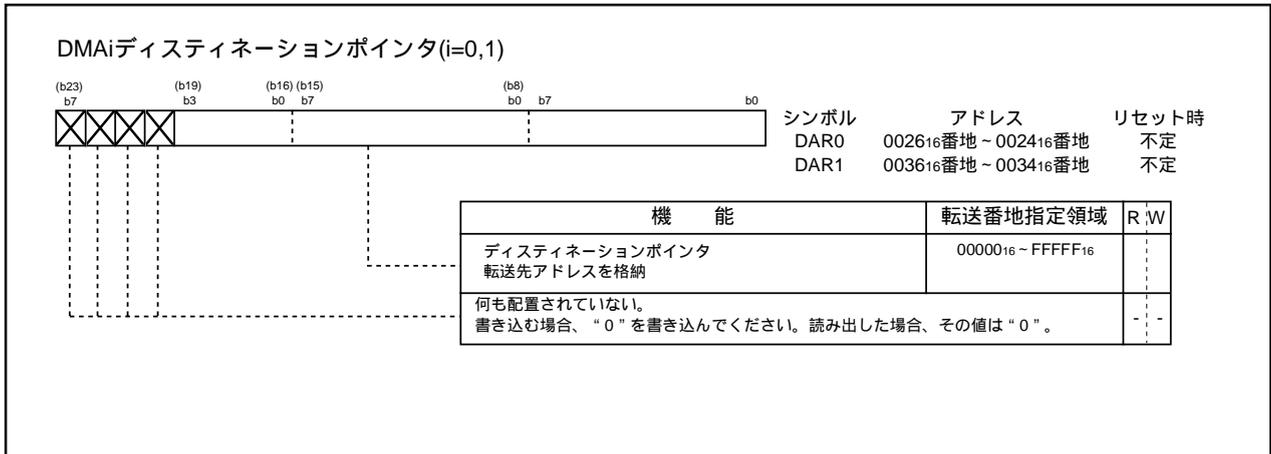


図2.9.6 DMAiディスティネーションポインタ (i=0,1)

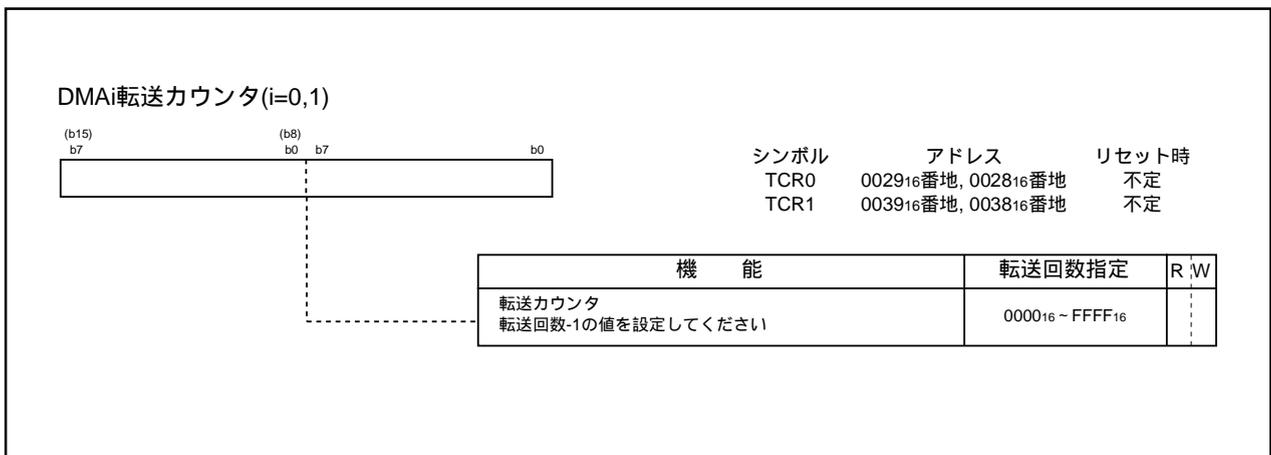


図2.9.7 DMAi転送カウンタ (i=0,1)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.9.1 転送サイクル

転送サイクルは、メモリまたはSFR領域に対するデータの読み出し(ソースリード)のバスサイクル、および書き込み(ディスティネーションライト)のバスサイクルで構成しています。読み出し、および書き込みのバスサイクル回数は、転送元/転送先アドレスの影響を受けます。また、メモリ拡張モードとマイクロプロセッサモード時は、BYTE端子のレベルの影響も受けます。さらに、ソフトウェアウエイトの影響により、バスサイクル自体が長くなります。

(1) 転送元/転送先アドレスの影響

転送単位、データバス幅が共に16ビット幅で、転送元/転送先アドレスが奇数番地から始まる場合、ソースリードサイクル/ディスティネーションライトサイクルは、偶数番地から始まる場合に比べて1バスサイクル増えます。

(2) BYTE端子の影響

メモリ拡張モードとマイクロプロセッサモード時は、8ビットデータバス(BYTE端子が“H”)で16ビットのデータ転送を行う場合、8ビットのデータを2回転送します。そのためバスサイクルは、データの読み出しに2バスサイクル、書き込みに2バスサイクル必要とします。また、DMACが内部領域(内部ROM、内部RAM、SFR)をアクセスする場合においても、CPUが内部領域をアクセスする場合と異なり、BYTE端子で選択したデータ幅でアクセスします。

(3) ソフトウェアウエイトの影響

ソフトウェアウエイトが入るメモリ領域、SFR領域、およびOSD RAM領域をアクセスする場合、ソフトウェアウエイトの分だけ1バスサイクルに要するBCLKを基準としたサイクル数が増えます。

図2.9.8にソースリードについての転送サイクル例を示します。この図では、ディスティネーションライトサイクルを便宜上1サイクルとし、ソースリードについての条件別サイクル数を示しています。実際は、ソースリードサイクルと同様にディスティネーションライトサイクルも各条件の影響を受け、転送サイクルが変化します。転送サイクルを計算する場合、ディスティネーションライトサイクルおよびソースリードサイクルに各条件を適用してください。例えば の転送単位が16ビット幅で8ビットバス使用時では、ソースリードサイクルとディスティネーションライトサイクルは、それぞれに2バスサイクル必要となります。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

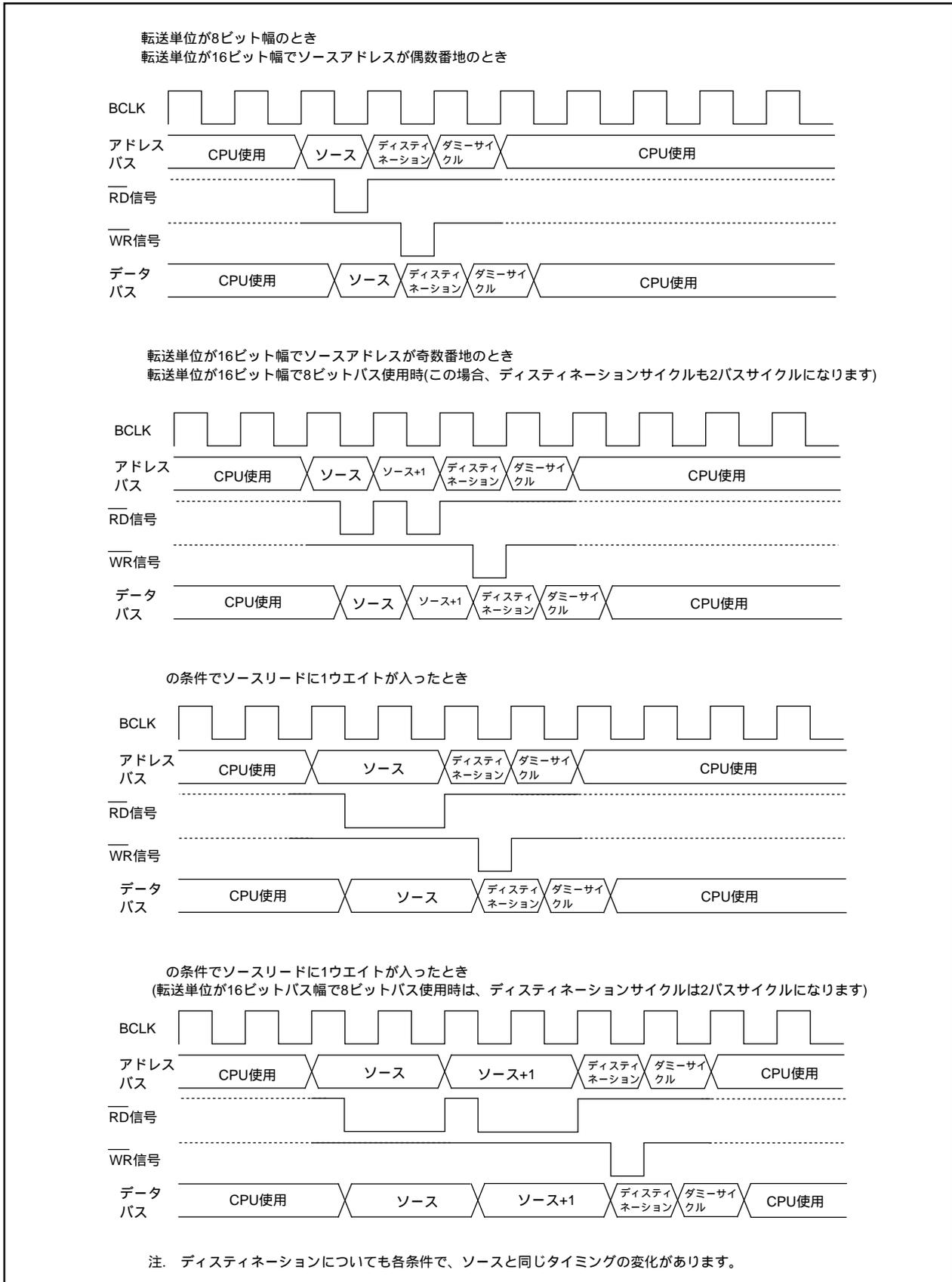


図2.9.8 ソースリードについての転送サイクル例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.9.2 DMACの転送サイクル数

DMACの転送サイクル数は下記のとおり計算することができます。

転送の読み出しアドレス、書き込みアドレスは偶数、奇数のいずれの組み合わせも可能です。表2.9.2にDMAC転送サイクル数を示します。

$$1 \text{ 転送単位の転送サイクル数} = \text{読み出しサイクル数} \times j + \text{書き込みサイクル数} \times k$$

表2.9.2 DMAC転送サイクル数

転送単位	バス幅	アクセス番地	シングルチップモード		メモリ拡張モード プロセッサモード	
			読み出し サイクル数	書き込み サイクル数	読み出し サイクル数	書き込み サイクル数
8ビット転送 (DMBIT= " 1 ")	16ビット (BYTE= " L ")	偶 数	1	1	1	1
		奇 数	1	1	1	1
	8ビット (BYTE= " H ")	偶 数	-	-	1	1
		奇 数	-	-	1	1
16ビット転送 (DMBIT= " 0 ")	16ビット (BYTE= " L ")	偶 数	1	1	1	1
		奇 数	2	2	2	2
	8ビット (BYTE= " H ")	偶 数	-	-	2	2
		奇 数	-	-	2	2

係数j,k

内部領域			外部領域		
内部ROM/RAM ウエイトなし	内部ROM/RAM ウエイトあり	SFR領域 / OSD RAM	セパレート バス ウエイトなし	セパレート バス ウエイトあり	マルチプレクス バス
1	2	2	1	2	3

2.9.3 DMA許可ビット

DMA許可ビットを“1”にすることにより、DMACはアクティブ状態となります。アクティブ状態にした直後のデータ転送開始時に、DMACは以下の動作を行います。

- (1) ソースポインタまたはディスティネーションポインタのうち順方向に指定された方のポインタの値を順方向アドレスポインタへリロードする
- (2) 転送カウンタリロードレジスタの値を転送カウンタへリロードする

したがって、アクティブ状態においてDMA許可ビットに“1”を上書きすると、上記動作を行いますので、DMACはその時点で再度、初期状態から動作します。

2.9.4 DMA要求ビット

DMACは、各チャンネルごとにDMA要求要因からあらかじめ選択した要因をトリガとして、DMA転送の要求信号を発生させることができます。

DMA要求要因には、以下の要因があります。

- ・内蔵している周辺機能の割り込み要求信号を流用した要因、およびプログラムによるソフトウェアDMA要因(内部要因)
- ・外部の割り込み信号からの入力を利用した外部要因

DMA要求要因の選択については、DMAi要因選択レジスタの説明を参照してください。

DMA要求ビットは、DMACの状態に関係なく(DMA許可ビットが“1”でも“0”でも関係なく)、DMA転送の要求信号が発生すると“1”になります。また、データ転送が開始される直前に“0”になります。さらに、プログラムで“0”にすることはできますが“1”にすることはできません。

DMA要求要因選択ビットを変更することでDMA要求ビットは“1”になる場合があります。したがって、DMA要求要因選択ビットを変更した後は、必ずDMA要求ビットを“0”にしてください。

DMA要求ビットは、DMA転送の要求信号が発生すると“1”になり、データ転送が開始される直前に“0”になります。DMACがアクティブ状態であれば、すぐにデータ転送が開始されるので、プログラムでDMA要求ビットを読み出しても、ほとんどの場合“0”が読み出されます。DMACがアクティブ状態であることを判断するには、DMA許可ビットを読み出してください。

次に、DMA要求ビットが変化するタイミングについて説明します。

(1) 内部要因

ソフトウェアトリガによるDMA要求要因を除いて、内部要因によってDMA要求ビットが“1”になるタイミングは、各要因の割り込み制御レジスタの割り込み要求ビットが“1”になるタイミングと同じです。

内部要因によってDMA要求ビットが“0”になるタイミングは、データ転送が開始される直前です。

(2) 外部要因

$\overline{\text{INT}}_i$ 端子(DMACチャンネルによりiは異なります)からの入力エッジによって発生するDMA要求要因です。DMA要求要因選択ビットで外部要因として $\overline{\text{INT}}_i$ 端子を選択すると、これらの端子からの入力がDMA転送の要求信号になります。

外部要因選択時にDMA要求ビットが“1”になるタイミングは、DMA要求要因選択ビットで指定された機能に応じた信号エッジに同期します(例えば、各 $\overline{\text{INT}}_i$ 端子の入力信号の立ち下がりエッジに同期します)。

外部要因選択時にDMA要求ビットが“0”になるタイミングは、内部要因選択時と同様に、データ転送が開始される直前です。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(3) チャンネルの優先順位とDMA転送タイミング

DMA転送の要求信号が同一サンプリングに入った場合(同一サンプリングサイクルとは、BCLKの立ち下がりエッジから次の立ち下がりエッジの一周期の間です)、各チャンネルのDMA要求ビットは同時に“1”になります。このとき各チャンネルがアクティブ状態であれば、DMA0が優先してデータ転送を開始します。DMA0がDMA転送を終了するとCPUにバス権をゆずります。CPUが1回のバスアクセスを終了すると、次にDMA1がデータ転送を開始し、DMA転送終了後、CPUにバス権を返します。

その動作説明図を図2.9.9外部要因によるDMA転送例で示します。

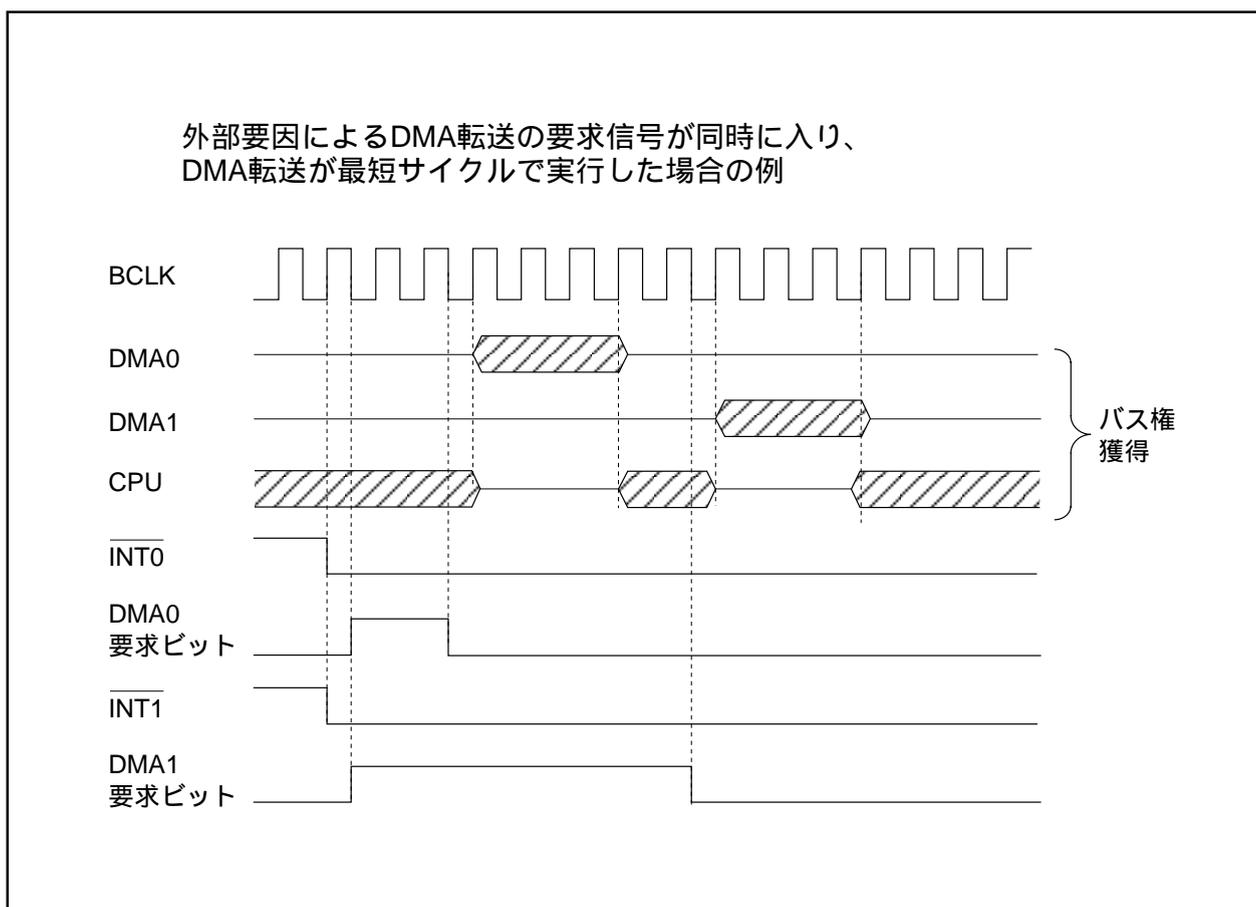


図2.9.9 外部要因によるDMA転送例

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.10 タイマ

タイマは、16ビットタイマを8本内蔵しています。8本のタイマは、持っている機能によってタイマA(5本)とタイマB(3本)の2種類に分類できます。すべてのタイマは、それぞれ独立して動作します。図2.10.1にタイマA、図2.10.2にタイマBの構成を示します。

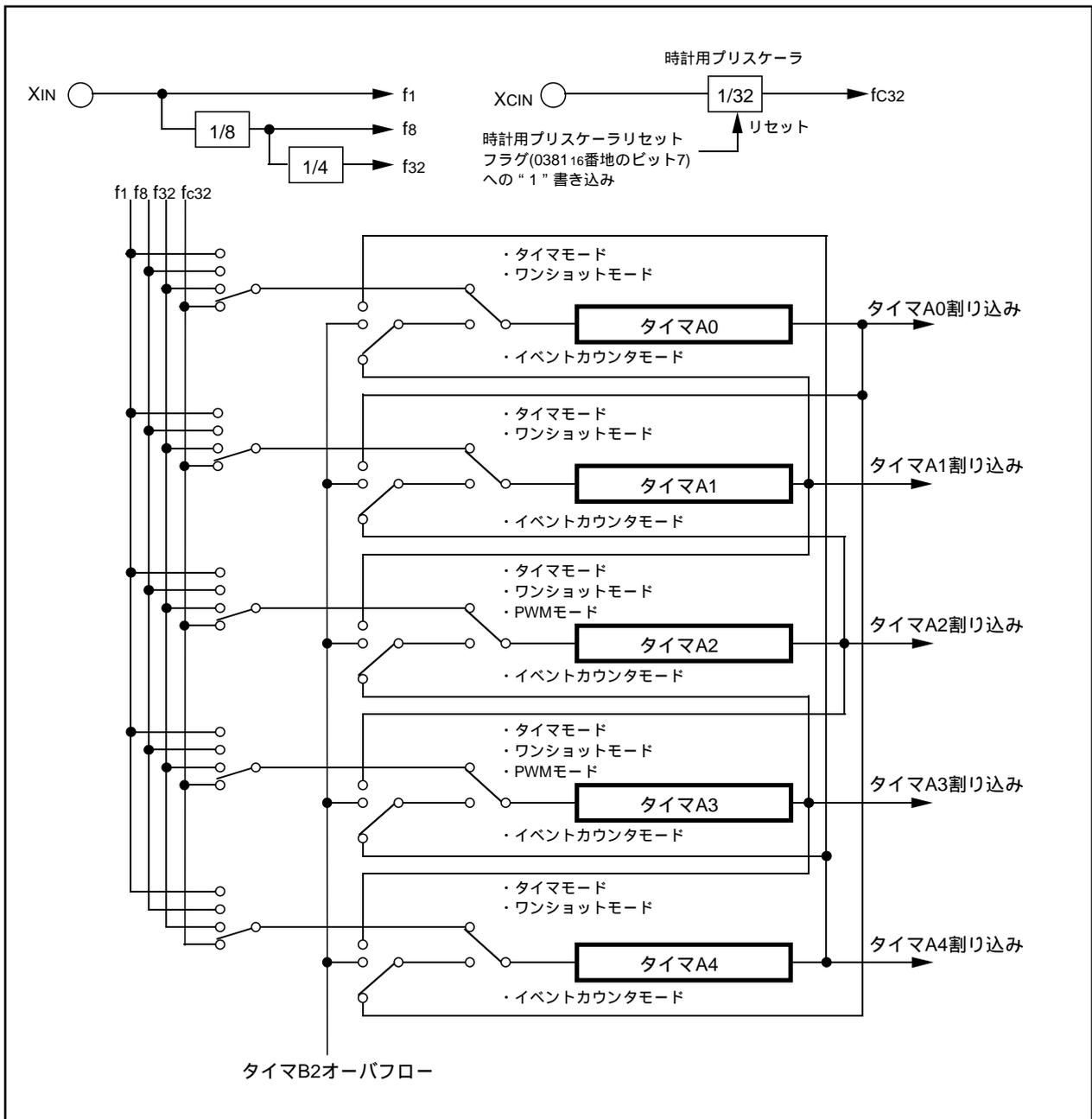


図2.10.1 タイマA構成

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

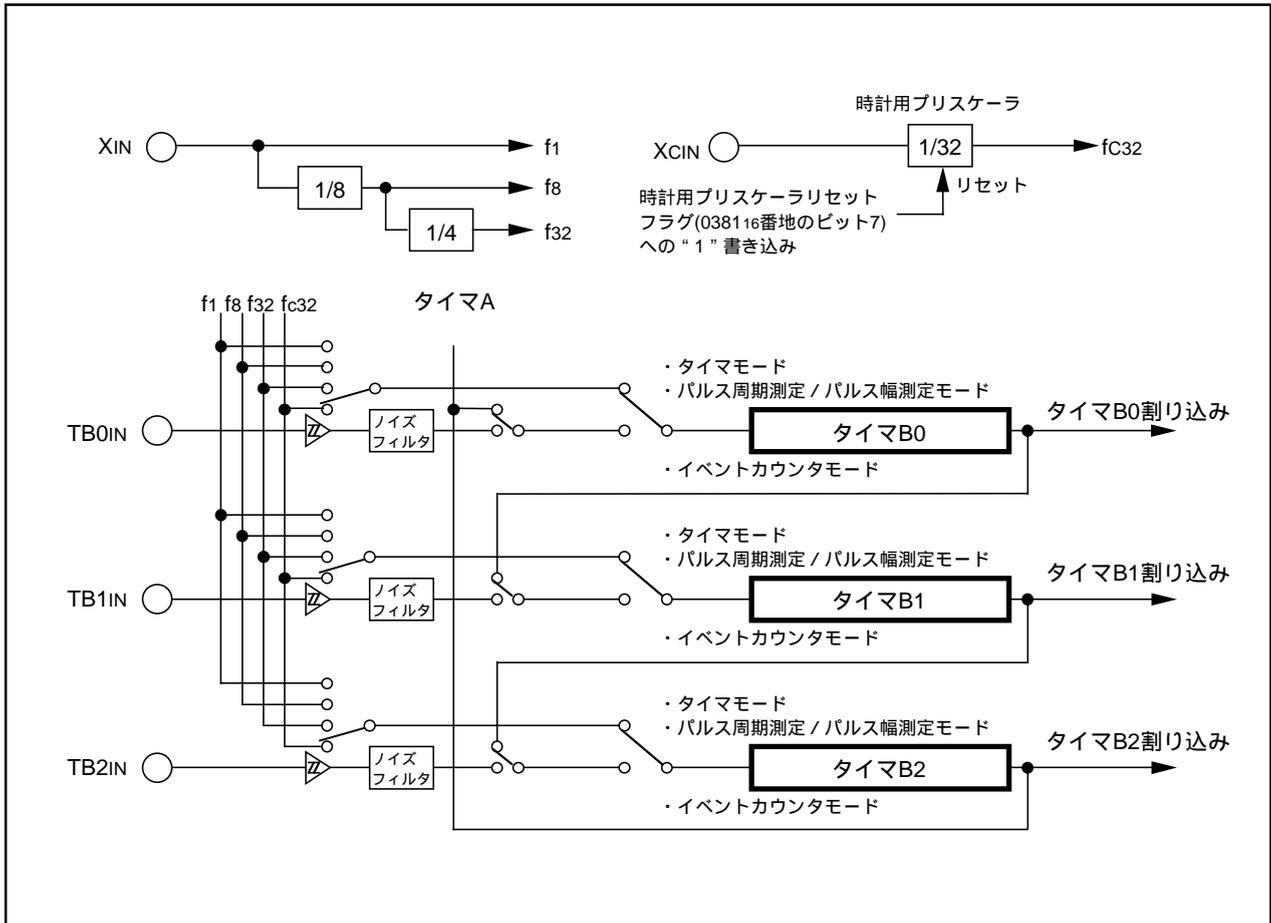


図2.10.2 タイマB構成

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.10.1 タイマA

図2.10.3にタイマAのブロック図を、図2.10.4～図2.10.10にタイマA関連のレジスタを示します。

タイマAは、次の4種類のモードを持ち、パルス出力機能を除いて、タイマA0～A4は同一の機能を持ちます。各モードは、タイマAiモードレジスタ(i=0～4)のビット0とビット1で選択できます。

- ・タイマモード 内部カウントソースをカウントするモード
- ・イベントカウンタモード タイマのオーバーフローをカウントするモード
- ・ワンショットタイマモード カウント値が“0000₁₆”になるとカウントが止まるモード
- ・パルス幅変調モード 任意のパルス幅を連続して出力するモード

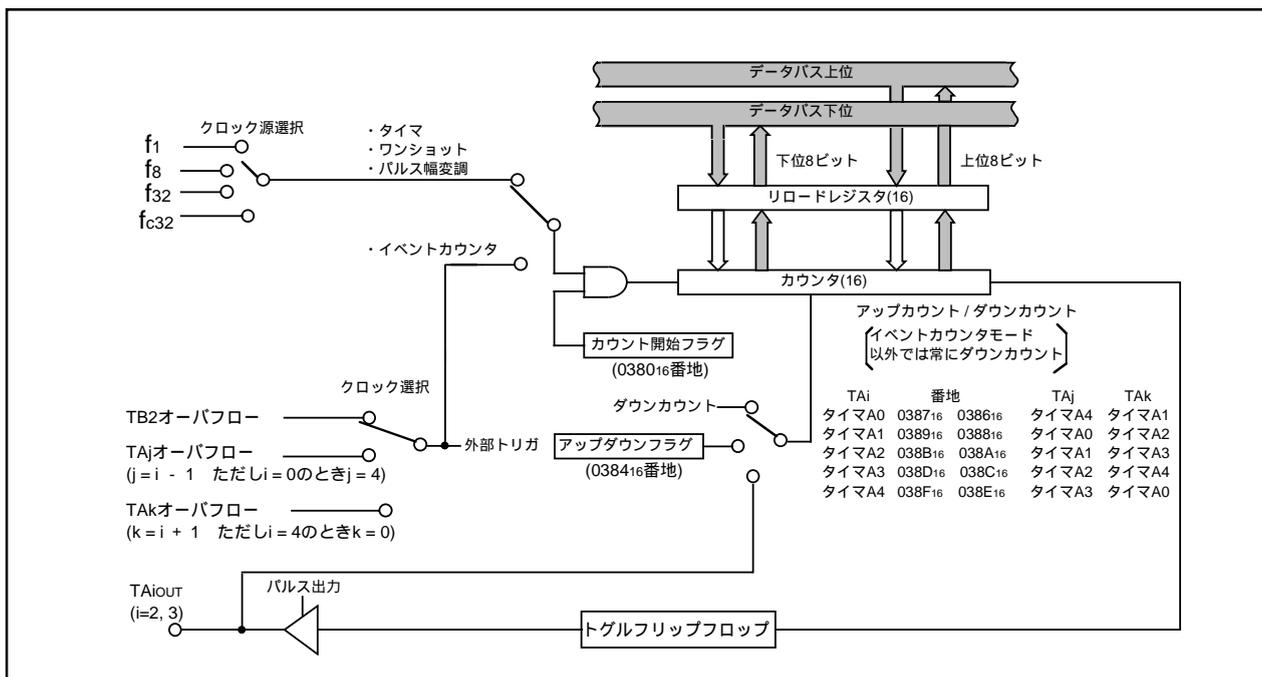


図2.10.3 タイマAブロック図

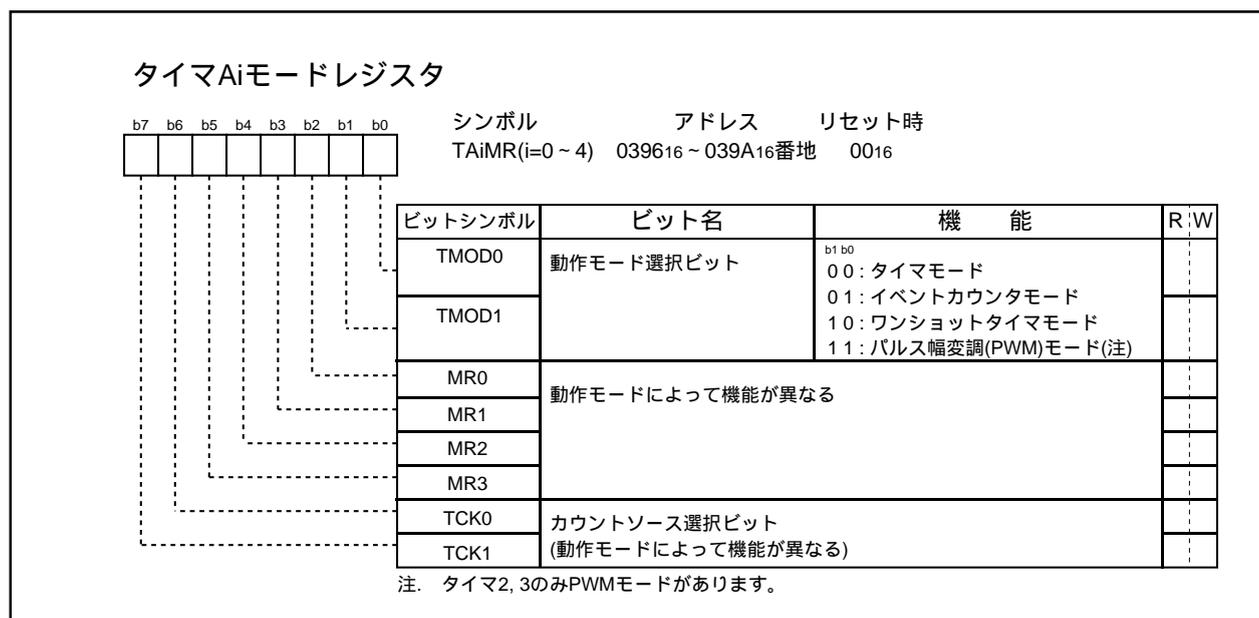


図2.10.4 タイマAiモードレジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

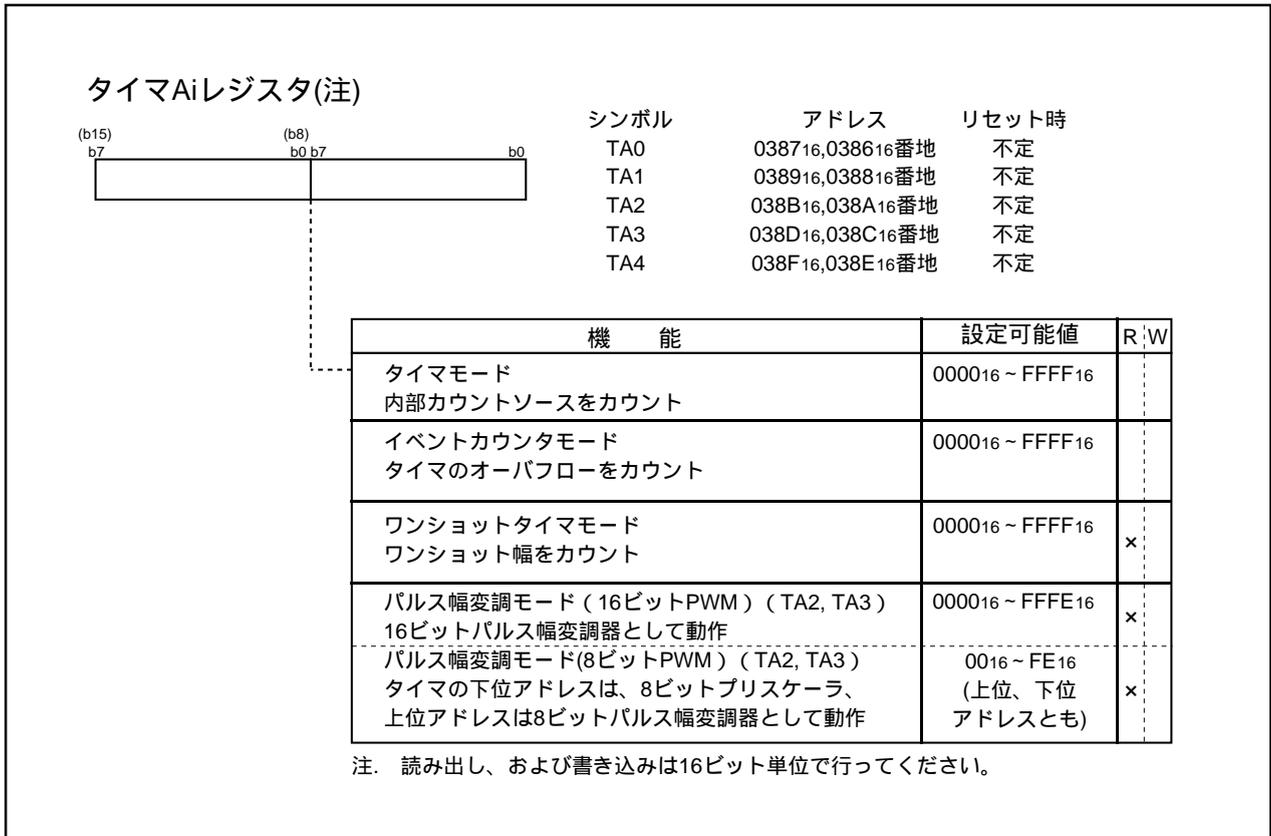


図2.10.5 タイマAiレジスタ

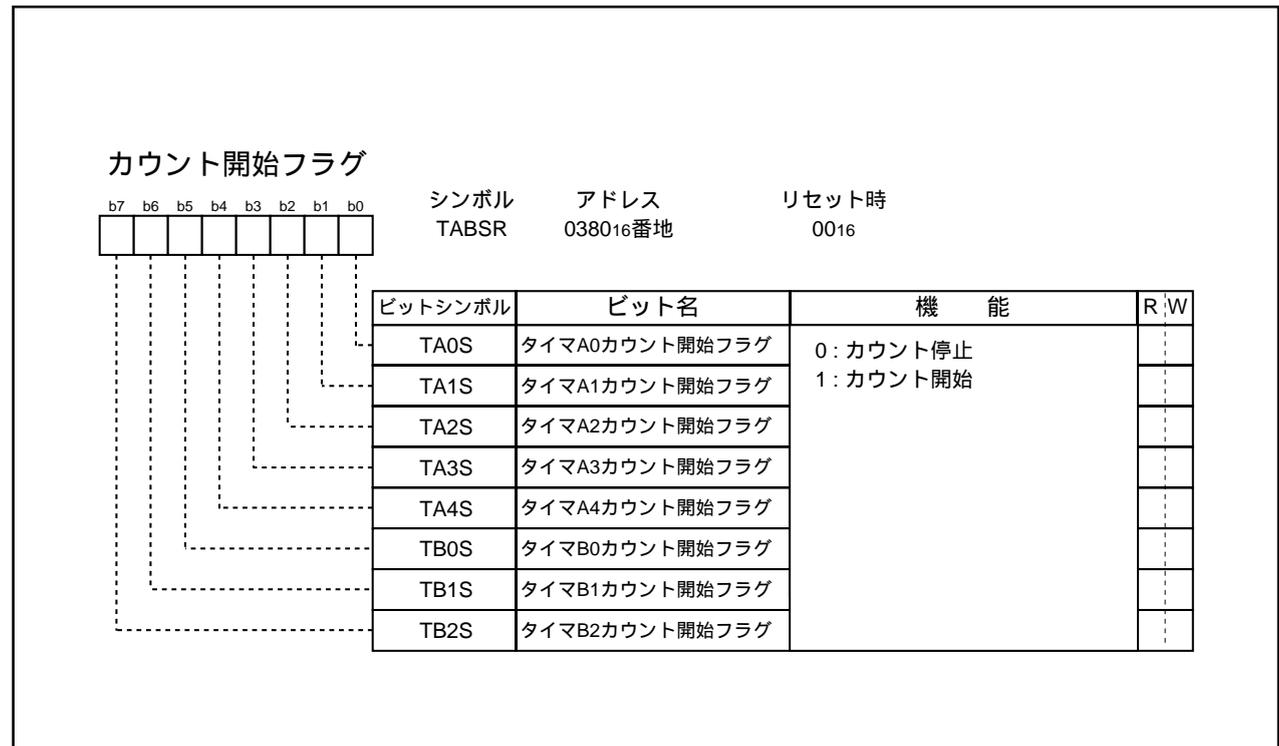


図2.10.6 カウント開始フラグ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

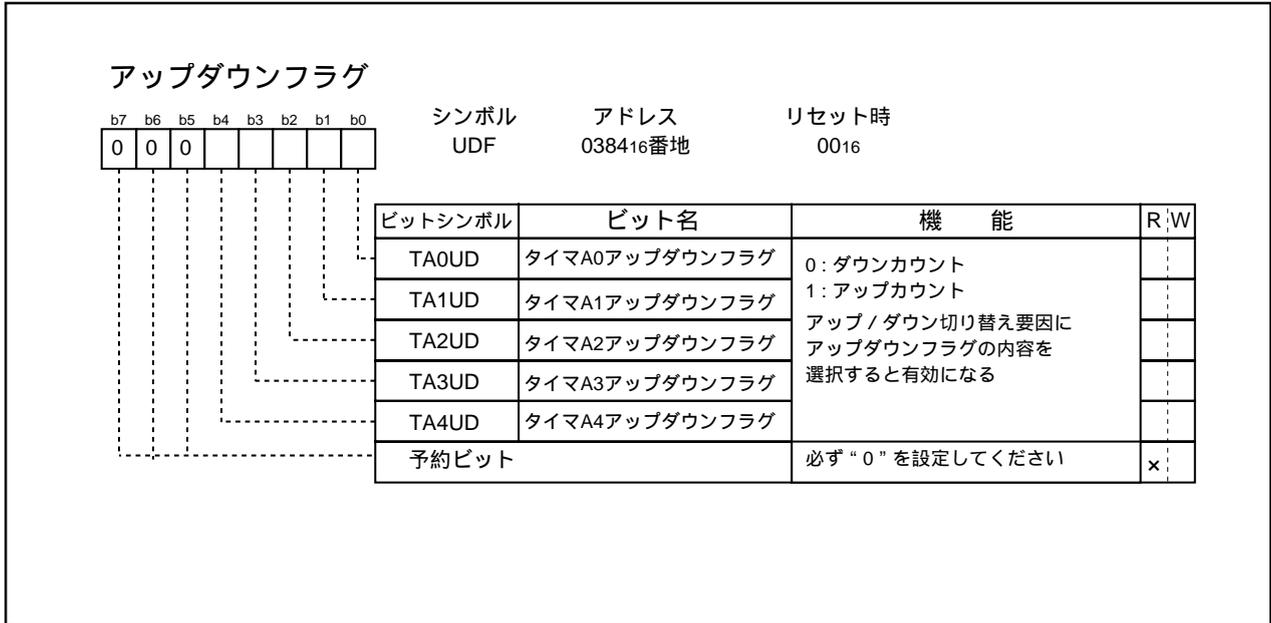


図2.10.7 アップダウンフラグ

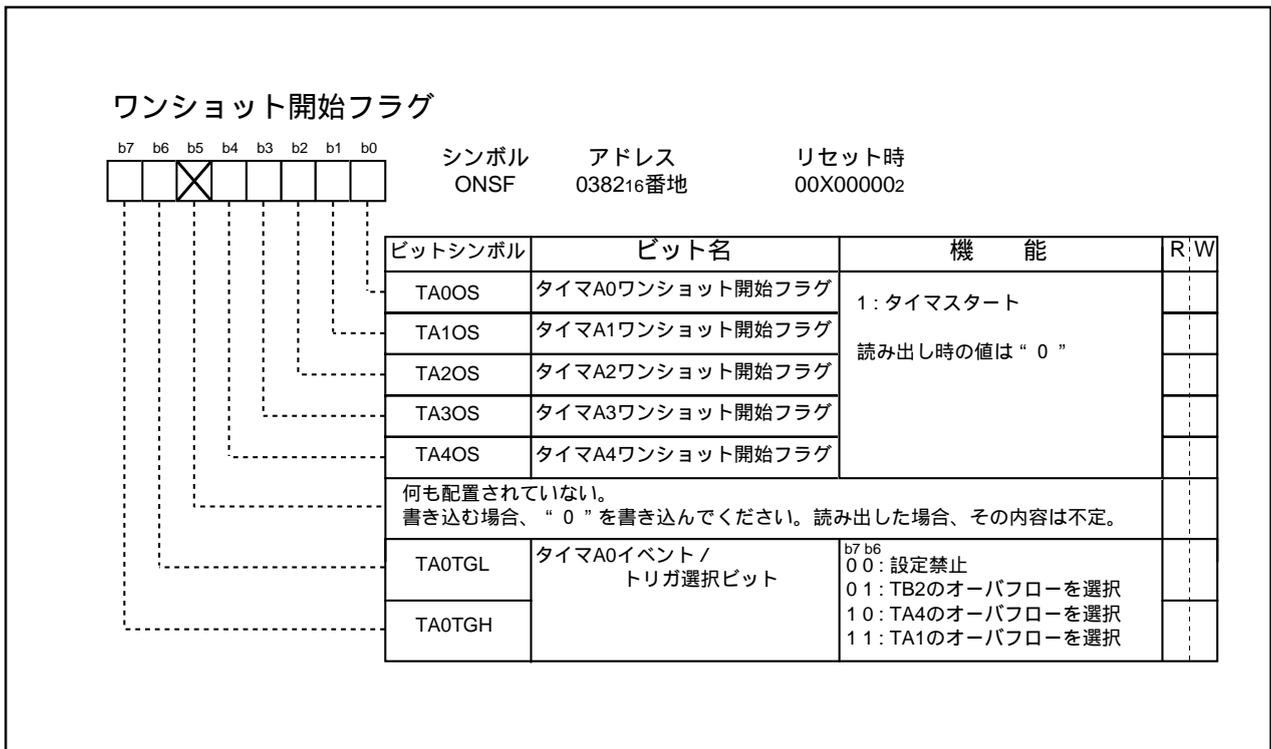


図2.10.8 ワンショット開始フラグ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

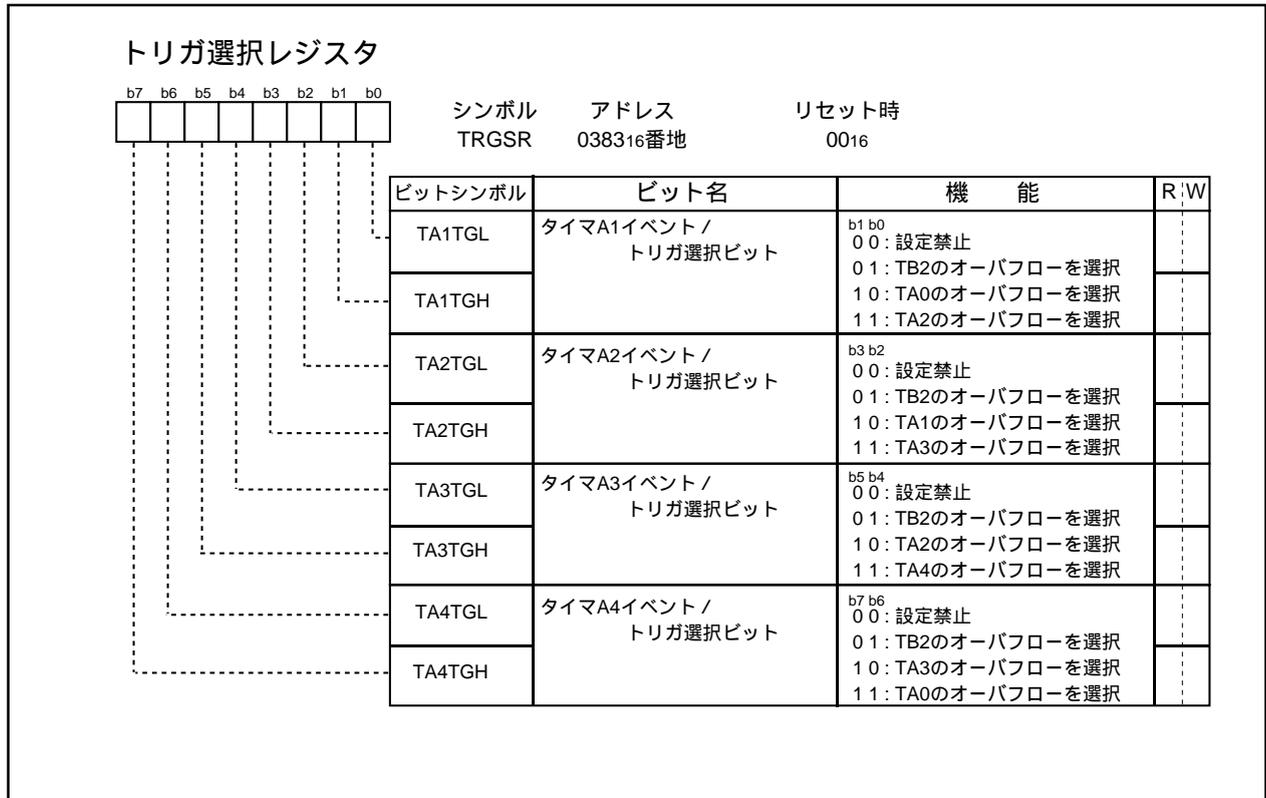


図2.10.9 トリガ選択レジスタ

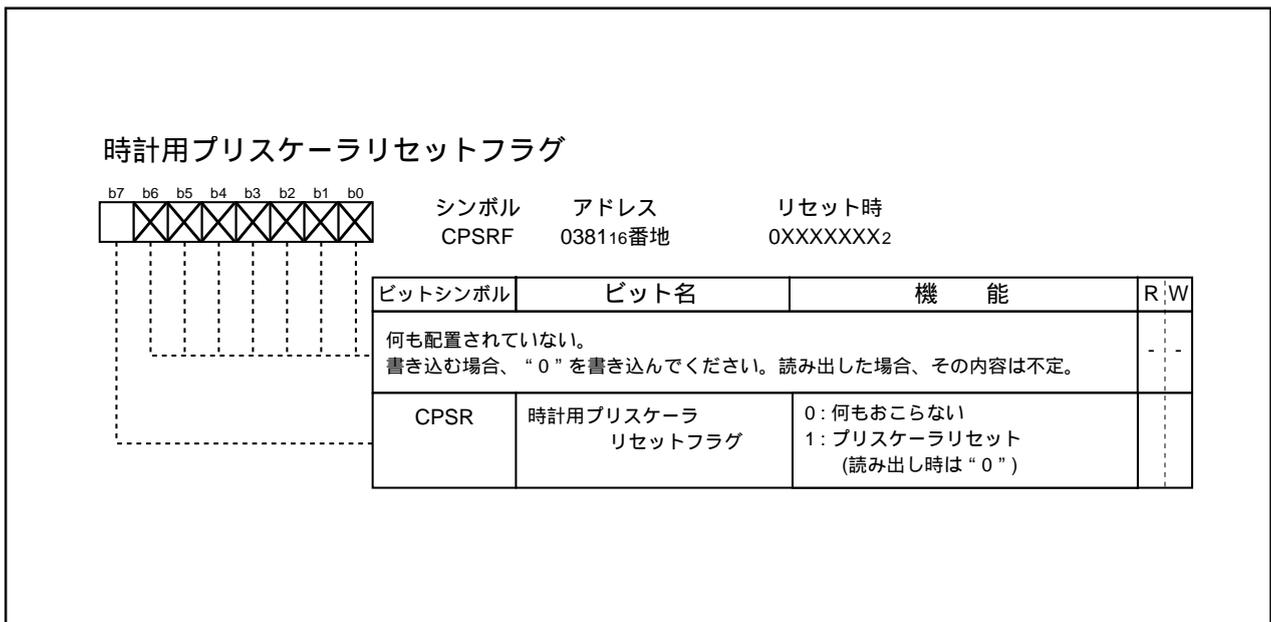


図2.10.10 時計用プリスケアラリセットフラグ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(1) タイマモード

内部で生成されたカウントソースをカウントするモードです(表2.10.1)。図2.10.11にタイマモード時のタイマAiモードレジスタを示します。

表2.10.1 タイマモードの仕様

項目	仕様
カウントソース	f1, f8, f32, fc32
カウント動作	ダウンカウント アンダフロー時リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続
分周比	1/(n+1) n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	アンダフロー時
TA2OUT/TA3OUT端子機能	プログラマブル入出力ポート、又はパルス出力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)
選択機能	パルス出力機能 アンダフローするごとにTAiOUT端子の極性が反転

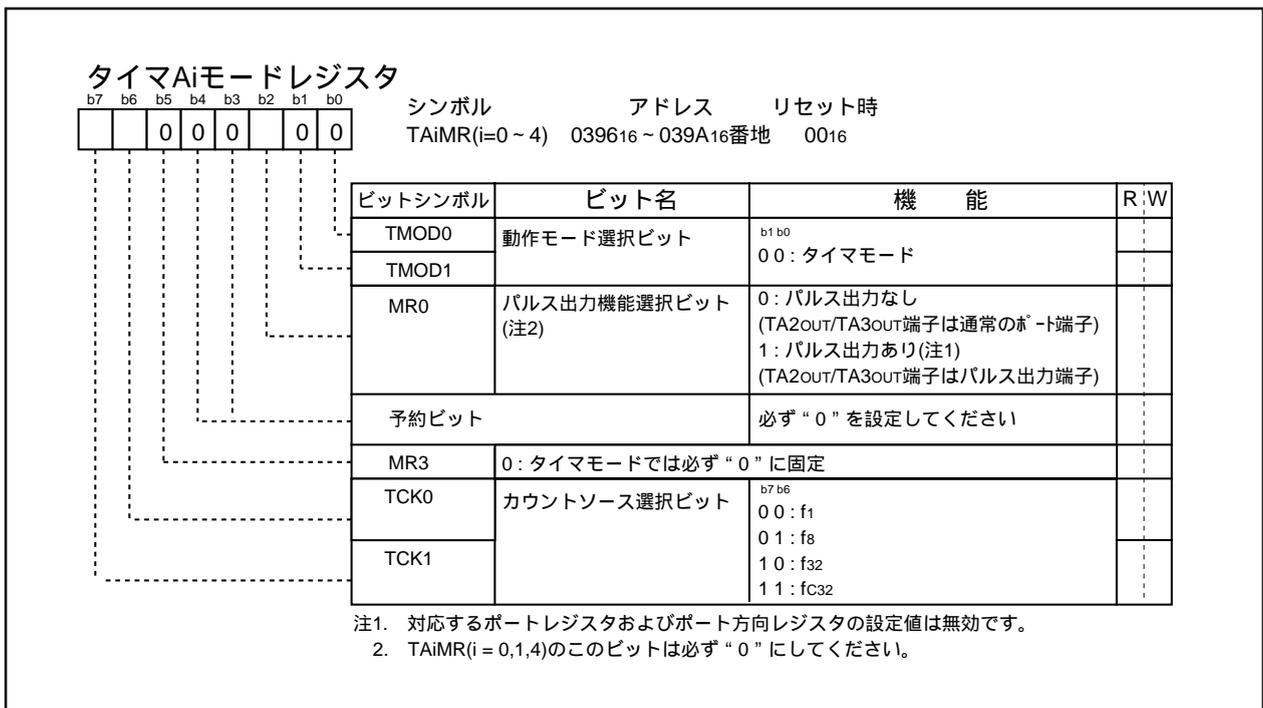


図2.10.11 タイマモード時のタイマAiモードレジスタ(*i* = 0 ~ 4)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(2) イベントカウンタモード

内部タイマのオーバフローをカウントするモードです。

表2.10.2 イベントカウンタモードの仕様

項 目	仕 様
カウントソース	TB2のオーバフロー、TAjのオーバフロー、TAkのオーバフロー
カウント動作	アップカウントまたはダウンカウントを、外部信号またはソフトウェアで選択可能 オーバフローまたはアンダフロー時は、リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続(注)
分周比	アップカウント時 $1/(FFFF_{16} - n + 1)$ ダウンカウント時 $1/(n + 1)$ n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	オーバフロー時、およびアンダフロー時
TA2OUT/TA3OUT端子機能	プログラマブル入出力ポート、パルス出力、またはアップカウント/ダウンカウント切り替え入力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)
選択機能	フリーランカウント機能 オーバフローまたはアンダフローが発生してもリロードレジスタからリロードしない パルス出力機能 オーバフローまたはアンダフローするごとにTAiOUT端子の極性が反転

注. フリーラン機能選択時は除きます。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

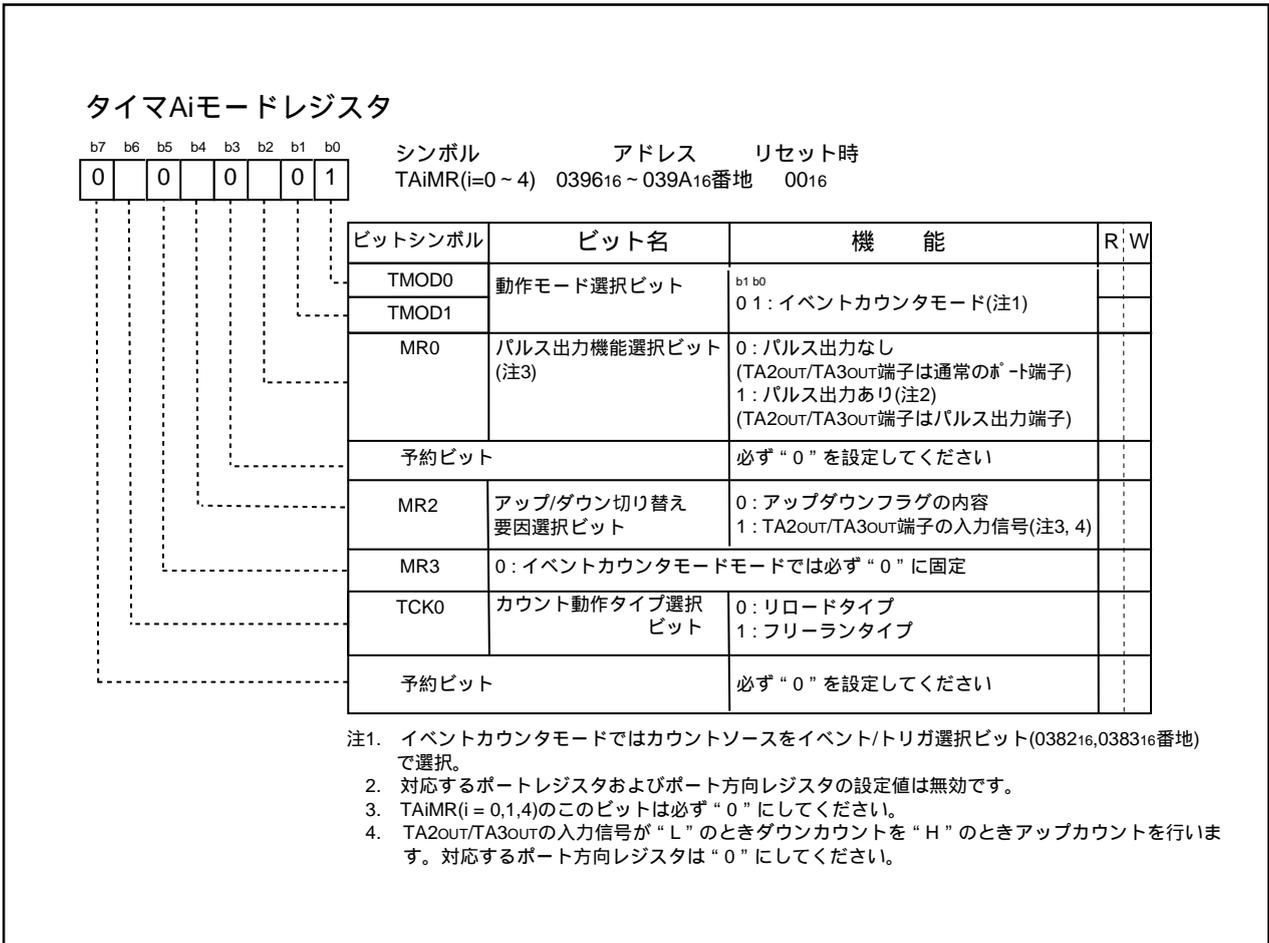


図2.10.12 イベントカウンタモード時のタイマAiモードレジスタ (i=0~4)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(3) ワンショットタイマモード

1度だけタイマを動作するモードです(表2.10.3)。トリガが発生するとその時点から任意の期間、タイマが動作します。図2.10.13にワンショットタイマモード時のタイマAiモードレジスタを示します。

表2.10.3 ワンショットタイマモードの仕様

項目	仕様
カウントソース	f1, f8, f32, fc32
カウント動作	ダウンカウント カウントの値が0000 ₁₆ になるタイミングでリロードしてカウントを停止 カウント中にトリガが発生した場合、リロードしてカウントを継続
分周比	1/n n:設定値
カウント開始条件	タイマのオーバフロー ワンショット開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウントの値が0000 ₁₆ になりリロードした後 カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	カウントの値が0000 ₁₆ になるタイミング
TA2OUT/TA3OUT端子機能	プログラマブル入出力ポート、またはパルス出力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、不定値が読み出される
タイマの書き込み	カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

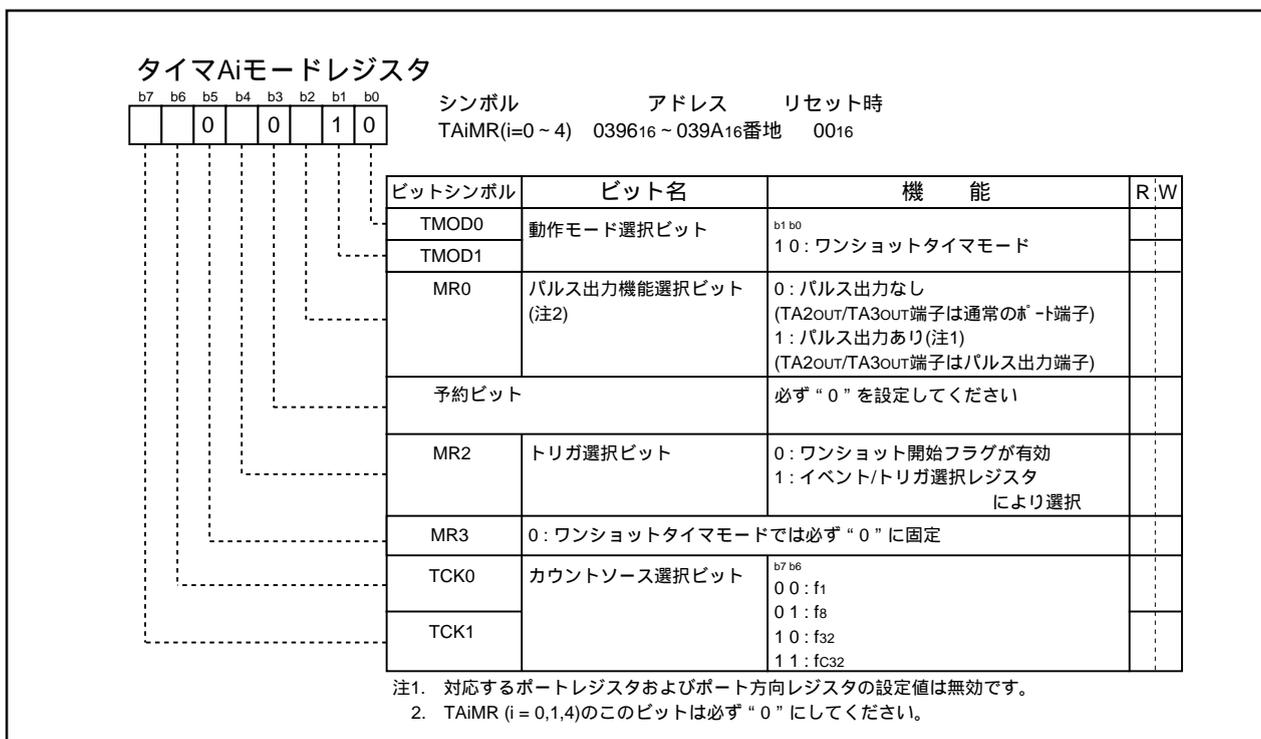


図2.10.13 ワンショットタイマモード時のタイマAiモードレジスタ (i = 0 ~ 4)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(4) パルス幅変調モード

任意の幅のパルスを連続して出力するモードです(表2.10.4)。このモードでは、カウンタは、16ビットパルス幅変調器、8ビットパルス幅変調器のいずれかのパルス幅変調器として動作します。図2.10.14にパルス幅変調モード時のタイマAiモードレジスタ、図2.10.15に8ビットパルス幅変調器の動作例を示します。

表2.10.4 パルス幅変調モードの仕様

項目	仕様
カウントソース	f1, f8, f32, fc32
カウント動作	ダウンカウント(8ビット、または16ビットパルス幅変調器として動作) PWMパルスの立ち上がりでリロードしてカウントを継続 カウント中にトリガが発生した場合、カウントに影響しない
16ビットPWM	“H” レベル幅 n / f_i n:設定値 周期 $(2^{16} - 1) / f_i$ 固定
8ビットPWM	“H” レベル幅 $n \times (m+1) / f_i$ n:タイマAiレジスタの上位アドレスの設定値 周期 $(2^8 - 1) \times (m+1) / f_i$ m:タイマAiレジスタの下位アドレスの設定値
カウント開始条件	タイマのオーバフロー カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	PWMパルスの立ち下がり時
TA2OUT/TA3OUT端子機能	パルス出力
タイマの読み出し	タイマAiレジスタを読み出すと、不定値が読み出される
タイマの書き込み	カウント停止中 タイマAiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる カウント中 タイマAiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

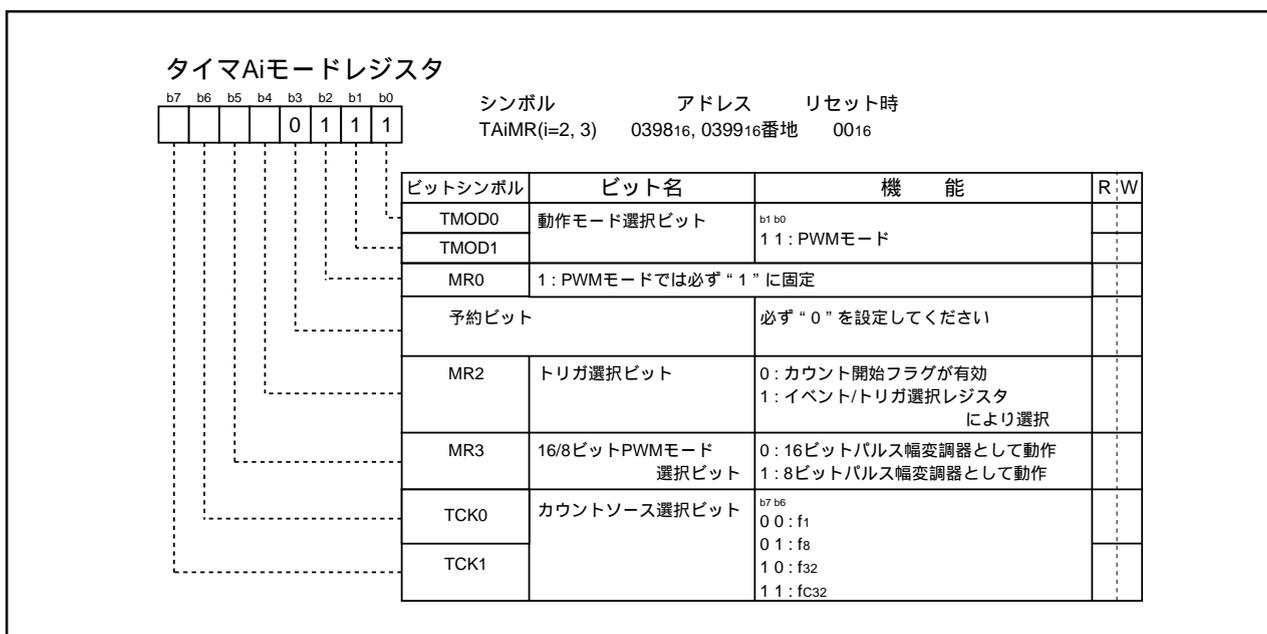


図2.10.14 パルス幅変調モード時のタイマAiモードレジスタ (*i* = 2, 3)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

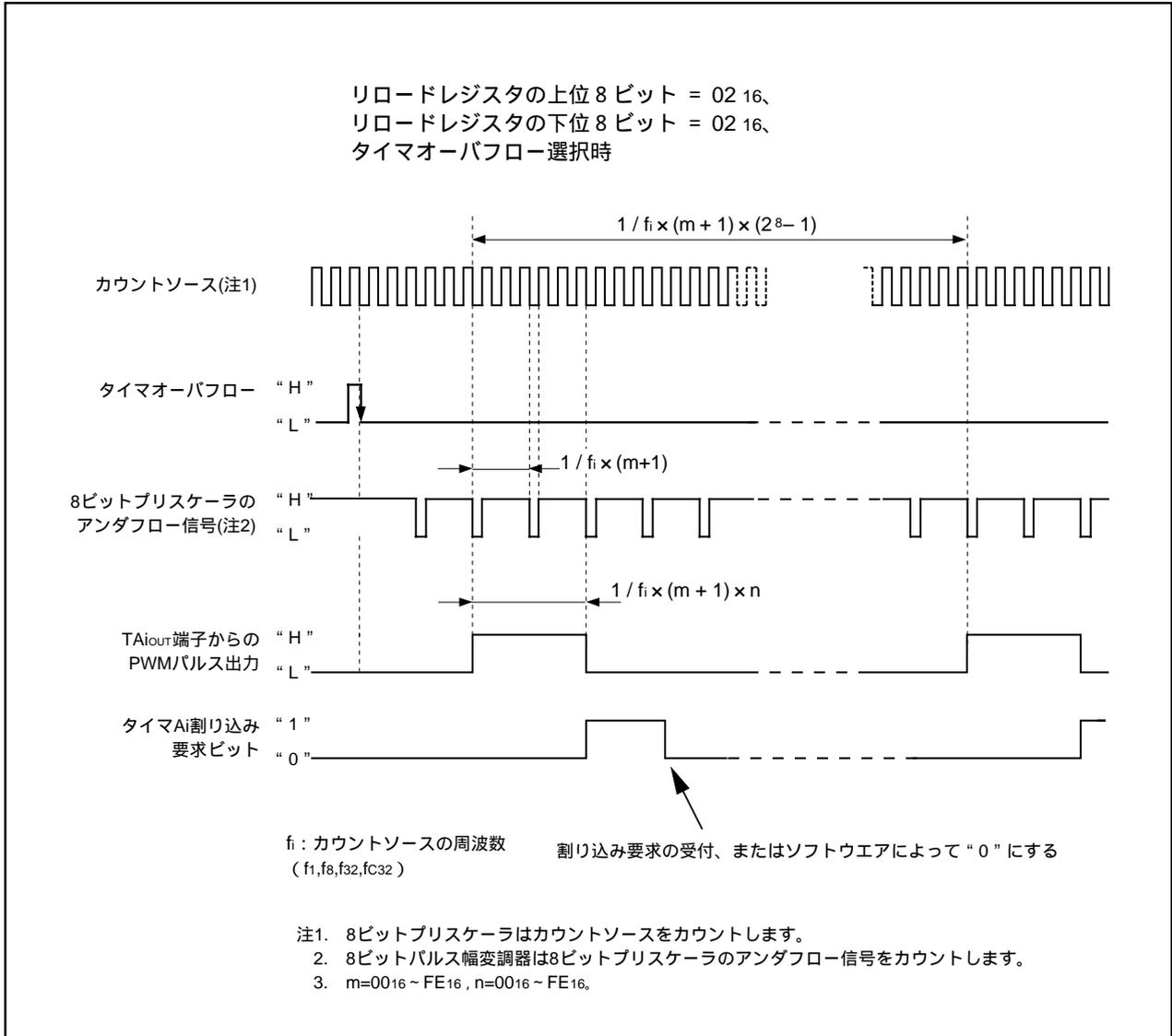


図2.10.15 8ビットパルス幅変調器の動作例

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.10.2 タイマB

図2.10.17にタイマBのブロック図を、図2.10.17～図2.10.20にタイマB関連レジスタを示します。

タイマBは、次の3種類のモードを持ちます。各モードは、タイマBiモードレジスタ(i=0～2)のビット0とビット1で選択できます。

- ・タイマモード 内部カウントソースをカウントするモード
- ・イベントカウンタモード 外部からのパルスまたはタイマのオーバーフローをカウントするモード
- ・パルス周期測定/パルス幅測定モード 外部パルスの周期またはパルス幅を測定するモード

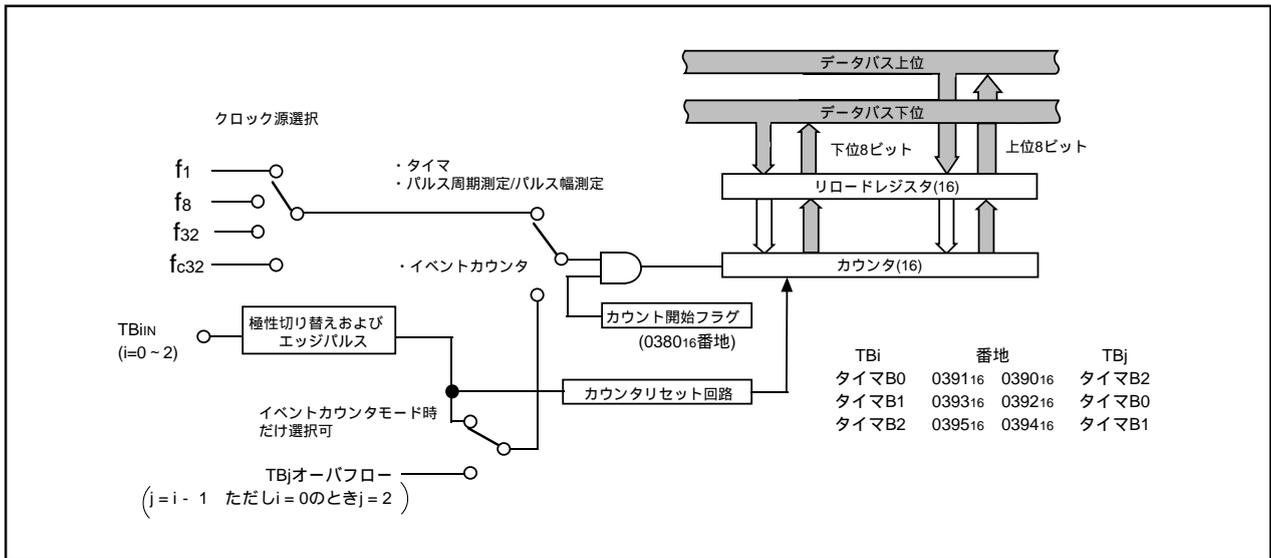


図2.10.16 タイマBブロック図

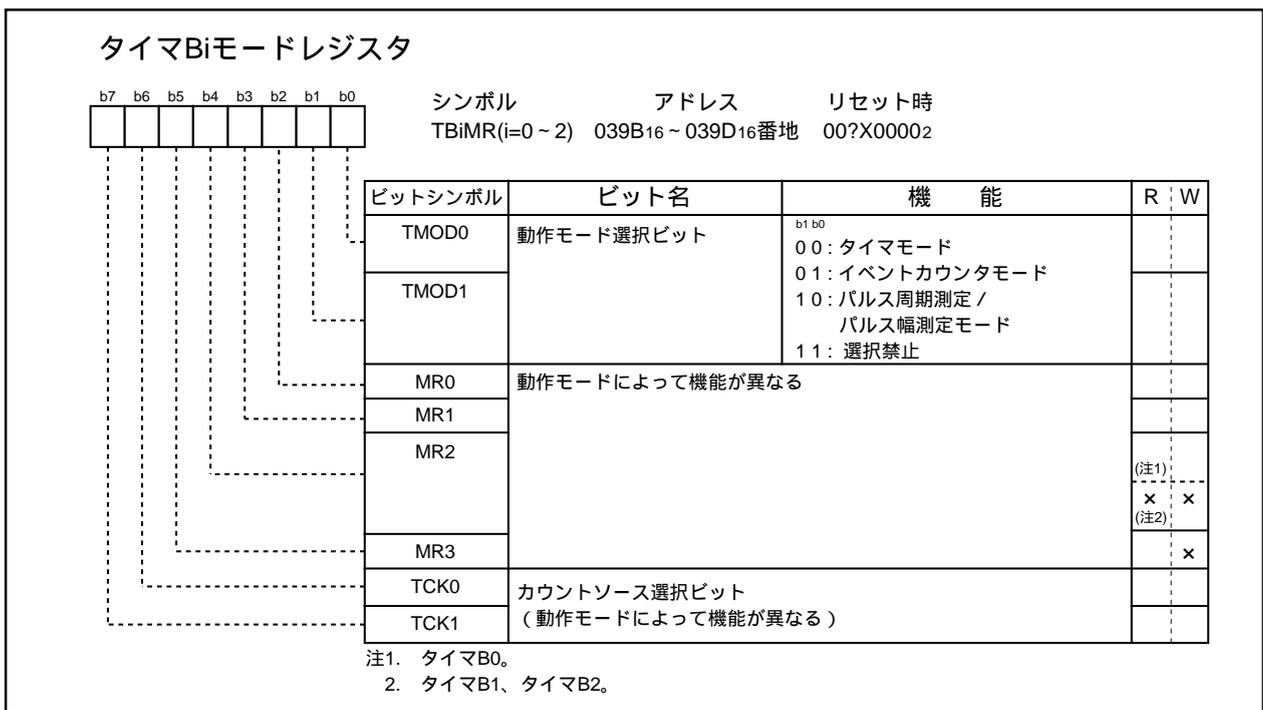


図2.10.17 タイマBiモードレジスタ (i = 0～2)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

タイマBiレジスタ(注)

シンボル	アドレス	リセット時
TB0	0391 ₁₆ ,0390 ₁₆ 番地	不定
TB1	0393 ₁₆ ,0392 ₁₆ 番地	不定
TB2	0395 ₁₆ ,0394 ₁₆ 番地	不定

機 能	設定可能値	R/W
タイマモード タイマの周期をカウント	0000 ₁₆ ~ FFFF ₁₆	R
イベントカウンタモード 外部からの入力パルスまたはタイマのオーバーフローを カウント	0000 ₁₆ ~ FFFF ₁₆	R
パルス周期測定モード/パルス幅測定モード パルス周期、またはパルス幅を測定	—	x

注. 読み出し、および書き込みは16ビット単位で行ってください。

図2.10.18 タイマBiレジスタ (i = 0 ~ 2)

カウント開始フラグ

シンボル	アドレス	リセット時
TABSR	0380 ₁₆ 番地	00 ₁₆

ビットシンボル	ビット名	機 能	R/W
TA0S	タイマA0カウント開始フラグ	0: カウント停止 1: カウント開始	R
TA1S	タイマA1カウント開始フラグ		R
TA2S	タイマA2カウント開始フラグ		R
TA3S	タイマA3カウント開始フラグ		R
TA4S	タイマA4カウント開始フラグ		R
TB0S	タイマB0カウント開始フラグ		R
TB1S	タイマB1カウント開始フラグ		R
TB2S	タイマB2カウント開始フラグ		R

図2.10.19 カウント開始フラグ

時計用プリスケアラリセットフラグ

シンボル	アドレス	リセット時
CPSRF	0381 ₁₆ 番地	0XXXXXXX ₂

ビットシンボル	ビット名	機 能	R/W
		何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その内容は不定。	-
CPSR	時計用プリスケアラ リセットフラグ	0: 何もおこなない 1: プリスケアラリセット (読み出し時は“0”)	R

図2.10.20 時計用プリスケアラリセットフラグ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(1) タイマモード

内部で生成されたカウントソースをカウントするモードです(表2.10.5)。図2.10.21にタイマモード時のタイマBiモードレジスタを示します。

表2.10.5 タイマモードの仕様

項目	仕様
カウントソース	f1,f8,f32,fc32
カウント動作	ダウンカウント アンダフロー時リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続
分周比	1/(n+1) n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	アンダフロー時
TBiIN端子機能	プログラマブル入出力ポート
タイマの読み出し	タイマBiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	カウント停止中 タイマBiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる カウント中 タイマBiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

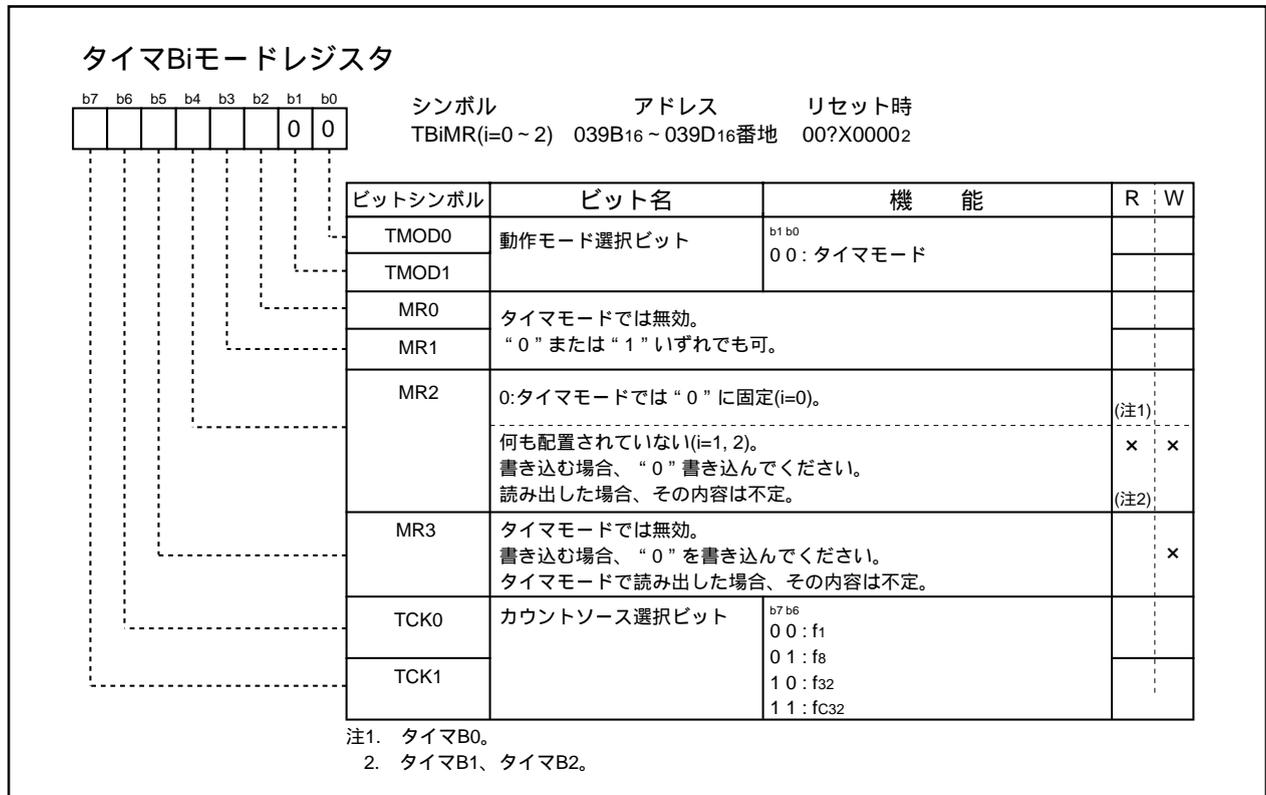


図2.10.21 タイマモード時のタイマBiモードレジスタ (i = 0 ~ 2)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(2) イベントカウンタモード

外部信号または内部タイマのオーバフローをカウントするモードです(表2.10.6)。タイマBiレジスタを図2.10.22に示します。

表2.10.6 イベントカウンタモードの仕様

項目	仕様
カウントソース	TBiIN端子に入力された外部信号 カウントソースの有効エッジには立ち上がり、立ち下がり、または立ち下がりおよび立ち上りをソフトウェアによって選択可
カウント動作	ダウンカウント アンダフロー時は、リロードレジスタの内容をリロードしてカウントを継続
分周比	1/(n+1) n:設定値
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	アンダフロー時
TBiIN端子機能	カウントソース入力
タイマの読み出し	タイマBiレジスタを読み出すと、カウント値が読み出される
タイマの書き込み	カウント停止中 タイマBiレジスタに書き込むと、リロードレジスタおよびカウンタの両方に書き込まれる カウント中 タイマBiレジスタに書き込むとリロードレジスタにだけ書き込まれる(次のリロード時に転送)

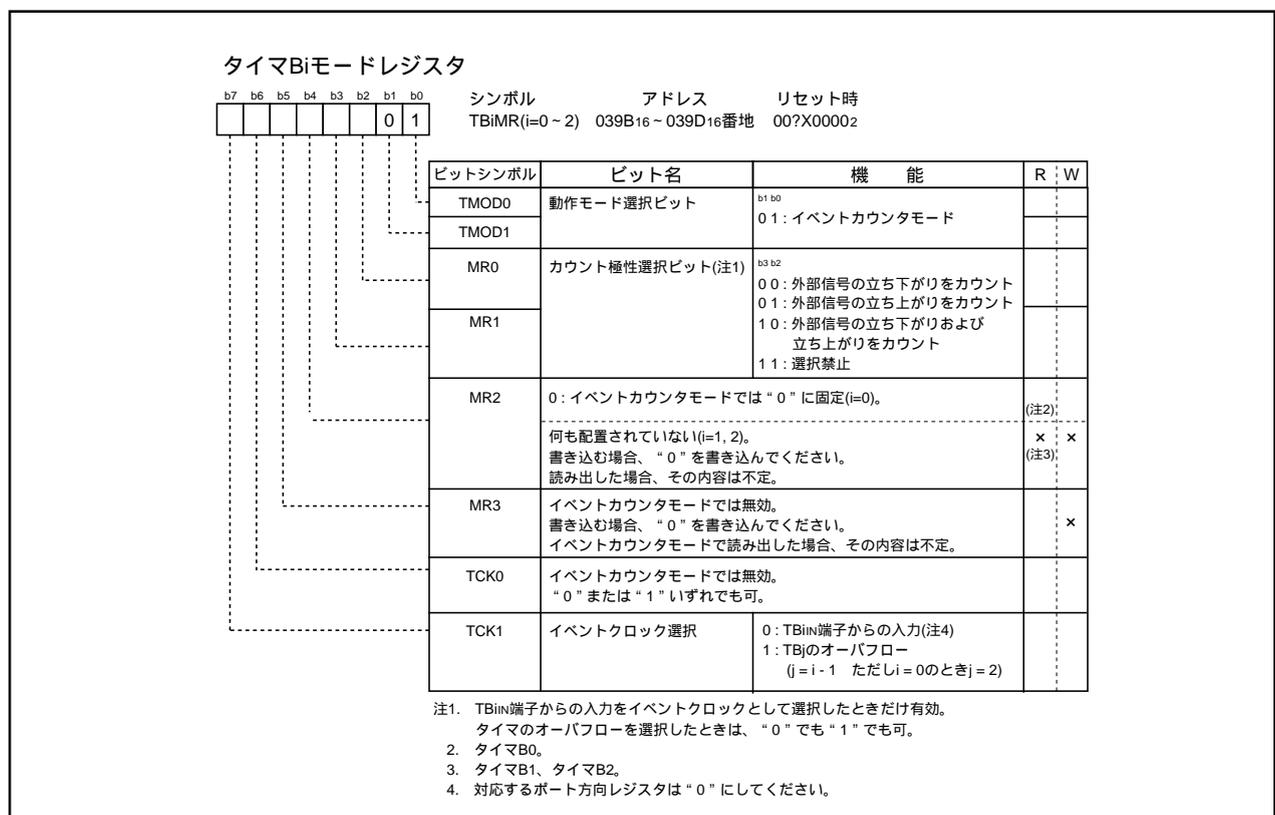


図2.10.22 イベントカウンタモード時のタイマBiモードレジスタ (i = 0 ~ 2)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(3) パルス周期測定 / パルス幅測定モード

外部信号のパルス周期、またはパルス幅を設定するモードです (表2.10.7)。図2.10.23にパルス周期測定 / パルス幅測定モード時のタイマBiモードレジスタ、図2.10.24にパルス周期測定時の動作図、及び図2.10.25にパルス幅測定時の動作図を示します。

表2.10.7 パルス周期測定 / パルス幅測定モードの仕様

項目	仕様
カウントソース	f1, f8, f32, fc32
カウント動作	アップカウント 測定パルスの有効エッジで、リロードレジスタにカウンタの値を転送し、カウンタの値を“0000 ₁₆ ”にしてカウントを継続
カウント開始条件	カウント開始フラグへの“1”書き込み
カウント停止条件	カウント開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	測定パルスの有効エッジ入力時(注1) オーバフロー時(同時にタイマBiオーバフローフラグが“1”になります。タイマBiオーバフローフラグは、カウント開始フラグが“1”の状態ではタイマBiモードレジスタ書き込みを行うと“0”になります。)
TBiIN端子機能	測定パルス入力
タイマの読み出し	タイマBiレジスタを読み出すと、リロードレジスタの内容(測定結果)が読み出される(注2)
タイマの書き込み	不可

- 注1. カウント開始後1回目の有効エッジ入力時は、割り込み要求は発生しません。
2. カウント開始後2回目の有効エッジ入力までは、タイマBiレジスタからの読み出し値は不定です。

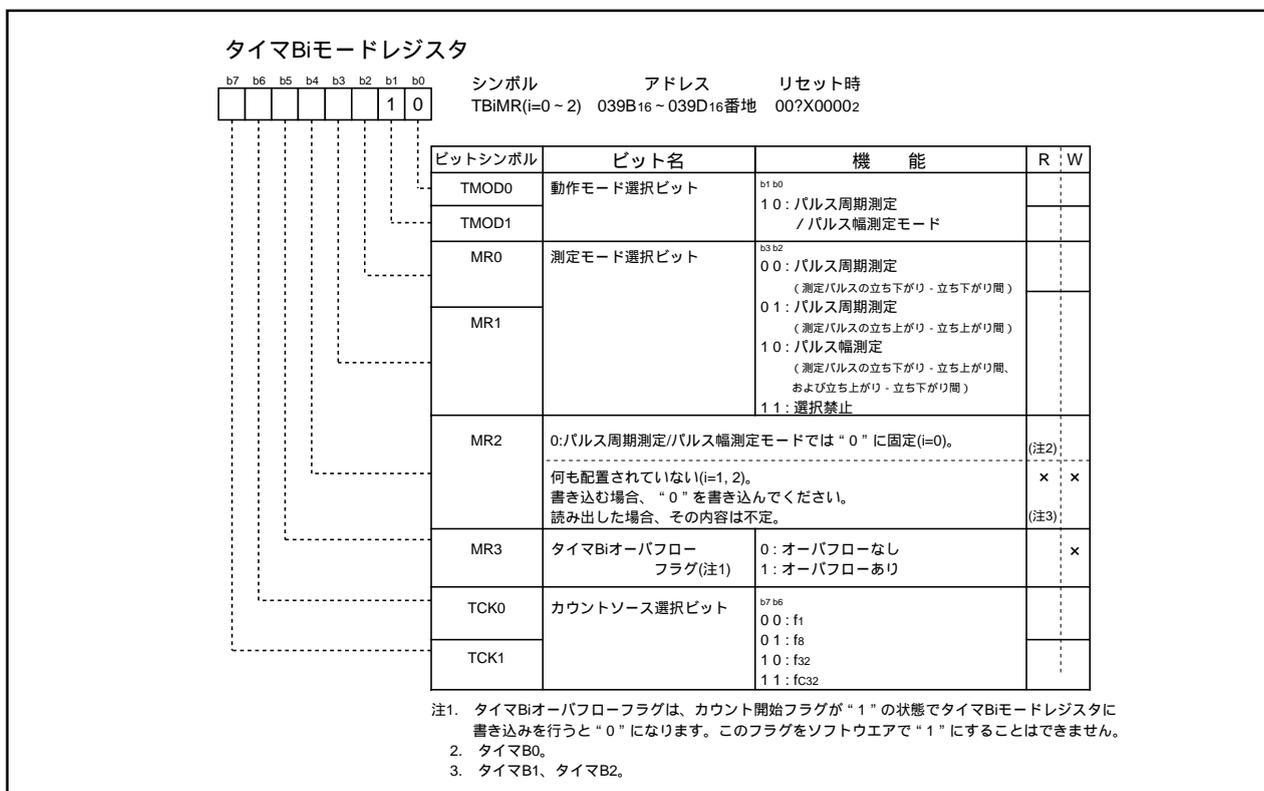


図2.10.23 パルス周期測定 / パルス幅測定モード時のタイマBiモードレジスタ (i = 0 ~ 2)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

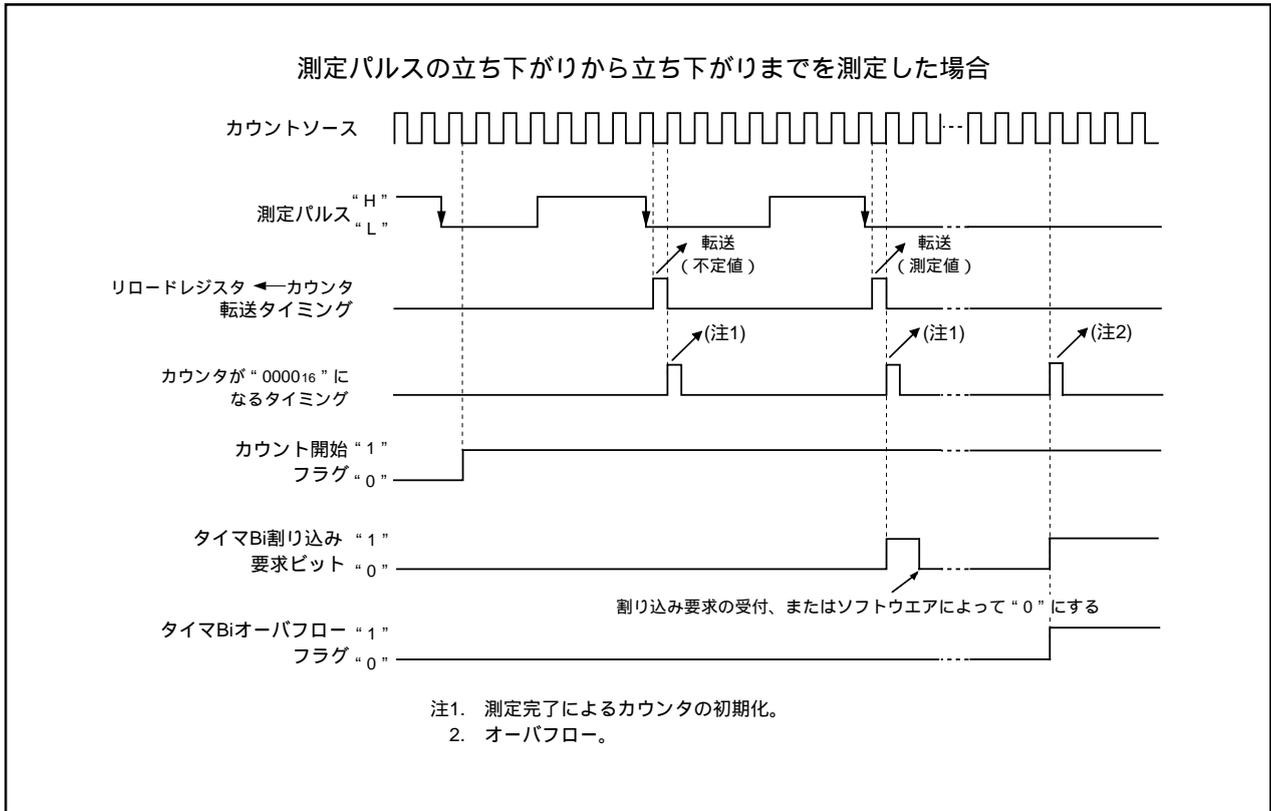


図2.10.24 パルス周期測定時の動作図

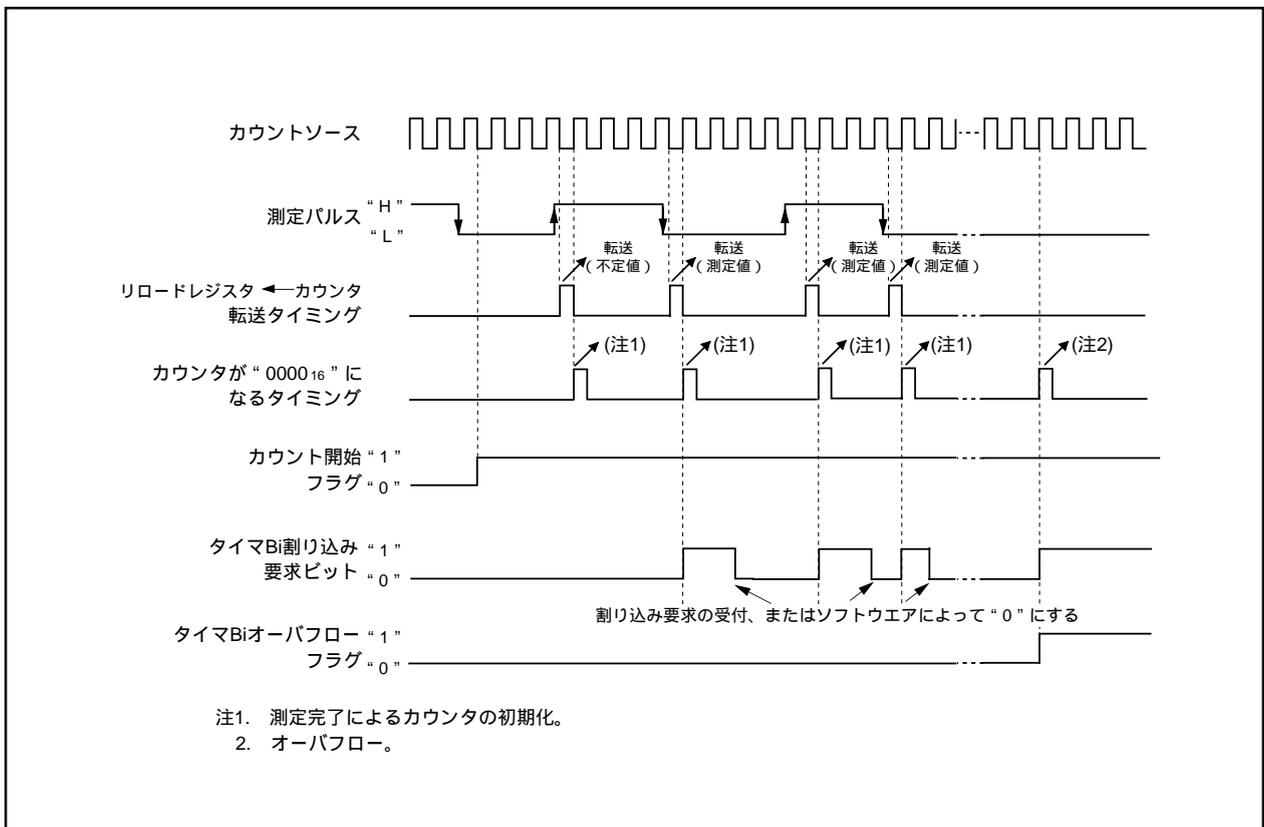


図2.10.25 パルス幅測定時の動作図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

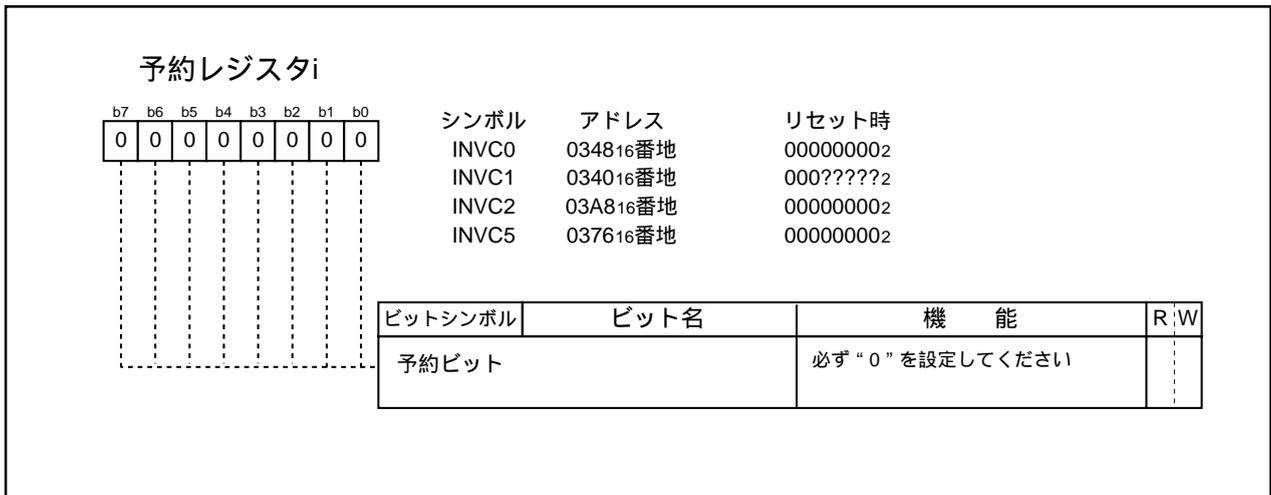


図2.10.26 予約レジスタ_i (i=0~2, 5)

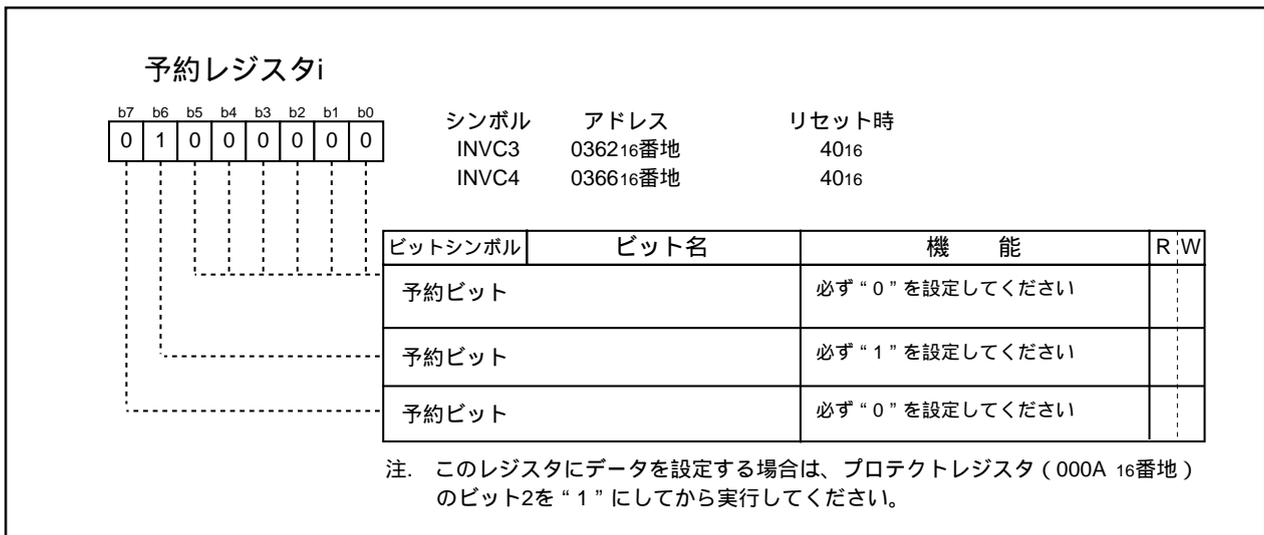


図2.10.27 予約レジスタ_i (i=3, 4)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(4) TB0INノイズフィルタ

TB0IN端子の入力にはノイズフィルタが内蔵されています。ノイズフィルタのON/OFF、フィルタクロックの選択は、ペリフェラルモードレジスタのビット2～ビット4で行います。

注. ノイズフィルタを使用する場合、ペリフェラルモードレジスタのビット7をメインクロックの周波数に従って設定してください。

シンボル	アドレス	リセット時
PM	027D ₁₆ 番地	0XX00000 ₂

ビットシンボル	ビット名	機能	R	W
BSEL0	I ² C-BUSインタフェースポート 選択ビット	b1 b0 0 0 : なし 0 1 : SCL1, SDA1 1 0 : SCL2, SDA2 1 1 : SCL1とSDA1, SCL2とSDA2		
BSEL1				
WSEL0	TB0IN端子ノイズフィルタ クロック選択ビット	b3 b2 0 0 : 0.25 μs (除去可能な最大バス幅=0.75 μs) 0 1 : 8 μs (除去可能な最大バス幅=24 μs) 1 0 : 16 μs (除去可能な最大バス幅=48 μs) 1 1 : 32 μs (除去可能な最大バス幅=96 μs)		
WSEL1				
NFON		0 : ノイズフィルタOFF 1 : ノイズフィルタON		
何も配置されていない(i=1, 2)。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その内容は不定。			-	-
SSCK	メインクロック周波数選択 ビット	0 : f(X _{IN})=10MHz 1 : f(X _{IN})=16MHz		

注. f(X_{IN})=16MHz時のMCUの動作保証はありません。

図2.10.28 ペリフェラルモードレジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.11 シリアルI/O

シリアルI/Oは、UART0、UART2、およびマルチマスタ²C-BUSインタフェース0、マルチマスタ²C-BUSインタフェース1の4ユニットで構成しています。

次にそれぞれについて説明します。

2.11.1 UART0, UART2

UART0及びUART2はそれぞれ専用の転送クロック発生用タイマを持ち、独立して動作します。

図2.11.1にUARTi(i=0, 2)のブロック図を、図2.11.2、図2.11.3に送受信部のブロック図を示します。

UARTi(i=0, 2)は、クロック同期形シリアルI/Oモード、クロック非同期形シリアルI/Oモード(UARTモード)の2種類のモードを持ちます。クロック同期形シリアルI/Oとして使用するか、クロック非同期形シリアルI/Oとして使用するかは、シリアルI/Oモード選択ビット(03A0₁₆、0378₁₆番地のビット0～ビット2)の内容で選択します。

UART0, UART2は、一部の機能が異なることを除いてほぼ同一の機能を持ちます。特に、UART2は、クロック同期形シリアルI/Oモードに一部設定を追加することでSIMインタフェースに対応します。また、TxD端子とRxD端子のレベルが異なれば割り込み要求が発生するバス衝突検出機能を持っています。

表2.11.1にUART0及びUART2の機能比較を、図2.11.4～図2.11.14に、UARTi関連のレジスタを示します。

表2.11.1 UART0, UART2の機能比較

機 能	UART0	UART2
CLK極性選択	可 (注1)	可 (注1)
LSBファースト/MSBファースト選択	可 (注1)	可 (注2)
連続受信モード選択	可 (注1)	可 (注1)
転送クロック複数端子出力選択	不可	不可
シリアルデータ論理切り替え	不可	可 (注4)
スリープモード選択	可 (注3)	不可
TxD、RxD入出力極性切り替え	不可	可
TxD、RxD端子出力形式	CMOS出力	Nチャネルオープンドレイン出力
パリティエラー信号出力	不可	可 (注4)
バス衝突検出	不可	可

- 注1. クロック同期形シリアルI/Oモード時に選択できます。
2. クロック同期形シリアルI/Oモードおよび8ビットUARTモード時に選択できます。
3. UARTモード時に選択できます。
4. SIMインタフェース対応。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

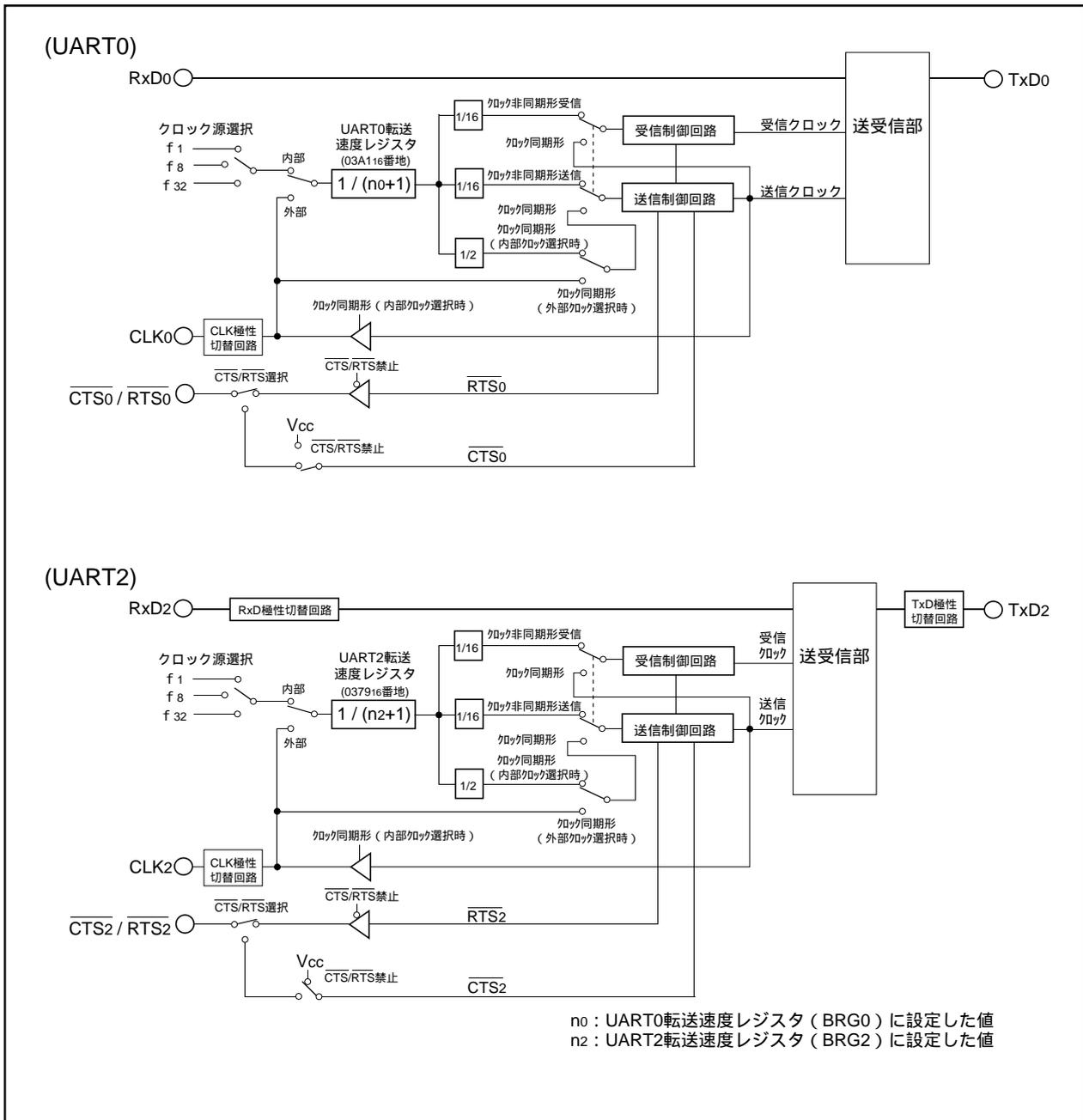


図2.11.1 UARTi(i=0, 2)ブロック図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

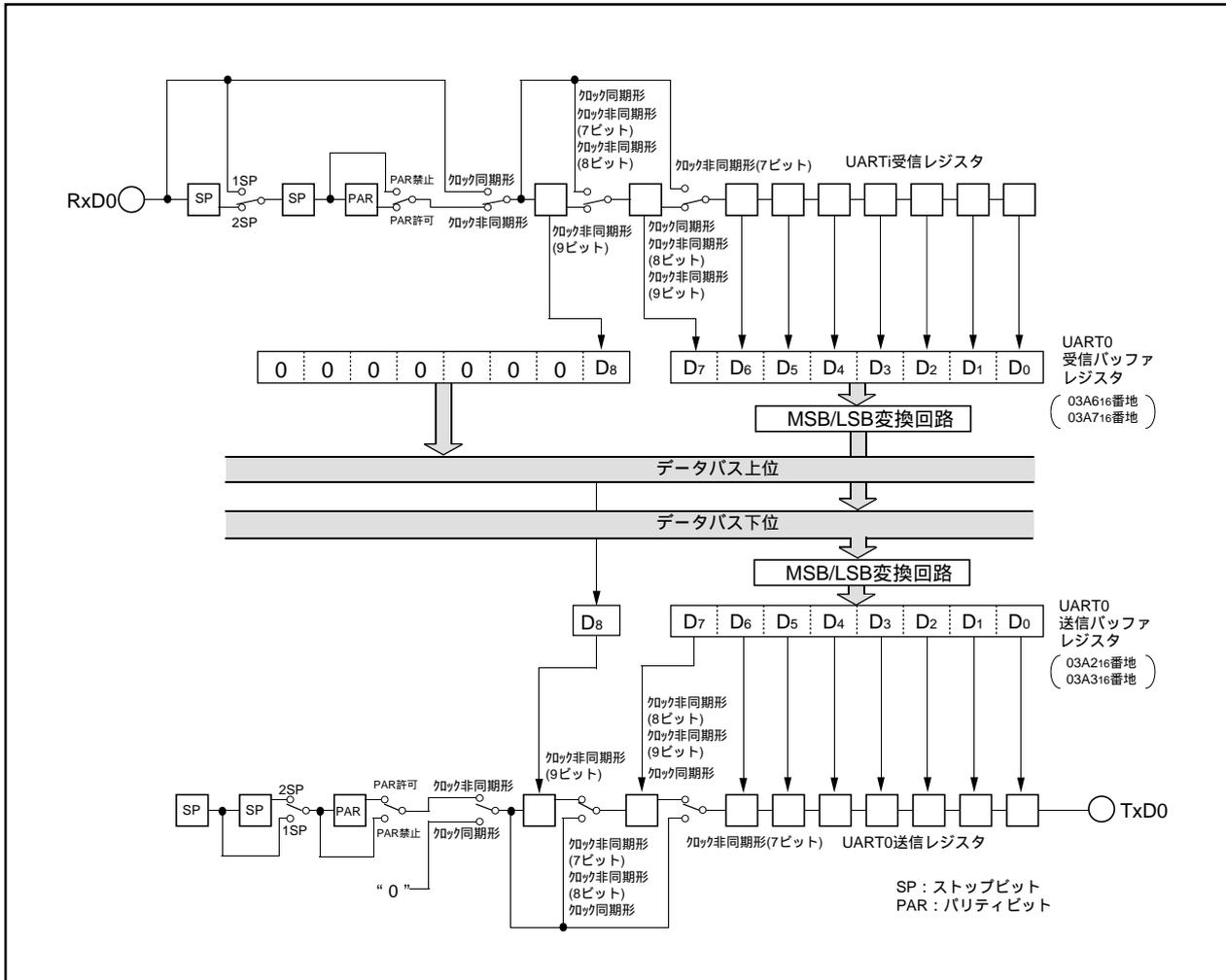


図2.11.2 UART0送受信部ブロック図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

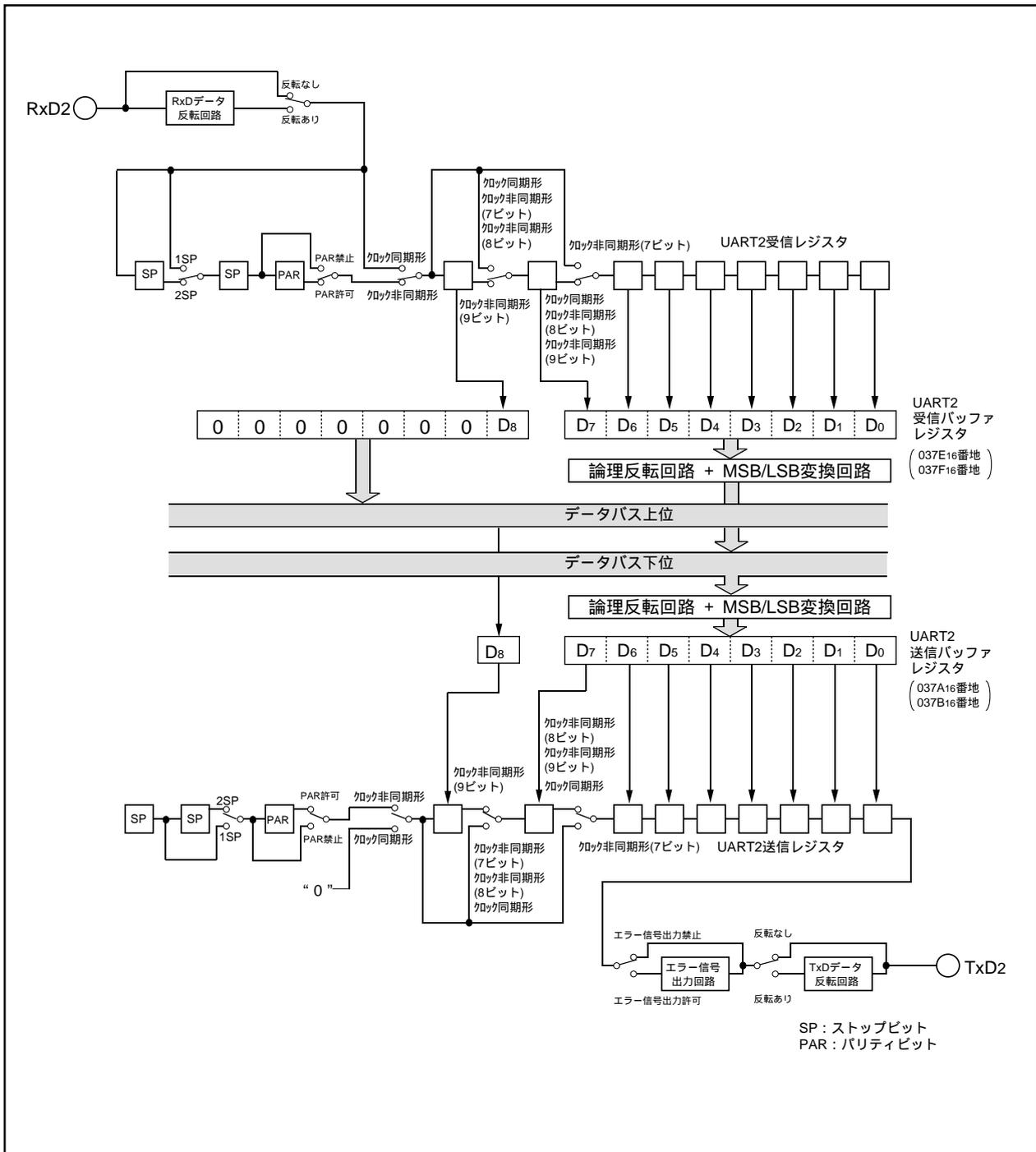


図2.11.3 UART2送受信部ブロック図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

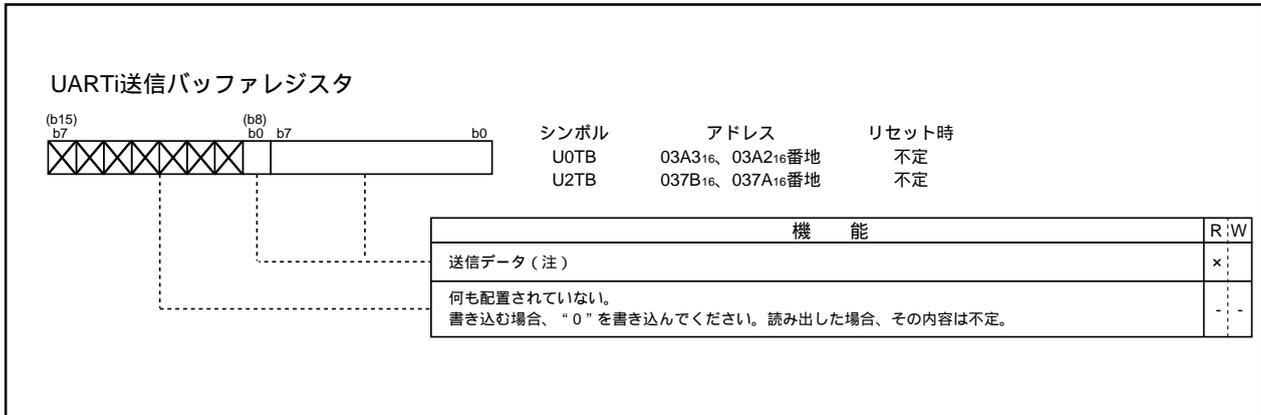


図2.11.4 UART_i送信バッファレジスタ (i = 0, 2)

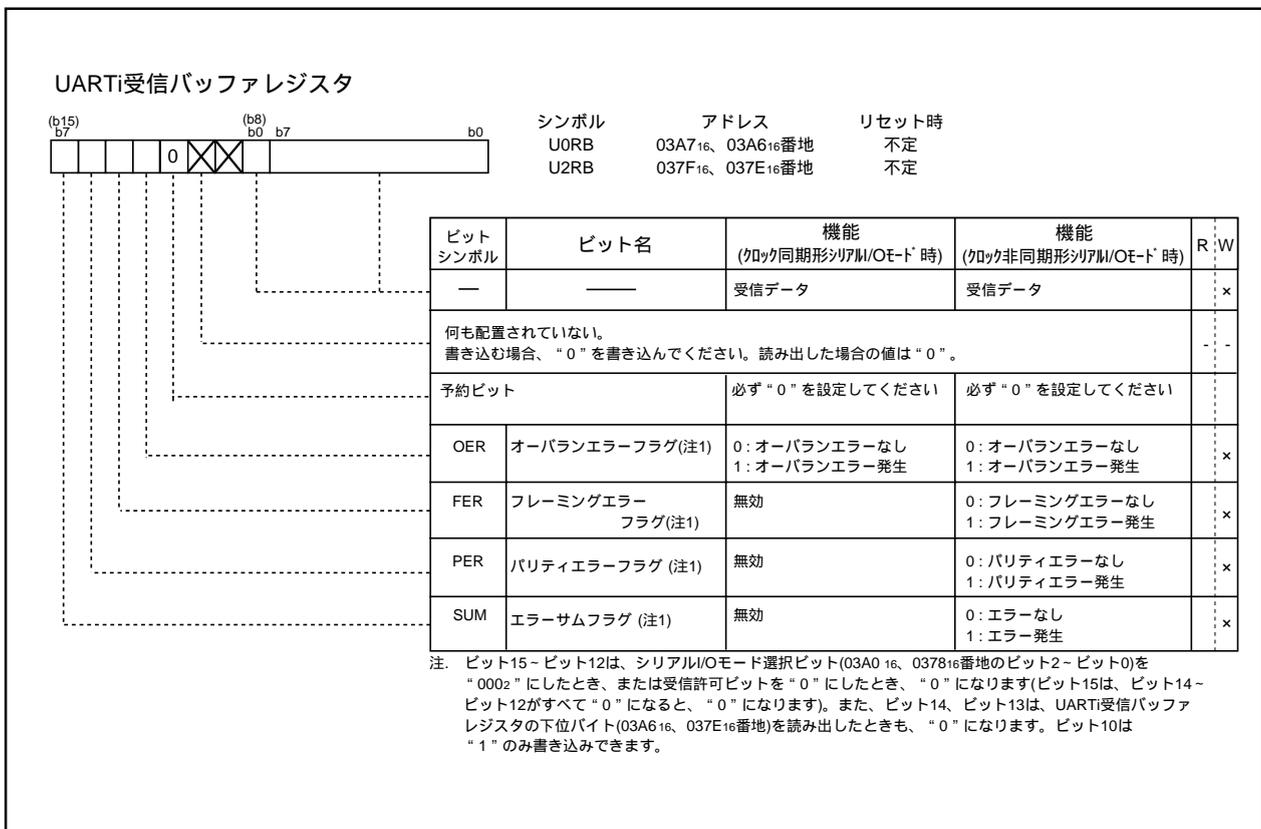


図2.11.5 UART_i受信バッファレジスタ (i = 0, 2)

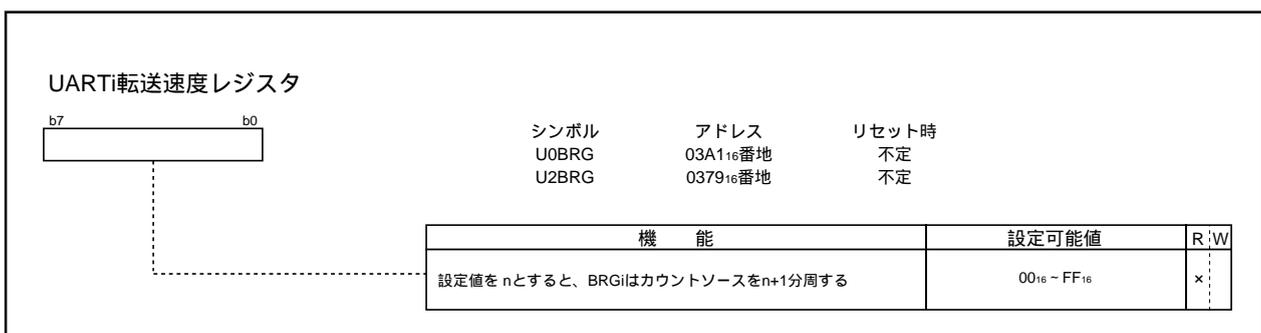


図2.11.6 UART_i転送速度レジスタ (i = 0, 2)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

UART0送受信モードレジスタ

シンボル U0MR アドレス 03A0₁₆番地 リセット時 00₁₆

ビットシンボル	ビット名	機能 (クロック同期形シリアル/OEト時)	機能 (クロック非同期形シリアル/OEト時)	R/W	
b7	SMD0 シリアル/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 001 に固定してください 000: シリアル/Oは無効 010: 使用禁止 011: 使用禁止 111: 使用禁止	b2 b1 b0 100: 転送データ長7ビット 101: 転送データ長8ビット 110: 転送データ長9ビット 000: シリアル/Oは無効 010: 使用禁止 011: 使用禁止 111: 使用禁止		
b6					
b5					
b4	CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0: 内部クロック 1: 外部クロック	0: 内部クロック 1: 外部クロック	
b3	STPS	ストップビット長選択ビット	無効	0: 1ストップビット 1: 2ストップビット	
b2	PRY	パリティ奇/偶選択ビット	無効	ビット6が“1”のとき有効、 0: 奇数パリティ 1: 偶数パリティ	
b1	PRYE	パリティ許可ビット	無効	0: パリティ禁止 1: パリティ許可	
b0	SLEP	スリープ選択ビット	“0”に固定してください	0: スリープモード解除 1: スリープモード選択	

図2.11.7 UART0送受信モードレジスタ

UART2送受信モードレジスタ

シンボル U2MR アドレス 0378₁₆番地 リセット時 00₁₆

ビットシンボル	ビット名	機能 (クロック同期形シリアル/OEト時)	機能 (クロック非同期形シリアル/OEト時)	R/W	
b7	SMD0 シリアル/Oモード選択ビット	b2 b1 b0 001 に固定してください 000: シリアル/Oは無効 010: 使用禁止 011: 使用禁止 111: 使用禁止	b2 b1 b0 100: 転送データ長7ビット 101: 転送データ長8ビット 110: 転送データ長9ビット 000: シリアル/Oは無効 010: 使用禁止 011: 使用禁止 111: 使用禁止		
b6					
b5					
b4	CKDIR	内/外部クロック選択ビット	0: 内部クロック 1: 外部クロック	0: 内部クロック 1: 外部クロック	
b3	STPS	ストップビット長選択ビット	無効	0: 1ストップビット 1: 2ストップビット	
b2	PRY	パリティ奇/偶選択ビット	無効	ビット6が“1”のとき有効、 0: 奇数パリティ 1: 偶数パリティ	
b1	PRYE	パリティ許可ビット	無効	0: パリティ禁止 1: パリティ許可	
b0	IOPOL	TxD,RxD入出力極性切り替えビット	0: 反転なし 1: 反転あり 通常は“0”に設定してください	0: 反転なし 1: 反転あり 通常は“0”に設定してください	

図2.11.8 UART2送受信モードレジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

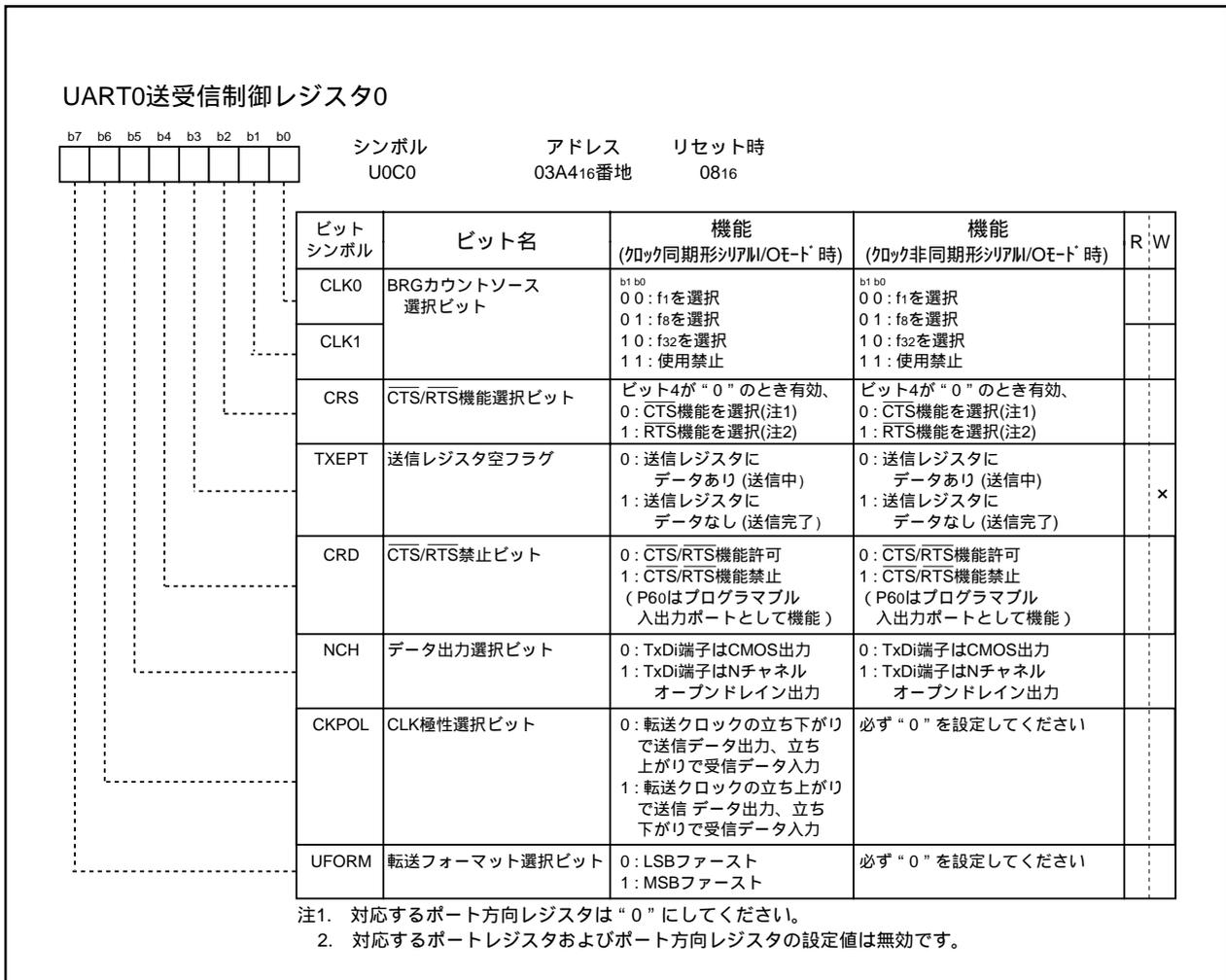


図2.11.9 UART0送受信制御レジスタ0

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

UART2送受信制御レジスタ0

b7 b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0

b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
		X					

シンボル アドレス リセット時

U2C0 037C16番地 0816

ビット シンボル	ビット名	機能 (クロック同期形シリアル/OE-ド時)	機能 (クロック非同期形シリアル/OE-ド時)	R	W
CLK0	BRGカウントソース 選択ビット	b1 b0 0 0 : f1を選択 0 1 : f8を選択 1 0 : f32を選択 1 1 : 使用禁止	b1 b0 0 0 : f1を選択 0 1 : f8を選択 1 0 : f32を選択 1 1 : 使用禁止		
CLK1					
CRS	CTS/RTS機能選択ビット	ビット4が“0”のとき有効、 0 : CTS機能を選択(注1) 1 : RTS機能を選択(注2)	ビット4が“0”のとき有効、 0 : CTS機能を選択(注1) 1 : RTS機能を選択(注2)		
TXEPT	送信レジスタ空フラグ	0 : 送信レジスタに データあり(送信中) 1 : 送信レジスタに データなし(送信完了)	0 : 送信レジスタに データあり(送信中) 1 : 送信レジスタに データなし(送信完了)		x
CRD	CTS/RTS禁止ビット	0 : CTS/RTS機能許可 1 : CTS/RTS機能禁止 (P73はプログラマブル 入出力ポートとして機能)	0 : CTS/RTS機能許可 1 : CTS/RTS機能禁止 (P73はプログラマブル 入出力ポートとして機能)		
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。読み出した場合、その値は“0”。					
CKPOL	CLK極性選択ビット	0 : 転送クロックの立ち下がり で送信データ出力、立ち 上がりで受信データ入力 1 : 転送クロックの立ち上がり で送信データ出力、立ち 下がりで受信データ入力	必ず“0”を設定してください		
UFORM	転送フォーマット選択ビット (注3)	0 : LSBファースト 1 : MSBファースト	0 : LSBファースト 1 : MSBファースト		

注1. 対応するポート方向レジスタは“0”にしてください。
 注2. 対応するポートレジスタおよびポート方向レジスタの設定値は無効です。
 注3. クロック同期形シリアルI/Oモードおよび8ビットUARTモード時だけ有効です。

図2.11.10 UART2送受信制御レジスタ0

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

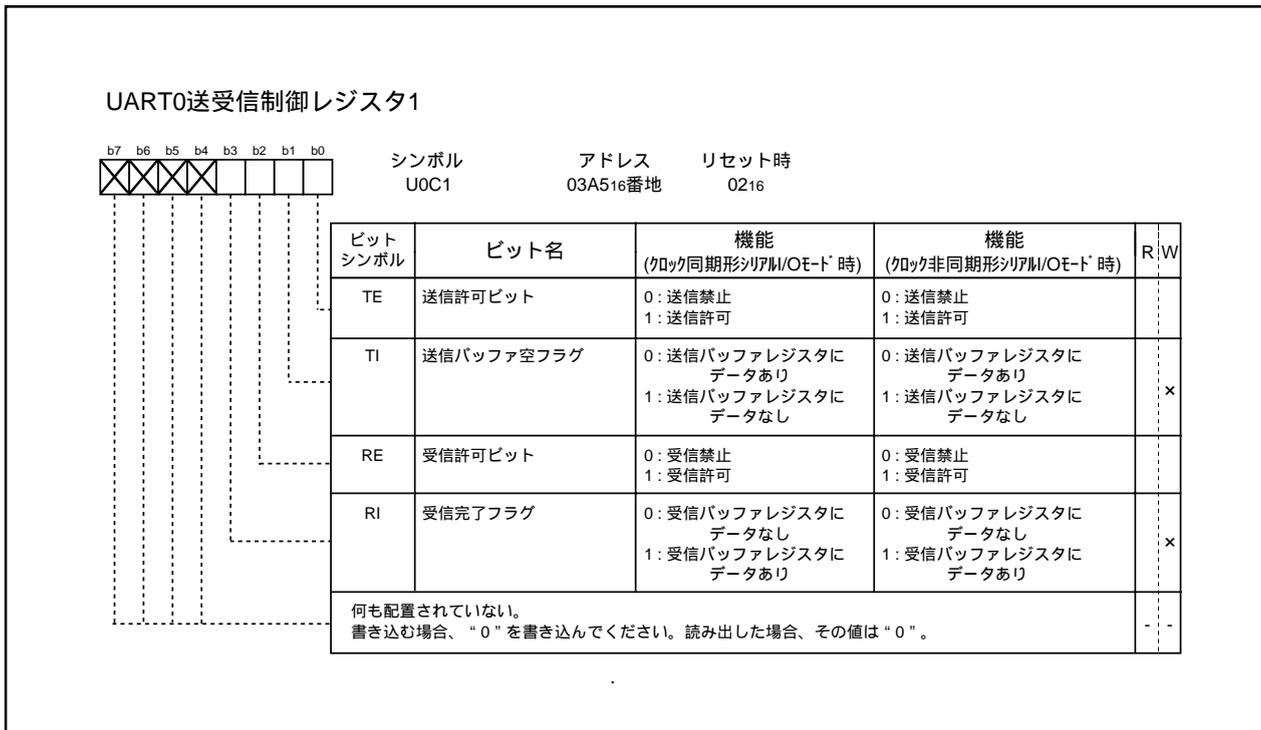


図2.11.11 UART0送受信制御レジスタ1

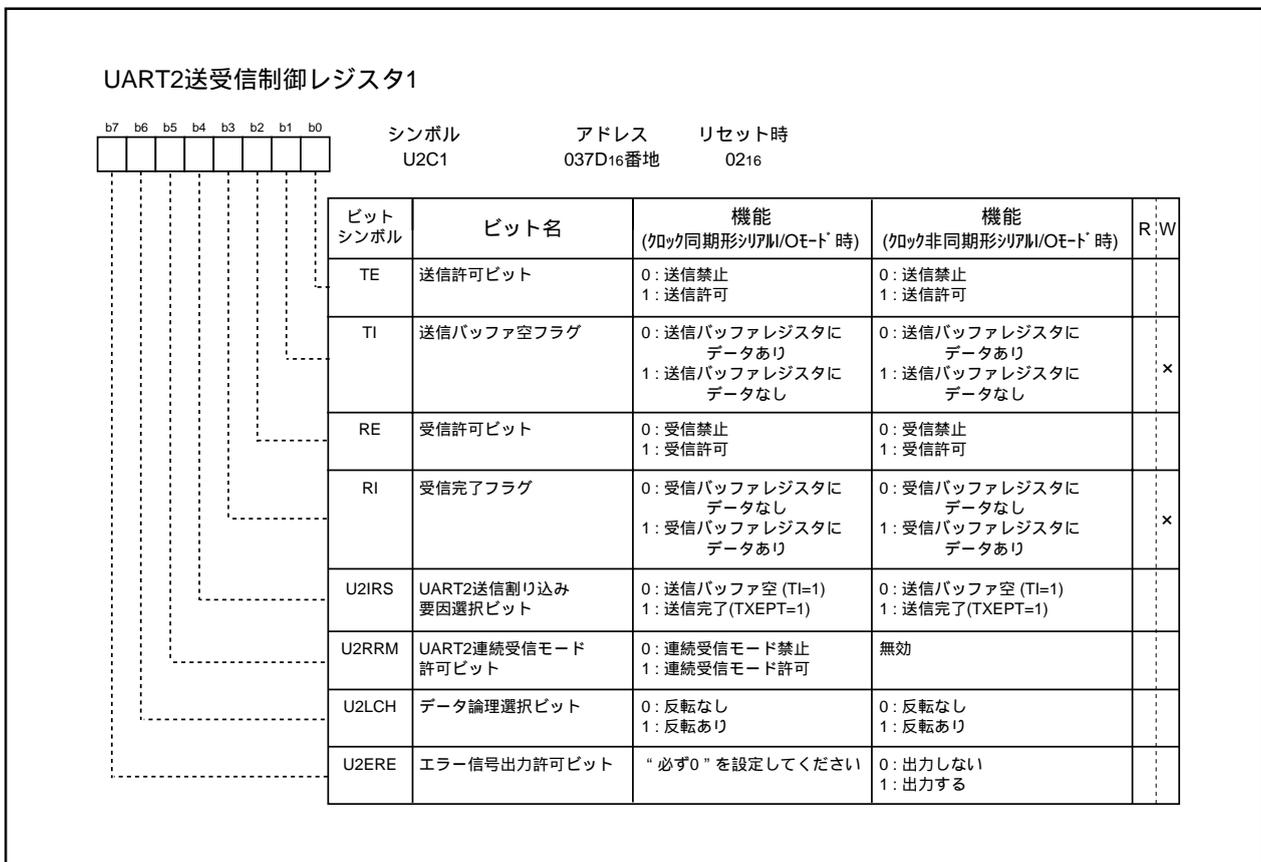


図2.11.12 UART2送受信制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

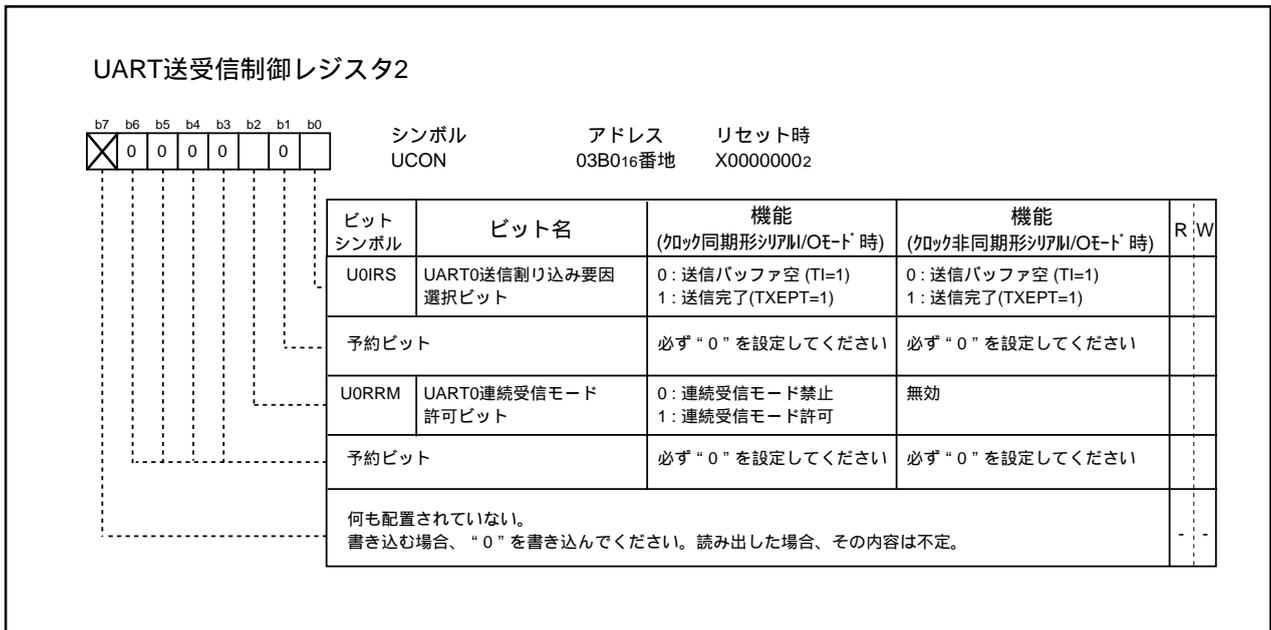


図2.11.13 UART送受信制御レジスタ2

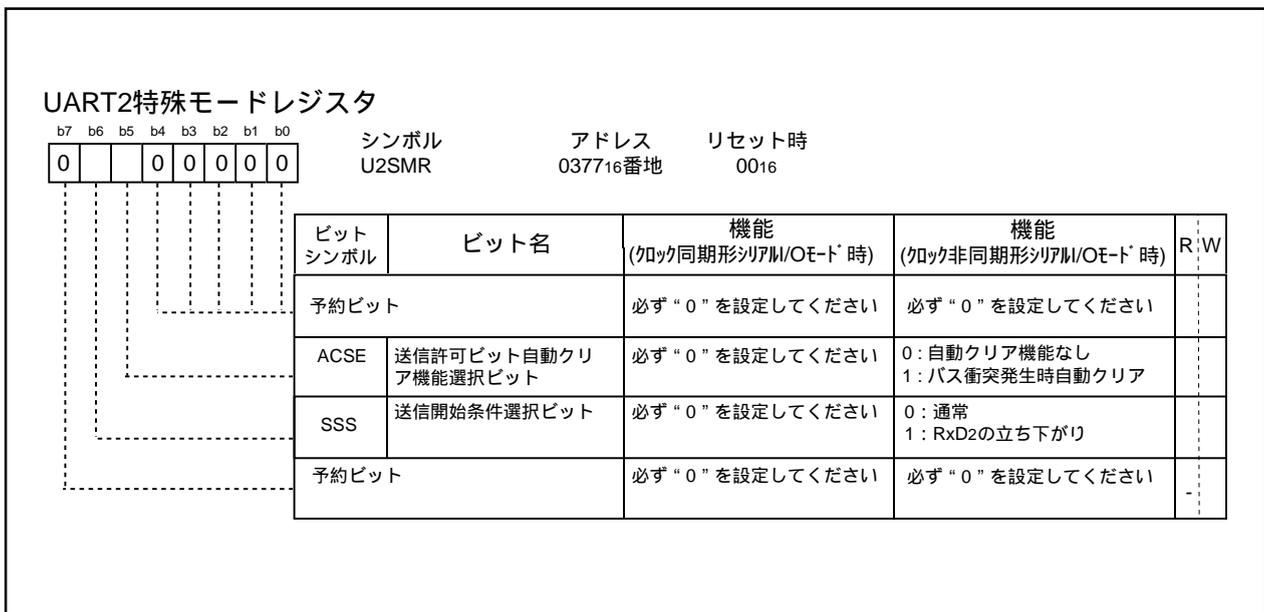


図2.11.14 UART2特殊モードレジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.11.2 クロック同期形シリアルI/Oモード

クロック同期形シリアルI/Oモードは、転送クロックを用いて送受信を行うモードです。表2.11.2、表2.11.3にクロック同期形シリアルI/Oモードの仕様を、図2.11.15と図2.11.16にクロック同期形シリアルI/Oモード時のUARTi送受信モードレジスタを示します。

表2.11.2 クロック同期形シリアルI/Oモードの仕様(1)

項 目	仕 様
転送データフォーマット	転送データ長 8ビット
転送クロック	内部クロック選択時(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3=“0”) : $f_i/2(n+1)$ (注1) $f_i=f_1, f_8, f_{32}$ 外部クロック選択時(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3=“1”) : CLKi端子からの入力
送信制御/受信制御	CTS機能/RTS機能/CTS,RTS機能無効 選択
送信開始条件	送信開始には、以下の条件が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ・送信許可ビット(03A5₁₆、037D₁₆番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ(03A5₁₆、037D₁₆番地のビット1)=“0” ・CTS機能選択時、CTS端子の入力が“L”レベル 更に、外部クロック選択時には次の条件も必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ・CLKi極性選択ビット(03A4₁₆、037C₁₆番地のビット6)=“0” : CLKi端子の入力が“H” ・CLKi極性選択ビット(03A4₁₆、037C₁₆番地のビット6)=“1” : CLKi端子の入力が“L”
受信開始条件	受信開始には、以下の条件が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ・受信許可ビット(03A5₁₆、037D₁₆番地のビット2)=“1” ・送信許可ビット(03A5₁₆、037D₁₆番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ(03A5₁₆、037D₁₆番地のビット1)=“0” 更に、外部クロック選択時には次の条件も必要です。 <ul style="list-style-type: none"> ・CLKi極性選択ビット(03A4₁₆、037C₁₆番地のビット6)=“0” : CLKi端子の入力が“H” ・CLKi極性選択ビット(03A4₁₆、037C₁₆番地のビット6)=“1” : CLKi端子の入力が“L”
割り込み要求発生タイミング	送信時 <ul style="list-style-type: none"> ・送信割り込み要因選択ビット(03B0₁₆番地のビット0、037D₁₆番地のビット4)=“0” : UARTi送信バッファレジスタからUARTi送信レジスタへデータ転送完了時 ・送信割り込み要因選択ビット(03B0₁₆番地のビット0、037D₁₆番地のビット4)=“1” : UARTi送信レジスタからデータ送信完了時 受信時 <ul style="list-style-type: none"> ・UARTi受信レジスタから、UARTi受信バッファレジスタへデータ転送完了時
エラー検出	オーバランエラー(注2) UARTi受信バッファレジスタの内容を読み出す前に次のデータが揃ったときに発生

注1. nはUART転送速度レジスタに設定した00₁₆～FF₁₆の値です。

2. オーバランエラーが発生した場合は、UARTi受信バッファには次のデータが書き込まれます。またUARTi受信割り込み要求ビットは“1”になりません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.11.3 クロック同期形シリアルI/Oモードの仕様(2)

項 目	仕 様
選択機能	CLK極性選択 送信データ出力/入力タイミングが、転送クロックの立ち上がりか立ち下がりかを選択可 LSBファースト/MSBファースト選択 ビット0から送信/受信するか、またはビット7から送信/受信するかを選択可 連続受信モード選択 受信バッファレジスタを読み出す動作により、同時に受信許可状態になる。 シリアルデータ論理切り替え(UART2) 送信バッファレジスタへの書き込み、受信バッファレジスタからの読み出し の際、データを反転させるか選択可 TxD、RxD入出力極性切り替え(UART2) TxD端子出力およびRxD端子入力を反転する機能です。入出力するデータのレ ベルがすべて反転します。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

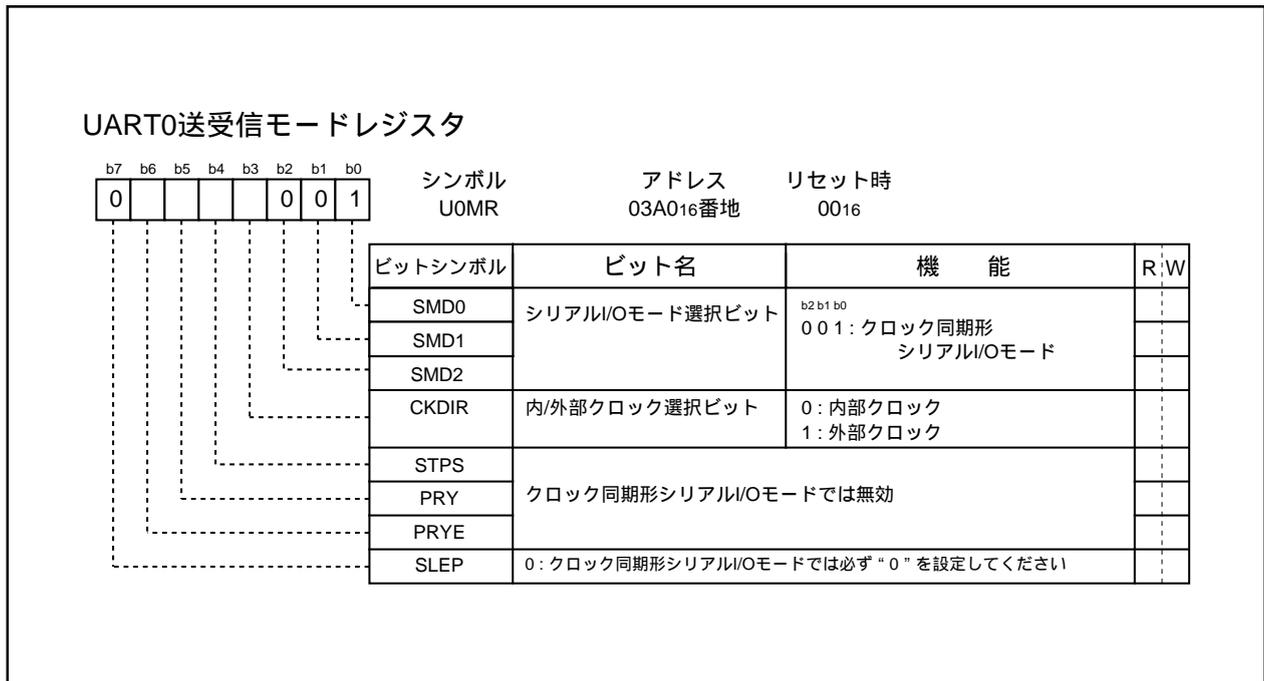


図2.11.15 クロック同期形シリアル/Oモード時のUART0送受信モードレジスタ

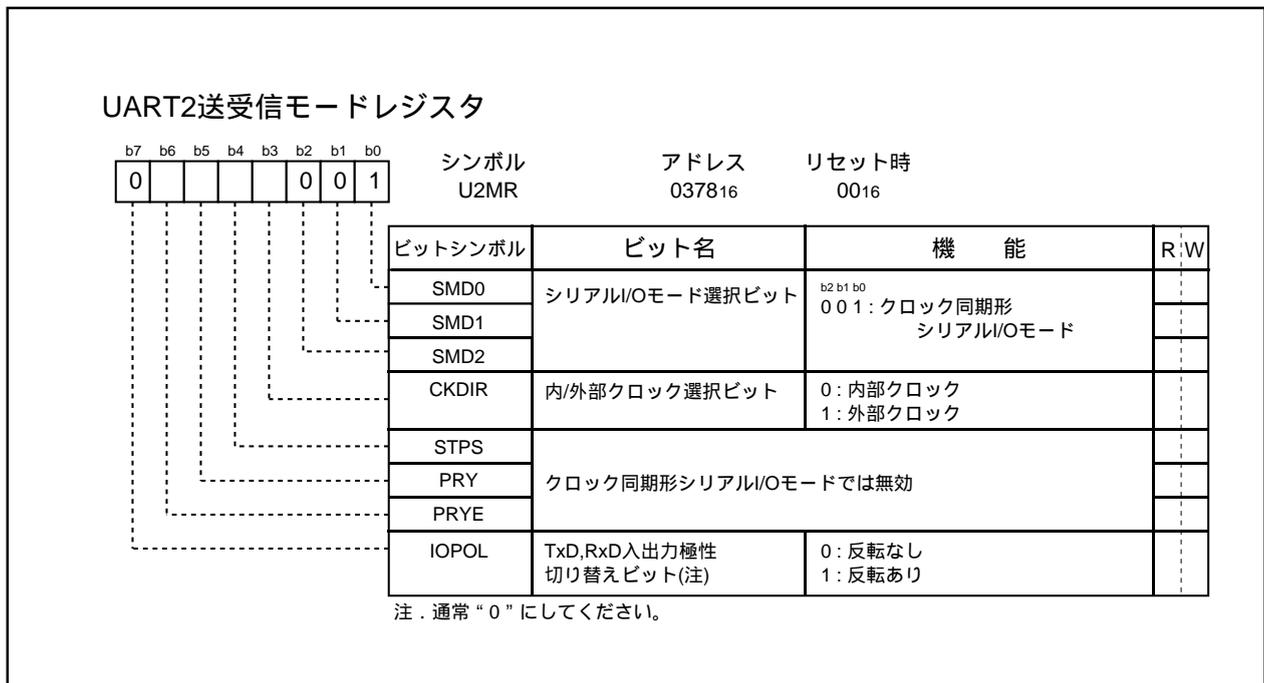


図2.11.16 クロック同期形シリアル/Oモード時のUART2送受信モードレジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.11.4に、クロック同期形シリアルI/Oモード時の入出力端子の機能を示します。なお、UARTiの動作モード選択後、転送開始までは、TxDi端子は“H”レベルを出力します(Nチャンネルオープンドレイン出力選択時はフローティング状態)。

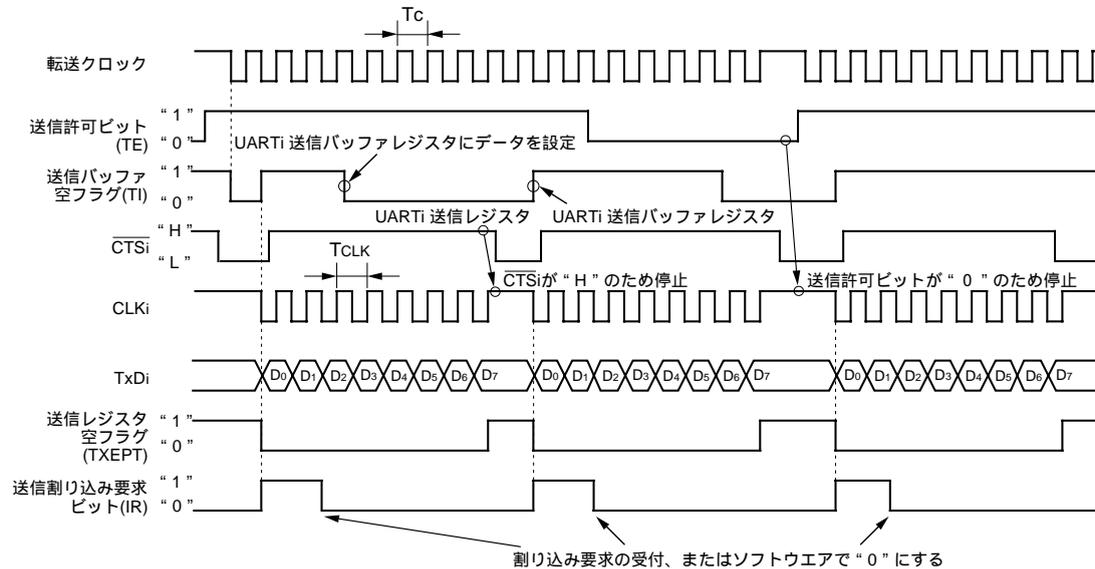
表2.11.4 クロック同期形シリアルI/Oモード時の入出力端子の機能

端子名	機能	選択方法
TxDi (P63、P70)	シリアルデータ出力	(受信だけを行うときはダミーデータを出力)
RxDi (P62、P71)	シリアルデータ入力	ポートP62、P71の方向レジスタ(03EE ₁₆ 番地のビット2、03EF ₁₆ 番地のビット1) = “0” (送信だけを行うときは入力ポートとして使用可)
CLKi (P61、P72)	転送クロック出力	内/外部クロック選択ビット(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3) = “0”
	転送クロック入力	内/外部クロック選択ビット(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3) = “1” ポートP61、P72の方向レジスタ(03EE ₁₆ 番地のビット1、03EF ₁₆ 番地のビット2) = “0”
CTS _i /RTS _i (P60、P73)	CTS入力	CTS/RTS禁止ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット4) = “0” CTS/RTS機能選択ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット2) = “0” ポートP60、P73の方向レジスタ(03EE ₁₆ 番地のビット0、03EF ₁₆ 番地のビット3) = “0”
	RTS出力	CTS/RTS禁止ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット4) = “0” CTS/RTS機能選択ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット2) = “1”
	プログラマブル入出力ポート	CTS/RTS禁止ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット4) = “1”

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

送信タイミング例(内部クロック選択時)



()内はビットシンボルです。

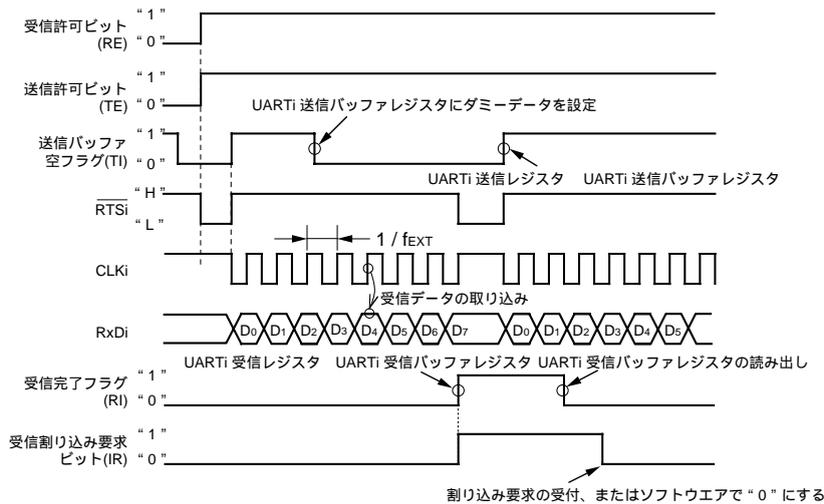
上記タイミング図は次の設定条件の場合です。

- 内部クロック選択
- CTS機能選択
- CLK極性選択ビット = "0"
- 送信割り込み要因選択ビット = "0"

$$T_c = T_{CLK} = 2(n+1) / f_i$$

fi : BRGiのカウンタソースの周波数(f1, f8, f32)
n : BRGiに設定した値

受信タイミング例(外部クロック選択時)



()内はビットシンボルです。

上記タイミング図は次の設定条件の場合です。

- 外部クロック選択
 - RTS機能選択
 - CLK極性選択ビット = "0"
- fEXT : 外部クロックの周波数

データ受信前のCLKi端子の入力が "H" レベルのときに、以下の条件が揃うようにしてください。
送信許可ビット "1"
受信許可ビット "1"
UARTi送信バッファレジスタへのダミーデータの書き込み

図2.11.17 クロック同期形シリアルI/Oモード時の送信 / 受信タイミング例

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(1) 極性選択機能

図2.11.18に示すように、CLK極性選択ビット(03A4₁₆、037C₁₆番地のビット6)によって転送クロックの極性を選択できます。

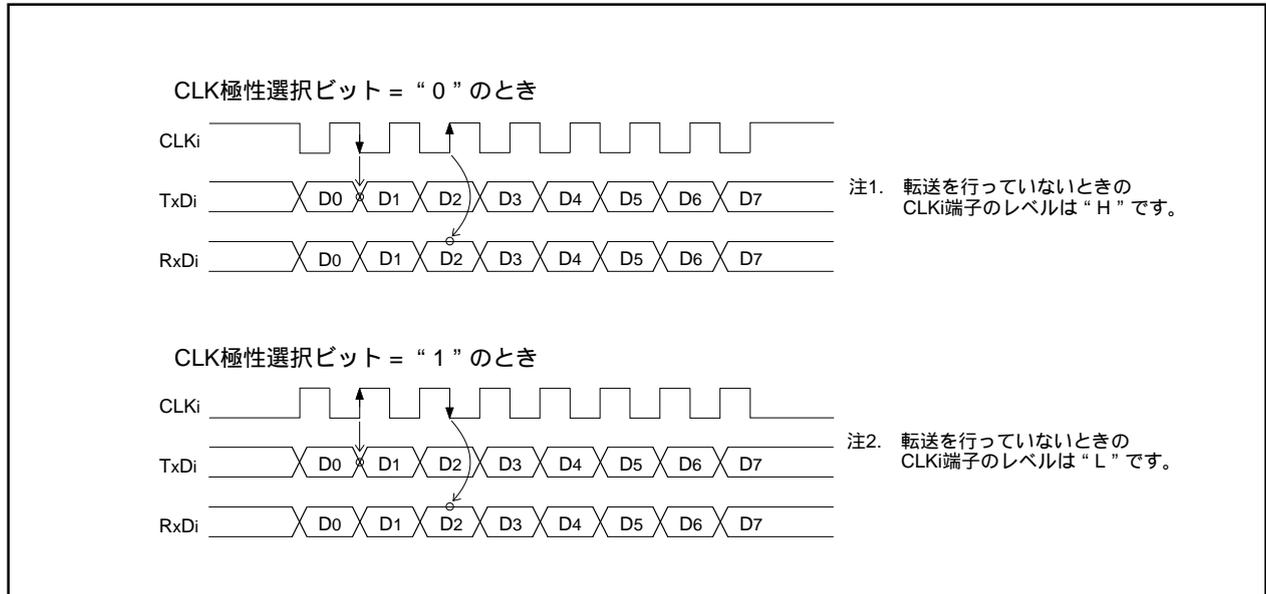


図2.11.18 転送クロックの極性

(2) LSBファースト/MSBファースト選択機能

図2.11.19に示すように、転送フォーマット選択ビット(03A4₁₆、037C₁₆番地のビット7)の内容が“0”のとき転送フォーマットはLSBファースト、“1”のとき転送フォーマットはMSBファーストになります。

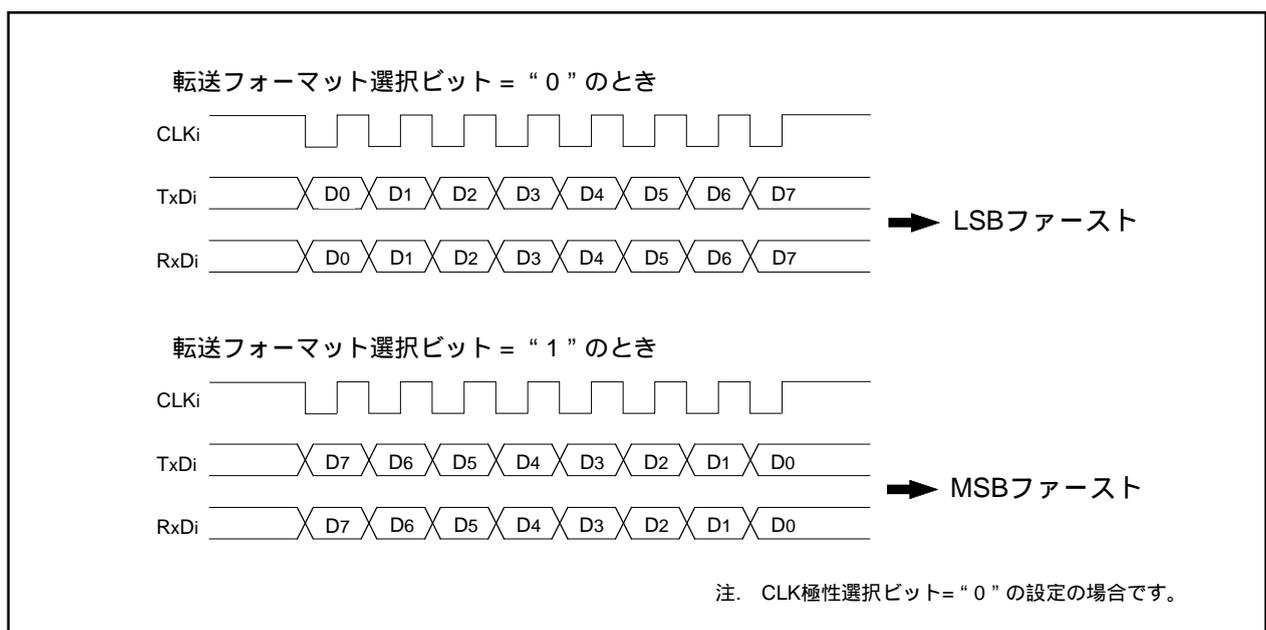


図2.11.19 転送フォーマット

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(3) 連続受信モード

連続受信モード許可ビット(03B0₁₆番地のビット2、037D₁₆番地のビット5)を“1”に設定することによって、連続受信モードになります。連続受信モードでは、送信バッファレジスタにダミーデータを再設定する必要がなく、受信バッファレジスタを読み出すことで受信許可状態になります。

(4) シリアルデータ論理切り替え機能(UART2)

データ論理選択ビット(037D₁₆番地のビット6)の内容が“1”のとき、送信バッファレジスタへの書き込み、および受信バッファレジスタからの読み出しの際、データを反転させます。図2.11.20にシリアルデータ論理切り替えのタイミング例を示します。

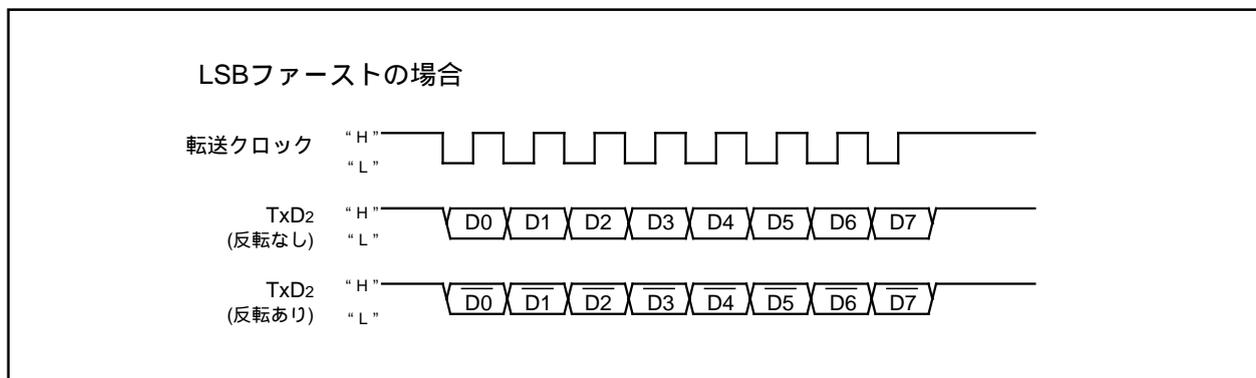


図2.11.20 シリアルデータ論理切り替えのタイミング例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.11.3 クロック非同期形シリアルI/O(UART)モード

クロック非同期形シリアルI/Oモードは、任意の転送速度、転送データフォーマットを設定して送受信を行うモードです。表2.11.5、表2.11.6にクロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様を、図2.11.21と図2.11.22にUARTモード時のUARTi送受信モードレジスタを示します。

表2.11.5 クロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様(1)

項 目	仕 様
転送データフォーマット	キャラクタビット(転送データ) 7ビット/8ビット/9ビット 選択可 スタートビット 1ビット パリティビット 奇数/偶数/無 選択可 ストップビット 1ビット/2ビット 選択可
転送クロック	内部クロック選択時(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3=“0”) : $f_i/16(n+1)$ (注1) $f_i=f_{1,f8,f32}$ 外部クロック選択時(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3=“1”) : $f_{EXT}/16(n+1)$ (注1)(注2)
送信制御/受信制御	CTS機能/RTS機能/CTS,RTS機能無効 選択
送信開始条件	送信開始には、以下の条件が必要です。 ・送信許可ビット(03A5 ₁₆ 、037D ₁₆ 番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ(03A5 ₁₆ 、037D ₁₆ 番地のビット1)=“0” ・CTS機能選択時、CTS端子の入力が“L”レベル
受信開始条件	受信開始には、以下の条件が必要です。 ・受信許可ビット(03A5 ₁₆ 、037D ₁₆ 番地のビット2)=“1” ・スタートビットの検出
割り込み要求発生タイミング	送信時 ・送信割り込み要因選択ビット(03B0 ₁₆ 番地のビット0、037D ₁₆ 番地のビット4)=“0” : UARTi送信バッファレジスタからUARTi送信レジスタへデータ転送完了時 ・送信割り込み要因選択ビット(03B0 ₁₆ 番地のビット0、037D ₁₆ 番地のビット4)=“1” : UARTi送信レジスタからデータ送信完了時 受信時 ・UARTi受信レジスタから、UARTi受信バッファレジスタへデータ転送完了時
エラー検出	オーバランエラー(注3) UARTi受信バッファレジスタの内容を読み出す前に次のデータが揃ったときに発生 フレーミングエラー 設定した個数のストップビットが検出されなかったときに発生 パリティエラー パリティ許可時にパリティビットとキャラクタビット中の“1”の個数が設定した個数でなかったときに発生 エラーサムフラグ オーバランエラー、フレーミングエラー、パリティエラーのうちいずれかが発生した場合“1”になります

注1. nはUART転送速度レジスタに設定した00₁₆～FF₁₆の値です。

2. f_{EXT}はCLKi端子からの入力です。

3. オーバランエラーが発生した場合は、UARTi受信バッファには次のデータが書き込まれます。またUARTi受信割り込み要求ビットは“1”になりません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.11.6 クロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様(2)

項 目	仕 様
選択機能	スリープモード選択(UART0) 複数の従のマイクロコンピュータのうち、特定の1つと転送を行う場合に使用するシリアルデータ論理切り替え(UART2) 転送するデータの論理値を反転する機能です。スタートビット、およびストップビットは反転しません。 TxD、RxD入出力極性切り替え(UART2) TxD端子出力およびRxD端子入力を反転する機能です。入出力するデータのレベルがすべて反転します。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

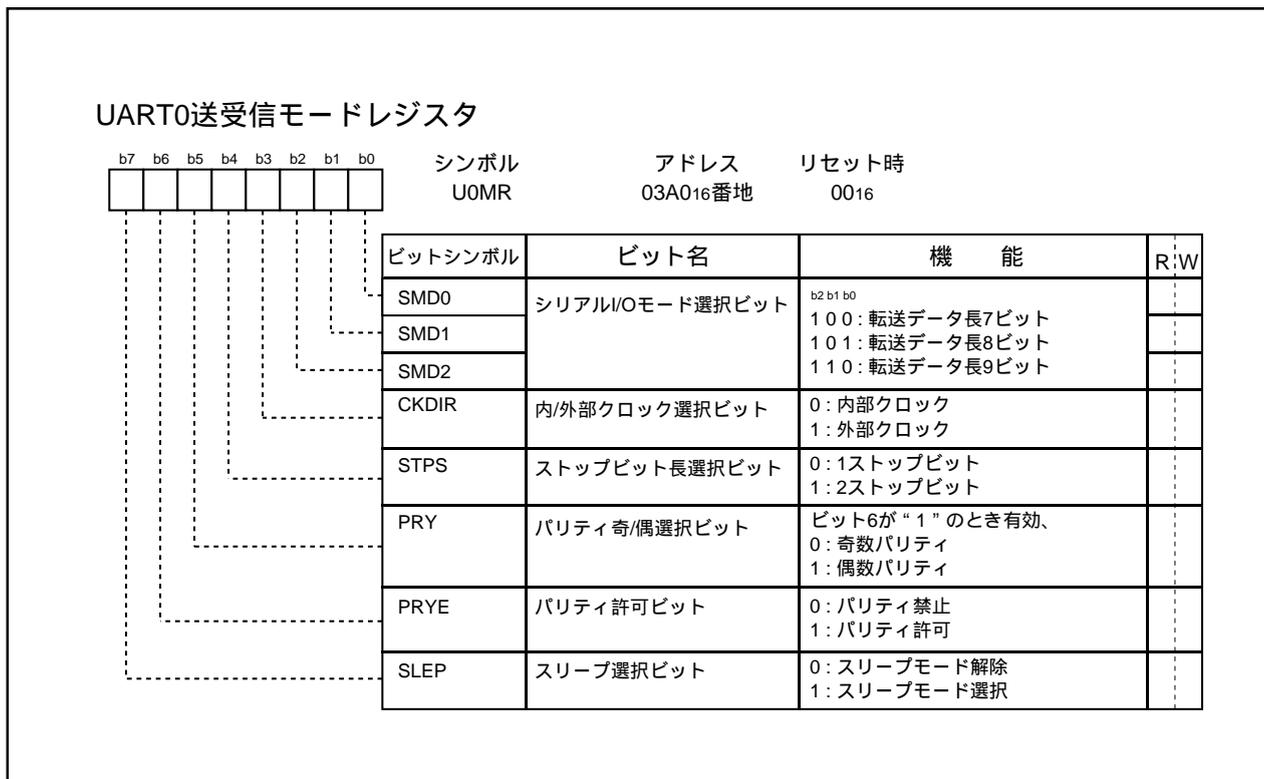


図2.11.21 UARTモード時のUART0送受信モードレジスタ

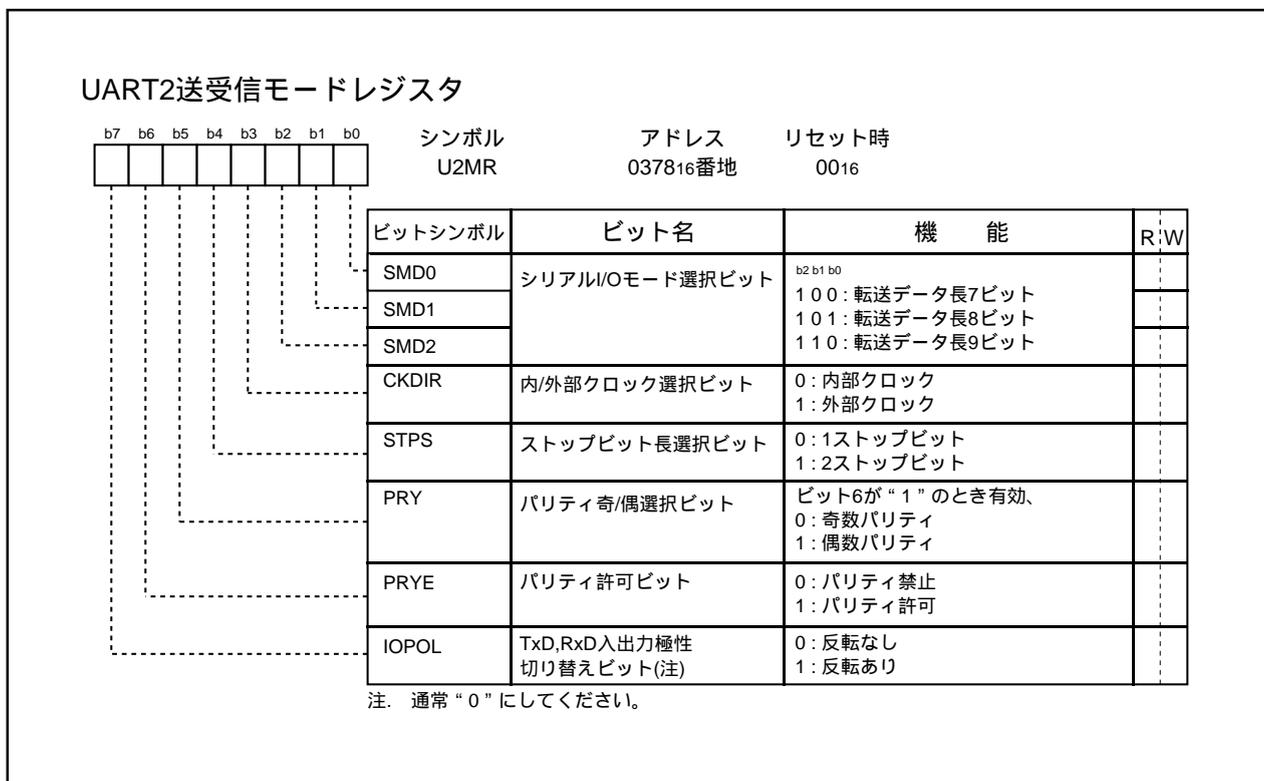


図2.11.22 UARTモード時のUART2送受信モードレジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.11.7に、クロック非同期形シリアルI/Oモード時の入出力端子の機能を示します。なお、UARTiの動作モード選択後、転送開始までは、TxDi端子は“H”レベルを出力します(Nチャンネルオープンドレイン出力選択時はフローティング状態)。

表2.11.7 クロック非同期形シリアルI/Oモード時の入出力端子の機能

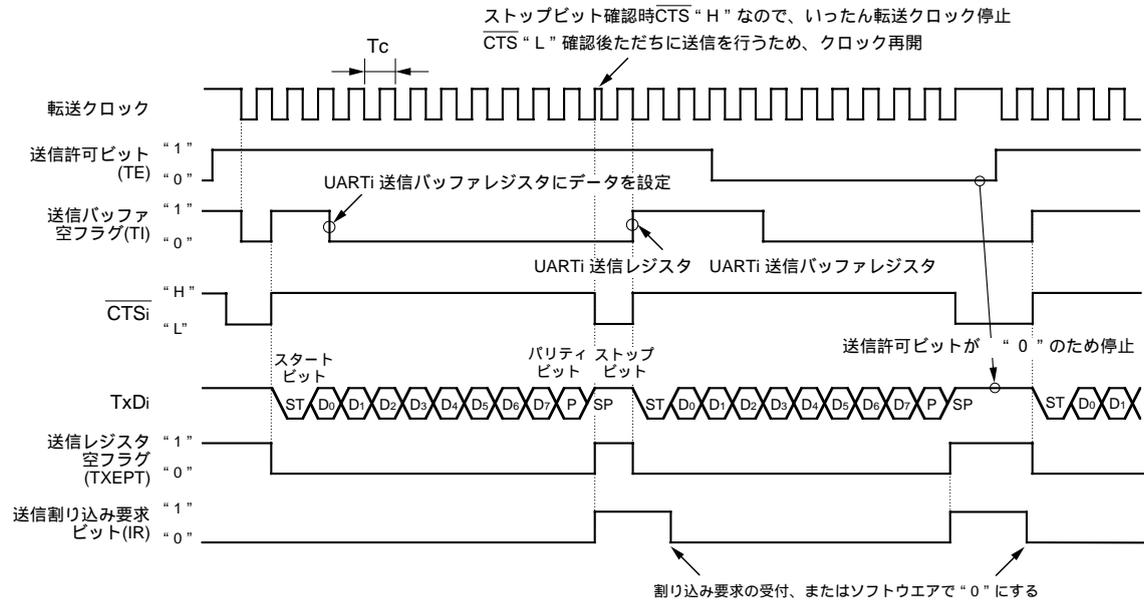
端子名	機能	選択方法
TxDi (P63, P70)	シリアルデータ出力	
RxDi (P62, P71)	シリアルデータ入力	ポートP62、P71の方向レジスタ(03EE ₁₆ 番地のビット2、03EF ₁₆ 番地のビット1) = “0” (送信だけを行うときは入力ポートとして使用可)
CLKi (P61, P72)	プログラマブル入出力	内/外部クロック選択ビット(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3) = “0”
	転送クロック入力	内/外部クロック選択ビット(03A0 ₁₆ 、0378 ₁₆ 番地のビット3) = “1” ポートP61、P72の方向レジスタ(03EE ₁₆ 番地のビット1、03EF ₁₆ 番地のビット2) = “0”
CTS _i /RTS _i (P60, P73)	CTS入力	CTS/RTS禁止ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット4) = “0” CTS/RTS機能選択ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット2) = “0” ポートP60、P73の方向レジスタ(03EE ₁₆ 番地のビット0、03EF ₁₆ 番地のビット3) = “0”
	RTS出力	CTS/RTS禁止ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット4) = “0” CTS/RTS機能選択ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット2) = “1”
	プログラマブル入出力ポート	CTS/RTS禁止ビット(03A4 ₁₆ 、037C ₁₆ 番地のビット4) = “1”

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

< UART0 >

転送データ長8ビット時の送信タイミング例(パリティ許可、1ストップビット)



< UART0 >

転送データ長9ビット時の送信タイミング例(パリティ禁止、2ストップビット)

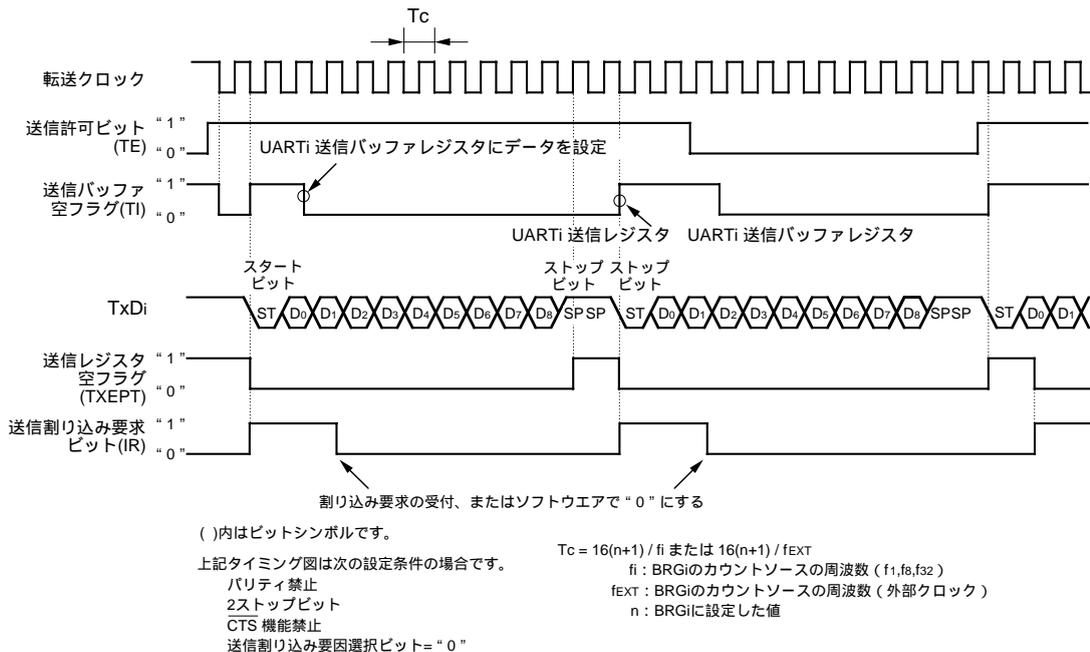


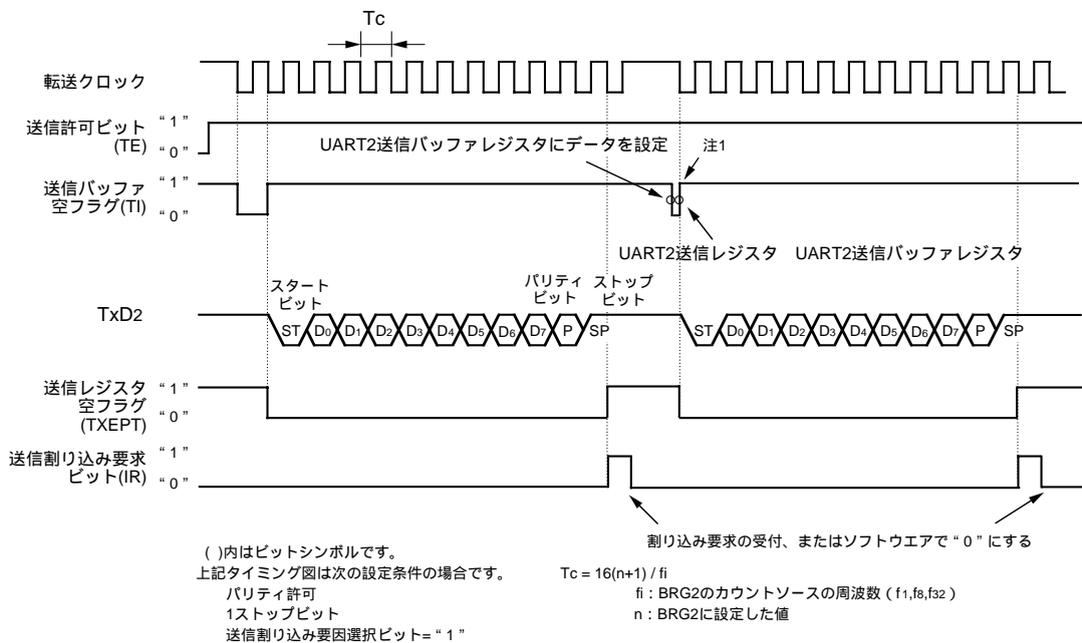
図2.11.23 UARTモード時の送受信タイミング例

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

< UART2 >

転送データ長8ビット時の送信タイミング例(パリティ許可、1ストップビット)



注 . 上記タイミングにおいて、送信バッファに値を書き込んだ後、BRGのオーバフロータイミングで送信が開始されます。

< UART2、UART0 >

転送データ長8ビット時の受信タイミング例(パリティ禁止、1ストップビット)

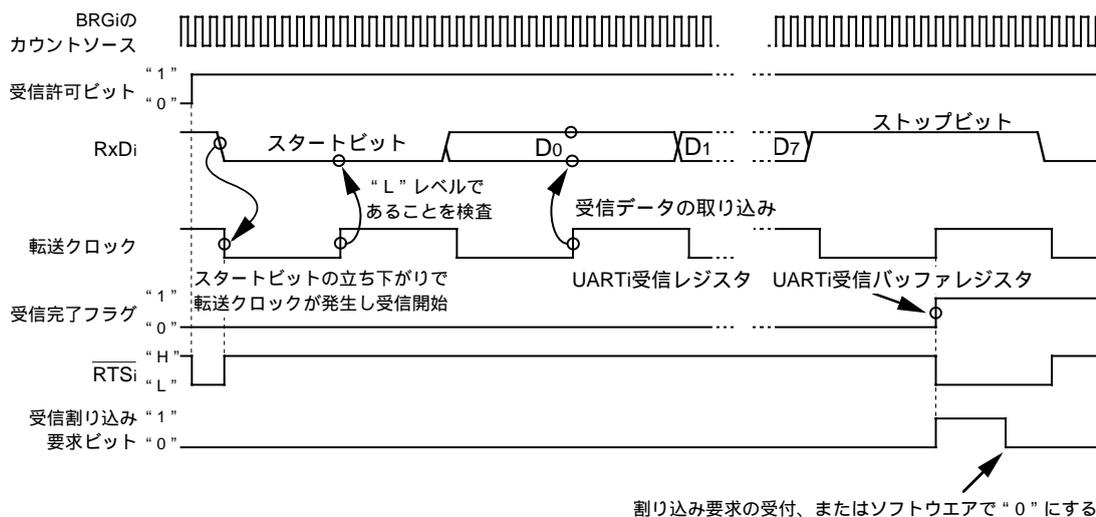


図2.11.23 UARTモード時の送受信タイミング例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(1) スリープモード(UART0)

UART0を使用して接続した複数のマイクロコンピュータのうち、特定のマイクロコンピュータ間で転送を行う場合に使用します。受信時、スリープ選択ビット(03A0₁₆番地のビット7)を“1”にすると、スリープモードが選択されます。スリープモードでは、受信データの最上位ビットが“1”のときに受信動作を行い、“0”のときには受信動作を行いません。

(2) シリアルデータ論理切り替え機能(UART2)

データ論理選択ビット(037D₁₆番地のビット6)の内容が“1”のとき、送信バッファレジスタへの書き込み、および受信バッファレジスタからの読み出しの際、データを反転することができます。図2.11.24に、シリアルデータ論理切り替え機能のタイミング例を示します。

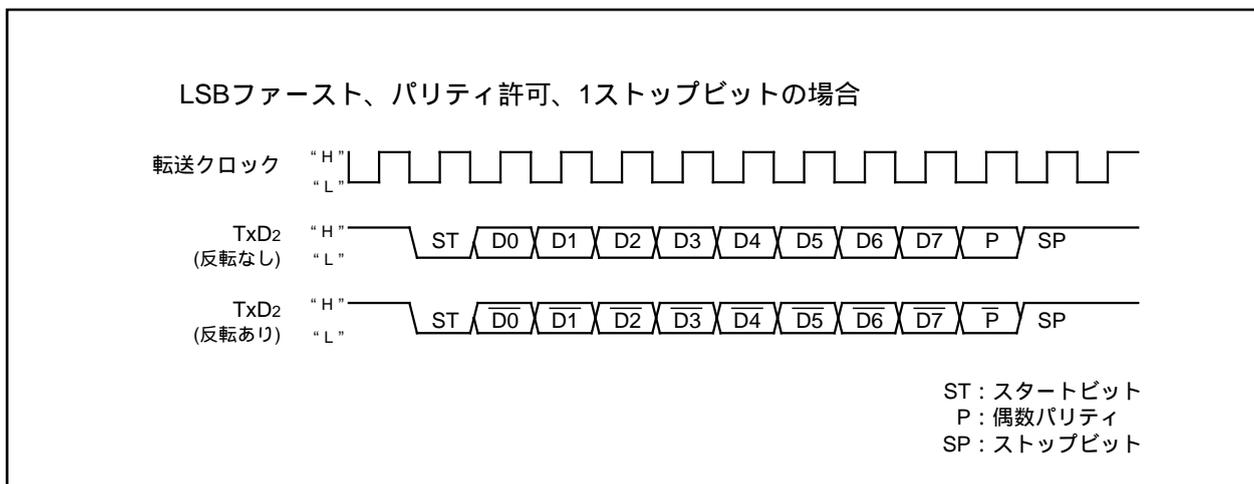


図2.11.24 シリアルデータ論理切り替え機能のタイミング例

(3) TxD、RxD入出力極性切り替え機能(UART2)

TxD端子出力およびRxD端子入力を反転する機能です。入出力するデータのレベルがすべて(スタートビット、ストップビット、パリティビットを含む)反転します。通常使用時は、“0”(反転なし)に設定してください。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(4) バス衝突検出、その他機能(UART2)

TxD端子の出力レベルとRxD端子の入力レベルを転送クロックの立ち上がりでサンプリングし、値が異なる場合、割り込み要求が発生します。図2.11.25にバス衝突検出タイミング例(UARTモード時)を示します。

また、UART2特殊モードレジスタのビット5は送信許可ビット自動クリア機能選択ビットです。このビットを“1”にすることによって、バス衝突検出割り込み要求ビットが“1”(不一致検出)のとき、送信許可ビットを自動的に“0”にリセットします(図2.11.25参照)。

UART2特殊モードレジスタのビット6は、送信開始条件選択ビットです。このビットを“1”にすることで、RxD端子の立ち下がりに同期して、TxD送信を開始します(図2.11.26参照)。

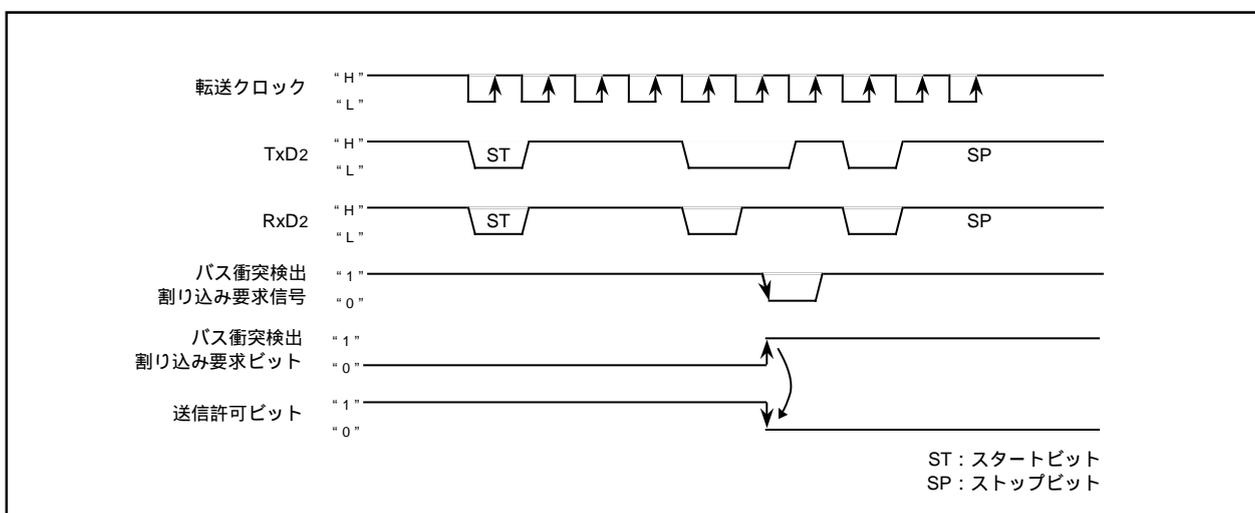


図2.11.25 バス衝突検出タイミング例(UARTモード時)

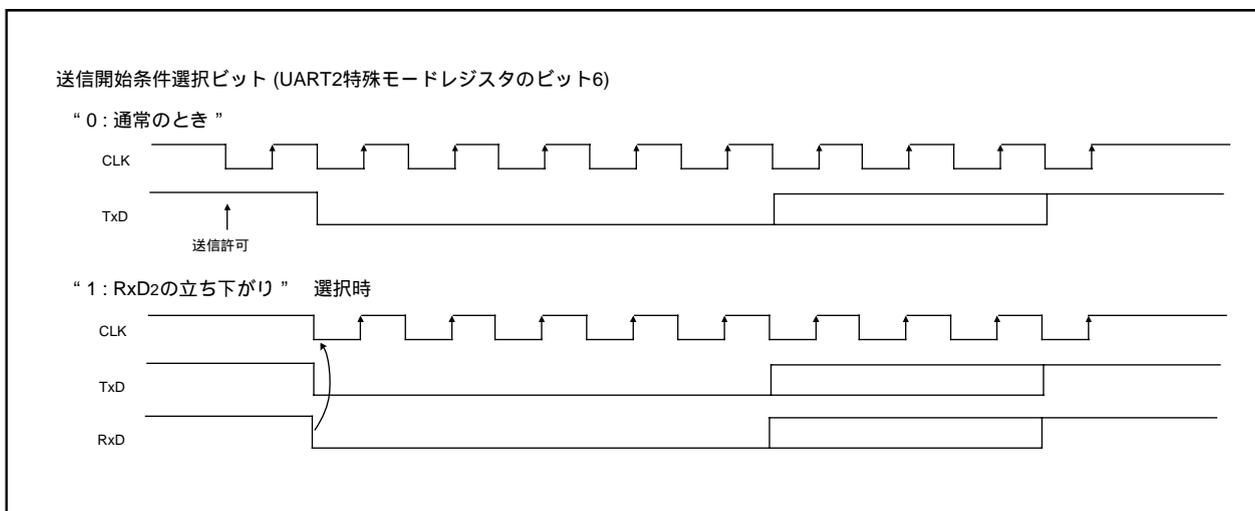


図2.11.26 その他機能

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.11.4 クロック非同期形シリアルI/Oモード(SIMインタフェース対応)

SIMインタフェースは、メモリカードI/C等とインタフェースするための機能で、UART2のクロック非同期形シリアルI/Oモードに一部設定を追加することで実現できます。表2.11.8と表2.11.9にクロック非同期形シリアルI/Oモード(SIMインタフェース対応)の仕様を示します。

表2.11.8 クロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様(SIMインタフェース対応)(1)

項 目	仕 様
転送データフォーマット	転送データ 8ビットUARTモード(0378 ₁₆ 番地のビット2~ビット0=“1012”) 1ストップビット (0378 ₁₆ 番地のビット4=“0”) ダイレクトフォーマットの場合 パリティを偶数パリティに設定 (0378 ₁₆ 番地のビット5=“1”、ビット6=“1”) データ論理をダイレクトに設定 (037D ₁₆ 番地のビット6=“0”) 転送フォーマットをLSBに設定 (037C ₁₆ 番地のビット7=“0”) インバースフォーマットの場合 パリティを奇数パリティに設定 (0378 ₁₆ 番地のビット5=“0”、ビット6=“1”) データ論理をインバースに設定 (037D ₁₆ 番地のビット6=“1”) 転送フォーマットをMSBに設定 (037C ₁₆ 番地のビット7=“1”)
転送クロック	内部クロック選択時(0378 ₁₆ 番地のビット3=“0”) : $f_i/16(n+1)$ (注1) $f_i=f_1, f_8, f_{32}$ 外部クロック選択時(0378 ₁₆ 番地のビット3=“1”) : $f_{EXT}/16(n+1)$ (注1)(注2)
送信制御/受信制御	CTS,RTS機能禁止に設定 (037C ₁₆ 番地のビット4=“1”)
その他設定項目	UART2ではスリープモード選択機能はありません 送信割り込み要因を送信完了に設定 (037D ₁₆ 番地のビット4=“1”)
送信開始条件	送信開始には、以下の条件が必要です。 ・送信許可ビット(037D ₁₆ 番地のビット0)=“1” ・送信バッファ空フラグ(037D ₁₆ 番地のビット1)=“0”
受信開始条件	受信開始には、以下の条件が必要です。 ・受信許可ビット(037D ₁₆ 番地のビット2)=“1” ・スタートビットの検出
割り込み要求発生タイミング	送信時 UART2送信レジスタからデータ転送完了時 (037D ₁₆ 番地のビット4=“1”) 受信時 ・UART2受信レジスタから、UART2受信バッファレジスタへデータ転送完了時

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.11.9 クロック非同期形シリアルI/Oモードの仕様(SIMインタフェース対応)(2)

項 目	仕 様
エラー検出	オーバランエラー(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください)(注3) フレーミングエラー(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください) パリティエラー(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください) 受信側は、パリティエラー検出時、パリティエラー信号出力機能(037D16番地のビット7=“1”)によりTxD2端子から“L”レベルを出力 送信側は、送信割り込み発生時、RxD2端子入力レベルによりパリティエラーを検知 エラーサムフラグ(クロック非同期形シリアルI/Oの仕様を参照してください)

- 注1. n はUART転送速度レジスタに設定した0016 ~ FF16の値です。
2. fEXTはCLK2端子からの入力です。
3. オーバランエラーが発生した場合は、UART2受信バッファには次のデータが書き込まれます。またUART2受信割り込み要求ビットは“1”になりません。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

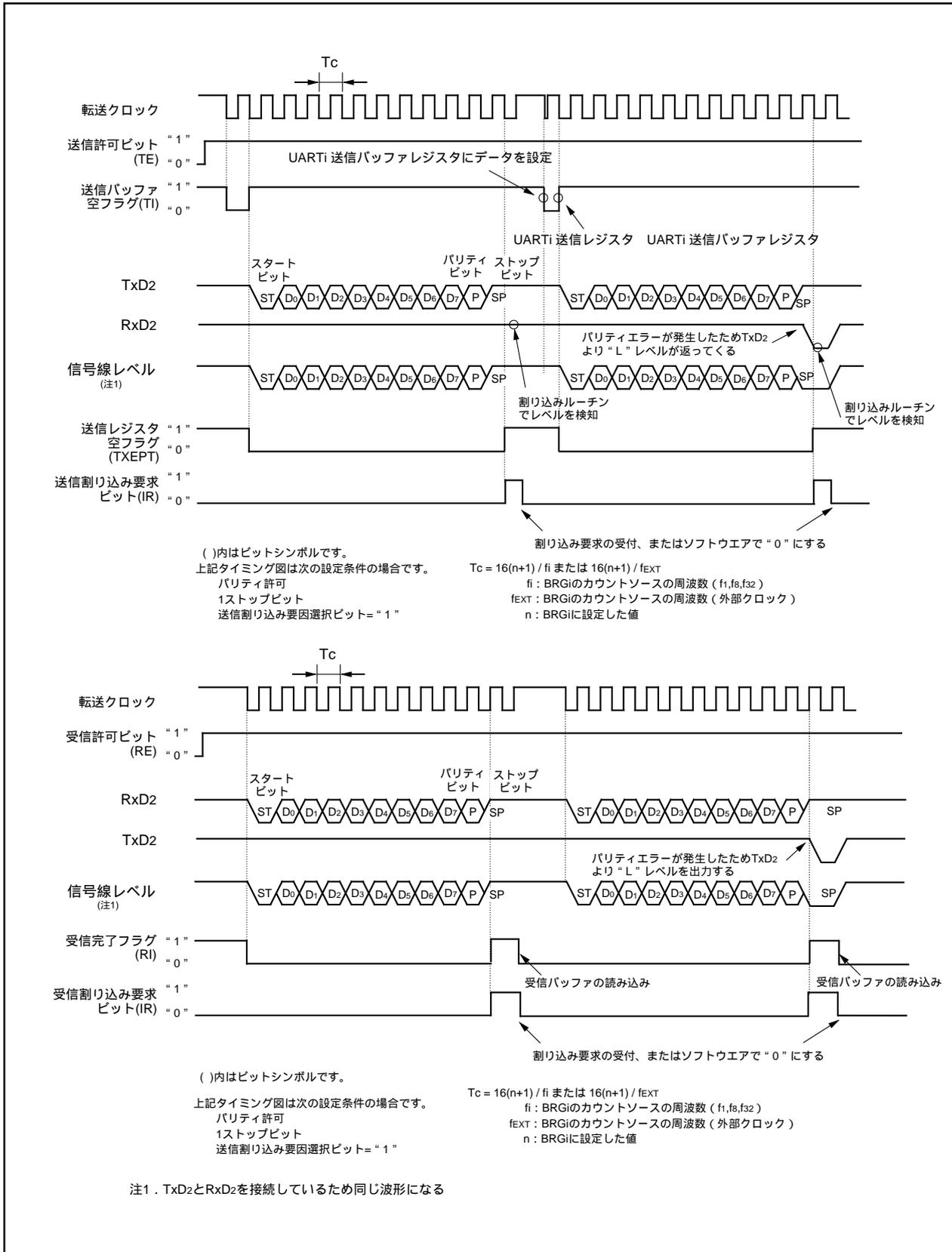


図2.11.27 UARTモード(SIMインタフェース対応)の送受信タイミング例

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(1) パリティエラー信号出力機能

エラー信号出力許可ビット(037D16番地のビット7)の内容が“1”のとき、パリティエラー検出時にTxD2端子から“L”レベルを出力することができます。この機能に連動して、送信完了割り込みの発生タイミングがパリティエラー信号検出タイミングに変化します。図2.11.28にパリティエラー信号出力タイミングを示します。

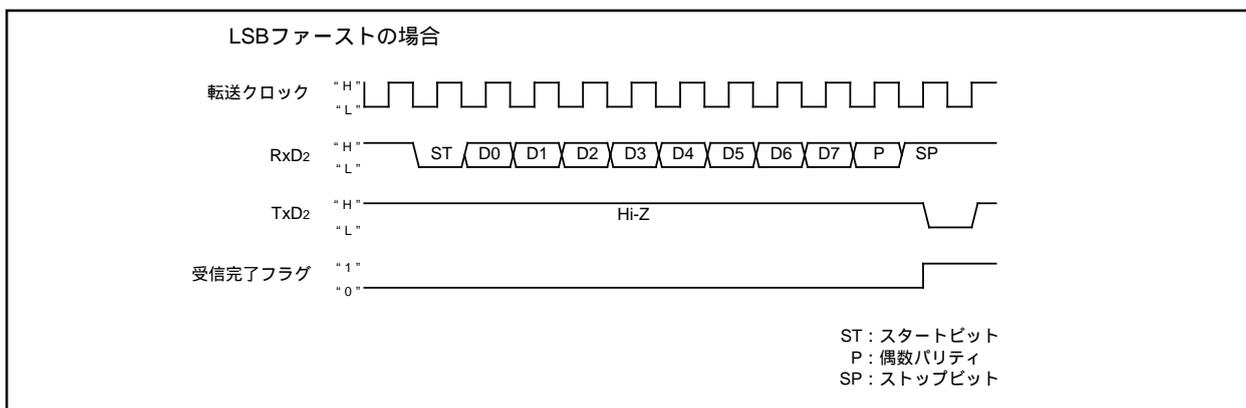


図2.11.28 パリティエラー信号出力タイミング

(2) ダイレクトフォーマット/インバースフォーマット

接続するSIMカードによって、ダイレクトフォーマット/インバースフォーマットを切り替えることができます。ダイレクトフォーマットを選択するとD0のデータがTxD2から出力されます。インバースフォーマットを選択するとD7のデータが反転してTxD2から出力されます。

図2.11.29にSIMインタフェースフォーマットを示します。

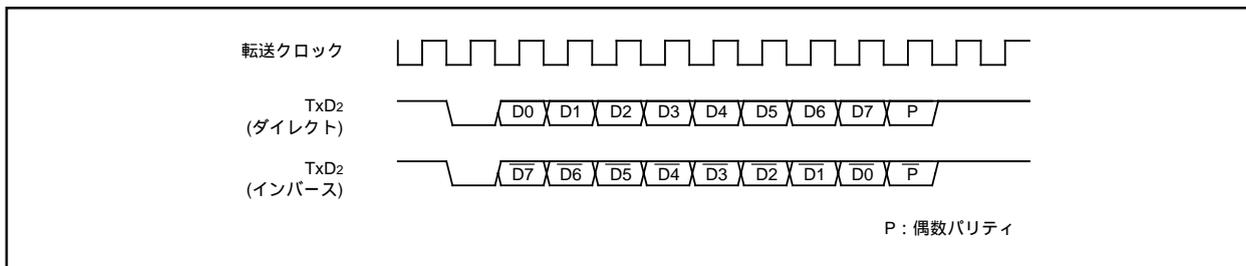


図2.11.29 SIMインタフェースフォーマット

図2.11.30にSIMインタフェースの接続例を示します。TxD2とRxD2を接続してプルアップしてください。

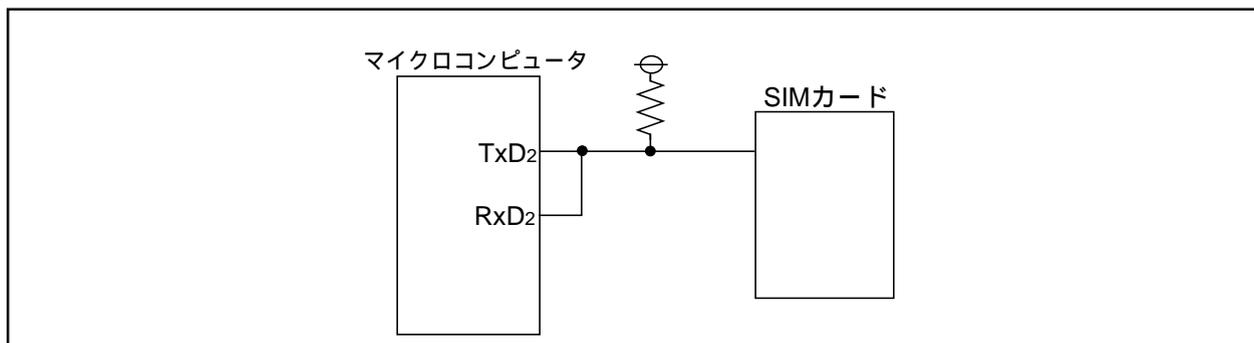


図2.11.30 SIMインタフェース接続例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.11.5 シリアルインタフェースポート

入出力ポート (P67、P70~P72)は、UART2とマルチマスタ²C-BUSインタフェース0 (「2.11.6 マルチマスタ²C-BUSインタフェースi」参照)の入出力ポートとして機能します。両シリアルインタフェースと各ポートの接続はペリフェラルモードレジスタ (027D₁₆番地)のビット0、ビット1 (BSEL0, BSEL1)、および²C0ポートセレクションレジスタ (02E5₁₆番地)のビット2 (FIICON)で選択してください。

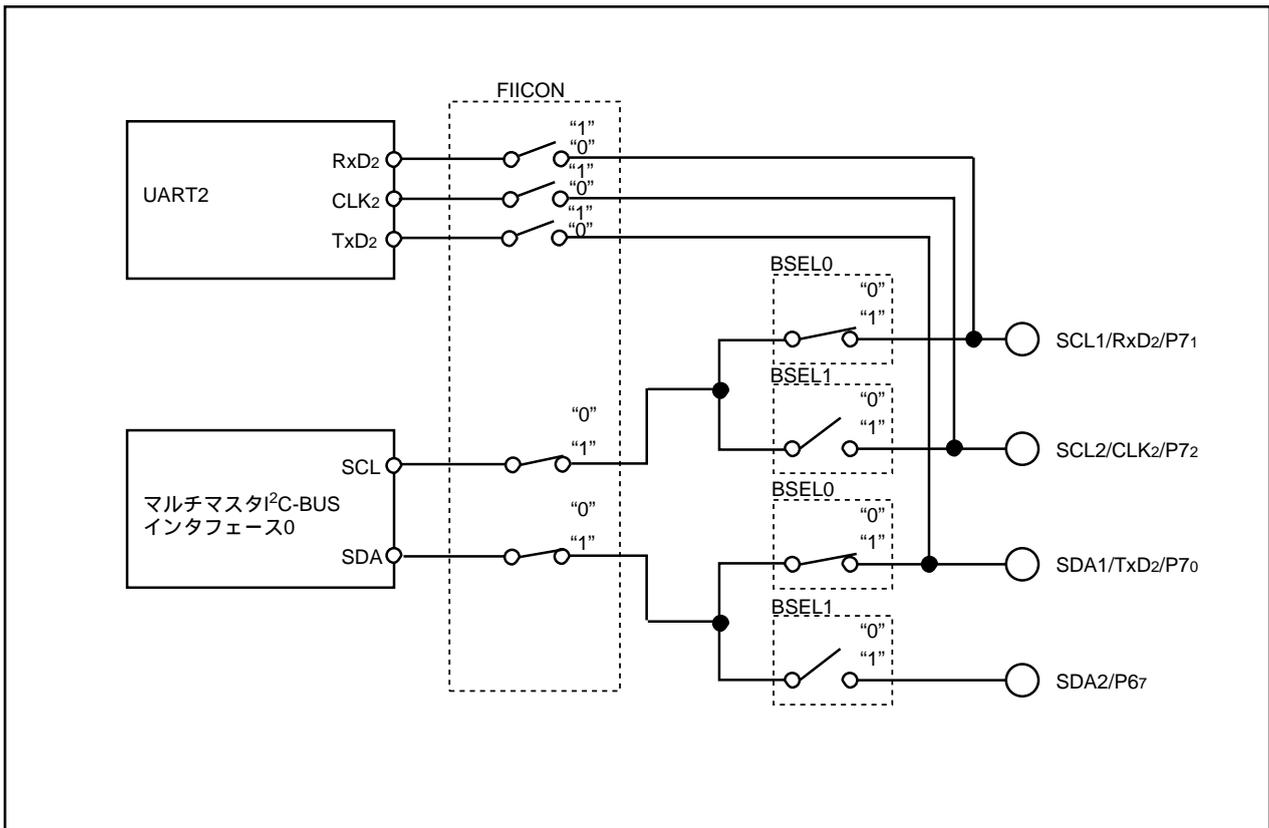


図2.11.31 シリアルインタフェースポート制御

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.11.6 マルチマスタI²C-BUSインタフェース0、マルチマスタI²C-BUSインタフェース1

マルチマスタI²C-BUSインタフェース0とマルチマスタI²C-BUSインタフェース1は、それぞれ専用回路を持っており、独立して動作します。

マルチマスタI²C-BUSインタフェースiは、フィリップス社I²C-BUSのデータ転送フォーマットに基づいてシリアル通信を行う回路です。アービトレーションロストの検出機能、シンクロニアス機能を有しており、マルチマスタのシリアル通信に対応できます。

図2.11.32、図2.11.33にマルチマスタI²C-BUSインタフェースiのブロック図、表2.11.13にマルチマスタI²C-BUSインタフェース機能を示します。

このマルチマスタI²C-BUSインタフェースiは、I²Ciアドレスレジスタ、I²Ciデータシフトレジスタ、I²Ciクロックコントロールレジスタ、I²Ciコントロールレジスタ、I²Ciステータスレジスタ、I²Ciポートセレクションレジスタ、I²Ci送信バッファレジスタとその他の制御回路により構成されています。

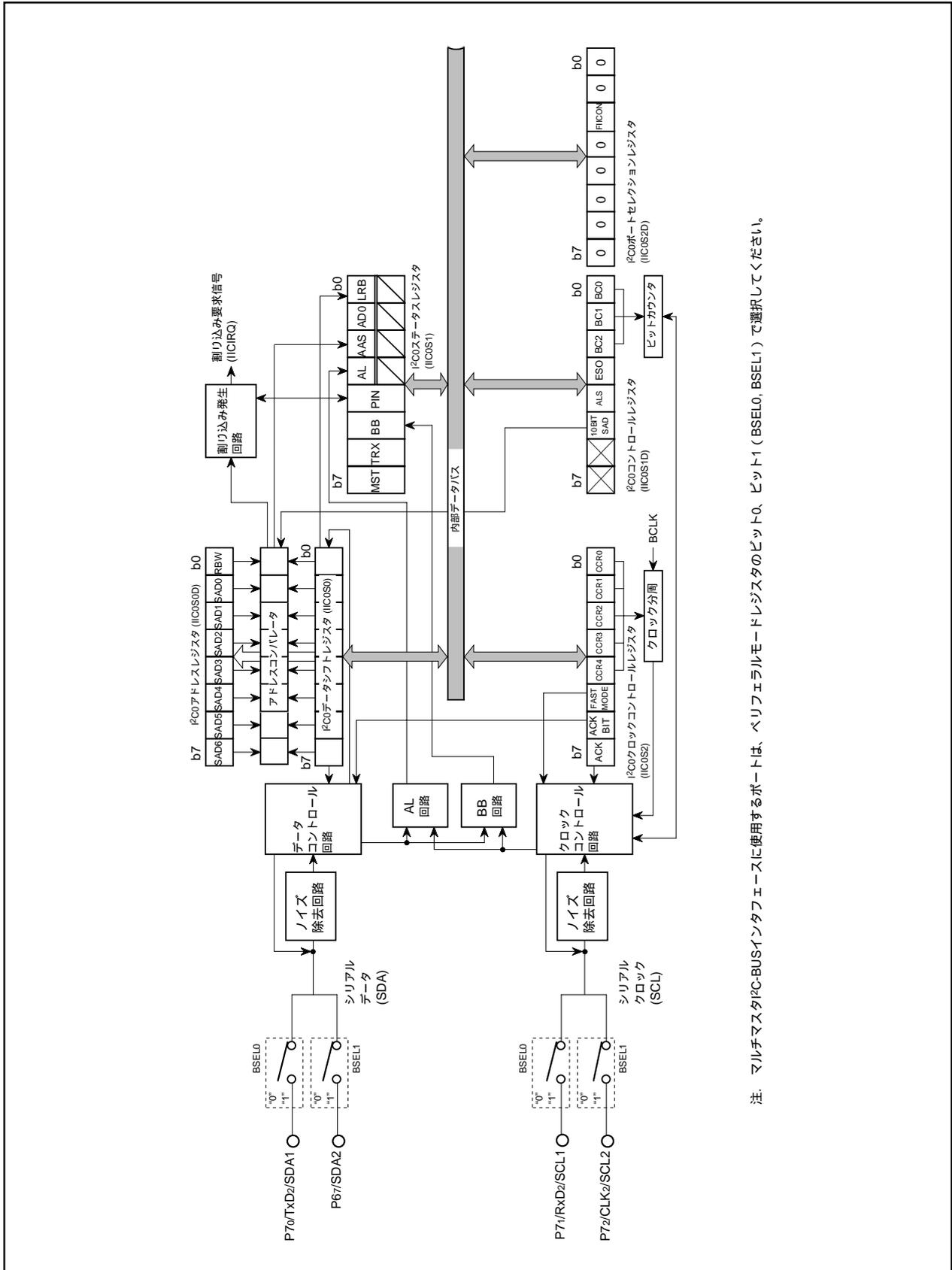
表2.11.13 マルチマスタI²C-BUSインタフェースi機能

項 目	機 能
フォーマット	フィリップス社I ² C-BUS規格準拠 10ビットアドレッシングフォーマット 7ビットアドレッシングフォーマット 高速クロックモード 標準クロックモード
通信モード	フィリップス社I ² C-BUS規格準拠 マスタ送信 マスタ受信 スレーブ送信 スレーブ受信
SCLクロック周波数	16.1kHz ~ 400kHz (BCLK = 10 MHz)

注. I²C-BUSインタフェース0とポート (SCL1 , SCL2 , SDA1 , SDA2) の接続を制御する機能 (ペリフェラルモードレジスタ [027D₁₆番地] のビット0 , ビット1) の使用に起因する第三者の特許権その他の権利侵害については、当社はその責任は負いません。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER



注: マルチマスターI²C-BUSインタフェース0に使用するポートは、ペリフェラルモードレジスタのビット0、ビット1 (BSEL0, BSEL1) で選択してください。

図2.11.32 マルチマスターI²C-BUSインタフェース0のブロック図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

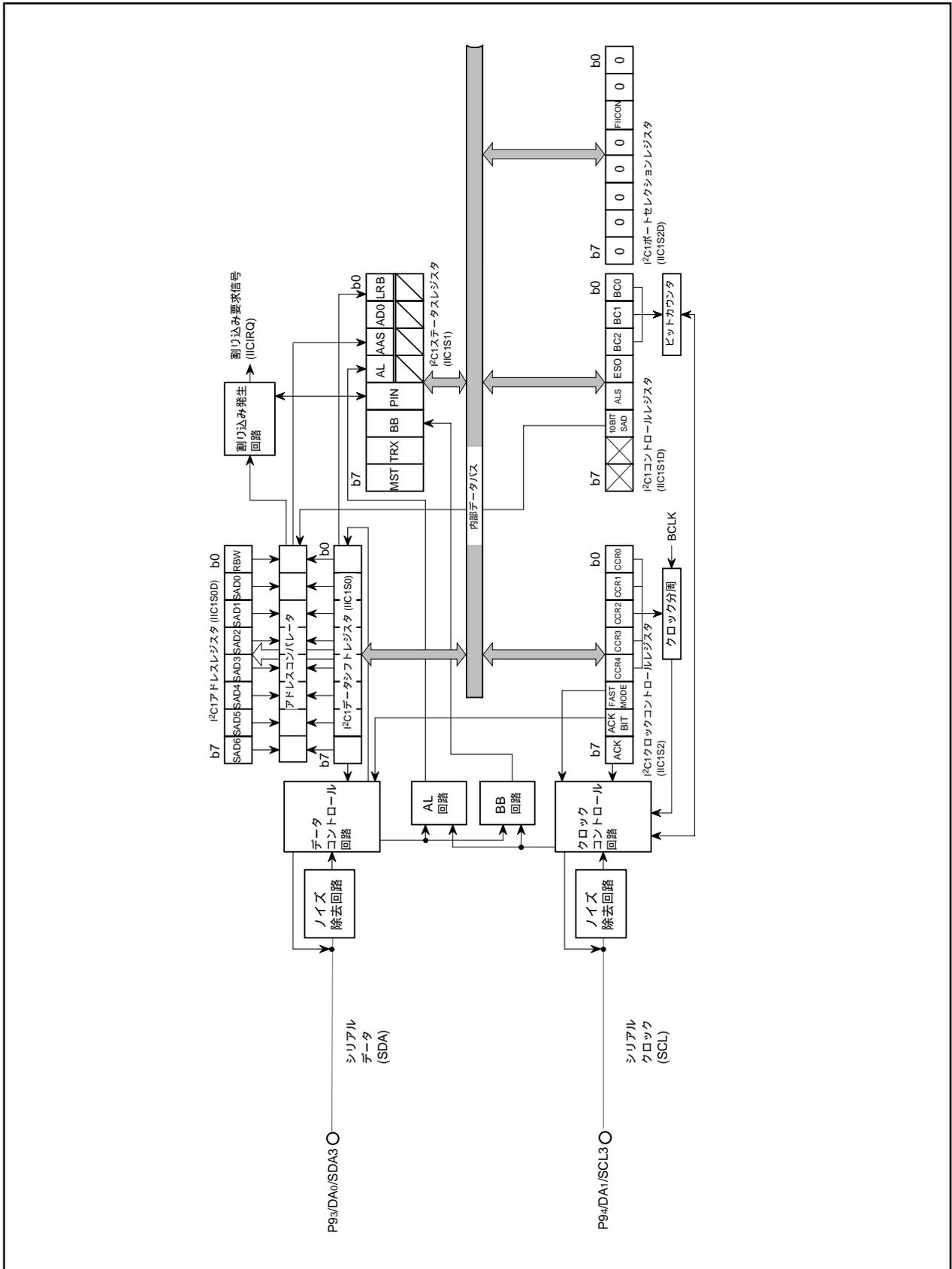


図2.11.33 マルチマスターI²C-BUSインタフェース1のブロック図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(1) I²Ciポートセレクションレジスタ (i=0, 1)

I²Ciポートセレクションレジスタは、マルチマスタI²C-BUSインタフェース機能を有効にするためのビットから構成されています。

ビット2：マルチマスタI²C-BUSインタフェース有効ビット(FIICON)

“0”の場合、マルチマスタI²C-BUSインタフェースiはノンアクティブとなり、“1”の場合、アクティブとなります。アクティブ時、マルチマスタI²C-BUSインタフェース0はペリフェラルモードレジスタ(027D₁₆番地)のビット0、ビット1で選択したポートと接続され、マルチマスタI²C-BUSインタフェース1はポートP9₃, P9₄と接続されます。

注．このビットを“1”に設定した後、マルチマスタI²C-BUSインタフェースiがアクティブになるまで10BCLKサイクル必要です。したがって、この期間にマルチマスタI²C-BUSインタフェースi関連のレジスタにアクセスしないでください。

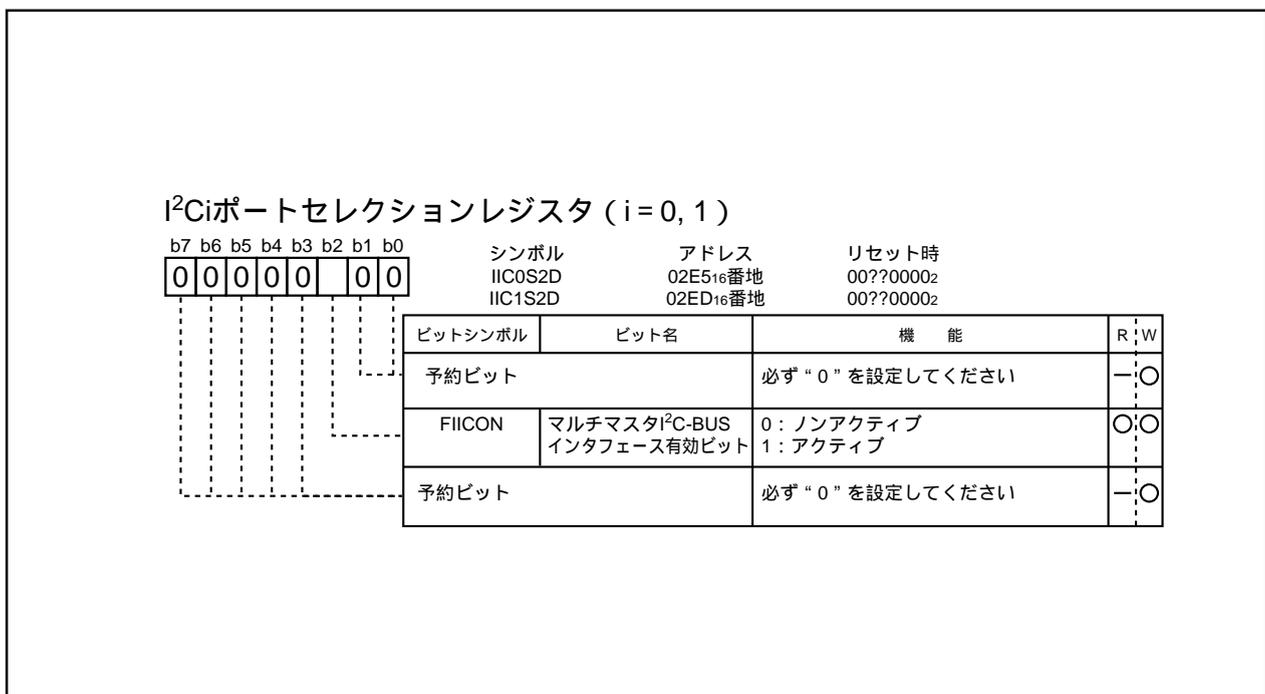


図2.11.34 I²Ciポートセレクションレジスタ (i=1, 0)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(2) I²Ciデータシフトレジスタ、I²Ci送信バッファレジスタ (i=0, 1)

I²Ciデータシフトレジスタは、受信データの格納、又は送信データを書き込むための8ビットのシフトレジスタです。

送信データをこのレジスタに書き込むと、SCLクロックに同期してビット7から外部へ転送されます。そして、1ビットのデータが出力されるたびに、このレジスタの内容は左へ1ビットシフトされます。データ受信時は、SCLクロックに同期してこのレジスタのビット0からデータが入力されます。そして、1ビットのデータが入力されるたびに、このレジスタの内容は左へ1ビットシフトされます。

I²Ciデータシフトレジスタは、I²CiコントロールレジスタのESOビットが“1”のときのみ書き込みが可能です。I²Ciデータシフトレジスタへの書き込み命令によってビットカウンタがリセットされます。ESOビットが“1”、I²CiステータスレジスタのMSTビットが“1”のとき、I²Ciデータシフトレジスタの書き込み命令により、SCLが出力されます。I²Ciデータシフトレジスタの読み出しは、ESOビットの値にかかわらずいつでも可能です。

I²Ci送信バッファレジスタはリスタートコンディション発生前にI²Ciデータシフトレジスタへ送信データ(スレーブアドレス)を格納するためのレジスタです。つまり、マスタ時、I²Ci送信バッファレジスタに書き込んだデータは同時にI²Ciデータシフトレジスタに書き込まれますが、SCLの出力は行われません。また、I²Ci送信バッファレジスタは、ESOビットが“1”のときのみ書き込み可能で、ESOビットの値にかかわらず読み出しはできません。

- 注1. MSTビットが“1” “0”に変化した後にI²Ciデータシフトレジスタ、又はI²Ci送信バッファレジスタにデータを書き込む場合、20BCLK以上の間隔を確保してください。
2. I²Ciデータシフトレジスタ、又はI²Ci送信バッファレジスタに書き込みを実行した後、スタートまたはリスタートコンディションを発生する場合は、2BCLK以上の間隔を確保してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

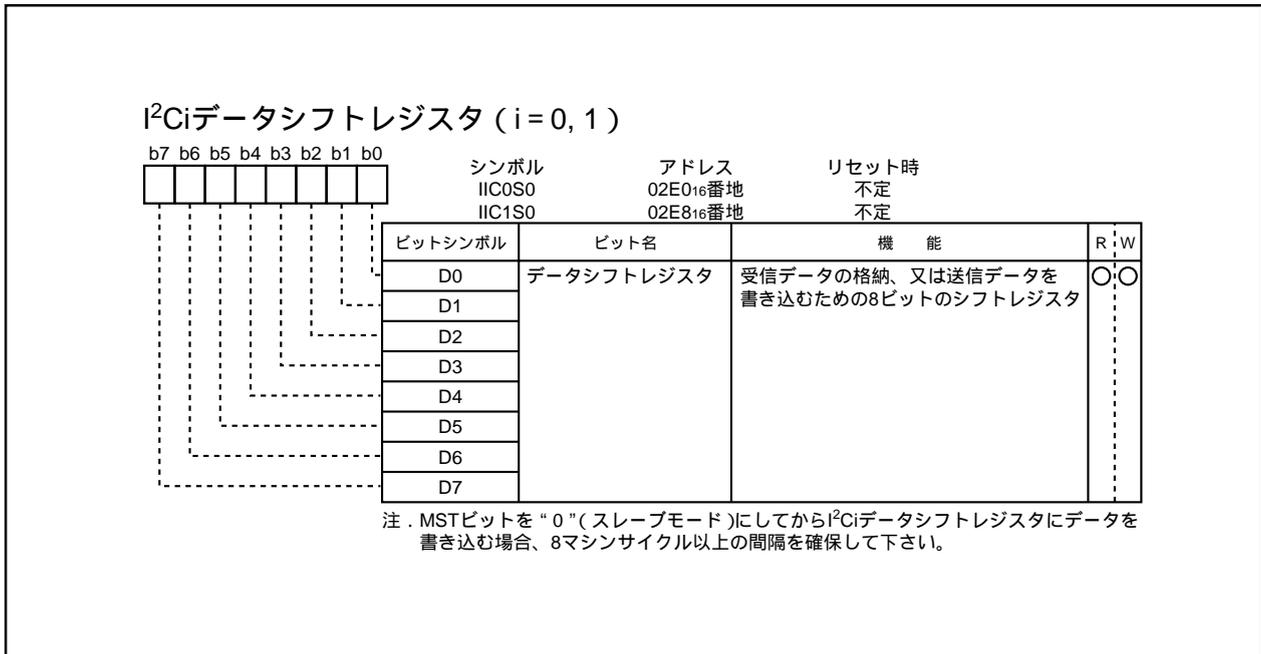


図2.11.35 I²Ciデータシフトレジスタ (i=1, 0)

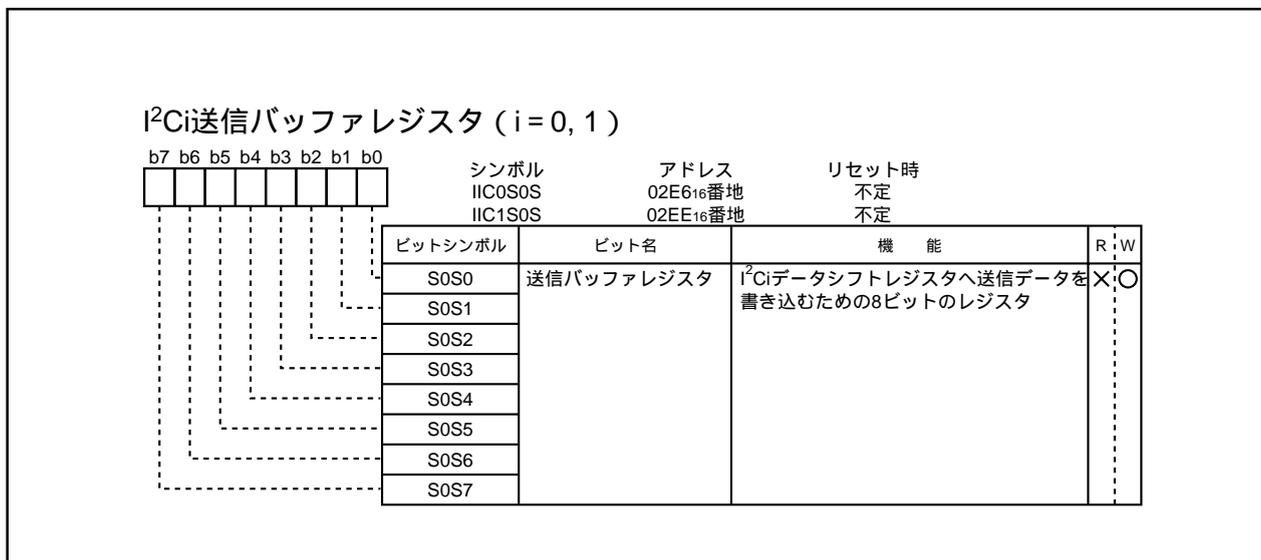


図2.11.36 I²Ci送信バッファレジスタ (i=1, 0)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(3) I²Ciアドレスレジスタ (i=0, 1)

I²Ciアドレスレジスタは7ビットのスレーブアドレスと1ビットのリード/ライトビットにより構成されています。アドレッシングモード時は、このレジスタに書き込まれたスレーブアドレスと、スタートコンディションを検出した直後に受信するアドレスデータとを比較します。

ビット0：リード/ライトビット (RBW)

7ビットアドレッシングモード時には、アドレス比較の際に使用されません。10ビットアドレッシングモード時には、受信した1バイト目のアドレスデータとI²Ciアドレスレジスタの内容 (SAD6 ~ SAD0 + RBW) が比較されます。

RBWビットはストップコンディションを検出すると、自動的に“0”になります。

ビット1～ビット7：スレーブアドレス (SAD0～SAD6)

スレーブアドレスを格納するビットです。7ビットアドレッシングモード、10ビットアドレッシングモードにかかわらず、マスタから送信されるアドレスデータとこれらのビットの内容が比較されます。

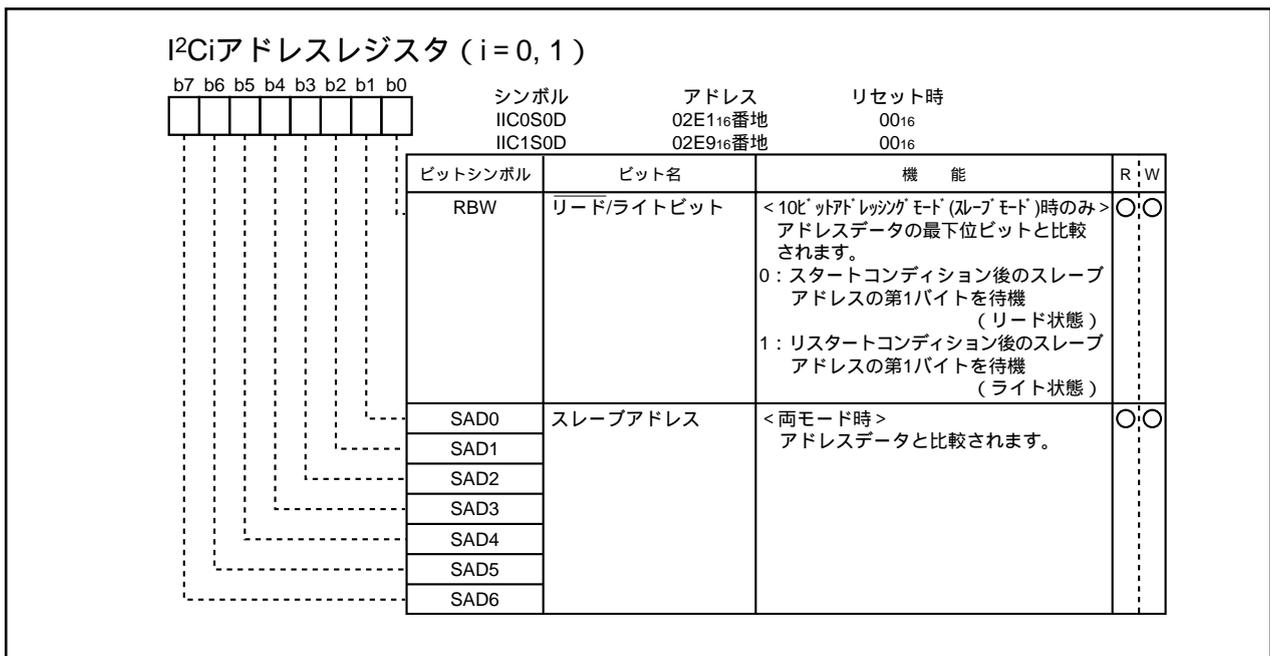


図2.11.37 I²Ciアドレスレジスタ (i=1, 0)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(4) I²Ciクロックコントロールレジスタ (i=0, 1)

I²Ciクロックコントロールレジスタはアックの制御、SCLモード、SCLの周波数を設定するレジスタです。

ビット0～ビット4：SCL周波数制御ビット (CCR0～CCR4)

SCL周波数を制御するビットです。

ビット5：SCLモード指定ビット (FAST MODE)

SCLモードを指定するビットです。“0”の場合、標準クロックモードになります。“1”の場合、高速クロックモードになります。

ビット6：アックビット (ACK BIT)

アッククロック*発生時のSDAの状態を設定します。“0”の場合はアックを返すモードとなり、アッククロック発生時にSDAを“L”にします。“1”の場合はアックを返さないモードとなり、アッククロック発生時にSDAを“H”の状態に保持します。

ただし、ACK BIT = “0”の状態、アドレスデータを受信するとき、スレーブアドレスとアドレスデータが一致した場合は自動的にSDAを“L”にします (アックを返します)。

スレーブアドレスとアドレスデータが一致しなかった場合は自動的にSDAを“H”にします (アックを返しません)。

*アッククロック：確認応答用のクロック

ビット7：アッククロックビット (ACK)

データ転送の確認応答であるアクノリッジメントのモードを指定するビットです。“0”の場合、アッククロックなしモードになり、データ転送後にアッククロックは発生しません。“1”の場合はアッククロックありのモードになり、1バイトのデータ転送が完了するたびに、マスタはアッククロックを発生します。アドレスデータ、制御データを送信するデバイスは、アッククロック発生時にSDAを解放し (“H”の状態にする)、データを受信するデバイスが発生させるアックビットを受信します。

注. I²Ciクロックコントロールレジスタの書き込みを転送途中で行わないでください。転送途中に書き込みを行うとI²Ciクロックジェネレータがリセットされ、データが正常に転送できません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

I²C_iクロックコントロールレジスタ (i = 0, 1)

シンボル	アドレス	リセット時
IIC0S2	02E4 ₁₆ 番地	00 ₁₆
IIC1S2	02EC ₁₆ 番地	00 ₁₆

ビットシンボル	ビット名	機能	R	W	
b7 b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0	CCR0 SCL周波数制御ビット	レジスタ値 b4~b0	標準 クロックモード	高速 クロックモード	○ ○
		00~02	禁止	禁止	
		03	禁止	333	
		04	禁止	250	
		05	100	400 (注)	
		06	83.3	166	
		:	500/CCR値	1000/CCR値	
		1D	17.2	34.5	
		1E	16.6	33.3	
		1F	16.1	32.3	
(BCLK = 10MHz, 単位:kHz)					
FAST MODE	SCLモード指定ビット	0: 標準クロックモード 1: 高速クロックモード	○	○	
ACK BIT	アックビット	0: アック返す 1: アック返さない	○	○	
ACK	アッククロックビット	0: アッククロックなし 1: アッククロックあり	○	○	

注. 高速クロックモード, 400kHz時のデューティは“0”期間: “1”期間 = 3:2
 それ以外のデューティは“0”期間: “1”期間 = 1:1

図2.11.38 I²C_iクロックコントロールレジスタ (i = 1, 0)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(5) I²Ciコントロールレジスタ (i=0, 1)

I²Ciコントロールレジスタはデータ通信フォーマットの制御を行うレジスタです。

ビット0～ビット2：ビットカウンタ (BC0～BC2)

次に転送されるデータ1バイト分のビット数を決定するビットです。割り込み要求信号は、これらのビットで指定されたビット数の転送完了直後に発生します。

スタートコンディションを受信すると、これらのビットは“0002”になり、アドレスデータは必ず8ビットで送受信されます。

注. ビットカウンタ値=“1112”の状態、ストップコンディション、スタートコンディションの待機はできません。

ビット3：I²C-BUSインタフェースi使用許可ビット (ESO)

マルチマスタI²C-BUSインタフェースiの使用を許可するビットです。“0”の場合使用禁止状態で、SDA及びSCLはハイインピーダンスになります。“1”の場合、使用許可となります。

ESO=“0”のとき、次のように処理されます。

- ・I²CiステータスレジスタのPIN=“1”, BB=“0”, AL=“0”に設定される。
- ・I²CiデータシフトレジスタおよびI²Ci送信バッファレジスタへの書き込みは禁止される。

ビット4：データフォーマット選択ビット (ALS)

スレーブアドレスの認識を行うか否かを決定するビットです。“0”の場合はアドレッシングフォーマットとなり、アドレスデータを認識します。そして、スレーブアドレスとアドレスデータとを比較して一致した場合、又はジェネラルコール(「(6) I²Ciステータスレジスタ」のビット1参照)を受信したときのみ転送処理が行えます。“1”の場合はフリーデータフォーマットとなり、スレーブアドレスを認識しません。

ビット5：アドレッシングフォーマット選択ビット (10BIT SAD)

スレーブのアドレス指定フォーマットを選択するビットです。“0”の場合は7ビットアドレッシングフォーマットとなり、I²Ciアドレスレジスタの上位7ビット(スレーブアドレス)のみアドレスデータと比較されます。“1”の場合には10ビットアドレッシングフォーマットとなり、I²Ciアドレスレジスタの全ビットがアドレスデータと比較されます。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

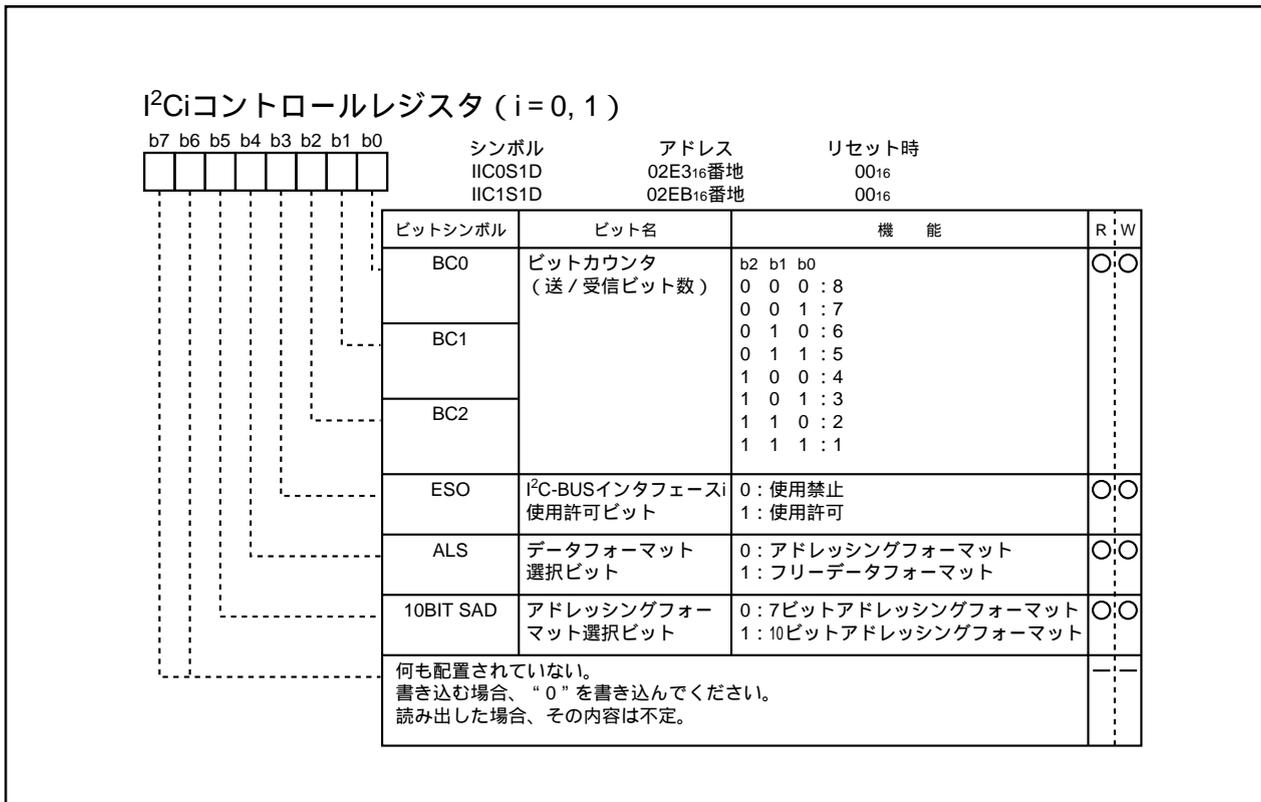


図2.11.39 I²Ciコントロールレジスタ (i=1, 0)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(6) I²Ciステータスレジスタ (i=0,1)

I²CiステータスレジスタはI²C-BUSインタフェースiの状態を制御するレジスタです。ビット0~ビット3とビット5は読み出し専用で、ビット4、ビット6、ビット7は読み出し/書き込み可能です。

ビット0：最終受信ビット (LRB)

受信したデータの最終ビットの値を格納するビットで、アックの受信確認に使用可能です。アッククロック発生時に、アックが返ってきた場合、LRBビットは“0”になります。アックが返らなかった場合は“1”になります。アックモードでない場合は受信データの最終ビットの値が入力されます。

このビットは、I²Ciデータシフトレジスタ、又はI²Ci送信バッファレジスタに書き込み命令を実行すると“1”から“0”になります。

ビット1：ジェネラルコール検出フラグ (AD0)

アドレスデータがすべて“0”であるジェネラルコール*をスレーブモード時に受信したときに“1”になります。マスタデバイスがジェネラルコールを発信することにより、ジェネラルコール後の制御データはすべてのスレーブデバイスに受信されます。AD0ビットはストップコンディション、スタートコンディションの検出により“0”になります。

* ジェネラルコール：マスタが全スレーブにジェネラルコールアドレス“0016”を送信すること。

ビット2：スレーブアドレス比較フラグ (AAS)

アドレスデータの比較結果を示すフラグです。

《スレーブ受信モード時、7ビットアドレッシングフォーマットでは、以下のいずれかの条件で、“1”になります。》

- ・スタートコンディション発生直後のアドレスデータがI²Ciアドレスレジスタに格納されている上位7ビットのスレーブアドレスと一致した場合
- ・ジェネラルコールを受信した場合

《スレーブ受信モード時、10ビットアドレッシングフォーマットでは、以下の条件で“1”になります。》

- ・アドレスデータとI²Ciアドレスレジスタ（スレーブアドレス、及びRBWビットで構成される8ビット）とを比較し、1バイト目が一致した場合

《このビットはI²Ciデータシフトレジスタ、又はI²Ci送信バッファレジスタに書き込み命令を行うことにより“1”から“0”になります。》

ビット3：アービトレーションロスト*検出フラグ (AL)

マスタ送信モード時、SDAがマイコン以外の装置によって“L”レベルにされた場合、アービトレーションを失ったと判定し、このビットは“1”になります。同時にTRXビットは“0”になるため、アービトレーションを失ったバイトの送信が完了した直後に、MSTビットが“0”になります。スレーブアドレス送信中にアービトレーションを失った場合、TRXビットが“0”になり、受信モードとなります。そのため、別のマスタデバイスにより送信される自分自身のスレーブアドレスを受信し、認識することが可能になります。

《このビットはI²Ciデータシフトレジスタ、又はI²Ci送信バッファレジスタに書き込み命令を行うことにより“1”から“0”になります。》

*アービトレーションロスト：マスタとしての通信が不許可となった状態。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

ビット4：I²C-BUSインタフェース割り込み要求ビット（PIN）

割り込み要求信号を発生させるビットです。1バイトのデータ通信完了ごとに、PINビットは“1”から“0”になります。同時にCPUへ割り込み要求信号が発生します。PINビットは内部クロックの最終クロック（アッククロックを含む）の立ち下がりに同期して“0”になり、割り込み要求信号はPINビットの立ち下がりに同期して発生します。スレープ時は、ストップコンディションを検出すると、PINビットの立ち下がりに関係なくマルチマスタI²C-BUSインタフェース割り込み要求ビット（IR）は“0”から“1”（要求あり）になります。PINビットが“0”のときはSCLは“0”に保たれクロックの発生は禁止されます。図2.11.41に割り込み要求信号の発生タイミングを示します。

以下のいずれかの条件でPINビットが“1”になります。

- ・ PINビットへの“1”書き込み
- ・ I²Cデータシフトレジスタ、又はI²Ci送信バッファレジスタへの書き込み命令の実行（注）
- ・ ESOビットが“0”のとき
- ・ リセット時

注. これらのレジスタへの書き込み命令後、PINビットが“1”になるまで8CLKサイクル以上要します。

PINビットが“0”になる条件を以下に示します。

- ・ 1バイトのデータ送信完了直後（アービトラクションロストを検出した場合を含む）
- ・ 1バイトのデータ受信完了直後
- ・ スレープ受信の際、ALS = “0”で、スレープアドレス又はジェネラルコールアドレス受信完了直後
- ・ スレープ受信の際、ALS = “1”で、アドレスデータ受信完了直後

ビット5：バスビジーフラグ（BB）

バスシステムの使用状態を示すビットです。“0”の場合、このバスシステムは使用されておらず、スタートコンディションを発生させることが可能です。“1”の場合、このバスシステムは使用されており、スタートコンディションの発生はスタートコンディション重複防止機能（注）によって禁止されます。

このフラグはソフトウェアによる書き込みはできません。スタートコンディションの検出により“1”になり、ストップコンディションの検出により“0”になります。また、I²CiコントロールレジスタのESOビットが“0”の場合、及びリセット時にはBBフラグは“0”に保持されます。

ビット6：通信モード指定ビット（転送方向指定ビット：TRX）

データ通信の転送方向を決定するビットです。“0”の場合、受信モードとなり、送信デバイスのデータを受信します。“1”の場合、送信モードとなり、SCL上に発生するクロックに同期してSDA上にアドレスデータ、制御データを出力します。

I²CiコントロールレジスタのALSビットが“0”でスレープの場合、マスタから送信されたアドレスデータの最下位ビット（R \bar{W} ビット）が“1”のときはTRXビットは“1”（送信）になります。ALSビットが“0”でR \bar{W} ビットが“0”のときはTRXビットは“0”（受信）になります。

以下のいずれかの条件でTRXビットが“0”になります。

- ・ アービトラクションロストを検出した場合
- ・ ストップコンディションを検出した場合
- ・ スタートコンディション重複防止機能（注）によりスタートコンディション発生を禁止された場合
- ・ MST = “0”で、スタートコンディションを検出した場合
- ・ MST = “0”で、アックが返ってこなかったことを検出した場合
- ・ リセット時

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

ビット7：通信モード指定ビット（マスタ/スレーブ指定ビット：MST）

データ通信を行う際のマスタ/スレーブを指定するビットです。“0”の場合、スレーブとなり、マスタが生成するスタートコンディション、ストップコンディションを受信し、マスタが発生させるクロックに同期してデータ通信を行います。“1”の場合、マスタとなり、スタートコンディション、ストップコンディションを生成します。また、データ通信に必要なクロックをSCL上に発生させます。

以下のいずれかの条件でMSTビットが“0”になります。

- ・アービトレーションロストを検出した場合、1バイトデータ送信終了直後
- ・ストップコンディションを検出した場合
- ・スタートコンディション重複防止機能（注）によりスタートコンディション発生を禁止された場合
- ・リセット時

注. スタートコンディション重複防止機能は、スタートコンディションの発生と、それに伴うビットカウンタのリセット、及びSCLの出力を禁止する機能です。この機能はBBフラグがセットされてから1バイトの送受信が完了（送受信割り込み要求<IICIRQ>の発生）するまで有効となります。

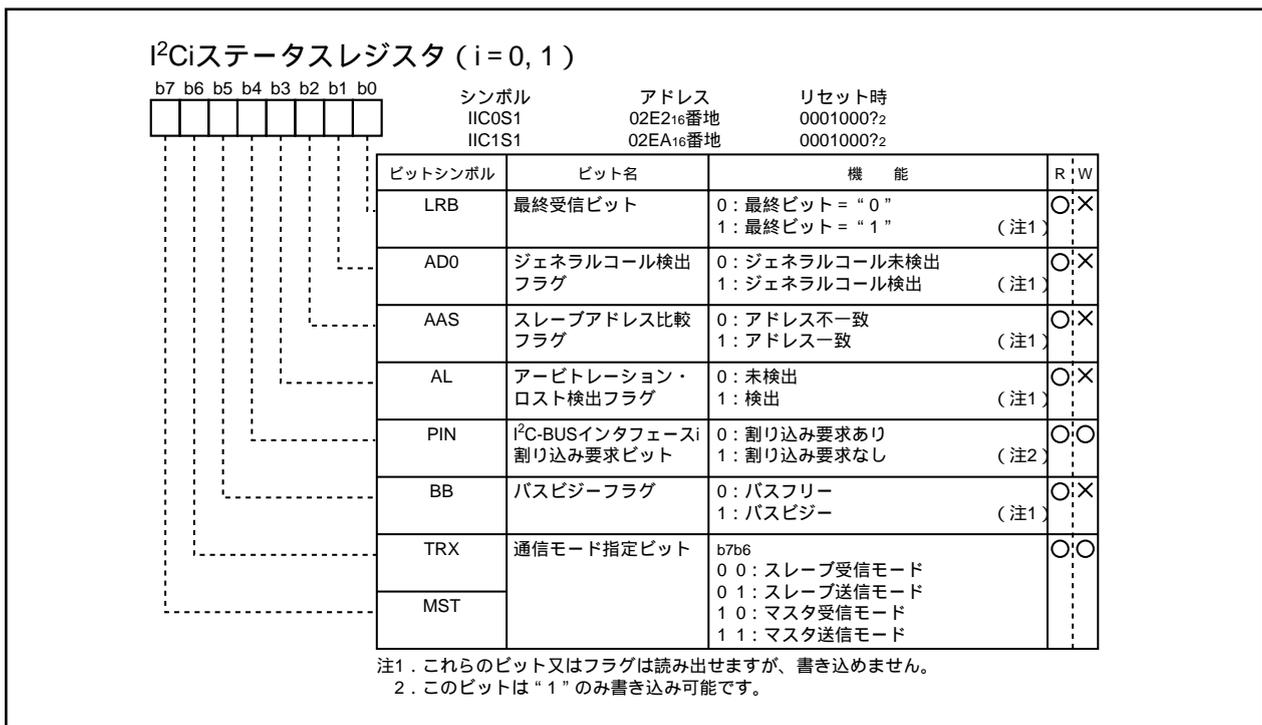


図2.11.40 I²Ciステータスレジスタ (i = 1, 0)

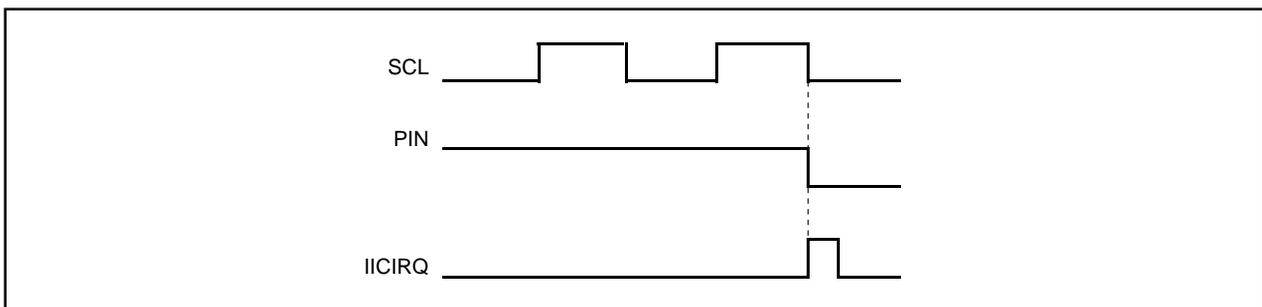


図2.11.41 割り込み要求信号の発生タイミング

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(7) スタートコンディション発生方法

I²CiコントロールレジスタのESOビットが“1”の状態、I²Ciステータスレジスタに書き込み命令を行いIMST, TRX, BBビットを“1”にするとスタートコンディションが発生します。その後、ビットカウンタが“0002”になり1バイト分のSCLが出力されます。スタートコンディションの発生及びBBビットセットタイミングは、標準クロックモードと高速クロックモードで異なります。図2.11.42のスタートコンディション発生タイミング図と表2.11.13のスタートコンディション、ストップコンディション発生タイミング表を参照してください。

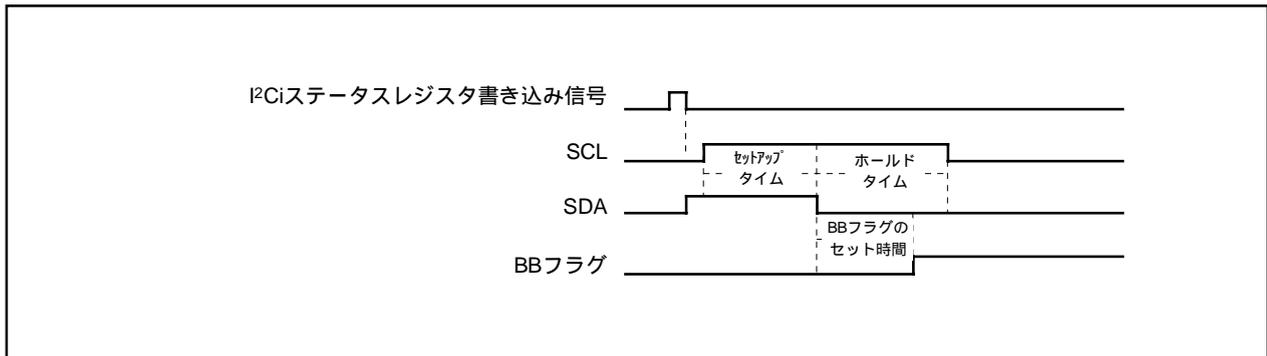


図2.11.42 スタートコンディション発生タイミング図

(8) ストップコンディションの発生方法

I²CiコントロールレジスタのESOビットが“1”の状態、I²Ciステータスレジスタへ書き込み命令を行いIMST = “1”, TRX = “1”, BB = “0”にすると、ストップコンディションが発生します。ストップコンディションの発生及びBBフラグのリセットタイミングは、標準クロックモードと高速クロックモードで異なります。図2.11.43のストップコンディション発生タイミング図と表2.11.13のスタートコンディション、ストップコンディション発生タイミング表を参照してください。

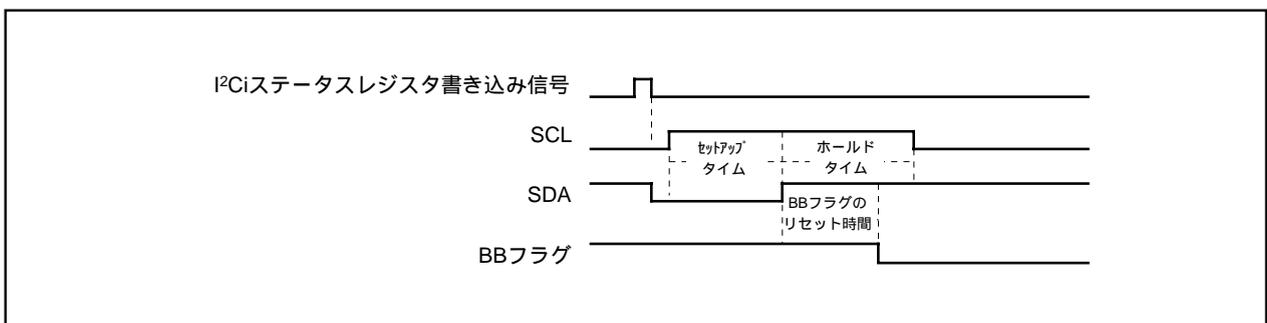


図2.11.43 ストップコンディション発生タイミング図

表2.11.13 スタートコンディション、ストップコンディション発生タイミング表

項目	標準クロックモード	高速クロックモード
セットアップ時間	5.35 μ s (53.5サイクル)	1.85 μ s (18.5サイクル)
ホールド時間	4.9 μ s (49サイクル)	2.4 μ s (24サイクル)
BBフラグセット/リセット時間	3.75 μ s (37.5サイクル)	0.85 μ s (8.5サイクル)

注. BCLK = 10MHz時の絶対時間、()内はBCLKのサイクル数

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(9) スタート/ストップコンディション検出条件

スタート/ストップコンディションを検出する条件を図2.11.44と表2.11.14に示します。表2.11.14の3条件を満たす場合のみスタート/ストップコンディションを検出できます。

注. スレーブ (MST = 0) 時にストップコンディションを検出すると、CPUに対して割り込み要求信号 <IICIRQ> を発生します。

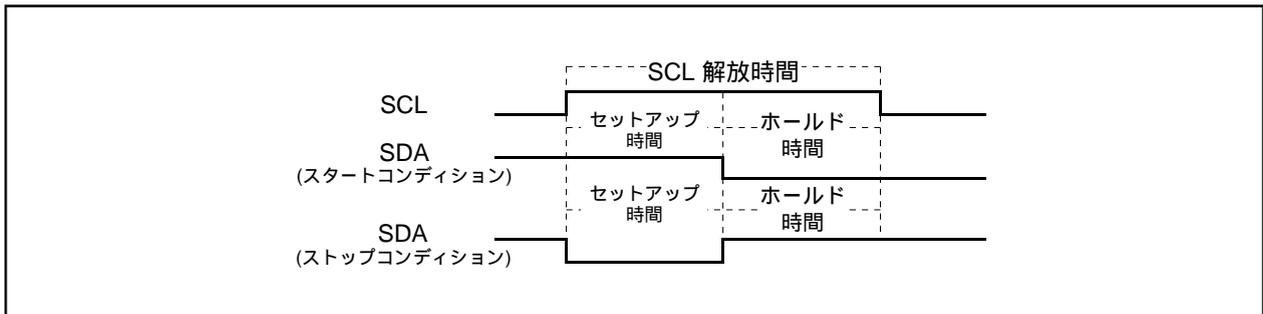


図2.11.44 スタートコンディション，ストップコンディション検出のタイミング図

表2.11.14 スタートコンディション，ストップコンディション検出条件

標準クロックモード	高速クロックモード
6.5 μ s (65サイクル) < SCL解放時間	1.0 μ s (10サイクル) < SCL解放時間
3.25 μ s (32.5サイクル) < セットアップ時間	0.5 μ s (5サイクル) < セットアップ時間
3.25 μ s (32.5サイクル) < ホールド時間	0.5 μ s (5サイクル) < ホールド時間

注 . BCLK = 10MHz時の絶対時間、 () 内はBCLKのサイクル数

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(10) アドレスデータ通信

アドレスデータ通信のフォーマットには、7ビットアドレッシングフォーマットと10ビットアドレッシングフォーマットがあります。それぞれのアドレス通信フォーマットについての、対応方法を説明します。

7ビットアドレッシングフォーマット

7ビットアドレッシングフォーマットに対応するために、 I^2C iコントロールレジスタの10BIT SADビットを“0”にしてください。マスタから送信された最初の7ビットのアドレスデータと、 I^2C iアドレスレジスタに格納された上位7ビットのスレーブアドレスを比較します。この比較時には、 I^2C iアドレスレジスタのRBWビットのアドレス比較は行われません。7ビットアドレッシングフォーマット時のデータ伝送フォーマットは図2.11.45の(1)、(2)を参照してください。

10ビットアドレッシングフォーマット

10ビットアドレッシングフォーマットに対応するために、 I^2C iコントロールレジスタの10BIT SADビットを“1”にしてください。マスタから送信された1バイト目のアドレスデータと、 I^2C iアドレスレジスタに格納されたスレーブアドレス7ビットがアドレス比較されます。この比較時には、 I^2C iアドレスレジスタのRBWビットと、マスタから送信されるアドレスデータの最終ビット(R/Wビット)が、アドレス比較されます。10ビットアドレッシングモード時には、アドレスデータの最終ビットであるR/Wビットは制御データの通信方向を指定するだけでなく、アドレスデータのビットとして処理されます。

1バイト目のアドレスデータとスレーブアドレスが一致した場合には、 I^2C iステータスレジスタのAASビットが“1”にセットされます。2バイト目のアドレスデータは、 I^2C iデータシフトレジスタに格納した後、ソフトウェアで2バイト目のアドレスデータとスレーブアドレスのアドレス比較を行ってください。2バイトのアドレスデータとスレーブアドレスが一致した場合には、 I^2C iアドレスレジスタのRBWビットをソフトウェアで“1”にしてください。この処理により、リスタートコンディション検出後に受信する7ビットのスレーブアドレス及びR/Wのデータと I^2C iアドレスレジスタの値を一致させることができます。10ビットアドレッシングフォーマット時のデータ伝送フォーマットは図2.11.45の(3)、(4)を参照してください。

(11) マスタ送信例

標準クロックモード、SCL周波数100kHz、アックを返すモードの場合のマスタ送信例を以下に示します。

I²Ciアドレスレジスタの上位7ビットにスレーブアドレス、RBWビットに“0”を設定します。

I²Ciクロックコントロールレジスタに“85₁₆”を設定することによって、アックを返すモード、SCL = 100kHzにします。

I²Ciステータスレジスタに“10₁₆”を設定し、SCLを“H”レベルに保持します。

I²Ciコントロールレジスタに“08₁₆”を設定することによって、通信許可状態にします。

I²Ciデータシフトレジスタの上位7ビットに送信先のアドレスデータを設定します。また、最下位ビットは“0”にします。

I²Ciステータスレジスタに“F0₁₆”を設定することによって、スタートコンディションを発生させます。このとき、1バイト分のSCLとアッククロックは自動的に発生します。

I²Ciデータシフトレジスタに送信データを設定します。このとき、SCLとアッククロックは自動的に発生します。

複数バイトの制御データを送信する場合、 を繰り返します。

アックが返らなかった場合又は送信が終了した場合は、I²Ciステータスレジスタに“D0₁₆”を設定することによってストップコンディションを発生させます。

(12) スレーブ受信例

高速クロックモード、SCL周波数400kHz、アックなしモード、アドレッシングフォーマットの場合のスレーブ受信例を以下に示します。

I²Ciアドレスレジスタの上位7ビットにスレーブアドレス、RBWビットに“0”を設定します。

I²Ciクロックコントロールレジスタに“25₁₆”を設定することによって、アックなしモード、SCL = 400kHzにします。

I²Ciステータスレジスタに“10₁₆”を設定しSCLを“H”レベルに保持します。

I²Ciコントロールレジスタに“08₁₆”を設定することによって、通信許可状態にします。

スタートコンディションを受信すると、アドレス比較されます。

< 送信されたアドレスがすべて“0”の場合（ジュネラルコール）>

I²CiステータスレジスタのAD0=“1”に設定され、割り込み要求信号が発生します。

< 送信されたアドレスが、 で設定したアドレスと一致した場合>

I²CiステータスレジスタのAAS=“1”に設定され、割り込み要求信号が発生します。

< 上記以外の場合>

I²CiステータスレジスタのAD0=“0”、AAS=“0”に設定され、割り込み要求信号は発生しません。

I²Ciデータシフトレジスタにダミーデータを設定します。

複数バイトの制御データを受信する場合、 を繰り返します。

ストップコンディションを検出すると通信が終了します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

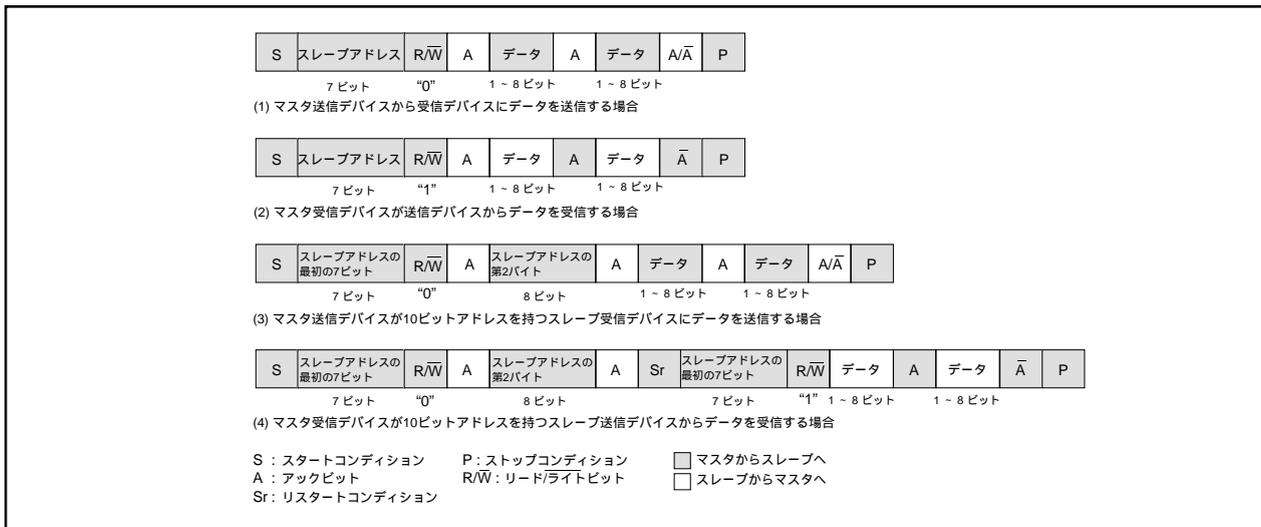


図2.11.45 アドレスデータ通信フォーマット

(13) マルチマスタ²Ci-BUSインタフェースiの注意事項

BCLKの動作モードについて

分周なしモードを選択し、メインクロック周波数を $f(XIN) = 10\text{MHz}$ にしてください。

使用する命令について

マルチマスタ²Ci-BUSインタフェースi関連レジスタをアクセスする命令のデータサイズは、バイト(.B)を指定してください。

リード・モディファイ・ライト命令の使用について

BSET, BCLRなどのリード・モディファイ・ライト命令をマルチマスタ²Ci-BUSインタフェースの各レジスタに使う場合の注意事項は以下のとおりです。

・²Ciデータシフトレジスタ (IICiS0)

転送中にリード・モディファイ・ライト命令を使用すると、意図しない値になることがあります。

・²Ciアドレスレジスタ (IICiS0D)

ストップコンディション検出時にリード・モディファイ・ライト命令を使用すると、意図しない値になることがあります。

上記のタイミングでリード/ライトビット (RBW) が、ハードウェアによって変化するためです。

・²Ciステータスレジスタ (IICiS1)

すべてのビットはハードウェアによって変化しますので、リード・モディファイ・ライト命令を使用しないでください。

・²Ciコントロールレジスタ (IICiS1D)

スタートコンディション検出時及びバイト転送完了時にリード・モディファイ・ライト命令を使用すると、意図しない値になることがあります。

上記のタイミングでビットカウンタ (BC0~BC2) が、ハードウェアによって変化するためです。

・²Ciクロックコントロールレジスタ (IICiS2)

リード・モディファイ・ライト命令は使用可能です。

・²Ciポートセレクションレジスタ (IICiS2D)

上位4ビットが読み出し値不定のため、リード・モディファイ・ライト命令は使用できません。

・²Ci送信バッファレジスタ (IICiS0S)

すべてのビットが読み出し値不定のため、リード・モディファイ・ライト命令は使用できません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

スタートコンディション発生手順について

	:		
FCLR	I	(割り込みの禁止)	
BTST	5, IICiS1	(BBフラグ確認及び分岐処理)	
JC	BUSBUSY		
BUSFREE:			
MOV.B	SA, IICiS0	(スレーブアドレス値<SA>の書き込み)	
NOP			
NOP			
MOV.B	#F0H, IICiS1	(スタートコンディション発生のトリガ)	
FSET	I	(割り込みの許可)	
	:		
BUSBUSY:			
FSET	I	(割り込みの許可)	
	:		

スレーブアドレス値の書き込みと、スタートコンディション発生のトリガの設定は、手順例のとおり必ずNOP命令×2を挿入して実行してください。

マルチマスタシステムの場合は、BBフラグの確認、スレーブアドレス値の書き込み、スタートコンディション発生のトリガ、以上3つの処理ステップの間は必ず割り込みを禁止にしてください。BBフラグがバスビジーである場合は、ただちに割り込みを許可にしてください。シングルマスタシステムの場合は、上記の割り込み禁止処理は必要ありません。

リスタートコンディション発生手順について

	:		
MOV.B	SA, IICiS0S	(スレーブアドレス値<SA>の書き込み)	—
NOP			
NOP			
MOV.B	#F0H, IICiS1	(リスタートコンディション発生のトリガ)	
	:		

I²Ciデータシフトレジスタへのスレーブアドレス値の書き込みは、I²Ci送信バッファレジスタを使用してください。また、必ずNOP命令×2を挿入してください。

I²Ciステータスレジスタへの書き込みについて

同時にPINビットを“0”から“1”、MSTビット及びTRXビットを“1”から“0”にする命令実行をしないでください。SCL端子が解放されて、約1マシンサイクル後にSDA端子が解放される状態になることがあります。PINビットが“1”の時に、MSTビット及びTRXビットを“1”から“0”にする命令実行をしても、同様の状態になることがあります。

ストップコンディション発生後の処理について

マスタとしてストップコンディションを発生させた後、バスビジーフラグBBが“0”になるまでの間、I²Ciデータシフトレジスタ及びI²Ciステータスレジスタに書き込みを行わないで下さい。ストップコンディション波形が正常に発生されないことがあります。上記レジスタに対する読み出しは問題ありません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.12 A-D変換器

容量結合増幅器で構成され、8ビットの逐次比較変換方式のA-D変換器を1回路内蔵しています。アナログ信号入力端子は、P102～P107と共用していますのでA-D変換を行う端子に対応する方向レジスタは入力に設定してください。また、Vref接続ビット(03D716番地のビット5)によりA-D変換器を使用しないとき、A-D変換器の抵抗ラダーと基準電圧(VREF)を切り離すことができます。切り離すことにより、VREFから抵抗ラダーには電流が流れなくなり、消費電力を少なくすることができます。A-D変換器を使用する場合は、VREFを接続してからA-D変換をスタートさせてください。

A-D変換した結果は、選択した端子に対応したA-Dレジスタに格納されます。

表2.12.1にA-D変換器の性能を、図2.12.1にA-D変換器のブロック図を、図2.12.2～図2.12.5にA-D変換器関連のレジスタを示します。

表2.12.1. A-D変換器の性能

項 目	性 能
A-D変換方式	逐次比較変換方式(容量結合増幅器)
アナログ入力電圧(注1)	0V～AVCC(VCC)
動作クロック AD(注2)	fAD/fADの2分周/fADの4分周 fAD=f(XIN)
分解能	8ビット
絶対精度	VCC = 5Vのとき サンプル&ホールド機能なし：±5LSB サンプル&ホールド機能あり：±5LSB
動作モード	単発モード/繰り返しモード/単掃引モード/繰り返し掃引モード0 /繰り返し掃引モード1
アナログ入力端子	6本(AN0～AN5)
A-D変換開始条件	ソフトウェアトリガ A-D変換開始フラグを“1”にするとA-D変換を開始
1端子あたりの変換速度	サンプル&ホールドなし 49 ADサイクル サンプル&ホールドあり 28 ADサイクル

注1. サンプル&ホールド機能の有無に依存しません。

2. f(XIN)が10MHzを超える場合は分周し、ADの周波数を10MHz以下にしてください。
 サンプル&ホールド機能なしのとき ADの周波数は250kHz以上にしてください。
 サンプル&ホールド機能ありのとき ADの周波数は1MHz以上にしてください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

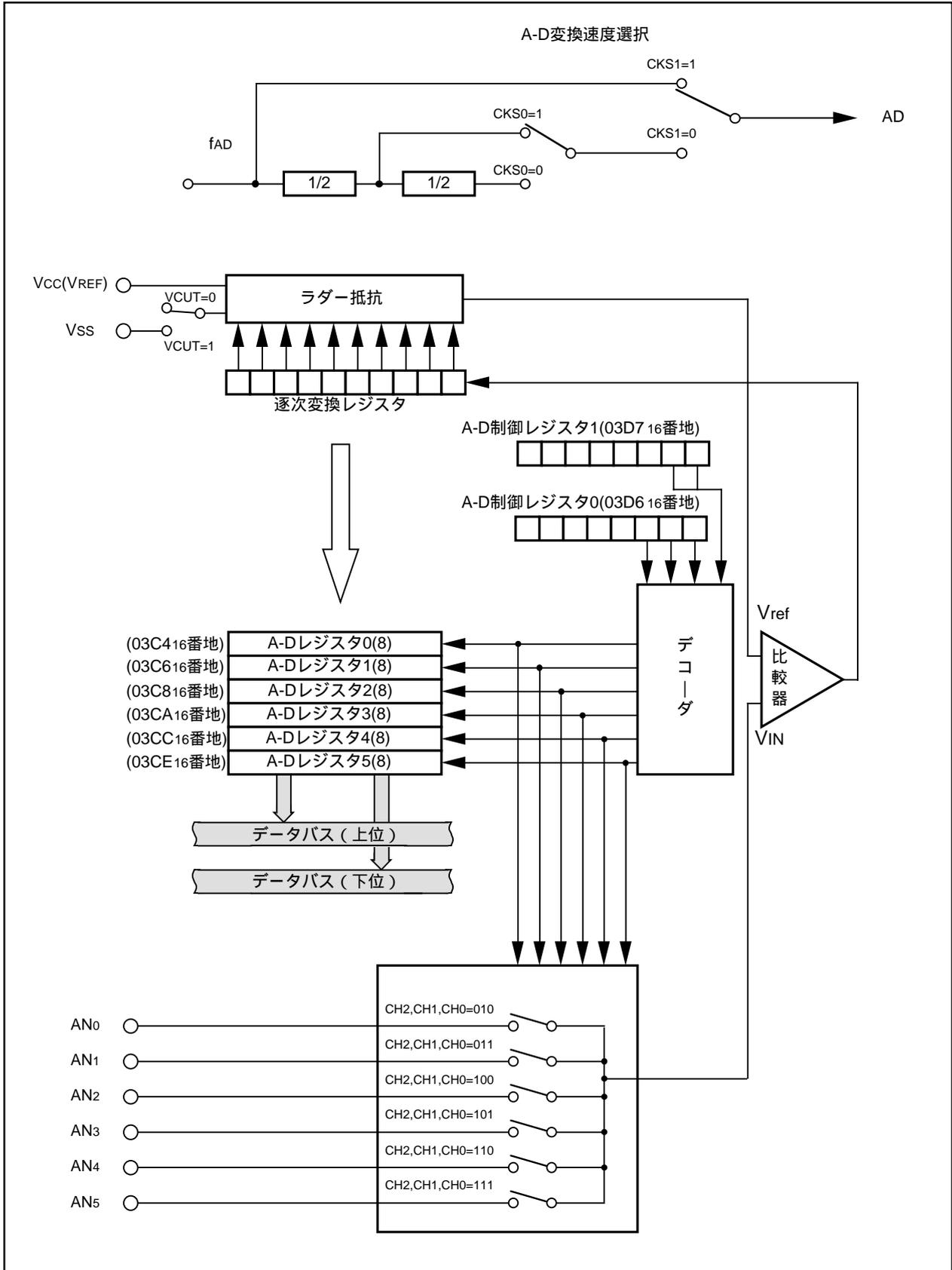


図2.12.1 A-D変換器のブロック図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

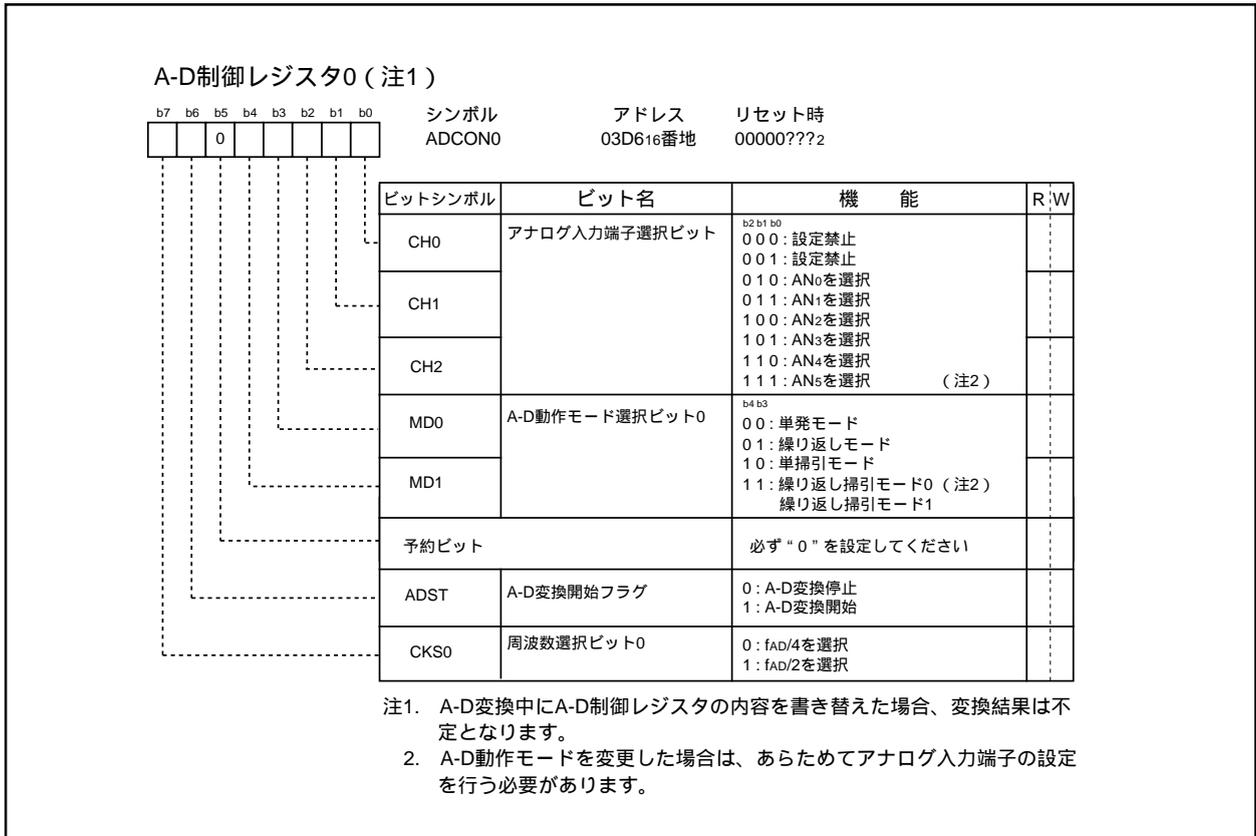


図2.12.2 A-D制御レジスタ0

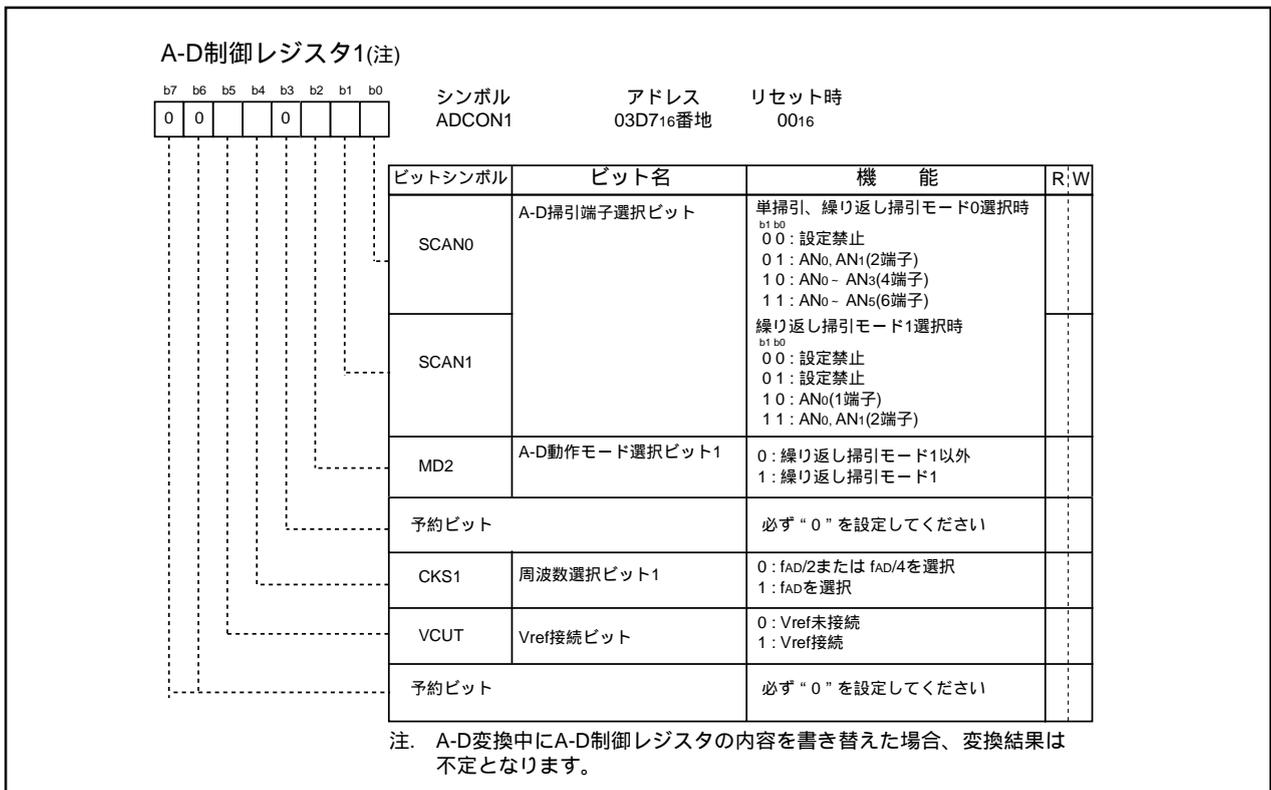


図2.12.3 A-D制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

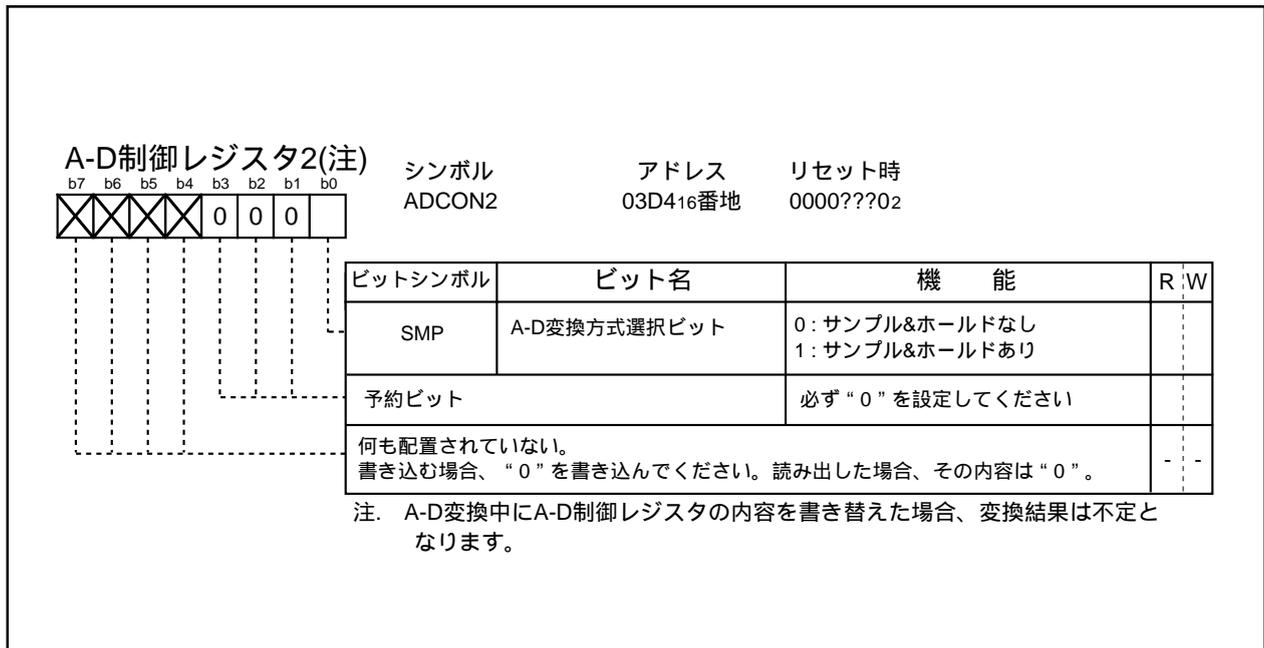


図2.12.4 A-D制御レジスタ2

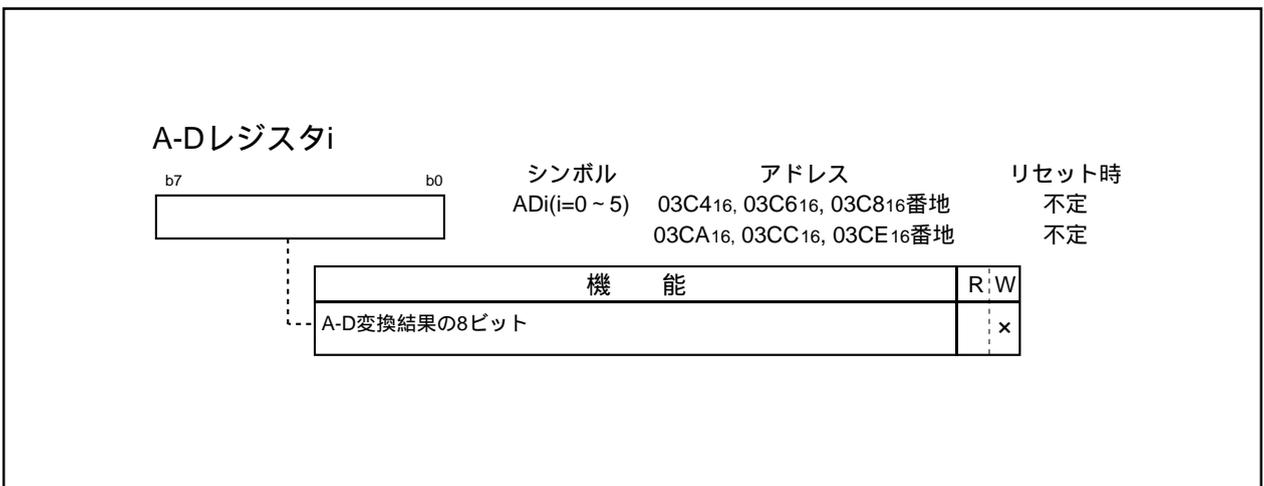


図2.12.5 A-Dレジスタi

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.12.1 単発モード

アナログ入力端子選択ビットで選択した1本の端子を1回A-D変換するモードです。表2.12.2に単発モードの仕様、図2.12.6と図2.12.7に単発モード時のA-D制御レジスタを示します。

表2.12.2 単発モードの仕様

項 目	仕 様
機能	アナログ入力端子選択ビットで選択した1本の端子を1回A-D変換する
開始条件	A-D変換開始フラグへの“1”書き込み
停止条件	A-D変換終了 A-D変換開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	A-D変換終了時
入力端子	AN ₀ ~ AN ₅ より1端子を選択
A-D変換値の読み出し	選択した端子に対応したA-Dレジスタの読み出し

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

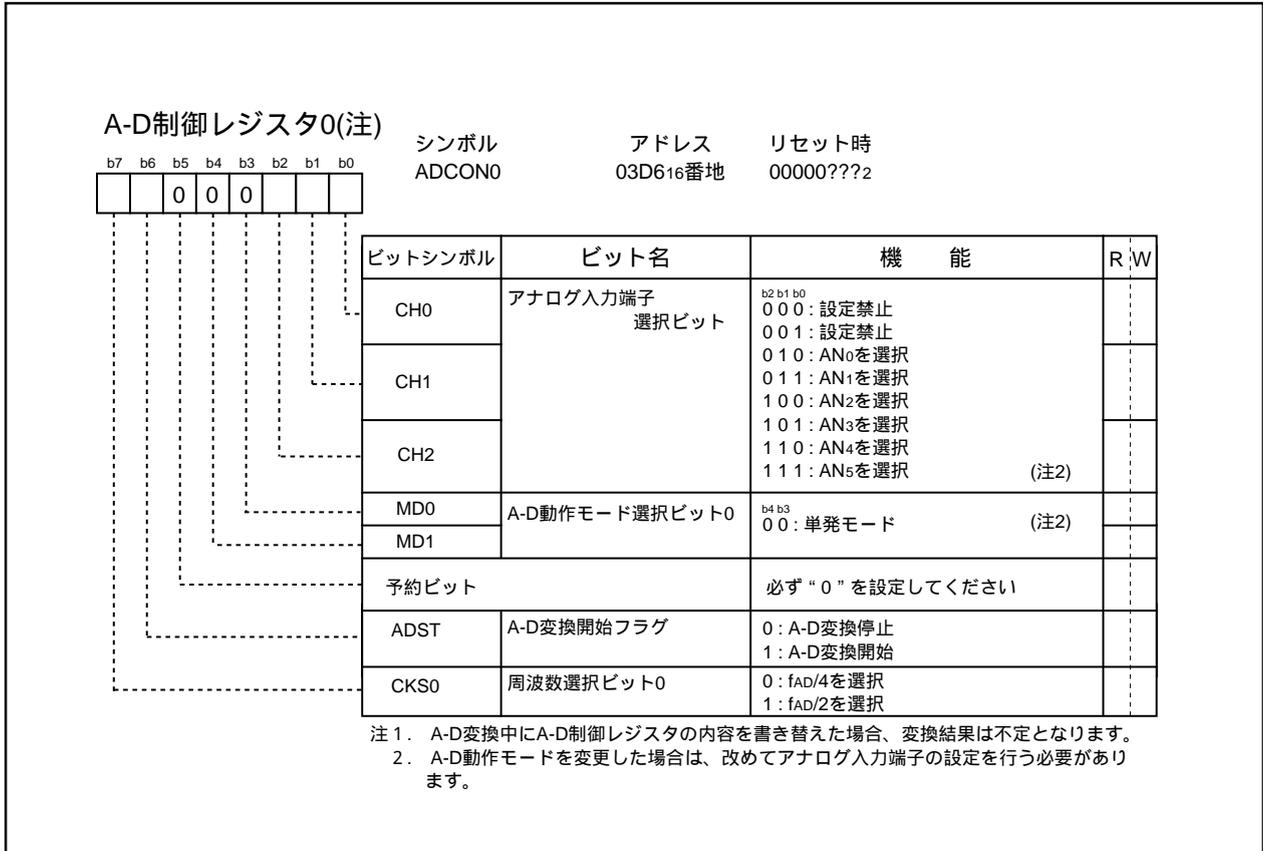


図2.12.6 単発モード時のA-D制御レジスタ0

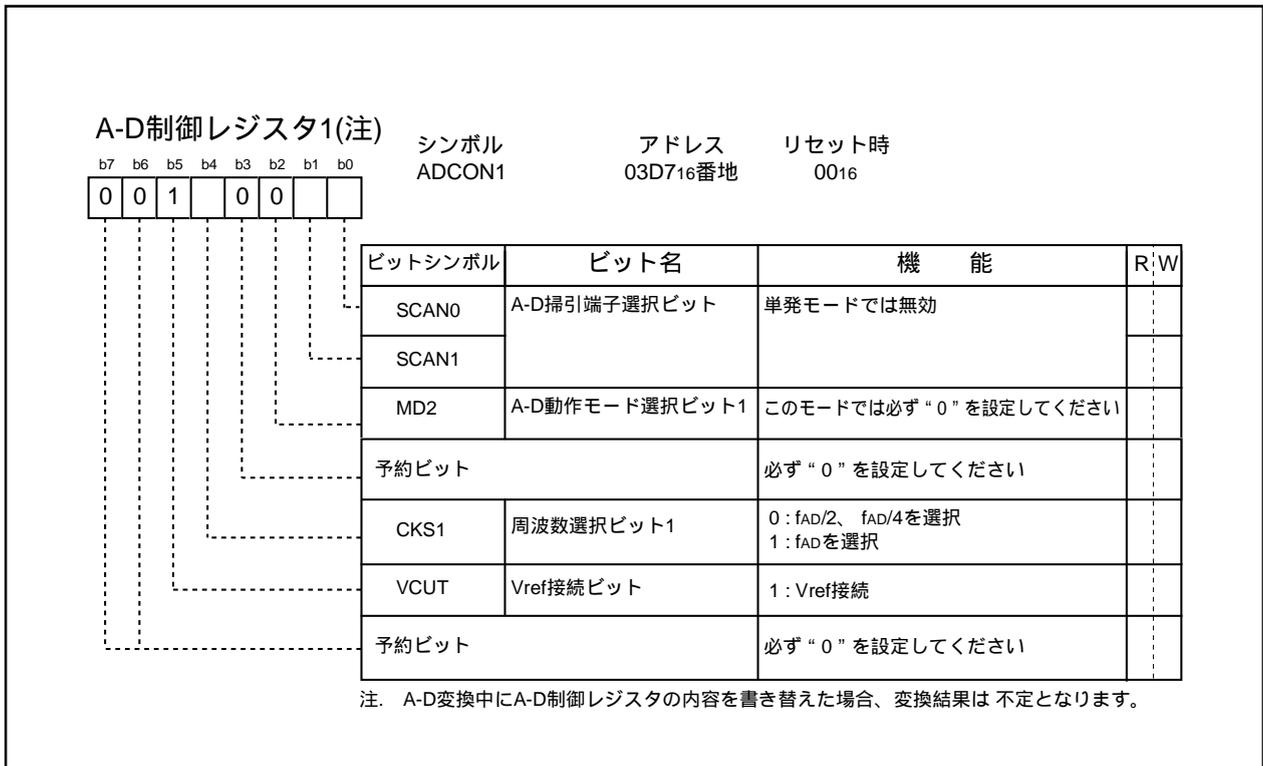


図2.12.7 単発モード時のA-D制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.12.2 繰り返しモード

アナログ入力端子選択ビットで選択した1本の端子を繰り返しA-D変換するモードです。表2.12.3に繰り返しモードの仕様、図2.12.8と図2.12.9に繰り返しモード時のA-D制御レジスタを示します。

表2.12.3 繰り返しモードの仕様

項 目	仕 様
機能	アナログ入力端子選択ビットで選択した1本の端子を繰り返しA-D変換する
開始条件	A-D変換開始フラグへの“1”書き込み
停止条件	A-D変換開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	発生しない
入力端子	AN0～AN5より1端子を選択
A-D変換値の読み出し	選択した端子に対応したA-Dレジスタの読み出し

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

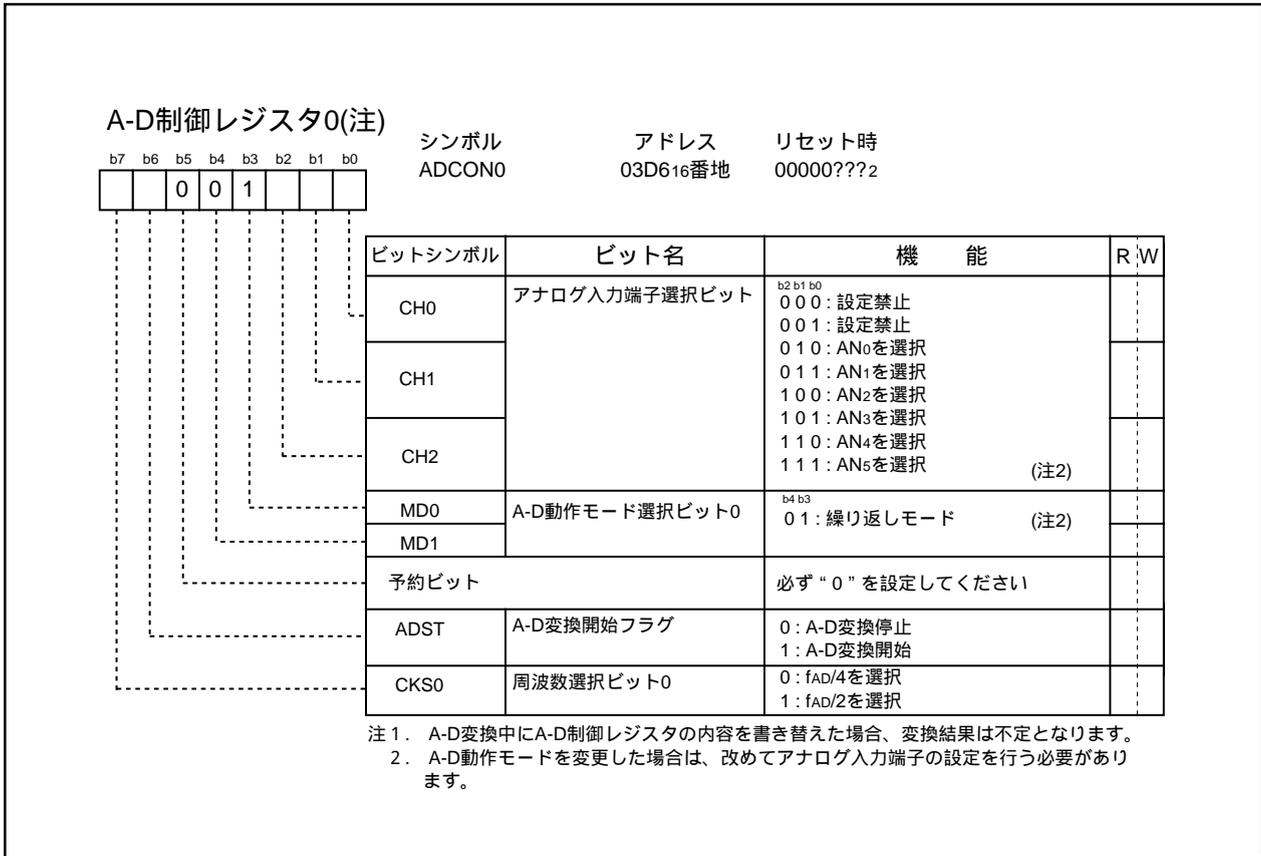


図2.12.8 繰り返しモード時のA-D制御レジスタ0

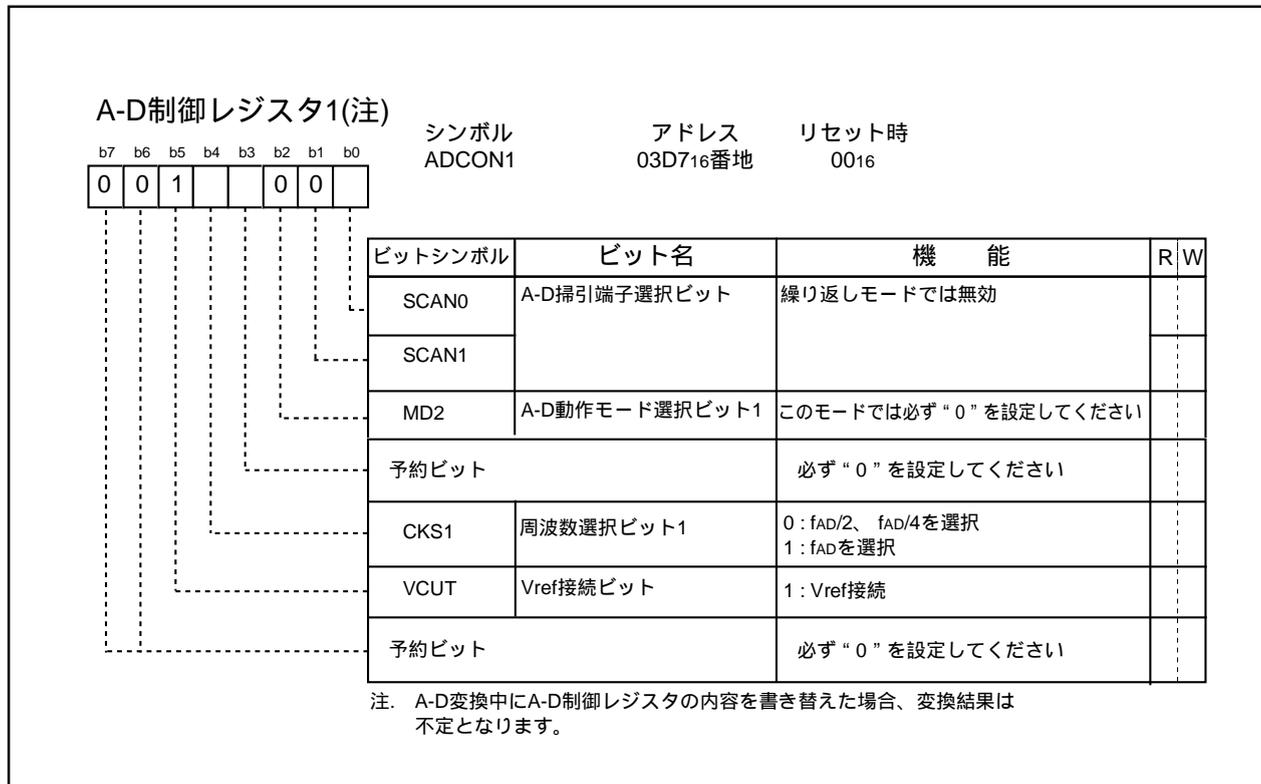


図2.12.9 繰り返しモード時のA-D制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.12.3 単掃引モード

A-D掃引端子選択ビットで選択した端子を1回ずつA-D変換するモードです。表2.12.4に単掃引モードの仕様、図2.12.10と図2.12.11に単掃引モード時のA-D制御レジスタを示します。

表2.12.4 単掃引モードの仕様

項目	仕様
機能	A-D掃引端子選択ビットで選択した端子を1回ずつA-D変換する
開始条件	A-D変換開始フラグへの“1”書き込み
停止条件	A-D変換終了(A-D変換開始フラグは“0”になる。ただし外部トリガ選択時は除く) A-D変換開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	A-D変換終了時
入力端子	AN0,AN1(2端子)、AN0~AN3(4端子)、AN0~AN5(6端子)
A-D変換値の読み出し	選択した端子に対応したA-Dレジスタの読み出し

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

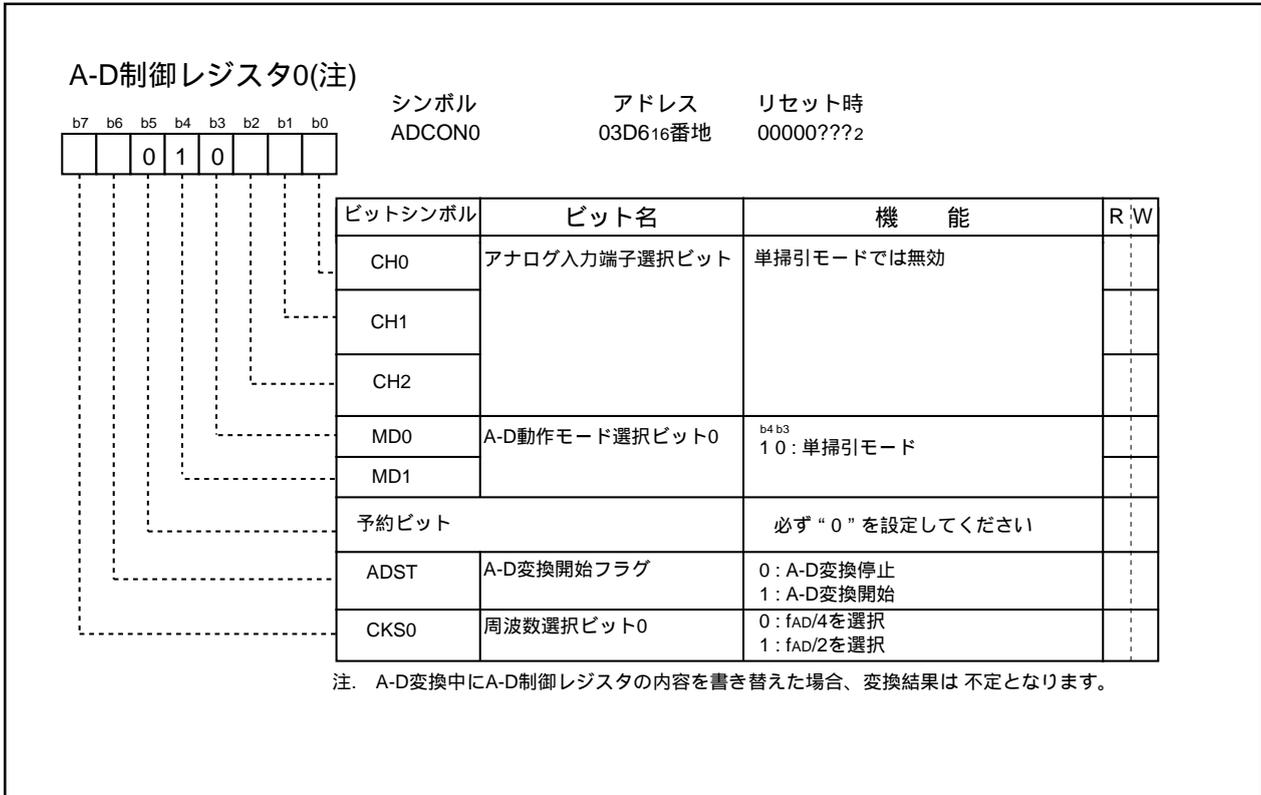


図2.12.10 単掃引モード時のA-D制御レジスタ0

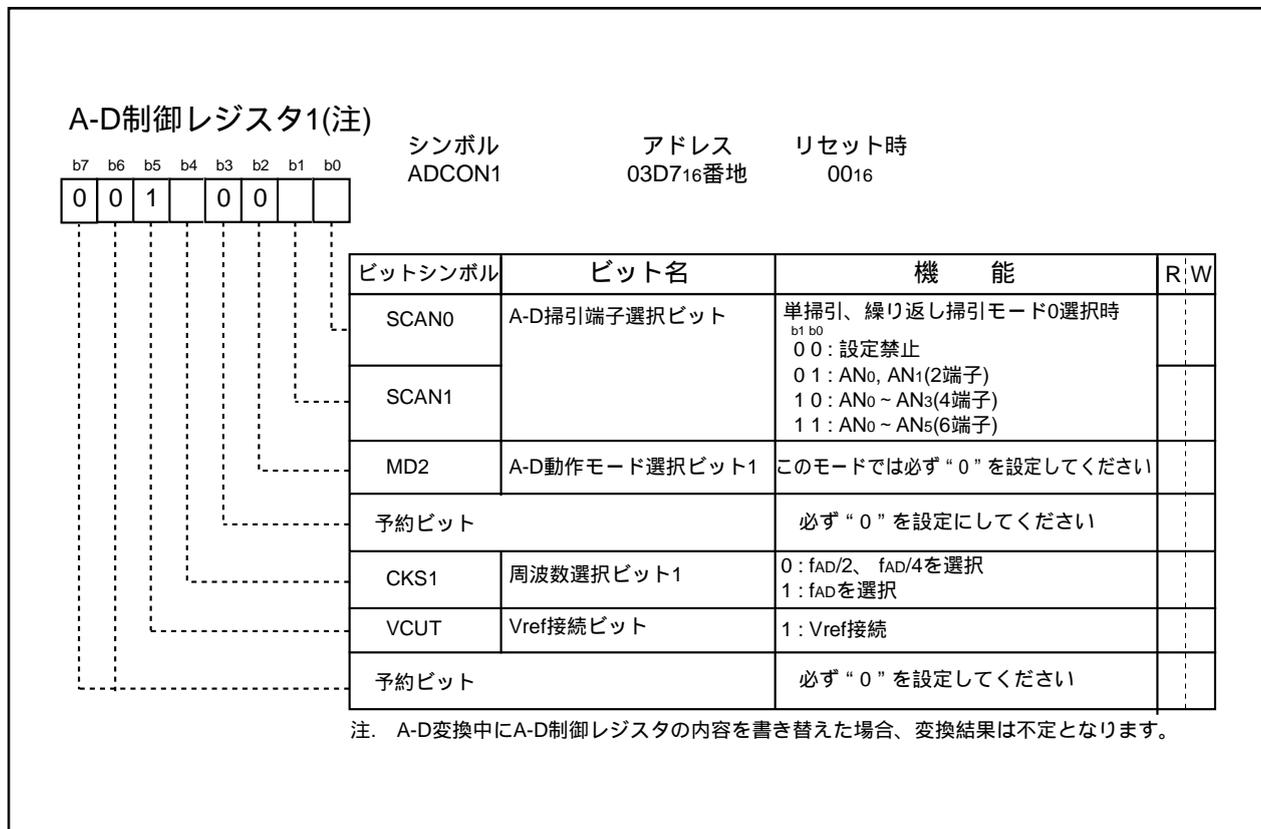


図2.12.11 単掃引モード時のA-D制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.12.4 繰り返し掃引モード0

A-D掃引端子選択ビットで選択した端子を繰り返しA-D変換するモードです。表2.12.5に繰り返し掃引モード0の仕様、図2.12.12と図2.12.13に繰り返し掃引モード0時のA-D制御レジスタを示します。

表2.12.5 繰り返し掃引モード0の仕様

項目	仕様
機能	A-D掃引端子選択ビットで選択した端子を繰り返しA-D変換する
開始条件	A-D変換開始フラグへの“1”書き込み
停止条件	A-D変換開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	発生しない
入力端子	AN ₀ , AN ₁ (2端子)、AN ₀ ~ AN ₃ (4端子)、AN ₀ ~ AN ₅ (6端子)
A-D変換値の読み出し	選択した端子に対応したA-Dレジスタの読み出し(常時読み出し可能)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

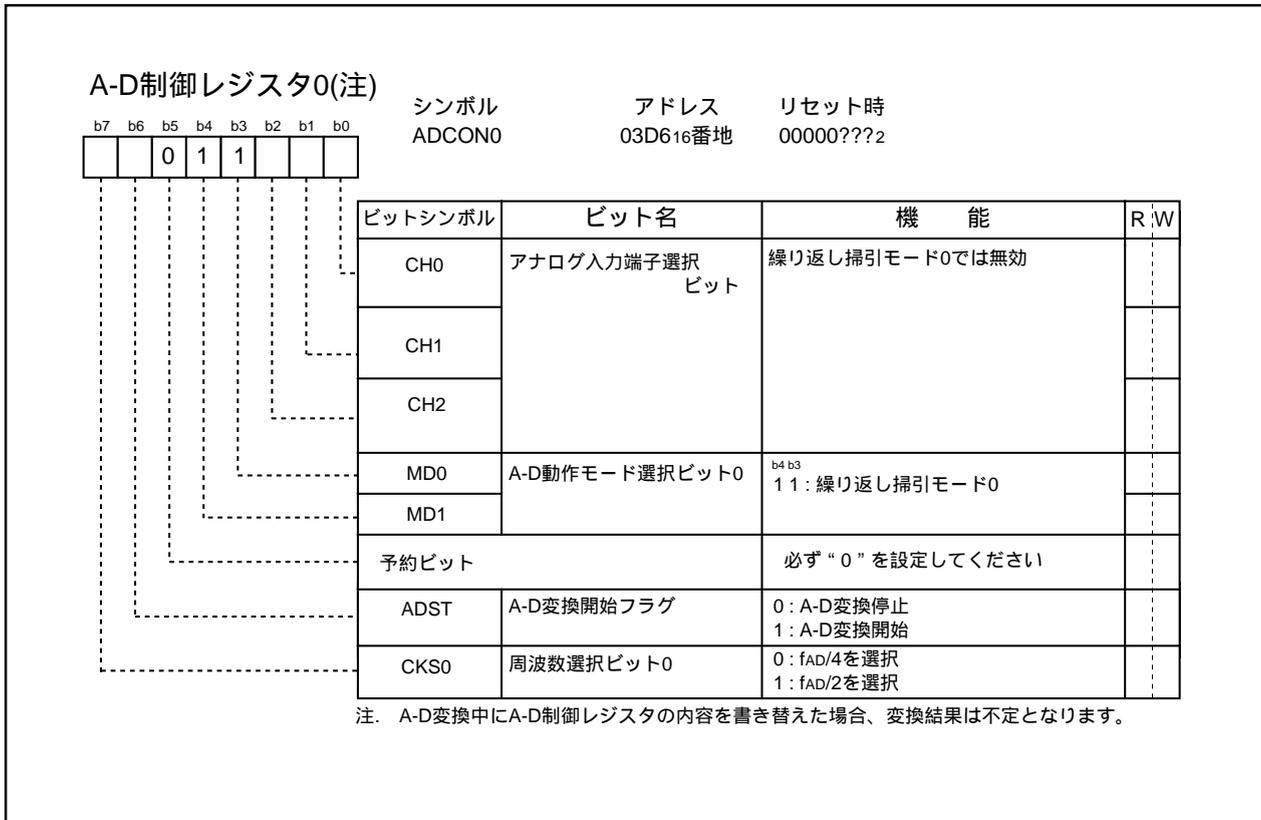


図2.12.12 繰り返し掃引モード0時のA-D制御レジスタ0

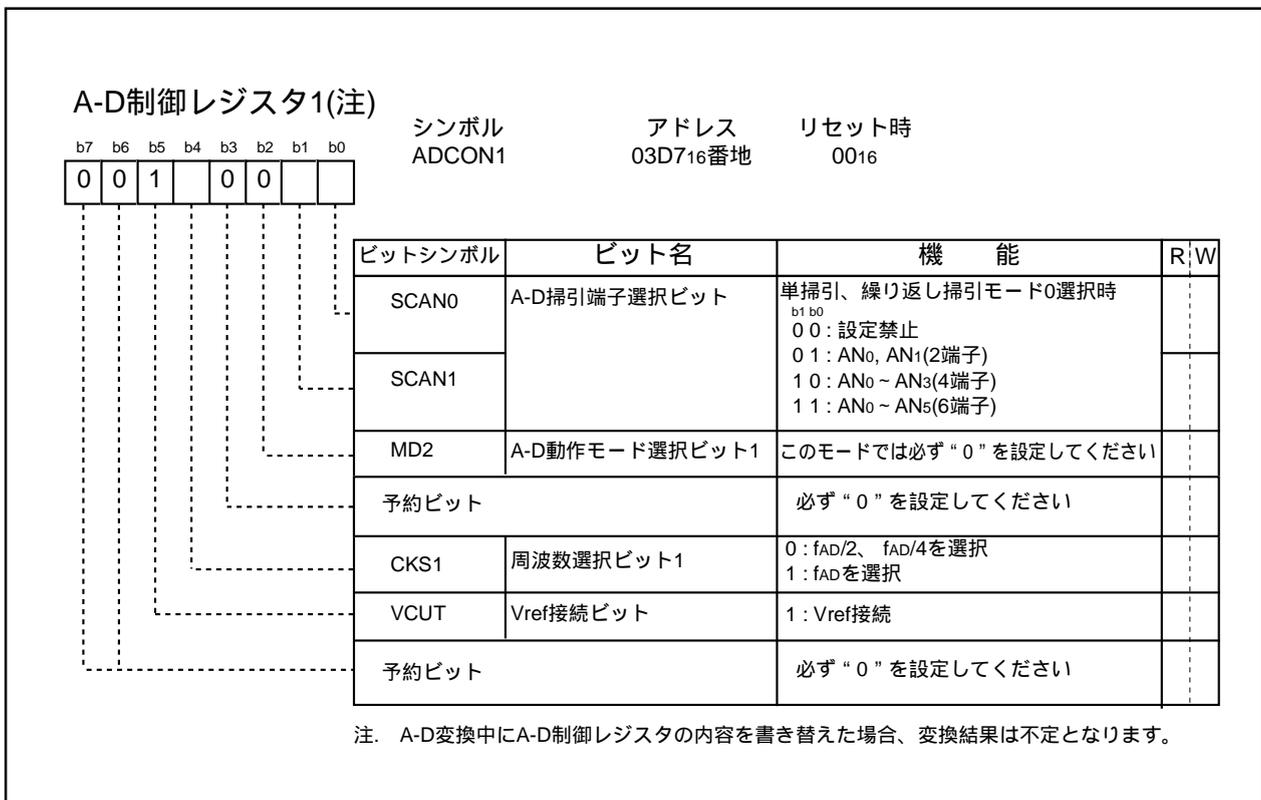


図2.12.13 繰り返し掃引モード0時のA-D制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.12.5 繰り返し掃引モード1

A-D掃引端子選択ビットで選択した端子に重点をおいて全端子を繰り返しA-D変換するモードです。表2.12.6に繰り返し掃引モード1の仕様、図2.12.14と図2.12.15に繰り返し掃引モード1時のA-D制御レジスタを示します。

表2.12.6 繰り返し掃引モード1の仕様

項 目	仕 様
機能	A-D掃引端子選択ビットで選択した端子に重点をおいて全端子を繰り返しA-D変換する 例：AN ₀ を選択した場合 AN ₀ AN ₁ AN ₀ AN ₂ AN ₀ AN ₃ ・・・となる
開始条件	A-D変換開始フラグへの“1”書き込み
停止条件	A-D変換開始フラグへの“0”書き込み
割り込み要求発生タイミング	発生しない
入力端子	重点的に行う端子 AN ₀ (1端子)、AN ₀ ,AN ₁ (2端子)
A-D変換値の読み出し	選択した端子に対応したA-Dレジスタの読み出し(常時読み出し可能)

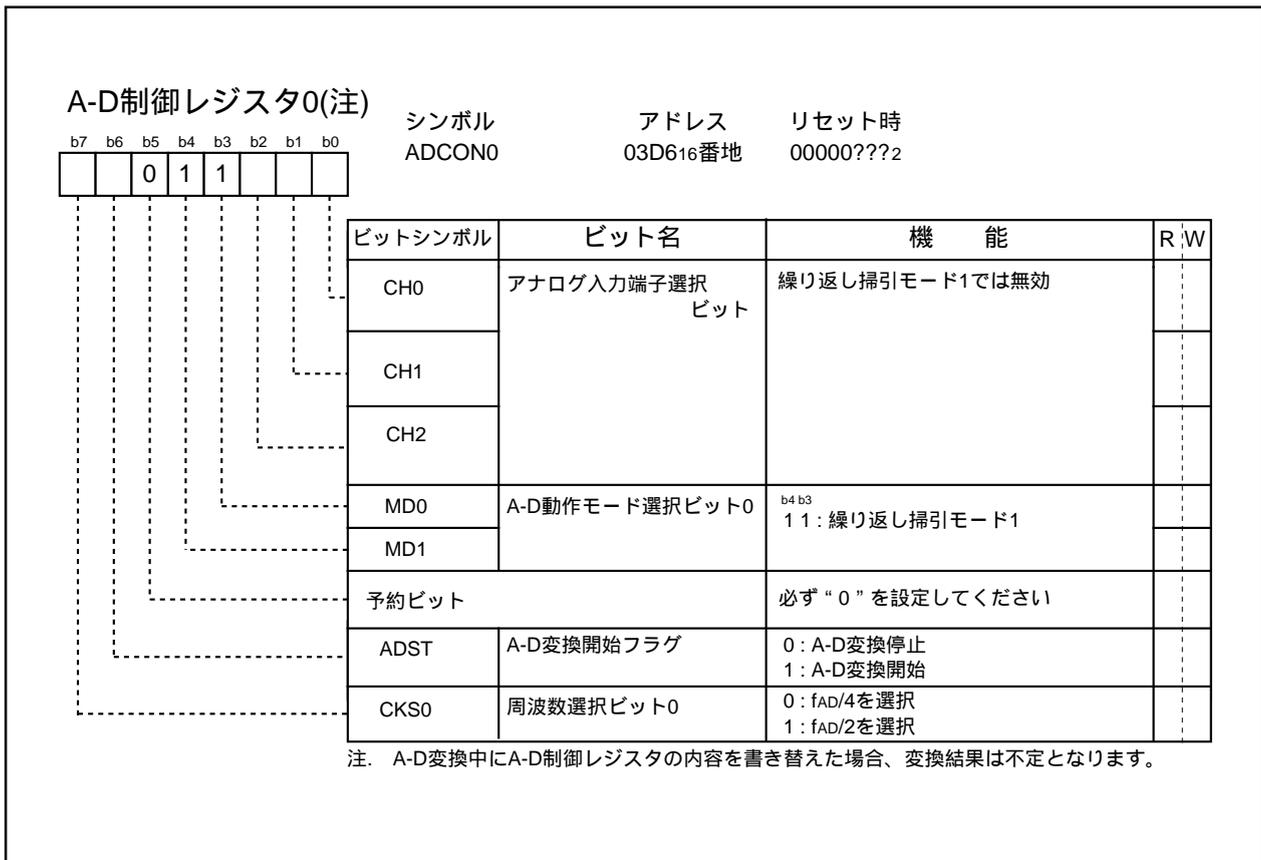


図2.12.14 繰り返し掃引モード1時のA-D制御レジスタ0

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

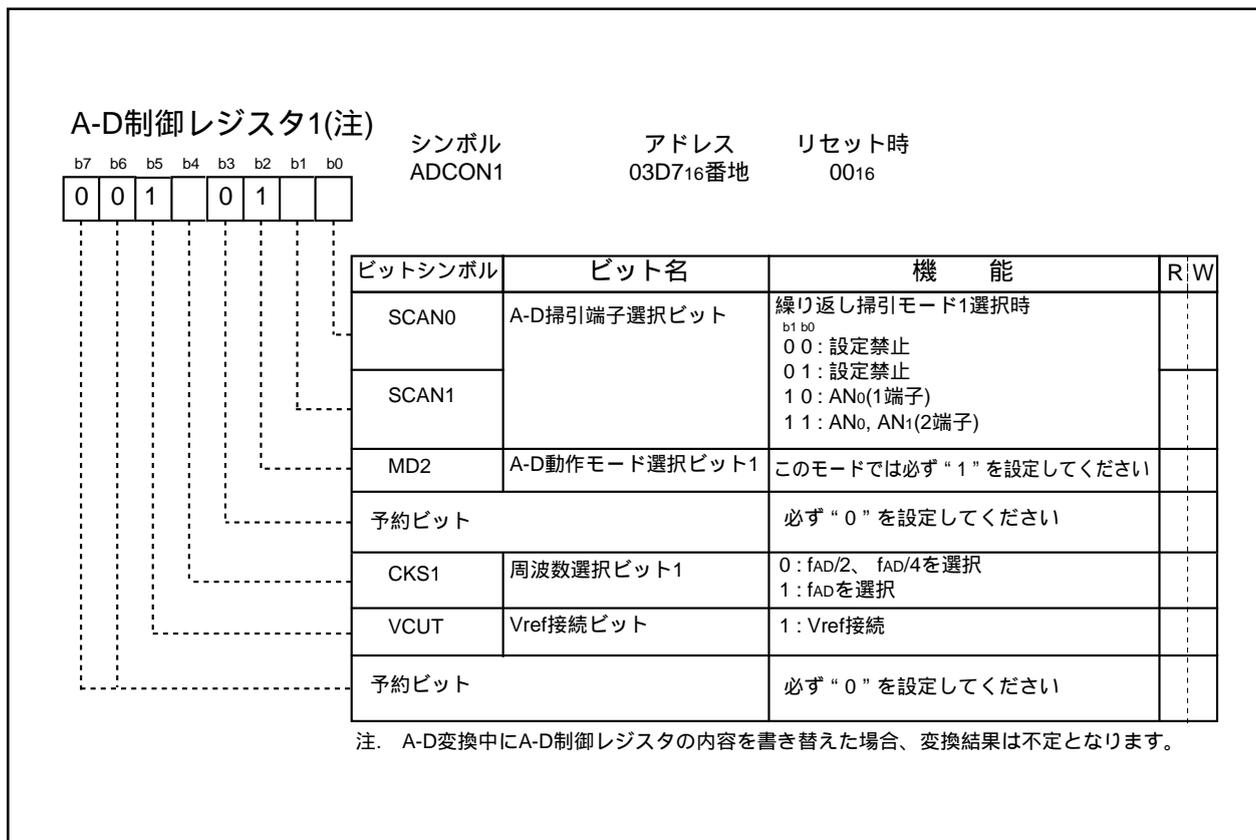


図2.12.15 繰り返し掃引モード1時のA-D制御レジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.12.6 サンプル&ホールド

A-D制御レジスタ2(03D4₁₆番地)のビット0の内容を“1”にすることによって、サンプル&ホールドを選択できます。サンプル&ホールドを選択したときは1端子あたりの変換速度も向上し、28 ADサイクルとなります。サンプル&ホールドは、すべての動作モードに対して有効です。ただし、いずれの動作モードにおいても、サンプル&ホールドの有無を選択してからA-D変換を開始してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.13 D-A変換器

8ビットのR-2R方式によるD-A変換器です。独立した2つのD-A変換器を内蔵しています。

D-A変換は、対応したD-Aレジスタに値を書き込むことで行われます。変換結果を出力するかどうかはD-A制御レジスタのビット0、ビット1(D-A出力許可ビット)によって設定します。D-A変換を使用する場合は、対象となるポートは出力モードに設定しないでください。D-A出力を許可状態にすると対応するポートのプルアップは禁止されます。

出力されるアナログ電圧Vは、D-Aレジスタに設定した値n(nは10進数)で決まります。

$$V = V_{REF} \times n / 256 (n=0 \sim 255)$$

V_{REF} :基準電圧

表2.13.1にD-A変換器の性能を、図2.13.1にD-A変換器のブロック図を、図2.13.2にD-A制御レジスタ、図2.13.3にD-Aレジスタ、図2.13.4にD-A変換器の等価回路を示します。

表2.13.1 D-A変換器の性能

項目	性能
変換方式	R-2R方式
分解能	8ビット
アナログ出力端子	2チャンネル

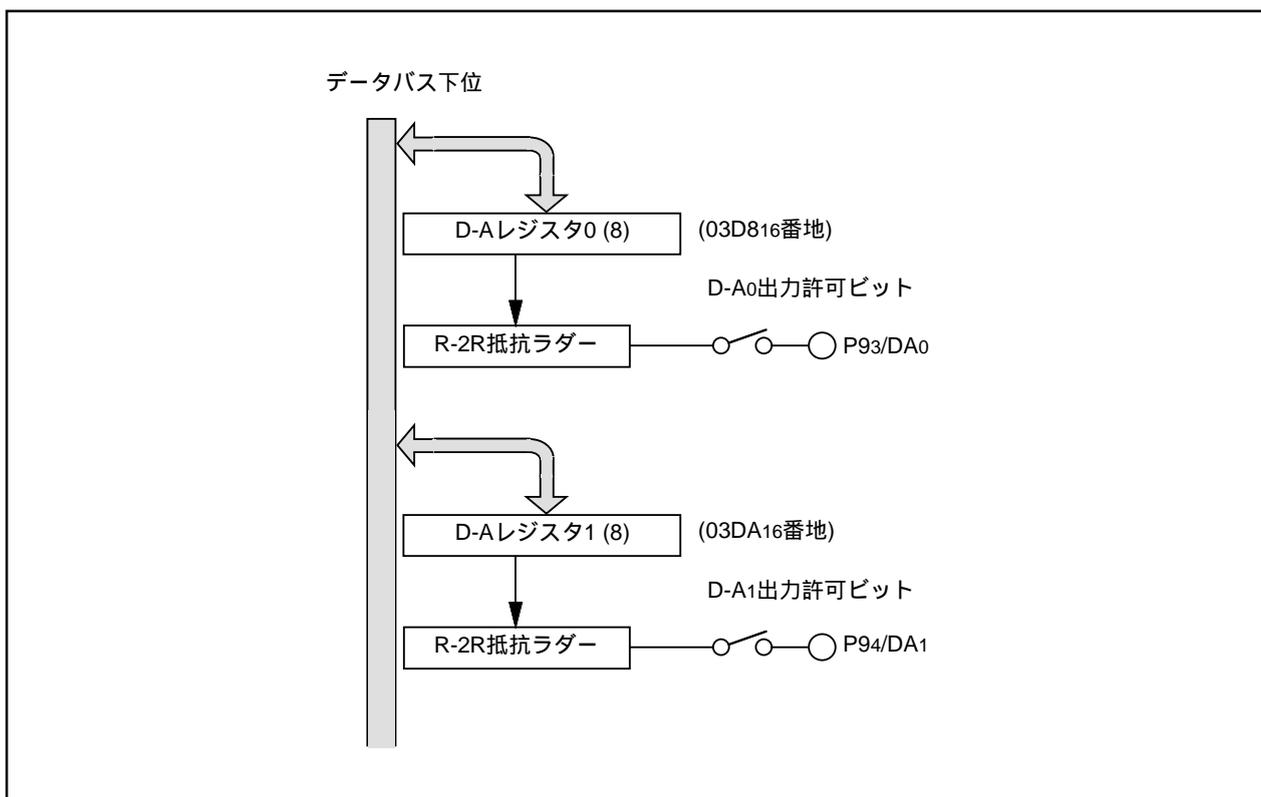


図2.13.1 D-A変換器のブロック図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER



図2.13.2 D-A制御レジスタ

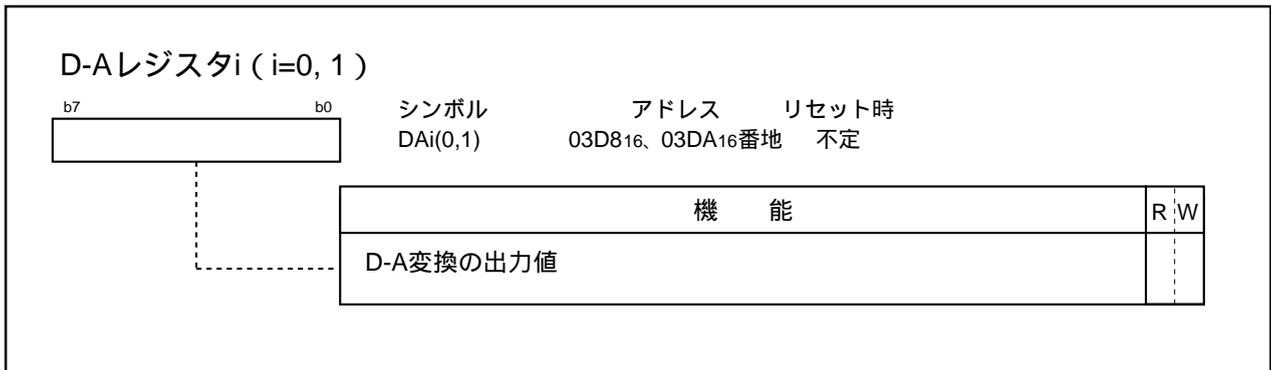


図2.13.3 D-Aレジスタ_i (i=0, 1)

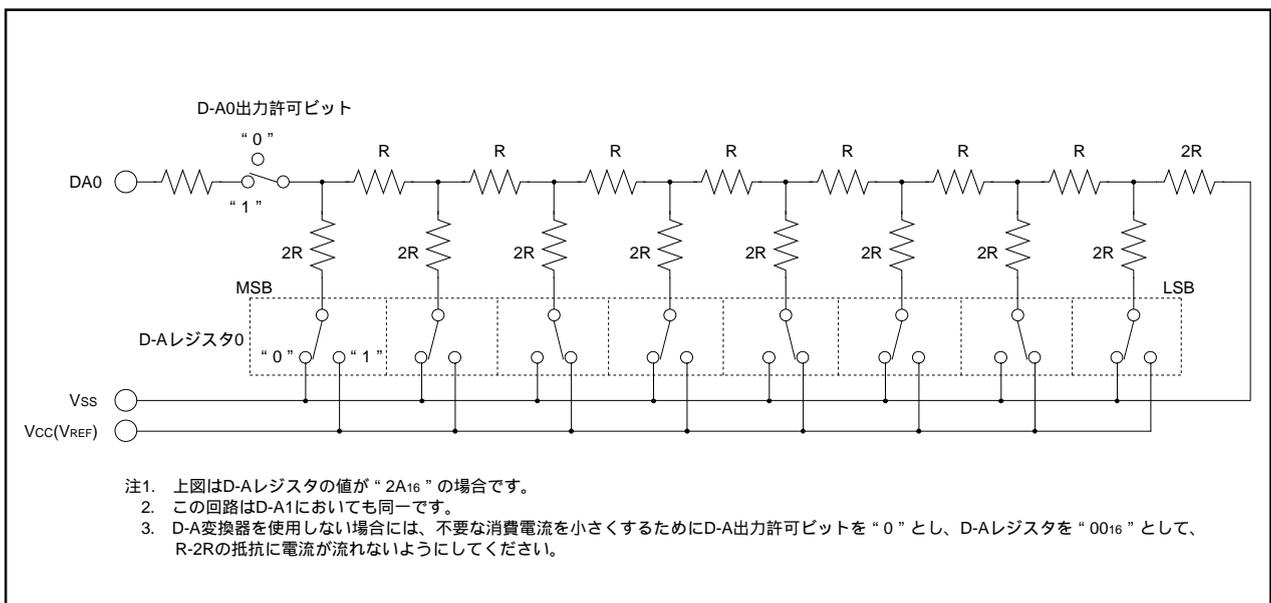


図2.13.4 D-A変換器の等価回路

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.14 データスライサ

本マイクロコンピュータは、クローズドキャプションデコーダ（以下CCDと称す）に対応するためのデータスライサ機能を内蔵しています。本機能によってコンポジットビデオ信号の垂直帰線消去期間中に重畳されたキャプションデータを取り出すことができます。CVIN端子には、シンクチップを負極性にするコンポジットビデオ信号を入力します。

データスライサ機能を使用しない場合は、データスライサ制御レジスタ1（0260₁₆番地）のビット0を“0”に設定することによって、データスライサ回路及びタイミング信号発生回路をOFFすることができます。これらの設定によって、電源電流を抑えることができます。

注． データスライサを使用する場合、ペリフェラルモードレジスタ(027D₁₆番地)のビット7をメインクロック周波数に従って設定してください。

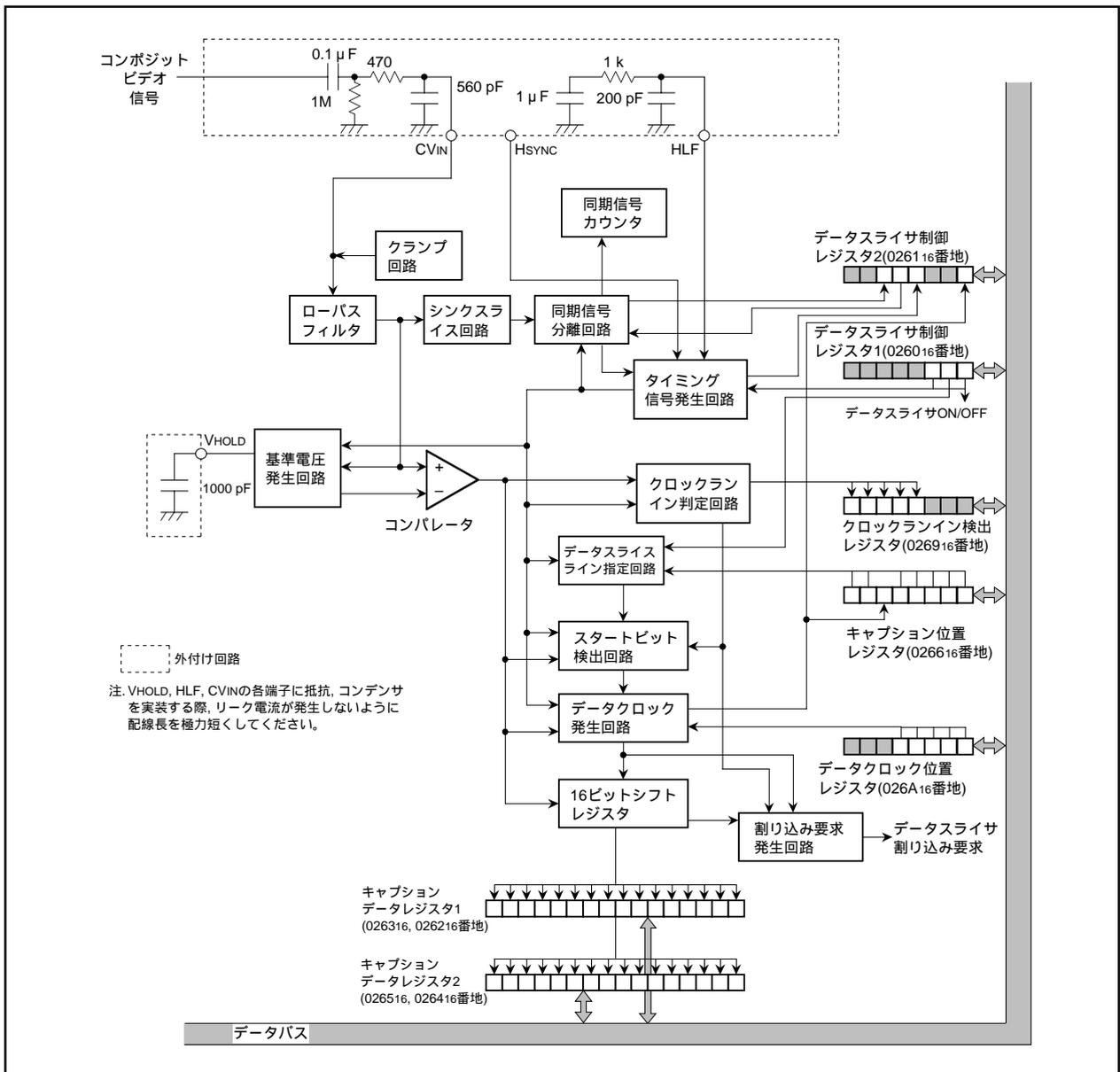


図2.14.1 データスライサブロック図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.14.1 データスライサを使用しない場合の注意事項

データスライサ制御レジスタ1 (0260₁₆番地) のビット0が “0” の場合、図2.14.2のように端子を処理してください。

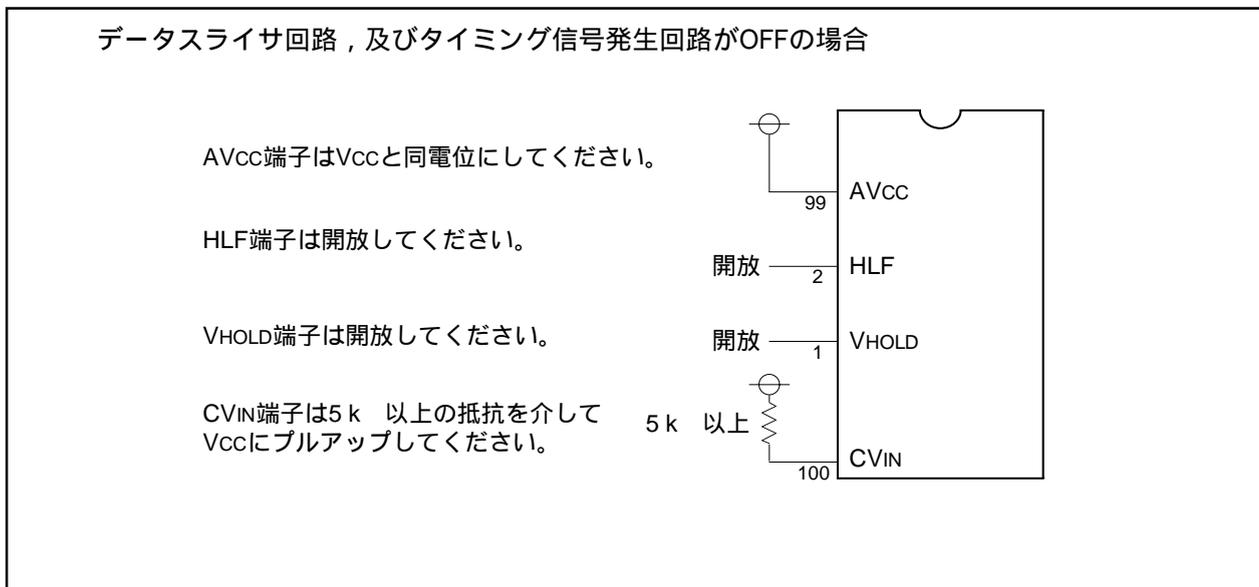


図2.14.2 データスライサ回路，及びタイミング信号発生回路OFFの場合の，データスライサ入出力端子の処理方法

データスライサ制御レジスタ1 (0260₁₆番地) のビット0、2の両方が “1” の場合、図2.14.3のように端子を処理してください。

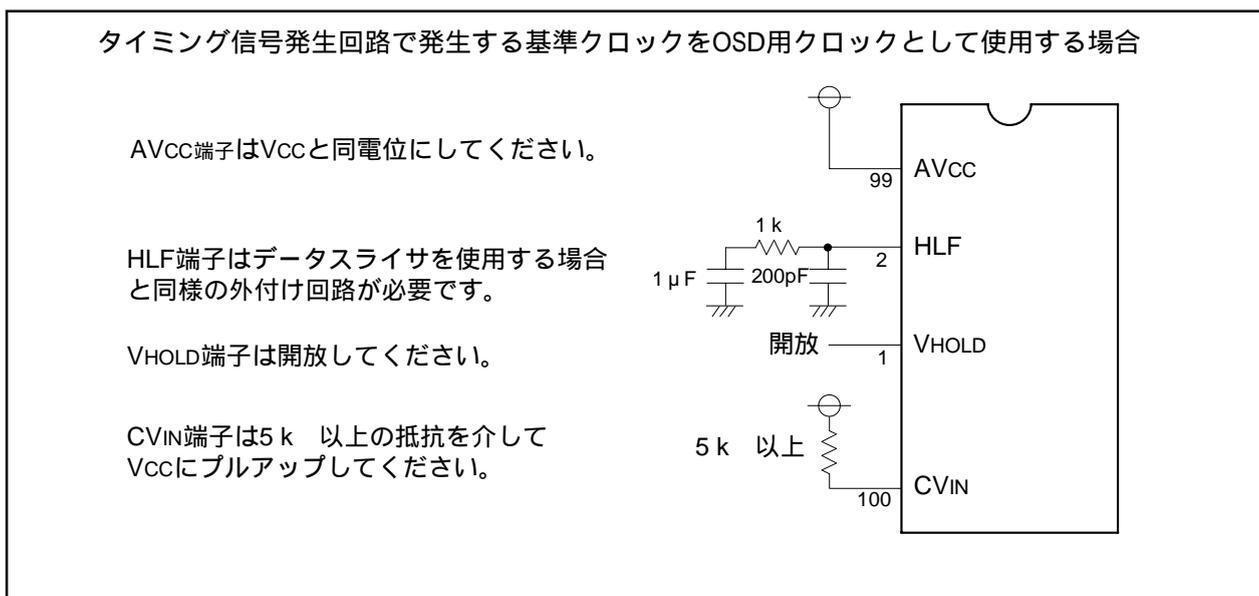


図2.14.3 タイミング信号発生回路ONの場合の，データスライサ入出力端子の処理方法

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

図2.14.4、図2.14.5にデータスライサ制御レジスタを示します。

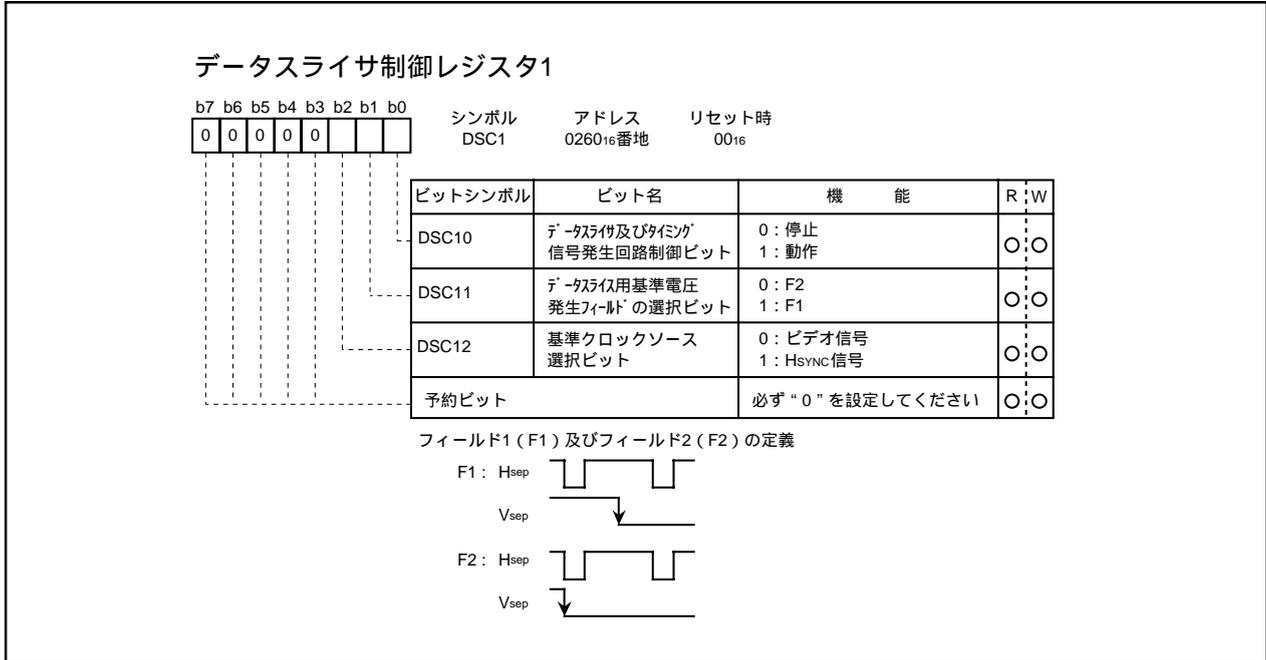


図2.14.4 データスライサ制御レジスタ1

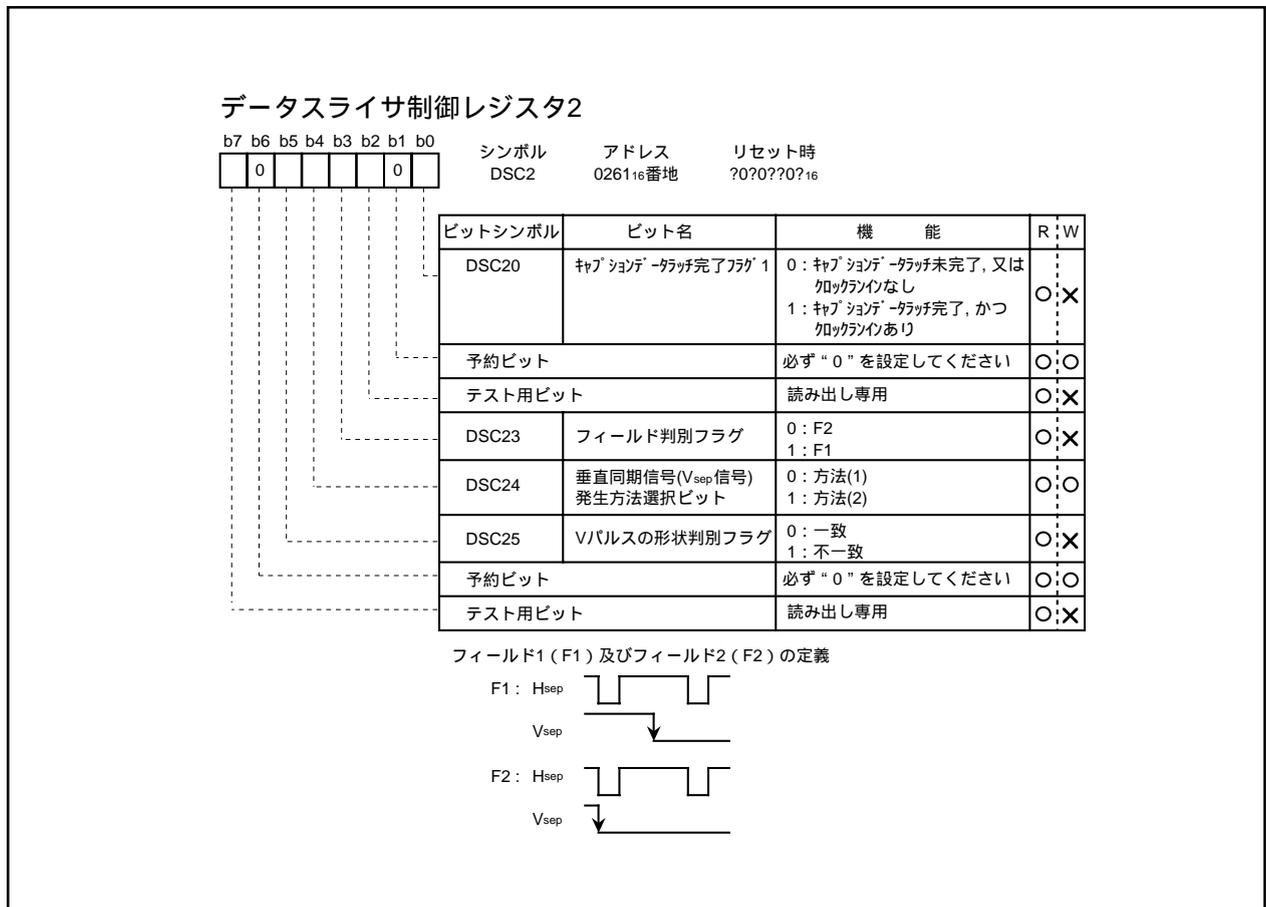


図2.14.5 データスライサ制御レジスタ2

2.14.2 クランプ回路・ローパスフィルタ

CVIN端子から入力されたコンポジットビデオ信号は、クランプ回路でシンクチップ部分を基準にしてクランプされます。ローパスフィルタはクランプされたコンポジットビデオ信号のノイズを減衰します。コンポジットビデオ信号が入力されるCVIN端子は、外部でのコンデンサ(0.1 μ F)結合が必要です。またCVIN端子は、数100k ~ 1 M 程度の抵抗でプルダウンしてください。さらにCVIN端子に抵抗及びコンデンサで簡単なローパスフィルタ回路を外付けすることを推奨します(図2.14.1参照)。

2.14.3 シンクスライス回路

ローパスフィルタの出力信号からコンポジットシンク信号を取り出します。

2.14.4 同期信号分離回路

シンクスライス回路で取り出されたコンポジットシンク信号から水平同期信号と垂直同期信号を分離します。

(1) 水平同期信号(Hsep)

コンポジットシンク信号の立ち下がりエッジでワンショットの水平同期信号Hsepを発生します。

(2) 垂直同期信号(Vsep)

Vsep信号の発生方法は、データサイサ制御レジスタ2(026116番地)のビット4を用いて、次の2種類から選択することができます。

- ・方法1 コンポジットシンク信号の“L”レベル幅を測定し、一定時間以上であれば、その“L”レベル直後のタイミング信号の立ち上がりで同期してVsep信号を発生します。
- ・方法2 コンポジットシンク信号の“L”レベル幅を測定し、一定時間以上であれば、その“L”レベル直後のタイミング信号の“L”レベル期間中に、コンポジットシンク信号の立ち下がりがあるかを検出します。立ち下がりがある場合は、タイミング信号の立ち上がりで同期してVsep信号を発生します(図2.14.6参照)。

発生タイミングを図2.14.6に示します。図中のタイミング信号はタイミング発生回路が出力する基準クロックをもとに発生されます。

データサイサ制御レジスタ2のビット5を読み出すことによって、コンポジットシンク信号のVパルス部分の形状が判別できます。図2.14.7のようにA,Bのレベルが一致していれば“0”、不一致であれば“1”になります。

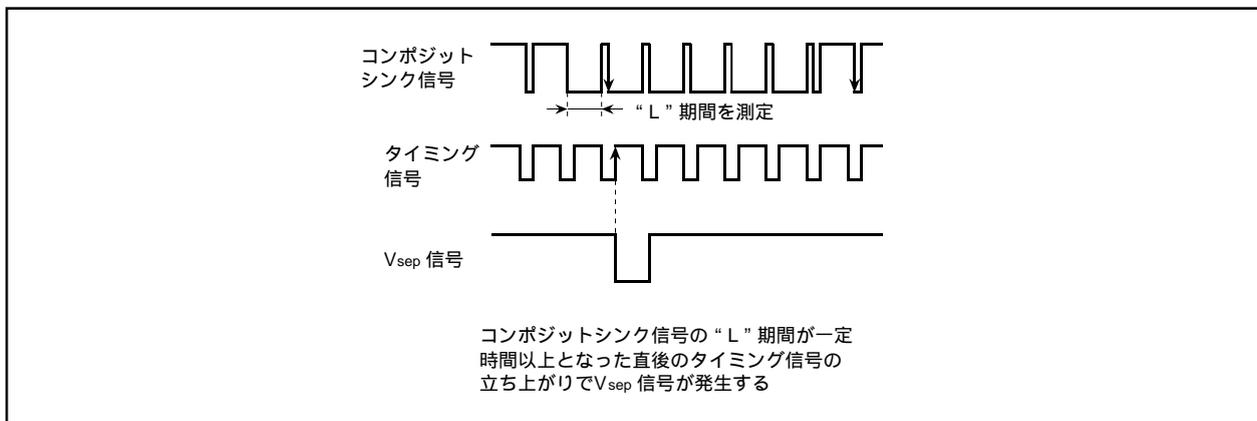


図2.14.6 Vsep発生タイミング(方法2)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.14.5 タイミング信号発生回路

タイミング信号発生回路は水平同期信号周波数の832倍の基準クロックを発生します。また、基準クロック、水平同期信号、及び垂直同期信号をもとに各種タイミング信号を発生します。タイミング信号発生回路はデータスライサ制御レジスタ1（0260₁₆番地）のビット0を“1”に設定することによって動作します。

基準クロックはデータスライサの他にOSD機能の表示用クロックとしても使用できます。また、コンポジットシンク信号のかわりにHSYNC信号をカウントソースとすることもできます。ただし、HSYNC信号を選択した場合はデータスライサを使用できません。基準クロックのカウントソースはデータスライサ制御レジスタ1（0260₁₆番地）のビット2で選択できます。

HLF端子は、図2.14.1に示す様に抵抗とコンデンサを接続してください。また、リーク電流が発生しないように配線長をできる限り短くしてください。

注．データスライサ及びタイミング信号発生回路を動作させてから基準クロックが安定するまで数10ms程度の時間が必要です。

この期間、各種タイミング信号、Hsep信号、Vsep信号は不定となりますので、プログラム作成の際は、安定時間を考慮してください。

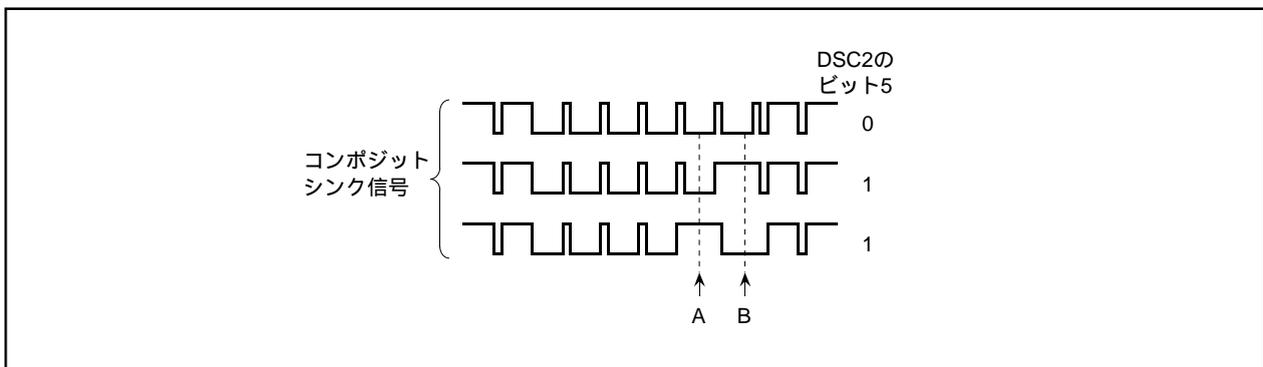


図2.14.7 Vパルス形状の判別

2.14.6 データスライスライン指定回路

(1) データスライスラインの指定

キャプションデータが重畳されるラインを決定します。1フィールド中のライン21（固定）と任意の1ラインの計2ライン/1フィールド、F1/F2の両フィールドのデータスライスが可能です。各設定はキャプション位置レジスタ（0266₁₆番地）で行います（表2.14.1参照）。

Vsepの立ち下がり（リセット）でカウンタをリセットし、Hsepの本数をカウントします。カウンタの値とキャプション位置レジスタのビット4～ビット0の設定値とが一致したHsepに対してデータスライスを行います。

キャプション位置レジスタには“0016”～“1F16”の値が設定できます（任意の1ラインのみの設定時）。図2.14.8に垂直帰線期間中の信号を示します。キャプション位置レジスタを図2.14.9に示します。

(2) スライス電圧を設定するラインの指定

どのラインのクロックランインに対して、スライス用の基準電圧（スライス電圧）を発生するかを表2.14.1に示します。スライス電圧を発生させるフィールドの指定はデータスライサ制御レジスタ1のビット1で設定します。1フィールド中のスライス電圧発生ラインは、キャプション位置レジスタのビット7、6で設定します（表2.14.1参照）。

(3) フィールドの判別

データスライサ制御レジスタ2のビット3によって、フィールド判別フラグを読み出すことができます。このフラグはVsepの立ち下がり（リセット）のタイミングで変化します。

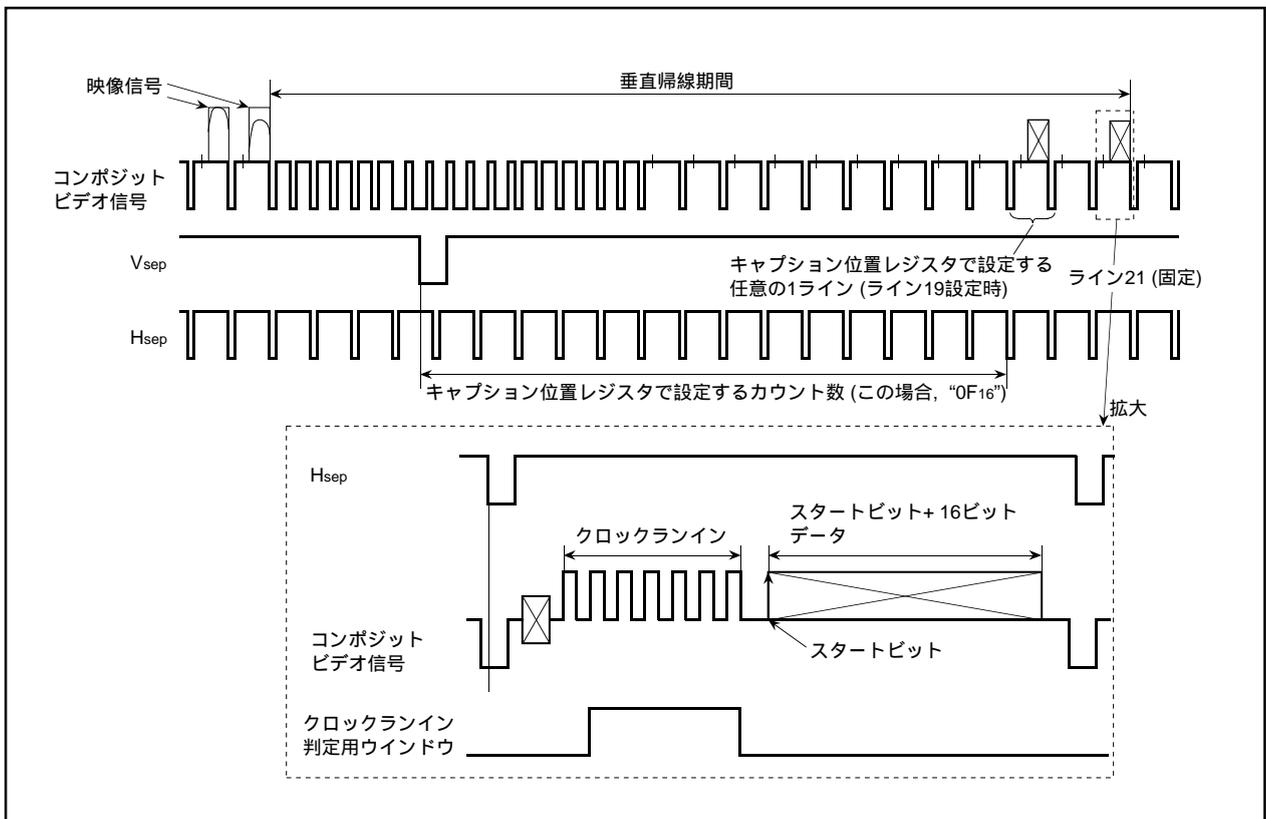


図2.14.8 垂直帰線期間中の信号

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

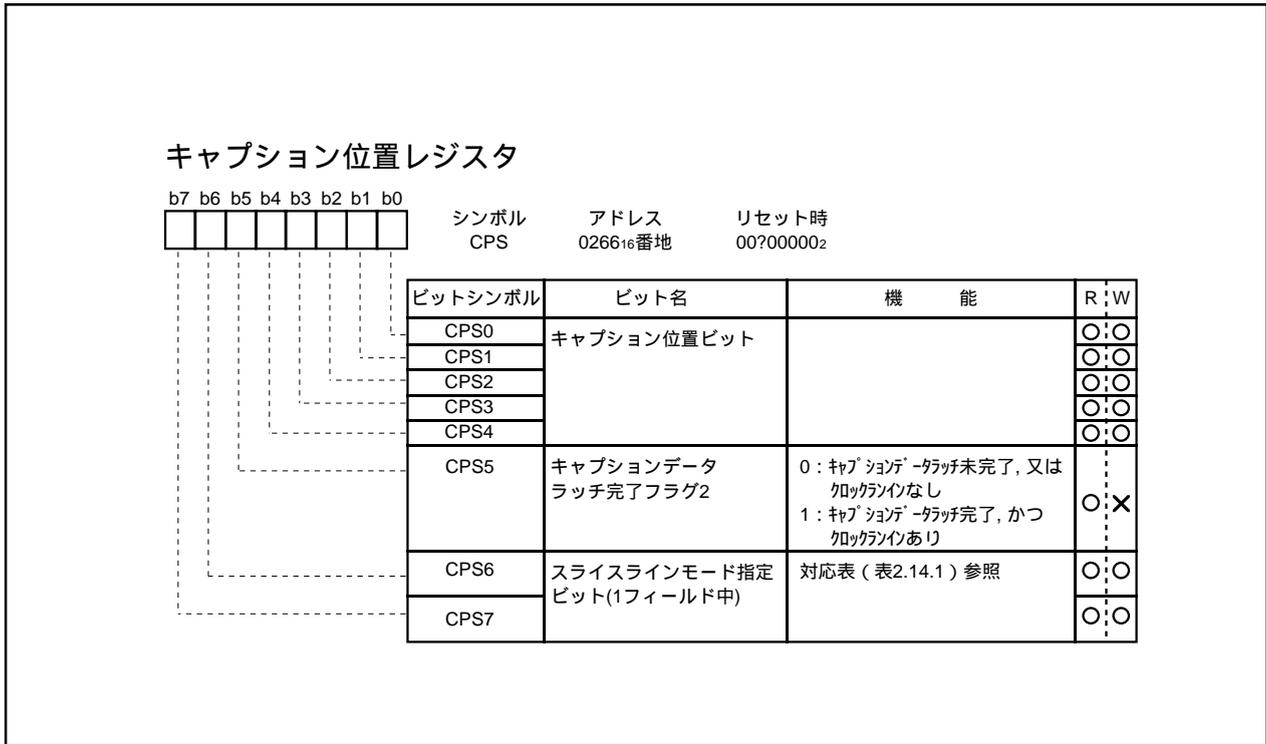


図2.14.9 キャプション位置レジスタ

表2.14.1 データスライスラインの指定

CPS		データスライスするフィールド・ライン	スライス電圧発生フィールド・ライン
ビット7	ビット6		
0	0	・F1/F2両フィールド ・ライン21とCPSのビット4~0で指定される1ライン (計2ライン) (注2)	・DSC1のビット1で指定されるフィールド ・ライン21(計1ライン)
0	1	・F1/F2両フィールド ・CPのビット4~0で指定される1ライン (計1ライン) (注3)	・DSC1のビット1で指定されるフィールド ・CPSのビット4~0で指定される1ライン (計1ライン) (注3)
1	0	・F1/F2両フィールド ・ライン21(計1ライン)	・DSC1のビット1で指定されるフィールド ・ライン21(計1ライン)
1	1	・F1/F2両フィールド ・ライン21とCPSのビット4~0で指定される1ライン (計2ライン) (注2)	・DSC1のビット1で指定されるフィールド ・ライン21とCPSのビット4~0で指定される1ライン (計2ライン) (注2)

注1. DSC1: データスライサ制御レジスタ1

CPS: キャプション位置レジスタ

2. CPSのビット4~0には“0016”~“1016”の値を設定してください。
3. CPSのビット4~0には“0016”~“1F16”の値を設定してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.14.7 基準電圧発生回路・コンパレータ

クランプ回路によってクランプされたコンポジットビデオ信号は基準電圧発生回路、及びコンパレータに入力されます。

(1) 基準電圧発生回路

データスライサイン指定回路で指定されたラインにおけるクロックランインの振幅を用いて基準電圧（スライス電圧）を発生します。V_{HOLD}端子とV_{SS}間にコンデンサを接続してください。また、リーク電流が発生しないように配線長をできる限り短くしてください。

(2) コンパレータ

コンポジットビデオ信号の電圧と基準電圧発生回路によって発生した電圧（基準電圧）を比較し、コンポジットビデオ信号をデジタル値に変換します。

2.14.8 スタートビット検出回路

データスライサイン指定回路で決定したラインにおいてスタートビットを検出します。スタートビットの判定は以下のようになります。

タイミング信号が出力する基準クロックを13分周したサンプリングクロックを生成します。

そのサンプリングクロックを用いてクロックランインパルスを検出します。

パルス検出後、サンプリングクロックでコンパレータ出力からスタートビットパターンを検出します。

2.14.9 クロックランイン判定回路

コンポジットビデオ信号中のウインドウ中でパルス数をカウントすることによってクロックランインであることを判定します。

また、クロックランインパルス1周期にカウントされる基準クロック数はクロックランイン検出レジスタ（0269₁₆番地）のビット7～ビット3に格納されます。これらのビットはデータスライサ割り込み（「(12) 割り込み要求発生回路」）の発生後に読み出してください。

クロックランイン検出レジスタを図2.14.10に示します。

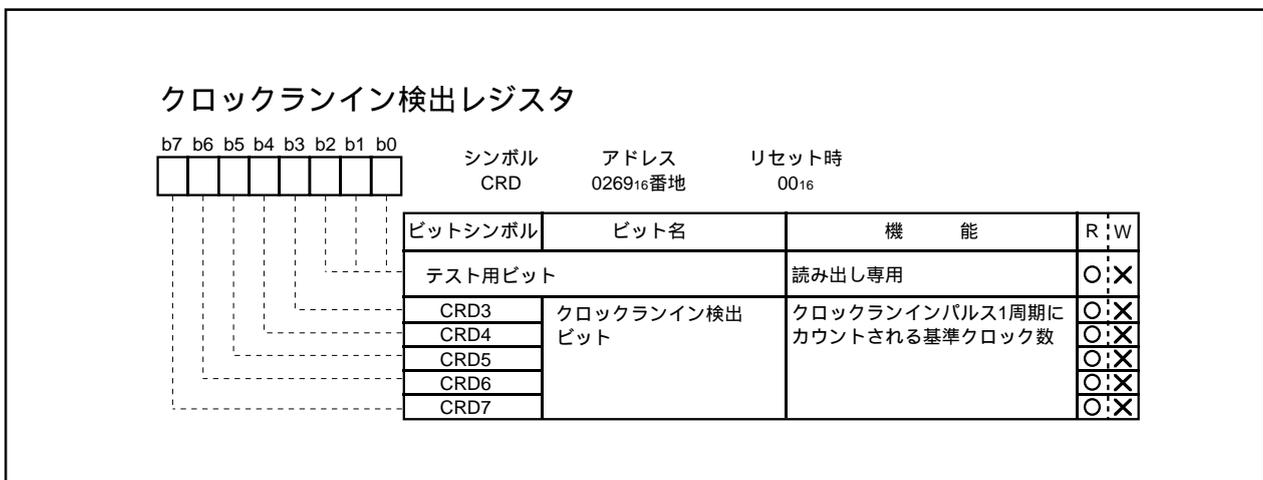


図2.14.10 クロックランイン検出レジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.14.10 データクロック発生回路

データクロック発生回路は、スタートビット検出回路で検出されたスタートビットに同期したデータクロックを発生します。データクロックはキャプションデータを16ビットシフトレジスタへ格納するためのクロックです。16ビットのデータが16ビットシフトレジスタへ格納され、かつクロックランイン判定回路でクロックランインありと判定された場合、キャプションデータラッチ完了フラグがセットされます。この完了フラグは垂直同期信号（Vsep）の立ち下がりで“0”にリセットされます。

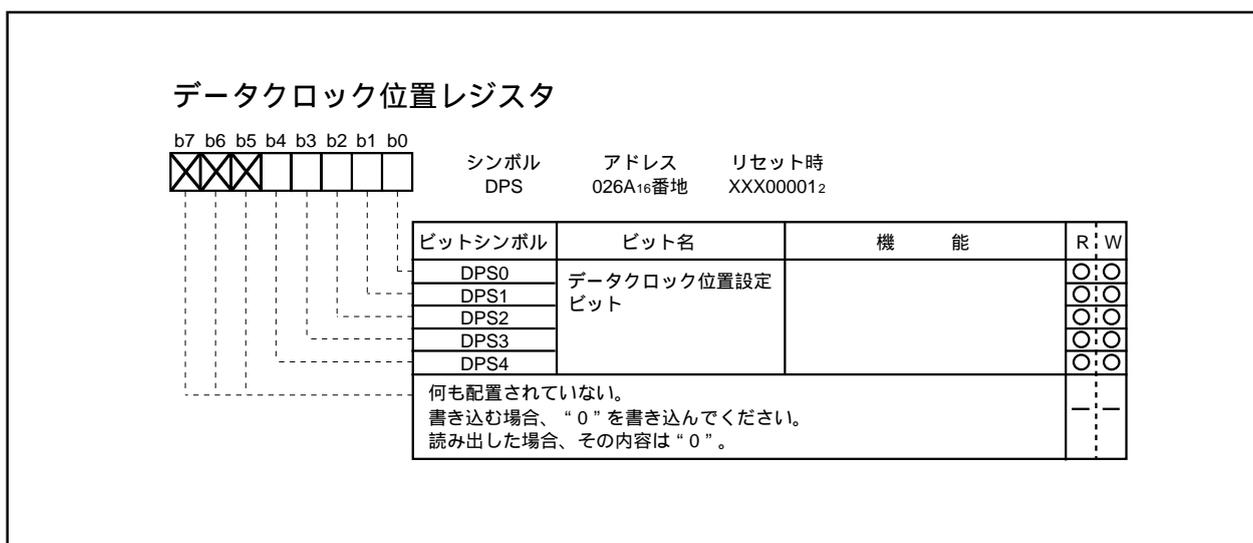


図2.14.11 データクロック位置レジスタ

2.14.11 16ビットシフトレジスタ

コンパレータでデジタル値に変換されたキャプションデータは、データクロックに同期して16ビットシフトレジスタに格納されます。格納されたキャプションデータは、キャプションデータレジスタ1（0263₁₆, 0262₁₆番地）、キャプションデータレジスタ2（0265₁₆, 0264₁₆番地）を読み出すことによってデータ内容を得ることができます。またこれらのレジスタはVsepの立ち下がりで“0”にリセットされます。キャプションデータレジスタ1,2はデータスライサ割り込み（「2.14.12 割り込み要求発生回路」）発生後に読み出してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.14.12 割り込み要求発生回路

キャプション位置レジスタ (0266₁₆番地) のビット7、ビット6の組み合わせによって表2.14.3に示すように割り込み要求が発生します。キャプションデータレジスタ1, 2の内容、及びクロックランイン検出レジスタのビット7~3の内容は、データスライサ割り込み要求発生後に読み出してください。

表2.14.2 キャプションデータラッチ完了フラグ, 及び16ビットシフトレジスタ内容

スライサの設定モード		キャプションデータラッチ完了フラグの内容		16ビットシフトレジスタの内容	
CPS		完了フラグ1 (DSC2のビット0)	完了フラグ2 (CPSのビット5)	キャプションデータ レジスタ1	キャプションデータ レジスタ2
ビット7	ビット6				
0	0	ライン21	CPSのビット4~0で 指定される1ライン	ライン21の16ビット データ	CPSのビット4~0で 指定される1ラインの 16ビットデータ
0	1	CPSのビット4~0で 指定される1ライン	無効	CPSのビット4~0で 指定される1ラインの 16ビットデータ	無効
1	0	ライン21	無効	ライン21の16ビット データ	無効
1	1	ライン21	CPSのビット4~0で 指定される1ライン	ライン21の16ビット データ	CPSのビット4~0で 指定される1ラインの 16ビットデータ

CPS: キャプション位置レジスタ
 DSC2: データスライサ制御レジスタ2

表2.14.3 割り込み要求発生要因

キャプション位置レジスタ		データスライサライン終了時割り込み要求
ビット7	ビット6	
0	0	ライン21スライス後
0	1	キャプション位置レジスタビット4~0で指定される1ライン後
1	0	ライン21スライス後
1	1	ライン21スライス後

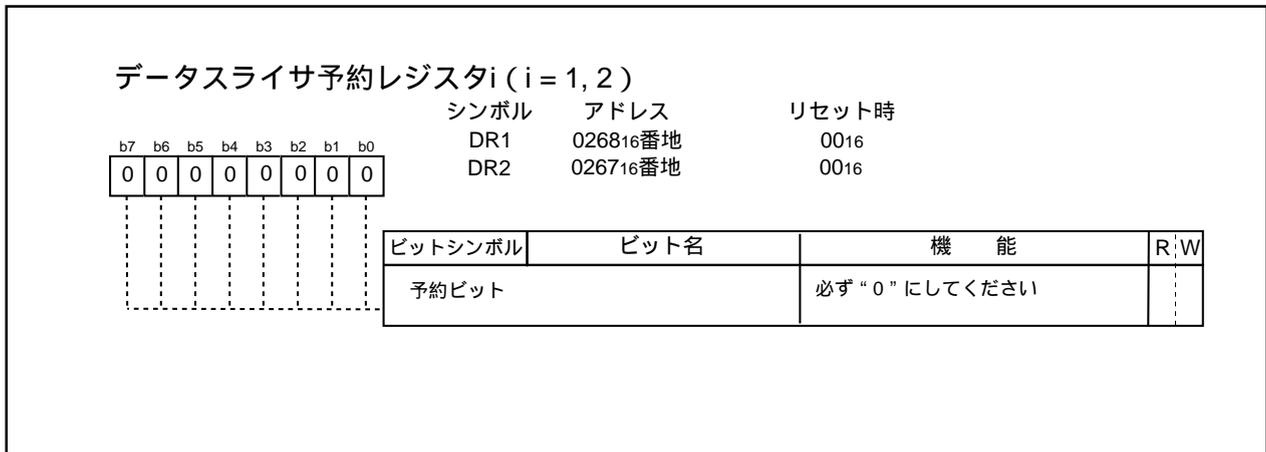


図2.14.12 データスライサ予約レジスタ i ($i = 1, 2$)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.15 HSYNCカウンタ

HSYNCカウンタは、HSYNCカウント入力端子 (HC0, HC1) から入力された信号をカウントソースとしてカウントします。

システムクロック f_{32} を分周した一定時間 (T時間 = 1024 μ s, 2048 μ s, 4096 μ s, 8192 μ s,) のカウント値が、8ビットのラッチに格納されます。このためラッチの値はT時間周期で変化します。カウント値が“FF₁₆”を越えた場合は、“FF₁₆”がラッチに格納されます。

ラッチの値は、HSYNCカウンタラッチ (027F₁₆番地) を読み出すことによって得ることができます。カウントソース及びカウント更新周期 (T時間) は、同期信号カウンタレジスタのビット0, ビット3, ビット4によって選択します。

図2.15.1にHSYNCカウンタレジスタを、図2.15.2にHSYNCカウンタのブロック図を示します。

注 . HSYNCカウンタを使用する場合、ペリフェラルモードレジスタ (027D₁₆) のビット7をメインクロック周波数に従って設定してください。

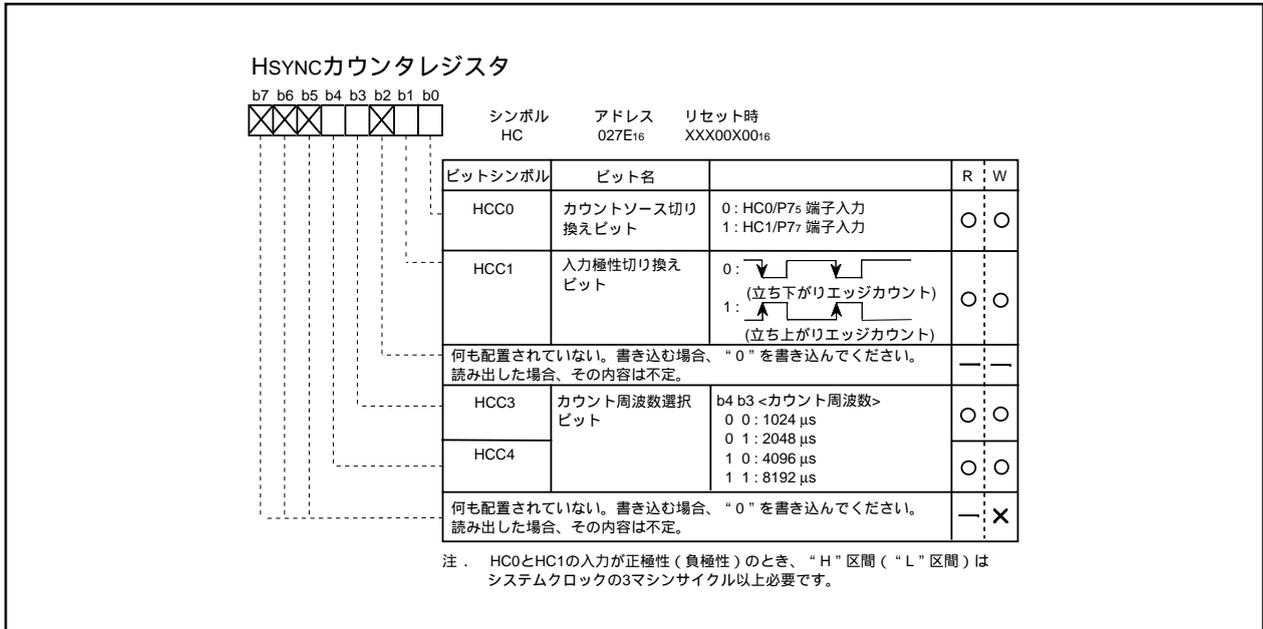


図2.15.1 HSYNCカウンタレジスタ

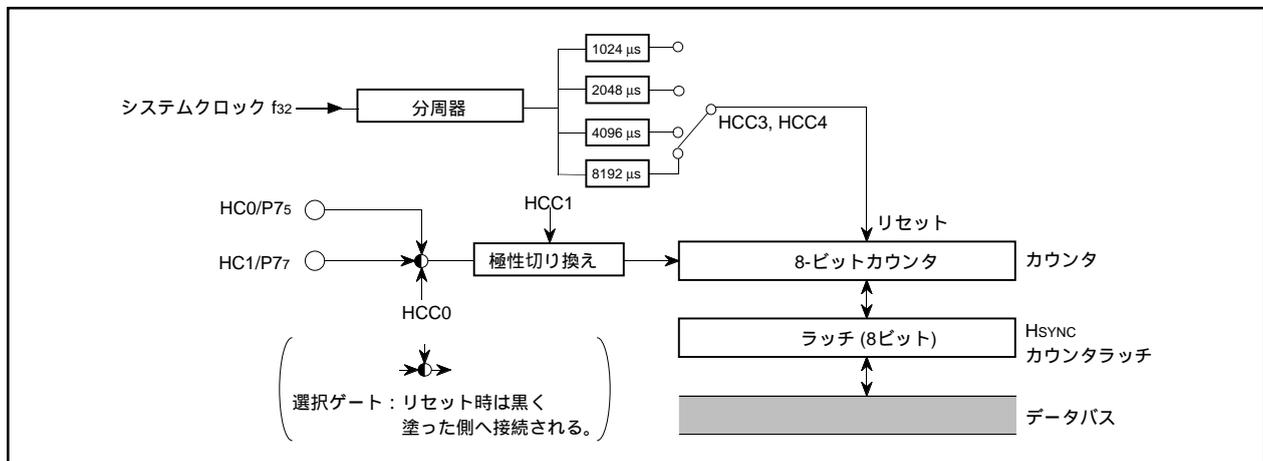


図2.15.2 HSYNCカウンタのブロック図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16 OSD機能

OSD機能の概要を表2.16.1に示します。OSD機能には、32文字×16行又は42文字×16行が画面単位に選択できるブロック表示と、1文字のスプライト表示があり、それらは同時に表示できます。さらにブロック表示は、ブロックコントロールレジスタ(i=1~16)によって、ブロック単位に3つの表示モードが選択できます。各表示の特長を下図に示します。

注. OSD機能使用時、BCLKの動作モードは“分周なしモード”を選択し、またメインクロック周波数を $f(XIN) = 10\text{MHz}$ にしてください。

表2.16.1 各表示スタイルの特長

表示スタイル 項目	ブロック表示					スプライト表示
	CCモード (加-ズドキャプションモード)	OSDモード (オンスクリーンディスプレイモード)			CDOSDモード (加-ドットオンスクリーンディスプレイモード)	
		OSDSモード	OSDPモード	OSDLモード		
表示文字数	32文字×16行 / 42文字×16行					1文字×2行
ドット構成	16×20ドット <small>(文字表示領域は16×26ドット)</small>	16×20ドット 12×20ドット 8×20ドット 4×20ドット	24×32ドット	16×26ドット	32×20ドット	
文字ROM種類	OSDL許可モード	254種類		254種類	126種類	RAMフォント2種類
	OSDL禁止モード	508種類	254種類	——		
文字サイズ(注1)	4種類	14種類	12種類		14種類	8種類
プリ分周比	1倍, 2倍	1倍, 2倍, 3倍				1倍, 2倍
ドットサイズ	1Tc×1/2H, 1Tc×1H	1Tc×1/2H, 1Tc×1H, 1.5Tc×1/2H, 1.5Tc×1H, 2Tc×2H, 3Tc×3H	1Tc×1/2H 1Tc×1H 2Tc×2H 3Tc×3H		1Tc×1/2H, 1Tc×1H, 1.5Tc×1/2H, 1.5Tc×1H, 2Tc×2H, 3Tc×3H	1Tc×1/2H, 1Tc×1H, 2Tc×1H, 2Tc×2H
アトリビュート	スムーズイタリック, アンダーライン, フラッシュ(点滅)	フチドリ		——		
キャラクタフォント 着色	1画面8種類(文字単位) 最大512種類	1画面16種類(文字単位) 最大512種類		1画面16種類 (ドット単位) (指定ドットのみ文字 単位に着色可能) 最大512種類	1画面16種類 (ドット単位) 最大512種類	
文字背景着色	可能 (文字単位, 1画面4種類, 最大512種類)	可能 (文字単位, 1画面16種類, 最大512種類)		——		
表示レイヤ	レイヤ1	レイヤ1, 2	レイヤ1	レイヤ1, 2		レイヤ3(最優先表示)
OSD出力(注2)	アナログR, G, B出力(各8階調512色), デジタルOUT1, OUT2出力					
ラスタ着色	可能(画面単位, 最大512種類)					
他機能(注3)	オートリットスキャン機能	トリプルレイヤOSD機能, ウィンドウ機能, ブランク機能				
拡張表示(多行表示)	可能					

- 注1. 文字サイズはドットサイズとプリ分周比によって指定します。「2.16.3 ドットサイズ」を参照してください。
 2. スプライト表示はOUT2を出力しません。
 3. スプライト表示では、ウィンドウ機能は動作しません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

OSD回路には拡張表示モードがあり、1行表示するごとに割り込みをかけ、ソフトウェアで表示の終了したブロックのデータを書き替えることにより、16行以上の多行表示を行うことができます。

図2.16.1に各表示スタイルの表示可能なフォントを、図2.16.2にOSD回路のブロック図を示します。また、図2.16.3にOSDコントロールレジスタ1を、図2.16.4にブロックコントロールレジスタiを示します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXFP M306V2EFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

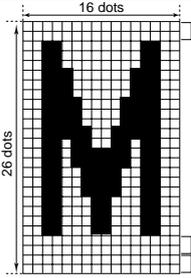
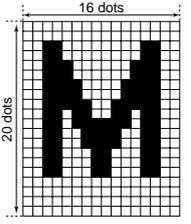
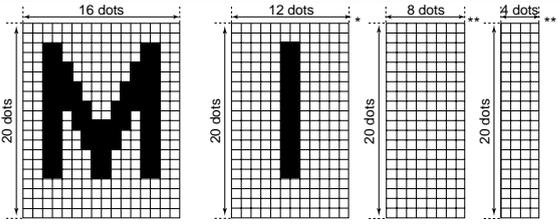
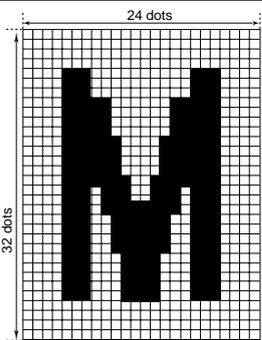
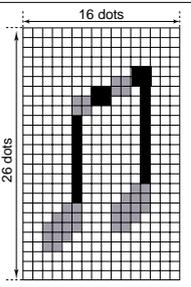
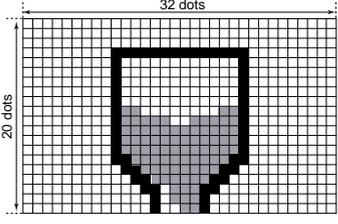
表示スタイル	表示可能なフォント
CCモード	 <p>16 dots</p> <p>26 dots</p> <p>ブランク領域</p> <p>アンダーライン領域 ブランク領域</p>
OSDSモード	 <p>16 dots</p> <p>20 dots</p>
OSDPモード	 <p>16 dots</p> <p>20 dots</p> <p>12 dots</p> <p>20 dots</p> <p>8 dots</p> <p>20 dots</p> <p>4 dots</p> <p>20 dots</p> <p>※: 文字コード限定 ※※: フラッグフォント</p>
OSDLモード	 <p>24 dots</p> <p>32 dots</p>
CDOSDモード	 <p>16 dots</p> <p>26 dots</p>
スプライト	 <p>32 dots</p> <p>20 dots</p>

図2.16.1 各表示スタイルの表示可能なフォント

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

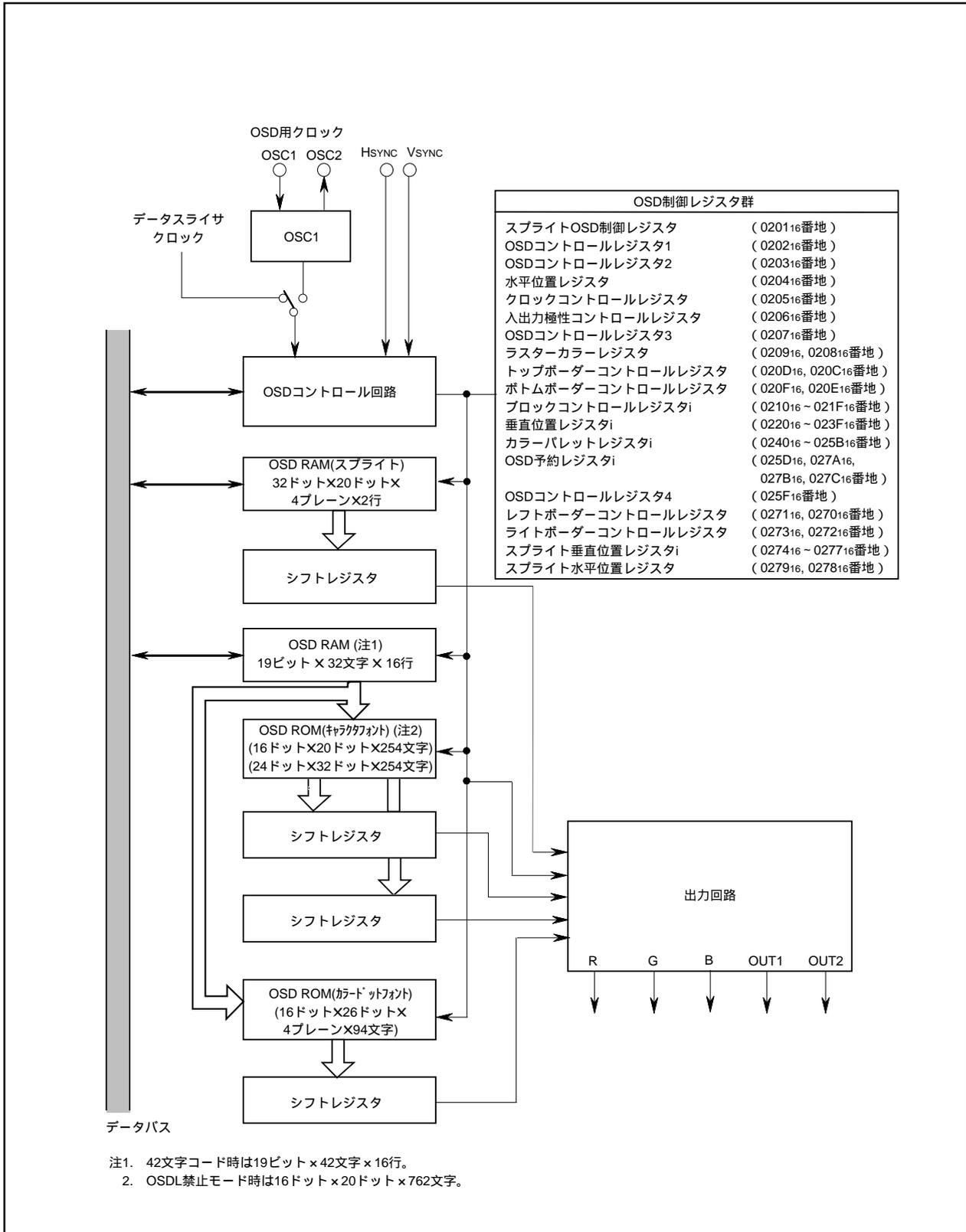


図2.16.2 OSD回路ブロック図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

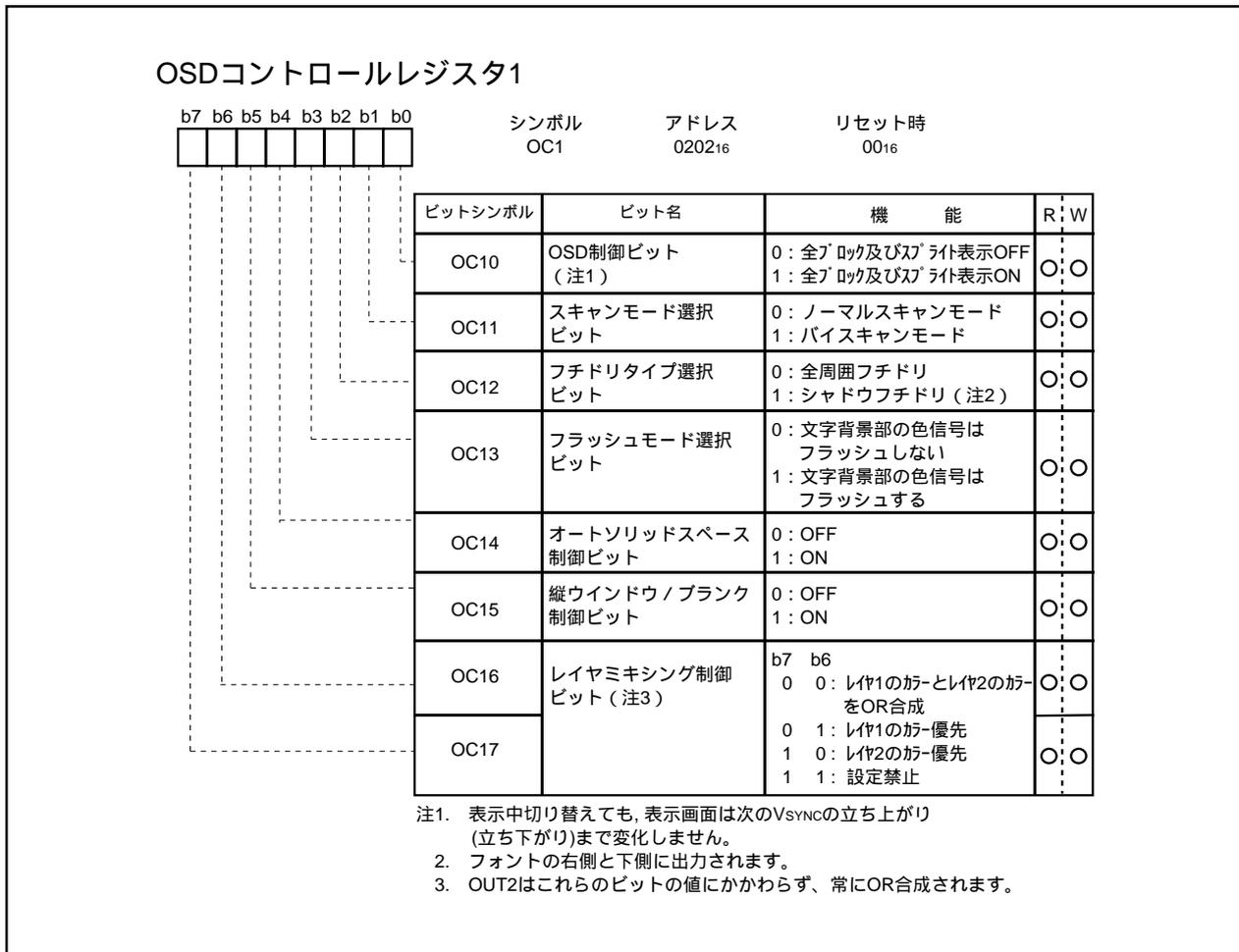


図2.16.3 OSDコントロールレジスタ1

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

ブロックコントロールレジスタ*i*

b7 b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0

<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>						
-------------------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

シンボル アドレス リセット時
 BCI(*i*=1~16) 0210₁₆~021F₁₆ 不定

ビットシンボル	ビット名	機能				R	W				
BCI_0	表示モード選択ビット	b2	b1	b0	機能		○	○			
		0	0	0	表示OFF						
		0	0	1	OSDS \bar{E} -ド [*] (フチドリ無)						
		0	1	0	CC \bar{E} -ド [*]						
BCI_1		0	1	1	CDOSD \bar{E} -ド [*]		○	○			
		1	0	0	OSDP \bar{E} -ド [*] (フチドリ無)						
BCI_2		1	0	1	OSDS \bar{E} -ド [*] (フチドリ有)		○	○			
		1	1	0	OSDP \bar{E} -ド [*] (フチドリ有)						
BCI_3	ドットサイズ選択ビット	b6	b5	b4	b3	プリ分周比	ドットサイズ		○	○	
		0	0	1	0	1	1	1倍			1Tc \times 1/2H
								1Tc \times 1H			
BCI_4		0	1	1	0	1	1	2倍	1Tc \times 1/2H		
								1Tc \times 1H			
		1	1	0	0				1.5Tc \times 1/2H(注3, 4)		
BCI_5	プリ分周比選択ビット	1	1	0	0	1			1.5Tc \times 1H(注3, 4)		
									1Tc \times 1/2H		
BCI_6		1	0	1	0	1	0	1	3倍		
									1Tc \times 1H		
		1	1	1	1				2Tc \times 2H		
									3Tc \times 3H		
何も配置されていない。							-	-			
書き込んだ場合、書き込めない。読み出した場合、その内容は不定。							-	-			

注1. Tc : プリ分周したOSD用クロック周期
 2. H : H_{SYNC}
 3. この文字サイズはレイヤ2でのみ選択可能です。このときレイヤ1は、プリ分周比を2倍、水平ドットサイズを1Tcにしてください。
 4. OSDLモード、OSDPモードでは1.5Tcサイズは使用できません。

図2.16.4 ブロックコントロールレジスタ*i* (*i* = 1~16)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.1 トリプルレイヤOSD

チャンネルやボリュームなどの表示、クローズドキャプション、及びスプライト表示を3重に重ねて表示できるように、レイヤ1からレイヤ3の3層の表示面を備えています。

各ブロックをどのレイヤに表示するかは、表示モード単位にOSDコントロールレジスタ2のビット0及びビット1で選択します（図2.16.7参照）。レイヤ3には、常にスプライトが表示されます。

レイヤ1のブロックとレイヤ2のブロックが重なった場合、OSDコントロールレジスタ1のビット7及びビット6で指定されるレイヤミキシングによって、画面が合成されます（図2.16.5参照）。レイヤ3は常にレイヤ1、レイヤ2に優先して表示されます。

- 注1. レイヤ1とレイヤ2のミキシングを行う場合、表2.16.2の制限事項に注意してください。
2. OSDPモードは常にレイヤ1に表示されます。また、レイヤ2のブロックと重ねて表示することはできません。
3. OUT2はOSDコントロールレジスタ1のビット6、ビット7の値にかかわらず、常にOR合成されます。また、OUT2（レイヤ1又はレイヤ2）はスプライト表示（レイヤ3）と重なった場合でも、マスクされずに出力されます。

表2.16.2 レイヤ1とレイヤ2のミキシングを行う場合の制限事項

項目 \ ブロック	レイヤ1のブロック	レイヤ2のブロック
表示モード	CC, OSDS/L, CDOSDモード	OSDS/L, CDOSDモード
プリ分周比	1倍, 2倍(CCモード時) 1倍~3倍(OSD, CDOSDモード時)	レイヤ1と同一
ドットサイズ	1Tc × 1/2H, 1Tc × 1H (CCモード時)	プリ分周比1倍時 1Tc × 1/2H プリ分周比2倍時 1Tc × 1/2H, 1.5Tc × 1/2H 1Tc × 1H, 1.5Tc × 1H
	1Tc × 1H, 1Tc × 1/2H, 2Tc × 2H, 3Tc × 3H (OSDS/L, CDOSDモード時)	・レイヤ1と同一サイズ ・レイヤ1のプリ分周比=2倍、かつレイヤ1の水平ドットサイズ=1Tc時に限り、水平ドットサイズ1.5Tcが選択可能。このとき、垂直ドットサイズはレイヤ1と同一サイズ
水平表示開始位置	任意	レイヤ1と同一位置
垂直表示開始位置	任意 ただし、ドットサイズが2Tc × 2H, 3Tc × 3Hの場合は、レイヤ1とレイヤ2の垂直表示開始位置の差を以下のように設定してください。 ・2Tc × 2H : 2H単位 ・3Tc × 3H : 3H単位	

注. OSDLモードでは1.5Tcサイズは使用できません。

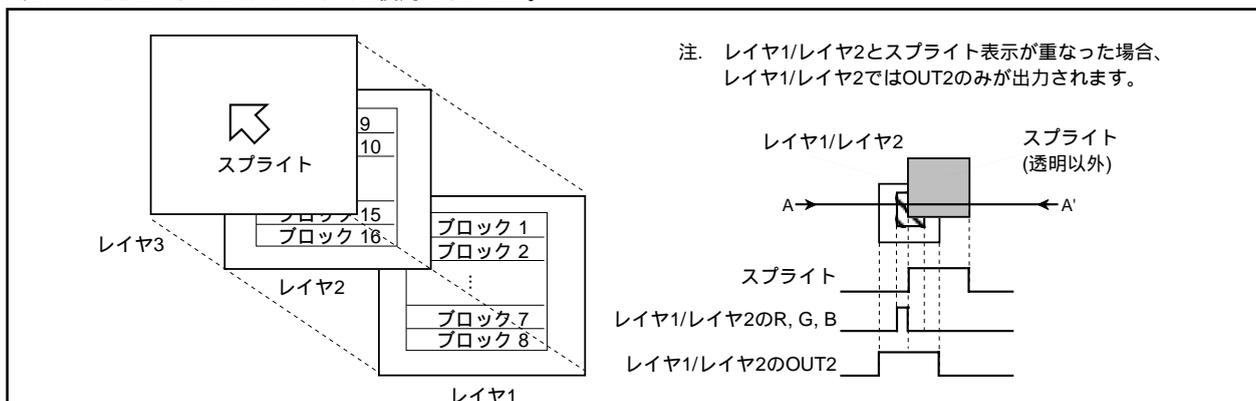


図2.16.5 トリプルレイヤOSD

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

レイヤ1に “HELLO” , レイヤ2に “CH5” を表示した例



レイヤ1とレイヤ2のカラーをOR合成(注)
OC17= “ 0 ”, OC16= “ 0 ”



レイヤ1のカラー優先
OC17= “ 0 ”, OC16= “ 1 ”



レイヤ2のカラー優先
OC17= “ 1 ”, OC16= “ 0 ”

注. レイヤミキシングのOR合成は、カラーパレットレジスタの内容（色）ではなく、カラーパレットレジスタ NO. (i) が OR合成されます。例えば、カラーパレット1と4をOR合成すると、NO.1(0001₂)と、NO.4(0100₂)がOR合成され、NO. は NO.5 (0101₂) となります。つまり、カラーパレットレジスタ5の内容（色）が出力されます。OR合成部分は、カラーパレットレジスタ1、4の色に関係なく、カラーパレットレジスタ5の色が出力されます。

図2.16.6 レイヤミキシングOSD表示例

OSDコントロールレジスタ2

b7 b6 b5 b4 b3 b2 b1 b0

--	--	--	--	--	--	--	--

シンボル
OC2

アドレス
0203₁₆

リセット時
00₁₆

ビットシンボル	ビット名	機 能		R	W		
		b1	b0				
OC20	表示レイヤ選択ビット	0	0	CC, OSDS/L/P, CDOSD	—	○	○
		0	1	CC, OSDS/L/P	CDOSD		
OC21		1	0	CC, OSDP, CDOSD	OSDS/L	○	○
		1	1	CC, OSDP	CDOSD OSDS/L		
OC22	R, G, B信号出力 選択ビット	0: デジタル出力 1: アナログ出力 (8階調)		○	○		
OC23	ソリッドスペース 出力ビット	0: OUT1出力 1: OUT2出力		○	○		
OC24	横ウインドウ/ ブランク制御ビット	0: 動作しない 1: 動作する		○	○		
OC25	ウインドウ/ブランク 選択ビット1(横)	0: 横ブランク機能 1: 横ウインドウ機能		○	○		
OC26	ウインドウ/ブランク 選択ビット2(縦)	0: 縦ブランク機能 1: 縦ウインドウ機能		○	○		
OC27	OSD割り込み要求 選択ビット	0: レイヤ1のブロック表示終了時 1: レイヤ2のブロック表示終了時		○	○		

図2.16.7 OSDコントロールレジスタ2

2.16.2 表示位置

文字の表示位置はブロック単位で指定します。

ブロックはブロック1～ブロック16まで16あり、1つのブロックには最大32文字（32文字モード時）/42文字（42文字モード時）まで表示できます（後述「2.16.6 OSD用メモリ」を参照してください）。

各ブロックの表示位置は水平方向、垂直方向ともソフトウェアによって設定できます。

水平方向は全ブロック共通で4Tosc（Tosc：OSD発振周期）単位で256段階の表示位置の中から選択します。

垂直方向の表示位置はブロックごとに1TH（TH：水平同期信号周期）単位で1024段階の表示位置の中から選択します。

ブロックは以下の規則に従って表示されます。

同レイヤ内で表示位置が他のブロックと重なった場合（図2.16.8の(b)）、ブロック番号（1～16）の若い（小さい）が前面に表示されます。

同レイヤ内で1つのブロック表示中に、他のブロックの表示開始位置がきた場合（図2.16.8の(c)）は垂直表示開始位置の設定値が大きい方が表示されます。ただし、ドットサイズが2Tc×2Hと3Tc×3Hのブロックは他のブロックの表示期間中*に表示させないでください。

* OSDS/Pモードブロックの場合：垂直表示開始位置から垂直20ドット

* OSDLモードブロックの場合：垂直表示開始位置から垂直32ドット

* CC・CDOSDモードブロックの場合：垂直表示開始位置から垂直26ドット

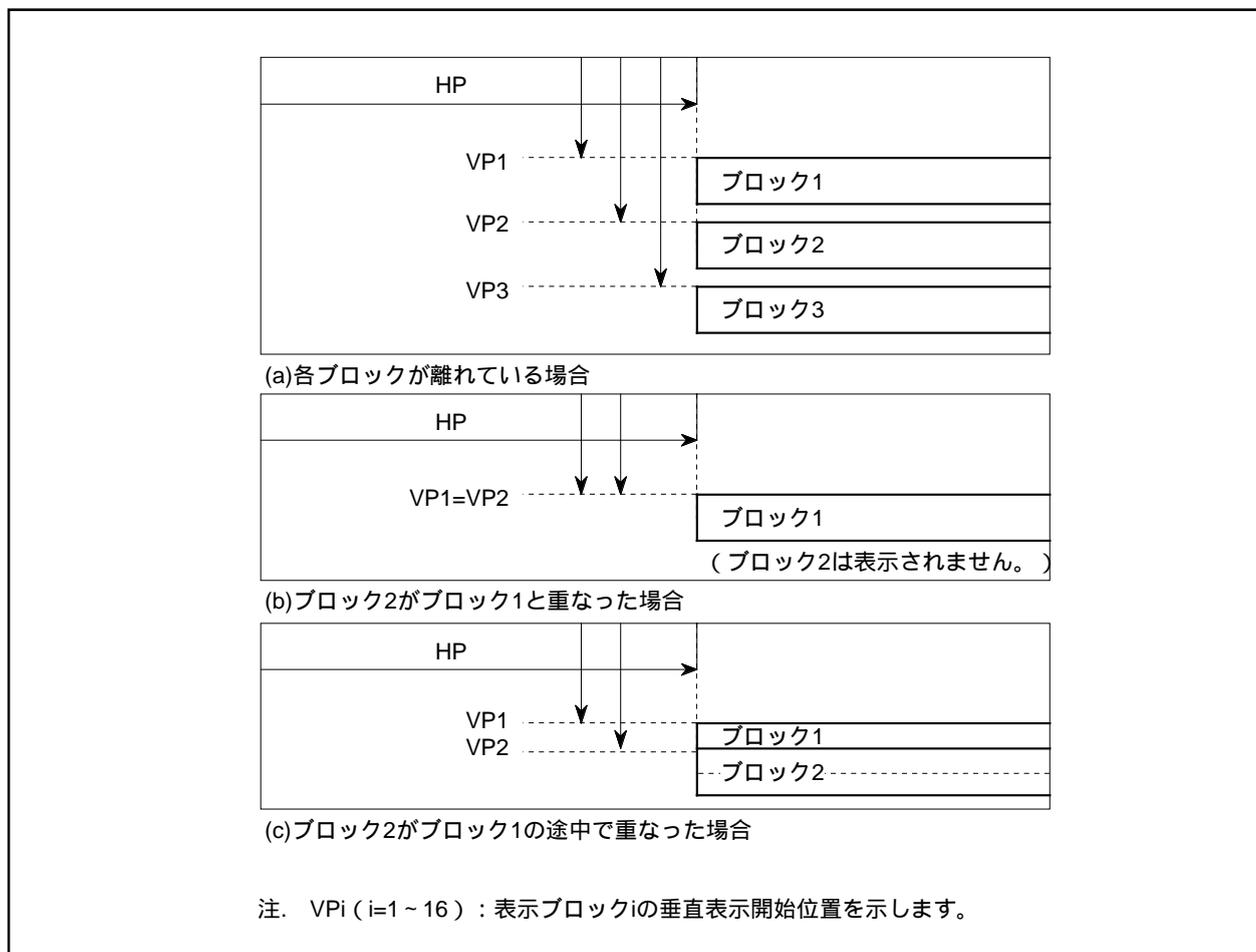


図2.16.8 表示位置

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

垂直方向の表示位置は水平同期信号 (HSYNC) をカウントすることによって確定されます。この際、VSYNC、HSYNC信号が正極性 (負極性) 入力の場合VSYNC信号の立ち上がり (立ち下がり) エッジから一定期間後にHSYNC信号の立ち上がり (立ち下がり) エッジのカウントを開始します。そのため、ジッタ対策として、VSYNC信号の立ち上がり (立ち下がり) エッジからHSYNC信号の立ち上がり (立ち下がり) エッジまでの間隔は充分 ($2 \times \text{BCLK}$ 以上) とるようにしてください。HSYNC信号及びVSYNC信号の極性は、入出力極性コントロールレジスタ (0206₁₆番地) によって正極性、負極性のいずれかを選択できます。

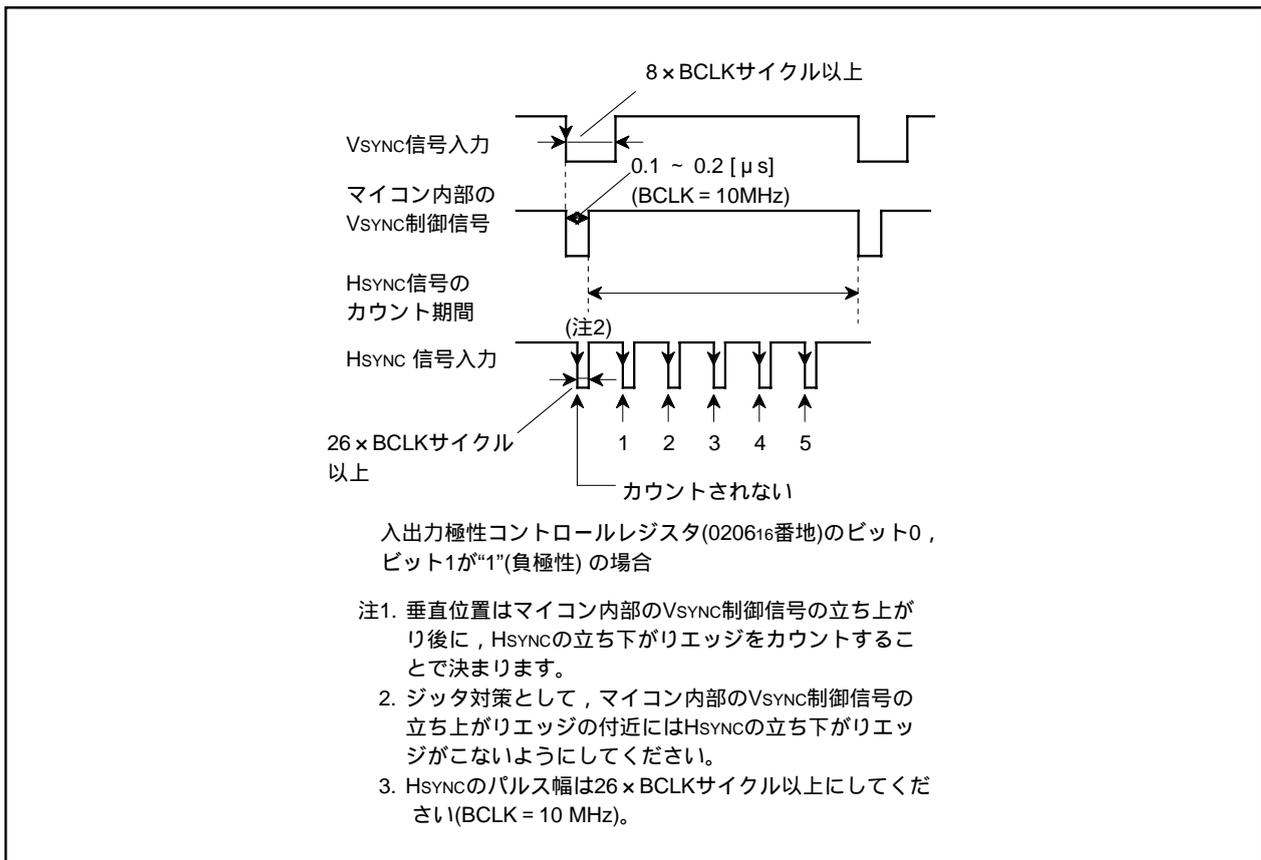


図2.16.9 表示位置補足説明

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

垂直位置はブロックごとに垂直位置レジスタ*i* ($i=1\sim 16$) ($0220_{16}\sim 023F_{16}$ 番地)に“ 002_{16} ”～“ $3FF_{16}$ ”の値を設定することにより、1024段階(1段階あたり1TH (TH: 水平同期信号周期))の設定ができます。図2.16.10に垂直位置レジスタ*i* ($i=1\sim 16$)を示します。

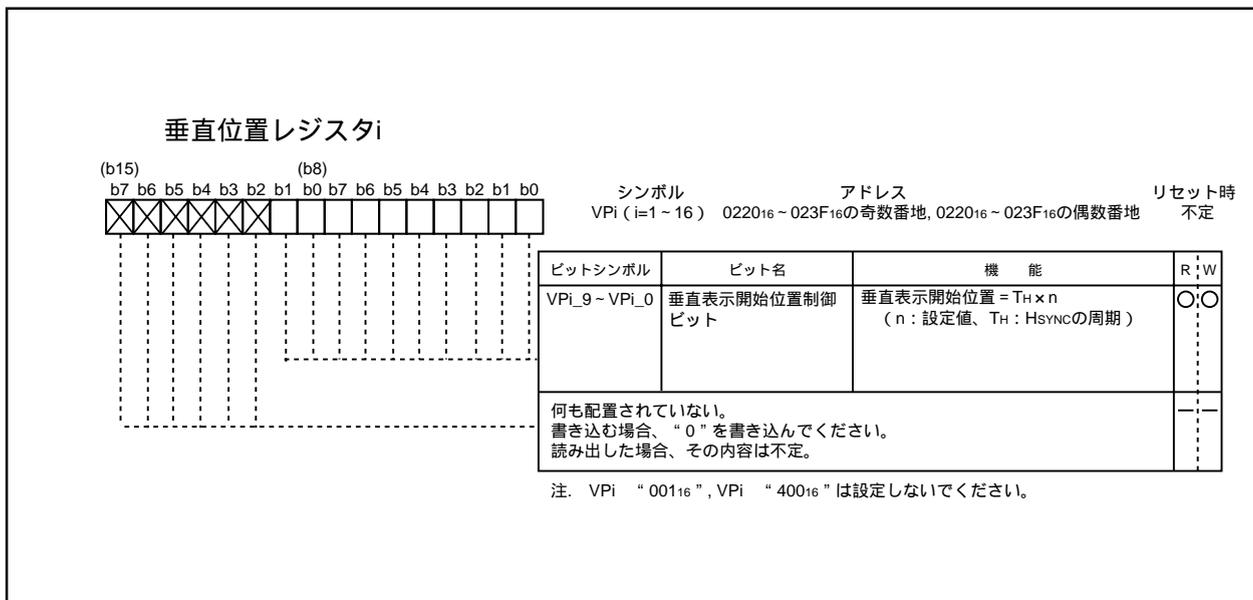


図2.16.10 垂直位置レジスタ*i* ($i=1\sim 16$)

水平位置は全ブロック共通で、水平位置レジスタ (0204_{16} 番地)のビット0～ビット7に“ 00_{16} ”～“ FF_{16} ”の値を設定することにより、256段階(1段階あたり4Tosc (Tosc: OSD発振周期))の設定ができます。図2.16.11に水平位置レジスタを示します。

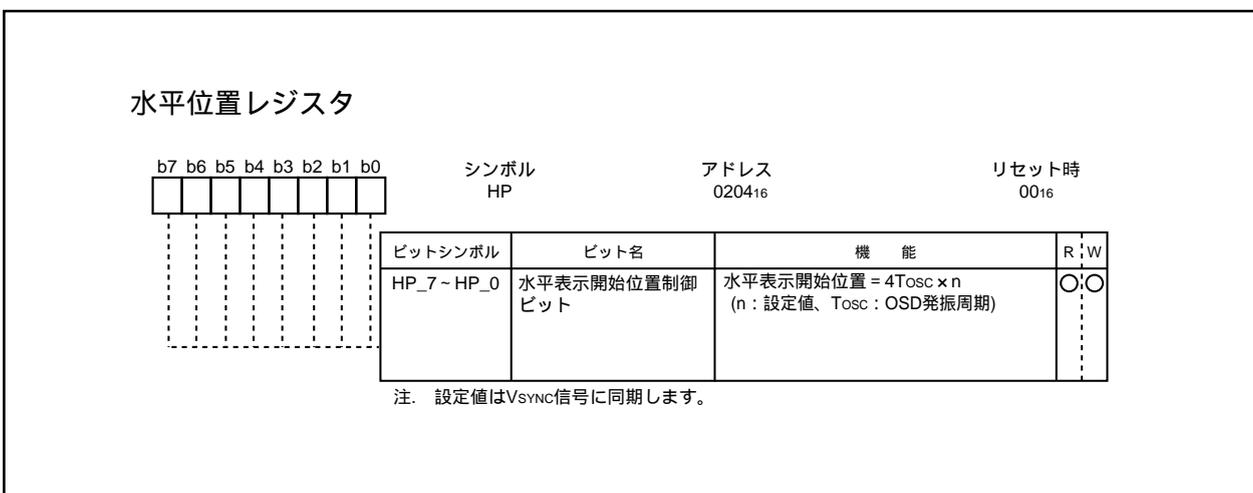


図2.16.11 水平位置レジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

注．水平位置レジスタで設定した水平表示開始位置と1ブロック目の左端のドットの間には、 $1T_c$ (T_c : プリ分周したOSD用クロック周期) の差が生じます。このため、プリ分周比の異なるブロックの水平表示開始位置は一致しません。

通常この差は、文字サイズにかかわらず、常に $1T_c$ ですが、プリ分周比2倍で文字サイズ $1.5T_c$ を選択した場合に限り、この差は $1.5T_c$ となります。

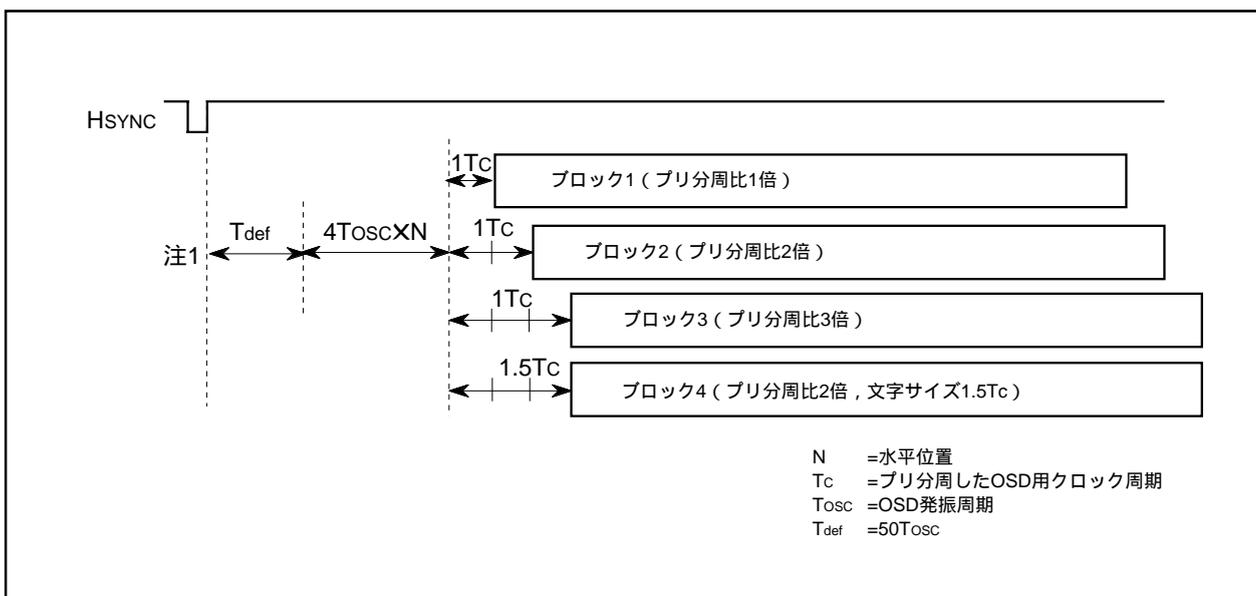


図2.16.12 水平表示開始位置の注意点

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.3 ドットサイズ

表示するドットの大きさはブロック単位に選択できます。垂直方向のドットサイズは、Hsyncを垂直ドットサイズコントロール回路で分周することによって決定されます。水平方向のドットサイズは、OSD用クロックソース（データスライサクロック、OSC1）をプリ分周回路で分周したクロックを水平ドットサイズコントロール回路で分周することによって決定されます。プリ分周回路で分周されたクロックの周期を $1Tc$ と定義します。

ドットサイズは、ブロックコントロールレジスタのビット3～ビット6によって指定します。ブロックコントロールレジスタは図2.16.4、クロックコントロールレジスタは図2.16.15を参照してください。図2.16.13にドットサイズ制御回路のブロック図を示します。

- 注1. CCモード時、プリ分周比 = 3倍は使用できません
2. レイヤ2のプリ分周比は、レイヤ1のプリ分周比と同一になるように、ブロックコントロールレジスタを設定してください。
 3. バイスキャンモード時、垂直方向のドットサイズはノーマルスキャンモード時の2倍となります。スキャンモードについては、後述「2.16.18 スキャンモード」を参照してください。

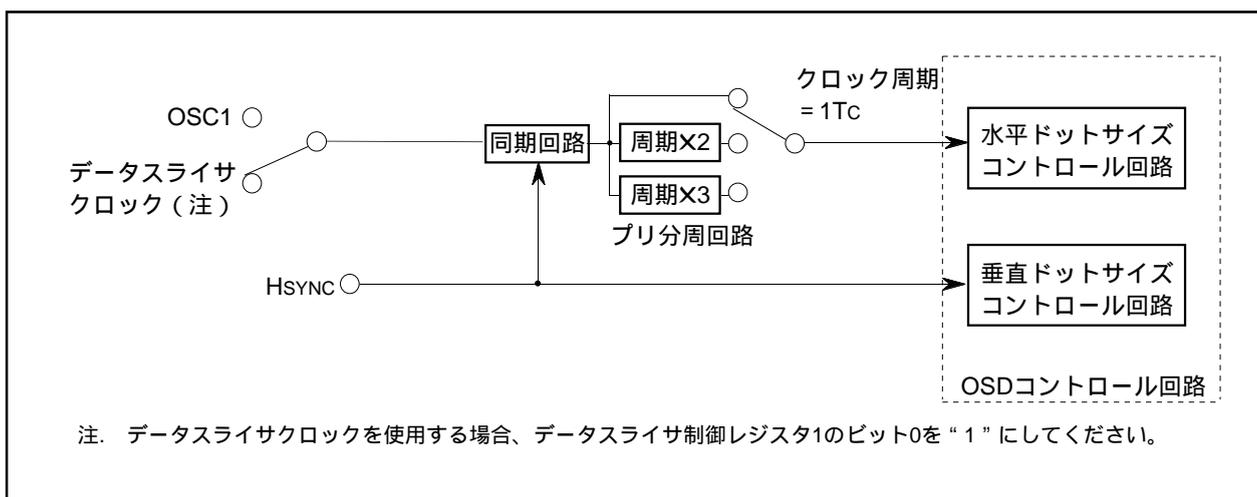


図2.16.13 ドットサイズ制御回路のブロック図

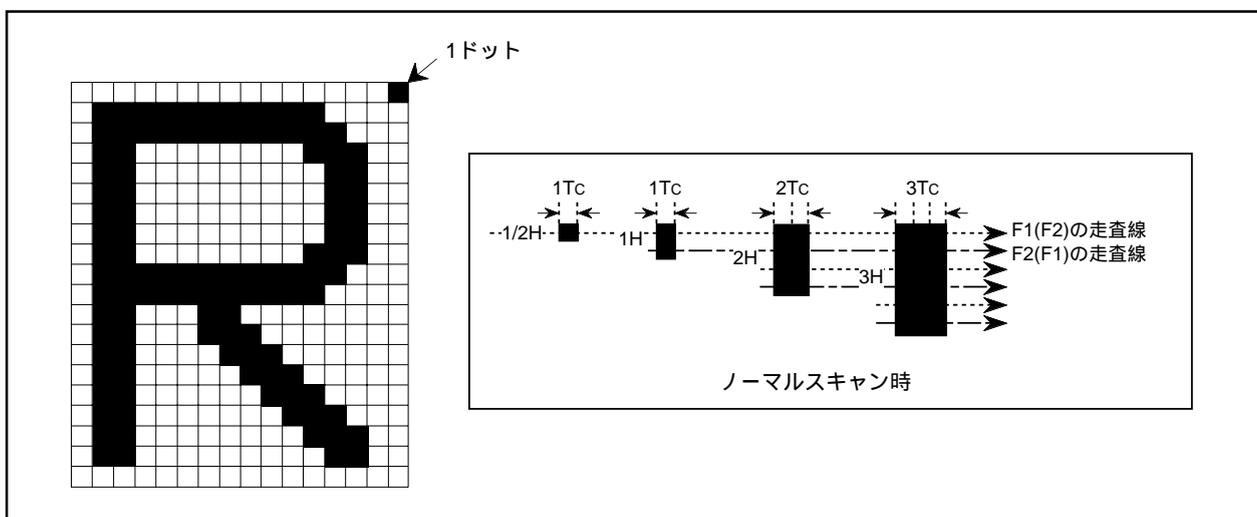


図2.16.14 ドットサイズの定義

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.4 OSD用クロック

OSDに使用するクロックは、以下の3種類の中から選択することができます。

- ・データスライサから出力されるデータスライサクロック（約26MHz）
- ・OSC1，OSC2端子から供給されるLC発振子からのクロック
- ・OSC1，OSC2端子から供給されるセラミック共振子（又は水晶発振子）からのクロック

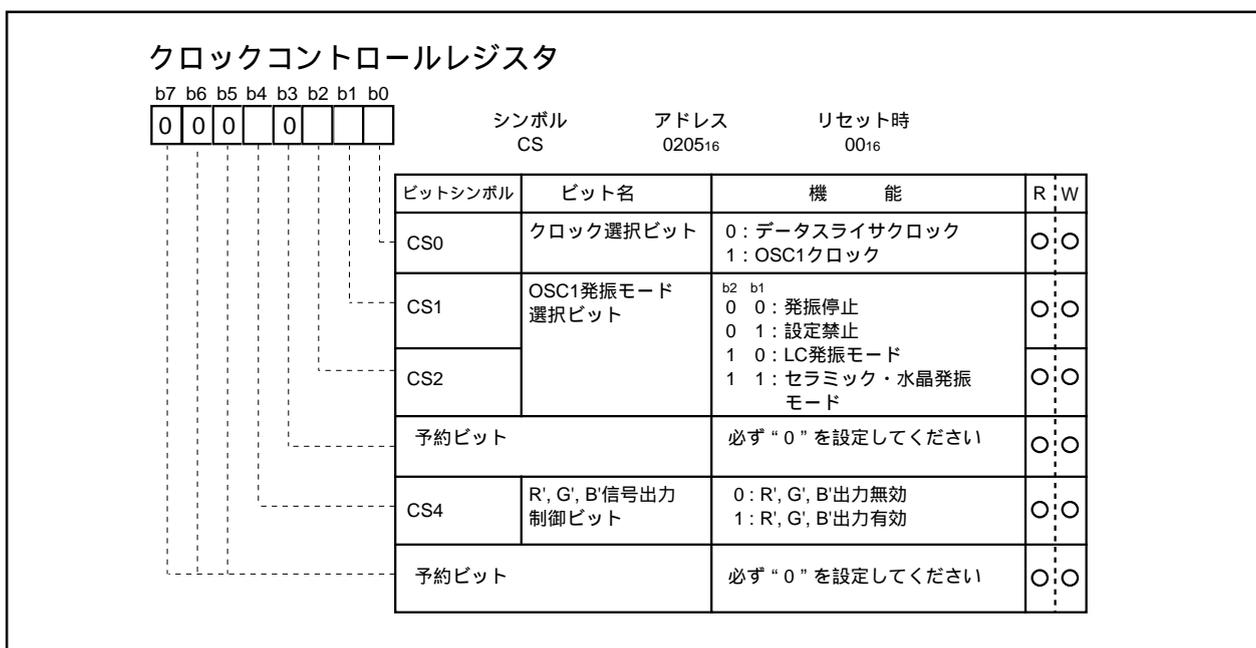


図2.16.15 クロックコントロールレジスタ

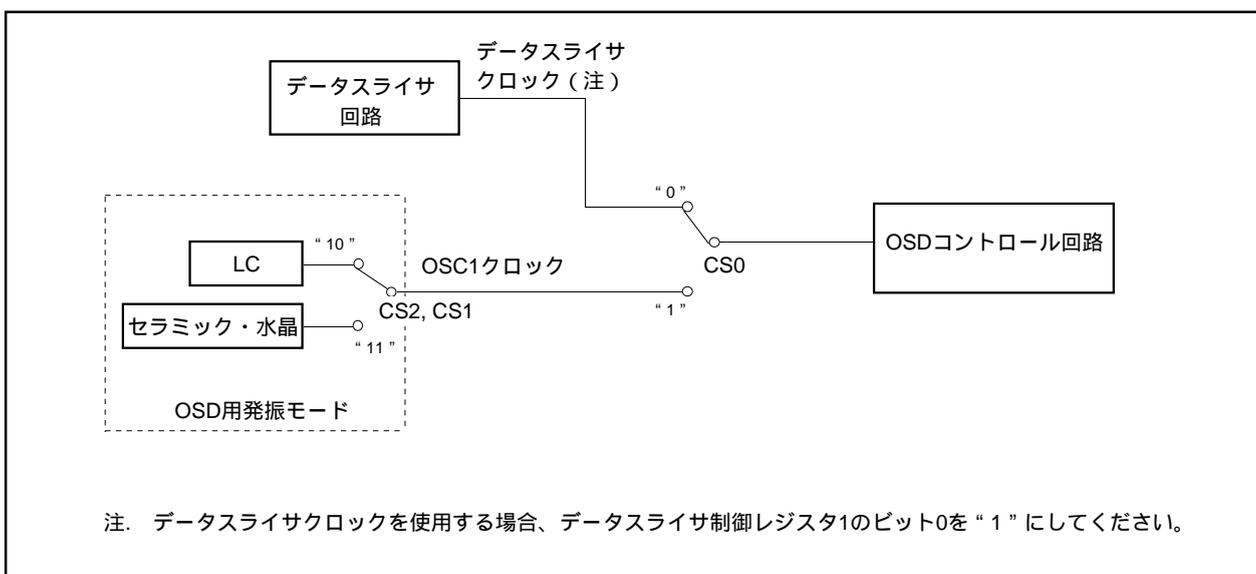


図2.16.16 OSD用クロックの選択回路のブロック図

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.5 フィールド判別表示

垂直ドットサイズ = 1/2Hのブロックの表示は、インターレイス方式の同期信号に対して、その波形の差異から偶数フィールドであるか奇数フィールドであるかを判別します。そのフィールドに対応したドットライン0とドットライン1（図2.16.18参照）を交互に表示します。

以下水平同期信号、垂直同期信号が共に負極性入力の場合のフィールド判別基準を説明します。フィールド判別は、水平同期信号の立ち上がりエッジからマイコン内部のV_{SYNC}制御信号（図2.16.9を参照）の立ち上がりエッジまでの時間を検出し、一つ前のフィールドの時間と比較することで判別を行います。比較する時間に対して長ければ“偶数フィールド”、短ければ“奇数フィールド”となります。

なお、フィールド判別フラグはマイコン内部のV_{SYNC}制御信号の立ち上がりエッジ検出時に変化します。

このフィールドの内容はフィールド判別フラグ（入出力極性コントロールレジスタ；0206₁₆番地のビット7）で読み出すことができます。また、入出力極性コントロールレジスタのビット6によってどちらのドットラインで表示するかを選択することができます（図2.16.18参照）。

ただし、CPUから読み出したフィールド判別フラグはビット6の値に関係なく、偶数フィールドで“0”、奇数フィールドで“1”と固定されています。

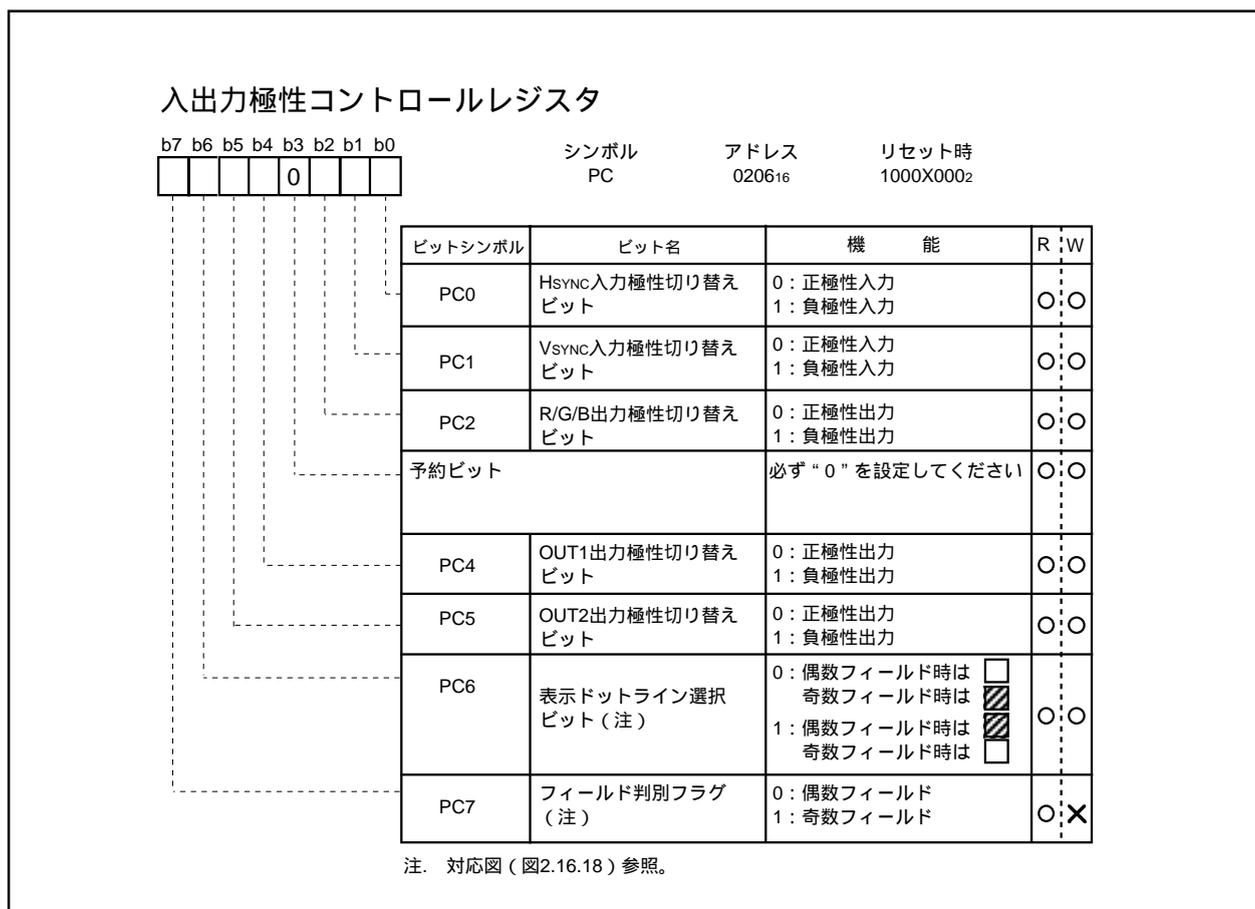


図2.16.17 入出力極性コントロールレジスタ

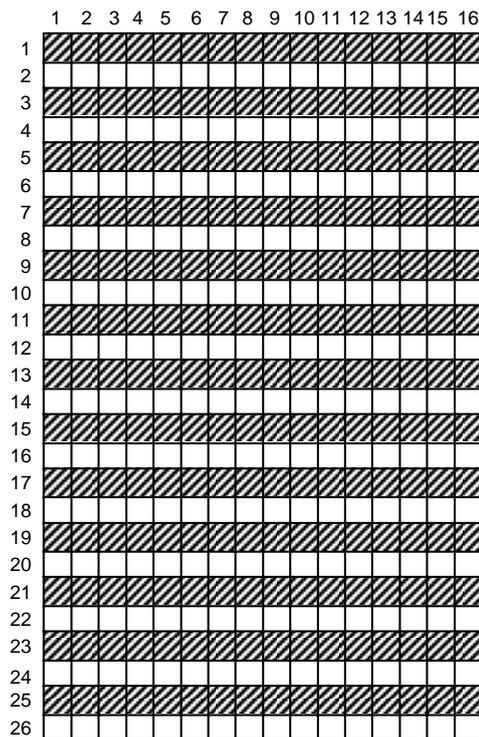
三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

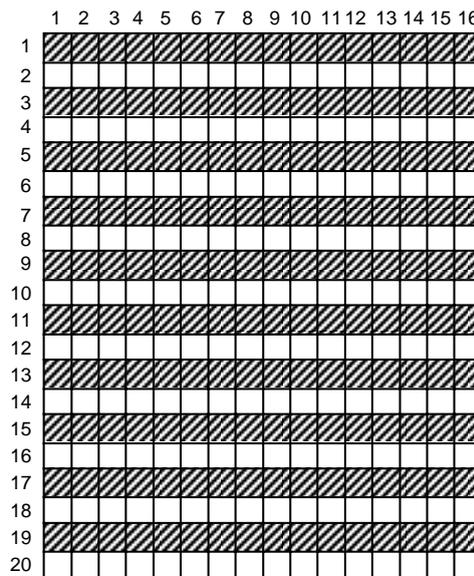
HSYNC信号、VSYNC信号共に負極性入力の場合

HSYNC		フィールド	フィールド 判別フラグ (注)	表示ドットライン 選択ビット	表示ドット ライン
VSYNCと マイコン内部 のVSYNC 制御信号		奇数			
上： VSYNC信号		偶数	0 (T2 > T1)	0	ドットライン1 □
下： マイコン内部 のVSYNC制御 信号		奇数	1 (T3 < T2)	0	ドットライン0 ▨
				1	ドットライン1 □

フィールド判別フラグを使用する場合、パリティモードレジスタ (027D16番地) のビット7をメインクロック周波数に従って設定してください。



CCモード・CDOSDモード



OSDSモード

例. 表示ドットライン選択ビット = "0" の場合、偶数フィールド時□のフォント、奇数フィールド時▨のフォントを表示します。また、入出力極性コントロールレジスタのビット7には、フィールド判別フラグとして、奇数フィールド時 "1" が、偶数フィールド時 "0" が読み出されます。

OSD用ROMフォント構成図

注. フィールド判別フラグはマイコン内部のVSYNC制御信号 (負極性入力) の立ち上がりのタイミングで変化します。

図2.16.18 フィールド判別フラグと表示フォントの関係

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.6 OSD用メモリ

OSD用メモリは、文字のドットデータを格納するOSD ROM (90000₁₆ ~ AFFFF₁₆番地)と、表示する文字種類、色、及びスプライト表示を指定するOSD RAM (0400₁₆ ~ 13FF₁₆番地)の2種類があります。以下、別々に説明します。

(1)OSD ROM (90000₁₆ ~ AFFFF₁₆番地)

OSD ROMのキャラクタフォントエリアにはキャラクタフォントデータを、同ROMのカラードットフォントエリアにはCDフォントデータを格納します。表示キャラクタフォント及びCDフォント種類の指定は、それらの文字コードをOSD RAMに書き込んで行います。

キャラクタフォントの構成は、16×20ドットフォントと24×32ドットフォントが混在するOSDL許可モードと、16×20ドットフォントのみのOSDL禁止モードがあります。OSDL許可/禁止モードの選択は、画面単位にOSDコントロールレジスタ4のビット0で行います。

OSDL許可/OSDL禁止モードそれぞれのキャラクタフォントデータの格納アドレスを図2.16.20、図2.16.21に示します。また、OSDL許可/禁止モード別の制約事項を図2.16.22に示します。CDフォントデータの格納アドレスを図2.16.23に示します。

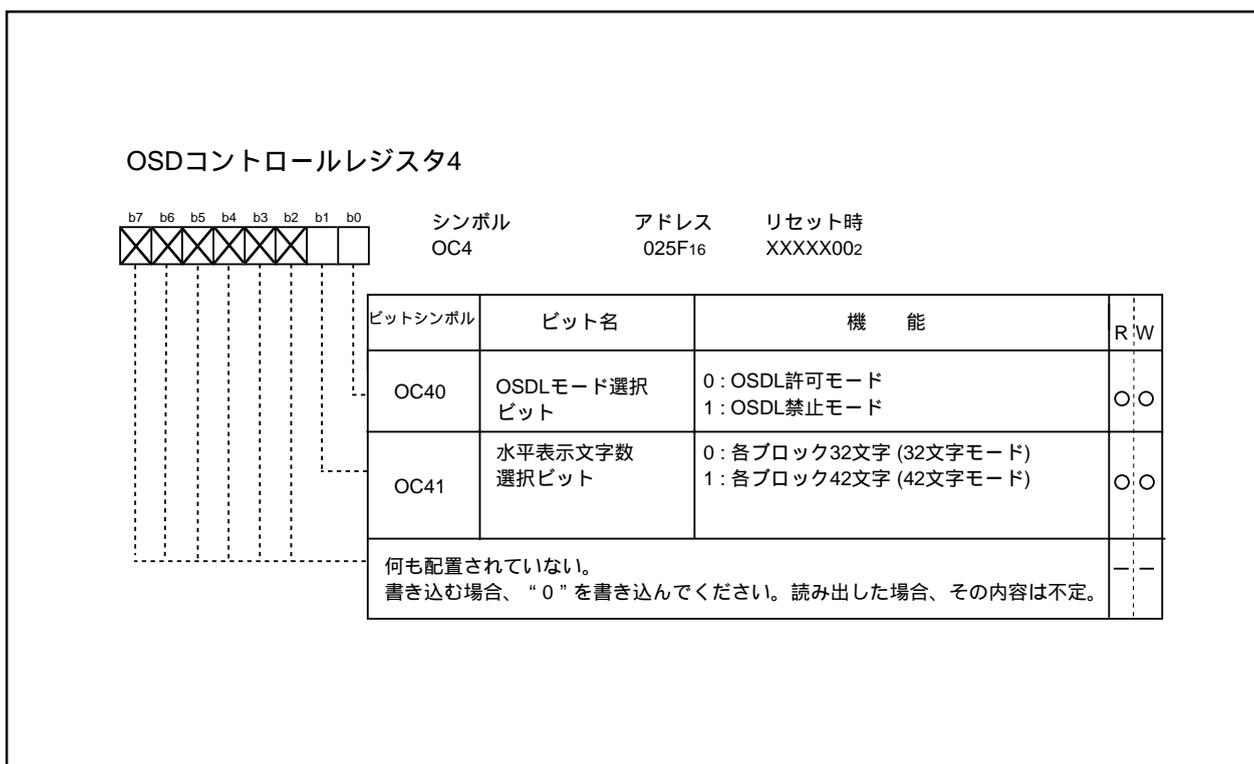


図2.16.19 OSDコントロールレジスタ4

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

キャラクタフォントデータのOSD ROMアドレス (OSDL許可モード)

OSD ROM アドレスビット		AD16	AD15	AD14	AD13	AD12	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0
		アドレスポインタ構成																
フォント種類	フォント(1) 文字コード000 ₁₆ ~ 0FF ₁₆	0	ラインナンバ(1)(MSB ~ LSB)					文字 コード (C8)=0	文字コード(C7 ~ C0)								0	エリア ビット
	フォント(2) 100 ₁₆ ~ 1FF ₁₆	エリア0, 1	0	ラインナンバ(2)(MSB ~ LSB)					文字 コード (C8)=1	文字コード(C7 ~ C0)								0
エリア2		1	ラインナンバ(2)(MSB ~ LSB)					0	0	文字コード(C6 ~ C0)								0

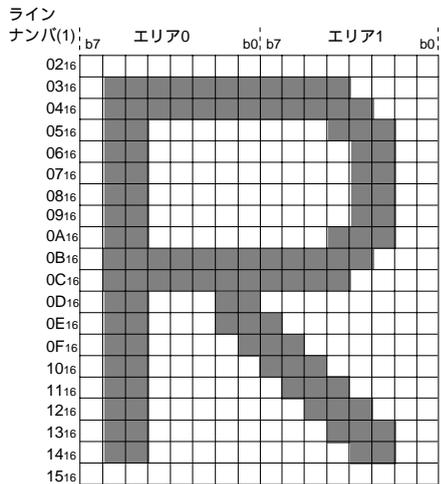
ラインナンバ(1)= "02₁₆" ~ "15₁₆"

ラインナンバ(2)= "00₁₆" ~ "1F₁₆"

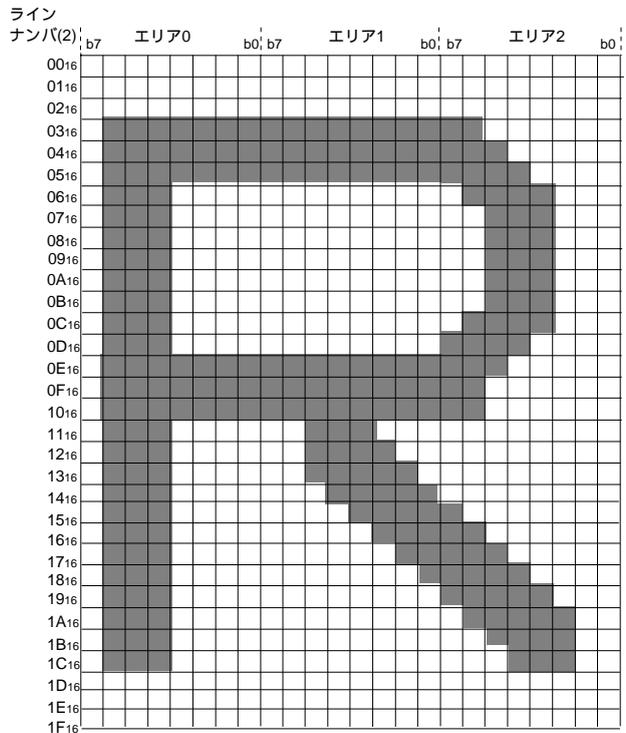
文字コード= "000₁₆" ~ "1FF₁₆"

(ただし "0FE₁₆", "0FF₁₆", "100₁₆", "180₁₆" は使用できません。該当アドレスに "FF₁₆" を書き込んでください。)

エリアビット=0 : エリア0 1 : エリア1



フォント(1)
(文字コード "000₁₆" ~ "0FF₁₆")



フォント(2)
(文字コード "100₁₆" ~ "1FF₁₆")

図2.16.20 キャラクタフォントデータの格納アドレス (OSDL許可モード)

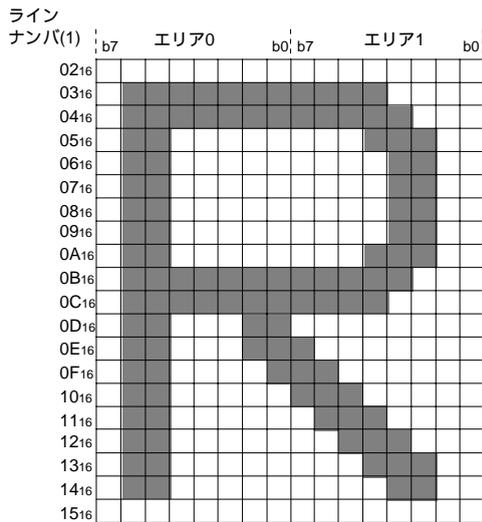
三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

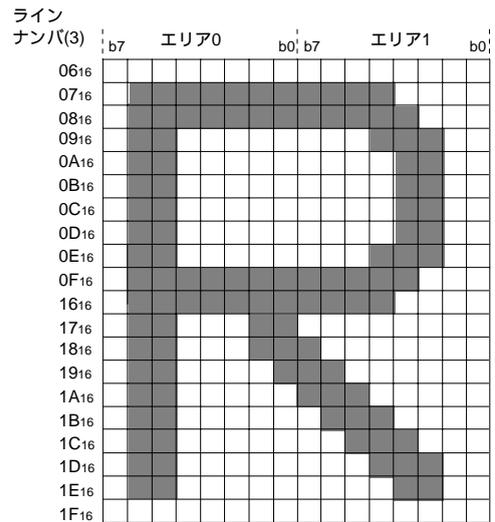
キャラクタフォントデータのOSD ROMアドレス (OSDL禁止モード)

OSD ROM アドレス	AD16	AD15	AD14	AD13	AD12	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0
	アドレスポインタ構成																
フォント種類																	
フォント(1) 文字コード000 ₁₆ ~ 1FF ₁₆	文字 コード (C9)=0	ラインナンバ(1)(MSB ~ LSB)					文字コード(C8 ~ C0)						0	エリア ビット			
フォント(2) 文字コード200 ₁₆ ~ 27F ₁₆	文字 コード (C9)=1	ラインナンバ(1)(MSB ~ LSB)					文字コード(C8 ~ C0)						0	エリア ビット			
フォント(3) 文字コード280 ₁₆ ~ 2FF ₁₆	0	1	ラインナンバ(3) (NL3 ~ NL0)			1	ライン ナンバ(3) (NL4)	文字コード(C6 ~ C0)						0	エリア ビット		

ラインナンバ(1) = “ 02₁₆ ” ~ “ 15₁₆ ”
 ラインナンバ(3) = “ 06₁₆ ” ~ “ 0F₁₆ ”, “ 16₁₆ ” ~ “ 1F₁₆ ”
 文字コード = “ 000₁₆ ” ~ “ 2FF₁₆ ”
 (ただし “ 0FE₁₆ ”, “ 0FF₁₆ ”, “ 100₁₆ ”, “ 180₁₆ ”, “ 200₁₆ ”, “ 280₁₆ ” は使用できません。該当アドレスに “ FF₁₆ ” を書き込んでください。)
 エリアビット = 0 : エリア0 1 : エリア1



フォント(1)
 フォント(2)
 (文字コード “ 000₁₆ ” ~ “ 27F₁₆ ”)



フォント(3)
 (文字コード “ 280₁₆ ” ~ “ 2FF₁₆ ”)

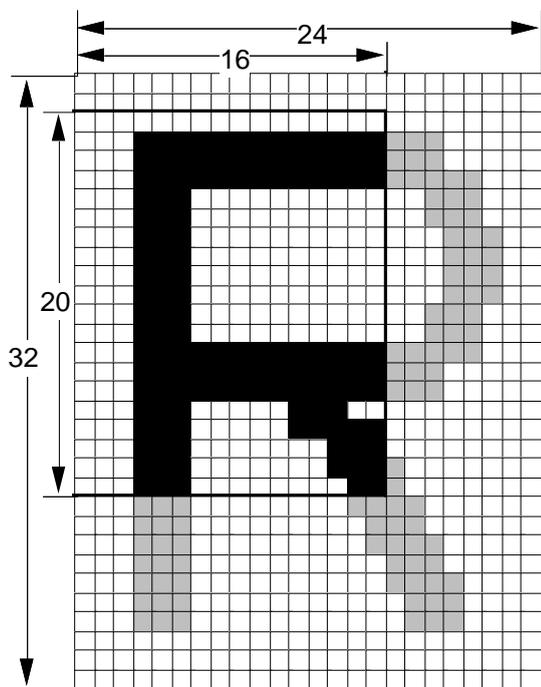
図2.16.21 キャラクタフォントデータの格納アドレス (OSDL禁止モード)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

OSDL許可/禁止モード、表示モード、及び文字コードの関係によって下表の制約があります。

表示モード & 文字コード		OSDL許可モード (OSDコントロールレジスタ4の ビット0 = "0")				OSDL禁止モード (OSDコントロールレジスタ4の ビット0 = "1")			
		文字 サイズ	CC	OSDS / P	OSDL	文字 サイズ	CC	OSDS / P	OSDL
指定 文字 コード	000 ₁₆ ~ 0FF ₁₆	S	使用可	使用可	使用不可 (注3)	S	使用可	使用可	表示OFF
	100 ₁₆ ~ 1FF ₁₆	L	使用可 (注1)	使用可 (注1)	使用可		使用可	使用可	表示OFF
	200 ₁₆ ~ 27F ₁₆	使用不可 (注3)					使用不可 (注3)	使用可	表示OFF
	280 ₁₆ ~ 2FF ₁₆							使用可 (フチドリ無) (注2)	表示OFF
	300 ₁₆ ~ 3FF ₁₆							使用不可 (注3)	表示OFF



- 注1 . 24×32フォントの一部が表示されます。
- 注2 . OSDL禁止モード時、文字コード“280₁₆”～“2FF₁₆”は、OSDS/Pモード（フチドリ無）で使用してください。
- 注3 . この設定を使用した場合、フォントデータの出力が不定となるため、使用しないでください。ただし、OSDPモード時は、ブランクフォント出力文字コードとして、“3FE₁₆”、“3FF₁₆”が使用できます。

図2.16.22 OSDL許可 / 禁止モード別の制約事項

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

CDフォントデータのOSD ROMアドレス

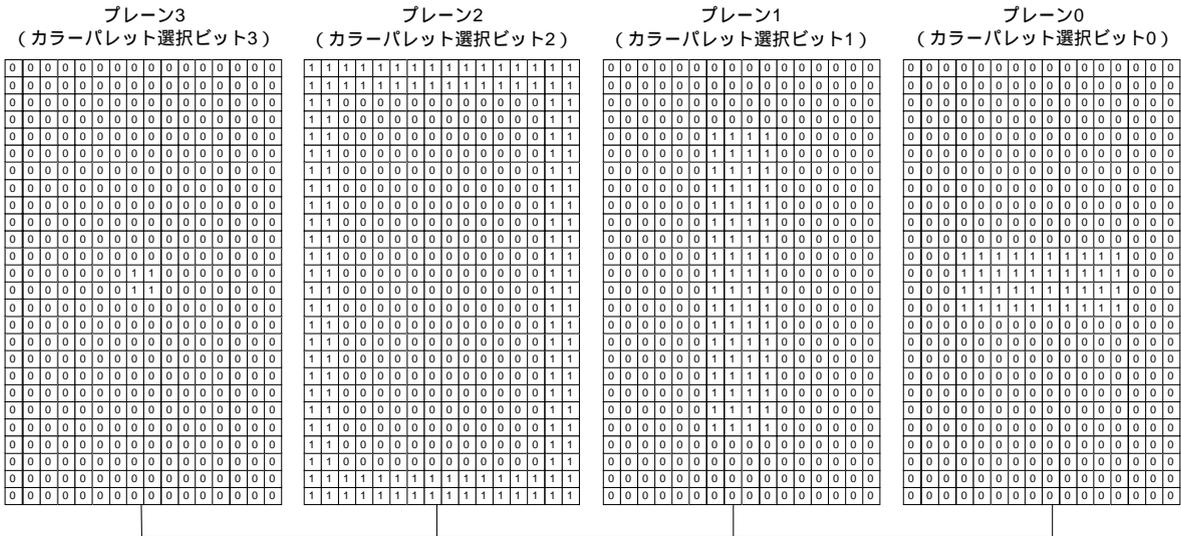
OSD ROM アドレスビット	AD16	AD15	AD14	AD13	AD12	AD11	AD10	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0
ライン番号 / CDコード / エリアビット	1	CDコード (C6)	プレーン 選択ビット	ライン番号(MSB ~ LSB)						CDコード(C5 ~ C0)						1	エリア ビット

ライン番号 = "0016" ~ "1916"

CDコード = "0016" ~ "7F16"

(ただし "3F16", "4016" は使用できません。該当アドレスに "FF16" を書き込んでください。)

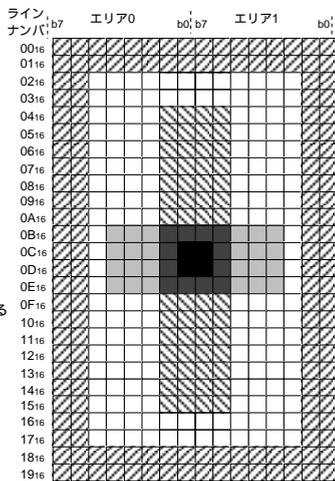
エリアビット = 0: エリア0 1: エリア1



ライン 番号	b7	エリア0	b0, b7	エリア1	b0
0016	4	4	4	4	4
0116	4	4	4	4	4
0216	4	4	0	0	0
0316	4	4	0	0	0
0416	4	4	0	0	2
0516	4	4	0	0	2
0616	4	4	0	0	2
0716	4	4	0	0	2
0816	4	4	0	0	2
0916	4	4	0	0	2
0A16	4	4	0	0	2
0B16	4	4	0	1	1
0C16	4	4	0	1	1
0D16	4	4	0	1	1
0E16	4	4	0	1	1
0F16	4	4	0	0	2
1016	4	4	0	0	2
1116	4	4	0	0	2
1216	4	4	0	0	2
1316	4	4	0	0	2
1416	4	4	0	0	2
1516	4	4	0	0	2
1616	4	4	0	0	0
1716	4	4	0	0	0
1816	4	4	4	4	4
1916	4	4	4	4	4



- 0 OSD RAMのRC13 ~ RC16で設定されるカラーパレットが選択されます。
- 1 カラーパレット1が選択されます。
- 2 カラーパレット2が選択されます。
- 3 カラーパレット3が選択されます。
- 4 カラーパレット4が選択されます。
- 11 カラーパレット11が選択されます。



表示例

図2.16.23 CDフォントデータの格納アドレス

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(2) OSD RAM (キャラクタ表示用OSD RAM、0400₁₆ ~ 0EFF₁₆番地)

キャラクタ表示用のOSD RAMは、0400₁₆ ~ 0EFF₁₆番地に割り当てられており、ブロックごとに文字コード指定部、色コード1指定部、色コード2指定部に分かれています。1ブロックのキャラクタ数(32文字モード又は42文字モード)をOSDコントロールレジスタ4のビット1によって選択します。アドレスマップを表2.16.3 ~ 表2.16.7に示します。

たとえば、ブロック1の第一文字目(左端)に文字を表示する場合、0400₁₆番地に文字コードを、0401₁₆番地に表示する色コード1を、0480₁₆番地に表示する色コード2を書き込みます。OSD RAMのビット構成を図2.16.25に示します。

注. 下記ドットサイズのブロックは、通常ブロックに対して、3n (n = 1 ~ 14) 文字目が抜けた状態になります。

OSDLモード時 : 全ドットサイズ

レイヤ2上のOSDS、CDOSDモード時 : 1.5Tc × 1/2H 又は 1.5Tc × 1H

したがって1ブロックの最大文字数は22文字(32文字モード時)又は28文字(42文字モード時)となります(2.16.25参照)なお、3n文字目のRAMデータは表示に影響を与えませんので、任意のデータを格納してください。さらに32文字モード時のみ以下の点に注意してください。なお、42文字モード時は、28文字目の文字領域にもキャラクタが表示されますので、通常の設定を行ってください。

- ・ OSDSモード時
22文字目の文字領域には、キャラクタは表示されず、文字背景の左側1/3のみが表示されます。この背景を表示しない場合は、文字背景色を透明に設定してください。
- ・ OSDLモード時
22文字目はブランク文字、又は透明の文字色を設定してください。
- ・ CDOSDモード時
22文字目の文字領域(左側1/3)には、キャラクタは表示されず、色コード1のビット3 ~ ビット6で指定されたカラーパレット色が表示されます。

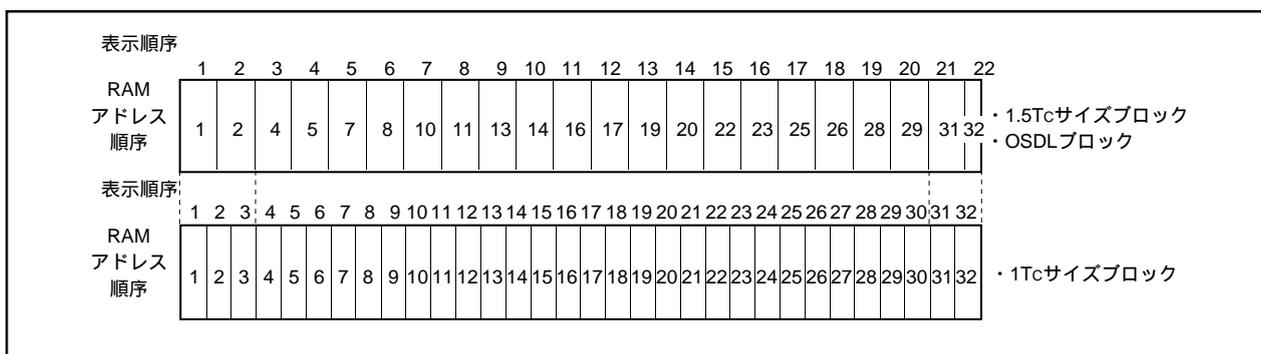


図2.16.24 3n番目の文字のRAMデータ (32文字モード時)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.16.3 OSD RAM内容 (1~32文字目)

ブロック	表示位置 (左から)	文字コード指定	色コード1指定	色コード2指定
ブロック1	1文字目	0400 ₁₆	0401 ₁₆	0480 ₁₆
	2文字目	0402 ₁₆	0403 ₁₆	0482 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	043C ₁₆	043D ₁₆	04BC ₁₆
	32文字目	043E ₁₆	043F ₁₆	04BE ₁₆
ブロック2	1文字目	0440 ₁₆	0441 ₁₆	04C0 ₁₆
	2文字目	0442 ₁₆	0443 ₁₆	04C2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	047C ₁₆	047D ₁₆	04FC ₁₆
	32文字目	047E ₁₆	047F ₁₆	04FE ₁₆
ブロック3	1文字目	0500 ₁₆	0501 ₁₆	0580 ₁₆
	2文字目	0502 ₁₆	0503 ₁₆	0582 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	053C ₁₆	053D ₁₆	05BC ₁₆
	32文字目	053E ₁₆	053F ₁₆	05BE ₁₆
ブロック4	1文字目	0540 ₁₆	0541 ₁₆	05C0 ₁₆
	2文字目	0542 ₁₆	0543 ₁₆	05C2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	057C ₁₆	057D ₁₆	05FC ₁₆
	32文字目	057E ₁₆	057F ₁₆	05FE ₁₆
ブロック5	1文字目	0600 ₁₆	0601 ₁₆	0680 ₁₆
	2文字目	0602 ₁₆	0603 ₁₆	0682 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	063C ₁₆	063D ₁₆	06BC ₁₆
	32文字目	063E ₁₆	063F ₁₆	06BE ₁₆
ブロック6	1文字目	0640 ₁₆	0641 ₁₆	06C0 ₁₆
	2文字目	0642 ₁₆	0643 ₁₆	06C2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	067C ₁₆	067D ₁₆	06FC ₁₆
	32文字目	067E ₁₆	067F ₁₆	06FE ₁₆
ブロック7	1文字目	0700 ₁₆	0701 ₁₆	0780 ₁₆
	2文字目	0702 ₁₆	0703 ₁₆	0782 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	073C ₁₆	073D ₁₆	07BC ₁₆
	32文字目	073E ₁₆	073F ₁₆	07BE ₁₆
ブロック8	1文字目	0740 ₁₆	0741 ₁₆	07C0 ₁₆
	2文字目	0742 ₁₆	0743 ₁₆	07C2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	077C ₁₆	077D ₁₆	07FC ₁₆
	32文字目	077E ₁₆	077F ₁₆	07FE ₁₆
ブロック9	1文字目	0800 ₁₆	0801 ₁₆	0880 ₁₆
	2文字目	0802 ₁₆	0803 ₁₆	0882 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	083C ₁₆	083D ₁₆	08BC ₁₆
	32文字目	083E ₁₆	083F ₁₆	08BE ₁₆
ブロック10	1文字目	0840 ₁₆	0841 ₁₆	08C0 ₁₆
	2文字目	0842 ₁₆	0843 ₁₆	08C2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	087C ₁₆	087D ₁₆	08FC ₁₆
	32文字目	087E ₁₆	087F ₁₆	08FE ₁₆

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.16.4 OSD RAM内容(1~32文字目)(つづき)

ブロック	表示位置(左から)	文字コード指定	色コード1指定	色コード2指定
ブロック11	1文字目	0900 ₁₆	0901 ₁₆	0980 ₁₆
	2文字目	0902 ₁₆	0903 ₁₆	0982 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	093C ₁₆	093D ₁₆	09BC ₁₆
	32文字目	093E ₁₆	093F ₁₆	09BE ₁₆
ブロック12	1文字目	0940 ₁₆	0941 ₁₆	09C0 ₁₆
	2文字目	0942 ₁₆	0943 ₁₆	09C2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	097C ₁₆	097D ₁₆	09FC ₁₆
	32文字目	097E ₁₆	097F ₁₆	09FE ₁₆
ブロック13	1文字目	0A00 ₁₆	0A01 ₁₆	0A80 ₁₆
	2文字目	0A02 ₁₆	0A03 ₁₆	0A82 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	0A3C ₁₆	0A3D ₁₆	0ABC ₁₆
	32文字目	0A3E ₁₆	0A3F ₁₆	0ABE ₁₆
ブロック14	1文字目	0A40 ₁₆	0A41 ₁₆	0AC0 ₁₆
	2文字目	0A42 ₁₆	0A43 ₁₆	0AC2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	0A7C ₁₆	0A7D ₁₆	0AFC ₁₆
	32文字目	0A7E ₁₆	0A7F ₁₆	0AFE ₁₆
ブロック15	1文字目	0B00 ₁₆	0B01 ₁₆	0B80 ₁₆
	2文字目	0B02 ₁₆	0B03 ₁₆	0B82 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	0B3C ₁₆	0B3D ₁₆	0BBC ₁₆
	32文字目	0B3E ₁₆	0B3F ₁₆	0BBE ₁₆
ブロック16	1文字目	0B40 ₁₆	0B41 ₁₆	0BC0 ₁₆
	2文字目	0B42 ₁₆	0B43 ₁₆	0BC2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	31文字目	0B7C ₁₆	0B7D ₁₆	0BF0 ₁₆
	32文字目	0B7E ₁₆	0B7F ₁₆	0BFE ₁₆

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.16.5 OSD RAM内容 (33~42文字目)

ブロック	表示位置 (左から)	文字コード指定	色コード1指定	色コード2指定
ブロック1	33文字目	0C00 ₁₆	0C01 ₁₆	0C80 ₁₆
	34文字目	0C02 ₁₆	0C03 ₁₆	0C82 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0C0C ₁₆	0C0D ₁₆	0C8C ₁₆
	40文字目	0C0E ₁₆	0C0F ₁₆	0C8E ₁₆
	41文字目	0E00 ₁₆	0E01 ₁₆	0E80 ₁₆
ブロック2	42文字目	0E02 ₁₆	0E03 ₁₆	0E82 ₁₆
	33文字目	0C10 ₁₆	0C11 ₁₆	0C90 ₁₆
	34文字目	0C12 ₁₆	0C13 ₁₆	0C92 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0C1C ₁₆	0C1D ₁₆	0C9C ₁₆
	40文字目	0C1E ₁₆	0C1F ₁₆	0C9E ₁₆
ブロック3	41文字目	0E08 ₁₆	0E09 ₁₆	0E88 ₁₆
	42文字目	0E0A ₁₆	0E0B ₁₆	0E8A ₁₆
	33文字目	0C20 ₁₆	0C21 ₁₆	0CA0 ₁₆
	34文字目	0C22 ₁₆	0C23 ₁₆	0CA2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0C2C ₁₆	0C2D ₁₆	0CAC ₁₆
ブロック4	40文字目	0C2E ₁₆	0C2F ₁₆	0CAE ₁₆
	41文字目	0E10 ₁₆	0E11 ₁₆	0E90 ₁₆
	42文字目	0E12 ₁₆	0E13 ₁₆	0E92 ₁₆
	33文字目	0C30 ₁₆	0C31 ₁₆	0CB0 ₁₆
	34文字目	0C32 ₁₆	0C33 ₁₆	0CB2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
ブロック5	39文字目	0C3C ₁₆	0C3D ₁₆	0CBC ₁₆
	40文字目	0C3E ₁₆	0C3F ₁₆	0CBE ₁₆
	41文字目	0E18 ₁₆	0E19 ₁₆	0E98 ₁₆
	42文字目	0E1A ₁₆	0E1B ₁₆	0E9A ₁₆
	33文字目	0C40 ₁₆	0C41 ₁₆	0CC0 ₁₆
	34文字目	0C42 ₁₆	0C43 ₁₆	0CC2 ₁₆
ブロック6	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0C4C ₁₆	0C4D ₁₆	0CCC ₁₆
	40文字目	0C4E ₁₆	0C4F ₁₆	0CCE ₁₆
	41文字目	0E20 ₁₆	0E21 ₁₆	0EA0 ₁₆
	42文字目	0E22 ₁₆	0E23 ₁₆	0EA2 ₁₆
	33文字目	0C50 ₁₆	0C51 ₁₆	0CD0 ₁₆
ブロック7	34文字目	0C52 ₁₆	0C53 ₁₆	0CD2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0C5C ₁₆	0C5D ₁₆	0CDC ₁₆
	40文字目	0C5E ₁₆	0C5F ₁₆	0CDE ₁₆
	41文字目	0E28 ₁₆	0E29 ₁₆	0EA8 ₁₆
	42文字目	0E2A ₁₆	0E2B ₁₆	0EAA ₁₆
ブロック7	33文字目	0C60 ₁₆	0C61 ₁₆	0CE0 ₁₆
	34文字目	0C62 ₁₆	0C63 ₁₆	0CE2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0C6C ₁₆	0C6D ₁₆	0CEC ₁₆
	40文字目	0C6E ₁₆	0C6F ₁₆	0CEE ₁₆
	41文字目	0E30 ₁₆	0E31 ₁₆	0EB0 ₁₆
ブロック7	42文字目	0E32 ₁₆	0E33 ₁₆	0EB2 ₁₆

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.16.6 OSD RAM内容 (33~42文字目) (つづき)

ブロック	表示位置 (左から)	文字コード指定	色コード1指定	色コード2指定
ブロック8	33文字目	0C70 ₁₆	0C71 ₁₆	0CF0 ₁₆
	34文字目	0C72 ₁₆	0C73 ₁₆	0CF2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0C7C ₁₆	0C7D ₁₆	0CFC ₁₆
	40文字目	0C7E ₁₆	0C7F ₁₆	0CFE ₁₆
	41文字目	0E38 ₁₆	0E39 ₁₆	0EB8 ₁₆
ブロック9	42文字目	0E3A ₁₆	0E3B ₁₆	0EBA ₁₆
	33文字目	0D00 ₁₆	0D01 ₁₆	0D80 ₁₆
	34文字目	0D02 ₁₆	0D03 ₁₆	0D82 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0D0C ₁₆	0D0D ₁₆	0D8C ₁₆
	40文字目	0D0E ₁₆	0D0F ₁₆	0D8E ₁₆
ブロック10	41文字目	0E40 ₁₆	0E41 ₁₆	0EC0 ₁₆
	42文字目	0E42 ₁₆	0E43 ₁₆	0EC2 ₁₆
	33文字目	0D10 ₁₆	0D11 ₁₆	0D90 ₁₆
	34文字目	0D12 ₁₆	0D13 ₁₆	0D92 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0D1C ₁₆	0D1D ₁₆	0D9C ₁₆
ブロック11	40文字目	0D1E ₁₆	0D1F ₁₆	0D9E ₁₆
	41文字目	0E48 ₁₆	0E49 ₁₆	0EC8 ₁₆
	42文字目	0E4A ₁₆	0E4B ₁₆	0ECA ₁₆
	33文字目	0D20 ₁₆	0D21 ₁₆	0DA0 ₁₆
	34文字目	0D22 ₁₆	0D23 ₁₆	0DA2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
ブロック12	39文字目	0D2C ₁₆	0D2D ₁₆	0DAC ₁₆
	40文字目	0D2E ₁₆	0D2F ₁₆	0DAE ₁₆
	41文字目	0E50 ₁₆	0E51 ₁₆	0ED0 ₁₆
	42文字目	0E52 ₁₆	0E53 ₁₆	0ED2 ₁₆
	33文字目	0D30 ₁₆	0D31 ₁₆	0DB0 ₁₆
	34文字目	0D32 ₁₆	0D33 ₁₆	0DB2 ₁₆
ブロック13	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0D3C ₁₆	0D3D ₁₆	0DBC ₁₆
	40文字目	0D3E ₁₆	0D3F ₁₆	0DBE ₁₆
	41文字目	0E58 ₁₆	0E59 ₁₆	0ED8 ₁₆
	42文字目	0E5A ₁₆	0E5B ₁₆	0EDA ₁₆
	33文字目	0D40 ₁₆	0D41 ₁₆	0DC0 ₁₆
ブロック14	34文字目	0D42 ₁₆	0D43 ₁₆	0DC2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0D4C ₁₆	0D4D ₁₆	0DCC ₁₆
	40文字目	0D4E ₁₆	0D4F ₁₆	0DCE ₁₆
	41文字目	0E60 ₁₆	0E61 ₁₆	0EE0 ₁₆
	42文字目	0E62 ₁₆	0E63 ₁₆	0EE2 ₁₆
ブロック14	33文字目	0D50 ₁₆	0D51 ₁₆	0DD0 ₁₆
	34文字目	0D52 ₁₆	0D53 ₁₆	0DD2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0D5C ₁₆	0D5D ₁₆	0DDC ₁₆
	40文字目	0D5E ₁₆	0D5F ₁₆	0DDE ₁₆
	41文字目	0E68 ₁₆	0E69 ₁₆	0EE8 ₁₆
42文字目	0E6A ₁₆	0E6B ₁₆	0EEA ₁₆	

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.16.7 OSD RAM内容 (33~42文字目) (つづき)

ブロック	表示位置 (左から)	文字コード指定	色コード1指定	色コード2指定
ブロック15	33文字目	0D60 ₁₆	0D61 ₁₆	0DE0 ₁₆
	34文字目	0D62 ₁₆	0D63 ₁₆	0DE2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0D6C ₁₆	0D6D ₁₆	0DEC ₁₆
	40文字目	0D6E ₁₆	0D6F ₁₆	0DEE ₁₆
	41文字目	0E70 ₁₆	0E71 ₁₆	0EF0 ₁₆
ブロック16	42文字目	0E72 ₁₆	0E73 ₁₆	0EF2 ₁₆
	33文字目	0D70 ₁₆	0D71 ₁₆	0DF0 ₁₆
	34文字目	0D72 ₁₆	0D73 ₁₆	0DF2 ₁₆
	⋮	⋮	⋮	⋮
	39文字目	0D7C ₁₆	0D7D ₁₆	0DFC ₁₆
	40文字目	0D7E ₁₆	0D7F ₁₆	0DFE ₁₆
	41文字目	0E78 ₁₆	0E79 ₁₆	0EF8 ₁₆
	42文字目	0E7A ₁₆	0E7B ₁₆	0EFA ₁₆

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER



図2.16.25 OSD RAMのビット構成

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(3) OSD RAM (スプライト表示用OSD RAM、1000₁₆ ~ 13E7₁₆番地)

スプライトフォント1とスプライトフォント2のOSD RAMは、1000₁₆ ~ 13E7₁₆番地に割り当てられており、各フォントは4つのプレーンから構成されています。各プレーンはカラーパレット選択ビットと対応しており、ドット単位に16種類の中からカラーパレットが指定できます。

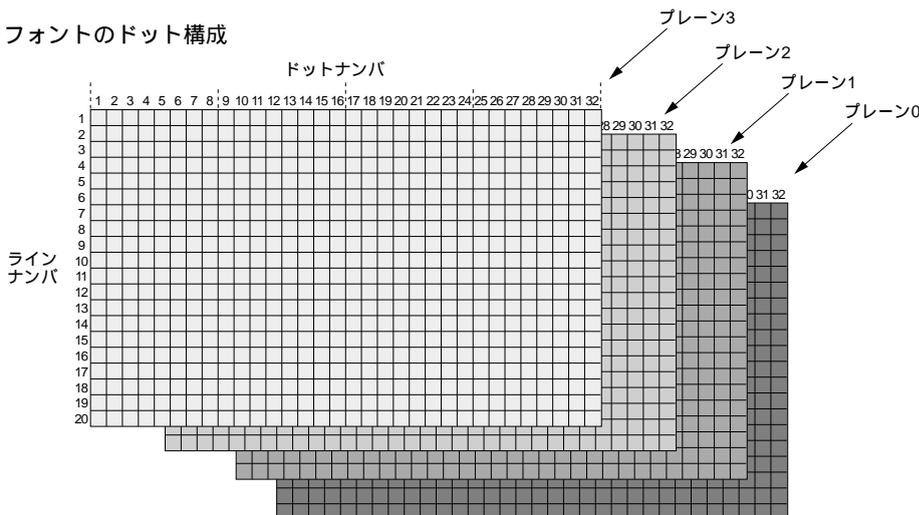
表2.16.8 OSD RAMアドレス (スプライトフォント1対応)

プレーン	プレーン3 (カラーパレット選択ビット3)				プレーン2 (カラーパレット選択ビット2)				プレーン1 (カラーパレット選択ビット1)				プレーン0 (カラーパレット選択ビット0)				
	ドット	1~8	9~16	17~24	25~32	1~8	9~16	17~24	25~32	1~8	9~16	17~24	25~32	1~8	9~16	17~24	25~32
ビット	b7~b0	b7~b0	b7~b0	b7~b0	b7~b0												
ライン1	10C0 ₁₆	10C1 ₁₆	11C0 ₁₆	11C1 ₁₆	1080 ₁₆	1081 ₁₆	1180 ₁₆	1181 ₁₆	1040 ₁₆	1041 ₁₆	1140 ₁₆	1141 ₁₆	1000 ₁₆	1001 ₁₆	1100 ₁₆	1101 ₁₆	
ライン2	10C2 ₁₆	10C3 ₁₆	11C2 ₁₆	11C3 ₁₆	1082 ₁₆	1083 ₁₆	1182 ₁₆	1183 ₁₆	1042 ₁₆	1043 ₁₆	1142 ₁₆	1143 ₁₆	1002 ₁₆	1003 ₁₆	1102 ₁₆	1103 ₁₆	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	
ライン19	10E4 ₁₆	10E5 ₁₆	11E4 ₁₆	11E5 ₁₆	10A4 ₁₆	10A5 ₁₆	11A4 ₁₆	11A5 ₁₆	1064 ₁₆	1065 ₁₆	1164 ₁₆	1165 ₁₆	1024 ₁₆	1025 ₁₆	1124 ₁₆	1125 ₁₆	
ライン20	10E6 ₁₆	10E7 ₁₆	11E6 ₁₆	11E7 ₁₆	10A6 ₁₆	10A7 ₁₆	11A6 ₁₆	11A7 ₁₆	1066 ₁₆	1067 ₁₆	1166 ₁₆	1167 ₁₆	1026 ₁₆	1027 ₁₆	1126 ₁₆	1127 ₁₆	

表2.16.9 対応OSD RAMアドレス (スプライトフォント2対応)

プレーン	プレーン3 (カラーパレット選択ビット3)				プレーン2 (カラーパレット選択ビット2)				プレーン1 (カラーパレット選択ビット1)				プレーン0 (カラーパレット選択ビット0)				
	ドット	1~8	9~16	17~24	25~32	1~8	9~16	17~24	25~32	1~8	9~16	17~24	25~32	1~8	9~16	17~24	25~32
ビット	b7~b0	b7~b0	b7~b0	b7~b0	b7~b0												
ライン1	12C0 ₁₆	12C1 ₁₆	13C0 ₁₆	13C1 ₁₆	1280 ₁₆	1281 ₁₆	1380 ₁₆	1381 ₁₆	1240 ₁₆	1241 ₁₆	1340 ₁₆	1341 ₁₆	1200 ₁₆	1201 ₁₆	1300 ₁₆	1301 ₁₆	
ライン2	12C2 ₁₆	12C3 ₁₆	13C2 ₁₆	13C3 ₁₆	1282 ₁₆	1283 ₁₆	1382 ₁₆	1383 ₁₆	1242 ₁₆	1243 ₁₆	1342 ₁₆	1343 ₁₆	1202 ₁₆	1203 ₁₆	1302 ₁₆	1303 ₁₆	
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	
ライン19	12E4 ₁₆	12E5 ₁₆	13E4 ₁₆	13E5 ₁₆	12A4 ₁₆	12A5 ₁₆	13A4 ₁₆	13A5 ₁₆	1264 ₁₆	1265 ₁₆	1364 ₁₆	1365 ₁₆	1224 ₁₆	1225 ₁₆	1324 ₁₆	1325 ₁₆	
ライン20	12E6 ₁₆	12E7 ₁₆	13E6 ₁₆	13E7 ₁₆	12A6 ₁₆	12A7 ₁₆	13A6 ₁₆	13A7 ₁₆	1266 ₁₆	1267 ₁₆	1366 ₁₆	1367 ₁₆	1226 ₁₆	1227 ₁₆	1326 ₁₆	1327 ₁₆	

スプライトフォントのドット構成



2.16.7 文字色

図2.16.26に示すように、16種類のカラーパレットが定義できます。カラーパレット0は透明、カラーパレット8は黒に固定されており、残りの14種類は512色から任意の色を設定できます。文字色の種類、指定方法は以下のとおりです。

CCモード 8種類

OSDコントロールレジスタ3 (0207₁₆番地) のビット0によって、カラーパレットの選択範囲 (カラーパレット0~7、又はカラーパレット8~15) を選択します。選択範囲の中からOSD RAMのRC11~RC13によってカラーパレットを指定します。

OSD/S/L/Pモード 16種類

OSD RAMのRC11~RC14によってカラーパレットを指定します。

CDOSDモード 16種類

CDフォントデータによって、ドット単位にカラーパレットを指定します。
また、CDOSDモードに限り、カラーパレット0を選択したドットは、文字単位で、OSD RAMのRC13~RC16で設定されたカラーパレットに着色されます (図2.16.27参照)。

スプライト表示 16種類

スプライトフォントデータによって、ドット単位にカラーパレットを指定します。

- 注1. フチドリ、ソリッドスペース出力 (OUT1出力) はレジスタの設定値にかかわらず、常にカラーパレット8 (黒) が選択されます。
2. カラーパレット0 (透明) と、その他カラーパレットの透明設定とは異なります。複数のレイヤが重なったとき、優先レイヤがカラーパレット0 (透明) の場合は下層レイヤが表示されますが、優先レイヤがその他カラーパレットの透明設定の場合は、下層レイヤは表示されず、背景画面が表示されます (図2.16.28参照)。

2.16.8 文字背景色

文字表示領域に文字背景色を着色することができます。文字背景色は、文字単位に指定できます。

CCモード 4種類

OSDコントロールレジスタ3 (0207₁₆番地) のビット1, 2によって、カラーパレットの選択範囲 (カラーパレット0~3、4~7、8~11、又はカラーパレット12~15) を選択します。選択範囲の中から、OSD RAMのRC20,RC21によってカラーパレットを指定します。

OSDS/L/Pモード 16種類

OSD RAMのRC15, RC16, RC20, RC21によってカラーパレットを指定します。

- 注. 文字背景色は文字表示領域から、フチドリ、キャラクタフォント部を引いた部分に着色されます。そのため、文字背景色とこれらの色信号は混合しません。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

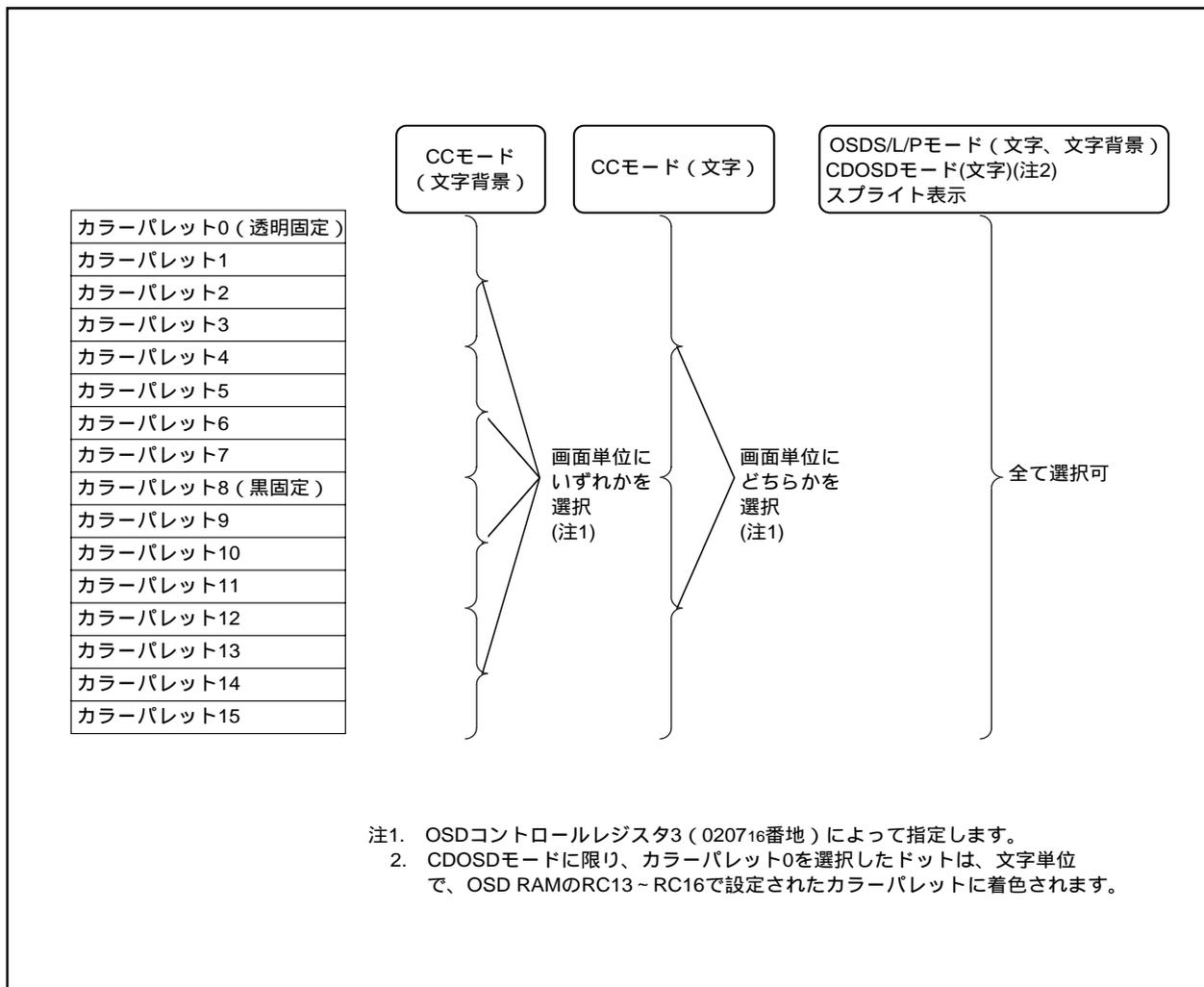


図2.16.26 カラーパレットの選択

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

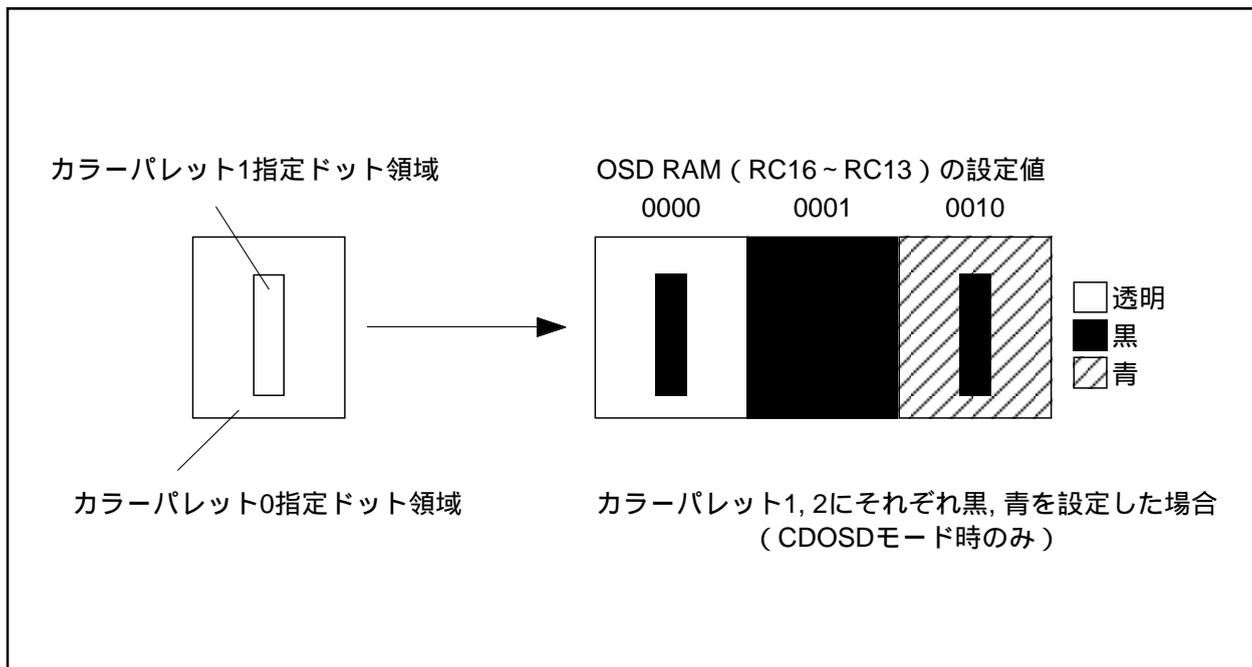


図2.16.27 CDOSDモード時のカラーパレット0, 8の設定

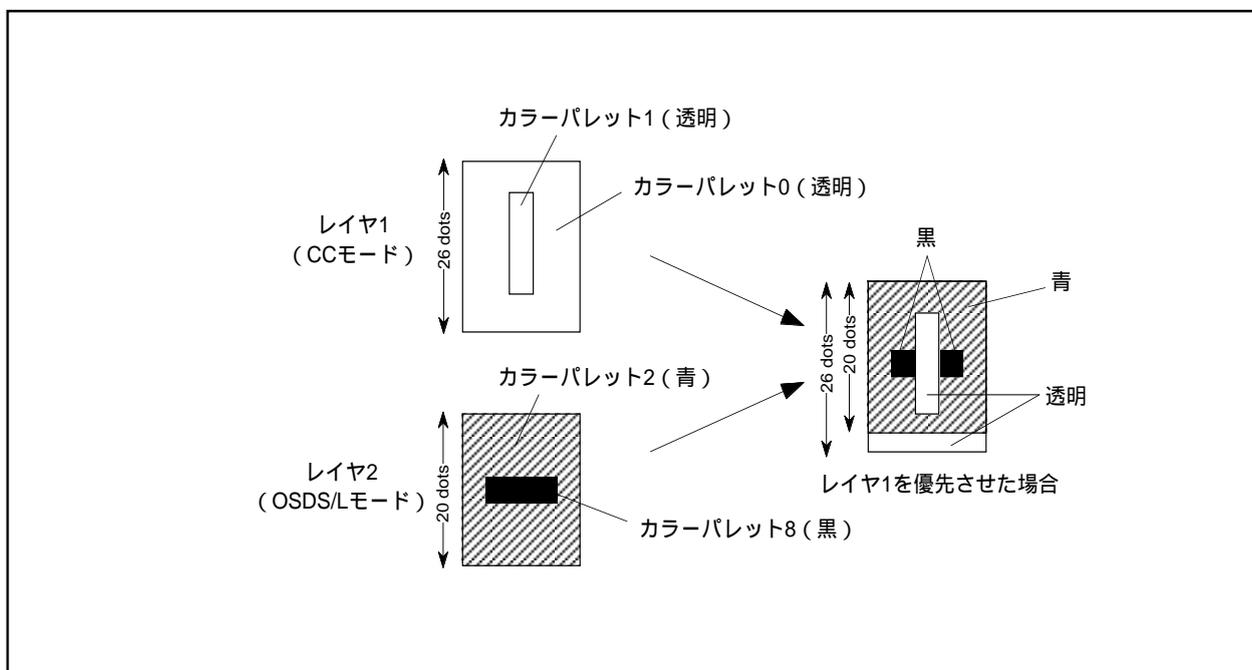
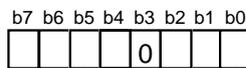


図2.16.28 カラーパレット0 (透明) とその他カラーパレットの透明設定との違い

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

OSDコントロールレジスタ3



シンボル アドレス リセット時
 OC3 0207₁₆ 00₁₆

ビットシンボル	ビット名	機 能	R	W
OC30	CCモード文字色選択ビット	0 : カラーパレット0~7 1 : カラーパレット8~15	○	○
OC31	CCモード文字背景色 選択ビット (注)	b2 b1 0 0 : カラーパレット0~3 0 1 : カラーパレット4~7	○	○
OC32		1 0 : カラーパレット8~11 1 1 : カラーパレット12~15		
予約ビット		必ず "0" を設定してください	○	○
OC34	フラッシュ周期 選択ビット	0 : 1周期=V _{SYNC} 周期 × 32 1 : 1周期=V _{SYNC} 周期 × 64	○	○
OC35	OSDモードウインドウ 制御ビット	0 : ウインドウOFF 1 : ウインドウON	○	○
OC36	CCモードウインドウ 制御ビット	0 : ウインドウOFF 1 : ウインドウON	○	○
OC37	CDOSDモードウインドウ 制御ビット	0 : ウインドウOFF 1 : ウインドウON	○	○

注. ソリッドスペース (OUT1出力選択時) はこのレジスタ値にかかわらず、常にカラーパレット8が選択されます。

図2.16.29 OSDコントロールレジスタ3

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

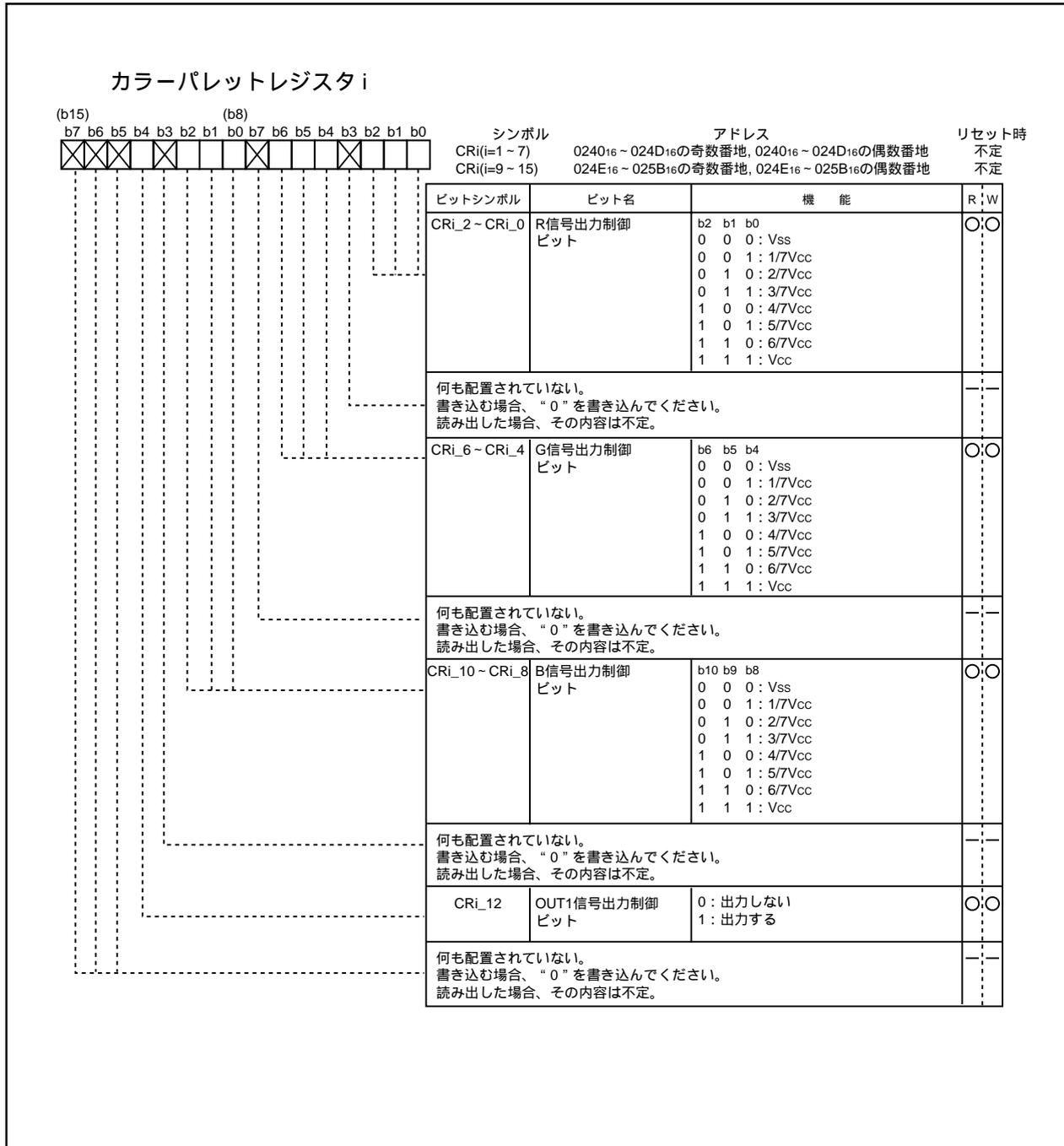


図2.16.30 カラーパレットレジスタ i (i = 1~7, 9~15)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.9 OUT1, OUT2信号

OUT1, OUT2信号は映像信号の輝度を制御するために使用します。OUT1, OUT2信号の出力波形は、カラーパレットレジスタiのビット6 (図2.16.30参照)、ブロックコントロールレジスタiのビット0~2 (図2.16.4参照)、OSD RAMのRC17によって制御します。図2.16.31にOUT1, OUT2制御の設定値とその出力波形を示します。

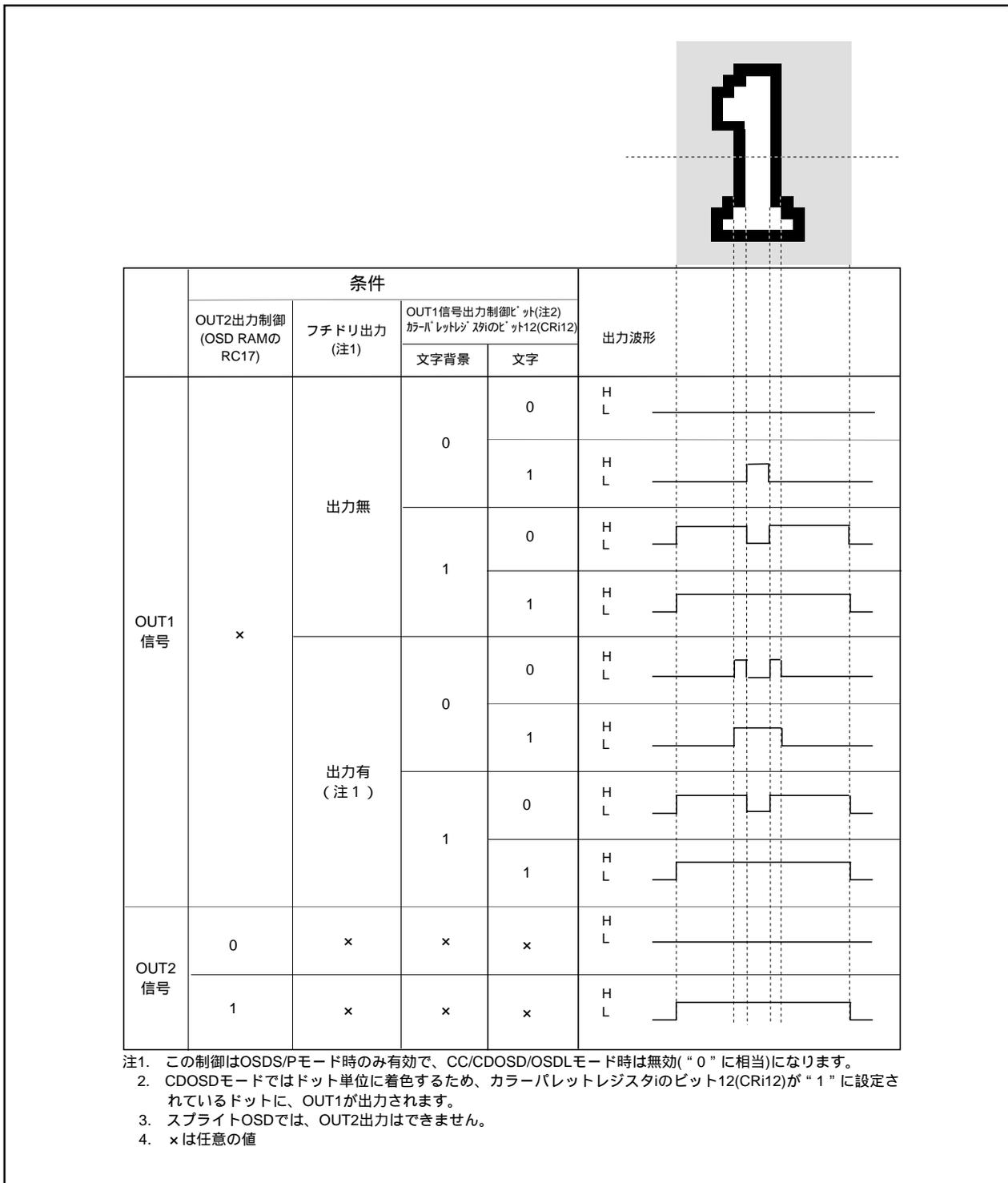


図2.16.31 OUT1, OUT2制御の設定値とその出力波形

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.10 アトリビュート

キャラクタフォントに対してアトリビュート（フラッシュ、アンダーライン、イタリックフォント）を制御することができます。各モード別に制御できるアトリビュートが異なります。

CCモード フラッシュ、アンダーライン、イタリックを文字単位に指定
OSDS/Pモード フチドリ（周囲・シャドウ選択可）をブロック単位に指定

(1) アンダーライン

アンダーラインはCCモード時にだけ、縦方向の23及び24ライン目に出力されます。アンダーラインはOSD RAMのRC16で制御します。なお、アンダーラインはキャラクタフォントと同色です。

(2) フラッシュ（点滅）

フラッシュはCCモード時にだけ、キャラクタフォント部、アンダーライン部、文字背景部をフラッシュさせます。フラッシュはOSD RAMのRC15で文字単位に制御します。また文字背景部のフラッシュの有無はOSDコントロールレジスタ1のビット3（図2.16.3参照）で制御します。このビットが“0”の場合、キャラクタフォント部及びアンダーライン部のみがフラッシュします。“1”の場合、ソリッドスペース出力なしの文字は、R, G, B, OUT1（表示領域全体）がフラッシュし、ソリッドスペース出力ありの文字はR, G, Bのみ（表示領域全体）がフラッシュします。またフラッシュの周期はVSYNCのカウントを基準とし、この周期はOSDコントロールレジスタ3のビット4で選択します。

< NTSC方式の場合 >

ビット4 = “0” の時

- ・ VSYNC周期 × 24 400ms（フラッシュON時）
- ・ VSYNC周期 × 8 133ms（フラッシュOFF時）

ビット4 = “1” の時

- ・ VSYNC周期 × 48 800ms（フラッシュON時）
- ・ VSYNC周期 × 16 267ms（フラッシュOFF時）

(3) イタリック

イタリック体はCCモード時にだけ、OSD ROMに格納されたフォントを右側に傾斜させることにより作成します。イタリックはOSD RAMのRC14で制御します。

図2.16.33に“R”を表示した場合の、アトリビュートの表示例を示します。

- 注1. イタリックとフラッシュの両方を設定した場合、イタリック体の文字がフラッシュします。
2. フラッシュ設定をしていないイタリック文字の右側にフラッシュ設定（文字背景部もフラッシュ有）した文字が隣接する場合、左側の文字の右側にはみ出した部分もフラッシュします。
 3. OUT2はフラッシュしません。
 4. プリ分周比=1倍の場合は1ドット×5段階の傾斜をもつイタリック体、プリ分周比=2倍の場合は1/2ドット×10段階の傾斜をもつイタリック体となります（図2.16.32 (c), (d)参照）。ただし、プリ分周比=1倍でイタリック表示する場合、OSDクロック周波数を11～14MHzにしてください。
 5. 文字色の境界はイタリック体になりますが、文字背景色の境界はイタリックの影響を受けません（図2.16.33参照）。
 6. イタリック体の文字に隣接する文字（片側又は両側）は、その文字がイタリックを指定していない場合でもイタリック体になります（図2.16.33参照）。
 7. 32文字目（32文字モード）/42文字目（42文字モード）のキャラクタをイタリック体にした場合、文字領域からはみ出した部分は表示されません（図2.16.33参照）。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

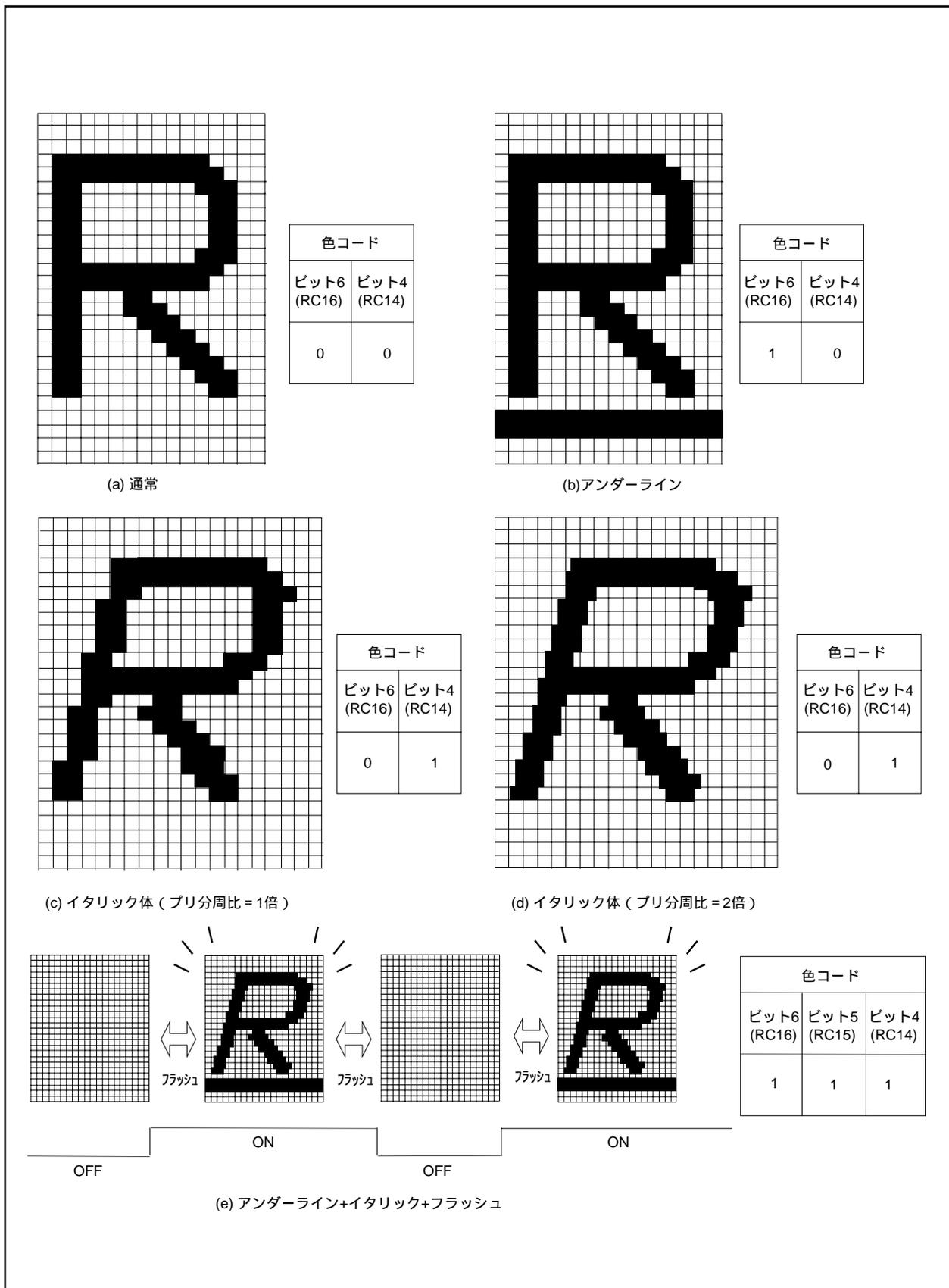


図2.16.32 アトリビュート表示例 (CCモード時)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

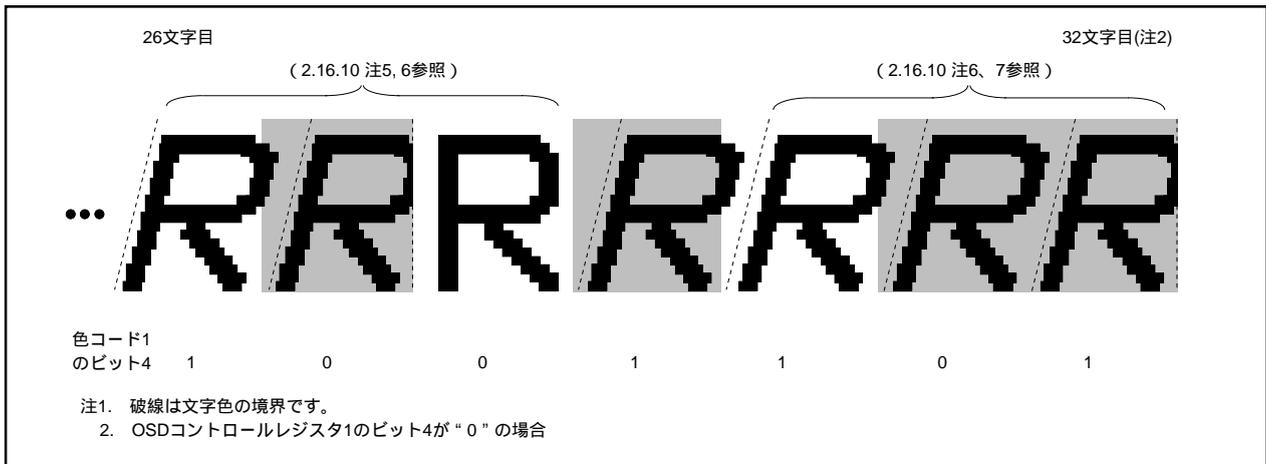


図2.16.33 イタリック表示例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

(4) フチドリ

フチドリはOSDS / Pモード時に出力されます。OSDコントロールレジスタ1のビット2 (図2.16.3参照) によって、キャラクタフォントの周囲 (周囲フチドリ)、又はキャラクタフォントの右側と下側 (シャドウフチドリ) のいずれかを選択できます (図2.16.34参照)。フチドリのON/OFFは、ブロックコントロールレジスタiのビット0~2 (図2.16.4参照) でブロック単位に制御できます。

フチドリの出力はOUT1信号で行われます。また、フチドリの色はカラーパレット8 (黒) に固定されています。

フチドリの水平サイズ (x) は、キャラクタフォントのドットサイズにかかわらず、1Tc幅 (OSDクロックをプリ分周した周期幅) です。ただし、プリ分周比2倍で文字サイズに1.5Tcを選択した場合に限り、水平サイズは1.5Tc幅となります。垂直サイズ (y) は、画面のスクアンモード、キャラクタフォントの垂直ドットサイズに応じて異なります。

注1. フチドリドットの表示域は図2.16.36に示す網掛けの範囲です。

2. フチドリドットと、隣接する文字のキャラクタフォントが重なった場合、キャラクタフォントが優先されます (図2.16.37のA参照)。また、フチドリドットと、隣接する文字背景部が重なった場合、フチドリが優先されます (図2.16.37のB参照)。
3. キャラクタフォントの文字領域をはみ出した上下方向のフチドリは表示されません (図2.16.37参照)。

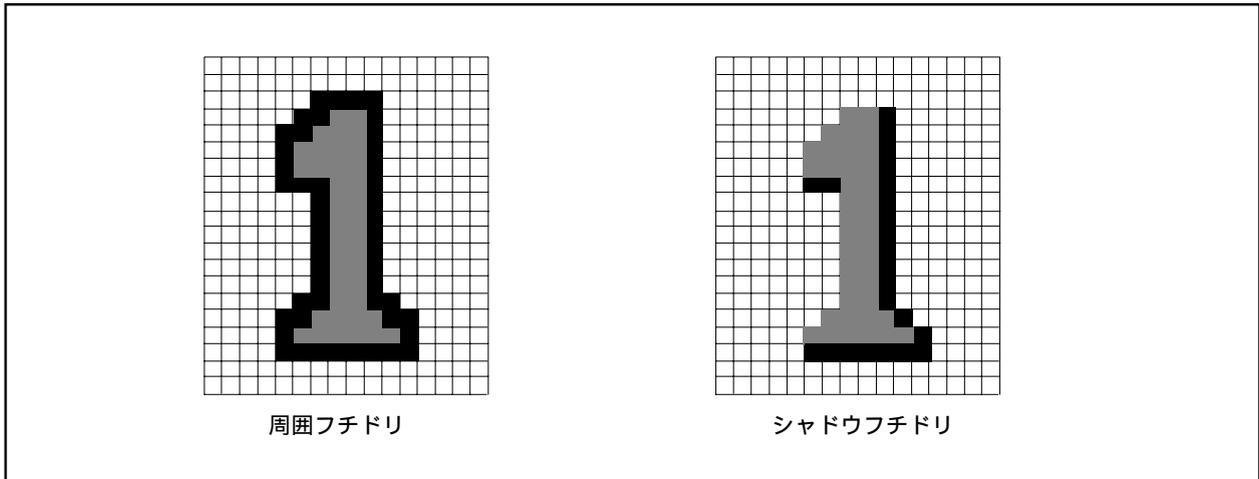
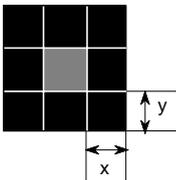


図2.16.34 フチドリ表示例



	スキャンモード	ノーマルスキャンモード		バيسキャンモード
キャラクタフォントの垂直ドットサイズ				
フチドリドットサイズ	1/2H	1H, 2H, 3H	1/2H, 1H, 2H, 3H	
水平サイズ (x)	1Tc (プリ分周したOSD用クロック周期) 文字サイズに1.5Tcを選択した場合は1.5Tc			
垂直サイズ (y)	1/2H	1H	1H	

図2.16.35 フチドリの水平サイズ及び垂直サイズ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

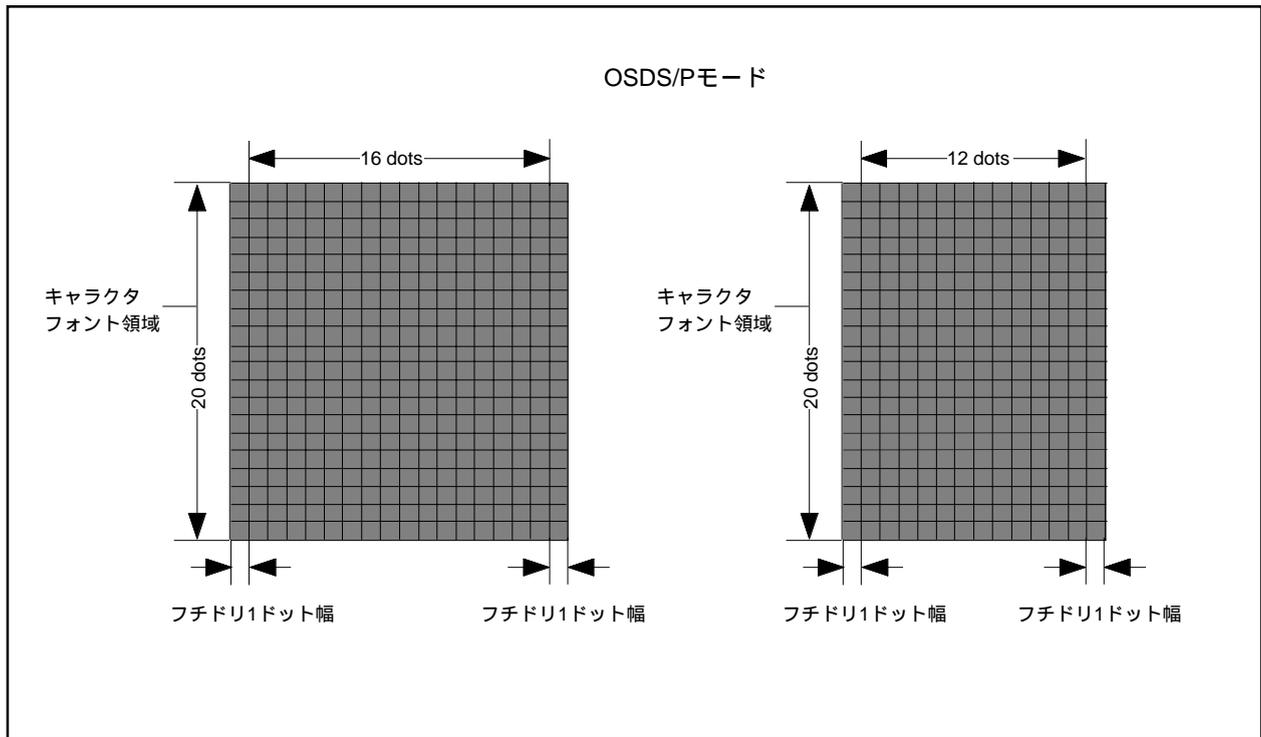


図2.16.36 フチドリの領域

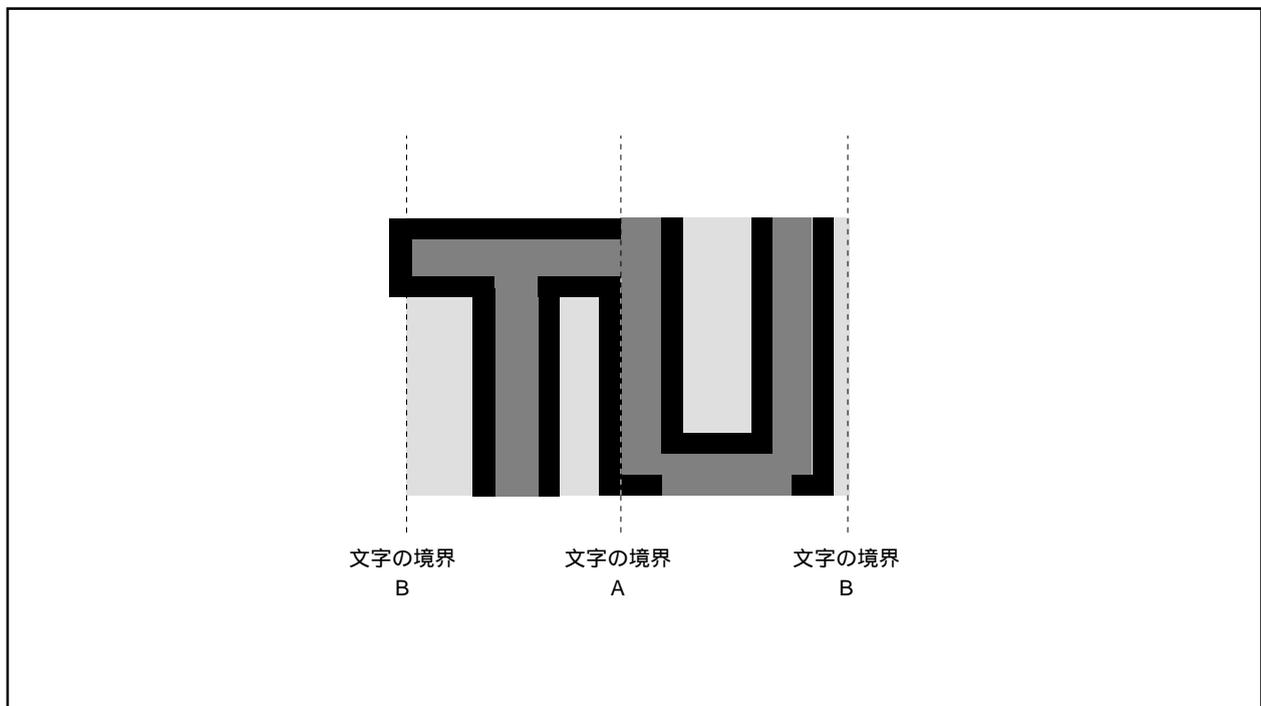


図2.16.37 フチドリの優先順位

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.11 オートソリッドスペース機能

この機能は、CCモード時に文字領域のソリッドスペース（OUT1又はOUT2ブランク出力）を、ハードウェアで自動的に発生させる機能です。

ソリッドスペースは、文字コードが“00916”以外の文字、及びその左右の文字の文字領域に出力されます。この機能はOSDコントロールレジスタ1のビット4（図2.16.3参照）でON/OFFします。

また、OUT1及びOUT2の出力の選択は、OSDコントロールレジスタ2のビット3で行います。

- 注1. ソリッドスペース出力にOUT1を選択した場合、ソリッドスペース出力のある文字背景色は、設定にかかわらず常にカラーパレット8(黒)になります。
2. 文字コード“00916”にブランクフォント以外のフォントを設定した場合、設定したフォントが出力されます。

表2.16.10 オートソリッドスペース機能の設定

OSDコントロールレジスタ1のビット4	0				1			
OSDコントロールレジスタ2のビット3	0		1		0		1	
OSD RAMのRC17	0	1	0	1	0	1	0	1
OUT1出力信号	・キャラクタフォント部 ・文字背景部		・キャラクタフォント部 ・文字背景部		ソリッドスペース		・キャラクタフォント部 ・文字背景部	
OUT2出力信号	OFF	文字表示領域	OFF	文字表示領域	OFF	文字表示領域	ソリッドスペース	・ソリッドスペース ・文字表示領域

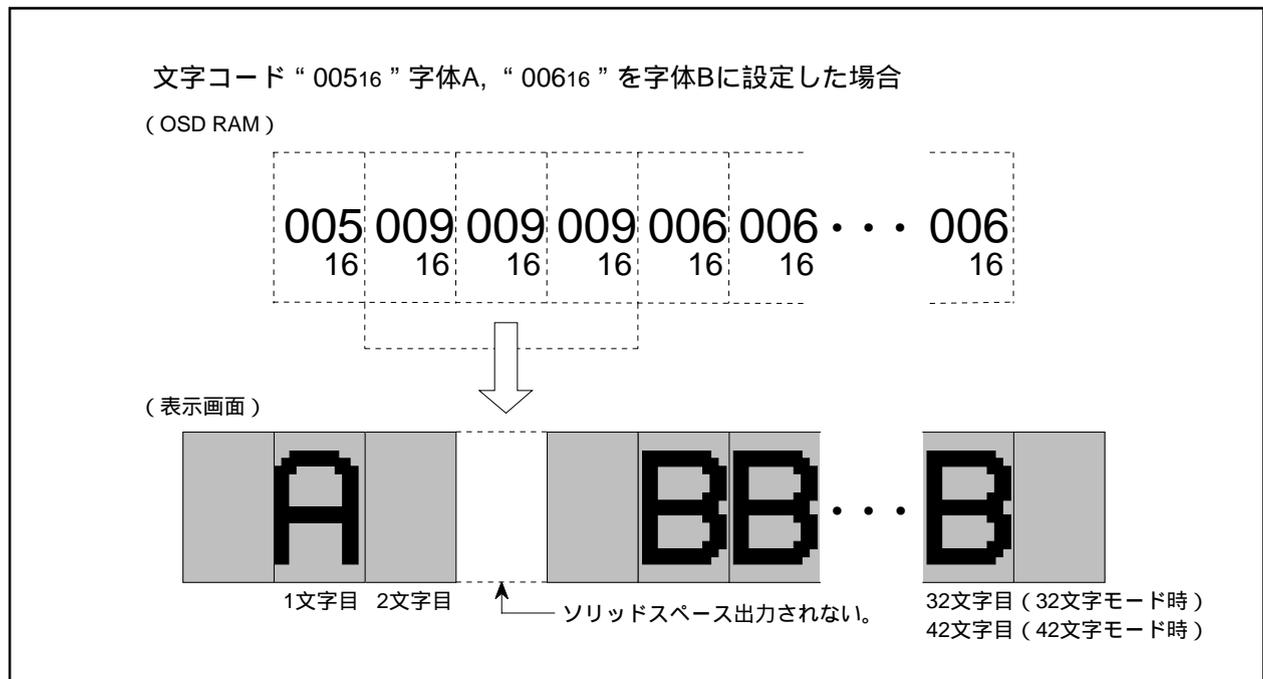


図2.16.38 オートソリッドスペース画面表示例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.12 特殊OSDモードブロック

OSDPモードを指定したブロックは、水平ドット構成が16ドット、12ドット、8ドット、4ドット（垂直ドット数は全て20ドット）のフォントを混在させることができます。各フォント種類の選択は文字コードで行います。図2.16.39に特殊OSDモードブロック表示例と表2.16.11に文字コードと表示フォントの対応を示します。

注. 8×20と4×20ドットフォントは、文字背景色のみ表示できます。また、これらのフォントより右側に文字は表示できません。

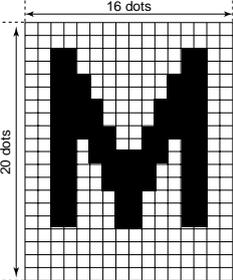
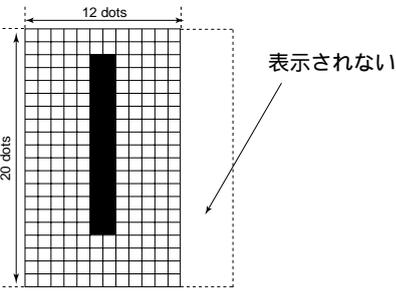
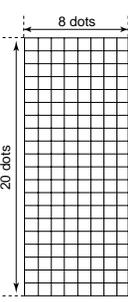
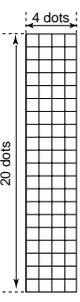


図2.16.39 OSDPモードブロック表示例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.16.11 文字コードと表示フォントの対応

文字コード	表示フォント	注意
000 ₁₆ ~ 0EF ₁₆ , 100 ₁₆ ~ 2FF ₁₆ (100 ₁₆ , 180 ₁₆ , 200 ₁₆ , 280 ₁₆ を除く)		
0F0 ₁₆ ~ 0FD ₁₆		<ul style="list-style-type: none"> ・設定したフォントの左から12ドット分 (16×12ドット)が表示されます。 ・CC, OSDSモード時は、設定したフォント全体(16×20ドット)が表示されます。
3FE ₁₆		<ul style="list-style-type: none"> ・ブランクフォント (文字背景色のみ)が表示されます。 ・このフォントより右側に文字表示はできません。 ・このフォントはブロックの1文字目 (左端) に設定しないでください。
3FF ₁₆		<ul style="list-style-type: none"> ・ブランクフォント (文字背景色のみ)が表示されます ・このフォントより右側に文字表示はできません。 ・このフォントはブロックの1文字目 (左端) に設定しないでください。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.13 多行表示

本マイクロコンピュータは、16のブロックを別々の垂直位置に表示することによって16行の表示を行うことができます。更に、OSD1割り込みを用いることにより、16行以上の表示を行うことができます。

OSD1割り込み要求は、1つのブロックを表示し終わった時点で発生します。つまり走査線が、あるブロックの表示開始位置（垂直位置レジスタにより指定）にきた時点でそのブロックの文字表示が開始し、そのブロックの範囲を越えた時点で割り込みがかかります。ただし、OSDコントロールレジスタ2（図2.16.7参照）の設定によってOSD1割り込み要求が発生するモードが異なります。

- ・OSDコントロールレジスタ2のビット7が“0”のとき、レイヤ1のブロック表示終了時にOSD1割り込み要求が発生
- ・OSDコントロールレジスタ2のビット7が“1”のとき、レイヤ2のブロック表示終了時にOSD1割り込み要求が発生

- 注1. ブロック表示終了時に発生する“OSD1割り込み要求”は、ブロックを表示していない場合は発生しません。つまり、ブロックコントロールレジスタi（0210₁₆～021F₁₆番地）の表示制御ビットの設定によってブロックの表示がオフ（非表示）状態であれば、“OSD1割り込み要求”は発生しません（図2.16.40のA参照）。
2. 1つのブロック表示中に途中の他のブロックの表示開始位置がきた場合は、割り込み要求は途中から表示したブロックの表示終了時に1回だけ発生します（図2.16.40のB参照）。
3. ウィンドウを設定した画面で、ウィンドウ外にあるブロック（表示OFF）が表示終了した時点でも“OSD1割り込み要求”は発生します（図2.16.40のC参照）。

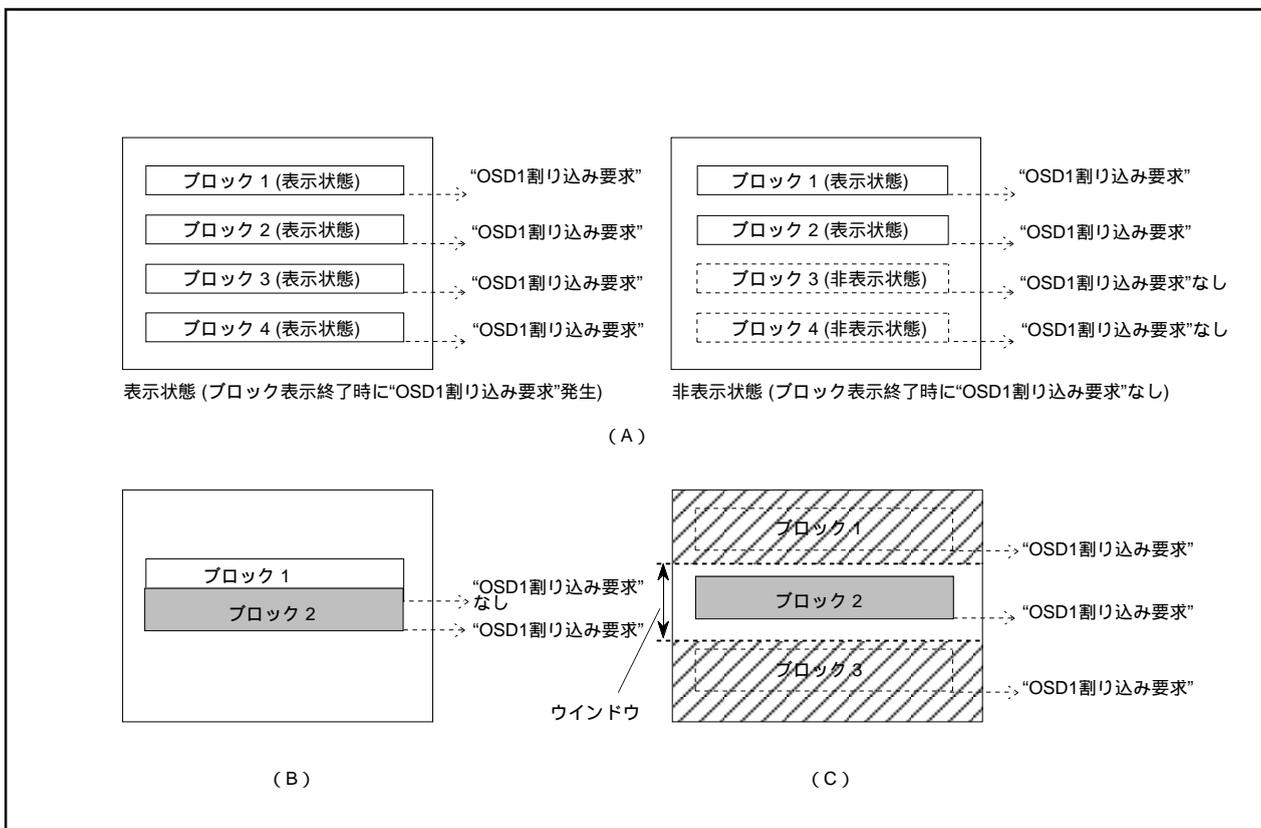


図2.16.40 OSD1割り込み発生 の 注意 点

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.14 スプライトOSD機能

スプライト表示はブロックOSD表示の有無や表示位置にかかわらず、任意の位置に表示することができる機能で、カーソル表示等に最適です。スプライトフォントはスプライトフォント1とスプライトフォント2の2文字から構成されています。各スプライトフォントは横32ドット×縦20ドット構成のRAMフォントで、4つのプレーンから構成されており、1ドットあたり4ビットのデータを持っています。各プレーンはカラーパレット選択ビットと対応しており、各ドットごとにプレーンの組合せ(4ビット)によって表される16種類のカラーパレットが選択可能です。スプライトフォントはRAMで構成されているため、ソフトウェアによって任意のフォントデータに加工できます。

スプライトOSDはスプライトOSD制御レジスタによって、スプライト表示ON/OFF、ドットサイズ、を設定します。スプライト水平位置レジスタ、スプライト垂直位置レジスタによって、ブロック表示とは独立して表示位置を設定することができます。スプライトフォント1とスプライトフォント2はそれぞれ独立して垂直位置が設定できます。各フォント表示終了時、OSD2割り込み要求を発生します。水平位置は2Tosc単位に2048段階で、垂直位置は1TH単位に1024段階で設定できます。

スプライト表示が他のOSD表示と重なった場合、常にスプライト表示が優先します。ただし、OUT2が出力されているOSD表示と重なった場合は、OSD表示のOUT2はマスクされず、出力されます。

- 注1. スプライトOSDでは、OUT2は出力できません。
- スプライトOSD使用時、HS “003₁₆”, HS “800₁₆” は設定しないでください。
 - スプライトOSD使用時、VSi = “000₁₆”, VSi “400₁₆” は設定しないでください。
 - 同レイヤ内でスプライトフォント1とスプライトフォント2を重ねて表示した場合、垂直表示位置の設定値が大きい方が表示されます。垂直表示位置が同一の場合、スプライトフォント1が表示されます。

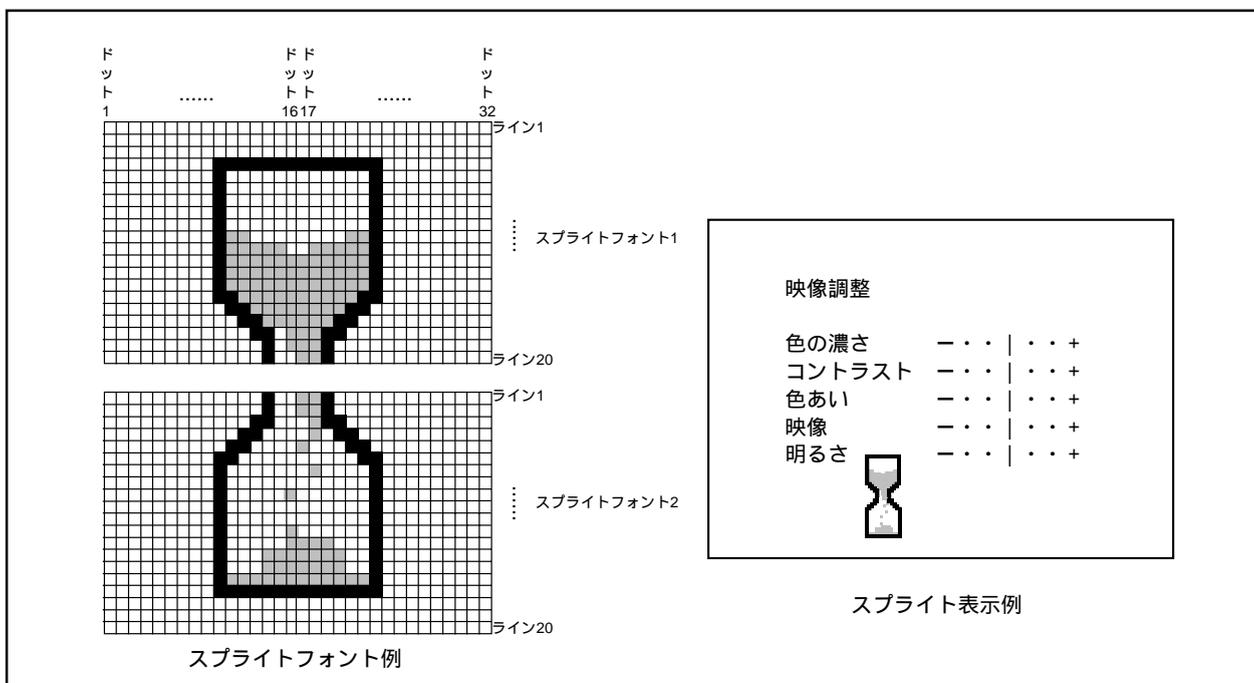
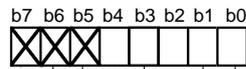


図2.16.41 スプライトOSD表示例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

スプライトOSD制御レジスタ



シンボル
SC

アドレス
0201₁₆

リセット時
XXX00000₁₆

ビットシンボル	ビット名	機能	R	W
SC0	スプライトフォント1 制御ビット	0: 表示しない 1: 表示する	○	○
SC1	プリ分周比選択 ビット	0: プリ分周比1 1: プリ分周比2	○	○
SC2	ドットサイズ選択 ビット	b3 b2 0 0: 1Tc × 1/2H 0 1: 1Tc × 1H	○	○
SC3		1 0: 2Tc × 1H 1 1: 2Tc × 2H		
SC4	スプライトフォント2 制御ビット	0: 表示しない 1: 表示する	○	○
何も配置されていない。 書き込む場合、“0”を書き込んでください。 読み出した場合、その内容は不定。			-	-

注1. Tc : プリ分周したOSD用クロック周期
 2. H : H_{SYNC}

図2.16.42 スプライトOSD制御レジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

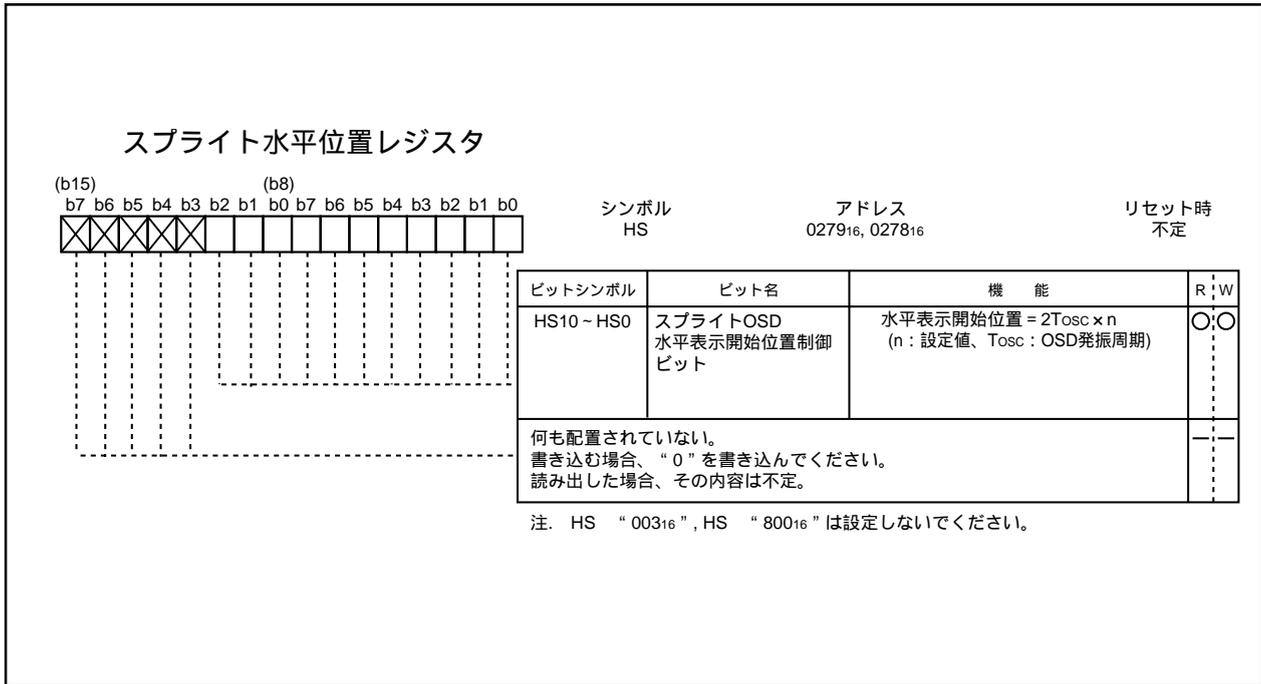


図2.16.43 スプライト水平位置レジスタ

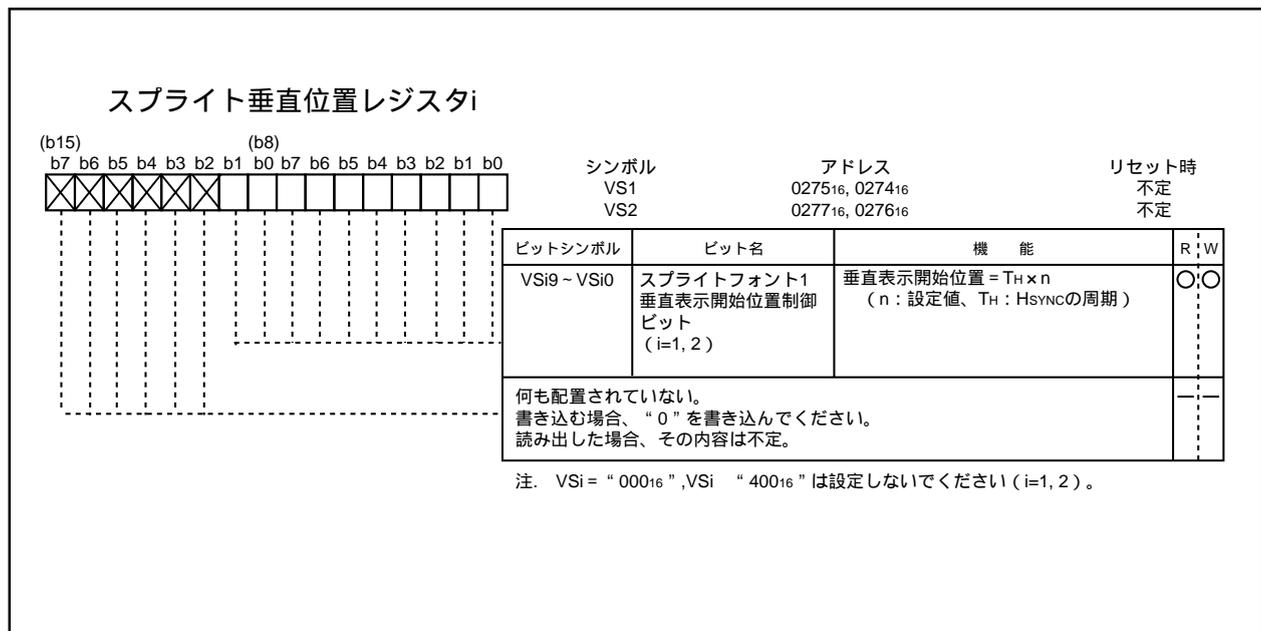


図2.16.44 スプライト垂直位置レジスタ_i (i=1, 2)

2.16.15 ウィンドウ機能

画面内にウィンドウを設定し、ウィンドウを設定した領域でのみ、OSDを出力する機能です。

縦ウィンドウ機能のON/OFFは、OSDコントロールレジスタ1のビット5によって行い、OSDコントロールレジスタ2のビット6で縦ブランク機能と切り換えて使用します。したがって、縦ブランク機能と同時に使用することはできません。また、OSDコントロールレジスタ3のビット5～ビット7で、ウィンドウ機能を使用する表示モードを選択します。ウィンドウの上端はトップボーダーコントロールレジスタ（TBR）、下端はボトムボーダーコントロールレジスタ（BBR）によって指定します。

横ウィンドウ機能のON/OFFは、OSDコントロールレジスタ2のビット4によって行い、OSDコントロールレジスタ2のビット5で横ブランク機能と切り換えて使用します。したがって、横ブランク機能と同時に使用することはできません。また、OSDコントロールレジスタ3のビット5～ビット7で、ウィンドウ機能を使用する表示モードを選択します。ウィンドウの左端はレフトボーダーコントロールレジスタ（LBR）、右端はライトボーダーコントロールレジスタ（RBR）によって指定します。

- 注1. 横ブランクと横ウィンドウ、縦ブランクと縦ウィンドウは、同時に使用することはできません。
2. OSDコントロールレジスタ1,2でウィンドウ機能を動作設定にした場合、OUT2のウィンドウ機能はOSDコントロールレジスタ3（ビット5～ビット7）の設定値にかかわらず、すべての表示モードで動作します。例えばCCモードのみウィンドウ機能を動作させた場合でも、OUT2のウィンドウ機能はOSDS/L/PとCDOSDモードでも動作します。
3. スプライト表示では、ウィンドウ機能は動作しません。

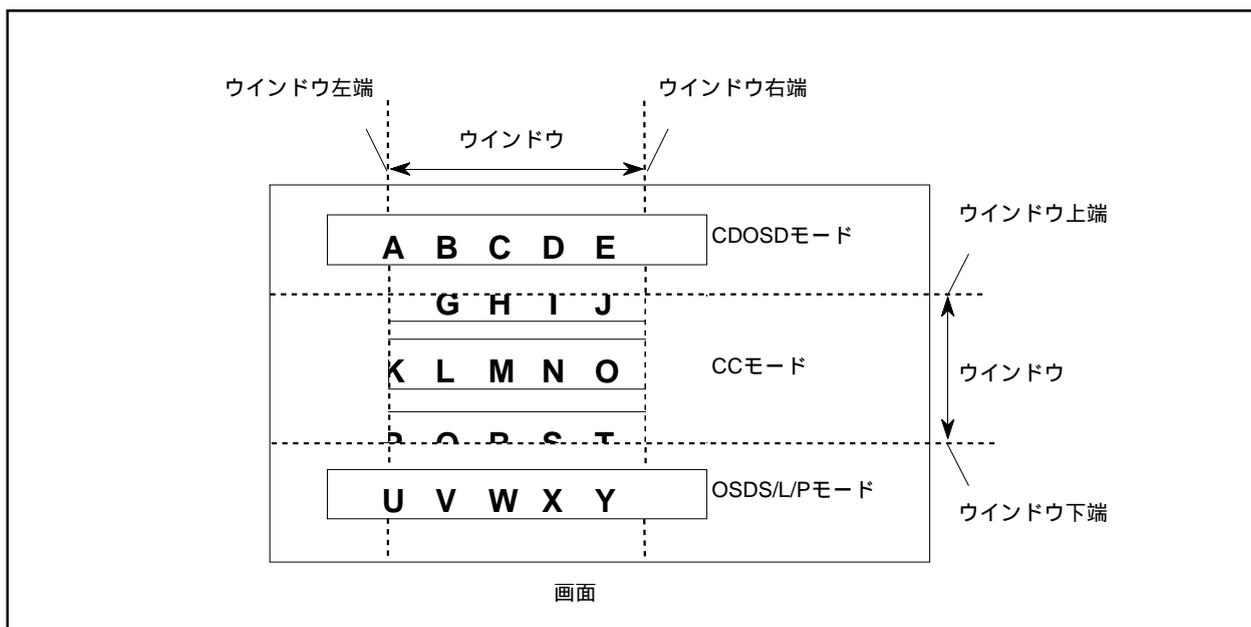


図2.16.45 ウィンドウ機能例（CCモード有効時）

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.16 ブランク機能

ブランク機能は、画面の両端（縦、横）にブランク（OUT1）を出力する機能です。

縦ブランク機能のON/OFFは、OSDコントロールレジスタ1のビット5で行い、OSDコントロールレジスタ2のビット6で縦ウインドウ機能と切り換えて使用します。したがって、縦ウインドウ機能と同時に使用することはできません。ブランクの上端はトップボーダーコントロールレジスタ（TBR）、ブランクの下端はボトムボーダーコントロールレジスタ（BBR）によって、1H単位に指定します。

横ブランク機能のON/OFFは、OSDコントロールレジスタ2のビット4で行い、OSDコントロールレジスタ2ビット5で横ウインドウ機能と切り換えて使用します。したがって、横ウインドウ機能と同時に使用することはできません。ブランクの左端はレフトボーダーコントロールレジスタ（LBR）、ブランクの右端はライトボーダーコントロールレジスタ（RBR）によって、4T_{osc}単位に指定します。

なお、ブランクを出力している領域のOSD出力（ラスター以外）が消えることはありません。これらブランク信号は、水平・垂直帰線期間中出力されません。

- 注1. 横ブランクと横ウインドウ、縦ブランクと縦ウインドウは、同時に使用することはできません。
2. ブランク機能使用時、OSDコントロールレジスタ1のビット0を必ず“1”にしてください。

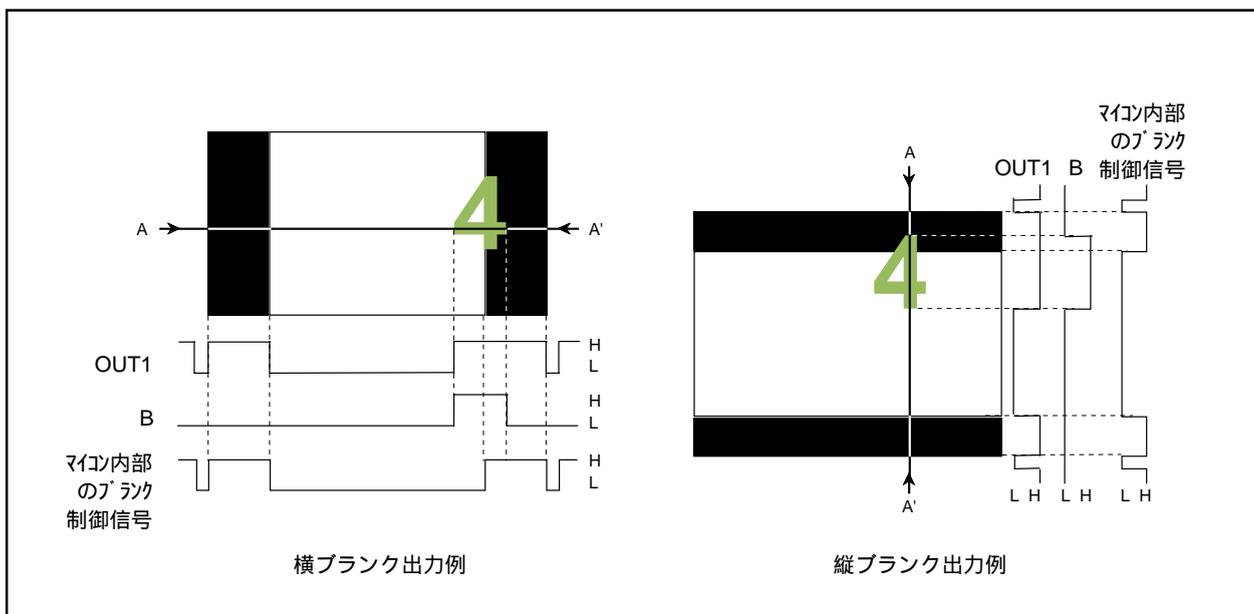


図2.16.46 ブランク出力例（OSD出力がB+OUT1の場合）

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

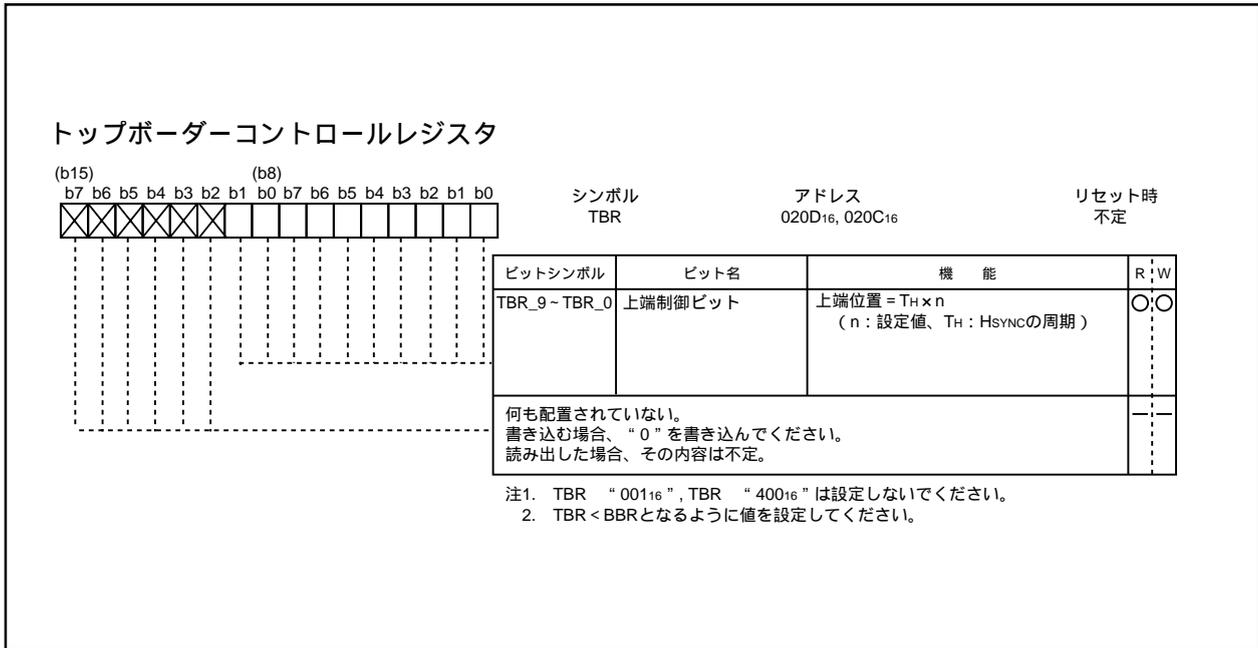


図2.16.47 トップボーダーコントロールレジスタ

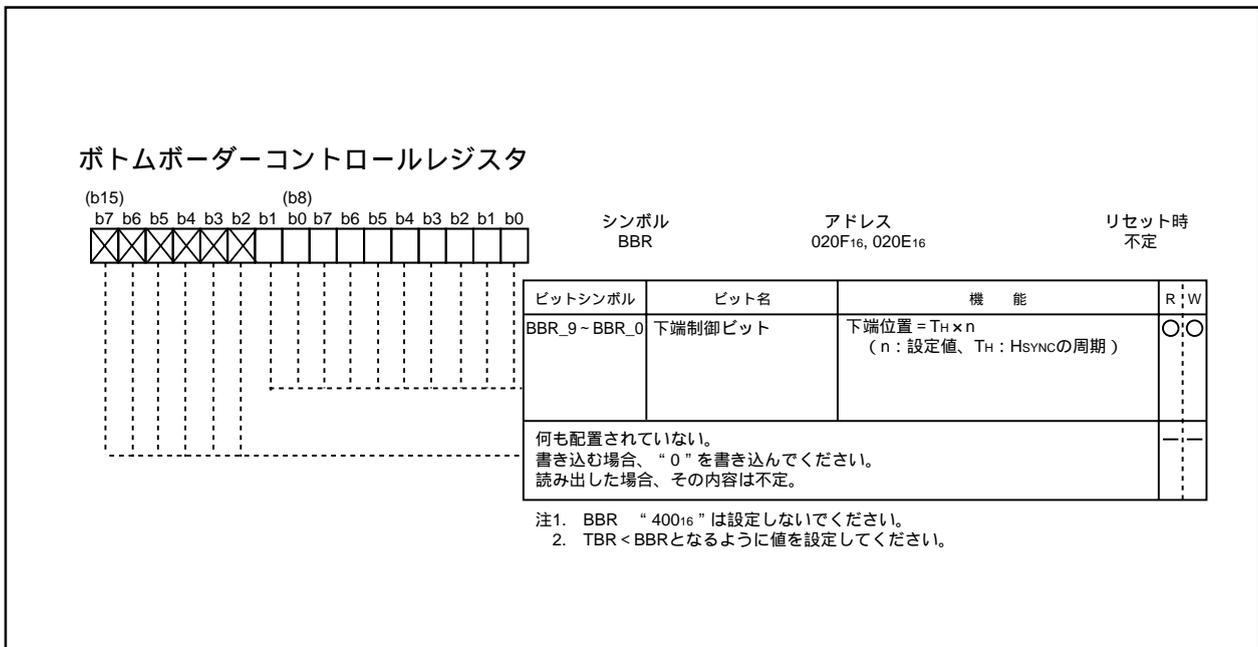


図2.16.48 ボトムボーダーコントロールレジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

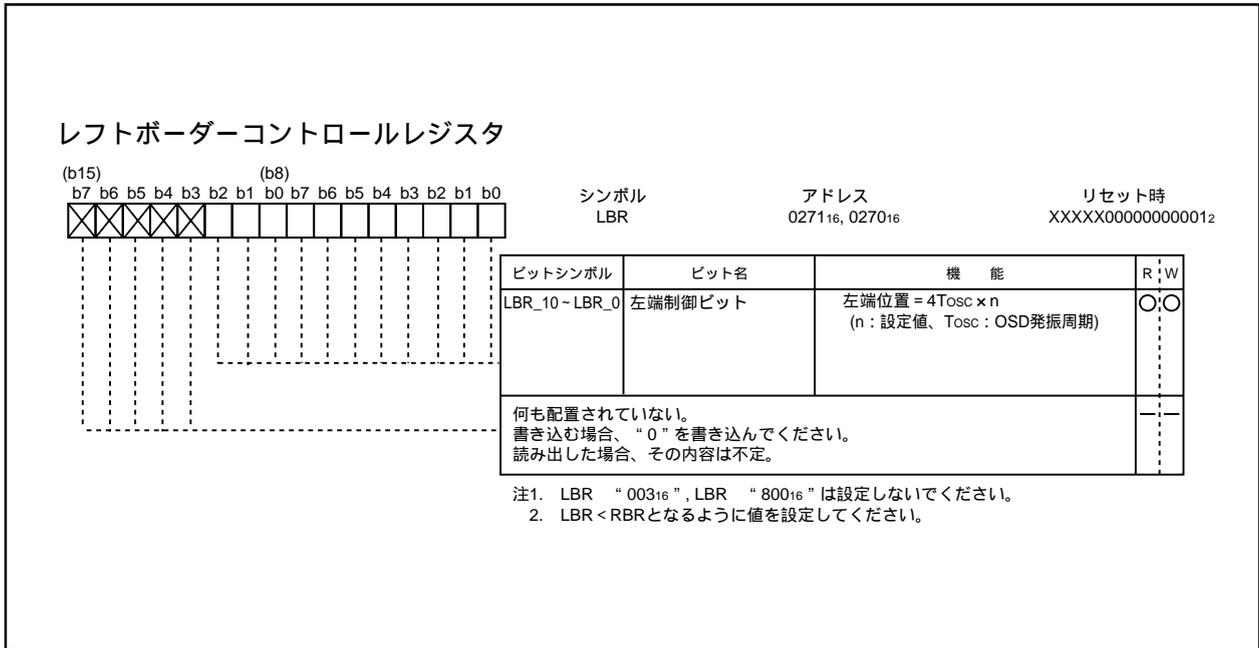


図2.16.49 レフトボーダーコントロールレジスタ

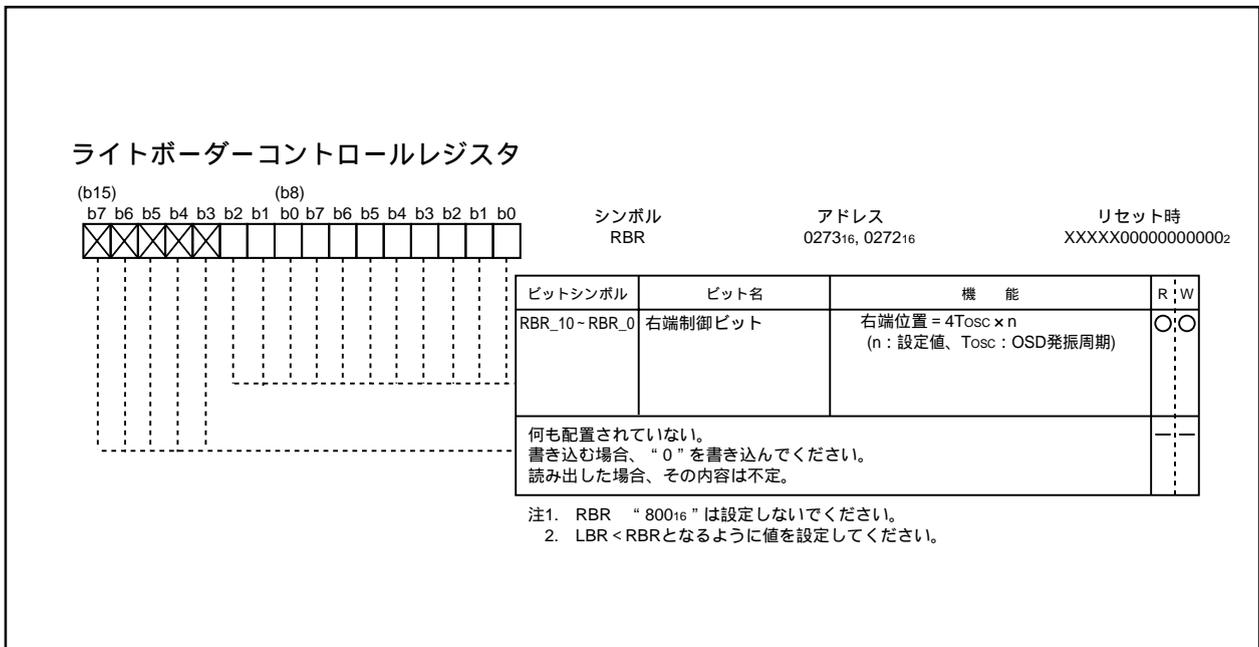


図2.16.50 ライトボーダーコントロールレジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.17 ラスター着色機能

ラスタカラーレジスタを設定することによって、一画面全体（ラスタ）に着色を行うことができます。R, G, B, OUT1, OUT2端子それぞれをラスタ信号出力に切り替えることが可能で、512種類のラスタ着色が可能です。

文字色 / 文字背景色がラスタ色と重なっている部分は、文字色 / 文字背景色に指定した色信号（R, G, B, OUT1, OUT2）が優先して出力されます。したがって文字色 / 文字背景色とラスタ色が混合することはありません。

図2.16.51にラスタカラーレジスタを、図2.16.52にラスタ着色例を示します。

注: ブランクが出力されている領域にはラスタは出力されません。

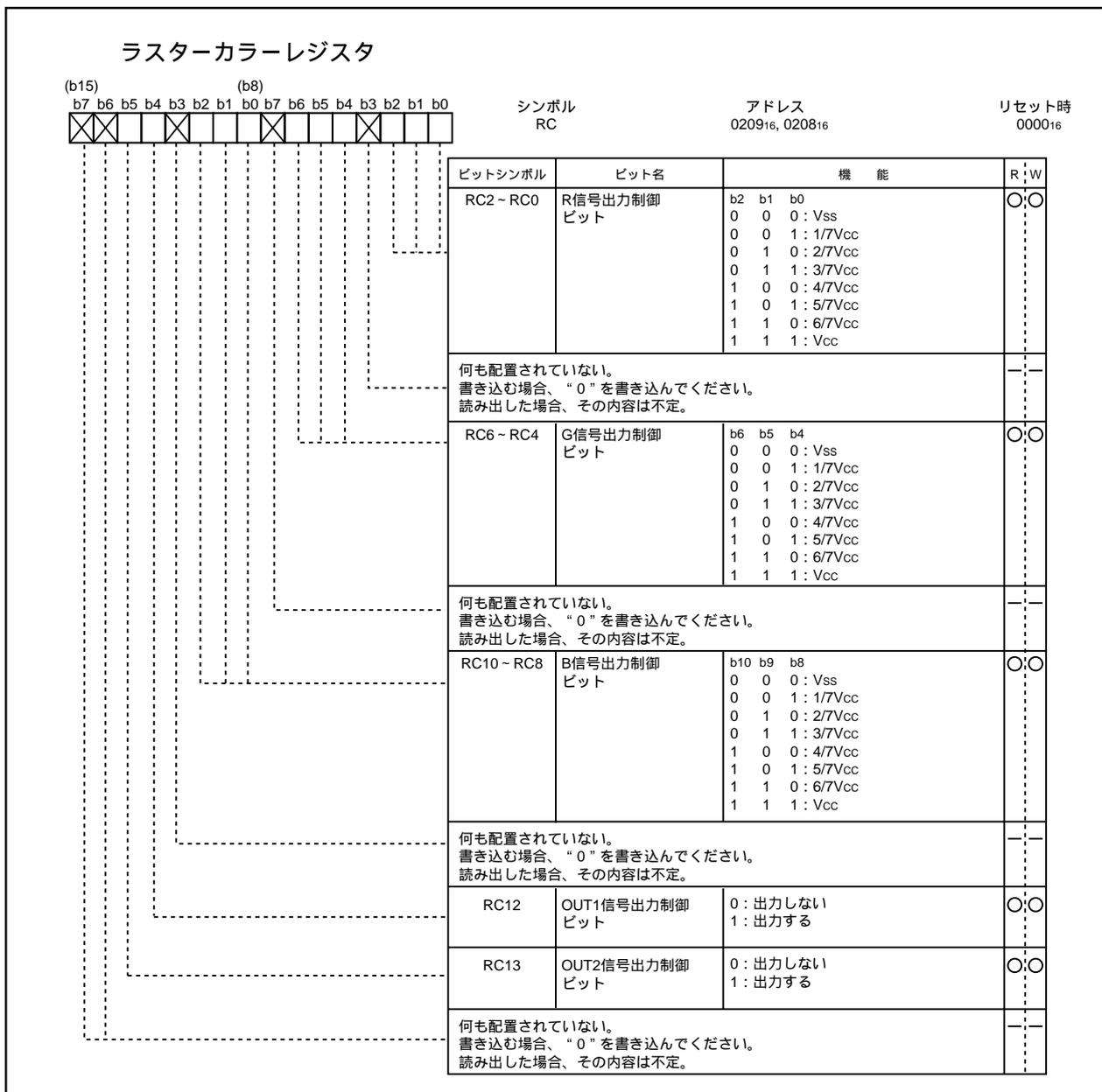


図2.16.51 ラスタカラーレジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

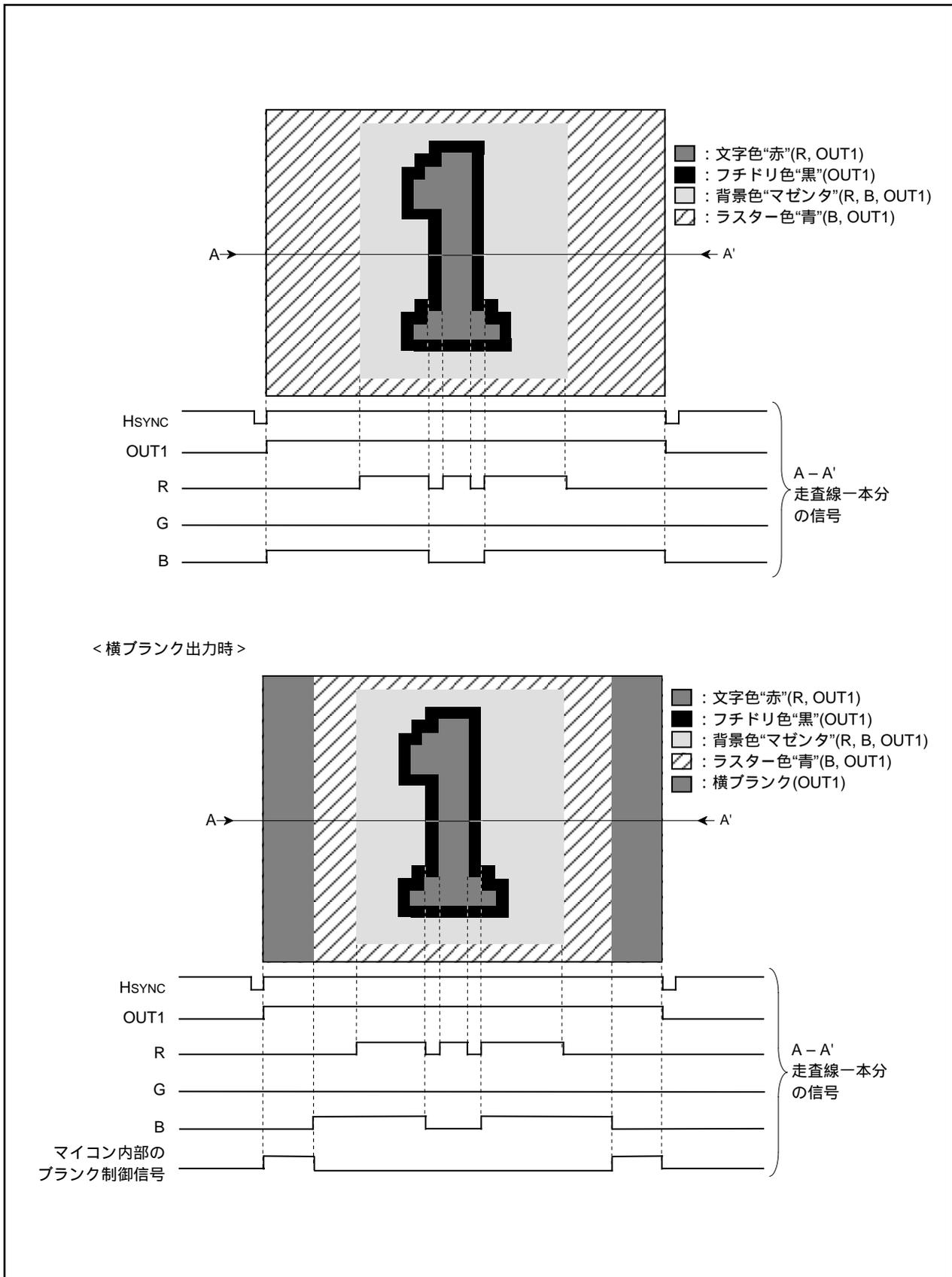


図2.16.52 ラスター着色例

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.18 スキャンモード

通常の2倍の周波数のHsyncに対応するために、バيسキャンモードを備えています。バيسキャンモードはノーマルスキャンモードに対して垂直表示位置、垂直ドットサイズが2倍になります。スキャンモードはOSDコントロールレジスタ1のビット1で選択します（図2.16.3参照）。

表2.16.12 スキャンモードの設定

項目	スキャンモード	ノーマルスキャン	バيسキャン
OSDコントロールレジスタ1のビット1		0	1
垂直表示開始位置		垂直位置レジスタの値 × 1H	垂直位置レジスタの値 × 2H
垂直ドットサイズ		1Tc × 1/2H	1Tc × 1H
		1Tc × 1H	1Tc × 2H
		2Tc × 2H	2Tc × 4H
		3Tc × 3H	3Tc × 6H

2.16.19 R, G, B信号出力制御

R, G, B信号の出力形態はクロックコントロールレジスタのビット4とOSDコントロールレジスタ2のビット2によって下表のように制御されます。

表2.16.13 R, G, B信号出力制御

クロックコントロールレジスタのビット4	OSDコントロールレジスタ2のビット2	R, G, B信号の出力形態
0	0	R, G, B各端子2値出力（デジタル出力）
	1	R, G, B各端子8値出力（アナログ出力）
1 (注)	—	R, R'(P73), G, G'(P60), B, B'(P57)各端子2値出力 （カラーパレットレジスタiの各信号出力制御ビットに対応） R, G, B : それぞれCRI_1, CRI_5, CRI_9 R', G', B' : それぞれCRI_0, CRI_4, CRI_8

注. クロックコントロールレジスタのビット4が“1”のとき、ポートP57, P60, P73は、OSD機能端子のR', G', B'出力として機能します。ただし、エミュレーション時は、ビット4は“0”に設定してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

2.16.20 OSD予約レジスタ

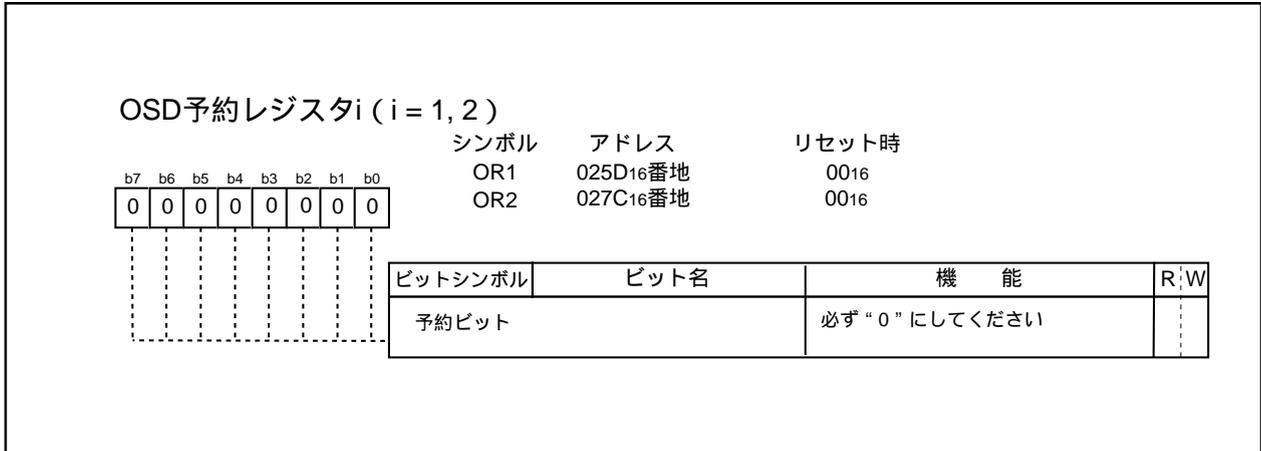


図2.16.53 OSD予約レジスタ i ($i = 1, 2$)

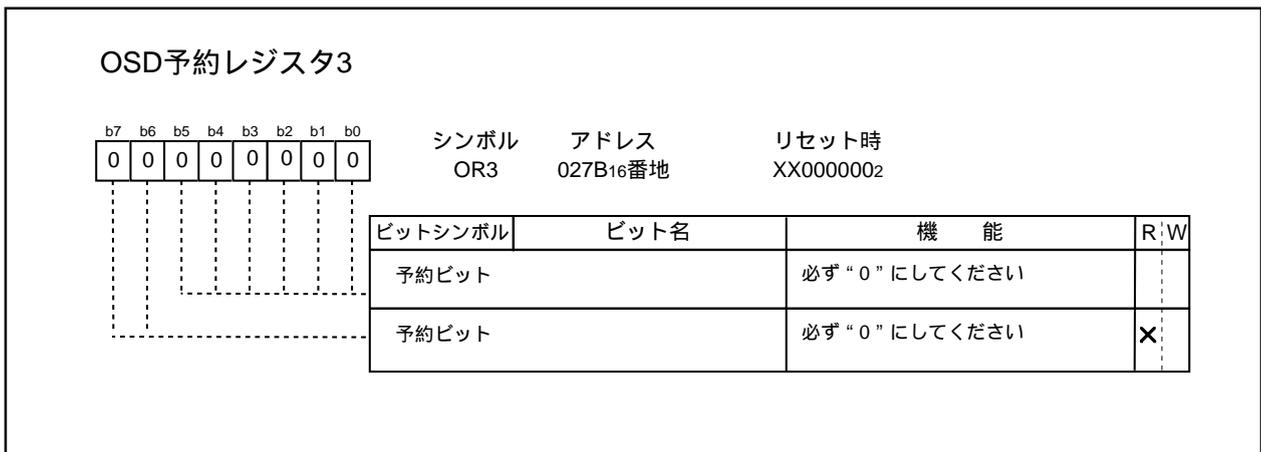


図2.16.54 OSD予約レジスタ3

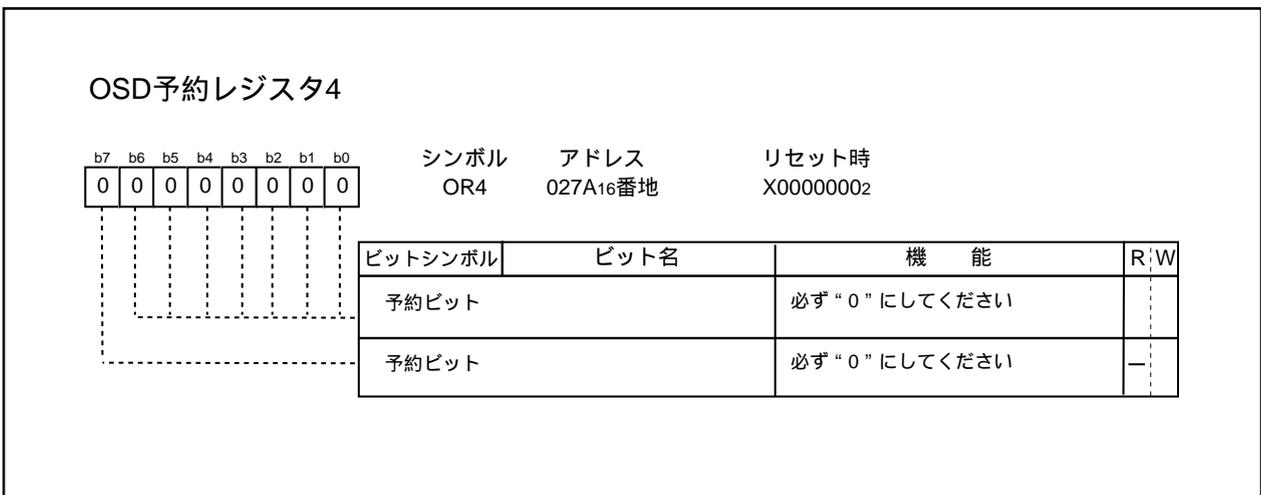


図2.16.55 OSD予約レジスタ4

2.17 プログラマブル入出力ポート

プログラマブル入出力ポートは、P0～P5, P60～P63, P67, P7, P82, P83, P86, P87, P90～P94, P10の78本あります。各ポートの入出力は、方向レジスタによって1ポートごとに設定できます。また、4ポートごとに、プルアップ抵抗の有無を設定できます。

プログラマブル入出力ポートの構成を、図2.17.1～図2.17.4に示します。

各端子は、プログラマブル入出力ポートと内蔵周辺装置の入出力として機能します。

内蔵周辺装置の入力端子として使用する場合は、各端子の方向レジスタを入力モードに設定してください。D-A変換器以外の内蔵周辺装置の出力端子として使用する場合は、方向レジスタの内容に関係なく内蔵周辺装置の出力となります。D-A変換器の出力端子として使用する場合は、各端子の方向レジスタを出力モードに設定しないでください。内蔵周辺装置の設定方法は、各機能説明を参照してください。

2.17.1 方向レジスタ

方向レジスタを、図2.17.6～2.17.9に示します。

プログラマブル入出力ポートの方向を選択するためのレジスタです。このレジスタの各ビットは、それぞれ端子1本ずつに対応しています。

(1) プロテクトレジスタの影響

P9の方向レジスタの書き込みは、プロテクトレジスタの影響を受けます。P9の方向レジスタを容易に書き替えることができません。

2.17.2 ポートレジスタ

ポートレジスタを、図2.17.10～図2.17.13に示します。

外部とのデータ入出力は、ポートレジスタへの書き込みおよび読み出しによって行います。ポートレジスタは、出力データを保持するポートラッチ、および端子の状態を読み込む回路で構成されています。ポートレジスタの各ビットは、それぞれ端子1本ずつに対応しています。

(1) ポートレジスタからの読み込み

方向レジスタを出力に設定しているとき、ポートレジスタから読み込めば、端子の内容ではなく、ポートレジスタの内容を読み込みます。方向レジスタを入力に設定しているとき、ポートレジスタから読み込みを行えば、端子の内容を読み込みます。

(2) ポートレジスタへの書き込み

方向レジスタを出力に設定しているとき、ポートレジスタに書き込めば、それぞれの端子から書き込んだ値のレベルを出力します。方向レジスタを入力に設定しているとき、ポートレジスタに書き込めば、ポートレジスタには書き込まれますが、それぞれの端子には出力されません。出力のレベルは、フローティングのままです。

2.17.3 プルアップ制御レジスタ

プルアップ制御レジスタを、図2.17.15～図2.17.17に示します。

プルアップ制御レジスタによって、4ポートごとに、プルアップ抵抗の有無を設定できます。プルアップ抵抗ありに設定したポートは、方向レジスタを入力に設定したときにだけプルアップ抵抗が接続されます。

ただし、メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモード時は、P0～P5のプルアップ制御レジスタは無効です。

2.17.4 ポート制御レジスタ

ポート制御レジスタを、図2.17.14に示します。

ポートP1の読み出しに対して、ポート制御レジスタのビット0の値によって、以下のようになります。

0: 入力ポートのとき、端子の入力レベルを読み出す

出力ポートのとき、ポートP1レジスタの内容を読み出す

1: 入力ポート/出力ポートにかかわらず、ポートP1レジスタの内容を読み出す

なお、マイクロプロセッサモード、メモリ拡張モード時で外部バス幅8ビット時や全空間マルチプレクスバス時などでポートP1がポートとして使用できる場合も、上記と同様に機能します。

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

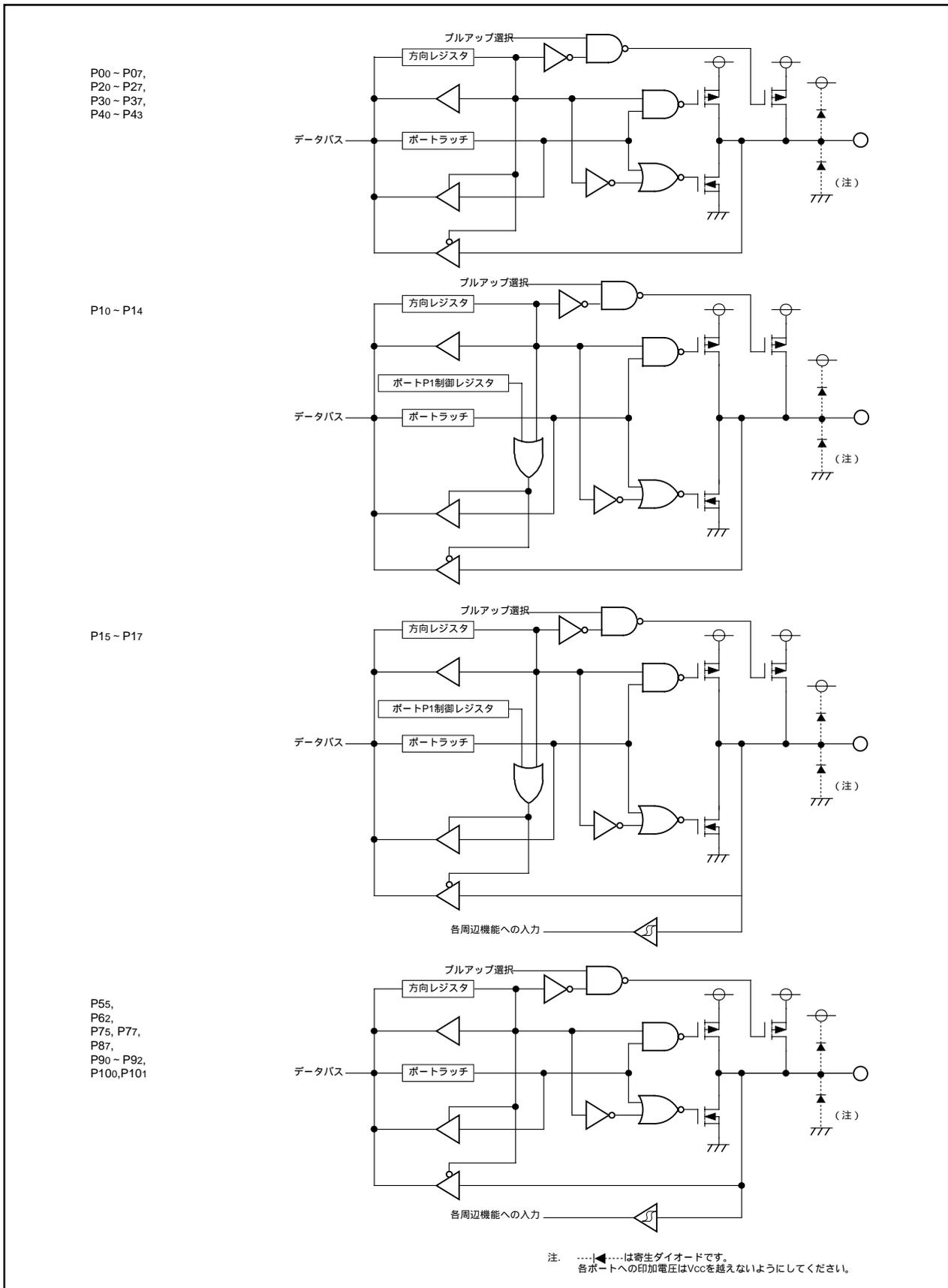


図2.17.1 プログラマブル入出力ポートの構成(1)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

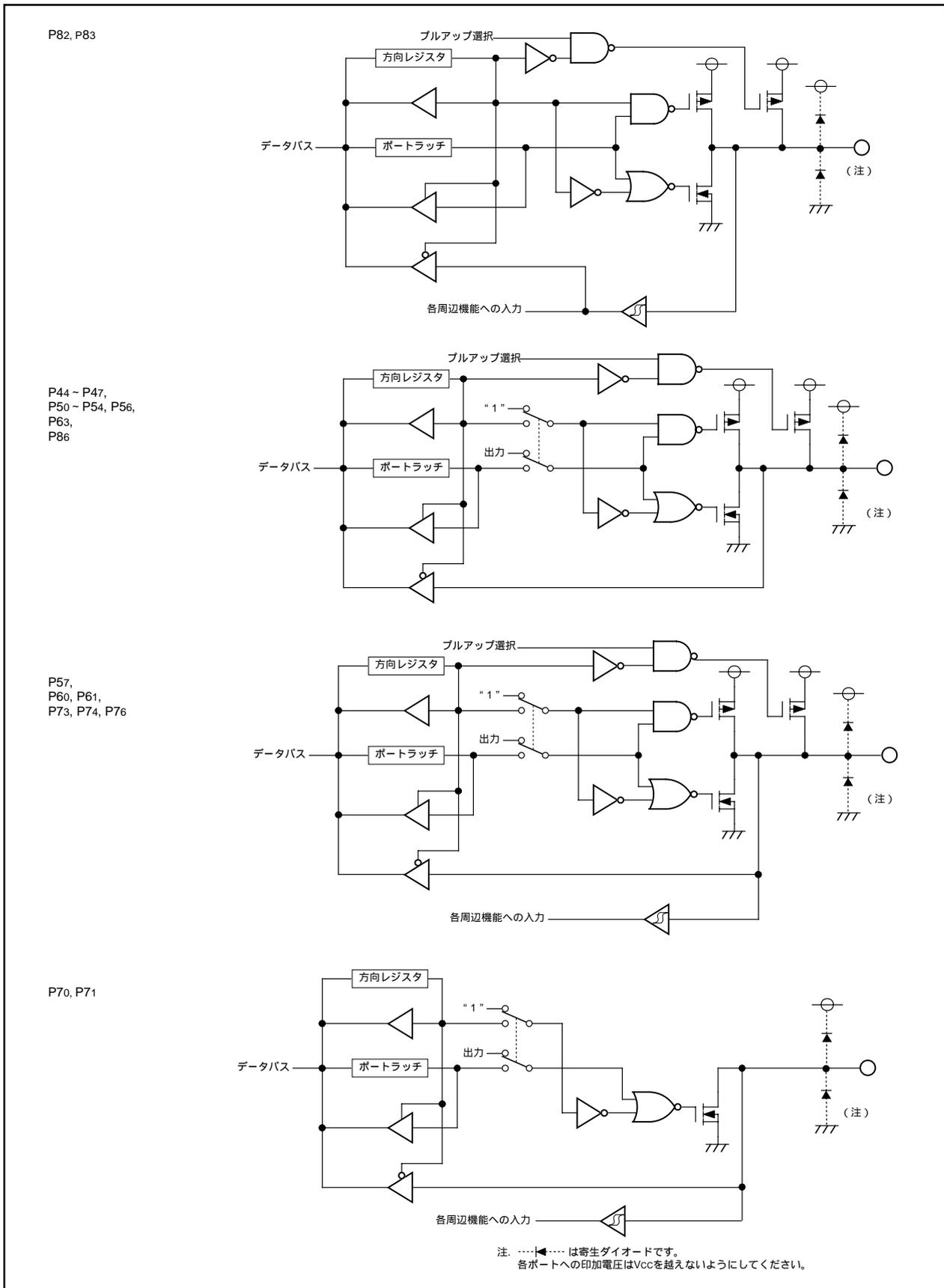


図2.17.2 プログラマブル入出力ポートの構成(2)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

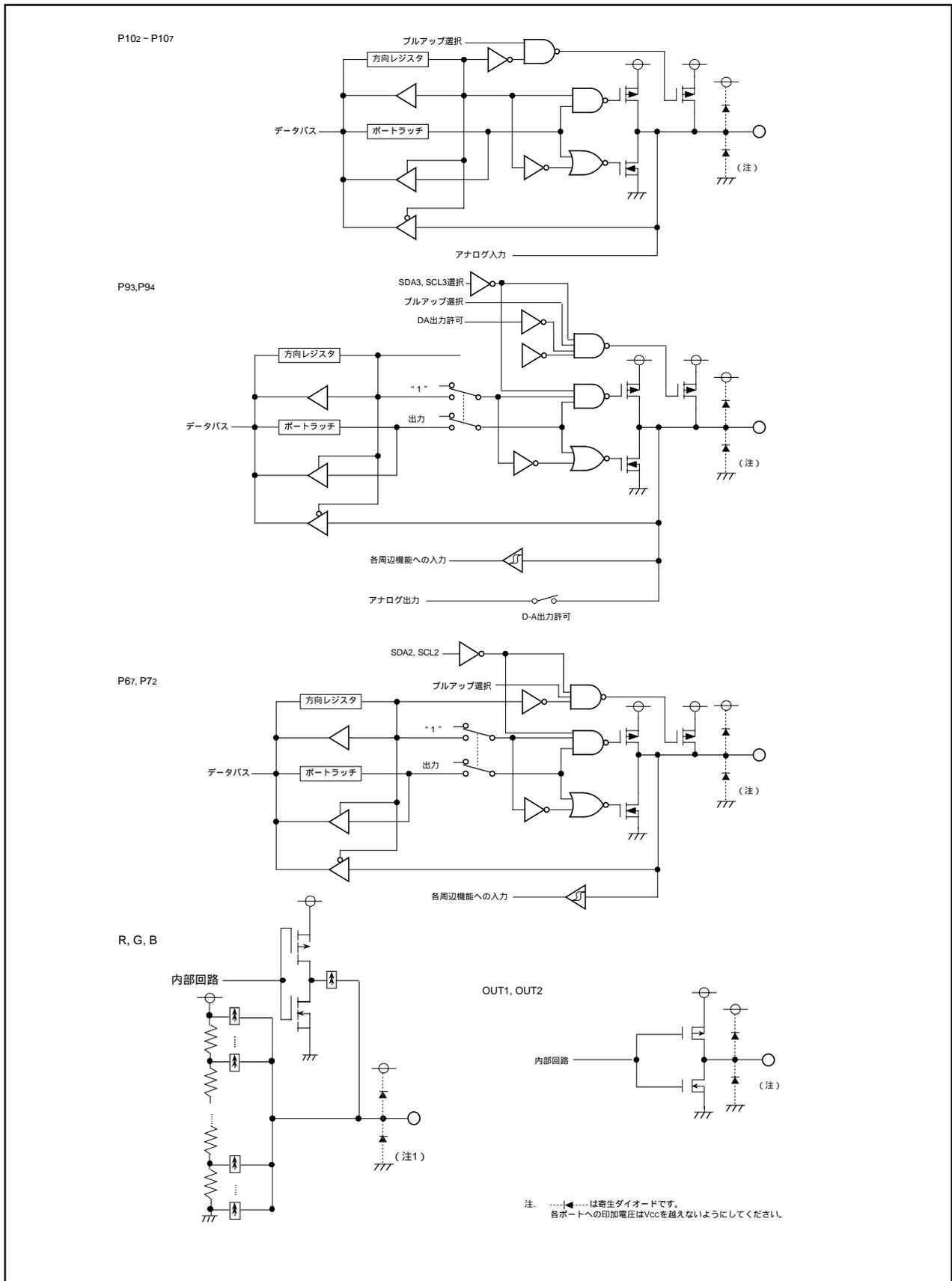


図2.17.3 プログラマブル入出力ポートの構成(3)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

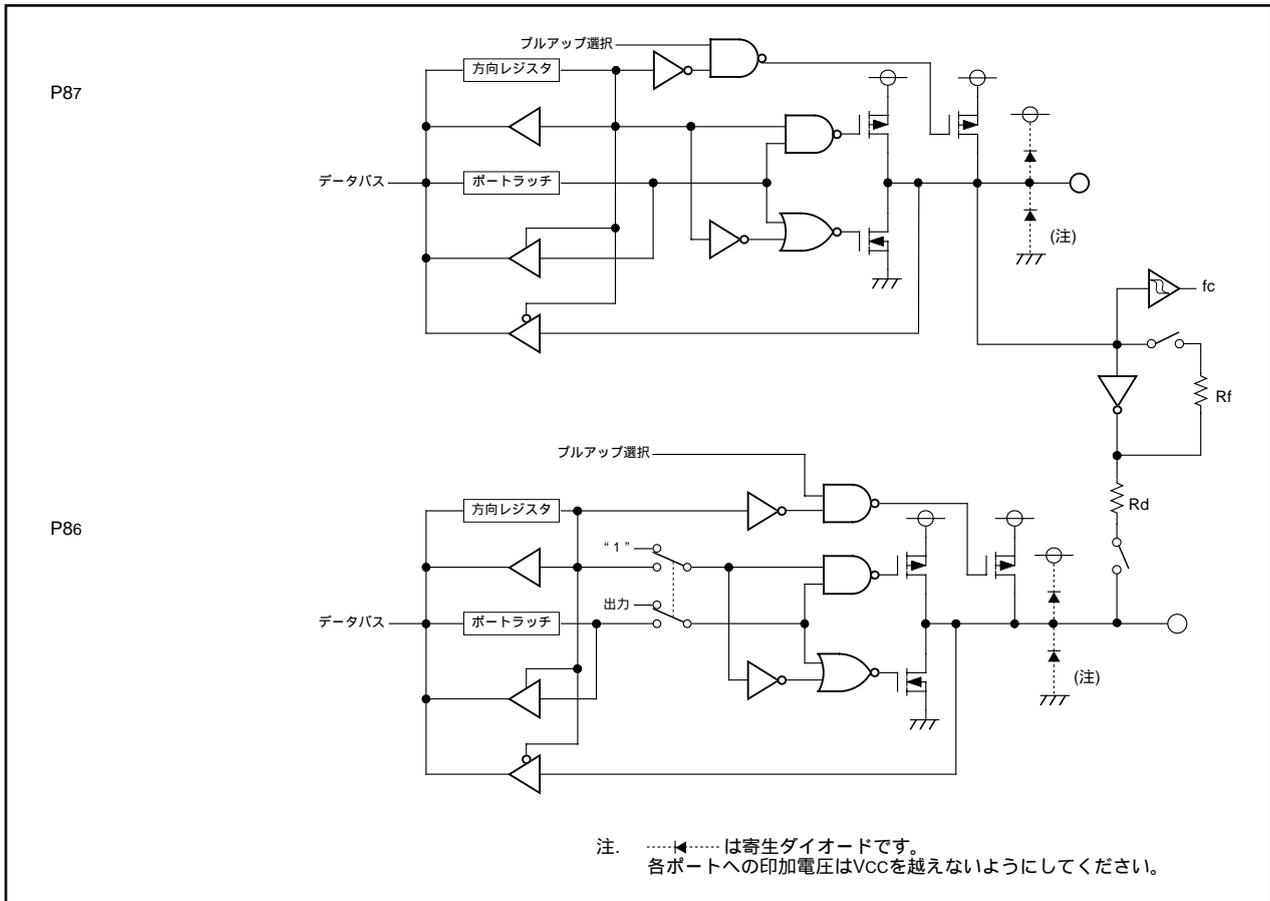


図2.17.4 プログラマブル入出力ポートの構成(4)

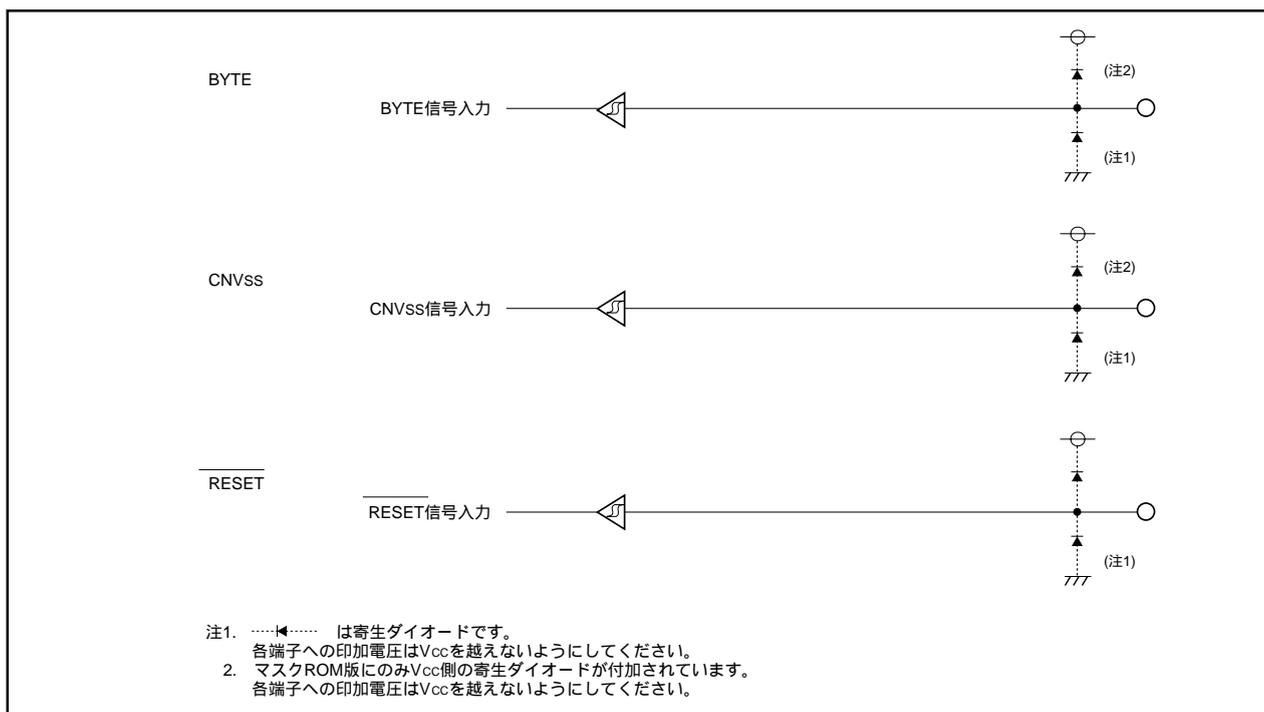


図2.17.5 端子の構成

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

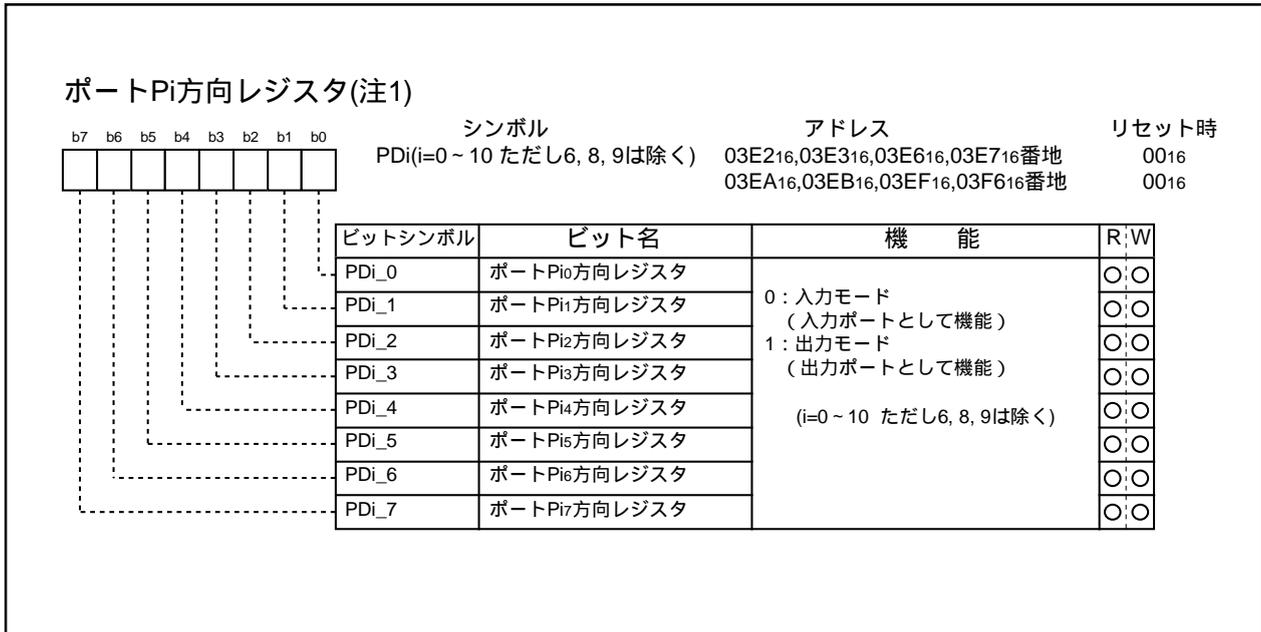


図2.17.6 ポートPi方向レジスタ (i = 0~10ただし6,8,9は除く)

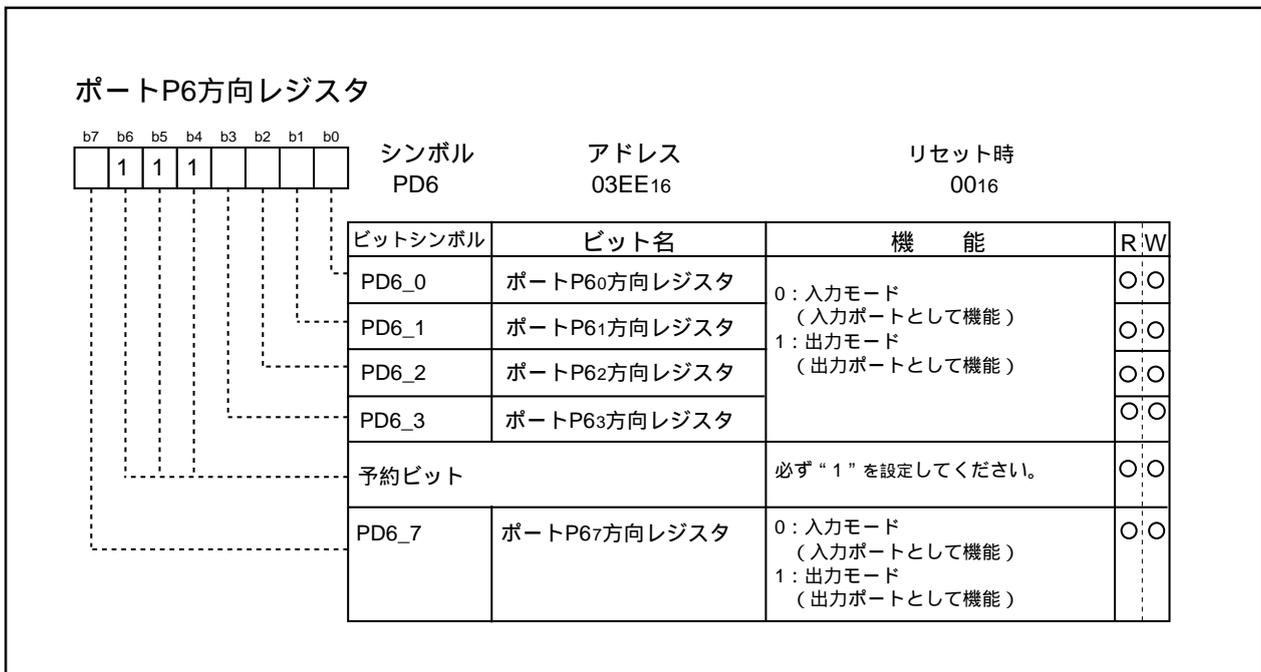


図2.17.7 ポートP6方向レジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

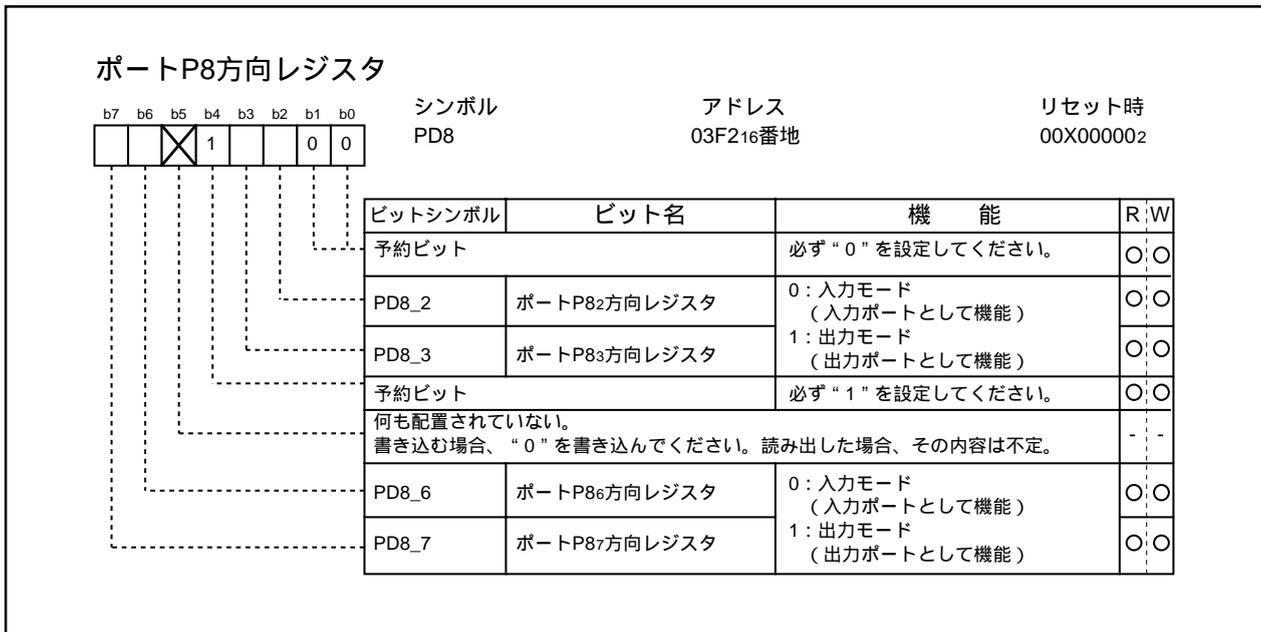


図2.17.8 ポートP8方向レジスタ

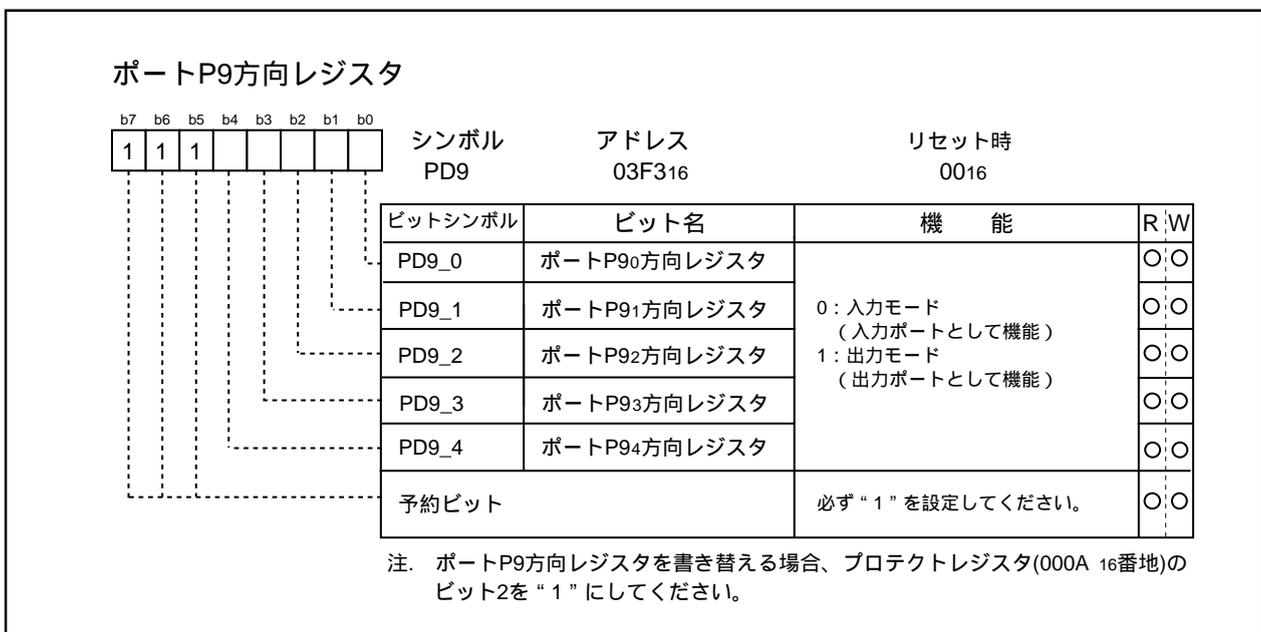


図2.17.9 ポートP9方向レジスタ

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

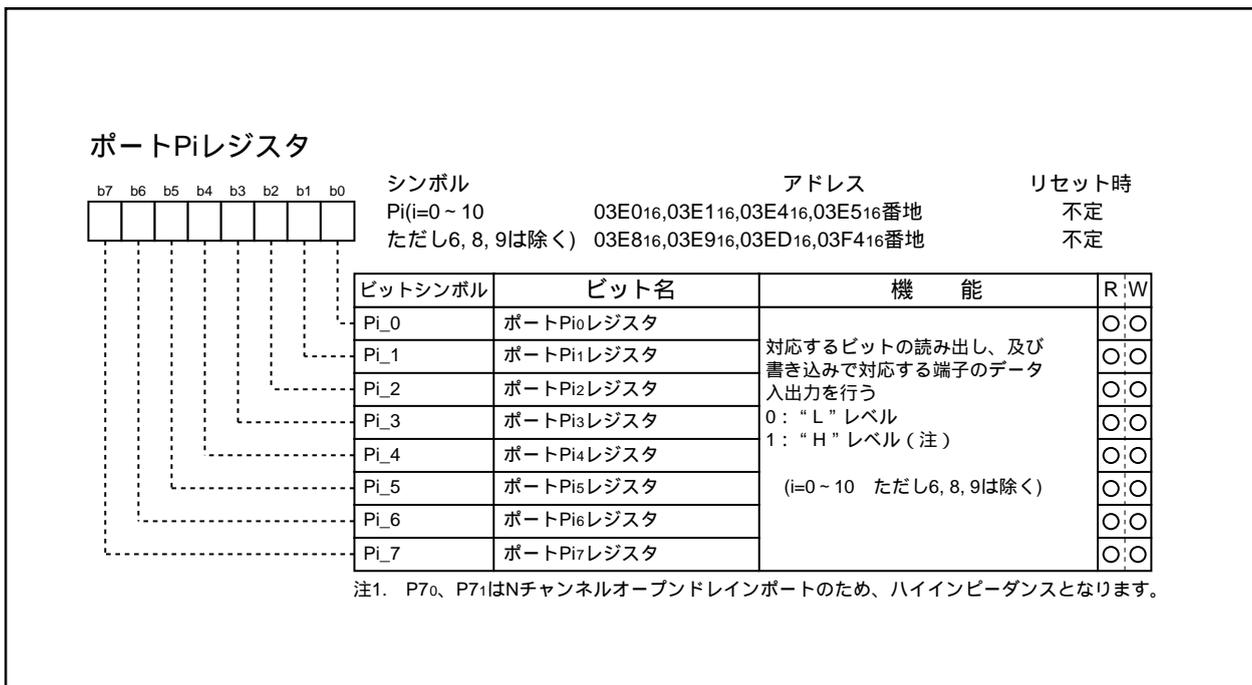


図2.17.10 ポートPiレジスタ (i = 0 ~ 10 ただし6, 8, 9は除く)

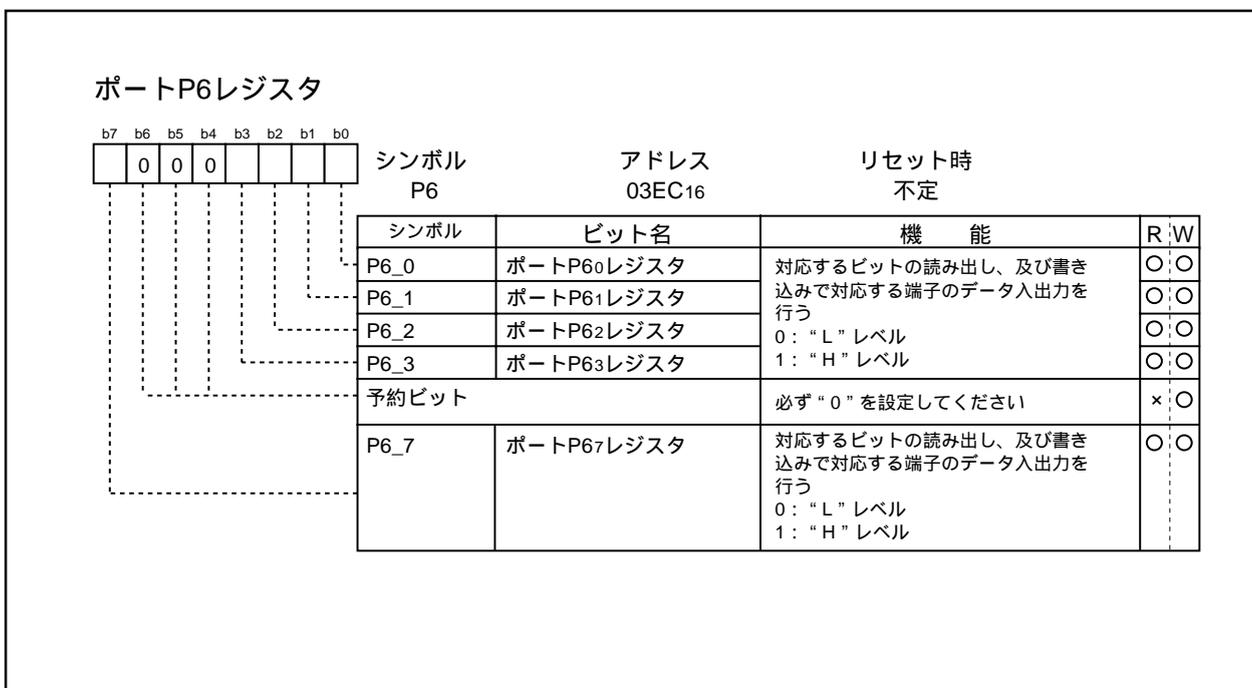


図2.17.11 ポートP6レジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

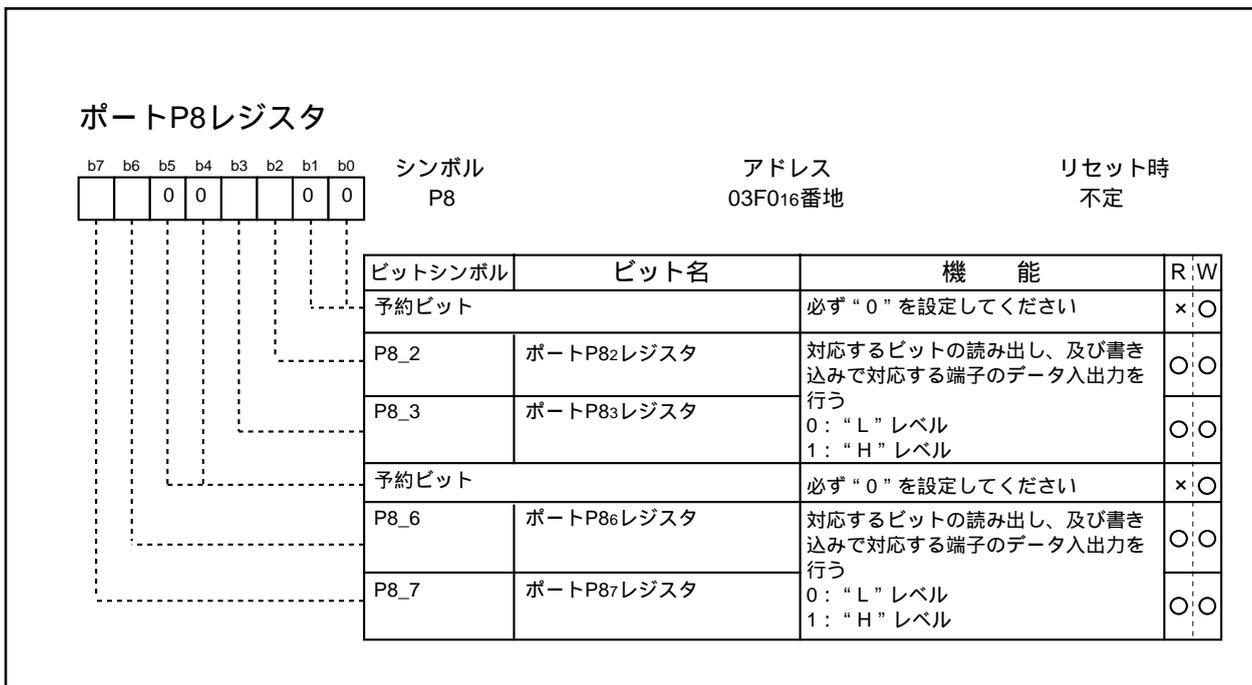


図2.17.12 ポートP8レジスタ

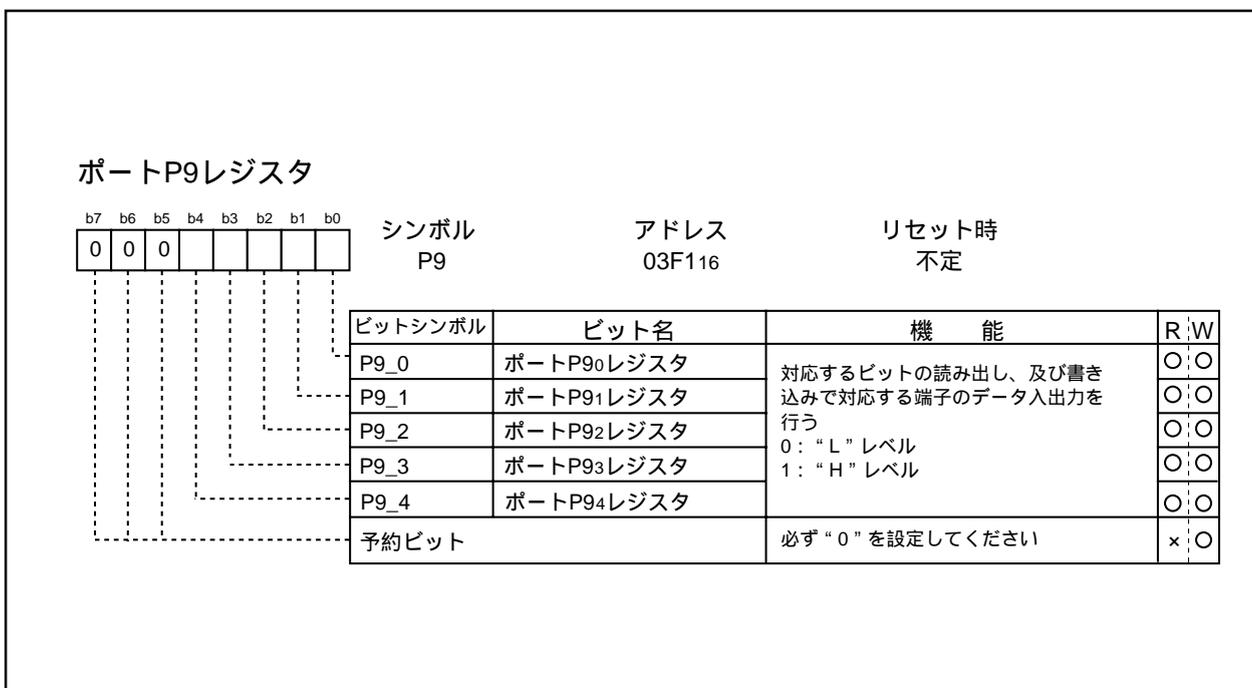


図2.17.13 ポートP9レジスタ

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

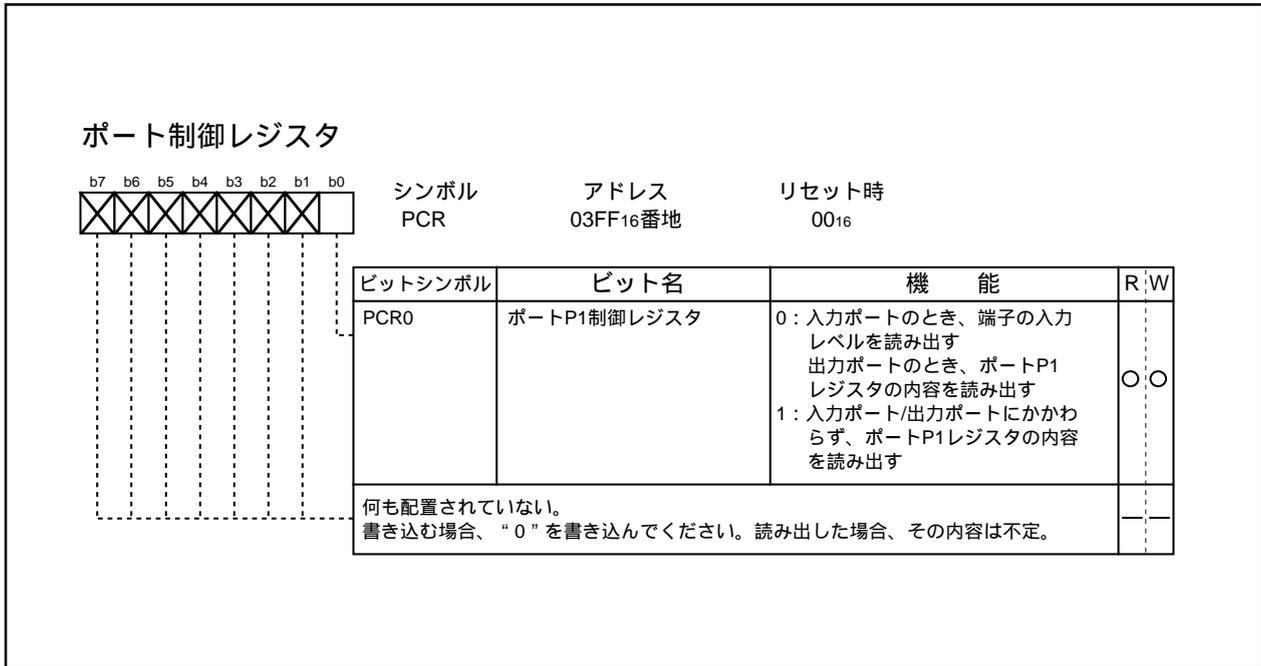


図2.17.14 ポート制御レジスタ

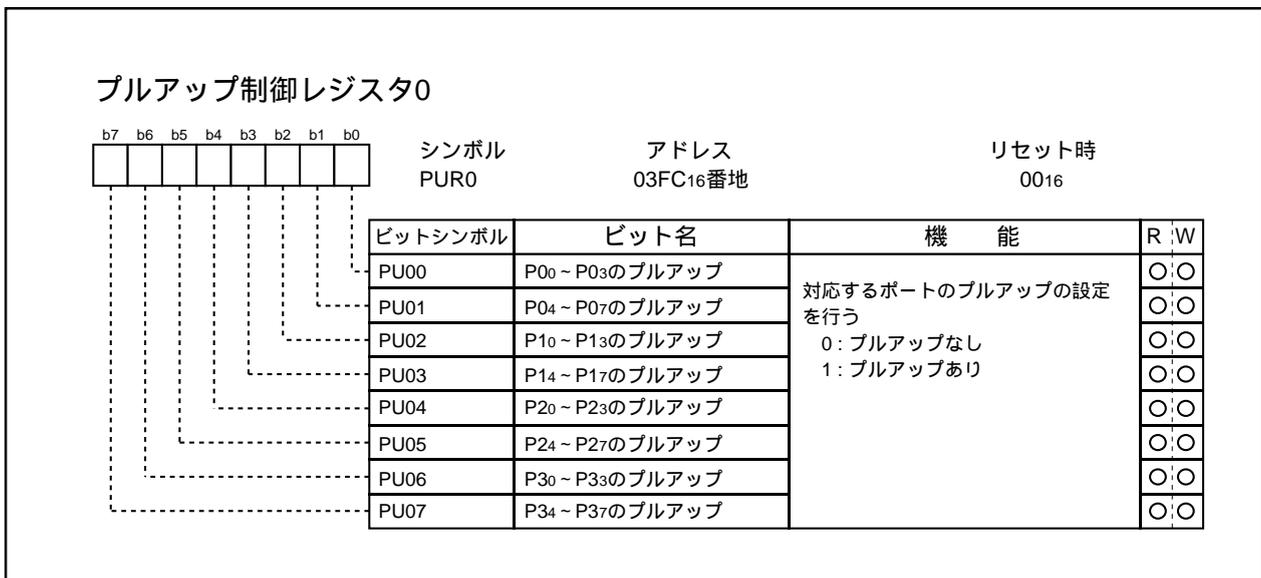


図2.17.15 プルアップ制御レジスタ0

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

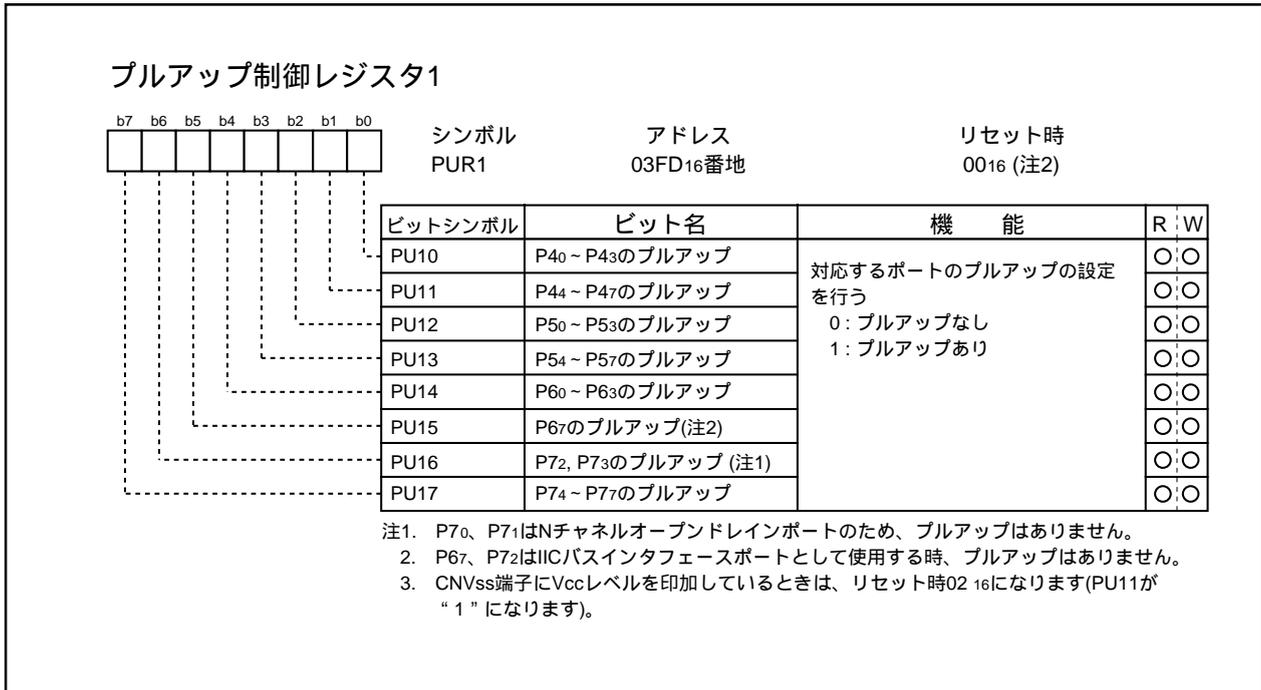


図2.17.16 プルアップ制御レジスタ1

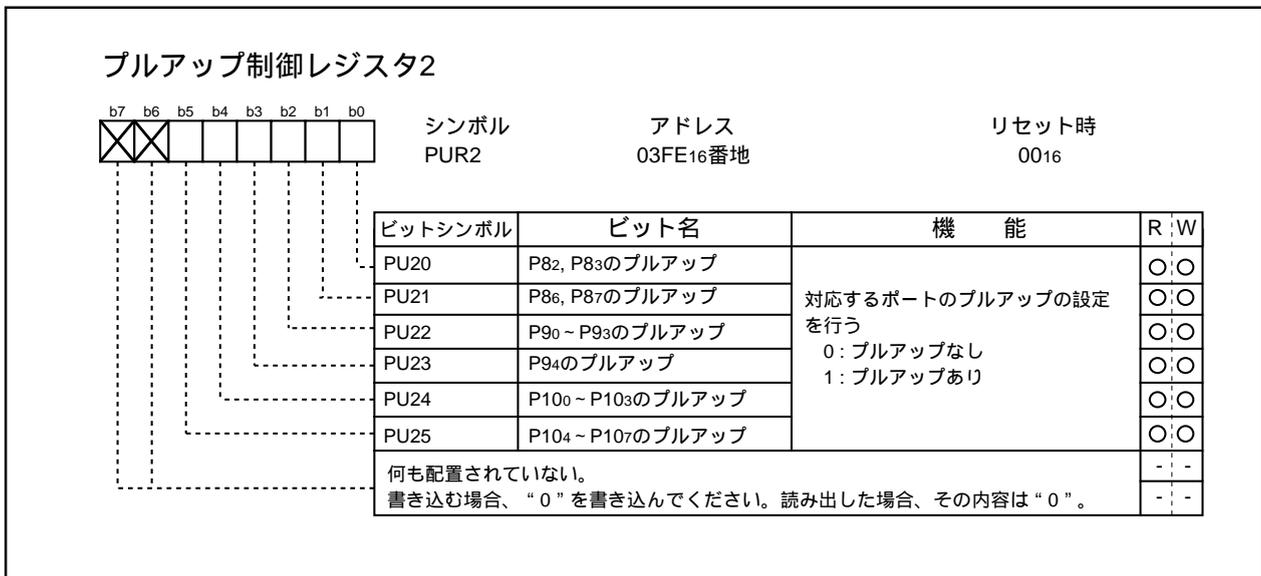


図2.17.17 プルアップ制御レジスタ2

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表2.17.1 シングルチップモード時の未使用端子の処理例

端子名	処理内容
ポートP0～P10	入力モードに設定し、端子ごとに抵抗を介してVssに接続(プルダウン)するか、または出力モードに設定し、端子を開放
XOUT(注)	開放
AVcc	Vccに接続
BYTE	Vssに接続
CNVss	抵抗を介してVssに接続(プルダウン)

注: XIN端子に外部クロックを入力しているとき

表2.17.2 メモリ拡張モード、マイクロプロセッサモード時の未使用端子の処理例

端子名	処理内容
ポートP6～P10	入力モードに設定し、端子ごとに抵抗を介してVssに接続(プルダウン)するか、または出力モードに設定し、端子を開放
P45/ $\overline{CS1}$ ～P47/ $\overline{CS3}$	ポートを入力モードに設定し、 $\overline{CS1}$ ～ $\overline{CS3}$ 出力許可ビットを“0”に設定し、抵抗を介してVccに接続(プルアップ)
\overline{BHE} , \overline{ALE} , \overline{HLDA} , XOUT(注1), BCLK	開放
\overline{HOLD} , \overline{RDY}	抵抗を介してVccに接続(プルアップ)
AVcc	Vccに接続
CNVss	メモリ拡張モード時、抵抗を介してVssに接続(プルダウン) マイクロプロセッサモード時、抵抗を介してVccに接続(プルアップ)

注: XIN端子に外部クロックを入力しているとき

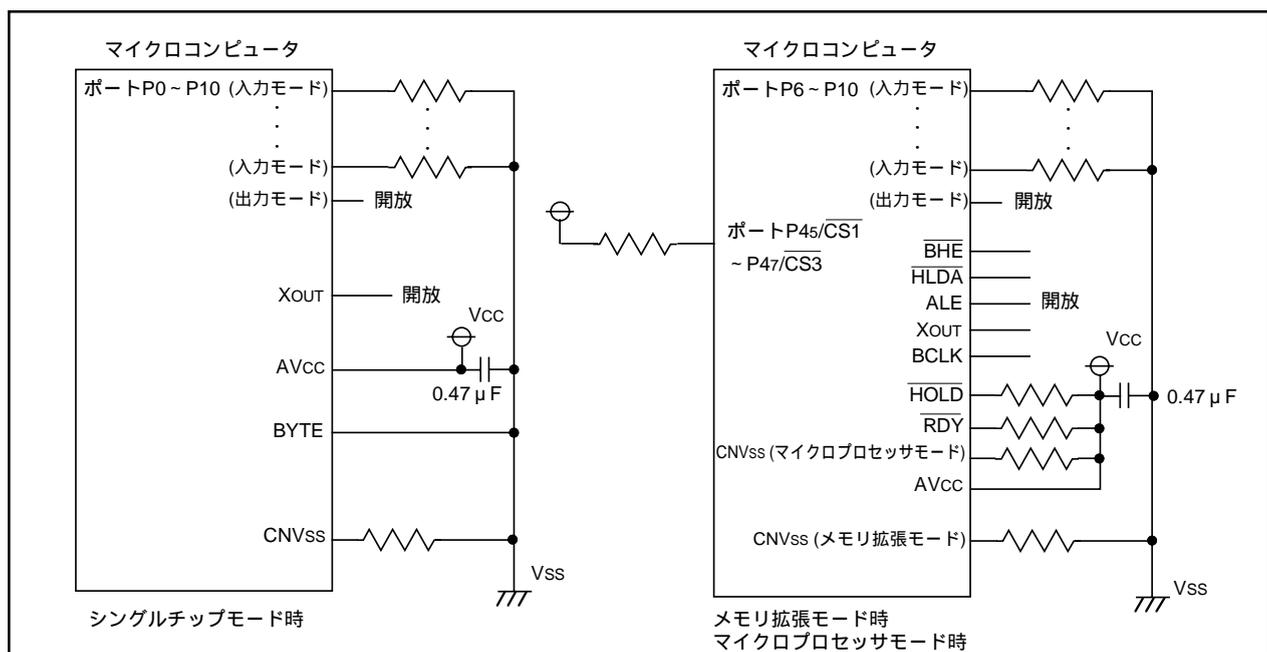


図2.17.18 未使用端子の処理例

3. 使用上の注意事項

3.1 タイマAの注意事項 (タイマモード)

- (1) カウント中のカウンタの値は、タイマAiレジスタを読み出すことによって任意のタイミングで読み出すことができます。ただし、リロードタイミングで読み出した場合、FFFF₁₆が読み出されます。カウント停止中にタイマAiレジスタに値を設定した後、カウンタがカウントを開始するまでの期間に読み出しを行った場合、設定値が読み出されます。

3.2 タイマAの注意事項 (イベントカウンタモード)

- (1) カウント中のカウンタの値は、タイマAiレジスタを読み出すことによって任意のタイミングで読み出すことができます。ただし、リロードタイミングで読み出した場合、アンダフロー時はFFFF₁₆が、オーバフロー時は0000₁₆が読み出されます。カウント停止中にタイマAiレジスタに値を設定した後、カウンタがカウントを開始するまでの期間に読み出しを行った場合、設定値が読み出されます。
- (2) フリーランタイプ選択時、カウントを停止した場合は、タイマを再設定してください。

3.3 タイマAの注意事項 (ワンショットタイマモード)

- (1) カウント中にカウント開始フラグを“0”にすると次のようになります。
カウンタはカウントを停止し、リロードレジスタの内容をリロードします。
TAiOUT端子の出力レベルは“L”になります。
割り込み要求が発生し、タイマAi割り込み要求ビットが“1”になります。
- (2) 次に示すいずれかの手順でタイマの動作モードを設定した場合、タイマAi割り込み要求ビットが“1”になります。
リセット後、ワンショットタイマモードを選択したとき
動作モードをタイマモードからワンショットタイマモードに変更したとき
動作モードをイベントカウンタモードからワンショットタイマモードに変更したとき
したがって、タイマAi割り込み(割り込み要求ビット)を使用する場合は、上記の設定を行った後、タイマAi割り込み要求ビットを“0”にしてください。

3.4 タイマAの注意事項 (パルス幅変調モード)

- (1) 次に示すいずれかの手順でタイマの動作モードを設定した場合、タイマAi割り込み要求ビットが“1”になります。
リセット後、PWMモードを選択したとき
動作モードをタイマモードからPWMモードに変更したとき
動作モードをイベントカウンタモードからPWMモードに変更したとき
したがって、タイマAi割り込み(割り込み要求ビット)を使用する場合は、上記の設定を行った後、タイマAi割り込み要求ビットを“0”にしてください。
- (2) PWMパルスを出力中にカウント開始フラグを“0”にすると、カウンタはカウントを停止します。このとき、TAiOUT端子が“H”レベルを出力している場合は、出力レベルは“L”になり、タイマAi割り込み要求ビットが“1”になります。“L”レベルを出力している場合は、出力レベルは変化せず、タイマAi割り込み要求も発生しません。

3.5 タイマBの注意事項 (タイマモード、イベントカウンタモード)

- (1) カウント中のカウンタの値は、タイマBiレジスタを読み出すことによって任意のタイミングで読み出すことができます。ただし、リロードタイミングで読み出した場合、FFFF₁₆が読み出されます。カウント停止中にタイマBiレジスタに値を設定した後、カウンタがカウントを開始するまでの期間に読み出しを行った場合、設定値が読み出されます。

3.6 タイマBの注意事項 (パルス周期測定、パルス幅測定モード)

- (1) カウント開始後に測定モード選択ビットの変更を行うと、タイマBi割り込み要求ビットが“1”になります。
- (2) カウント開始後、1回目の有効エッジの入力時は、不定値がリロードレジスタに転送されます。また、このとき、タイマBi割り込み要求は発生しません。

3.7 A-D変換器の注意事項

- (1) A-D制御レジスタ0の各ビット(ビット6を除く)、A-D制御レジスタ1の各ビット、およびA-D制御レジスタ2のビット0に対する書き込みは、A-D変換停止時(トリガ発生前)に行ってください。
特にVref接続ビットを“0”から“1”にしたときは、1μs以上経過した後にA-D変換を開始させてください。
- (2) A-D動作モードを変更する場合は、アナログ入力端子を再選択してください。
- (3) 単発モードまたは単掃引モードで使用する場合
A-D変換が完了したことを確認してから、対象となるA-Dレジスタを読み出してください(A-D変換の完了はA-D変換割り込み要求ビットで判定できます)。
- (4) 繰り返しモード、繰り返し掃引モード0または繰り返し掃引モード1で使用する場合
CPUの内部クロックは、メインクロックを分周せずに使用してください。
- (5) 掃引モードのA-D変換所要時間は(掃引端子数+2端子)×繰り返し回数×1端子のA-D変換所要時間となります。
- (6) Hsync、Vsync入力を使用したOSD、またはデータスライサ動作中は、A-D掃引モード(単掃引、繰り返し掃引0、繰り返し掃引1)は使用しないでください。

3.8 ストップモード、ウェイトモードの注意事項

- (1) ストップモードからハードウェアリセットによって復帰する場合、メインクロックの発振が十分に安定するまで、リセット端子を“L”レベルにする必要があります。
- (2) ウェイトモードおよびストップモードに移行する場合、命令キューは、WAIT命令および全クロック停止ビットを“1”にする命令から4バイト先読みしてプログラムが停止します。したがってWAIT命令および全クロック停止ビットを“1”にする命令の後にはNOPを最低4つ入れてください。

3.9 割り込みの注意事項

(1) 00000₁₆番地の読み出し

マスク可能割り込みが発生した場合、割り込みシーケンスの中でCPUは、割り込み情報(割り込み番号と割り込み要求レベル)を00000₁₆番地から読み出します。

それを読み出すことでその割り込みが発生する割り込み要求ビットが“0”になります。

ソフトウェアにより00000₁₆番地を読み出しても、許可されている最も優先度の高い割り込み要因の要求ビットが“0”になります。そのため、割り込みが発生しても割り込みルーチンを実行しない可能性があります。

したがって、ソフトウェアで00000₁₆番地に対して読み出しを行わないでください。

(2) スタックポインタの設定

リセット直後スタックポインタの値は、“0000₁₆”に初期化されています。そのため、スタックポインタに値を設定する前に割り込みを受け付けると、暴走の要因となります。割り込みを受け付ける前に、必ずスタックポインタに値を設定してください。

(3) 外部割り込み

INT₀, INT₁端子の極性を切り替えるときに割り込み要求ビットが“1”になることがあります。切り替えを行った後、割り込み要求ビットを“0”にしてください。

(4) 割り込み制御レジスタの変更

割り込み制御レジスタの変更は、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生しない箇所で行ってください。割り込み要求が発生する可能性がある場合は、割り込みを禁止状態にしてから変更してください。参考プログラム例を以下に示します。

< 割り込み制御レジスタを書き換えるプログラム例 >

例 1 :

```
INT_SWITCH1 :
  FCLR   I           ; 割り込み禁止状態
  AND.B  #00H, 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに“0016”を設定
  NOP                    ; HOLD機能を使用する場合はNOP命令が4個必要
  NOP
  FSET   I           ; 割り込み許可状態
```

例 2 :

```
INT_SWITCH2 :
  FCLR   I           ; 割り込み禁止状態
  AND.B  #00H, 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに“0016”を設定
  MOV.W  MEM, R0     ; ダミーリード
  FSET   I           ; 割り込み許可状態
```

例 3 :

```
INT_SWITCH3 :
  PUSHC  FLG
  FCLR   I           ; 割り込み禁止状態
  AND.B  #00H, 0055H ; タイマA0割り込み制御レジスタに“0016”を設定
  POPC   FLG        ; 割り込み許可状態
```

例 1 と例 2 で FSET I 命令の前に NOP 命令 2 個 (HOLD 機能使用時は 4 個) や ダミーリード があるのは、命令キューの影響により割り込み許可フラグ(Iフラグ)のセットが割り込み制御レジスタの書き込みより先に実行されるのを防ぐためです。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

割り込みが禁止状態で、割り込み制御レジスタを書き換える命令を実行しているときに、そのレジスタに対応する割り込み要求が発生した場合、命令によっては割り込み要求ビットがセットされないことがあります。このことが問題になる場合は、以下の命令を使用してレジスタを変更するようにしてください。

対象となる命令・・・AND、OR、BCLR、BSET

3.10 PROM内蔵版使用上の注意事項

3.10.1 PROM内蔵版の全機種に対する注意事項

内蔵PROMへの書き込み時は高い電圧を使用しますので、マイクロコンピュータに過電圧がかからないようにしてください。電源の投入時は特に注意してください。

3.10.2 ワンタイムPROM版に対する注意事項

ワンタイムPROM版では、ユーザにて内蔵PROMを書き込むためのブランク出荷品を用意しています。ブランク出荷品については、アセンブリ工程以降、PROMの書き込みテスト、およびスクリーニングを、弊社では実施しません。したがって、書き込み以降の信頼性を向上させるために、図3.10.1に示す手順で書き込み、およびテストを行った後、使用することを推奨します。

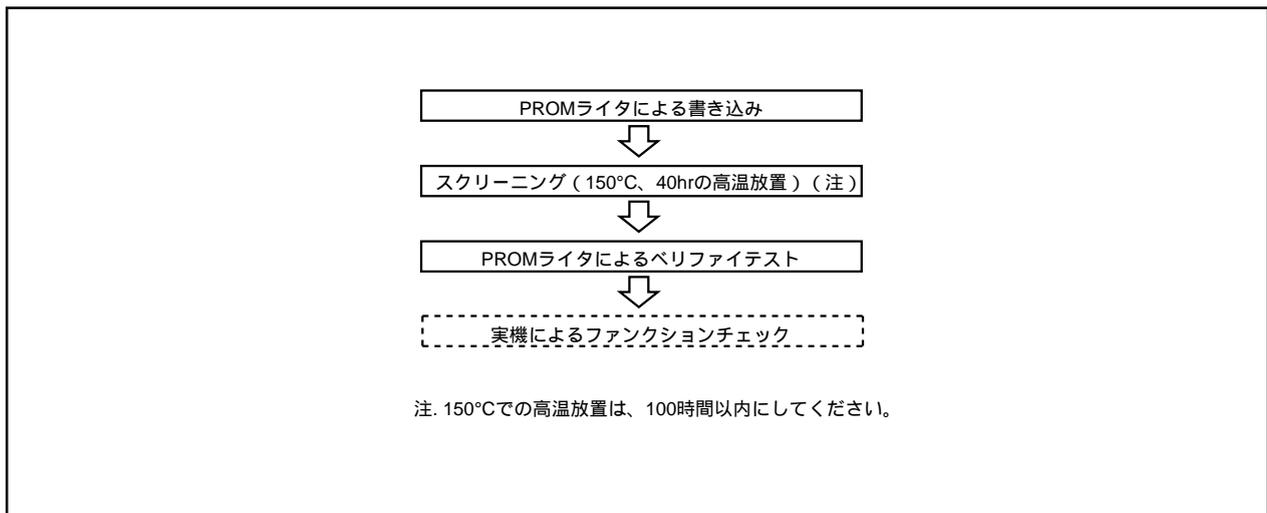


図3.10.1 ワンタイムPROM版の書き込み、およびテスト

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

4. マスク化発注時の提出資料

マスクROM版のマスク化発注時、次の資料を提出してください。

- (1) マスク化確認書
- (2) マーク指定書
- (3) ROMのデータ…………… EPROM、又はフロッピーディスク
 - * EPROMの場合は同一のデータのを3組準備してください。
 - * フロッピーディスクの場合は3.5インチ2HD (IBMフォーマット) で1枚準備してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5. 電気的特性

5.1 絶対最大定格

表5.1.1 絶対最大定格

記号	項目	条件	定格値	単位
V _{cc}	電源電圧		-0.3 ~ 6.0	V
AV _{cc}	アナログ電源電圧		-0.3 ~ 6.0	V
V _i	入力電圧 P0 ₀ ~ P0 ₇ , P1 ₀ ~ P1 ₇ , P2 ₀ ~ P2 ₇ , P3 ₀ ~ P3 ₇ , P4 ₀ ~ P4 ₇ , P5 ₀ ~ P5 ₇ , P6 ₀ ~ P6 ₃ , P6 ₇ , P7 ₀ ~ P7 ₇ , P8 ₂ , P8 ₃ , P8 ₆ , P8 ₇ , P9 ₀ ~ P9 ₄ , P10 ₀ ~ P10 ₇ , X _{IN} , OSC1, RESET		-0.3 ~ V _{cc} +0.3	V
V _i	入力電圧 CNV _{ss} , BYTE		-0.3 ~ 6.0 (注)	V
V _o	出力電圧 P0 ₀ ~ P0 ₇ , P1 ₀ ~ P1 ₇ , P2 ₀ ~ P2 ₇ , P3 ₀ ~ P3 ₇ , P4 ₀ ~ P4 ₇ , P5 ₀ ~ P5 ₇ , P6 ₀ ~ P6 ₃ , P6 ₇ , P7 ₀ ~ P7 ₇ , P8 ₂ , P8 ₃ , P8 ₆ , P8 ₇ , P9 ₀ ~ P9 ₄ , P10 ₀ ~ P10 ₇ , R, G, B, OUT1, OUT2, OSC2, X _{OUT}		-0.3 ~ V _{cc} +0.3	V
P _d	消費電力	T _a =25	500	mW
T _{opr}	動作周囲温度		-10 ~ 70	
T _{stg}	保存温度		-40 ~ 125	

注. CNV_{ss}だけEPROM書き込み時は-0.3 ~ 13(V)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5.2 推奨動作条件

表5.2.1 推奨動作条件(指定のない場合は、Vcc=4.5V ~ 5.5V, Ta= - 10 ~ 70)

記号	項目	規格値			単位
		最小	標準	最大	
Vcc	電源電圧 (注3)	4.5	5.0	5.5	V
AVcc	アナログ電源電圧 (注3)		Vcc		V
Vss	電源電圧		0		V
V _{IH}	"H"入力電圧 P31 ~ P37, P40 ~ P47, P50 ~ P57, P60 ~ P63, P67, P70 ~ P77, P82, P83, P86, P87, P90 ~ P94, P100 ~ P107, X _{IN} , OSC1, RESET, CNV _{SS} , BYTE	0.8Vcc		Vcc	V
V _{IH}	"H"入力電圧 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 (シングルチップモード時)	0.8Vcc		Vcc	V
V _{IH}	"H"入力電圧 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 (メモリ拡張、マイクロプロセッサモード時のデータ入力機能)	0.5Vcc		Vcc	V
V _{IL}	"L"入力電圧 P31 ~ P37, P40 ~ P47, P50 ~ P57, P60 ~ P63, P67, P70 ~ P77, P82, P83, P86, P87, P90 ~ P94, P100 ~ P107, X _{IN} , OSC1, RESET, CNV _{SS} , BYTE	0		0.2Vcc	V
V _{IL}	"L"入力電圧 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 (シングルチップモード時)	0		0.2Vcc	V
V _{IL}	"L"入力電圧 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 (メモリ拡張、マイクロプロセッサモード時のデータ入力機能)	0		0.16Vcc	V
I _{OH} (peak)	"H"尖頭出力電流 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 ~ P37, P40 ~ P47, P50 ~ P57, P60 ~ P63, P67, P72 ~ P77, P82, P83, P86, P87, P90 ~ P94, P100 ~ P107, R, G, B, OUT1, OUT2			- 10.0	mA
I _{OH} (avg)	"H"平均出力電流 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 ~ P37, P40 ~ P47, P50 ~ P57, P60 ~ P63, P67, P72 ~ P77, P82, P83, P86, P87, P90 ~ P94, P100 ~ P107, R, G, B, OUT1, OUT2			- 5.0	mA
I _{OL} (peak)	"L"尖頭出力電流 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 ~ P37, P40 ~ P47, P50 ~ P57, P60 ~ P63, P67, P70 ~ P77, P82, P83, P86, P87, P90 ~ P94, P100 ~ P107, R, G, B, OUT1, OUT2			10.0	mA
I _{OL} (avg)	"L"平均出力電流 P00 ~ P07, P10 ~ P17, P20 ~ P27, P30 ~ P37, P40 ~ P47, P50 ~ P57, P60 ~ P63, P73 ~ P77, P82, P83, P86, P87, P90 ~ P92, P100 ~ P107, R, G, B, OUT1, OUT2			5.0	mA
I _{OL} (avg)	"L"平均出力電流 P67, P70 ~ P72, P93, P94			6.0	mA
f (X _{IN})	メインクロック入力発振周波数			10	MHz
f (X _{CIN})	サブクロック発振周波数		32.768	50	kHz
f _{OSC}	発振周波数(OSD用) OSC1	LC発振モード		11.0	MHz
		セラミック発振モード		15.0	
f _{CVIN}	入力周波数 ビデオ信号の水平同期信号	15.262	15.734	16.206	kHz
V _I	入力振幅 ビデオ信号CV _{IN}	1.5	2.0	2.5	V

- 注1. 平均出力電流は100msの期間内での平均値です。
 2. ポートP0, P1, P2, P86, P87, P9, P10のI_{OL}(peak)の合計は80mA以下、ポートP0, P1, P2, P86, P87, P9, P10のI_{OH}(peak)の合計は80mA以下、ポートP3, P4, P5, P6, P7, P82, P83のI_{OL}(peak)の合計は80mA以下、ポートP3, P4, P5, P6, P72 ~ P77, P82, P83のI_{OH}(peak)の合計は80mA以下にしてください。
 3. 電源端子Vcc-Vss間、AVcc-Vss間には電源ノイズ除去のため容量0.1 μF以上のコンデンサを外付けして使用してください。また、Vcc-CNV_{SS}間にも容量0.1 μF以上のコンデンサを外付けして使用してください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5.3 電気的特性

表5.3.1 電気的特性(指定のない場合は、VCC=5V, VSS=0V, Ta=25℃, f(XIN)=10MHz)

記号	項目	測定条件	規格値			単位	
			最小	標準	最大		
VOH	"H"出力電圧 P00~P07, P10~P17, P20~P27, P30~P37, P40~P47, P50~P57, P60~P63, P67, P72~P77, P82, P83, P86, P87, P90~P94, P100~P107, R, G, B, OUT1, OUT2	I _{OH} =-5mA	3.0			V	
VOH	"H"出力電圧 P00~P07, P10~P17, P20~P27, P30~P37, P40~P47, P50~P57	I _{OH} =-200μA	4.7			V	
VOH	"H"出力電圧 X _{OUT}	HIGH POWER	I _{OH} =-1mA	3.0		V	
		LOW POWER	I _{OH} =-0.5mA	3.0			
VOL	"L"出力電圧 P00~P07, P10~P17, P20~P27, P30~P37, P40~P47, P50~P57, P60~P63, P73~P77, P82, P83, P86, P87, P90~P92, P100~P107, R, G, B, OUT1, OUT2	I _{OL} =5mA			2.0	V	
VOL	"L"出力電圧 P67, P70~P72, P93, P94	I _{OL} =6.0mA			0.6	V	
VOL	"L"出力電圧 P00~P07, P10~P17, P20~P27, P30~P37, P40~P47, P50~P53	I _{OL} =200μA			0.45	V	
VOL	"L"出力電圧 X _{OUT}	HIGH POWER	I _{OL} =1mA		2.0	V	
		LOW POWER	I _{OL} =0.5mA		2.0		
VT+-VT-	ヒステリシス HOLD, RDY, TB0IN~TB2IN, INT0, INT1, CTS0, CTS2, CLK0, CLK2, SCL1~SCL3, SDA1~SDA3, HSYNC, VSYNC, HC0, HC1, RxD0		0.2		0.8	V	
VT+-VT-	ヒステリシス RESET		0.2		1.8	V	
VT+-VT-	ヒステリシス X _{IN}		0.2		0.8	V	
I _{IH}	"H"入力電流 P00~P07, P10~P17, P20~P27, P30~P37, P40~P47, P50~P57, P60~P63, P67, P70~P77, P82, P83, P86, P87, P90~P94, P100~P107, X _{IN} , RESET, CNVSS, BYTE, OSC1	V _I =5V			5.0	μA	
I _{IL}	"L"入力電流 P00~P07, P10~P17, P20~P27, P30~P37, P40~P47, P50~P57, P60~P63, P67, P70~P77, P82, P83, P86, P87, P90~P94, P100~P107, X _{IN} , RESET, CNVSS, BYTE, OSC1	V _I =0V			-5.0	μA	
R _{PULLUP}	プルアップ抵抗 P00~P07, P10~P17, P20~P27, P30~P37, P40~P47, P50~P57, P60~P63, P67, P72~P77, P82, P83, P86, P87, P90~P94, P100~P107,	V _I =0V	30.0	50.0	167.0	k	
I _{CC}	電源電流	シングルチップモードで出力端子は開放、その他の端子はVSS	f(X _{IN})=10MHz 方形波、分周なし	OSD ON, デ-アスタブON	70	90	mA
				OSD OFF, デ-アスタブOFF	30	50	
			f(X _{IN})=10MHz 方形波、8分周	OSD OFF, デ-アスタブOFF	10		μA
			f(X _{CIN}) = 32kHz ウエイト時		10		
			クロック停止時 Ta=25			10	μA
クロック停止時 Ta=70			200				
R _{BS}	IICバス・バススイッチ接続抵抗 (SCL1-SCL2間, SDA1-SDA2間)	VCC=4.5V			130		
R _{IXIN}	帰還抵抗 X _{IN}				1.0	M	
R _{IXCIN}	帰還抵抗 X _{CIN}				6.0	M	

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5.4 A-D変換特性

表5.4.1 A-D変換特性 (指定のない場合は、 $V_{CC}=AV_{CC}=5V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25$, $f(X_{IN})=10MHz$)

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	標準最大	
-	分解能	$V_{REF}=V_{CC}$			8 Bits
-	絶対精度	サンプル&ホールド機能なし			± 5 LSB
		サンプル&ホールド機能あり			± 5 LSB
RLADDER	ラダー抵抗	$V_{REF}=V_{CC}$	10		40 k
tCONV	変換時間		2.8		μs
tsAMP	サンプリング時間		0.3		μs
VREF	基準電圧			V_{CC}	V
VIA	アナログ入力電圧		0	V_{CC}	V

5.5 D-A変換特性

表5.5.1 D-A変換特性 (指定のない場合は、 $V_{CC}=5V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25$, $f(X_{IN})=10MHz$)

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	標準最大	
-	分解能				8 Bits
-	絶対精度				10 %
tsu	設定時間				3 μs
Ro	出力抵抗		4	10	20 k
IvREF	基準電源入力電流	(注)			1.5 mA

注. D-A変換器1本使用、使用していないD-A変換器のD-Aレジスタの値が“00 16”の場合です。
A-D変換器のラダー抵抗分は除きます。
また、A-D制御レジスタでVref未接続とした場合でも、IvREFは流れます。

5.6 アナログR,G,B出力特性

表5.6.1 アナログR, G, B出力特性 (指定のない場合は、 $V_{CC}=5V$, $V_{SS}=0V$, $T_a=25$, $f(X_{IN})=10MHz$)

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	標準最大	
Ro	出力抵抗				2 k
VOE	出力偏差				± 0.5 V
TST	セットリングタイム	負荷容量10pF, 負荷抵抗20k , 70%DCレベル			50 ns

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5.7 タイミング必要条件

表5.7.1 外部クロック入力（指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25℃）

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _c	外部クロック入力サイクル時間	100		ns
t _{w(H)}	外部クロック入力 "H"パルス幅	40		ns
t _{w(L)}	外部クロック入力 "L"パルス幅	40		ns
t _r	外部クロック立ち上がり時間		15	ns
t _f	外部クロック立ち下がり時間		15	ns

表5.7.2 メモリ拡張及びマイクロプロセッサモード（指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25℃）

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _{ac1} (RD-DB)	データ入力アクセス時間（ウエイトなし）		(注)	ns
t _{ac2} (RD-DB)	データ入力アクセス時間（ウエイトあり）		(注)	ns
t _{ac3} (RD-DB)	データ入力アクセス時間（マルチプレクスバス領域をアクセスした場合）		(注)	ns
t _{su} (DB-RD)	データ入力セットアップ時間	40		ns
t _{su} (RDY-BCLK)	RDY入力セットアップ時間	30		ns
t _{su} (HOLD-BCLK)	HOLD入力セットアップ時間	40		ns
t _h (RD-DB)	データ入力ホールド時間	0		ns
t _h (BCLK-RDY)	RDY入力ホールド時間	0		ns
t _h (BCLK-HOLD)	HOLD入力ホールド時間	0		ns
t _d (BCLK-HLDA)	HLDA出力遅延時間		40	ns

注. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$t_{ac1}(\text{RD} - \text{DB}) = \frac{10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} - 45 \quad [\text{ns}]$$

$$t_{ac2}(\text{RD} - \text{DB}) = \frac{3 \times 10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} - 45 \quad [\text{ns}]$$

$$t_{ac3}(\text{RD} - \text{DB}) = \frac{3 \times 10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} - 45 \quad [\text{ns}]$$

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表5.7.3 タイマB入力(イベントカウンタモードのカウンタ入力)

(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25)

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _c (TB)	TBiIN 入力サイクル時間(片エッジカウント)	100		ns
t _w (TBH)	TBiIN 入力 "H" パルス幅(片エッジカウント)	40		ns
t _w (TBL)	TBiIN 入力 "L" パルス幅(片エッジカウント)	40		ns
t _c (TB)	TBiIN 入力サイクル時間(両エッジカウント)	200		ns
t _w (TBH)	TBiIN 入力 "H" パルス幅(両エッジカウント)	80		ns
t _w (TBL)	TBiIN 入力 "L" パルス幅(両エッジカウント)	80		ns

表5.7.4 タイマB入力(パルス周期測定モード)

(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25)

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _c (TB)	TBiIN入力サイクル時間	400		ns
t _w (TBH)	TBiIN入力 "H" パルス幅	200		ns
t _w (TBL)	TBiIN入力 "L" パルス幅	200		ns

表5.7.5 タイマB入力(パルス幅測定モード)

(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25)

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _c (TB)	TBiIN入力サイクル時間	400		ns
t _w (TBH)	TBiIN入力 "H" パルス幅	200		ns
t _w (TBL)	TBiIN入力 "L" パルス幅	200		ns

表5.7.6 シリアルI/O(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25)

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _c (CK)	CLKi入力サイクル時間	200		ns
t _w (CKH)	CLKi入力 "H" パルス幅	100		ns
t _w (CKL)	CLKi入力 "L" パルス幅	100		ns
t _d (C-Q)	TxDi出力遅延時間		80	ns
t _h (C-Q)	TxDiホールド時間	0		ns
t _{su} (D-C)	RxDi入力セットアップ時間	30		ns
t _h (C-D)	RxDi入力ホールド時間	90		ns

表5.7.7 外部割り込みINTi入力(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25)

記号	項目	規格値		単位
		最小	最大	
t _w (INH)	$\overline{\text{INTi}}$ 入力 "H" パルス幅	250		ns
t _w (INL)	$\overline{\text{INTi}}$ 入力 "L" パルス幅	250		ns

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5.8 スイッチング特性

表5.8.1 メモリ拡張モード及びマイクロプロセッサモード(ウエイトなしの場合)

(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25 , CM15= “ 1 ”)

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	最大	
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間	図5.9.1		35	ns
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間 (RD基準)		0		ns
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間 (WR基準)		0		ns
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
td(BCLK-ALE)	ALE信号出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-ALE)	ALE信号出力保持時間		- 4		ns
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間 (BCLK基準)			40	ns
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
td(DB-WR)	データ出力遅延時間 (WR基準)		(注1)		ns
th(WR-DB)	データ出力保持時間 (WR基準) (注2)		0		ns

注1. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$td(DB - WR) = \frac{10^9}{f(BCLK) \times 2} - 40 \quad [ns]$$

2. この規格値は出力がオフするタイミングを示しており、データバスの保持時間を示すものではありません。データバスの保持時間は付加容量やプルアップ(プルダウン)抵抗値によって異なります。

右図の回路でデータバスの保持時間は、

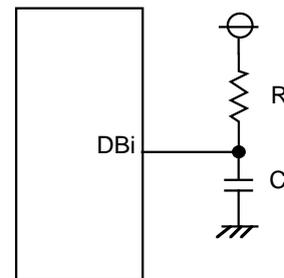
$$t = -CR \times \ln(1 - VOL / VCC)$$

で表されます。

例えば、VOL = 0.2Vcc、C = 30pF、R = 1k とすると、出力 “ L ” レベルの保持時間は、

$$t = -30pF \times 1k \times \ln(1 - 0.2Vcc / Vcc) = 6.7ns$$

となります。



三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表5.8.2 メモリ拡張モード及びマイクロプロセッサモード(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスした場合)
(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25 , CM15= " 1 ")

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	最大	
td(BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間	図5.9.1		35	ns
th(BCLK-AD)	アドレス出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
th(RD-AD)	アドレス出力保持時間 (RD基準)		0		ns
th(WR-AD)	アドレス出力保持時間 (WR基準)		0		ns
td(BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
td(BCLK-ALE)	ALE信号出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-ALE)	ALE信号出力保持時間		- 4		ns
td(BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-RD)	RD信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間			35	ns
th(BCLK-WR)	WR信号出力保持時間		0		ns
td(BCLK-DB)	データ出力遅延時間 (BCLK基準)			40	ns
th(BCLK-DB)	データ出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
td(DB-WR)	データ出力遅延時間 (WR基準)		(注1)		ns
th(WR-DB)	データ出力保持時間 (WR基準) (注2)		0		ns

注1. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$td(DB - WR) = \frac{10^9}{f(BCLK)} - 40 \quad [ns]$$

2. この規格値は出力がオフするタイミングを示しており、データバスの保持時間を示すものではありません。データバスの保持時間は付加容量やプルアップ(プルダウン)抵抗値によって異なります。

右図の回路でデータバスの保持時間は、

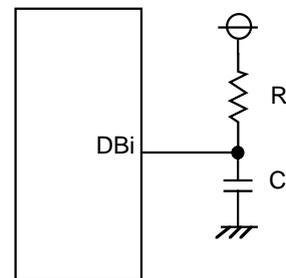
$$t = -CR \times \ln(1 - VOL / VCC)$$

で表されます。

例えば、VOL = 0.2Vcc、C = 30pF、R = 1k とすると、

$$t = -30pF \times 1k \times \ln(1 - 0.2Vcc / Vcc) = 6.7ns$$

となります。



三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

表5.8.3 メモリ拡張モード及びマイクロプロセッサモード

(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスし、かつマルチプレクスバス領域を選択した場合)

(指定のない場合は、Vcc=5V, Vss=0V, Ta=25 , CM15= “ 1 ”)

記号	項目	測定条件	規格値		単位
			最小	最大	
t _d (BCLK-AD)	アドレス出力遅延時間	図5.9.1		35	ns
t _h (BCLK-AD)	アドレス出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
t _h (RD-AD)	アドレス出力保持時間 (RD基準)		(注)		ns
t _h (WR-AD)	アドレス出力保持時間 (WR基準)		(注)		ns
t _d (BCLK-CS)	チップセレクト出力遅延時間			35	ns
t _h (BCLK-CS)	チップセレクト出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
t _h (RD-CS)	チップセレクト出力保持時間 (RD基準)		(注)		ns
t _h (WR-CS)	チップセレクト出力保持時間 (WR基準)		(注)		ns
t _d (BCLK-RD)	RD信号出力遅延時間			35	ns
t _h (BCLK-RD)	RD信号出力保持時間		0		ns
t _d (BCLK-WR)	WR信号出力遅延時間			35	ns
t _h (BCLK-WR)	WR信号出力保持時間		0		ns
t _d (BCLK-DB)	データ出力遅延時間 (BCLK基準)			40	ns
t _h (BCLK-DB)	データ出力保持時間 (BCLK基準)		4		ns
t _d (DB-WR)	データ出力遅延時間 (WR基準)		(注)		ns
t _h (WR-DB)	データ出力保持時間 (WR基準)		(注)		ns
t _d (BCLK-ALE)	ALE出力遅延時間 (BCLK基準)			35	ns
t _h (BCLK-ALE)	ALE出力保持時間 (BCLK基準)		- 4		ns
t _d (AD-ALE)	ALE出力遅延時間 (アドレス基準)		(注)		ns
t _h (ALE-AD)	ALE出力保持時間 (アドレス基準)		30		ns
t _d (AD-RD)	アドレス後RD信号出力遅延時間	0		ns	
t _d (AD-WR)	アドレス後WR信号出力遅延時間	0		ns	
t _{dZ} (RD-AD)	アドレス出力フローティング開始時間		8	ns	

注. BCLKの周波数に応じて次の計算式で算出されます。

$$t_h(\text{RD} - \text{AD}) = \frac{10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} \quad [\text{ns}]$$

$$t_h(\text{WR} - \text{AD}) = \frac{10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} \quad [\text{ns}]$$

$$t_h(\text{RD} - \text{CS}) = \frac{10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} \quad [\text{ns}]$$

$$t_h(\text{WR} - \text{CS}) = \frac{10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} \quad [\text{ns}]$$

$$t_d(\text{DB} - \text{WR}) = \frac{10^9 \times 3}{f(\text{BCLK}) \times 2} - 40 \quad [\text{ns}]$$

$$t_h(\text{WR} - \text{DB}) = \frac{10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} \quad [\text{ns}]$$

$$t_d(\text{AD} - \text{ALE}) = \frac{10^9}{f(\text{BCLK}) \times 2} - 25 \quad [\text{ns}]$$

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5.9 測定回路

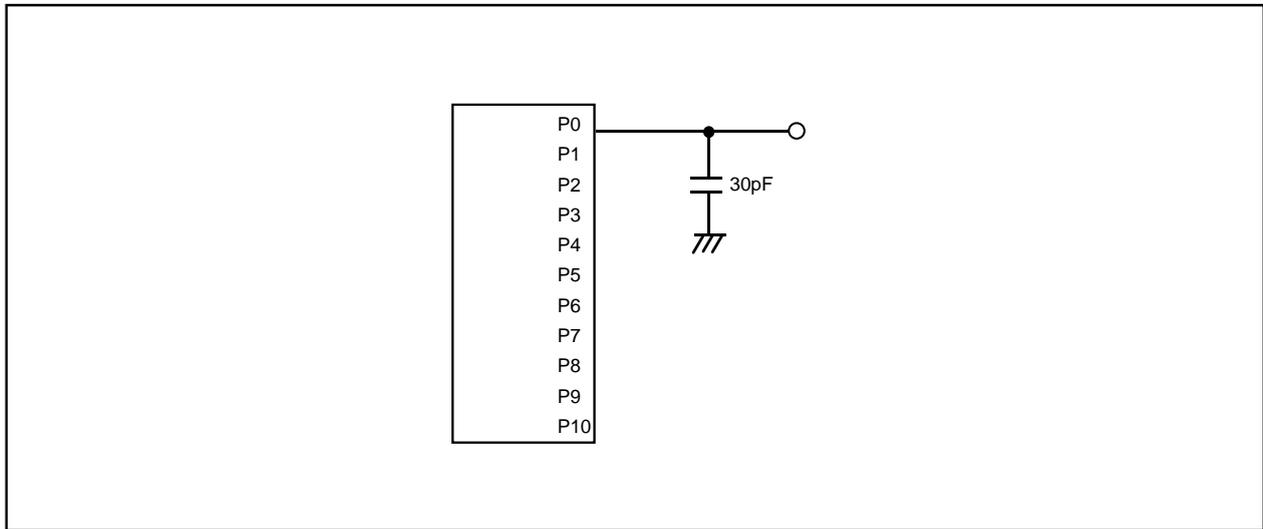


図5.9.1 ポートP0～P10の測定回路

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

5.10 タイミング図

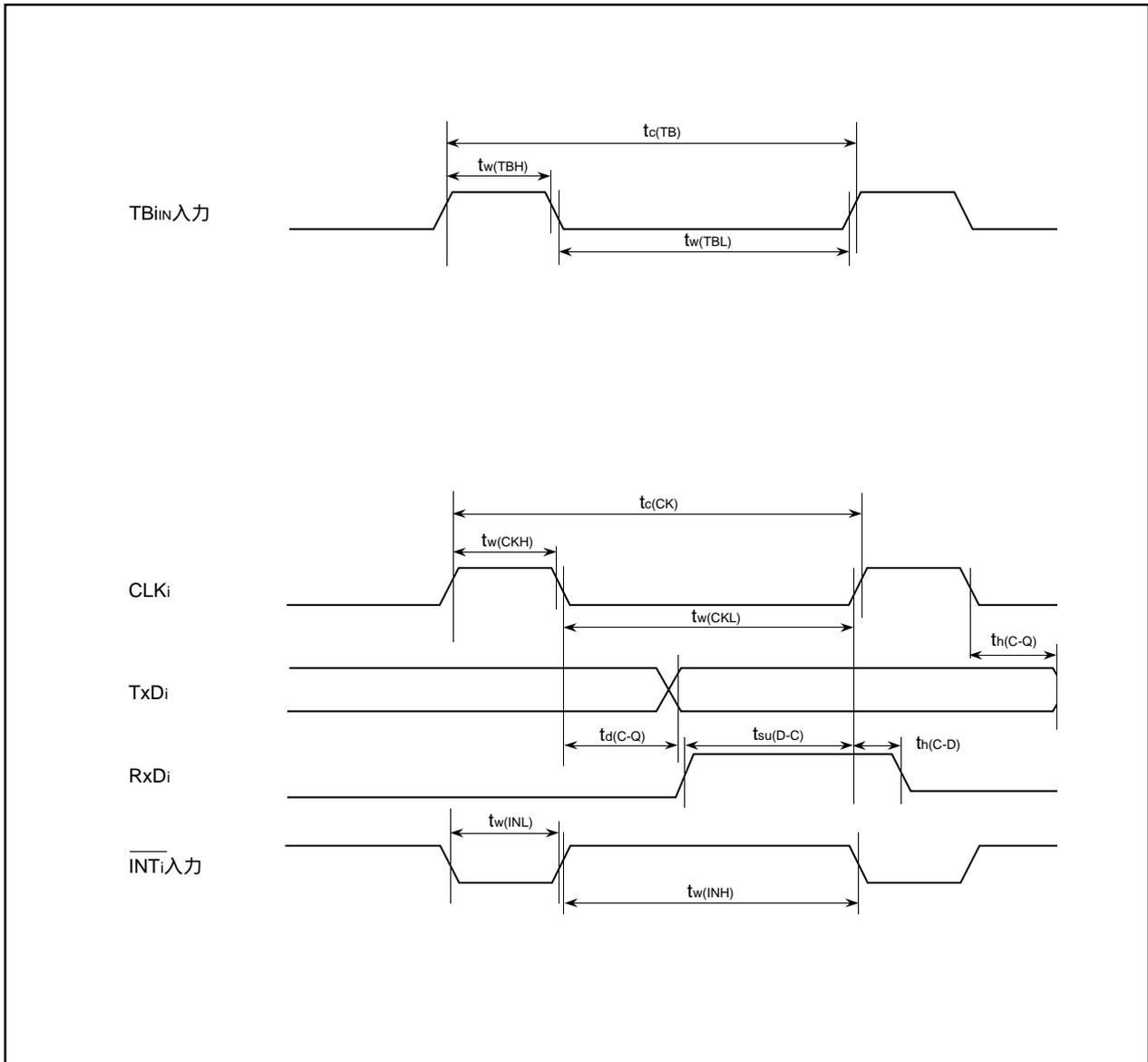


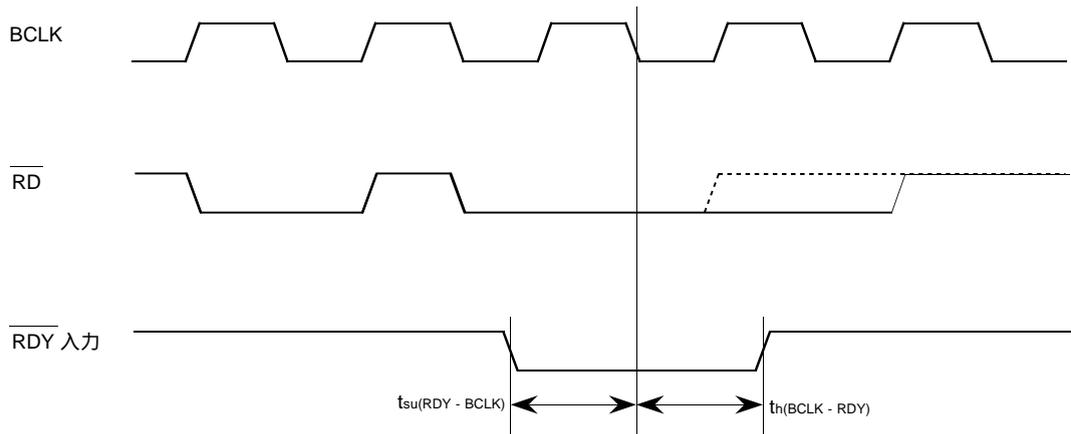
図5.10.1 タイミング図

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

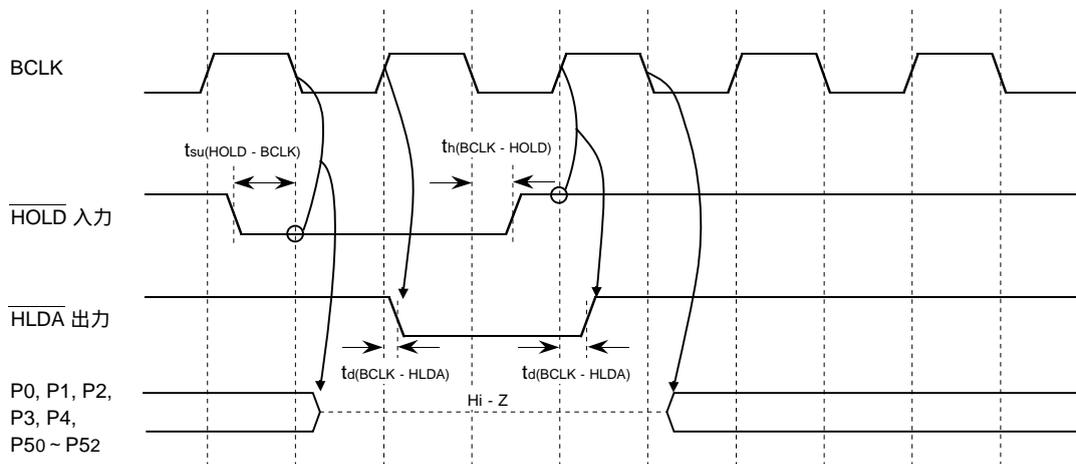
SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

メモリ拡張モード及びマイクロプロセッサモード

(ウエイトありの場合のみ有効)



(ウエイトあり、なし共通)



注. BYTE端子の入カレベル、プロセッサモードレジスタ0のポートP4₀~P4₃機能選択ビット(PM06)にかかわらず上記ピンはすべてハイインピーダンス状態になります。

測定条件

- V_{CC}=5V
- 入力タイミング電圧 : V_{IL}=1.0V, V_{IH}=4.0V
- 出力タイミング電圧 : V_{OL}=2.5V, V_{OH}=2.5V

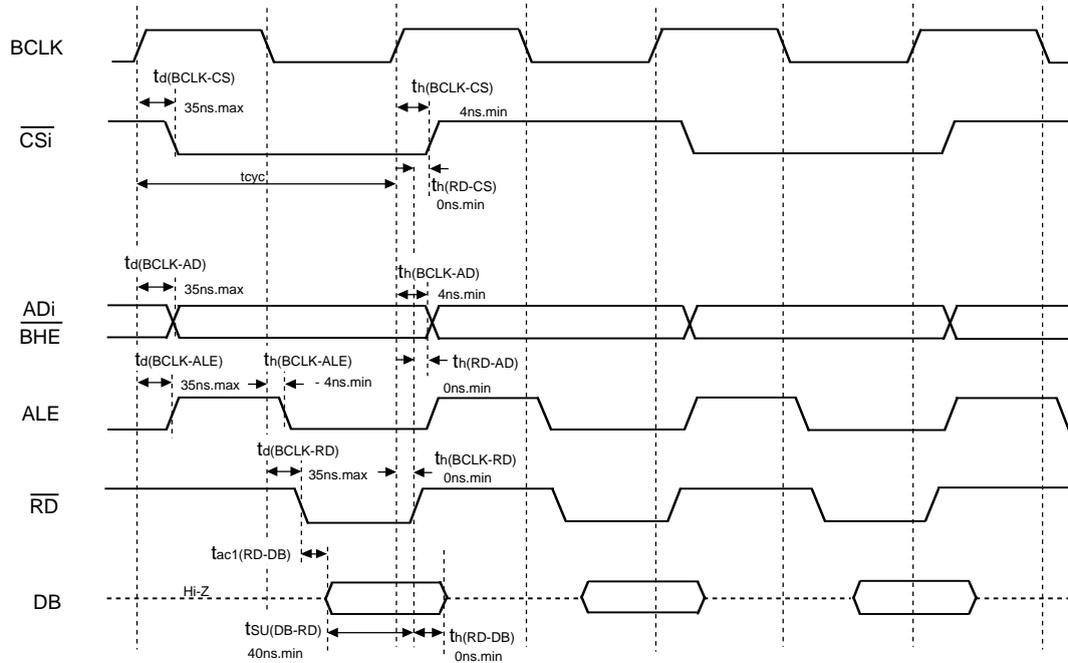
図5.10.2 メモリ拡張モード時及びマイクロプロセッサモード時のタイミング図(1)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

メモリ拡張モード及びマイクロプロセッサモード(ウエイトなしの場合)

読み出しタイミング



書き込みタイミング

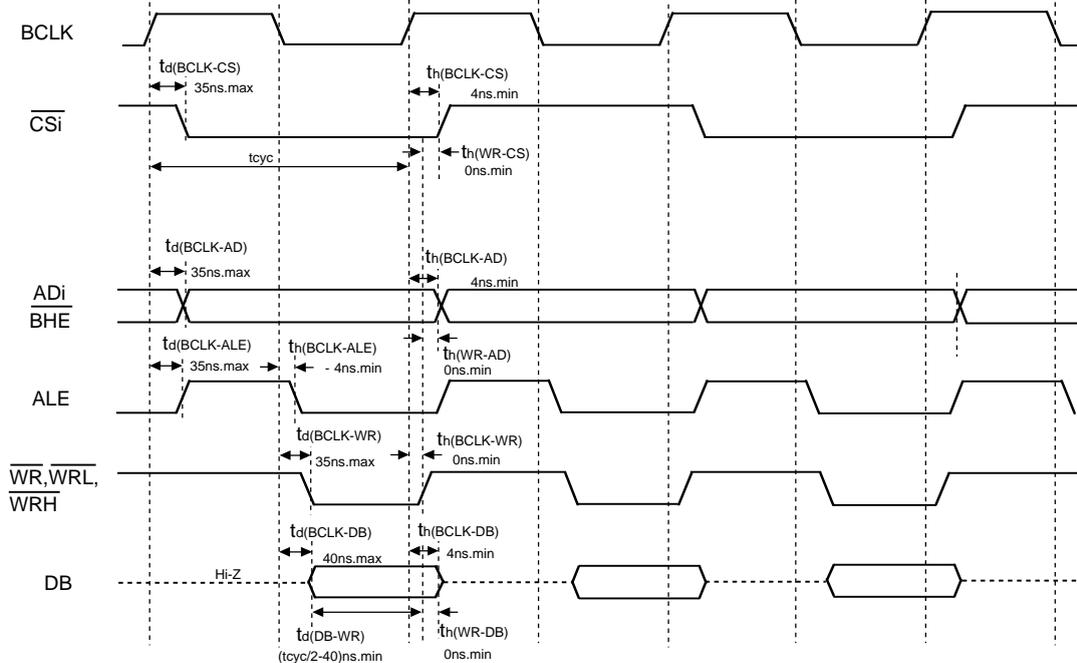


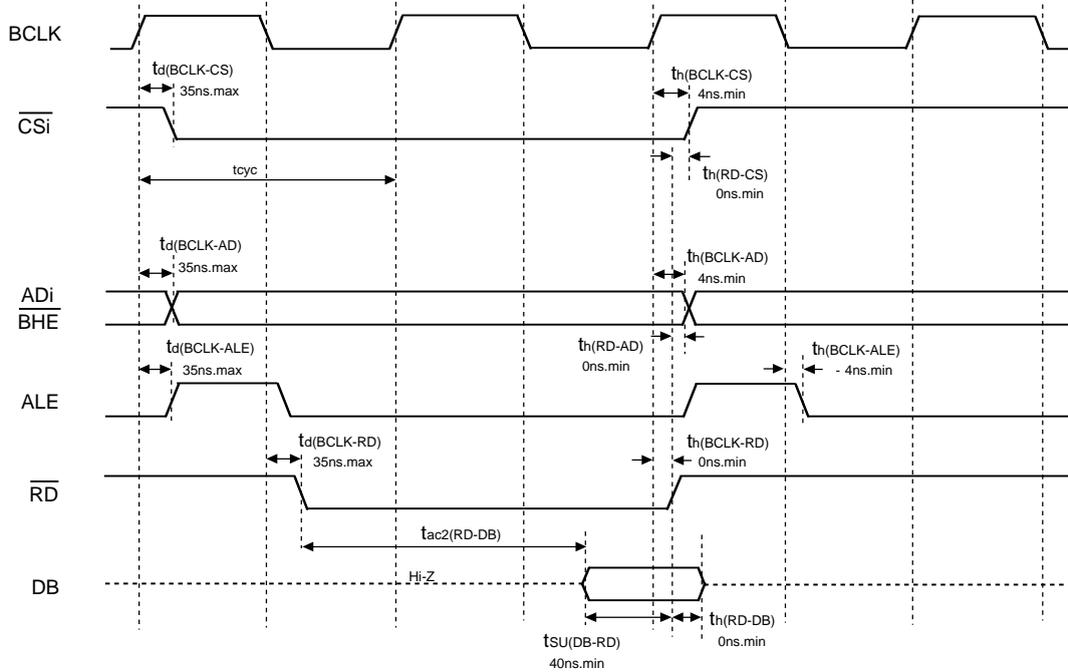
図5.10.3 メモリ拡張モード時及びマイクロプロセッサモード時のタイミング図(2)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

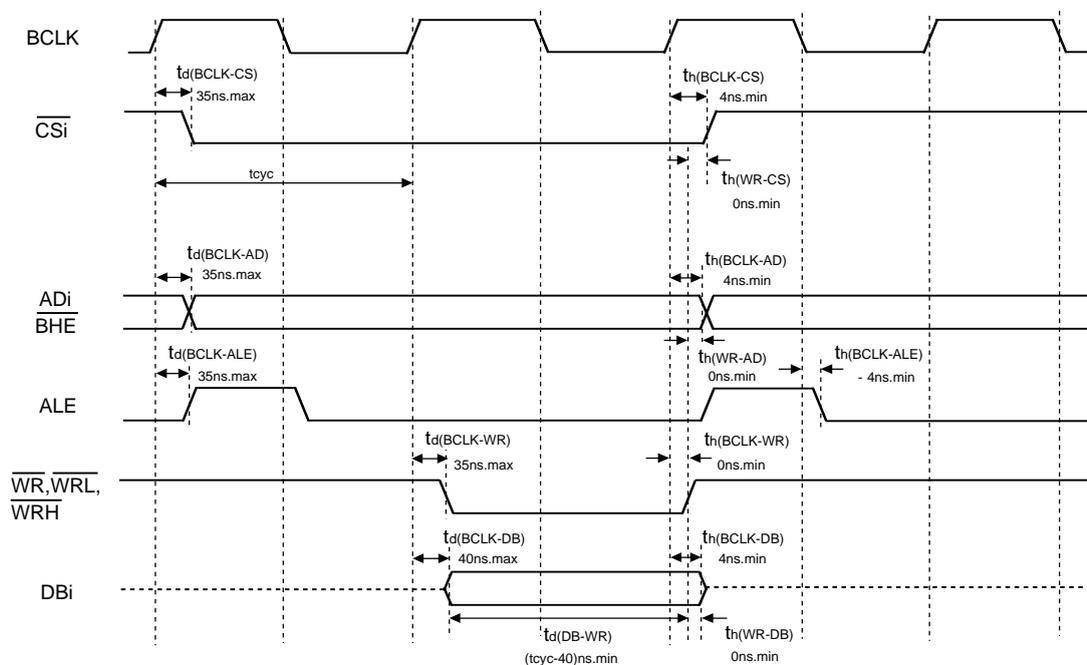
SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

メモリ拡張モード及びマイクロプロセッサモード
(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスした場合)

読み出し時



書き込み時



測定条件

- ・ $V_{CC}=5V$
- ・ 入力タイミング電圧 : $V_{IL}=0.8V, V_{IH}=2.5V$
- ・ 出力タイミング電圧 : $V_{OL}=0.8V, V_{OH}=2.0V$

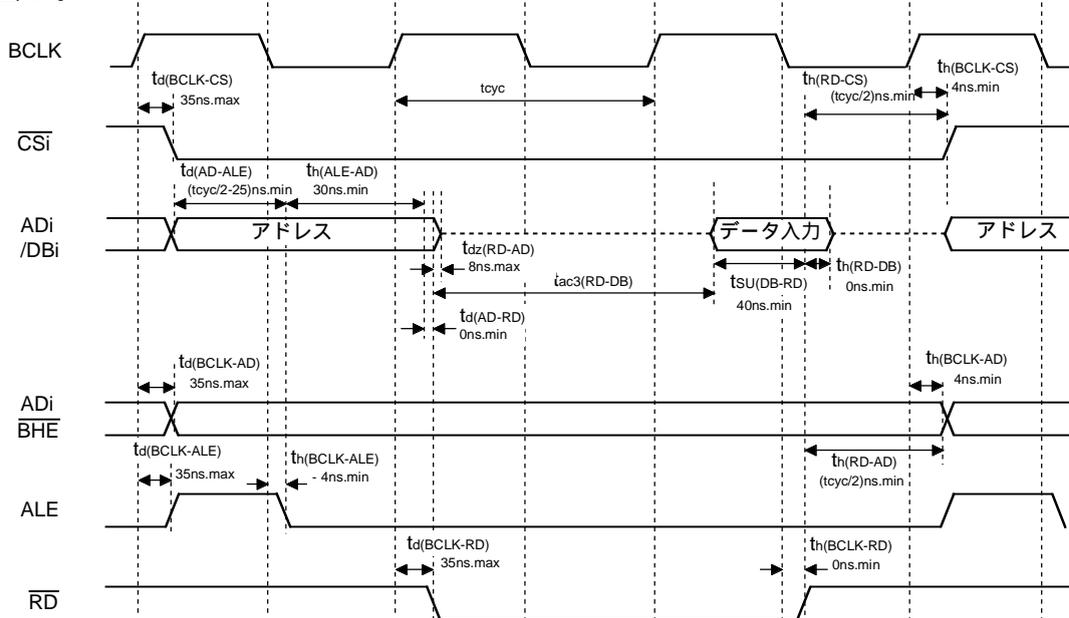
図5.10.4 メモリ拡張モード時及びマイクロプロセッサモード時のタイミング図(3)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

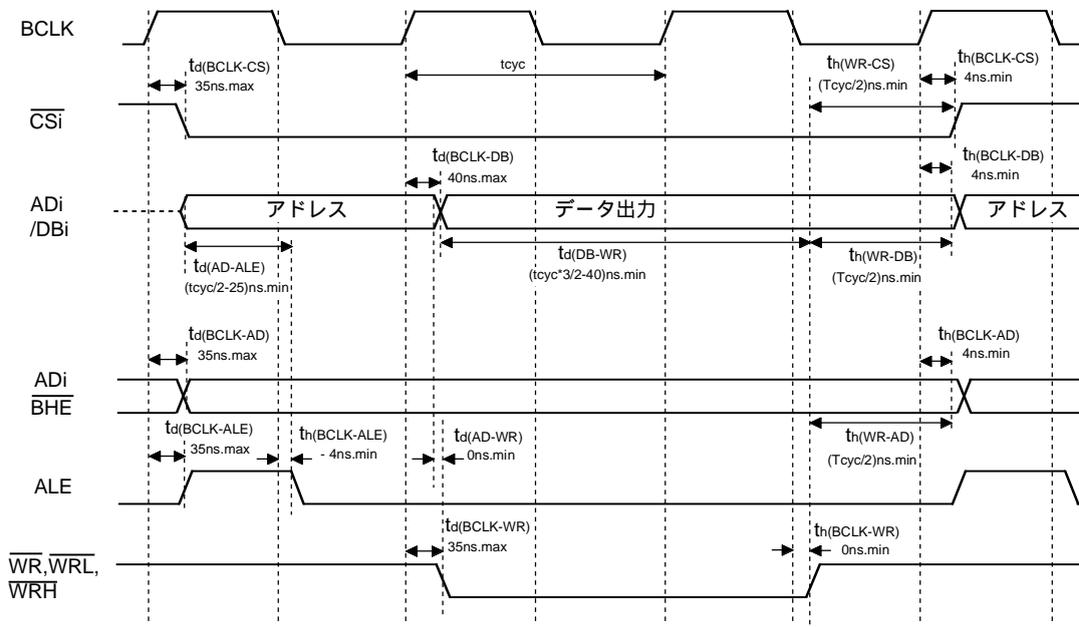
SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

メモリ拡張モード及びマイクロプロセッサモード
(ウエイトあり、外部メモリ領域をアクセスし、かつマルチプレクスバスを使用した場合)

読み出し時



書き込み時



測定条件

- ・ $V_{CC}=5V$
- ・ 入力タイミング電圧: $V_{IL}=0.8V, V_{IH}=2.5V$
- ・ 出力タイミング電圧: $V_{OL}=0.8V, V_{OH}=2.0V$

図5.10.5 メモリ拡張モード時及びマイクロプロセッサモード時のタイミング図(4)

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

6. マスク化確認書

GZZ-SH56-54A<94A0>

三菱シングルチップ16ビットマイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
マスク化確認書

マスクROM番号	
----------	--

受 付 欄	年	月	日
	課長印	担当者印	

(注) 印をすべて記入ください。

貴社 記入欄	貴社名	殿 TEL ()	発 行 印	責任者印	担当者印
	発行日	年 月 日			

1. ご確認表

発注される品種名および提出いただくEPROM、またはフロッピーディスクを指定してください。

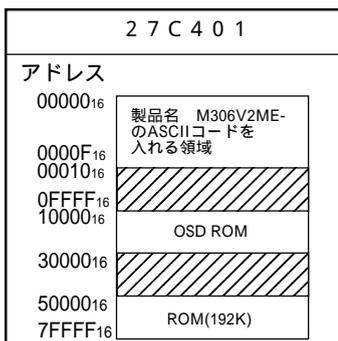
EPROMで発注される場合は1パターン当たりEPROMが3セット必要です。フロッピーディスクで発注される場合1パターン当たりフロッピーディスクが1枚必要になります。

EPROMの場合

当社では提出いただいた3セットのEPROMの内、少なくとも2セットの内容が同一であれば、この内容のデータによってマスク作成を行います。したがって、このデータと生産される製品に焼きつけられるROMデータが異なる場合のみ当社はその責を負います。提出いただくEPROMデータの内容については十分に確認をお願いします。

EPROMの全領域のチェックサムコード (16進表示)

EPROMの種類



- (1) 00000₁₆ ~ 0000F₁₆番地は製品形名のデータ格納領域です。
 'M306V2ME-' のASCIIコードを右記に示しますので、00000₁₆ ~ 0000F₁₆番地には必ず右記のデータを書き込んでください。
 番地、データとも16進表記です。
- (2) 斜線部分には "FF₁₆" を入れてください。

アドレス	
00000 ₁₆	' M ' = 4D ₁₆
00001 ₁₆	' 3 ' = 33 ₁₆
00002 ₁₆	' 0 ' = 30 ₁₆
00003 ₁₆	' 6 ' = 36 ₁₆
00004 ₁₆	' V ' = 56 ₁₆
00005 ₁₆	' 2 ' = 32 ₁₆
00006 ₁₆	' M ' = 4D ₁₆
00007 ₁₆	' E ' = 45 ₁₆

アドレス	
00008 ₁₆	' - ' = 2D ₁₆
00009 ₁₆	FF ₁₆
0000A ₁₆	FF ₁₆
0000B ₁₆	FF ₁₆
0000C ₁₆	FF ₁₆
0000D ₁₆	FF ₁₆
0000E ₁₆	FF ₁₆
0000F ₁₆	FF ₁₆

(1/4)

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

GZZ-SH56-54A<94A0>

マスクROM番号	
----------	--

三菱シングルチップ16ビットマイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
マスク化確認書

- (3) OSD ROM領域の以下のテストフォント用アドレスには必ず“FF₁₆”を格納してください。
なお、当社指定のOSDフォントエディタでOSD ROMデータを生成した場合、このテストフォント用アドレス
には自動的に“FF₁₆”が設定されます。

(下記アドレスは全て16進表記)

100FE	120FE	140FE	160FE	18002	1A002	1C002	1E002	20400	20401	20600	20601	213F8	213F9	213FC	213FD
100FF	120FF	140FF	160FF	18003	1A003	1C003	1E003	21400	21401	21600	21601	223F8	223F9	223FC	223FD
101FE	121FE	141FE	161FE	18102	1A102	1C102	1E102	22400	22401	22600	22601	233F8	233F9	233FC	233FD
101FF	121FF	141FF	161FF	18103	1A103	1C103	1E103	23400	23401	23600	23601	243F8	243F9	243FC	243FD
102FE	122FE	142FE	162FE	18202	1A202	1C202	1E202	24400	24401	24600	24601	253F8	253F9	253FC	253FD
102FF	122FF	142FF	162FF	18203	1A203	1C203	1E203	25400	25401	25600	25601	263F8	263F9	263FC	263FD
103FE	123FE	143FE	163FE	18302	1A302	1C302	1E302	26400	26401	26600	26601	273F8	273F9	273FC	273FD
103FF	123FF	143FF	163FF	18303	1A303	1C303	1E303	27400	27401	27600	27601	283F8	283F9	283FC	283FD
104FE	124FE	144FE	164FE	18402	1A402	1C402	1E402	28400	28401	28600	28601	293F8	293F9	293FC	293FD
104FF	124FF	144FF	164FF	18403	1A403	1C403	1E403	29400	29401	29600	29601	2A3F8	2A3F9	2A3FC	2A3FD
105FE	125FE	145FE	165FE	18502	1A502	1C502	1E502	2A400	2A401	2A600	2A601	21BF8	21BF9	21BFC	21BFD
105FF	125FF	145FF	165FF	18503	1A503	1C503	1E503	2B400	2B401	2B600	2B601	22BF8	22BF9	22BFC	22BFD
106FE	126FE	146FE	166FE	18602	1A602	1C602	1E602	2C400	2C401	2C600	2C601	23BF8	23BF9	23BFC	23BFD
106FF	126FF	146FF	166FF	18603	1A603	1C603	1E603	2D400	2D401	2D600	2D601	24BF8	24BF9	24BFC	24BFD
107FE	127FE	147FE	167FE	18702	1A702	1C702	1E702	2E400	2E401	2E600	2E601	25BF8	25BF9	25BFC	25BFD
107FF	127FF	147FF	167FF	18703	1A703	1C703	1E703	2F400	2F401	2F600	2F601	26BF8	26BF9	26BFC	26BFD
108FE	128FE	148FE	168FE	18802	1A802	1C802	1E802	20C00	20C01	20E00	20E01	27BF8	27BF9	27BFC	27BFD
108FF	128FF	148FF	168FF	18803	1A803	1C803	1E803	21C00	21C01	21E00	21E01	28BF8	28BF9	28BFC	28BFD
109FE	129FE	149FE	169FE	18902	1A902	1C902	1E902	22C00	22C01	22E00	22E01	29BF8	29BF9	29BFC	29BFD
109FF	129FF	149FF	169FF	18903	1A903	1C903	1E903	23C00	23C01	23E00	23E01	2ABF8	2ABF9	2ABFC	2ABFD
10AFE	12AFE	14AFE	16AFE	18A02	1AA02	1CA02	1EA02	24C00	24C01	24E00	24E01				
10AFF	12AFF	14AFF	16AFF	18A03	1AA03	1CA03	1EA03	25C00	25C01	25E00	25E01				
10BFE	12BFE	14BFE	16BFE	18B02	1AB02	1CB02	1EB02	26C00	26C01	26E00	26E01				
10BFF	12BFF	14BFF	16BFF	18B03	1AB03	1CB03	1EB03	27C00	27C01	27E00	27E01				
10CFE	12CFE	14CFE	16CFE	18C02	1AC02	1CC02	1EC02	28C00	28C01	28E00	28E01				
10CFF	12CFF	14CFF	16CFF	18C03	1AC03	1CC03	1EC03	29C00	29C01	29E00	29E01				
10DFE	12DFE	14DFE	16DFE	18D02	1AD02	1CD02	1ED02	2AC00	2AC01	2AE00	2AE01				
10DFF	12DFF	14DFF	16DFF	18D03	1AD03	1CD03	1ED03	2BC00	2BC01	2BE00	2BE01				
10EFE	12EFE	14EFE	16EFE	18E02	1AE02	1CE02	1EE02	2CC00	2CC01	2CE00	2CE01				
10EFF	12EFF	14EFF	16EFF	18E03	1AE03	1CE03	1EE03	2DC00	2DC01	2DE00	2DE01				
10FFE	12FFE	14FFE	16FFE	18F02	1AF02	1CF02	1EF02	2EC00	2EC01	2EE00	2EE01				
10FFF	12FFF	14FFF	16FFF	18F03	1AF03	1CF03	1EF03	2FC00	2FC01	2FE00	2FE01				
110FE	130FE	150FE	170FE	19002	1B002	1D002	1F002	10000	10800	10001	10801				
110FF	130FF	150FF	170FF	19003	1B003	1D003	1F003	11000	11800	11001	11801				
111FE	131FE	151FE	171FE	19102	1B102	1D102	1F102	12000	12800	12001	12801				
111FF	131FF	151FF	171FF	19103	1B103	1D103	1F103	13000	13800	13001	13801				
112FE	132FE	152FE	172FE	19202	1B202	1D202	1F202	14000	14800	14001	14801				
112FF	132FF	152FF	172FF	19203	1B203	1D203	1F203	15000	15800	15001	15801				
113FE	133FE	153FE	173FE	19302	1B302	1D302	1F302	16000	16800	16001	16801				
113FF	133FF	153FF	173FF	19303	1B303	1D303	1F303	17000	17800	17001	17801				
114FE	134FE	154FE	174FE	19402	1B402	1D402	1F402	18000	18800	18001	18801				
114FF	134FF	154FF	174FF	19403	1B403	1D403	1F403	19000	19800	19001	19801				
115FE	135FE	155FE	175FE	19502	1B502	1D502	1F502	1A000	1A800	1A001	1A801				
115FF	135FF	155FF	175FF	19503	1B503	1D503	1F503	1B000	1B800	1B001	1B801				
116FE	136FE	156FE	176FE	19602	1B602	1D602	1F602	1C000	1C800	1C001	1C801				
116FF	136FF	156FF	176FF	19603	1B603	1D603	1F603	1D000	1D800	1D001	1D801				
117FE	137FE	157FE	177FE	19702	1B702	1D702	1F702	1E000	1E800	1E001	1E801				
117FF	137FF	157FF	177FF	19703	1B703	1D703	1F703	1F000	1F800	1F001	1F801				
118FE	138FE	158FE	178FE	19802	1B802	1D802	1F802								
118FF	138FF	158FF	178FF	19803	1B803	1D803	1F803								
119FE	139FE	159FE	179FE	19902	1B902	1D902	1F902								
119FF	139FF	159FF	179FF	19903	1B903	1D903	1F903								

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

GZZ-SH56-54A<94A0>

マスクROM番号

三菱シングルチップ16ビットマイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
マスク化確認書

アセンブラソースプログラムの先頭に、下表に示す疑似命令を記述することにより、EPROMの00000₁₆ ~ 0000F₁₆番地に形名のASCIIコードを書き込むことができますのでご利用ください。

EPROMの種類	27C401
ソースプログラム への記述	.SECTION ASCII CODE, ROM DATA .ORG 080000H .BYTE ' M306V2ME- '

(注) EPROMに書き込まれた形名とマスク化確認書の形名が一致しない場合、ROM処理ができませんので正確に形名記入をお願いします。

フロッピーディスクの場合

当社では提出いただいたフロッピーディスクのファイルの内、マスクファイル生成ユーティリティで生成されたマスクファイル処理してマスク化を行います。したがって、このマスクファイルと生産される製品に焼きつけられるROMデータが異なる場合のみ当社はその責を負います。提出いただくマスクファイルの内容については十分に確認をお願いします。

用意していただくフロッピーディスクは3.5インチ2HD (IBMフォーマット) です。また、フロッピーディスクに収めるマスクファイルは一つだけにしてください。

ファイルコード

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

(16進表示)

マスクファイル名

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

.MSK(英数字8桁)

(注) フロッピーディスクで提出いただく場合は、00000₁₆から0000F₁₆番地に製品形名のデータを格納しないでください。

2. マーク指定

マーク指定はパッケージの形状により異なります。別紙のマーク指定書(パッケージ別)にご記入の上、本マスク化確認書に添付して提出ください。

M306V2ME-XXXFPは100P6Sのマーク指定書を提出ください。

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

GZZ-SH56-54A<94A0>

マスクROM番号	
----------	--

三菱シングルチップ16ビットマイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
マスク化確認書

3. 使用条件について

当社製品検査の参考とさせていただきますので、発注される製品の使用条件について質問します。

(1) X_{IN} - X_{OUT} 発振回路は次のどの条件で使用されますか。

セラミック共振子 水晶発振子
外部クロック入力 その他()

またその周波数は何MHzですか。

$f(X_{IN}) =$ MHz

(2) X_{CIN} - X_{COUT} 発振回路は次のどの条件で使用されますか。

セラミック共振子 水晶発振子
外部クロック入力 その他()

またその周波数は何kHzですか。

$f(X_{CIN}) =$ kHz

(3) マイコンの使用動作モードは次のどの条件で使用されますか。

シングルチップモード メモリ拡張モード
マイクロプロセッサモード

ご協力ありがとうございました。

4. 特記事項

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

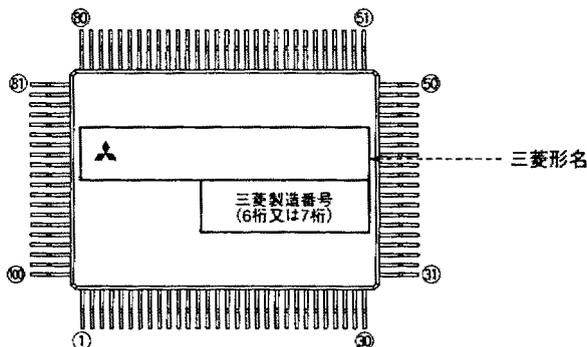
7. マーク指定書

100P6S (100ピンQFP) マーク指定書

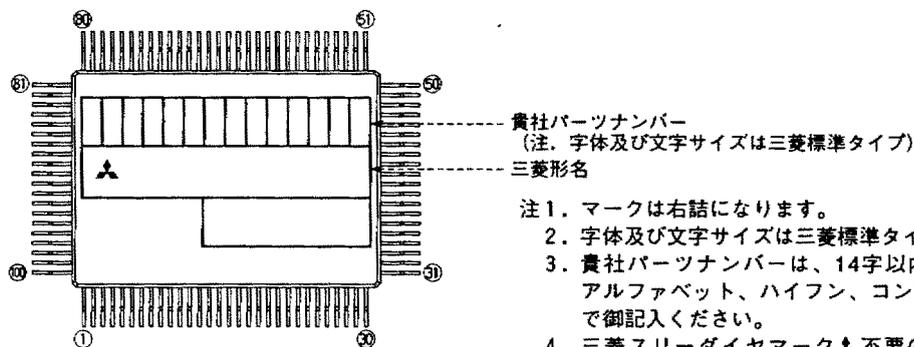
三菱 IC 形名

下記マーキングタイプ (A, B, C) のいずれかを御選択の上、マーキングスペースに三菱形名及び貴社御必要マークを御記入ください。

A. 三菱標準マーク



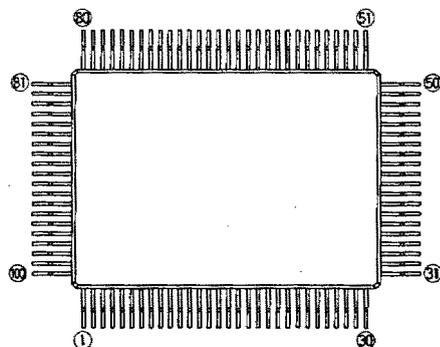
B. 貴社パーツナンバー + 三菱形名



- 注1. マークは右詰になります。
- 注2. 字体及び文字サイズは三菱標準タイプになります。
- 注3. 貴社パーツナンバーは、14字以内で数字、大文字アルファベット、ハイフン、コンマ、ピリオドなどで御記入ください。
- 注4. 三菱スリーダイヤマーク 不要の場合は、下欄にチェックをお願いします。

不要

C. 特殊マーク



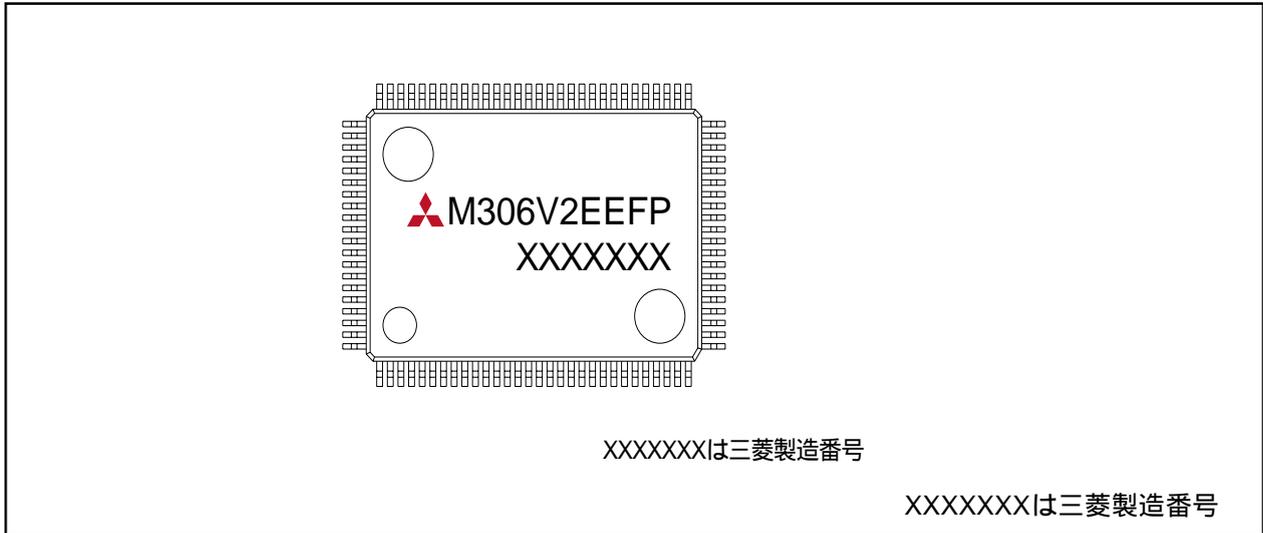
- 注1. 貴社で御希望のマーク配列を左図に御記入ください。これを元に当社において配列を検討致します。なお、製品分類のため三菱製造番号 (6桁又は7桁) とマスクROM番号 (3桁) は常にマークさせていただきますので御了承ください。
- 注2. 貴社商標などを御希望の場合は下欄にチェックをお願いします。また、新規特殊字体の場合は、コピーなどではない鮮明なロゴ図面原紙の御提出をお願いします。

貴社商標等希望

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

8. ワンタイムPROM版M306V2EEFPマーキング図



三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
 and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

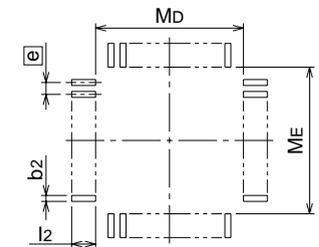
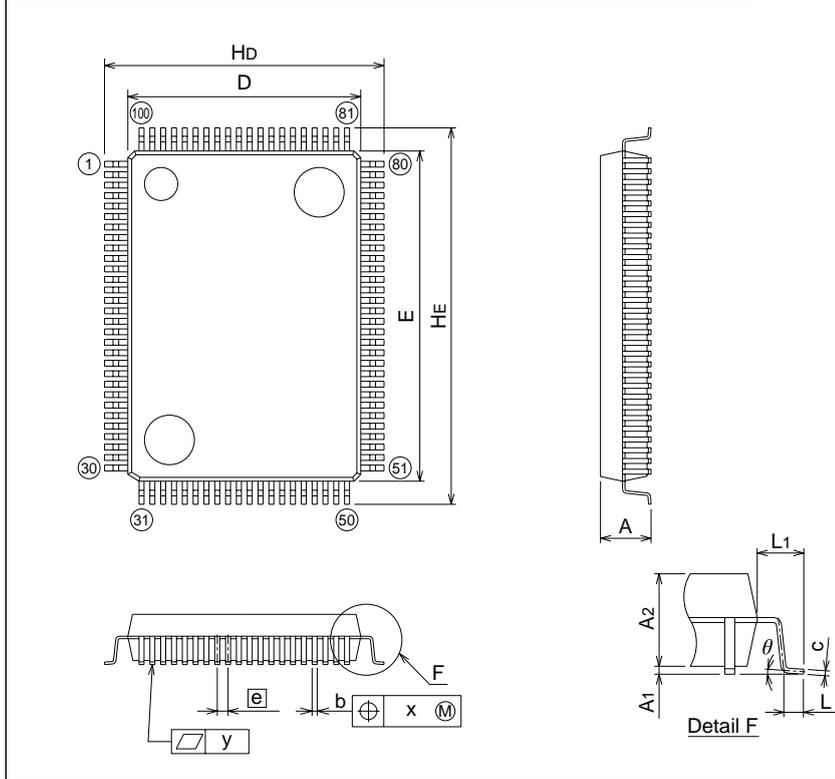
9. パッケージ寸法図

100P6S-A

(MMP)

Plastic 100pin 14X20mm body QFP

EIAJ Package Code	JEDEC Code	Weight(g)	Lead Material
QFP100-P-1420-0.65	-	1.58	Alloy 42



Recommended Mount Pad

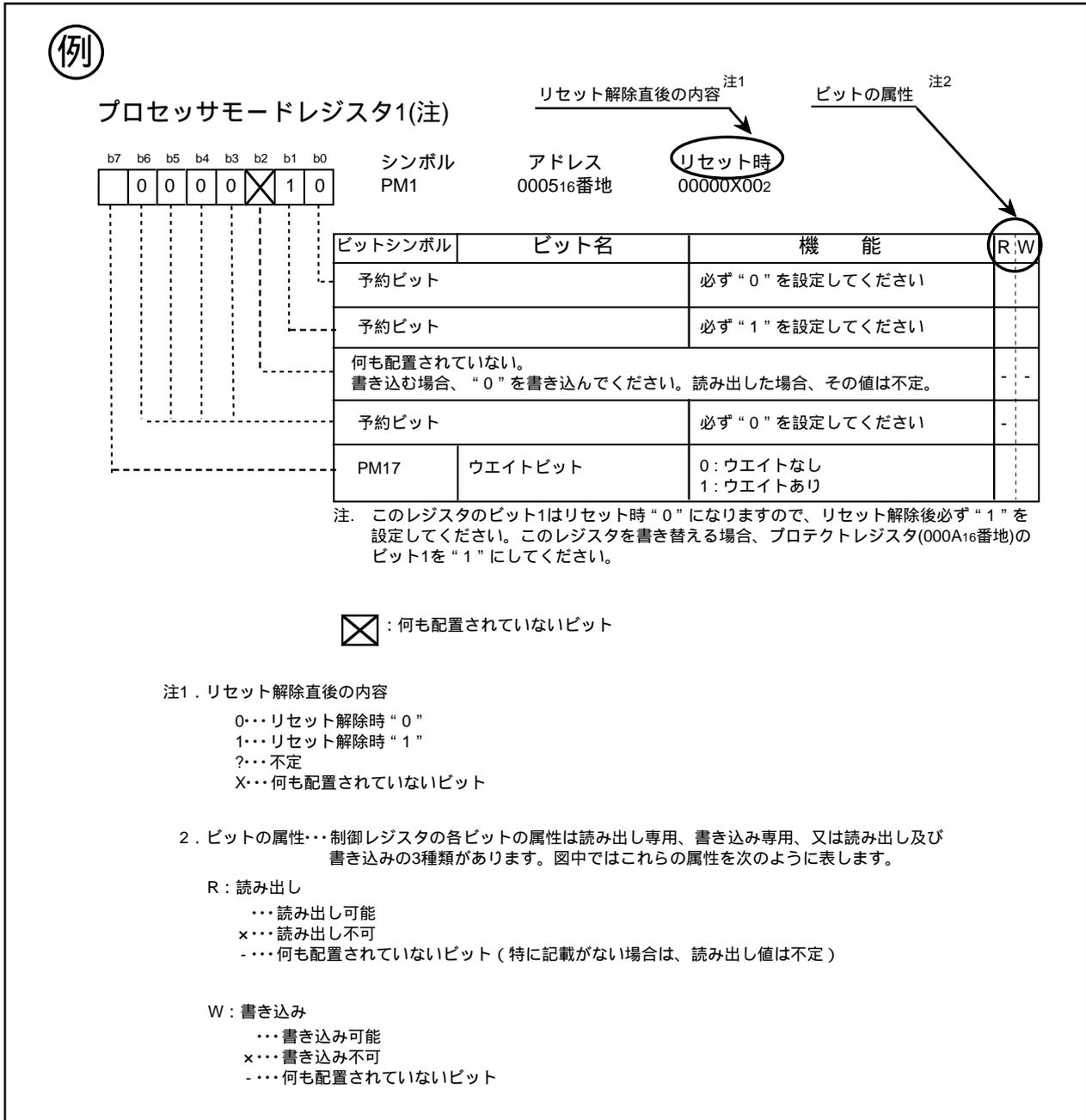
Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
A	-	-	3.05
A1	0	0.1	0.2
A2	-	2.8	-
b	0.25	0.3	0.4
c	0.13	0.15	0.2
D	13.8	14.0	14.2
E	19.8	20.0	20.2
e	-	0.65	-
Hd	16.5	16.8	17.1
HE	22.5	22.8	23.1
L	0.4	0.6	0.8
L1	-	1.4	-
x	-	-	0.13
y	-	-	0.1
θ	0°	-	10°
b2	-	0.35	-
l2	1.3	-	-
Md	-	14.6	-
ME	-	20.6	-

三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

制御レジスタの構成図

各レジスタ構成は、下図を参照してください。



三菱マイクロコンピュータ M306V2ME-XXXFP M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

レジスタ索引

【アルファベット・記号】	
A-D制御レジスタ1 (ADCON1)	151, 154, 156, 158, 162
A-D制御レジスタ0 (ADCON0)	151, 154, 156, 158, 161
A-D制御レジスタ2 (ADCON2)	152
A-D変換割り込み制御レジスタ (ADIC)	55
A-Dレジスタi (ADi)	152
D-A制御レジスタ (DACON)	165
D-Aレジスタi (DAi)	165
DMAi制御レジスタ (DMiCON)	72
DMA0要因選択レジスタ (DM0SL)	71
DMA1要因選択レジスタ (DM1SL)	72
DMAiソースポインタ (SARi)	73
DMAiディスティネーションポインタ (DARi)	73
DMAi転送カウンタ (TCRi)	73
DMAi割り込み制御レジスタ (DMiIC)	55
H _{SYNC} カウンタラッチ	13
H _{SYNC} カウンタレジスタ (HC)	176
I ² Ciアドレスレジスタ (IICiS0D)	135
I ² Ciクロックコントロールレジスタ (IICiS2)	137
I ² Ciコントロールレジスタ (IICiS1D)	139
I ² Ciステータスレジスタ (IICiS1)	142
I ² Ci送信バッファレジスタ (IICiS0S)	134
I ² Ciデータシフトレジスタ (IICiS0)	134
I ² Ciポートセレクションレジスタ (IICiS2D)	132
INTi割り込み制御レジスタ (INTiIC)	55
OSDi割り込み制御レジスタ (OSDiIC)	55
OSDコントロールレジスタ1 (OC1)	181
OSDコントロールレジスタ2 (OC2)	184
OSDコントロールレジスタ3 (OC3)	209
OSDコントロールレジスタ4 (OR4)	193
OSD予約レジスタi (ORi)	231
V _{SYNC} 割り込み制御レジスタ (VSYNCIC)	55
UART送受信制御レジスタ2 (UCON)	108
UART0送受信制御レジスタ0 (UOC0)	105
UART0送受信制御レジスタ1 (UOC1)	107
UART0送受信モードレジスタ (U0MR)	104, 111, 118
UART2送受信制御レジスタ0 (U2C0)	106
UART2送受信制御レジスタ1 (U2C1)	107
UART2送受信モードレジスタ (U2MR)	104, 111, 118
UART2特殊モードレジスタ (U2SMR)	108
UARTi受信割り込み制御レジスタ (SiRIC)	55
UARTi受信バッファレジスタ (UiRB)	103
UARTi送信バッファレジスタ (UiTB)	103
UARTi送信割り込み制御レジスタ (SiTIC)	55
UARTi転送速度レジスタ (UiBRG)	103
【ア行】	
アップダウンフラグ (UDF)	83
アドレス一致割り込みレジスタi (RMADi)	64
アドレス一致割り込み許可レジスタ (AIER)	64
【カ行】	
カウント開始フラグ (TABSR)	92
カラーパレットレジスタi (CRi)	210
監視タイマスタートレジスタ (WDTS)	68
監視タイマ制御レジスタ (WDC)	68
キャプション位置レジスタ (CPS)	172
キャプションデータレジスタi (CDi)	13
クロックコントロールレジスタ (CS)	190
クロックランイン検出レジスタ (CRD)	173
【サ行】	
システムクロック制御レジスタ0 (CM0)	40
システムクロック制御レジスタ1 (CM1)	41
水平位置レジスタ (HP)	187
垂直位置レジスタi (VPi)	187
スプライトOSD制御レジスタ (SC)	222
スプライト垂直位置レジスタi (VSi)	223
スプライト水平位置レジスタ (HS)	223
【タ行】	
タイマAiレジスタ (TAi)	82
タイマAiモードレジスタ (TAiMR)	81, 85, 87~89
タイマAi割り込み制御レジスタ (TAiIC)	55
タイマBiレジスタ (TBi)	92
タイマBiモードレジスタ (TBiMR)	91, 93~95
タイマBi割り込み制御レジスタ (TBiIC)	55

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

チップセレクト制御レジスタ (CSR)	29
データクロック位置レジスタ (DPS)	174
データスライサ制御レジスタ1 (DSC1)	168
データスライサ制御レジスタ2 (DSC2)	168
データスライサ予約レジスタ _i (DR _i)	175
データスライサ割り込み制御レジスタ (DSIC) ..	55
時計用プリスケアラリセットフラグ (CPSRF) ..	92
トップボーダーコントロールレジスタ (TB) ...	226
トリガ選択レジスタ (TRGSR)	84

【ナ行】

入出力極性コントロールレジスタ (PC)	191
----------------------------	-----

【ハ行】

バス衝突検出割り込み制御レジスタ (BCNIC) ...	55
プルアップ制御レジスタ0 (PUR0)	242
プルアップ制御レジスタ1 (PUR1)	243
プルアップ制御レジスタ2 (PUR2)	243
プロセッサモードレジスタ0 (PM0)	25
プロセッサモードレジスタ1 (PM1)	25
ブロックコントロールレジスタ _i (BC _i)	182
プロテクトレジスタ (PRCR)	47
ペリフェラルモードレジスタ (PM)	98
ボトムボーダーコントロールレジスタ (BB) ..	226
ポートP0 ~ P5, P7, P10レジスタ (P0 ~ P5, P7, P10)	240
ポートP0 ~ P5, P7, P10方向レジスタ (PD0 ~ PD5, PD7, PD10)	238
ポートP6 (P6) レジスタ	240
ポートP6方向レジスタ (PD6)	238
ポートP8 (P8) レジスタ	241
ポートP9 (P9) レジスタ	241
ポートP8方向レジスタ (PD8)	239
ポートP9方向レジスタ (PD9)	239
ポート制御レジスタ (PUR)	242

【マ行】

マルチマスタI ² C-BUSインタフェース _i 割り込み制御 レジスタ (IIC _i C)	55
--	----

【ヤ行】

予約レジスタ _i (INVC _i)	97
--	----

【ラ行】

ラスターカラーレジスタ (RC)	228
レフトボーダーコントロールレジスタ (LB) ...	227
ライトボーダーコントロールレジスタ (RB) ..	227

【ワ行】

割り込み制御予約レジスタ _i (RE _i IC)	63
割り込み要因選択レジスタ (IFSR)	63
ワンショット開始フラグ (ONSF)	83

三菱マイクロコンピュータ
M306V2ME-XXXFP
M306V2EEFP

SINGLE-CHIP 16-BIT CMOS MICROCOMPUTER with CLOSED CAPTION DECODER
and ON-SCREEN DISPLAY CONTROLLER

株式会社ルネサス テクノロジ 東京都千代田区大手町 2-6-2 〒 100-0004

安全設計に関するお願い	<ul style="list-style-type: none">・弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご留意ください。
本資料ご利用に際しての留意事項	<ul style="list-style-type: none">・本資料は、お客様が用途に応じた適切な三菱半導体製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報について三菱電機が所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。・本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、三菱電機は責任を負いません。・本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、三菱電機は、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。三菱半導体製品のご購入に当たりましては、事前に三菱電機または特約店へ最新の情報をご確認頂きますとともに、三菱電機半導体情報ホームページ (http://www.semicon.melco.co.jp/) などを通じて公開される情報に常にご注意ください。・本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したものです。万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、三菱電機はその責任を負いません。・本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。三菱電機は、適用可否に対する責任を負いません。・本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、三菱電機または特約店へご照会ください。・本資料の転載、複製については、文書による三菱電機の事前の承諾が必要です。・本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点がございましたら三菱電機または特約店までご照会ください。

2001年8月 作成

改訂履歴

M306V2ME-XXXFP, M306V2EEFP (REV.1.1) データシート

Rev. No.	改訂内容	Rev. date				
1.0	PDF ファイル初版発行	0006				
1.1	P29 表 2.4.3 チップセレクト $\overline{CS0}$ メモリ拡張モード <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>改訂前</u></td> <td style="text-align: center;"><u>改訂後</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(640K)</td> <td style="text-align: center;">(384K)</td> </tr> </table>	<u>改訂前</u>	<u>改訂後</u>	(640K)	(384K)	0108
	<u>改訂前</u>	<u>改訂後</u>				
	(640K)	(384K)				
P210 図 2.16.30 P228 図 2.16.51 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>改訂前</u></td> <td style="text-align: center;"><u>改訂後</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">G 信号出力制御ビット b2 b1 b0</td> <td style="text-align: center;">b6 b5 b4</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B 信号出力制御ビット b2 b1 b0</td> <td style="text-align: center;">b10 b9 b8</td> </tr> </table>	<u>改訂前</u>	<u>改訂後</u>	G 信号出力制御ビット b2 b1 b0	b6 b5 b4	B 信号出力制御ビット b2 b1 b0	b10 b9 b8
<u>改訂前</u>	<u>改訂後</u>					
G 信号出力制御ビット b2 b1 b0	b6 b5 b4					
B 信号出力制御ビット b2 b1 b0	b10 b9 b8					
P251 表 5.2.1 fosc 発信周波数(OSD用) OSC1 セラミック発振モード <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="text-align: center;"><u>改訂前</u></td> <td style="text-align: center;"><u>改訂後</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">最小 24.0MHz</td> <td style="text-align: center;">15.0MHz</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">最大 25.0MHz</td> <td style="text-align: center;">27.0MHz</td> </tr> </table>	<u>改訂前</u>	<u>改訂後</u>	最小 24.0MHz	15.0MHz	最大 25.0MHz	27.0MHz
<u>改訂前</u>	<u>改訂後</u>					
最小 24.0MHz	15.0MHz					
最大 25.0MHz	27.0MHz					